新潟県埋蔵文化財調査報告書　第181集

日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書XXVII

田屋道遺跡Ⅰ
宮の越遺跡Ⅰ

２００８

新　潟　県　教　育　委　員　会

財団法人　新潟県埋蔵文化財調査事業団

日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書XXVII

田屋道遺跡Ⅰ
宮の越遺跡Ⅰ

２００８

新　潟　県　教　育　委　員　会

財団法人　新潟県埋蔵文化財調査事業団

序

日本海沿岸東北自動車道は、新潟市の新潟空港インターチェンジから日本海に沿って北上し、山形県を経て秋田自動車道と接続し、秋田県河辺ジャンクションに至る高速自動車道です。新潟県内では胎内市の中条インターチェンジまでが平成14年度に完成しています。

高速自動車道建設を取り巻く状況は厳しいものがありますが、平成15年末の国土開発幹線自動車道建設会議（国幹会議）において、日本海沿岸東北自動車道の中条－朝日間は、旧日本道路公団が有料道路として建設を進めることになりました。その後、公団の分割・民営化に伴い、平成17年10月に設立された東日本高速道路株式会社に引き継がれましたが、平成18年２月の国幹会議において、荒川－朝日間については国土交通省が新直轄道路として建設することになりました。日本海沿岸東北自動車道は、この地域内外の経済的な交通・流通を促すだけでなく、救急患者の搬送・災害時の緊急輸送などの「命の高速道」としての役割も期待されており、早期の開通が望まれます。

本書は、この日本海沿岸東北自動車道建設に先立って発掘調査を実施した「田屋道遺跡」および「宮の越遺跡」の報告書です。調査の結果、田屋道遺跡は12世紀から14世紀にわたる中世の遺跡であることが分かりました。掘立柱建物や井戸、溝などの遺構が見つかり、県内でも調査事例の少ない中世前期の集落の様子を伝える貴重な資料として期待されます。宮の越遺跡は、平安時代が主体の古代の遺跡で、須恵器の杯や土師器の鍋、製塩土器などが出土しました。

今回の発掘調査が、考古学研究者はもとより、地域の歴史を知り、学ぼうとする多くの方々に活用されることを願っております。

最後に、この調査に参加された地元の方々や区長並びに神林村教育委員会には多大なる御協力と御援助を賜りました。また、国土交通省北陸地方整備局新潟国道事務所、東日本高速道路株式会社新潟管理局村上工事事務所、荒川沿岸土地改良区には、調査に際して格別のご配慮をいただきました。ここに厚くお礼申し上げます。

平成20年３月

新潟県教育委員会

教育長　武　藤　克　己

例　　言

1　本書は、新潟県岩船郡神林村大字九日市字堂田1459ほかに所在する田屋道遺跡と、同じく神林村大字新飯田字宮ノ越14ほかに所在する宮の越遺跡の発掘調査記録である。

2　この調査は日本海沿岸東北自動車道の建設に伴い、新潟県教育委員会（以下、県教委）が国土交通省北陸地方整備局新潟国道事務所から受託したものである。

3　発掘調査は県教委が調査主体となり、財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団（以下、埋文事業団）に調査を依頼した。埋文事業団は、発掘調査作業及び関連諸工事を株式会社シン技術コンサルに委託し、埋文事業団の管理・監督のもと平成18年４月から10月にかけて株式会社シン技術コンサルが発掘調査を実施した。発掘調査面積は、延べ9,225㎡である。

4　整理及び報告書作成に係る作業は、埋文事業団の指導のもと平成18年11月から平成20年３月の間に、株式会社シン技術コンサルが行った。

5　出土遺物及び記録類は、県教委が新潟県埋蔵文化財センターにおいて保管・管理している。遺物の註記記号は、遺跡名の前に調査年度を付し、田屋道遺跡は「06タヤミ」、宮の越遺跡は「06ミヤノ」とした。また出土地点・遺構名および層位などを併記した。

6　遺物のドット番号は包含層・各遺構でそれぞれ通し番号を付した。

7　発掘調査及び整理作業並びに報告書作成は、鈴木俊成（埋文事業団調査課　日沿道担当課長代理）と石川智紀（同班長）及び杉田和宏（同主任調査員）の指導・監督のもとに行った。

8　本書で示す方位はすべて真北である。ただし、ここでいう「真北」は日本公共座標のX軸方向を示す。なお、掲載した地図のうち、既成のものはそれぞれ出典を記した。

9　引用・参考文献は、著者及び発行年（西暦）を文中に［　］で示し、巻末に掲載した。「第Ⅲ章４　田屋道遺跡　自然科学分析」・「第Ⅳ章４　宮の越遺跡　自然科学分析」については、引用文献を第Ⅲ章４節末にまとめて掲載した。

10　「第Ⅲ章４　田屋道遺跡　自然科学分析」・「第Ⅳ章４　宮の越遺跡　自然科学分析」はパリノ・サーヴェイ株式会社に委託した。

11　石器及び礫の石材鑑定は飯島静男氏（群馬地質研究会）に委託した。

12　中・近世遺物については水澤幸一氏（胎内市教育委員会）にご教示を頂いた。

13　平成17年度以前に刊行した報告書には、法定路線名の日本海沿岸東北自動車<略称、日沿道>と東日本高速道路株式会社の営業路線名である日本海東北自動車道<略称、日東道>が、事業者の意向により使用され、結果として両路線名称が一冊の報告書に混在していた。しかし、平成17年度末に高速自動車国道法第６条により荒川インターチェンジの北側については、新直轄方式を導入し国土交通省の建設区間となったため、この区間の路線名称は日本海沿岸東北自動車道<略称、日沿道>に統一することとした。

14　本書の執筆は石川智紀（埋文事業団）　大島秀俊（シン技術コンサル）　北村　淳（シン技術コンサル）　小林一弘（シン技術コンサル）　菊池康一郎（シン技術コンサル）　千葉博俊（パリノ・サーヴェイ株式会社）がこれにあたり、編集は大島・北村が行った。本書の執筆分担は以下のとおりである。

第Ⅰ章１、２Ａ…石川　第Ⅰ章２Ｂ・Ｃ…大島、第Ⅱ章１・２…小林　第Ⅱ章３…北村　第Ⅲ章１…大島　第Ⅲ章２…大島、北村、小林、菊池　第Ⅲ章３…菊池　第Ⅲ章４…千葉　第Ⅲ章５Ａ…１）北村、２）大島、３）菊池、４）小林、５）大島、５Ｂ…菊池　第Ⅳ章１・２・３・５…大島、第Ⅳ章４…千葉

15　発掘調査から本書の作成に至るまで、下記の方々から多くのご教示とご協力を賜った。記して厚く御礼を申し上げます。（五十音順、敬称略）

阿部恭平　甘粕　健　伊藤喜代子　金子拓男　関　雅之　関口慶久　田辺早苗　田村浩司
立木宏明　長谷川　伸

目　次

第Ⅰ章　序　　説 …… 1

1　調査に至る経緯 …… 1

2　調査経過 …… 3

A　試掘確認調査 …… 3

1）　田屋道遺跡 …… 3

2）　宮の越遺跡 …… 3

B　本発掘調査 …… 4

1）　田屋道遺跡 …… 4

2）　宮の越遺跡 …… 5

C　調査・整理体制 …… 6

第Ⅱ章　遺跡の位置と環境 …… 7

1　遺跡の位置 …… 7

2　地理的環境 …… 7

3　歴史的環境 …… 7

第Ⅲ章　田屋道遺跡 …… 10

1　遺跡の概要 …… 10

A　概　　観 …… 10

B　グリッドの設定 …… 10

C　発掘調査の方法 …… 11

D　層　　序 …… 11

1）　概　　要 …… 11

2）　基本土層 …… 12

2　遺　　構 …… 16

A　記述の方法 …… 16

1）　方　　針 …… 16

2）　遺構番号 …… 16

3）　図　　版 …… 16

4）　観 察 表 …… 16

B　遺構の分類 …… 16

1）　基本分類 …… 16

2）　遺構の認定 …… 17

C　遺構各説 …… 18

1）　概　　要 …… 18

2）　掘立柱建物 …… 19

3）　井　　戸 …… 25

4）　土　　坑 …… 29

5）　墓 …… 32

6）　集　　石 …… 32

7）　溝 …… 32
8）　性格不明遺構 …… 40
9）　杭　　列 …… 42
10）　ピ ッ ト …… 42

3　遺　　物 …… 43
A　概　　要 …… 43
B　各　　説 …… 44
1）　記述の方法 …… 44
2）　土器・陶磁器 …… 44
3）　金属製品 …… 48
4）　石 製 品 …… 48
5）　木 製 品 …… 48
6）　銭　　貨 …… 55
4　自然科学分析 …… 56
A　はじめに …… 56
B　試　　料 …… 56
C　分析方法 …… 58
D　分析結果 …… 59
E　ま と め …… 64

5　ま と め …… 74

A　遺　　構 …… 74
1）　掘立柱建物 …… 74
2）　井　　戸 …… 77
3）　墓 …… 80
4）　溝 …… 81
5）　遺構の変遷と遺跡の性格 …… 84
B　遺　　物 …… 89
1）　陶磁器・土器類 …… 89
2）　木 製 品 …… 90
3）　漆　　器 …… 90
4）　柱・杭・礎板 …… 91
5）　石 製 品 …… 91

第Ⅳ章　宮の越遺跡 …… 92

1　遺跡の概要 …… 92
A　概　　観 …… 92
B　グリッドの設定 …… 92
C　発掘調査の方法 …… 94
D　層　　序 …… 94

2　遺　　構 …… 95
A　土　　坑 …… 95
B　杭 …… 95

3　遺　　物 …… 96
A　須 恵 器 …… 96
B　土 師 器 …… 97

C　製塩土器 …… 97
D　土 製 品 …… 97
E　木 製 品 …… 97

4　自然科学分析 …… 98
A　はじめに …… 98
B　試　　料 …… 98
C　分析方法 …… 98
D　結　　果 …… 98
E　考　　察 …… 99

5　ま と め …… 100

《要　　約》 …… 101

《引用・参考文献》 …… 102

《観　察　表》 …… 105
田屋道遺跡遺構観察表 …… 105
田屋道遺跡遺物観察表 …… 120
宮の越遺跡遺構観察表 …… 127
宮の越遺跡遺物観察表 …… 127

挿 図 目 次

第１図　日本海沿岸東北自動車道の路線と田屋道・宮の越遺跡の位置 …… 2
第２図　試掘確認調査のトレンチ位置と本発掘調査範囲（田屋道遺跡） …… 3
第３図　試掘確認調査のトレンチ位置と本発掘調査範囲（宮の越遺跡） …… 4
第４図　田屋道・宮の越遺跡と周辺の古代・中世の遺跡 …… 9
第５図　田屋道遺跡グリッド設定図 …… 10
第６図　田屋道遺跡土層図① …… 13
第７図　田屋道遺跡土層図② …… 14
第８図　田屋道遺跡土層図③ …… 15
第９図　遺構の平面・断面形状の分類 …… 17
第10図　遺構覆土の堆積状況の分類 …… 17
第11図　各地点の模式柱状図及び試料採取位置 …… 56
第12図　主要花粉群集の層位分布 …… 61
第13図　花　　粉 …… 72
第14図　灰　　像 …… 72
第15図　種実遺体 …… 72
第16図　木材（１） …… 72
第17図　木材（２） …… 72
第18図　木材（３） …… 73
第19図　木材（４） …… 73
第20図　木材（５） …… 73
第21図　漆断面 …… 73
第22図　掘立柱建物の構造分類図 …… 74
第23図　掘立柱建物の主軸方向 …… 75
第24図　B区掘立柱建物グループ模式図 …… 76
第25図　井戸の掘削深度と地層相関図 …… 78
第26図　井戸覆土の分類図 …… 79
第27図　墓模式図 …… 80
第28図　溝の主軸方向 …… 82
第29図　溝の分布図 …… 83
第30図　田屋道遺跡の区画と牧目館 …… 88
第31図　『瀬波郡絵図』記載の集落と道 …… 89
第32図　宮の越遺跡グリッド設定図 …… 92
第33図　宮の越遺跡土層図 …… 93
第34図　遺物分布図 …… 100

表　目　次

第１表　周辺の古代・中世の遺跡一覧 …… 9
第２表　放射性炭素年代測定結果 …… 60
第３表　暦年較正結果 …… 60
第４表　花粉分析結果 …… 61
第５表　灰像分析結果 …… 62
第６表　微細物分析結果 …… 62
第７表　樹種同定結果 …… 63
第８表　遺構・器種別樹種構成 …… 65
第９表　掘立柱建物と井戸の推定年代一覧 …… 76
第10表　放射性炭素年代測定結果 …… 99
第11表　暦年較正結果 …… 99

図 版 目 次

〔図　面〕

（田屋道遺跡）

図版１　全体図（1/800）
図版２　遺構分割図（１）（1/150）
図版３　遺構分割図（２）（1/150）
図版４　遺構分割図（３）（1/150）
図版５　遺構分割図（４）（1/150）
図版６　遺構分割図（５）（1/150）
図版７　遺構分割図（６）（1/150）
図版８　遺構分割図（７）（1/150）
図版９　遺構分割図（８）（1/150）
図版10　遺構分割図（９）（1/150）
図版11　遺構分割図（10）（1/150）
図版12　遺構分割図（11）（1/150）
図版13　遺構実測図（１）SB１（杭10・11・20～22・27）、SB２①
図版14　遺構実測図（２）SB２②（P62・64・69・80・99・107・109・137）、SB３①
図版15　遺構実測図（３）SB３②（P３・45～49・51・77・78・92・101・102・104）
図版16　遺構実測図（４）SB４（P127～133・142～145・165）
図版17　遺構実測図（５）SB５（P147・148・183～185・200）、SB６（P162・163・166・172・178・235）
図版18　遺構実測図（６）SB７（P149・164・167・174）、SB８（P161・169・170・171）
図版19　遺構実測図（７）SB９①（P190～194）
図版20　遺構実測図（８）SB９②（P196・197・199・202・203・206～209・211・239～245・247～250・283）
図版21　遺構実測図（９）SB10（P260～272）
図版22　遺構実測図（10）SB11（P293～302）
図版23　遺構実測図（11）SB12①
図版24　遺構実測図（12）SB12②（P319～321・323～325・443・444・449・637～639・645・666・670・672・688・719～722・788・872）
図版25　遺構実測図（13）SB13（P343～348・373・478・647）
図版26　遺構実測図（14）SB14①（P332・338・349・350）
図版27　遺構実測図（15）SB14②（P351～354・663・669・671・677・697～699・701～703・707・723・743）
図版28　遺構実測図（16）SB15①
図版29　遺構実測図（17）SB15②（P360～366・370～372・374～377・379・380・384～390・402・550・657）
図版30　遺構実測図（18）SB15③（P448・462～464・475・585・586・602・605・609・623・624・626・627・656・754・839・849）
図版31　遺構実測図（19）SB16（P227・421・422・424・427・428・434～436・455）
図版32　遺構実測図（20）SB17（P481・482・484・485・520～522・529・530・532）

図版33　遺構実測図（21）　SB18①
図版34　遺構実測図（22）　SB18②（P537～549・552～558）
図版35　遺構実測図（23）　SB18③（P559～564・566～571・588～593）
図版36　遺構実測図（24）　SB19（P765・773～776）、SB20（P766・768・769・771）
図版37　遺構実測図（25）　SB21（P421・423・425・426・429～433・466）
図版38　遺構実測図（26）　SB22（P212・407～411）、SB23（P746・749・752・801）
図版39　遺構実測図（27）　SB24（P598・753・797・800）、SB25（P231・781～783・792・795・807）
図版40　遺構実測図（28）　SB26（P488・489・606・784・882）、SB27（P282・640・861）
図版41　遺構実測図（29）　SB28（P222・224・318・368・465・469・470・646・711・713）
図版42　遺構実測図（30）　SB29（P219・221・340・659・660・709）、SB30（P337・710・714・787）
図版43　遺構実測図（31）　SB31（P632・633・636）、SB32①（P692・727・732・734）
図版44　遺構実測図（32）　SB32②（P755・758～760・829）、SB33（P679・728・731・733・830・891）
図版45　遺構実測図（33）　SB34（P230・680・685・736・756・762・828・896・897）
図版46　遺構実測図（34）　SB35（P681～683・686・689・730・737・764）
図版47　遺構実測図（35）　SB36（P491・492・494・497・621・杭573）、SE33・54
図版48　遺構実測図（36）　SE53・55・56・75・82・88
図版49　遺構実測図（37）　SE97・105・118・134・181
図版50　遺構実測図（38）　SE326・327・328・330
図版51　遺構実測図（39）　SE336・357・398・534
図版52　遺構実測図（40）　SE551・574・613・684・778・863
図版53　遺構実測図（41）　SK23・31・52・81・83・180・253・255・256・285・292・305
図版54　遺構実測図（42）　SK307・316・322・331・335・339・341・391・400
図版55　遺構実測図（43）　SK437・442・473・599・610・622・693・810・819
図版56　遺構実測図（44）　SG313、SY25
図版57　遺構実測図（45）　SD１・２・８・13・24・30・35・36・40～42・50・68・70～72・79・87・95・96
図版58　遺構実測図（46）　SD103・121・126・135・139・140・175・186・238・252・258・259・290・291
図版59　遺構実測図（47）　SD236・237・286・288・289
図版60　遺構実測図（48）　SD234・303・304・334・392・412・415・447・472・524～527・579
図版61　遺構実測図（49）　SD535・580・581・594・596・597・650・673・793・798・806・808・809・832・833・835・838・847・873
図版62　遺構実測図（50）　SX12
図版63　遺構実測図（51）　SX９・19・32・108・173・232・274・306・329
図版64　遺構実測図（52）　SX76・89
図版65　遺構実測図（53）　SX355・356・536・651・802・859
図版66　遺構実測図（54）　SA１（杭508・507・506・505・504・503・502・501・500・499・498・803）、SA２（杭510・460・459・454・453・452・451）、SA３（杭509・804・805）
図版67　遺構実測図（55）　P112・120・155・210・275・333・512・531・618・619・629・634・691・735・845
図版68　遺物実測図（１）　SB14（P723）、SB15（P464）、SE53・82・327・328・330・357・534・684、SK285・610・693、SD１・２［土器］
図版69　遺物実測図（２）　SD８・41・50・139・234・237・286・288・289［土器］
図版70　遺物実測図（３）　SD291・304・392・525・527・673・832・833、SX12・89［土器］
図版71　遺物実測図（４）　SX536、P844、包含層（78～98）、撹乱層（99～102）［土器］、包含層（103）［金属製品］、SE330・357・534・863［石製品］
図版72　遺物実測図（５）　SD79・527、包含層（110）［石製品］、SB１（杭10・11・20～22・27）、SB３（P49・51・77）［木製品］
図版73　遺物実測図（６）　SB４（P127・132・133・143・144）、SB７（P149）、SB９（P211・190・191・242）、SB11（P298）［木製品］
図版74　遺物実測図（７）　SB12（P319～321・323～325・719・722・872）、SB13（P373）、SB14（P338・677・699・702・723）［木製品］

図版75　遺物実測図（８）　SB15（P370・P475）、SB17（P530）、SB18（P553・559・591）、SB21（P426）、SB22（P407）、SB26（P489）、SB27（P640・861）、SB28（P224）［木製品］
図版76　遺物実測図（９）　SB28（P318・470・646）、SB29（P340）、SB32（P692）、SB34（P756）、SB36（P491・492・497・杭573）、SE53［木製品］
図版77　遺物実測図（10）　SE53～56・75・82・88・134・327・328・330［木製品］
図版78　遺物実測図（11）　SE330・336・398・534［木製品］
図版79　遺物実測図（12）　SE551・574・684・863、SK81・341、SG313［木製品］
図版80　遺物実測図（13）　SG313、SD525・673［木製品］
図版81　遺物実測図（14）　SD673、SX12、SA１（杭498～508・803）、SA２（杭451～454）［木製品］
図版82　遺物実測図（15）　SA２（杭459・460）、SA３（杭804・805）、P18・112・120・155・210・275・278・333・381・458・487［木製品］
図版83　遺物実測図（16）　P528・531・618・619・629・634・654・691・705・729・796・845・850・876、杭４～６［木製品］
図版84　遺物実測図（17）　杭７・14～17・26・29・37～39・43・91・110・111・114～117・146・276・310・317・393・394・397・414［木製品］
図版85　遺物実測図（18）　杭417・418・438・479・483・725・816・820・893［木製品］、SG313、包含層［銭貨］
（宮の越遺跡）
図版86　遺構実測図（56）　全体図（1/400）、SK１、杭２～９
図版87　遺物実測図（19）　包含層［土器］
図版88　遺物実測図（20）　包含層［土器・土製品］・杭２～９［木製品］

〔遺構写真〕

（田屋道遺跡）
図版89　調査区俯瞰全景（北から）・調査区俯瞰全景（南から）［航空写真］
図版90　調査区垂直全景［航空写真］
図版91　調査区俯瞰全景（西から）・調査区俯瞰全景（東から）［航空写真］
図版92　土層（B区西壁・中央ベルト・A区北壁・C区西壁）、SG313遺物出土状況
図版93　遺構（１）SB１（完掘・杭10・20）、SB２（完掘・P99）、SB３（完掘・P49・77）
図版94　遺構（２）SB４（完掘・P132・143）、SB５（完掘・P184）、SB５・６完掘、SB６（完掘・P163）
図版95　遺構（３）SB７（完掘・P149）、SB７・８完掘、SB８完掘、SB９（完掘・P242・248）、SB10完掘
図版96　遺構（４）SB10（P261・265）、SB11（完掘・P298・294）、SB12（完掘・P325・637）
図版97　遺構（５）SB12（P722・872）、SB13（完掘・P345）、SB14（完掘・P703）、SB15（完掘・P475）
図版98　遺構（６）SB15（P380）、SB16・21、SG313完掘、SB16（P428・435）、SB17（完掘・P520・521・530・532）
図版99　遺構（７）SB18（完掘・P553・554・559・560・591）、SB19（完掘・P775・776）
図版100　遺構（８）SB20（完掘・P769）、SB16・21完掘、SB21（P426・431）、SB22（完掘・P407）
図版101　遺構（９）SB22（P408）、SB23（完掘・P801）、SB24（完掘・P598・753）、SB25（完掘・P231）
図版102　遺構（10）SB25（P792）、SB26（完掘・P488・489・606）、SB27（完掘・P861）、SB28完掘
図版103　遺構（11）SB28（P318・224・469・470・646・711）、SB29（完掘・P340）
図版104　遺構（12）SB29（P709）、SB30（完掘・P337・710・787）、P713、SB31（完掘・P632）、SB32完掘
図版105　遺構（13）SB32（P692・734・755）、SB33（完掘・P731）、SB34（完掘・P756）
図版106　遺構（14）SB34（P756）、SB35（完掘・P683・686）、SB36（完掘・P492・497・621）
図版107　遺構（15）SE33・53・54
図版108　遺構（16）SE54・55・56
図版109　遺構（17）SE75・82・88・97・105
図版110　遺構（18）SE105・118・134・181・326
図版111　遺構（19）SE326・327・328・330・336
図版112　遺構（20）SE336・357・398・534・551
図版113　遺構（21）SE574・613・684・778
図版114　遺構（22）SK81・83・341、SG313

図版115　遺構（23）SY25、SD１・２・35・36・41
図版116　遺構（24）SD139・140・186・236・237・252・303・286・288
図版117　遺構（25）SD673、Ｂ区区画溝群（SD392・524・526・581）
図版118　遺構（26）SD535・832・833・594・596、SX12・76
図版119　遺構（27）SX89、SA１～３（杭453・454・505・506）、P112・275
図版120　遺構（28）P531・618・619・629・634・690・691・735・845
（宮の越遺跡）
図版121　調査区全景、B区西壁土層・A区北壁土層、SK１
図版122　杭２・３・４・５・８・９、遺物出土状況

〔遺物写真〕
（田屋道遺跡）
図版123　出土遺物写真　土器　１～43
図版124　出土遺物写真　土器・金属製品　44～104
図版125　出土遺物写真　石製品・木製品　105～126
図版126　出土遺物写真　木製品　127～152
図版127　出土遺物写真　木製品　153～180
図版128　出土遺物写真　木製品　181～255
図版129　出土遺物写真　木製品　256～312
図版130　出土遺物写真　木製品　313～393
図版131　出土遺物写真　木製品　394～428
図版132　出土遺物写真　木製品　429～467
図版133　出土遺物写真　木製品・銭貨　468～477
（宮の越遺跡）
図版133　出土遺物写真　土器・土製品・木製品　１～28

第Ⅰ章　序　　説

1　調査に至る経緯

法定路線名「日本海沿岸東北自動車道（以下、「日沿道」）」は、新潟市の新潟空港インターチェンジ（以下、「IC」）を起点に、日本海に沿って北上し、山形県、秋田県を経て青森市に至る高規格幹線道路である。日本海側の縦貫軸として、沿線地域の相互交流、発展、活性化が期待されている。また新潟中央ジャンクション（以下、「JCT」）～秋田県河辺JCT間は、営業路線名「日本海東北自動車道（以下、「日東道」）」とも呼称される。日沿道の新潟～朝日間における基本計画は、平成元年２月に新潟～村上間、平成３年12月に村上～朝日間が決定した。中条IC以北は第13次区間にあたり、平成10年４月に中条～荒川間、同年12月に荒川～朝日間の施工命令が出された。これを受けて、日本道路公団（以下、「道路公団」）と新潟県教育委員会（以下、「県教委」）との間で、道路法線内の埋蔵文化財の取り扱いに関する協議が本格化した。

中条IC～朝日IC間の分布調査は、県教委から委託を受けた財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団（以下、「埋文事業団」）が平成11年度に実施した。調査の結果、道路法線上には８か所の周知遺跡と27か所の遺跡推定地が存在し、これらについて試掘確認調査が必要である旨を県教委に報告した。

田屋道遺跡にかかる試掘確認調査は、「周知遺跡２」として平成14年６月から10月にかけて実施した。調査の結果、中世の遺構・遺物を検出し、近隣の牧目館の成立を考える上で重要な遺跡と判断した。宮の越遺跡にかかる範囲は、「推定地２」として平成14年８月に調査した。古代の遺構・遺物を検出したため、近接する宮の越遺跡の範囲を拡張した。この時点で推定した本発掘調査面積は、田屋道遺跡が15,000㎡、宮の越遺跡が2,520㎡の内、橋脚１本分の100㎡である。

試掘確認調査終了後、平成14年12月18日の道路公団、県教委および埋文事業団との協議で、日沿道早期開通のため、当面は暫定二車線分に調査範囲を限定することを決定した（以下、「限定協議」）。その結果、本発掘調査対象面積を田屋道遺跡8,180㎡、宮の越遺跡80㎡に修正した。

平成16年１月８日の国土開発幹線自動車道建設会議（以下、「国幹会議」）が終了後、民営化を控えた道路公団から、膨大な調査量を短期間に終了することが要望された。それに対応するため、県教委と埋文事業団は調査体制などの協議を行い、日沿道建設に限り、平成16年度以降の調査を埋文事業団職員の管理・監督の下に民間調査機関に全面委託することとした。その後、日沿道の事業は、道路公団の分割民営化に伴い、平成17年10月１日に設立された東日本高速道路株式会社（以下、「東日本高速道路」）に引き継がれた。また平成18年２月７日の国幹会議により、荒川IC以南は東日本高速道路が「有料道路方式」で、荒川IC以北は国土交通省（以下、「国交省」）が「新直轄方式」で整備することになった。

平成18年度の本発掘調査か所の協議は、平成17年10月11日から開始し、最終的に平成18年３月３日の国交省、県教委、埋文事業団による協議で決定した。また平成14年12月の限定協議の内容も、国交省に引継がれることが確認された。調査対象は神林村・村上市内の７遺跡、面積にして約54,240㎡である。田屋道遺跡はこの協議に基づき、同年４月３日から本発掘調査を開始した。宮の越遺跡は、国交省による当該地の設計変更があったため、対象面積を640㎡に変更して同年10月10日から本発掘調査を開始した。

第１図　日本海沿岸東北自動車道の路線と田屋道・宮の越遺跡の位置
（国土地理院発行 平成10年「村上」平成15年「塩野町」「中条」「小国」1:50,000原図）

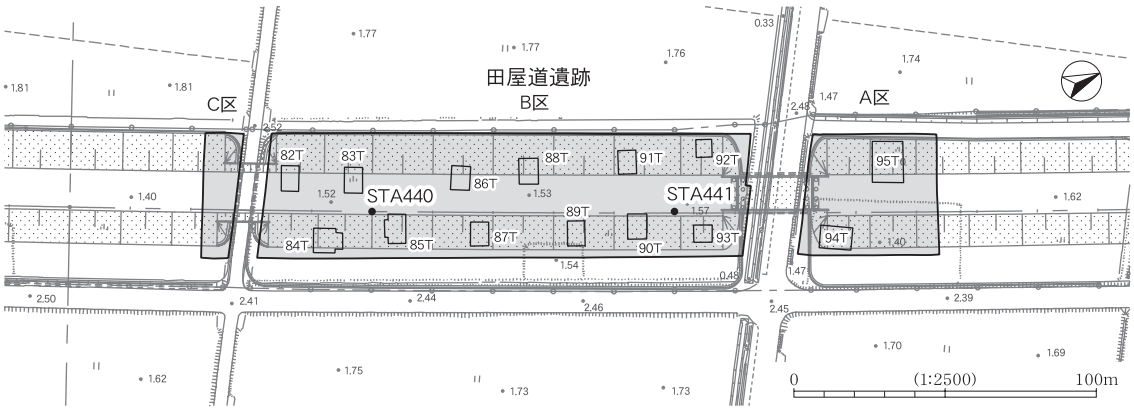
2　調査経過

A　試掘確認調査

1）　田屋道遺跡

平成14年６月17日～７月５日、平成14年８月19日～10月11日にかけて試掘確認調査を行った。調査対象（周知遺跡２）面積は約98,690㎡であった。調査方法は対象地に試掘トレンチをほぼ25m置きに任意に設定し、重機（バックホー）および人力で徐々に掘り下げ、遺構・遺物の検出に努めた。その後土層堆積状況、トレンチ位置、遺構・遺物の検出状況などを図面・写真等に記録した。掘削深度は３ｍをめどに行ったが、上層での遺構の検出状況や湧水の状況により調整した。調査範囲での地層はⅠ～Ⅺ層に分層した。Ⅰ層は耕作土、Ⅱ・Ⅲ層は粘質土、Ⅳ層はシルト、Ⅴ層は粘質土、Ⅵ層は砂質土、Ⅶ層は灰色砂、Ⅷ・Ⅸは粘質土、Ⅹ層は粘土と砂の互層、Ⅺ層は青灰色砂となっている。Ⅱ層は耕作土下の暗灰色粘質土で現水田の床土と中世の遺物包含層を一括したものである。調査範囲には耕作土下まで削平され、Ⅱ層が確認できないトレンチもあった。Ⅲ層は明灰色～明褐色の粘質土層で、中世の遺構確認面となっている。Ⅳ層は灰色～明褐色砂・シルトになっている。試掘確認調査で検出した遺構は、82、84、94トレンチで溝（SD30、SD２、SD535）、91トレンチではピット（SB34）、95トレンチではピット（SB19）と井戸跡（SE778）である。遺物は13世紀中～14世紀前半と考える白磁、青磁、珠洲焼等が出土していることから、この遺跡は中世前期の集落であり、近隣の牧目館跡の成立等を考える上で、重要な遺跡と判断した。

以上の結果、遺構・遺物を検出した82～95トレンチの範囲（STA.439＋40～STA.441＋90）について本発掘調査が必要と判断した。その後、平成14年12月の三者限定協議により、8,180㎡について本発掘調査を実施することとなった。

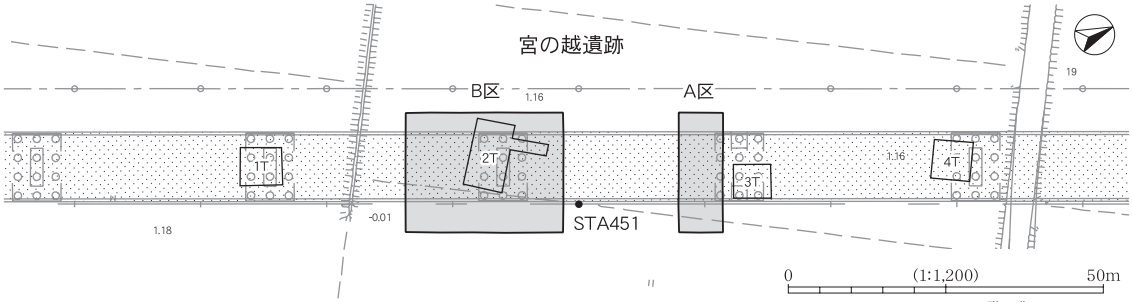


第２図　試掘確認調査のトレンチ位置と本発掘調査範囲（田屋道遺跡）

2）　宮の越遺跡

百川の自然堤防およびその周辺地域は、周知遺跡の宮の越遺跡が近接しているため、分布調査報告で推定地２として試掘確認調査の必要があると判断された。調査は平成14年８月８・９日、19～28日にかけて実施された。調査対象面積は29,440㎡であるが、当該地では自動車道が高架となることが予定されているため、道路公団との協議により試掘トレンチはその橋脚予定位置に設定した。調査は重機（バックホー）および人力による掘削・精査を行い遺構・遺物の有無を確認した。その後、地層、土層堆積状況、トレンチ位置、遺構・遺物の検出状況などを図面・写真等に記録した。調査範囲での地層は、Ⅰ～Ⅷ層に分層した。

各層の土質・色調はⅠ層が耕作土、Ⅱ層が暗褐色粘質土、Ⅲ層が明褐色・明灰色砂、Ⅳ層が暗灰色・暗青灰色シルト、Ⅴ層が暗褐色粘土、Ⅵ層が灰色・暗灰色砂、Ⅶ層が暗灰色・暗青灰色砂、Ⅷ層が灰色粗砂である。遺構は２トレンチで土坑が一基検出されただけで他に検出された遺構はなかった。遺物は同じトレンチのⅢ層から古代の須恵器、箸状木製品、板材が出土していることから、土坑の帰属時期は古代の可能性が高いことが考えられた。２トレンチの北西150mのところに古代の遺跡である宮の越遺跡が位置しており、当該地はこの宮の越遺跡の末端の可能性がある。この結果を受けて平成14年12月に限定協議を行い、80㎡について本発掘調査を実施することとなった。ただし本発掘調査範囲は工事内容等に応じて変更される可能性があるとし、高架以外の範囲で地表面を改変するような作業を行う場合、協議が必要とした。



第３図　試掘確認調査のトレンチ位置と本発掘調査範囲（宮の越遺跡）

B　本発掘調査

田屋道遺跡は、本発掘必要面積15,000㎡のうち8,564㎡について調査を行った。しかしB区北側の境界で発見された遺構が県道方向に延びることが予想され、遺構の性格を把握する上でも重要なことから、現有道路に影響を及ぼさない範囲で拡張することとなった。この部分の調査面積50㎡を入れて最終的な調査面積は8,614㎡となった。宮の越遺跡については、平成14年の協議で80㎡を対象に本発掘調査を実施することにしていたが、位置、工法の計画変更が示されたことにより、掘削による影響範囲を考慮した611㎡について調査を実施した。

1)　田屋道遺跡

現地調査は、平成18年４月３日～10月17日の間で実施した。このうち４月３日～11日には、掘削範囲の確認・設定とグリッドの構築を行った。表土掘削の深度と、遺構検出面の確認作業は埋文事業団の指導を受けた。調査区を北からA～Cに分け、表土剥ぎ作業は４月12日～５月11日の間でB区、C区、A区の順番で行い、表土掘削の終了したか所から作業員を入れ、遺構精査を開始した。

表土掘削に合わせて、各調査区を囲むように地下水および雨水処理用の開渠を設け、これを利用して東、西、北の各壁で土層を記録した。また調査区中央の16ラインに幅1mの土層観察用のベルトを東西に設け、これについても土層の観察・記録を行った。

表土掘削中に、遺物包含層であるⅡb層が部分的にしか遺存していないことが判明し、調査区の大部分を遺構検出面であるⅢb層上面まで掘り下げた。僅かに存在したⅡb層については、遺物が検出された時点でその部分を重機掘削せずに、人力掘削に切り替え遺物の確認に努めた。

遺構の掘削作業はC区とB区から着手した。C区は、５月12日～24日の間で行い、SD１・２を検出、掘削を行った。B区は南側から調査を開始した。この調査区では南側が遺構の密度が薄く、北側に行くほど

その密度が濃くなる傾向があり、グリッドの19ラインより南では、D、Eライン上に掘立柱建物が多く検出され、これに伴う井戸も多数検出された。中央部16ラインに設置されたベルト付近では、東西方向に走る溝が重複して検出されている。この溝から北側では、東西方向に長軸を持つ掘立柱建物が検出され、16ライン南側の長軸方向とは異なる建物が存在することが判った。この16ラインを境として、調査区全体の南半の空撮をラジコンヘリを使用して８月10日に行った。８月10日以降、調査の主体はB区の半分から北側にシフトしていく。調査区の北側ではSB18のような大型掘立柱建物が検出されたことや、中国銭「至大通寶」や数珠玉、漆塗椀などが副葬された墓や、方形の区画溝が多数重複して検出され、集落の中心が調査区の北側部にあることを認識させた。これらの区画溝群は県文化行政課の指導を受け、９月10日～10月10日の期間で北側の道路側溝部手前まで拡張して調査した。墓については、埋文事業団の指導により、剥ぎ取って保存することが決まり、10月16日に剥ぎ取り作業を実施した。この他９月８日に県の埋蔵文化財講座の受講者43名による見学が行われ、９月23日には一般を対象とした現地説明会を実施し、201名の参加者を得た。

A区の遺構調査は、８月28日から開始し、10月５日まで行った。A区南側については、農業用配水管が存在したので、当初は道路の間約1mほどは調査対象から外す予定だったが、B区から北側（A区方向）に延びる溝が予想されたことから、調査範囲を広げ、溝の有無の確認を行った。10月５日に調査区全体の北半をラジコンヘリで空撮を行った。その後10月10日まで、掘り残しまたは、測量漏れなどのチェックを行った。10月11日に文化行政課の終了確認を受けた。

その後、10月12・13日の両日で、遺構が集中する範囲を中心に重機を使ってⅢb層面（遺構検出面）を掘り下げ、検出面で目視できなかった柱、杭の有無を確認する作業を行った。現場における全ての作業が終了したのち、10月17日に国土交通省新潟事務所に現場を引き渡した。

整理作業は、平成18年11月１日～平成19年３月31日までの期間で行われた。報告書の印刷、校正作業は平成20年３月31日までに終了した。

2)　宮の越遺跡

現地調査は平成18年10月10日～10月30日までの間で行った。年度当初は80㎡を対象に調査を実施する予定であったが、協議の結果、橋脚建設に際し影響を受ける範囲としてA区136㎡、B区475㎡の合計611㎡が調査区として設定され、10月５日に機材搬入、草刈りなどの環境整備、調査区の位置確認作業を行った。10月10日にB区から表土剥ぎを開始し、A区も含めて10月12日までに掘削を終了した。両調査区の周囲には幅30㎝の雨水、湧水処理用の開渠を設けた。この開渠の壁を利用し、土層の観察と記録を行った。またB区の４ラインに沿って土層観察用のベルトを設け、合わせてこの部分の土層の記録を行った。

表土掘削は水田耕作土を除去した時点で、Ⅲ層とした洪水堆積砂層中から遺物が出土したことから、Ⅲ層上面で重機による掘削を止め、Ⅲ層以下は人力による掘削を行った。10月17日から遺構精査および遺構掘削を開始した。10月18日にA区の調査は終了した。B区については、10月27日で遺構の精査、掘削を終了し、同日終了写真を撮影した。10月30日に機材撤収等の諸作業と、国土交通省と埋文事業団の打ち合わせに基づき、A区のみ埋め戻し作業を行い現場での全ての作業を終了した。整理作業は田屋道遺跡と同じ期間で行われ、報告書も合本となった。

C　調査・整理体制

試掘確認調査と平成18年度（田屋道遺跡・宮の越遺跡）の本発掘調査および整理作業は、以下の期日と体制で行った。

【試掘確認調査】

調査期間	平成14年6月17日～7月5日、8月19日～10月11日（田屋道遺跡） 平成14年8月8日・9日、19日～28日（宮の越遺跡）
調査主体	新潟県教育委員会
調　　査	財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団（理事長　板屋越　麟一）
管　　理	黒井　幸一（財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団専務理事・事務局長） 長谷川司郎（　同　総務課長） 岡本　郁栄（　同　調査課長）
庶　　務	高野　正司（　同　総務課班長）
調査指導	寺﨑　祐助（　同　調査課課長代理）
調査担当	澤田　　敦（　同　調査課班長） 石川　智紀（　同　調査課班長）
調査職員	佐藤　優一（　同　調査課主任調査員） 後藤　　孝（　同　調査課主任調査員） 阿部　友晴（　同　調査課文化財調査員） 片岡　千恵（　同　調査課嘱託員）

【本発掘調査・整理作業】

調査主体	新潟県教育委員会		
調　　査	財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団（理事長　武藤　克己）		
管　　理	波多　俊二（財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団専務理事・事務局長） 斎藤　　栄（　同　総務課長） 藤巻　正信（　同　調査課長）		
庶　　務	長谷川　靖（　同　総務課班長）		
監　　督	鈴木　俊成（　同　調査課課長代理） 石川　智紀（　同　調査課班長） 杉田　和宏（　同　調査課主任調査員）		
［田屋道遺跡］		［宮の越遺跡］	
調査期間 整理期間	平成18年4月3日～10月17日 平成18年11月1日～平成20年3月31日	調査期間 整理期間	平成18年10月10日～10月30日 平成18年11月1日～平成20年3月31日
調査組織	株式会社シン技術コンサル	調査組織	株式会社シン技術コンサル
現場代理人	小海　勝志（文化財調査部主任技師）	現場代理人	小海　勝志（文化財調査部主任技師）
調査担当	大島　秀俊（文化財調査部主任調査員）	調査担当	大島　秀俊（文化財調査部主任調査員）
調査職員	北村　　淳（文化財調査部調査員） 小林　一弘（文化財調査部調査員） 菊池康一郎（文化財調査部調査員）	調査補助員	東　　誠二　河内　聖美 高島美記子　山田千鶴子
調査補助員	東　　誠二　河内　聖美 高島美記子　鈴木　澄江 高橋　孝子　山田千鶴子		

第Ⅱ章　遺跡の位置と環境

1　遺跡の位置

田屋道遺跡および宮の越遺跡が所在する神林村は、新潟市より北東へ67km、岩船郡のほぼ中央に位置し、東から北にかけて村上市、南は荒川を挟んで荒川町と接し、西側は日本海に面している。村の行政域は東西14.3km、南北12.1km、周囲49.6km、総面積は82.18km²である。村の中央をJR羽越線と国道７号線が平行して走り、海岸砂丘上を国道345号線、山間部を国道290号線が走る。

2　地理的環境

田屋道遺跡は新潟県岩船郡神林村の牧目集落の北西約200m、宮の越遺跡は新飯田集落の南東約350mに位置する。両遺跡は神林村西部の沖積平野に立地し、現在の標高は１～２m程である。この平野の幅は東西約３kmで、越後平野の北端部に該当する。西側には日本海沿いの砂丘列が北北東－南南西方向に発達する。砂丘列と平行して東側には朝日山地が、北側には浦田山丘陵が連なり平野部を囲む。南側には荒川が北西方向に流れている。遺跡の北東の平野部にはかつて「岩船潟」という潟湖があったが、明治時代の干拓によって消失し、現在平野部のほとんどは整備された水田地帯となっている。

現在の荒川は沿岸砂丘列を貫き、ほぼ直線的に北西流しているが、これは改流したものであり、以前は岩船潟を経て岩船集落の北側で日本海に注ぎ込んでおり、この改流が行われたのは古代まで遡るものとされている［金子1996］。慶長２（1597）年作製の『瀬波郡絵図』では既に現在の荒川とほぼ同じ流路を辿っている。ただし一部は平林地区付近から分流し、北北西方向へ牧目集落と遺跡地の間を流れ、百川（旧桃川）と合流し、岩船潟（琵琶潟）に注いでいた。現在、田屋道遺跡の西側を流れている関根川も当時はこの荒川分流に合流していた。百川は現在、九日市集落の北側を流れているが、当時は九日市と牧目集落の間を西流しており、荒川分流との合流点は田屋道遺跡と九日市集落の中間付近であると考える。岩船潟が完全に消失したのは、江戸時代から明治時代末に行われた干拓によってであり、『瀬波郡絵図』では岩船集落の東側に南北1.5km東西2.5km程の岩船潟が描かれている。本遺跡で検出した遺構は古代末から鎌倉時代前期が中心であり、『瀬波郡絵図』とは時代がずれるが、当時の状況を推測する上で参考とすることができる。『瀬波郡絵図』では平野部の多くが水田化されているが、部分的に野地を残している。野地は岩船潟周辺と平野部の西半に多く分布している。これは、平野部の東半と西半との形成過程の違いに由来する。平野部東半は主に扇状地により形成されているため、傾斜が比較的大きく河道が安定しており、現在の流路とほぼ同じである。これに対して平野部西半は主に三角洲により形成されているため、傾斜が少なく河道の安定しない氾濫原となった。このため自然堤防が各所に形成され、現在の牧目・九日市・南田中・新飯田などの集落はこの上に立地する。本調査で検出した集落跡も同様に、荒川分流などによって形成された自然堤防状の微高地に立地するものと推測する。

3　歴史的環境

『日本書記』の孝徳天皇の巻に、大化４（648）年磐舟柵を設置し、越の国と信濃の国の民を選んで柵戸

として配したことが記されている。「柵」は蝦夷に対する軍事基地的性格を持つことから、北方地域を律令体制に組み入れていくための根拠地として岩船地域は考えられていたようである。磐舟柵の位置については諸説あるが、現在の村上市から神林村に接する旧岩船潟周辺が有力視されている。和銅元（708年）年に出羽郡が置かれ北方開拓の拠点が移った後も岩船地域の重要性は変わらず、瀬波川（現三面川）と荒川は中世初期から国衙領となっていたことも史料で確認されている。鮭などの水産資源の確保と岩船潟周辺が北方世界と都を結ぶ日本海交通の重要な地域であったこと［高橋一樹1999］がこの背景であろう。

11世紀末～12世紀中頃は荘園の変化と発展の時期で、この中で成立したのが小泉荘である。11世紀後半の「小泉荘」は、免田30町からなる中御門家の荘園であった。一方、知行国制度の広がりに伴い院政期には広大な荘園が各地で成立した。免田型荘園としての「小泉荘」とは別に、金剛心院造営の見返りに与えられた知行国としての「小泉荘」が12世紀後半に成立した。この二つを合わせる形で作られたのが小泉荘である。仁平３（1153）年の「一庄立券状」によると、荘域が南は荒川河川敷、東は出羽と越後の国境にあり、その範囲は現在の岩船郡のほぼ全域に及ぶ。このように大規模な荘園が形成される一方、知行国主が国衙を取込む動きに反発もあり、小泉荘は、荘園領主に直属し本来の所領を意味する「本庄」と、荘園領主と国衙の両方に属する「加納」にわかれた。その境界は現在の神林村有明付近であったとされる。現地の荘園経営に関わりがあるとされる城氏については、永久５（1117）年に永基が「越後国住人」と称され越後に入って以降、阿賀北地域に勢力をのばしている。小泉荘が広大な領域型荘園となった背景には城氏の影響が大きい［小村1998］。

12世紀末、鎌倉幕府の成立により新たに土地制度に入り込んだのが地頭である。小泉荘は文治年間（1185～89年）に地頭職がおかれ鎌倉御家人秩父季長が補任されている。色部氏の成立には不明な点も多いが、本庄は嫡子行長に、加納は庶子為長に譲渡されたのは建永年間（1206年）頃とされ、それぞれ小泉氏（後に本庄氏）、色部氏になることから、このころが色部氏成立の時期と考えられる。当時の小泉荘は地頭請制度により支配されていたが、御家人は鎌倉に在住しており、越後に下向したのは色部公長の代とされる。以後、南北朝期に国司になった新田義貞が旧磐船郡を瀬波郡に改変するなどの変遷を経ながら、色部氏は慶長３（1598）年上杉氏の会津移封に伴い出羽に移るまでこの地を治めることになる。

田屋道遺跡・宮の越遺跡付近の当時の景観については、永仁４（1296）年の下地中分に関する史料や、時代は下るが慶長２（1597）年の『瀬波郡絵図』などから伺い知ることができる。現在は干拓されているが、当時は遺跡の北側には岩船潟が、西側には野地とよばれる荒野がひろがる。集落は街道沿いまたは段丘に島状に点在する。

周辺の遺跡としては、田屋道遺跡の南東に色部氏の館跡とされる牧目館跡（64）がある。色部氏は当初小色部付近に居を構え色部氏と名乗るようになり、ついで平林城跡（101）に居を移したとされる［田辺1992］。今回の日本海沿岸東北自動車道関連の発掘に伴う田屋道遺跡や、掘立柱建物、河川跡に漁撈関連施設が確認された窪田遺跡（60）、掘立柱建物等が確認された松陰東遺跡（63）が調査され、色部氏以前のこの地域の様相が明らかになってきている。また、田屋道遺跡の北側の旧岩船潟北岸には官衙関連遺構の可能性が指摘されている六百地遺跡（24）が、北東側の丘陵に面した里本庄遺跡群には荘官関連遺跡と思われる内御堂遺跡（８）や、本庄氏との関連が指摘される里本庄B遺跡（４）がある。

第４図　田屋道・宮の越遺跡と周辺の古代・中世の遺跡

（国土地理院発行「坂町」「村上」1:25,000原図）

No.	遺跡名	No.	遺跡名	No.	遺跡名	No.	遺跡名	No.	遺跡名	No.	遺跡名
1	天王前	19	明斉田	37	堀下	55	水下2	73	在ヶ付	91	家ノ後
2	水口沢	20	七湊屋敷添	38	有明的場	56	水下1	74	屋敷添	92	黒田B
3	大場沢	21	薬師沢	39	山下	57	川崎2	75	砂山Ⅳ	93	黒田A
4	里本庄B	22	道印田	40	引地	58	板越	76	砂山Ⅲ	94	持体
5	内御堂B	23	道祖神塚	41	北山塚	59	川崎1	77	砂山Ⅱ	95	下谷地東
6	里本庄経塚	24	六百地	42	元千眼寺跡	60	窪田	78	正樹院屋敷	96	寺田
7	内御堂C	25	七湊宮ノ前	43	堤下	61	水下4	79	長松	97	松沢屋敷添
8	内御堂	26	七ツ塚	44	桃川館跡	62	水下3	80	十日市	98	鯉池
9	大木戸	27	永田	45	草田	63	松蔭東	81	福田伝古銭出土地	99	松沢館跡
10	うしろ山塚	28	宮ノ下	46	石川	64	牧目館跡	82	渡古屋敷	100	古四王神社
11	ガラ田	29	家の越	47	山の館	65	館跡	83	古屋敷	101	平林城跡
12	銅鉄	30	宮の越	48	飯岡城跡	66	田屋道	84	長三郎山	102	馬洗場
13	フケ田	31	輪の内	49	飯岡赤谷B	67	堂田	85	牛屋館跡	103	千眼寺跡
14	前坪	32	宮の前	50	坂下	68	砂山Ⅶ	86	西部	104	平林町屋
15	前田	33	高田	51	山田赤谷	69	砂山Ⅵ	87	中部	105	小丸山
16	八太郎	34	雪車田	52	奉行松	70	砂山Ⅴ	88	衣田	106	向山
17	家ノ前	35	千作り	53	中沢	71	在ヶ付Ⅲ	89	道上	107	下谷地西
18	本屋敷	36	王塚	54	山王	72	在ヶ付Ⅱ	90	道上東		

第１表　周辺の古代・中世の遺跡一覧

第Ⅲ章　田屋道遺跡

1　遺跡の概要

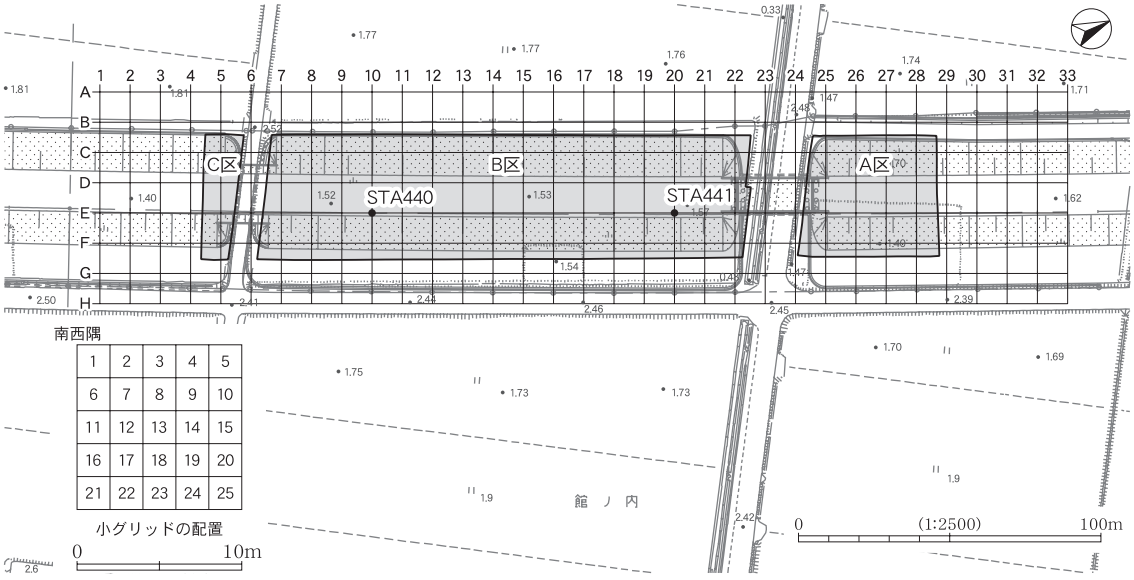
A　概　　観

本遺跡は、荒川の右岸に広がる低湿地部に立地する集落遺跡である。付近には、牧目集落の南から西に流れる関根川や、それに合流する百川などの小河川が流れている。遺跡からは、掘立柱建物を中心として、井戸、土坑、墓、溝などが検出された。遺構の時期は、出土遺物や年代測定の結果から、古代末から鎌倉時代前期が中心であり、出土遺物は須恵器・珠洲焼・輸入陶磁器・土師質土器などの土器類、箸状木製品・斎串状木製品・漆塗椀・漆塗皿・数珠玉などの木製品、銭貨・煙管などの金属製品、砥石などの石製品が出土している。

B　グリッドの設定（第５図）

グリッドの方向は、高速道路のセンター杭を基準として、道路の方向に一致させた。STA440（旧日本測地系　X＝241301.8581、Y＝83590.5534）とSTA441（旧日本測地系　X＝241393.7989、Y＝83629.8830）とを結んだ線を南北方向の基準線として、10m四方の方眼を組み、大グリッドとした。このため、グリッドの南北方向は真北から23°09′35″東偏している。遺跡のほぼ中央に位置するE15の座標は旧日本測地系　X＝241347.829、Y＝83610.218である。

大グリッドの名称は南西隅を基点とし、南北方向を算用数字、東西方向をアルファベットとして「18F」のように表示した。大グリッドをさらに２m四方に25分割し、小グリッドを設定した。小グリッドは１～25の算用数字で表し、南西隅が１で、北へ２・３・４・５、東へ６・11・16・21の順で、北東隅を25とした。表記は大グリッドの後につけて「18F15」のように呼称した。



第５図　田屋道遺跡グリッド設定図

C　発掘調査の方法

表土・包含層掘削　表土は盛土および耕作土（Ⅰ層）からなり層厚は40～50㎝である。耕作土は水田耕作土を主体とする茶褐色系の土で、これを取り除くと、褐灰色粘質土で遺物包含層のⅡb層となる。ただ遺跡全体にⅡb層が遺存するわけではなく、耕作の深度によりまったく残っていないか所が多くあった。掘削は基本的に重機によって行ったが、Ⅱb層中で遺物が検出された時点で、作業員による手作業に切り換え掘削を行った。Ⅱb層の層厚は10～15㎝程度である。遺構検出面はⅢb層上面である。Ⅱb層に含まれる遺物は少量であり、多くはこの面の直上まで重機で掘削し、作業員による人力で、遺構精査を行った。

土層観察　土層観察は、調査区の外周囲に設けた開渠の壁面を利用して行った。また調査面積が大きいB区においては16ラインに土層観察用のベルトを設置し、これを記録した。また17ラインと18ライン間に位置する旧水路の北側断面についても土層観察を行い記録している。個々の遺構については、サブトレンチを設定して、壁の立ち上がり、覆土の観察を行った。

遺構検出　遺構の検出はⅢb層上面で行った。溝、井戸の覆土は、自然流入で埋没したものは、黒褐色粘質土であるⅡb層が入り、人為的に埋め戻されたものはⅡb層とⅢb層土の混合土が充填されていた。柱穴の覆土は、Ⅱb層土が人為的に充填されたもの、Ⅱb層土とⅢb層土の混合土が充填されたもの、柱を抜いた跡だけにⅡb層土が充填されたもの、同じくⅡb層土とⅢb層土が充填されたものがある。地山土の色調に対しこれらの遺構覆土は色調が異なっており、比較的容易に判別が可能であった。ただ、打ち込み柱については、わずかに木質部だけが露出しているものを探す形となり、検出に手間取った。

遺構調査　遺構の覆土を掘り下げる前に、外形を確認するため平面での精査を行った。また、切り合い関係を持つ遺構は新旧関係の確認に注意を払った。覆土の掘り下げは、遺構の片側半分ないし十字にベルトを残す形で行い土層断面図を作成した。低湿地に立地する遺跡であることを考慮し、遺構の立ち上がりを確実なものにするため、サブトレンチを積極的に設定した。遺物を検出した遺構は、完掘段階で出土状況の写真撮影ができるように掘り進めた。完掘に際しては、遺構の覆土と周囲の土質との区別がつきにくいものがあるため、掘り足りないことがないように注意した。また、確認面で検出できなかった遺構を想定し、完掘後に重機（バックホー）と人力により約20㎝掘り下げ、調査の遺漏がないように努めた。

覆土中に炭化物を多く含む遺構では、一部ウォーターセパレーションによる微細遺物の抽出を行い、自然科学分析の試料にした。実測・計測関係では、遺構平面図作成、遺物の取り上げはトータルステーションでおこない、土層断面図は原則手実測で作成した。また遺物出土状況図のような微細図の作成は、一部、効率化を図るため座標を設定したうえで、デジタルカメラで撮影しイラストレーターを使用してパソコン上で図化作業を行った。

理化学分析用試料の選択　年代測定や花粉分析など様々な理化学分析を行うにあたっては、分析者と現地で協議して試料を選択した。サンプリングは分析者が行った。

D　層　　序

1）概　　要

遺跡の層序は、試掘確認調査時のデータを参考にしながらⅠからⅥ層に分層した。水田耕作土であるⅠ層は大部分が削り取られ、その部分が盛土になっている。Ⅱ層は中世の遺物包含層と報告されているが明確な分層はされていない。本遺跡では、色調、土質の違いからⅡa層、Ⅱb層に分層した。遺物はⅡb層か

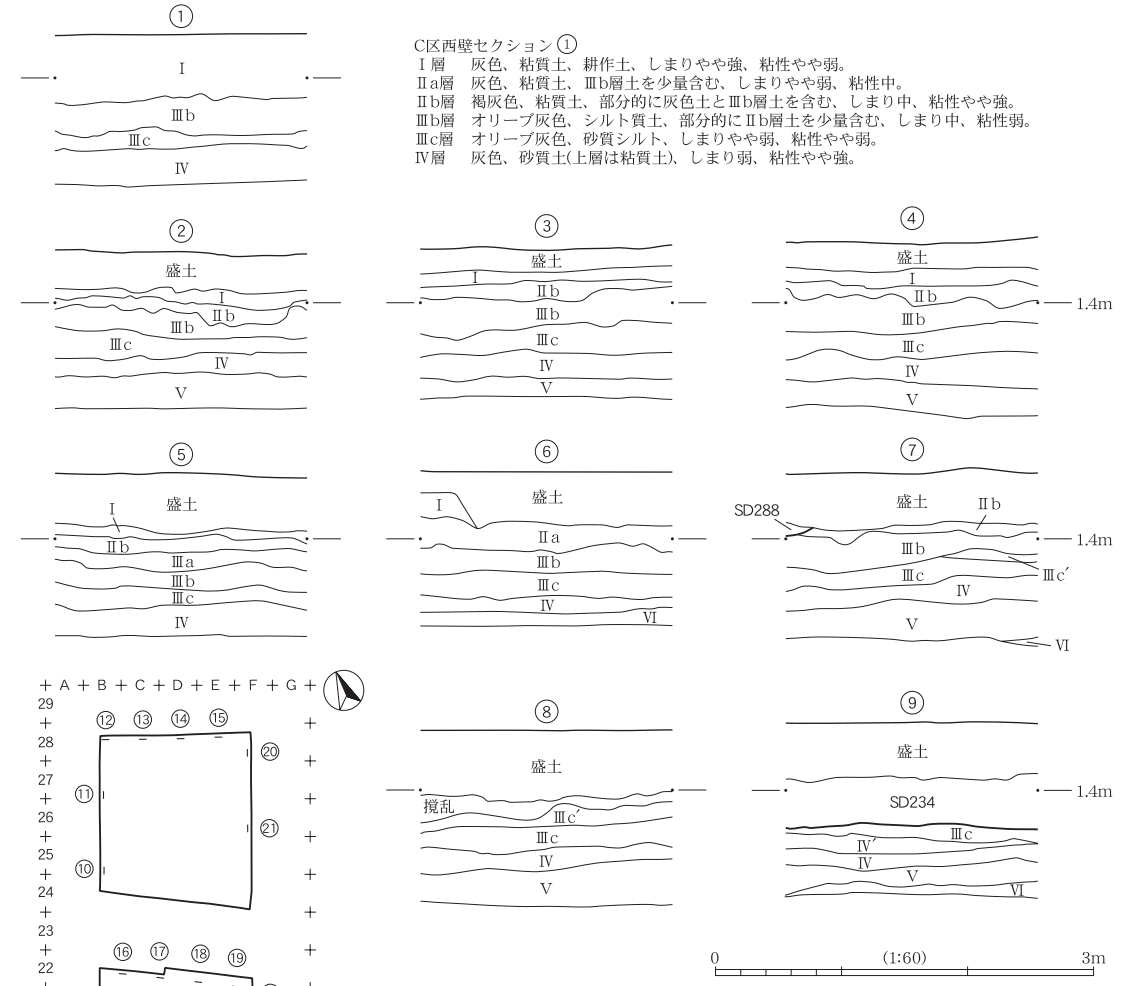
ら中世遺物の出土が確認されている。Ⅱa層については、直接遺物の出土が確認されていないが、SD236の掘り込み面がこの層中であることが確かめられている。一方、SD１・２のように掘り込み面がⅡb層上面からのものもある。遺構の掘り込み面を二面確認したことと、中世遺物の年代幅がかなりあることから、Ⅱa層についても中世の遺物包含層であった可能性は残される。

Ⅲ層は土質がシルト質で、色調が大きく異なる。そのため、上面を遺構確認面とした（Ⅲa、Ⅲb、Ⅲcに細分されている)。このうちⅢa層については、わずかに16ラインベルト付近に遺存したにすぎないが、この層で須恵器が出土したことから、古代の遺物包含層であった可能性がある。Ⅲb層以下は無遺物層である。Ⅳ層はアシ等の糸根状痕にⅢ層土が入り込み、斑状を呈する層、Ⅴ層は腐植が強い粘質土で、遺跡内ではB区の西側で一部みられる。Ⅳ層以下は河川の氾濫の影響を受けているものと思われ、堆積状況が一様ではない。

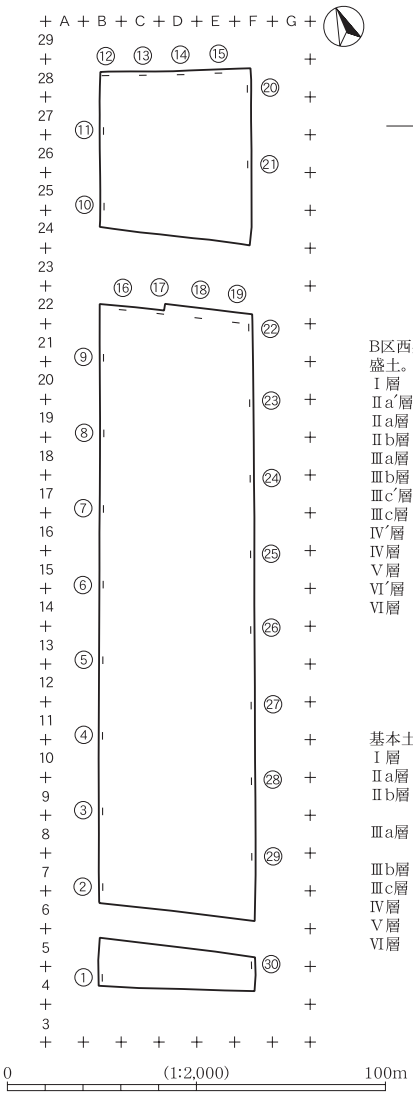
2)　基本土層（第６～８図）

盛土及びⅠ層は、40～50㎝程の厚さを持つ耕作土および撹乱土層である。調査区内は水田耕作土の大部分が削り取られ、かわりに礫混じりの砂質土が盛土されていた。この盛土は水田の改良工事で設けられた暗渠溝内にも入り込んでいた。Ⅱ層は、暗灰褐色粘質土をⅡa層、褐灰色の粘質土をⅡb層に分層した。Ⅱb層中からは珠洲焼、輸入陶磁器、土師質土器などが出土することから中世の遺物包含層とした。Ⅱa層中からの遺物出土はほとんど確認されていないが、同層の残存する範囲が極めて僅かであることに起因する可能性がある。いずれも中世遺構の掘り込み面である。層厚は、Ⅱa層が10㎝程度、Ⅱb層が10～15㎝程度である。Ⅱa層については、一部色調の差でⅡa´層として記録したか所があるが土質はほぼ同じである。Ⅲ層以下は土質がシルト質もしくは砂質になる。Ⅲ層はa～cに細分した。Ⅲa層はオリーブ灰色を呈するシルト質土である。層厚は５～10㎝程度で、やや粘性がある。部分的にしか遺存せず、16ラインの西側と東側の一部に面的に存在する。Ⅲb層は層厚30㎝程で、やはりオリーブ灰色を呈するもので、土質はシルト質土である。Ⅲa層に比較して粘性が少ない。多くの遺構確認面である。Ⅲb層面での微地形は、標高１～1.4mまでの等高線が樹枝状に入り組んでいる。これはこの層が水の影響下で堆積したことを物語っている。遺構はこの微地形上で比較的高く、傾斜の少ない標高1.2～1.25mの部分にある。Ⅲc層は層厚25～30㎝程で同色だがⅢb層よりやや暗い色調である。砂質が増し、しまりや粘性がさらに弱くなる。Ⅲc層の上面で部分的に水の影響を受けた土層が存在した。これを便宜的にⅢc´層として記録した。Ⅳ層は、灰色の砂質土で、アシ等の根痕にⅢ層土が入り込み、斑状を呈する。一部色調の明暗で、Ⅳ´層に細分したところもあるが土質には差がない。Ⅴ層は黒色を呈する粘質土である。遺跡全体に広がっているわけではなく、河川流路の影響の及ばない部分に堆積した腐植土層にその起源が求められるものと考えられる。この層はB区西壁の一部で顕著である。Ⅵ層は灰色砂質土である。A区の北壁や、B区の北壁で安定して確認できる。

この他に柱状図の㉓（第８図）付近では、Ⅴ層下に粗い川砂が堆積しており、この部分では河川の影響を強く受けていたものと思われる。遺跡全体では、北へ行くほどⅤ層下に粒径の大きな粗砂が堆積する傾向がある。開渠部の壁を利用した土層観察では遺跡全体を通して確認できた層は掘削深度の関係でⅥ層までである。ただ試掘確認調査では3m以上掘り下げているため、Ⅺ層まで記録されており、地表下3.5mでは灰色もしくは青灰砂層となっている。

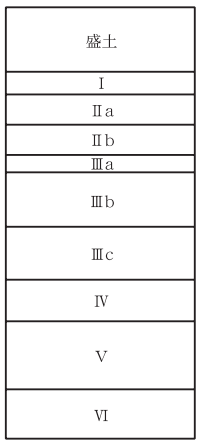


C区西壁セクション①
Ⅰ層　灰色、粘質土、耕作土、しまりやや強、粘性やや弱。
Ⅱa層　灰色、粘質土、Ⅲb層土を少量含む、しまりやや弱、粘性中。
Ⅱb層　褐灰色、粘質土、部分的に灰色土とⅢb層土を含む、しまり中、粘性やや強。
Ⅲb層　オリーブ灰色、シルト質土、部分的にⅡb層土を少量含む、しまり中、粘性弱。
Ⅲc層　オリーブ灰色、砂質シルト、しまりやや弱、粘性やや弱。
Ⅳ層　灰色、砂質土(上層は粘質土)、しまり弱、粘性やや強。



B区西壁セクション②～⑨
盛土。
Ⅰ層　灰色、粘質土、耕作土、しまりやや強、粘性やや弱。
Ⅱa′層　浅黄色、粘質土、褐灰色土を少量含む、しまり中、粘性中。
Ⅱa層　灰色、粘質土、しまりやや弱、粘性中。
Ⅱb層　褐灰色、粘質土、部分的に灰色土とⅢb層土を含む、しまり中、粘性やや強。
Ⅲa層　オリーブ灰色、シルト質土、灰色土を斑状に含む、しまりやや弱、粘性中。
Ⅲb層　オリーブ灰色、シルト質土、部分的にⅡb層土を少量含む、しまり中、粘性弱。
Ⅲc′層　オリーブ灰色、砂質シルト、しまり弱、やや粘性強い。
Ⅲc層　オリーブ灰色、砂質シルト、しまりやや弱、粘性やや弱。
Ⅳ′層　灰色、粘質土、しまり弱、粘性やや強。
Ⅳ層　灰色、砂質土、しまり弱、粘性中。
Ⅴ層　黒色、粘質土、しまり弱、粘性強。
Ⅵ′層　オリーブ灰色、粘質土、しまり弱、粘性強。
Ⅵ層　灰色、砂質土、しまり弱、粘性中。

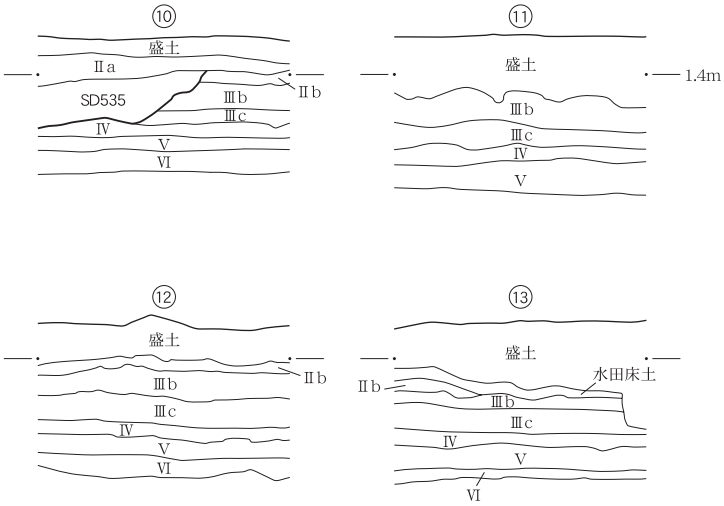
基本土層
Ⅰ層　耕作土及び撹乱土。
Ⅱa層　暗灰褐色、粘質土、撹乱の為各区を通じてあまり残っていない。
Ⅱb層　褐灰色、粘質土、中世の遺物包含層、やはり耕作時の撹乱により全体的に残りは良くない。
Ⅲa層　オリーブ灰色、シルト質土、B区西壁中央附近で部分的に見られる。
Ⅲb層　オリーブ灰色、砂質シルト、遺構確認面である。
Ⅲc層　オリーブ灰色、砂質シルト、Ⅲb層に比べしまり粘性共に弱い。
Ⅳ層　灰色、砂質土、アシ等の根痕にⅢ層土が混じる。
Ⅴ層　黒色、粘質土、B区西壁の一部で顕著である。
Ⅵ層　灰色、砂質土。



基本層序模式図

0　(1:40)　2m

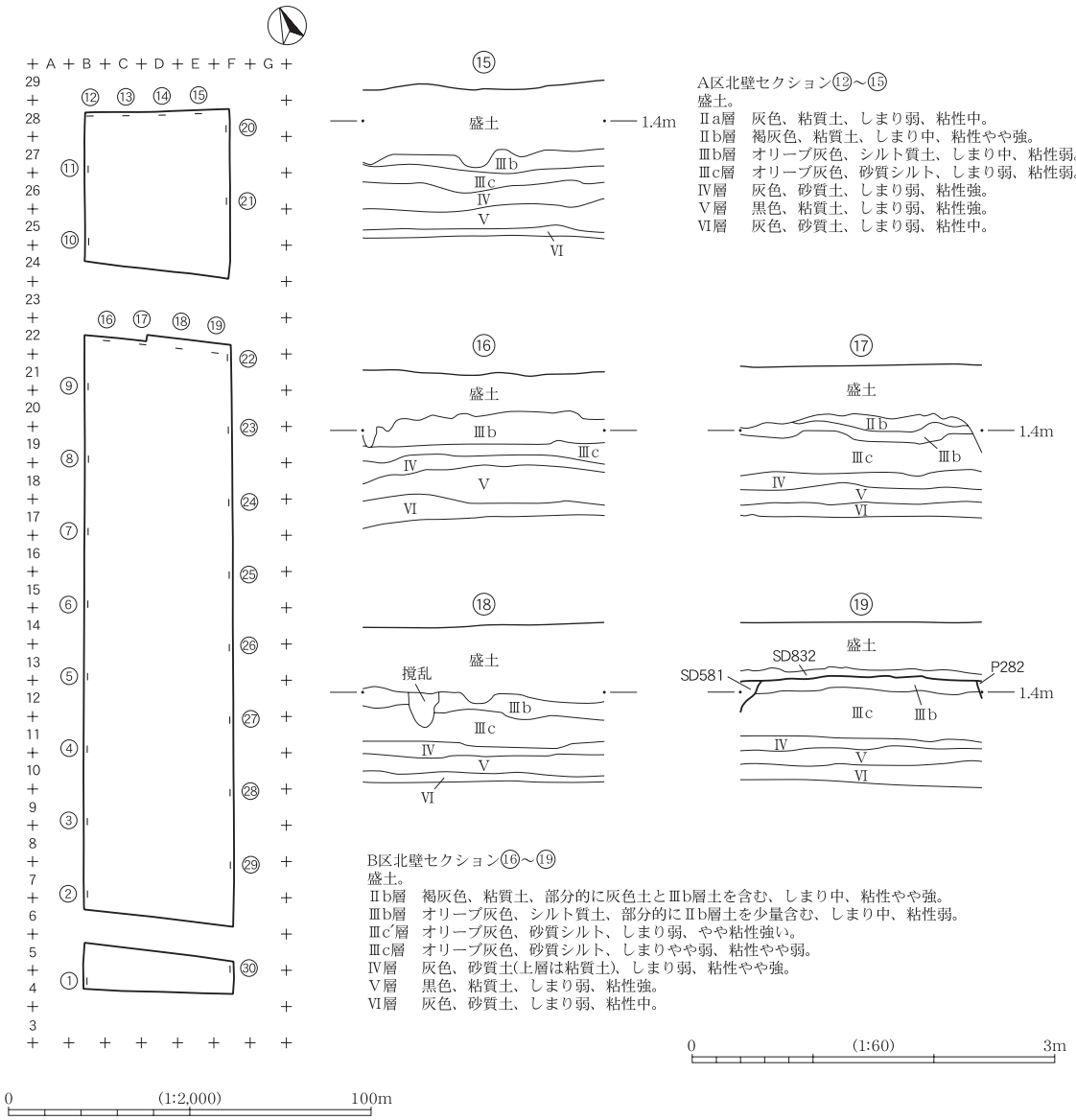
第６図　田屋道遺跡土層図①



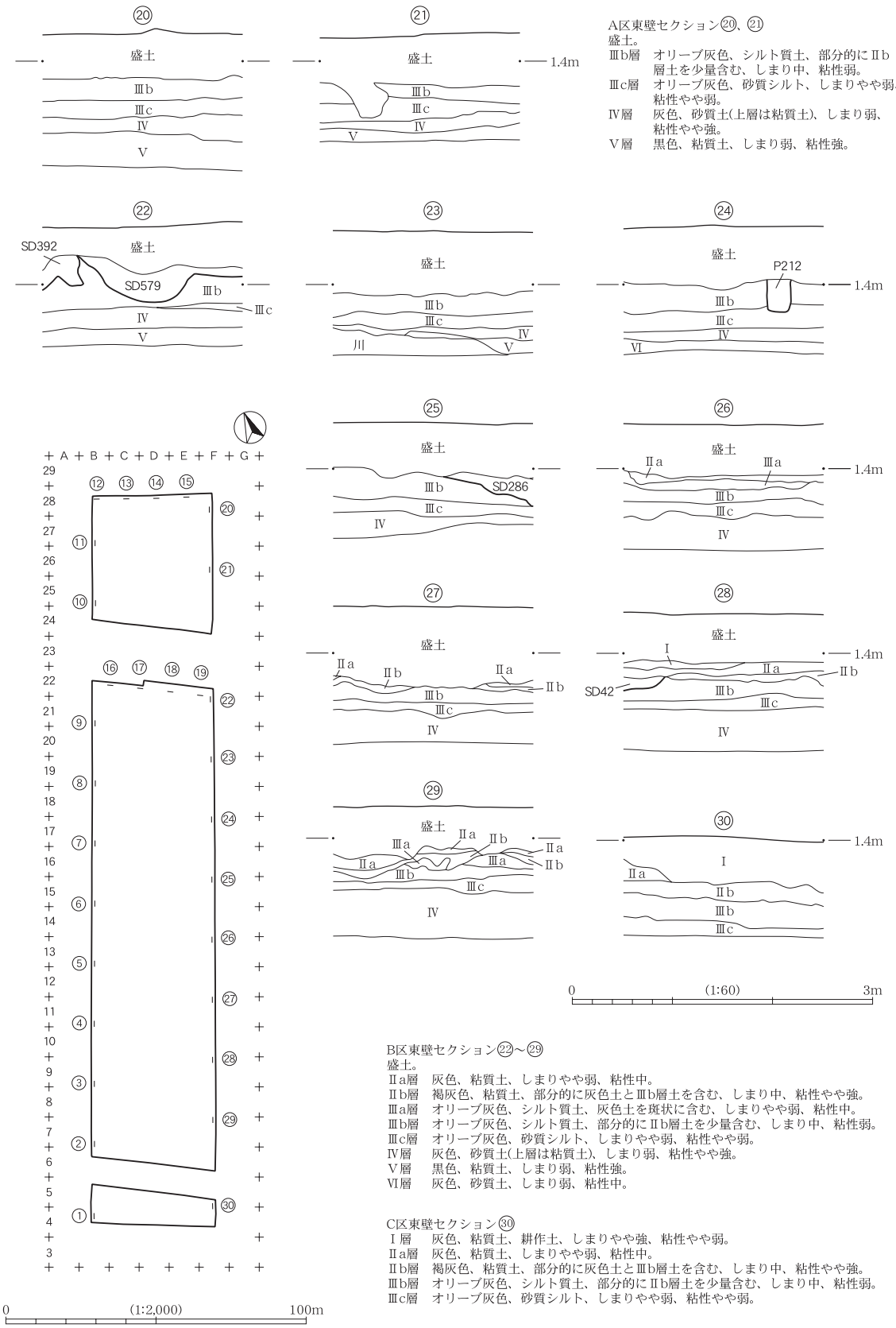
A区西壁セクション⑩、⑪
盛土。
Ⅱa層　灰色、粘質土、しまりやや弱、粘性中。
Ⅱb層　褐灰色、粘質土、部分的に灰色土とⅢb層土を含む、しまり中、粘性やや強。
Ⅲb層　オリーブ灰色、シルト質土、部分的にⅡb層土を少量含む、しまり中、粘性弱。
Ⅲc層　オリーブ灰色、砂質シルト、しまりやや弱、粘性やや弱。
Ⅳ層　灰色、砂質土(上層は粘質土)、しまり弱、粘性やや強。
Ⅴ層　黒色、粘質土、しまり弱、粘性強。
Ⅵ層　灰色、砂質土、しまり弱、粘性中。

A区北壁セクション⑫～⑮
盛土。
Ⅱa層　灰色、粘質土、しまり弱、粘性中。
Ⅱb層　褐灰色、粘質土、しまり中、粘性やや強。
Ⅲb層　オリーブ灰色、シルト質土、しまり中、粘性弱。
Ⅲc層　オリーブ灰色、砂質シルト、しまり弱、粘性弱。
Ⅳ層　灰色、砂質土、しまり弱、粘性強。
Ⅴ層　黒色、粘質土、しまり弱、粘性強。
Ⅵ層　灰色、砂質土、しまり弱、粘性中。

B区北壁セクション⑯～⑲
盛土。
Ⅱb層　褐灰色、粘質土、部分的に灰色土とⅢb層土を含む、しまり中、粘性やや強。
Ⅲb層　オリーブ灰色、シルト質土、部分的にⅡb層土を少量含む、しまり中、粘性弱。
Ⅲc′層　オリーブ灰色、砂質シルト、しまり弱、やや粘性強い。
Ⅲc層　オリーブ灰色、砂質シルト、しまり弱、粘性やや弱。
Ⅳ層　灰色、砂質土(上層は粘質土)、しまり弱、粘性やや強。
Ⅴ層　黒色、粘質土、しまり弱、粘性強。
Ⅵ層　灰色、砂質土、しまり弱、粘性中。



第７図　田屋道遺跡土層図②



A区東壁セクション⑳、㉑
盛土。
Ⅲb層　オリーブ灰色、シルト質土、部分的にⅡb層土を少量含む、しまり中、粘性弱。
Ⅲc層　オリーブ灰色、砂質シルト、しまりやや弱、粘性やや弱。
Ⅳ層　灰色、砂質土(上層は粘質土)、しまり弱、粘性やや強。
Ⅴ層　黒色、粘質土、しまり弱、粘性強。

B区東壁セクション㉒～㉙
盛土。
Ⅱa層　灰色、粘質土、しまりやや弱、粘性中。
Ⅱb層　褐灰色、粘質土、部分的に灰色土とⅢb層土を含む、しまり中、粘性やや強。
Ⅲa層　オリーブ灰色、シルト質土、灰色土を斑状に含む、しまりやや弱、粘性中。
Ⅲb層　オリーブ灰色、シルト質土、部分的にⅡb層土を少量含む、しまり中、粘性弱。
Ⅲc層　オリーブ灰色、砂質シルト、しまりやや弱、粘性やや弱。
Ⅳ層　灰色、砂質土(上層は粘質土)、しまり弱、粘性やや強。
Ⅴ層　黒色、粘質土、しまり弱、粘性強。
Ⅵ層　灰色、砂質土、しまり弱、粘性中。

C区東壁セクション㉚
Ⅰ層　灰色、粘質土、耕作土、しまりやや強、粘性やや弱。
Ⅱa層　灰色、粘質土、しまりやや弱、粘性中。
Ⅱb層　褐灰色、粘質土、部分的に灰色土とⅢb層土を含む、しまり中、粘性やや強。
Ⅲb層　オリーブ灰色、シルト質土、部分的にⅡb層土を少量含む、しまり中、粘性弱。
Ⅲc層　オリーブ灰色、砂質シルト、しまりやや弱、粘性やや弱。

第８図　田屋道遺跡土層図③

2　遺　　構

A　記述の方法

1)　方　　針

遺構の説明は、本文・観察表・図面図版・写真図版を用いて行う。観察表ですべての遺構の記載を行い、重要度の高い遺構について本文で解説することとする。本文の記述に当っては、遺構ごとに分類や概要を述べた後に、各遺構について個別説明を行う。

2)　遺構番号

遺構個々の名称は、遺構種類・番号の順に表記した遺構番号で表す。遺構種類は後述するように略称を用いた。番号は遺構の種類に関係なく検出順に通し番号を付した。

遺構種類は略称を用い、掘立柱建物を「SB」、井戸を「SE」、土坑を「SK」、墓を「SG」、集石を「SY」、溝を「SD」、性格不明遺構を「SX」、杭列を「SA」、ピットを「P」とした。

3)　図　　版

遺構の図面図版は、全体図・分割図・個別図で構成している。全体図は1/800の平面図（図版１）で、すべての遺構を表示した。なお、遺構検出面は広範囲で、過去の土地改良等による削平を受け、改変されているため、地山面の等高線は表示しなかった。分割図は、調査区域を11分割して1/150で表した遺構平面図（図版２～12）がある。個別図は平面図・土層断面図・エレベーション図などで構成しており（図版13～67）、このうち掘立柱建物は１/80、墓は1/20、集石は1/30、性格不明遺構のうちSX12は１/120、その他の遺構については１/40で表した。土層断面図の色調は『新版　標準土色帖』［小山・竹原　2002］に基づいている。写真図版は、個別図にある遺構について掲載するように努めたが、すべてを網羅してはいない。各図版の掲載順は、冒頭に全体図と分割図を掲載した後で、遺構個別図を掲載した。

4)　観　察　表

観察表の項目は、位置、形状、規模、覆土、出土遺物、切り合い関係などである。形状には平面形・断面形などがあり、第９図に基づき分類して記載した。規模の項目で、カッコ付きで表した数値は残存値である。計測できないものは空欄とした。なお、深さは検出面から底面までの実測最大値とした。覆土は堆積状況を第10図に基づき分類して記載した。切り合いは「＜」、「＞」、「＝」、「？」の記号を用いて示した。「＜P70」とはP70に切られ、「＞P70」とはP70を切っていることを示す。「＝P70」はP70と同時に存在しているものを示す。「？P70」はP70と切り合い関係があるものの、新旧が不明であることを示す。なお、平面・断面形状の分類は［荒川・加藤1999］を参考に一部改変して分類した。

B　遺構の分類

1)　基本分類

遺構の平面形のうち井戸、土坑、性格不明遺構、ピットについては墓とSX12を除き第９図の遺構平面

形状の分類で円形・楕円形・長楕円形・隅丸方形・隅丸長方形・不整形の６種類に分類し、その基準を示した。

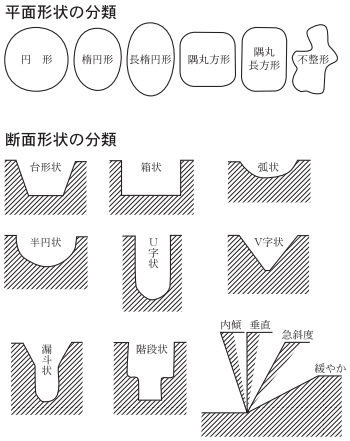
また同図で、井戸、土坑、墓、溝、性格不明遺構、ピットの断面形状を台形状・箱状・弧状・半円状・U字状・V字状・漏斗状・階段状の８種類に分類し、その基準を示した。

遺構の平面形状の分類

円形	円形を基調とし、長径が短径の1.2倍未満のもの。
楕円形	円形を基調とし、長径が短径の1.2倍以上1.5倍未満のもの。
長楕円形	円形を基調とし、長径が短径の1.5倍以上のもの。
隅丸方形	隅丸方形を基調とし、長軸が短軸の1.2倍未満のもの。
隅丸長方形	隅丸方形を基調とし、長軸が短軸の1.2倍以上のもの。
不整形	凹凸で一定の平面形を持たないもの。ただし、おおよその形状がわかるものは、不整円形・不整楕円形・不整長楕円形・不整方形・不整長方形と呼ぶこともある。

遺構の断面形状の分類

台形状	底部に平坦面を持ち、緩やか～急斜度に立ち上がるもの。
箱状	底部に平坦面を持ち、ほぼ垂直に立ち上がるもの。
弧状	底部に平坦面を持たない弧状で、緩やかに立ち上がるもの。
半円状	底部に平坦面を持たない椀状で、急斜度に立ち上がるもの。
U字状	確認面の長径よりも深さの値が大きく、ほぼ垂直に立ち上がるもの。
V字状	点的な底部を持ち、急斜度に立ち上がるもの。
漏斗状	下部がU字状、上部がV字状の二段構造からなるもの。
階段状	階段状の立ち上がりを持つもの。広い中段（テラス）を持つものも含める。



第９図　遺構の平面・断面形状の分類

遺構覆土の堆積状況（第10図）は、これをA単層・Bレンズ状・C水平・D水平・レンズ状・E斜位・Fブロック状の６種類に分類し、さらにB～Eの項目に対し、人為的埋土が遺構内の上・下のどの位置にあるかを１、２として細分類した（細分類ａ）。ただし、柱根・柱痕が見られるピットは細分類ａの項目に掘方の堆積状況を示した。遺構覆土の分類のうち、柱穴の柱痕があるものは、柱が抜き取られた後に、柱痕部分の埋め立てに使用した土層の違いからこれを二つに分類した（細分類ｂ）。同じく柱穴の掘方部分の埋め戻しに使用した土の違いからこれを三つに分類した（細分類ｃ）。さらに、柱穴が柱抜き取り時に上部が壊されたかまたは自然に窪んだ状況になった場合の埋め立て土に違いがあることから、これを二つに分類した（細分類ｄ）。以上の基準を使用し観察表中に平面形、断面形、覆土・埋土の分類を記載している。

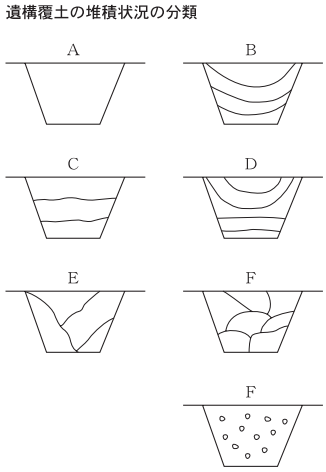
遺構覆土の堆積状況の分類

A	単層	覆土が均一とみなされるもの。
B	レンズ状	複数層がレンズ状に堆積するもの。
C	水平	複数層が水平に堆積するもの。
D	水平・レンズ	覆土下位は水平に、上位はレンズ状に堆積するもの。
E	斜位	斜めに堆積するもの。
F	ブロック状	ブロック状に堆積するもの。（覆土が一度に堆積するものも含む。）

細分類a	1	上位または上半に、人為的埋土と思われる堆積土層を含むもの。
	2	下位または下半に、人為的埋土と思われる堆積土層を含むもの。

柱根・柱痕の認められる遺構の覆土堆積状況の分類

細分類b	1	柱痕部分埋土がⅡ層土主体のもの。
	2	柱痕部分埋土がⅡ・Ⅲ層混合土主体のもの。
細分類c	1	掘方部分埋土がⅡ層土主体のもの。
	2	掘方部分埋土がⅡ・Ⅲ層混合土主体のもの。
	3	掘方部分埋土がⅢ層土主体のもの。
細分類d	1	上位にⅡ層土主体の別の層が堆積するもの。
	2	上位にⅡ・Ⅲ層混合土主体の別の層が堆積するもの。



第10図　遺構覆土の堆積状況の分類

2）　遺構の認定

掘立柱建物（SB）　掘立柱建物の認定については、柱間の寸法に規格性を持ち、柱列がある程度揃うこ

と、柱根の形状、埋土の状態が共通性を持つものをひとつの建物とした。また、桁行の方向が東西方向を向くものを「東西棟」、南北方向を向くものを「南北棟」と文中で呼称している。

井戸（SE）　井桁・井戸側などの施設を検出していないことから、素掘りのものが対象となった。井戸として認定したものは、断面形の壁がほぼ垂直で、底面に腐植物が堆積することや、湧水すること、井戸の遺物として一般的な箸状木製品や曲物が出土すること、井戸の廃棄儀礼として知られる焼礫や炭化物の投棄が確認できるなどの要因から総合的に判断したが、浅いものや、ごみ穴との区別など解決されない問題も存在する。

土坑（SK）　平面形が円形・楕円形・長楕円形のもので、断面形も台形状・半円状・弧状を呈するもので、底面にある程度平坦面を持つものを土坑とした。また規模についても大型のものは除外した。

墓（SG）　骨を検出しなかったが、銭貨、数珠玉、椀など副葬品や、木棺と考える施設の存在から墓と認定した。

集石（SY）　礫が一定の範囲に規則性を持たずに集中しているものをそれとした。

溝（SD）　平面形状が溝状を呈するものをそれとした。区画溝とそれ以外の性格不明の溝がある。

性格不明遺構（SX）　平面形状が不整形なもの、底面の形状が一定でないもの、大型のもの、遺構の性格を特定できないものをそれとした。

ピット（P）　平面形が円形・楕円形・長楕円形・隅丸長方形などの小穴で、断面形は台形状・弧状・半円状・U字状・階段状などを呈するものをそれとした。

杭列（SA）　杭が一定間隔で並び方向性を示すものをそれとした。

C　遺構各説

1）概　　要

本遺跡で検出した遺構は、掘立柱建物36棟・井戸27基・土坑30基・墓１基・集石１基・溝72条・性格不明遺構18基・杭列３条・建物柱穴以外のピット290基である。遺跡全体の遺構密度は、グリッドの16ラインを境に北側で密となっているが、これより南側ではあまり密ではない。また、B区の北側に位置するA区でもやはり遺構は疎らである。

遺構のうち、掘立柱建物は桁行の方向が東西方向を向くもの「東西棟」と南北方向を向くもの「南北棟」がある。東西棟は16ラインに集中する東西方向の溝から北側に存在する。南北棟は逆にこれらの溝から南側で多く検出した。建物の構造としては、総柱建物（SB10・18・28）と側柱建物がある。また、SB９・10・12・14・15・18のように、柱筋は通らないが廂と推測する構造を持つ建物がある。

井戸は素掘りで、井桁・井戸側等の施設はない。自然に埋没したものと人為的に埋め戻されたものがある。井戸内からは箸状木製品、漆塗皿・漆塗椀、曲物等が出土している。

墓は１基だけB区の北西隅で検出した。方形の掘方内に薄い板材で作られた木棺が納めれ、内部から数珠玉、中国銭貨、漆塗椀が出土している。

集石はSD２の窪み内で検出した。下部に掘り込み等の施設はない。石はいずれも自然石で人頭大の扁平石と拳大の円礫からなる。円礫の中には被熱したものも混じるが性格は不明である。

溝は東西方向のものと、南北方向のものがある。15・16グリッドに位置するSD237は、SD234・535と続き、B区からA区にまたがる大きな区画溝である。B区の北側には小規模だが、断面台形を呈する方形の区画溝が集中している。またSD798・806のように建物に伴う可能性の高いものや、SD95・126・793・808・

873等の短溝がある。

性格不明遺構のうちSX12は浅いが方形に区画する溝である。溝の幅が広く、溝の底面には掘り上げ土が流入していることから、区画内側には盛土があった可能性がある。

杭列は、17D～E区にかけて３条検出した。いずれも先端加工した丸材・割材からなる。杭列の主軸方向は東西である。SA１～３まで附番したが新旧関係は不明である。杭の間隔は狭く40～50㎝程度で、杭は細く、打ち込み深度もそれほど深くないことから柴垣状の遺構の可能性もある。

建物として組み合わせができないピットは、290基存在する。この中には柱根が残っているものもあることから、周囲にある掘立柱建物と関連する施設か、井戸の周囲にあるものは上屋施設に関わるものかもしれないが、いずれも建物としての規格性を持たないものである。

2）　掘立柱建物

SB１（図版11・13・93）

７D・E区に位置する南北棟である。SD８より古い。桁行２間（2.7m）、梁間１間（2.24m）の側柱建物で、主軸方向はN８°Wである。桁行の柱間隔は1.2～1.56mである。掘方はみられず杭（柱根）を６本検出した。杭の長さは0.35～0.56mである。東西２方向の側杭のうち、中杭は両方ともに外側に開く。杭10・11・20・27は真っ直ぐ打ち込まれているが、杭21と22は斜めに打ち込まれている。ただし傾斜方向は異なる。床面積は約６㎡である。遺構の時期は杭21（柱根）の放射性炭素年代測定（AMS）の数値から７世紀前半が想定できる。

SB２（図版10・13・14・93）

９C、10C区に位置する南北棟である。SD79より古い。桁行３間（4.62m）、梁間１間（2.86m）の側柱建物で、長軸の主軸方向はN24°Eである。東側の桁行は比較的一直線に並んでいるが、西側はやや歪んでいる。桁行の柱間隔は1.12～1.76mと、梁間に比べると狭い。柱穴は径0.27m前後のものが主体で、深さは0.17～0.25mと浅い。柱痕が確認できたものは８基中４基（P62・69・107・109）で、柱根が残る柱穴はない。床面積は約13㎡である。

SB３（図版11・14・15・93）

８C・D区に位置する南北棟である。桁行４間（8.72m）、梁間３間（5.31m）の側柱建物で、主軸方向はN21°Eである。桁行、梁間の柱間隔はともに1.64m～1.84m程度であるが、一部約３mと開く所もある。柱は比較的一直線に並んでいる。柱穴は径、深さともに0.2～0.3m程である。柱根が残存しているピットは13基中３基（P49・51・77）である。柱根は径約0.06～0.14mで、いずれも掘方の底面より下に突出している。床面積は約46㎡である。

SB４（図版９・16・94）

11D、12D区に位置する南北棟で、SB５と重複する。桁行３間（7.45m）、梁間２間（3.74m）の側柱建物で、主軸方向はN15°Eである。桁行の柱間隔は2.14～3.15m、梁間の柱間隔は1.74～2mである。柱根はP127・132・133・143・144で残存し、柱上部はP127を除き北西方向に傾く。特にP127・144は傾斜が大きい。P132・143の柱根は底面が平らで、直径0.13～0.16m、長さ0.84～1.15m程の大型のものであった。同じ位置に大型の柱を使用している建物にSB16があり、建物の主軸方向も同じである。両ピットとも深さ0.2m程の浅いピットの底部から打ち込まれたものと考える。P132・143以外の柱穴の径は0.2～0.35m、深さ0.11～0.23mである。P127とP128、P143とP165は重複しており、建替えが行われた可能性がある。また建物内部から検出されたP133は間じきりか、又は建替えの際に建物が北側へ延長、若しくは北側が縮小さ

れた痕跡と考える。床面積は約28㎡である。

SB 5（図版 9 ・17・94）

12D、13D区に位置する南北棟で、SB 4 と重複する。桁行 2 間（3.28m）、梁間 1 間（2.08m）の側柱建物で、主軸方向はN16°Eである。桁行の柱間隔は1.54～1.74mである。柱根は残存せず、P183のみ柱痕が確認できた。柱穴の径は0.17～0.45mで、深さ0.12～0.24mである。SB 6 と建物の規格がほぼ一致し、3.2mの間隔を置いてSB 6 の西側に並列する。また、東側縁がSB 4 の東側縁と南北方向に並ぶことから、何らかの関係があるものと考えたい。床面積は約 7 ㎡である。

SB 6（図版 9 ・17・94）

12E、13E区に位置する南北棟で、SB 7 と重複する。桁行 2 間（2.96m）、梁間 1 間（1.96m）の側柱建物で、主軸方向はN15°Eである。桁行の柱間隔は1.44～1.52mである。柱根は残存せず、P163・235のみ柱痕が確認できた。柱穴の径は0.17～0.4mで、深さ0.07～0.15mである。SB 5 と建物の規格がほぼ一致し、3.2mの間隔を置いてSB 5 の東側に並列する。床面積は約 6 ㎡である。

SB 7（図版 9 ・18・95）

12D・E、13D・E区に位置する南北棟で、SB 6 と重複する。桁行 1 間（3.52m）、梁間 1 間（2.05m）の側柱建物で、主軸方向はN16°Eである。柱根はP149で残存し、東側に大きく傾く。P174では柱痕が確認できた。柱穴の径は0.25～0.28mで、深さ0.2～0.34mである。SB 8 と建物の規格がほぼ一致し、3.1mの間隔を置いてSB 8 の西側にほぼ並列する。床面積は約 7 ㎡である。

SB 8（図版 9 ・18・95）

13E区に位置する南北棟である。桁行 1 間（3.25m）、梁間 1 間（1.95m）の側柱建物で、主軸方向はN16°Eである。柱根は残存せず、P169のみ柱痕が確認できた。柱穴の径は0.25～0.36mで、深さ0.12～0.27mである。SB 7 と建物の規格がほぼ一致し、3.1mの間隔を置いてSB 7 の東側にほぼ並列する。床面積は約 6 ㎡である。

SB 9（図版 8 ・ 9 ・19・20・95）

13E、14D・E区に位置する南北棟である。遺構のほぼ中央が、南北方向の撹乱によって壊されている。桁行 4 間（5.92m）、梁間 2 間（3.52m）の側柱建物の身舎と、身舎の周囲に南北方向に 5 間（8.68m）、東西方向に 3 間（5.12m）と推測する廂（四面廂）がつく建物で、主軸方向はN13°Eである。北側廂の柱間については、P247とP242の間に撹乱があることから、このか所にある柱が損なわれたと考え 3 間とした。北西隅の柱穴がやや東に偏っている。身舎・廂部分ともに柱穴が隣接しているか所があり、各々小規模な建替えが行われていた可能性がある。

身舎部分の柱穴は、径0.15～0.3m、深さ0.07～0.29mとややばらつきがある。身舎部分として確認できた柱穴12基の内、柱根が残るものが 1 基（P211）、柱痕が確認できたものが 8 基（P192・196・197・203・207・239・243・245）であった。廂部分として確認した柱穴15基の内、柱根が残るものが 4 基（P190・191・242・283）、柱痕が確認できたものが 6 基（P194・202・240・247・248・283）であった。身舎部分と廂部分の柱穴規模に大きな差はない。身舎部分の床面積は約21㎡、廂部分を含めた敷地面積は約44㎡である。

SB10（図版 7 ・ 8 ・21・95・96）

14B・C、15B・C区に位置する南北棟である。東側が撹乱で一部壊されているが、桁行 3 間（7.84m）、梁間 2 間（3.2m）の総柱建物で、西側に廂を持つ構造と考える。廂は桁行き 3 間の身舎部分に対し 2 間分の桁行しかない。主軸方向はN20°Eである。桁行の柱間隔は2.08～2.88m、梁間の柱間隔は1.6m程である。東側の柱穴を除くと、柱穴の径は0.2m程のものと0.3～0.4m程度のものがある。柱穴の深さは0.09～0.24m

で、東側の柱穴は上部が撹乱で削平されているため浅くなっている。西側の柱穴は、断面形が尖底であることから、柱の先端は杭状であったと推測する。すべての柱穴で柱根はなかった。身舎部分の床面積は約25㎡で、廂部分を含めた敷地面積は約30㎡である。

SB11（図版７・22・96）

16E区に位置する南北棟である。P298はSD288とP294はSD289と重複し共にピットが新しい。桁行３間（7.64m）、梁間２間（3.96m）の側柱建物で、主軸方向はN28°Eである。桁行の柱間隔は中央がやや広く３m程、その他は2.3m程である。柱穴の径は0.3m程、深さは0.5m程のものが主体である。P298には柱根が残存する。柱根は打ち込みにより掘方の底面より下に突出している。P293とP300、P301とP302は近接しており部分的な建替えの可能性がある。床面積は約30㎡である。遺構の時期はP298の柱根の放射性炭素年代測定（AMS）の数値から12世紀前半が想定できる。

SB12（図版５・６・23・24・96・97）

18D・E、19D・E区に位置する東西棟である。桁行３間（7.76m）、梁間１間（3.92m）の側柱建物で、主軸方向はN67°Wである。外側に２間×４間の廂と考えた柱列があるが身舎の柱列と揃わない。廂の柱間は約2.6mで、北側のP638-637間と南側のP720-721間だけが柱間隔が約0.8mとなっている。身舎の柱は、撹乱を受けた北西の隅柱以外は全て柱根が残る。柱穴の径は0.29～0.39m、深さは0.27～0.5m程である。外側の廂と考えた柱穴の径は0.1～0.41m、深さが0.08～0.33mである。身舎の柱穴の方が廂の柱穴よりやや規模が大きい。建物の平面形は、側柱の軸に対して、95°の角度でやや歪んでいる。柱根の下端は平坦で、南西の隅柱P719と北廂の柱穴P872には礎板が残る。廂と考えた外側の柱列のうち、柱根または礎板が残るものは６基（P637・645・670・722・788・872）で、身舎の柱と比較すると細いものが多い。身舎部分の床面積は約30㎡で、廂部分も含めた敷地面積は68㎡である。

SB13（図版５・25・97）

19E・F区に位置し、SB15と重複する東西棟である。桁行４間（9.04m）、梁間１間（3.44m）の側柱建物で、主軸方向はN60°Wである。柱穴の径は0.25～0.39m、深さは0.11～0.37mで、柱根は残っていない。柱痕の観察から、径が0.08～0.1m程度の比較的細い柱材が使われていたものと思う。P373には礎板が残る。北西の隅柱は暗渠溝で壊されている。柱間隔は桁行で2.24mである。床面積は約31㎡である。

SB14（図版５・６・26・27・97）

18E・F区に位置する東西棟である。桁行は３間（7.56m）、梁間１間（3.68m）の側柱建物で、主軸方向はN62°Wである。柱穴の径は0.19～0.4m、深さは0.06～0.22mである。柱根は残っていない。身舎の周囲に列が乱れてはいるが廂と考える柱列を検出した。建物の柱間隔は桁行で2.27～2.3mと中央の柱間隔がやや広く2.9mを計る。梁間は3.74mである。廂と考えた柱穴の径は0.15～0.46m、深さは0.07～0.26mである。P699に柱根とP338・677・702・723に礎板が残る。礎板はいずれも厚さ1.5～2.3㎝の薄い板である。板の長軸方向はいずれも南北方向を向く。またP699に残る柱根は掘方底面に接しており、他の柱穴についても掘方底面より下に突出している柱痕はない。廂は東側の開渠の位置にあたるため不明であるが、身舎の桁行方向と軸が揃わないことから、屋根から連続する廂ではなく壁の途中に取りつけられた所謂る腰廂のような構造であったと考える。身舎の床面積は約28㎡で、廂部分を含めた敷地面積は42㎡である。

SB15（図版４・５・28～30・97・98）

19E・F、20E・F区に位置する南北棟である。身舎部分は桁行４間（6.24m）、梁間１間（3.04m）の側柱建物で、主軸方向はN16°Eである。梁間１間としたが、梁間には0.5～0.8mの不規則な間隔で細い柱が並ぶ。柱穴の径は0.24m程度、深さは0.09～0.39mである。身舎の内部北側に1間×1間の間取りで囲える部分

があるが、性格は不明である。建物の周囲には廂と考える柱列が並ぶが北側と南側では身舎との間隔が異なる。東側の廂については、開渠で壊され不明である。廂の北側は、P585とP586の間隔が広く、この部分が開口していた可能性がある。また、身舎内の柱でP371とP627の間も大きく開いており、南壁の柱が狭い間隔で並ぶ状況と比較するとこの部分も開口していた可能性がある。変則的な建物で全て同じ建物の柱かという点については、柱穴の覆土がP370・376・550・839以外は全て土質の同じⅡb層土が入っていることを根拠のひとつとしている。SB15には、SE330とSK335が重複しているが、SE330の位置に内側の柱列が重なっており、SE330が新しく、P366の対面に対応する柱穴が壊された可能性がある。SK335は、P370・372・365・360に囲まれた中央部に位置する。覆土中～上層がⅡb層土で土質やしまり具合がSB15の柱穴と同じであることから、この建物に付属する施設と考えた。また重複するSB28は角柱を持つ建物で、SB15より新しいと考える。身舎部分の床面積は約19㎡で、廂部分を含めた敷地面積は約36㎡である。遺構の時期はP370の礎板の放射性炭素年代測定（AMS）の数値から12世紀前半頃と想定する。

SB16（図版４・31・98・100）

20C、21C区に位置する南北棟である。SB21とはP421を共有し、重複関係にあるが新旧関係は不明である。桁行３間（6.92m）、梁間２間（3.84m）の側柱建物で、主軸方向はN11°Eである。柱穴の径は0.21～0.4m、深さ0.27～0.62mとばらつきがある。柱穴10基の内、柱痕が確認できたものは８基（P227・421・422・427・428・435・436・455）である。柱穴のうち、P428・455は深さが約0.6mと他の柱より深く、明確な掘方を伴わないこと、柱が東側の中柱である点で、柱の長さの違いはあるが同じ位置に長い柱を持つSB４と共通する構造がみられる。床面積は約27㎡である。

SB17（図版４・32・98）

20D・E区に位置する東西棟である。桁行３間（5.66m）、梁間１間（2.56m）の側柱建物で、主軸方向はN70°Wである。柱穴の径は0.27～0.44m、深さ0.1～0.27mであり、比較的浅い柱穴が主体である。柱穴10基の内、柱根が残るものが１基（P530）、柱痕が確認できたものが５基（P484・520・522・529・532）である。床面積は約15㎡である。

SB18（図版５・６・33～35・99）

19C・D、20C・D区に位置する東西棟である。本遺跡では最大の建物である。SE551より古い。桁行４間（11.72m）、梁間４間（6.32m）の総柱建物で、主軸方向はN84°Wである。北側に廂を持つ。柱間は南辺と廂部分が５間になっている。柱の間隔は、桁行は３m前後が中心であるのに対し、梁間が1.7m前後と狭い。部分的ではあるが、柱穴が２基隣接ないし重複しているか所があり、小規模な建替えが行われたものと推測する。

身舎部分の柱穴の径は0.27～0.53mで平均0.37m、深さ0.11～0.54mで平均0.28mである。廂部分の柱穴の径は0.24～0.42mで平均0.26m、深さ0.16～0.49mで平均0.33mである。身舎部分のほうが柱穴の規模は大きい傾向にある。身舎・廂を含めた柱穴のうち、柱根が残るものは３基（P553・559・591）である。身舎部分の床面積は約74㎡で、廂部分を含めた敷地面積は約83㎡である。

身舎範囲内の北西部に、不定形の浅い土坑であるSK622が存在するが性格は不明である。遺構の年代は、P591の柱根の放射性炭素年代測定（AMS）の数値から12世紀後半が想定される。また、重複関係にあるSE551出土の漆塗椀が13世紀前半～中頃のもので、この井戸より古い切り合い関係を持つことから12世紀後半～13世紀前半が想定できる。

SB19（図版３・36・99）

25B・C、26B・C区に位置する東西棟である。試掘確認調査時に検出した桁行２間（5.52m）、梁間１間

（3.68m）の側柱建物で、主軸方向はN70°Wである。柱穴の径は0.27～0.35m、深さは0.14～0.36mで、柱根は残っていないが柱痕が残る。試掘確認調査時に検出したP900は本調査時には確認できなかった。床面積は約20㎡である。

SB20（図版２・３・36・100）

25C、26C区に位置する南北棟である。桁行１間（3.68m）、梁間１間（2.4m）の側柱建物で、主軸方向はN20°E である。柱穴の径は0.16～0.36m、深さは0.16～0.32mである。床面積は約９㎡である。

SB21（図版４・37・100）

20C、21C区に位置する東西棟である。SB16とはP421を共有し、重複関係にある。桁行３間（7.64m）、梁間２間（3.8m）の側柱建物で、主軸方向はN89°Wである。柱穴の径は0.23～0.43m、深さは0.16～0.53mとばらつきがあるが、SB16と比べるとやや掘方が大きめの印象を受けた。柱穴は、柱根が残るもの1基（P426）で、柱根の先端は杭状になっている。柱痕が確認できたものは８基（P421・426・429・430・431・432・433・466）である。床面積は約29㎡である。

SB22（図版５・６・38・100・101）

17F、18F区に位置する東西棟である。桁行３間（4.24m）、梁間１間（2.45m）の側柱建物で、主軸方向はN70°Wである。撹乱と開渠により北東および北西隅の柱穴は失われたと推測する。柱間隔は、桁行で1.1～1.94mと幅があり、東側の柱間隔が広い。柱穴の径は0.26～0.4mで、深さは0.16～0.41mである。P407には礎板が残る。西側に建物の長軸方向と同様の向きで杭列を確認した。床面積は約10㎡である。

SB23（図版２・３・38・101）

26C・D区に位置する南北棟である。SB24と東側で重複するが新旧関係は不明である。桁行１間（3.84m）、梁間１間（2.95m）の側柱建物で、主軸方向はN12°Eである。柱穴の径は0.28～0.38m、深さは0.18～0.47mである。柱穴はⅡb層とⅢb層の混合土で埋められている。北側の梁間が南側よりやや広い。床面積は約11㎡である。

SB24（図版２・３・39・101）

26C・D区に位置する南北棟である。桁行１間（3.84m）、梁間１間（2.58m）の側柱建物で、主軸方向はN15°Eである。柱穴の径は0.17～0.33m、深さは0.07～0.34mである。P598・753では柱痕を検出した。P598の柱痕はⅡb層土で埋められている。床面積は約10㎡である。

SB25（図版２・39・101・102）

27D・E区に位置する東西棟である。桁行は北側３間（6.35m）、南側２間で、梁間１間（3.6m）の片側の桁行間隔が広い変則的な側柱建物で、主軸方向はN 72°Wである。柱穴の径は0.18～0.33m、深さは0.1～0.24mである。柱痕が確認できたものは５基（P231・781・782・792・807）である。柱痕はⅡb層土及びⅡb層とⅢb層の混合土で埋められている。床面積は約23㎡である。

SB26（図版４・40・102）

21D区に位置する東西棟である。SD526と重複し、これより新しい。桁行２間（3.36m）、梁間１間（２m）の側柱建物で、主軸方向はN77°Wである。桁行の柱間隔は1.42～1.94mである。柱穴の径は0.19～0.35m、深さ0.13～0.55mである。柱穴５基の内、柱根が残るものが２基（P489・606）で、柱痕が確認できたものが１基（P488）である。P489の柱根は掘方底面より下に突出している。P606の柱根は掘方内でやや南に傾いていた。SB36と建物の規格がほぼ一致し、3.2mの間隔を置いて南北方向に並列する。床面積は約７㎡である。

SB27（図版４・40・102）

21F、22F区に位置し、SD579より新しくSD832より古い。南北１間（2.08m）、東西１間（2.05m）の側柱建物で、西辺はN23°E、北辺はN74°Wである。南東側の柱穴は開渠で壊され、確認できなかった。P861で柱根が、P640で礎板が残存し、P282で柱痕が確認できた。柱穴の径は0.29～0.42m、深さ0.24～0.53mである。建物の北辺が、南方1.5m程にあるSD525と平行している。建物の床面積は約４㎡である。遺構の時期はP861の柱根の放射性炭素年代測定（AMS）の数値から12世紀前半が想定できる。

SB28（図版５・６・41・102・103）

19F区に位置し、SB15・29・30と重複し、SB30より新しい。南北２間（4.65m）、東西２間（4.56m）の総柱建物で、西辺はN16°E、南辺はN74°Wである。柱間隔はいずれも2.2m程度である。P224・318・470・646には柱根が、P711には礎板が残存していた。P224・470の柱根は角柱で、下端部は平らである。調査区壁際で検出したP222も柱根が抜けた跡から角柱だった可能性が高い。柱穴の径は0.23～0.49m、深さは0.22～0.44mである。P368・465、P469・470は重複している。P222・224は調査区東側の壁面中で検出したため、建物範囲が東側に延長する可能性もある。床面積は約21㎡である。

SB29（図版５・６・42・103・104）

18F、19F区に位置する南北棟で、SB14・28・30と重複する。桁行２間（4.08m）、梁間１間（3.25m）の側柱建物で、主軸方向はN21°Eである。桁行の柱間隔は2.1m程度である。柱痕はP219・340・709で確認され、このうちP340には柱根が残存し、P219の柱痕下部より根固め石と考える円礫が出土した。柱穴の径は0.27～0.41m、深さは0.17～0.38mである。P659・660は重複している。P219・221は調査区東側の壁面中で検出されたため、建物範囲が東側に延長する可能性もある。床面積は約13㎡である。

SB30（図版５・６・42・104）

19F区に位置する南北棟で、SB28・29と重複し、SB28より古い。桁行１間（3.25m）、梁間１間（1.92m）の側柱建物で、主軸方向はN27°Eである。柱痕を全ての柱穴で確認したが柱根は無い。柱穴の径は0.21～0.38m、深さは0.25～0.37mである。床面積は約６㎡である。

SB31（図版５・43・104）

19D区に位置する。南東の位置に撹乱があるため、南東の隅柱が壊されていると考えた。桁行１間（2.44m）、梁間１間（2.32m）の側柱建物で、主軸方向はN17°Eである。柱穴は径0.29～0.36m、深さ0.26～0.28mである。P632・636に柱痕が残る。床面積は約６㎡である。

SB32（図版５・６・43・44・104・105）

18C・D区に位置する南北棟である。SB33～35と重複するが、新旧関係は不明である。SE684より古く、年代はSEとの関係から、14世紀以前と考える。南東の隅柱の位置に撹乱があり、この部分の柱は壊されていると考えた。桁行２間（6.44m）、梁間３間（4.88m）の側柱建物で、主軸方向はN7°Eである。柱の間隔は、桁行が3.2m前後であるのに対して、梁間は1.8m前後と狭い。柱の並びも、かなり歪んでいる。柱穴の径は0.23～0.52m、深さ0.11～0.6mとばらつきがある。検出した柱穴９基の内、礎板が残るものが１基（P692）、柱痕を確認できたものが６基（P692・727・732・734・755・758）である。床面積は約31㎡である。

SB33（図版５・６・44・105）

18C区に位置する南北棟である。SB32・34と重複するが、新旧関係は不明である。SE684より古く、年代はSEとの関係から、14世紀以前と考える。桁行２間（5.88m）、梁間２間（4.36m）の側柱建物で、主軸方向はN13°Eである。柱の間隔は、桁行が2.8m前後であるのに対し、梁間は2.1m前後と狭い。柱穴の径は

0.22～0.36m、深さ0.19～0.54mである。柱痕は確認できなかった。床面積は約26㎡である。

SB34（図版５・６・45・105・106）

18C区に位置する東西棟である。SB32・33と重複するが、新旧関係は不明である。SE684より古く、年代はSEとの関係からSB32同様、14世紀以前と考えた。桁行３間（6.48m）、梁間２間（3.92m）の側柱建物で、主軸方向はN75°Wである。柱の間隔は、桁行が2.2m前後、梁間が1.28～2.24mである。柱穴の径は0.23～0.4m、深さ0.15～0.6mである。柱穴９基の内、礎板が残るものが１基（P756）、柱痕を確認したものが６基（P680・736・756・762・828・896）である。床面積は約25㎡である。

SB35（図版５・６・46・106）

18C・D区に位置する南北棟である。遺構の一部を撹乱によって壊されている。SB32と重複しているが、新旧関係は不明である。桁行３間（7.08m）、梁間２間（3.36m）の側柱建物で、主軸方向はN14°Eである。柱の間隔は、桁行が2.28m前後であるのに対し、梁間は1.6m前後と狭い。柱穴の径は0.2～0.34m、深さ0.23～0.5mである。柱穴８基の内、柱痕を確認したものは６基（P683・686・689・730・737・764）である。床面積は約24㎡である。

SB36（図版４・47・106）

21D区に位置する東西棟で、SD524と重複するが、新旧関係は不明である。桁行２間（2.96m）、梁間１間（2.26m）の側柱建物で、主軸方向はN75°Wである。平面形は平行四辺形に近い。桁行の柱間隔は1.4～1.56mである。遺存状況は異なるが柱根は全ての柱穴で残存し、いずれの柱根も掘方底面より下に突出している。柱穴の径は0.26～0.38m、深さ0.26～0.46mである。SB26と建物の規格がほぼ一致し、3.2mの間隔を置いて南北方向に並列する。床面積は約７㎡である。

3）井　　戸

SE33（図版11・12・47・107）

６B20区に位置する。平面形は、北側を撹乱によって壊されており全容は不明だが、残存部分は長径1.1m、短径現存値0.77m、深さ1.12mである。断面形は漏斗状で、下半でオーバーハングしている。本遺構はⅣ・Ⅴ層を掘り抜き、砂層まで達している。覆土は８層に分けた。７層はアシ・ヨシ類主体の層であり、中央付近に集中していたが方向性に統一がない。出土遺物はない。

SE53（図版10・48・107）

９B19・20・24・25区に位置する。平面形は遺構の西側を撹乱で壊されており全容は不明だが、残存部分は長径現存値1.3m、短径1.5m、深さ1.62mである。断面形は漏斗状である。覆土は10層に分けた。４層は炭化物層、８・９層がアシ・ヨシ類を含む腐植土層である。底面付近にアシ・ヨシ類が大量に埋められ、また上層に炭化物層が堆積していることから、井戸を埋め戻す際に何らかの祭祀行為が行われていたと推測する。

遺物は珠洲焼の甕、箸状木製品、羽子板状木製品、漆塗皿、杭状木製品、杭、棒状木製品、曲物などで６層以下から大半が出土した。遺構の年代は、珠洲焼や漆塗皿の特徴から、13世紀後半頃と考える。

SE54（図版11・47・107・108）

８D20区に位置する。SB３の東側に隣接し、これと関わる井戸と考えた。平面形は円形で、長径1.15m、短径1.05m、深さ0.7mである。断面形は上部が大きく外側に開く台形状で、覆土はこの断面形に添って流入している。井桁・井戸側などの施設を伴わない素掘りの井戸としたいが、上部の大きく外側に開く部分

の下位層５・６層の形状が方形であることから、この部分が井桁または井戸側設置時の掘方とも考えられる。また曲物の破片が出土していることから水溜めの施設が存在した可能性もある。底面付近には植物の腐植土、木の枝等が堆積していた。遺物はほかに箸状木製品、漆塗皿などが出土した。遺構の年代は、漆塗皿の特徴から、13世紀後半頃と考える。

SE55（図版10・48・108）

10D１区に位置する。平面形は円形で、長径0.93m、短径0.85m、深さ0.96mである。断面形は台形状で、中ほどに括れ部があるが壁はほぼ真っ直ぐに立ち上がる。覆土の上層（１～６層）はⅡb層土が主体の土で埋め立てられており、下層（８層）については、植物繊維を多く含む腐植土であることから、水が貯まった状態の中で自然に堆積したものであろう。底面には腐植土に混じってアシ・ヨシ類の繊維が出土した。また自然堆積土と人為的に埋め戻したと考えた土の境目に炭化物層（６層）があるが、これも埋め戻し時に入れらたものと推測する。遺物には棒状木製品、箸状木製品があり、７層から出土した。

SE56（図版11・48・108）

８D14・15区に位置する。平面形は六角形に近い円形で、長径1.6m、短径1.4m、深さ1.14mである。断面形は台形状である。底面の平面形も検出面と同じく五角形に近い。東壁の中ほどに足掛かりのための浅い掘り込みを検出した。SB３と北東隅部で重複するが新旧関係は不明である。覆土はⅡb層とⅢb層の混合土で人為的に埋め戻されたものと、底面付近の自然堆積で構成される。遺物は底面付近から自然堆積土（６層）に混じって箸状木製品が出土した。

SE75（図版10・11・48・109）

９C１・２・６・７区に位置する。平面形は円形で、長径１m、短径0.98m、深さ1.18mである。断面形は漏斗状である。覆土は比較的均質な褐灰色～黒褐色土で、ブロック土などの混入物は少ないことから自然堆積と考えた。遺物は６層中から箸状木製品、棒状木製品、焼礫などが出土した。棒状木製品（197）は、井戸の北側底面に突き刺さった状態で出土した。

SE82（図版10・48・109）

９C３・８区に位置する。SD71より新しい。平面形は不整楕円形で、長径1.08m、短径0.9m、深さ0.73mである。断面形は半円状である。覆土は６層に分けた。１・２層はⅢb層土ブロックが多量に混入しており、人為的に一括して埋め戻したような状況であった。遺物は珠洲焼の片口鉢、木製の鉤などである。

SE88（図版10・48・109）

９B25、９C５区に位置する。P73より古い。平面形は不整楕円形で、長径1.2m、短径１m、深さ1.18mである。断面形は漏斗状である。覆土は７層に分けた。１・３・６層は炭化物主体の土層であった。炭化物は径の大きな炭化材などではなく、煤のような細かい、粉状のものである。井戸の覆土に多量の炭化物が確認できるのは他にSE53・55・118・327・330などがある。遺物は箸状木製品、不明木製品、焼礫が７層を中心に出土した。

SE97（図版9・49・109）

11C５、12C１区に位置する。平面形は楕円形で、長径0.98m、短径0.8m、深さ0.8mである。断面形は台形状で、底面はほぼ平坦である。覆土はⅡb層とⅢb層の混合土による埋め戻しである。このうち、最後に埋め戻された１層土には、炭化物粒が含まれる。底面にはわずかに腐植土が堆積し、木片が出土した。

SE105（図版９・49・109・110）

11D15・20区に位置する。平面形は不整円形で、長径1.06m、短径0.9m、深さ0.35mである。断面形は半

円形に近い台形状である。覆土下層はレンズ状の自然堆積で、部分的に炭化物を含み、上層はⅡb層とⅢb層土の混合土により埋め戻されたものと考える。上層の下部より角礫、木材小片が出土した。平面形状や覆土の堆積状況から井戸遺構と分類したが、深さを考えると井戸として使用されたかは不明である。

SE118（図版９・49・110）

12C22・23、12D２・３区に位置する。遺構上部の東半が撹乱によって壊れており、平面形は不明である。残存部分は長径現存値0.78m、短径1.23m、深さ1.17mである。断面形は漏斗状であるが、漏斗部分は北側に極端に偏っている。覆土は９層に分けた。Ⅲb層土を少量含む褐灰色～黒褐色土が中心となっている。８層は炭化物層で、炭化した植物質層直上にアシ・ヨシ類などの塊を検出した。ほかに覆土中から自然木、炭化物などが出土した。

SE134（図版９・10・49・110）

11D19・20・24・25区に位置する。P195より新しい。SB４の南に、1.5m程の間隔を置いて位置する。平面形は不整円形で、長径1.4m、短径1.26m、深さ１mである。断面形は漏斗状である。覆土上半はレンズ状の自然堆積で、下半にはⅡb層とⅢb層土の混合土がみられるが壁の崩落土と考える。遺物は自然堆積層の下部（５～９層）を中心に、板状木製品、箸状木製品、加工木材小片などが出土した。

SE181（図版９・49・110）

13D16・21区に位置する。P200より新しい。遺構の東側が撹乱により壊れている。平面形は円形で、残存部分は長径現存値0.65m、短径0.9m、深さ0.64mである。断面形は漏斗状である。覆土は６層に分けた。Ⅲb層土を含む黒褐色～黒色土が中心である。１～５層までが人為的な埋め戻し、６層が自然堆積である。出土遺物はない。

SE326（図版５・６・50・110・111）

19E22・23、19F２・３区に位置する。検出面でSB28の柱穴P318を検出したことから、井戸の方が古い。SB30との新旧関係は不明である。平面形は円形で、長径1.53m、短径1.5m、深さ0.7mである。断面形は台形状である。覆土は埋め戻し土で、Ⅱb層とⅢb層の混合土からなる。出土遺物はない。

SE327（図版４・50・111）

20E13・18区に位置する。平面形は不整円形で、長径1.13m、短径１m、深さ0.86mである。断面形は台形状で、上部がやや外側に開くが、下位はほぼ真っ直ぐに掘り下げられ、底面は平坦である。井戸の底面付近は黒色の粘質土が自然堆積（６・８層）しており、その上面には炭化物が検出面から壁に沿って堆積（５層）している。炭化物層から上の１～４層はⅡb層とⅢb層土の混合土による埋め戻し層である。埋め戻しに際し、事前に炭化物が投げ込まれたものと推測する。遺物は自然堆積土中から、珠洲焼の片口鉢、箸状木製品、串状木製品、曲物が出土した。

SE328（図版４・５・50・111）

20E１・２・６・７区に位置する。遺構の東側と西側に暗渠があり、この部分は壊れている。平面形は楕円形で、長径2.65m、短径２m、深さ1.17mである。断面形は漏斗状である。覆土の状況から自然に埋没したものと考える。６層～７層にかけて杭が先端をやや斜めに井戸の中心に向けた形で出土している。遺物はほかに、珠洲焼の片口鉢・甕、箸状木製品、漆塗椀、曲物、棒状木製品、矢板状木製品、杭、焼礫が出土した。

SE330（図版５・50・111）

19F９区に位置する。SB15とその東側で重複し、これより新しいと考える。平面形は円形で、径1.1m、

深さ0.84mである。断面形は台形状で、底面は平坦である。覆土は底面にある腐植土（10層）の上面を壁面から続く炭化物層（6・7層）が覆い、その上面はⅡb層土による埋め戻しである。埋め戻しに際し、炭化物等を内部に投げ入れたものと推測する。遺物は炭化物層（7層）下部を中心に、土師質土器、珠洲焼の片口鉢、摺鉢、漆塗皿、箸状木製品、曲物、斎串状木製品、杭、柱、建築部材、砥石、焼礫が出土した。

SE336（図版5・6・51・111・112）

19F3・8区に位置する。SB28・30と重複し、SB30の北東の隅柱P337を切っているのでSE336が新しいが、SB28との新旧関係は不明である。平面形は円形で、長径0.96m、短径0.92m、深さ1.65mである。断面形は台形状で、井戸側等の施設はない。覆土は中央から上半分（1～8層）が人為的な埋め戻しで、下位は自然埋没の状況を呈す。埋め戻し層の下位には検出面から流れ込んでいる炭化物層（2層）がある。遺物は漆塗椀、曲物、箸状木製品、木釘、棒状木製品、焼礫が自然堆積層と人為的堆積層のほぼ境に集中して出土し、箸状木製品は双方の層から出土した。

SE357（図版4・51・112）

21F2・7区に位置する。平面形は不整円形で、長径1.5m、短径1.34m、深さ1.2mである。断面形は漏斗状で上部が大きく開く。井戸側等の施設はない。覆土は全て自然堆積の状況を示す。遺物は珠洲焼の片口鉢、砥石、白磁が出土した。

SE398（図版5・6・51・112）

18E13区に位置する。SB14と重複するが新旧関係は不明である。平面形は円形で、長径0.98m、短径0.9m、深さ1.5mである。断面形は漏斗状で下位は窄まりながら底面へ続く。底面は平坦である。井戸側等の施設はない。覆土は中ほどから上半分の1～4層はレンズ状の流れ込み状況を呈する。下位層はレンズ状の堆積がみられないことから、自然堆積と考えた。遺物は3層から5層にかけて箸状木製品、棒状木製品、焼礫、板状木製品が出土した。

SE534（図版4・51・112）

20C22・23、20D2・3・8区に位置する。西側の一部が撹乱により壊れている。平面形は不整円形で、残存部分は長径残存値2.75m、短径2.45m、深さ1.7mである。断面形は漏斗状である。覆土は13層に分けた。1～8層は褐灰色～黒褐色土中心、9～13層は粘性の強い灰色土が中心である。1・5～8・12・13層から遺物が出土しているが、8層付近から焼礫や自然木が集中して出土した。9層あたりまで井戸が埋没した段階で、何らかの祭祀行為が行われたものと考える。遺物は珠洲焼の甕・片口鉢、砥石、ひょうたん製品、杭、礫（焼礫含む）、棒状木製品、自然木が出土した。遺構の年代は上層から出土した珠洲焼の特徴から、13世紀後半頃と推測する。

SE551（図版5・6・52・112）

19D3・4・8・9区に位置する。P568より新しい。平面形は円形で、長径1.5m、短径1.45m、深さ1.88mである。断面形は漏斗状である。覆土は4層に分けた。均質な黒褐色土が中心である。遺物は、4層の中ほどから横倒しになった曲物と、その直下から漆塗椀、焼礫などが出土した。曲物は底板が外されている。井戸底面から0.8m程浮いた位置であること、側面に圧力がかかって潰れたような状態で出土したことを考慮すると廃棄された可能性が高い。遺構の年代は、漆塗椀の特徴から、13世紀前半～中頃と考える。

SE574（図版4・52・113）

21E15・20、22E11・16区に位置する。SD392・580を切り、北側の一部が開渠によって壊される。平面形は楕円形で、長径1.2m、短径0.98m、深さ0.67mである。断面形は台形状である。覆土の1・2層はⅡb

層とⅢb層土の混合土であるため埋め戻し土と考えた。３層はレンズ状の自然堆積である。遺物は３層の下部を中心に、曲物の底板、板状木製品、木材小片が出土した。

SE613（図版３・52・113）

26D11区に位置する。平面形は円形で、長径1.27m、短径1.06m、深さ1.27mである。断面形は台形状で、底面はほぼ平坦である。井戸の覆土はⅡb層土が主体で、これにⅢ層土が混じった土で１～５層は埋め戻されている。６層については自然堆積と考える。出土遺物はない。

SE684（図版５・６・52・113）

18C14・15・19・20区に位置する。P828～830より新しい。遺構の南西部が、試掘トレンチにより一部壊れている。平面形は不整形で、長径1.64m、短径1.45m、深さ2.04mである。断面形は漏斗状である。覆土は５層に分けた。均質な黒褐色土が中心である。１～４層は人為的な埋め戻し土、５層以下は自然堆積土と考える。遺物は珠洲焼の甕、土師質土器皿、漆塗皿、箸状木製品、部材、板、焼礫などが出土した。井戸の底面から、やや大きめの自然礫・焼礫が敷き詰められた様な状態を検出した。遺構の年代は、珠洲焼、土師質土器皿、漆塗皿の特徴から、14世紀頃と考える。

SE778（図版２・３・52・113）

26C７区に位置する。平面形は円形で、長径現存値0.65m、短径0.68m、深さ0.68mである。断面形は台形状で、底面はほぼ平坦である。覆土は１～３層が埋め戻し土で、以下は自然堆積の状況を示している。出土遺物はない。

SE863（図版３・52）

24E13・18区に位置する。撹乱で南側半分が壊れているが、平面形は円形と推測する。長径1.93m、短径現存値１m、深さ1.2mである。断面形は漏斗状で、底面はほぼ平坦である。覆土は自然堆積と考えた。遺物は１層下位で部材、砥石が出土した。

4）土　　坑

SK23（図版11・53）

７D２・７区に位置する。SD８より新しい。南側が撹乱により壊れているため遺構の全容は不明だが、平面形は楕円形と考える。長軸1.15m、短軸現存値0.42m、深さ0.2mである。断面形は弧状である。出土遺物はない。

SK31（図版11・53）

７B19区に位置する。西側が撹乱により壊れており遺構の全容は不明だが、平面形は円形と推測する。長軸1.28m、短軸現存値0.55m、深さ0.35mである。断面形は台形状である。覆土は４層に分けた。出土遺物はない。

SK52（図版11・53）

８B19・20・24・25区に位置する。SD70より新しい。平面形は円形で、長軸1.37m、短軸1.33m、深さ0.33mである。断面形は台形状である。壁面に鉄分を含む土が堆積していた。出土遺物はない。

SK81（図版10・53・114）

10B22・23、10C２・３区に位置する。平面形は円形で、長軸0.72m、短軸0.65m、深さ0.38mである。断面形は台形状である。覆土は５層に分けた。遺物は３層から曲物の底板や焼礫が出土した。

SK83（図版10・53・114）

10B22・23区に位置する。平面形は円形で、長軸0.87m、短軸0.81m、深さ0.4mである。断面形は半円状

である。覆土は５層に分けた。遺物は焼礫、自然木が東側寄りに出土した。

SK180（図版９・53）

12D25、13D21区に位置する。東側は撹乱を受けているが、平面形は隅丸方形と推測する。残存部分の長軸0.66m、短軸現存値0.37m、深さ0.25mである。断面形は台形状である。覆土は２層に分けた。出土遺物はない。

SK253（図版８・９・53）

14C16区に位置する。土層観察用のトレンチのため、南側の形状がやや不明だが平面形は円形と推測する。長軸1.28m、短軸現存値0.64m、深さ0.2mである。断面形は弧状である。覆土はⅡb層土が主体である。出土遺物はない。

SK255（図版８・53）

14C13・14区に位置する。平面形は円形で、長軸0.86m、短軸0.74m、深さ0.25mである。断面形は弧状である。覆土はⅡb層土が主体であり、自然堆積土である。覆土中より木片が出土した。

SK256（図版８・53）

14B23・24区に位置する。平面形は楕円形で、長軸0.74m、短軸0.55m、深さ0.3mである。断面形は台形状である。覆土はⅡb層土が主体であり、自然堆積土である。覆土より木片が出土した。

SK285（図版７・８・53）

15E15・20、16E11・16区に位置する。SD286より新しい。平面形は不整長楕円形で、長軸1.34m、短軸0.8m、深さ0.09mである。断面形は浅い台形状で、底面に凹凸がある。覆土中より白磁水滴片が出土した。

SK292（図版７・53）

16E16・17区に位置する。平面形は円形で、長軸0.7m、短軸0.6m、深さ0.22mである。断面形は弧状である。覆土はⅡb層土が主体であり、自然堆積土である。出土遺物はない。

SK305（図版７・53）

16E24・25区に位置する。平面形は楕円形で、長軸0.67m、短軸0.55m、深さ0.48mである。断面形は台形状である。底面の一端が北側に広がり、一部オーバーハングしている。覆土はⅡb層土が主体であり、自然堆積土である。出土遺物はない。

SK307（図版７・54）

16D21・22区に位置する。平面形は隅丸長方形で、長軸1.43m、短軸1.05m、深さ0.27mである。断面形は台形状で、覆土上半の１・２層は埋め戻し土で、下位の３・４層は自然堆積層で炭化物を微量含む。出土遺物はない。

SK316（図版４・54）

20E18・23・24区に位置する。SD334より古い。平面形は楕円形で、長軸1.98m、短軸1.55m、深さ0.16mである。断面形は台形状である。覆土はⅡb層土が主体で、自然堆積土である。出土遺物はない。

SK322（図版５・６・54）

18F５区に位置する。平面形は楕円形で、長軸1.1m、短軸0.87m、深さ0.35mである。断面形は台形状だが、底面がやや内湾する。覆土は埋め戻し土でブロック状の堆積状況を示す。出土遺物はない。

SK331（図版７・８・54）

16D６・11区に位置する。SD237・286より古い。平面形は不整長方形で、長軸1.3m、短軸0.64m、深さ0.14mである。断面形は台形状で、覆土は単層で自然堆積土である。出土遺物はない。

SK335（図版５・54）

19F４区に位置する。平面形は不整楕円形で、長軸1.15m、短軸0.93m、深さ0.3mである。断面形は台形状である。覆土は自然堆積土で２層に分けた。出土遺物はない。

SK339（図版11・54）

７Ｅ９区に位置する。平面形は不整円形で、長軸0.58m、短軸0.53m、深さ0.19mである。断面形は台形状で、覆土はⅡb層土の単層である。出土遺物はない。

SK341（図版４・５・54・114）

19E10区に位置する。SB13と重複するが新旧関係は不明である。平面形は円形で、長軸0.74m、短軸0.7m、深さ0.34mである。断面形は台形状で、覆土は自然堆積土である。２層内から曲物の底板が出土した。

SK391（図版５・６・54）

18E16区に位置する。平面形は隅丸方形で、長軸0.72m、短軸0.66m、深さ0.27mである。断面形は台形状で、覆土はⅡb層土が主体で自然堆積土である。覆土内から焼礫が出土した。

SK400（図版４・54）

21B20・25、22B16・21区に位置する。平面形は楕円形で、長軸1.68m、短軸1.4m、深さ0.71mである。断面形は漏斗状である。覆土は自然堆積土で４層に分けた。断面形状は上端が大きく外側に開く形状で井戸に類似するが、他の井戸にみられる底面に堆積する腐植土がないことから土坑とした。出土遺物はない。

SK437（図版４・55）

21C24区に位置する。平面形は楕円形で、長軸1.3m、短軸0.88m、深さ0.53mである。断面形は半円状である。覆土は自然堆積土で５層に分けた。出土遺物はない。

SK442（図版５・６・55）

18E20区に位置する。SB12と重複するが新旧関係は不明である。平面形は隅丸長方形で、長軸0.68m、短軸0.53m、深さ0.1mである。断面形は弧状で、覆土はⅢb層土にⅡb層土が混じる。出土遺物はない。

SK473（図版４・５・55）

20C11・16区に位置する。平面形は円形で、長軸0.76m、短軸0.73m、深さ0.25mである。断面形は半円状である。覆土は３層に分けた。出土遺物はない。

SK599（図版３・55）

25D９・10・14・15区に位置する。平面形は円形で、長軸、短軸共に1.1m、深さ0.3mである。断面形は台形状である。覆土はⅡb層土とⅢ層土の混合土による埋め戻しである。出土遺物はない。

SK610（図版５・55）

19E３・４区に位置する。東側が撹乱により一部壊れている。平面形は楕円形で、長軸現存値0.5m、短軸0.75m、深さ0.29mで、断面形は半円状である。覆土はⅡb層土が主体である。遺物は珠洲焼の甕が３層から出土した。

SK622（図版５・６・55）

19C８・13区に位置する。平面形は不整形で、長軸0.95m、短軸0.85m、深さ0.17mである。断面形は弧状である。覆土は単層である。出土遺物はない。

SK693（図版５・６・55）

18D21区に位置する。平面形は不整円形で、長軸0.84m、短軸0.78m、深さ0.44mである。断面形は台形

状で、底面は平坦である。覆土はⅡb層主体で、上層より青磁小椀の破片が出土した。

SK810（図版６・55）

17C３区に位置する。北側が用水路により一部壊れている。平面形は不整円形で、長軸現存値0.5m、短軸0.64m、深さ0.09mである。断面形は弧状である。覆土はⅡb層が主体である。出土遺物はない。

SK819（図版４・55）

21F８区に位置する。東側が開渠により壊れている。平面形は楕円形で、長軸0.75m、短軸現存値0.5m、深さ0.36mである。断面形は台形状で、１層は人為的埋土と考えた。出土遺物はない。

5）　墓

SG313（図版４・56・98・114）

21C４・９区に位置する、平面形が長方形の木棺墓である。木棺部の法量は長辺0.85m、短辺0.58m、深さ0.16mである。掘方の長軸は0.98m、短軸0.82mである。断面形は箱状である。主軸方位はほぼ南北方向である。覆土は７層に分けた。遺構の剥ぎ取り保存を行うため、遺構壁面は掘方部分まで掘削したが、底面は床板検出段階で調査を終了している。

木棺の部材として蓋板２枚、側板４枚、横木２本、床板数枚が出土した。蓋板は２枚出土し、土圧のためか湾曲していた。側板の遺存状況は、北側と東側は良好だったが、西側と南側は破片のみであった。遺構の西辺は掘方自体がやや歪な形状をしており、側板が後世に取り去られた可能性もあるが、土層断面からは確認できなかった。床面は腐植が進んで土壌化しており、詳細は不明であるが、薄手の板材のようなものが敷かれていた可能性がある。確認できた床板状のものは４枚で、漆塗椀が出土した範囲には床板は確認できなかった。床板の上に径４・５㎝程の横木が２本渡されていた。北側の横木には繊維状の付着物があり、横木の上に別の敷物が敷かれていた可能性がある。また側板には木釘が打たれていたが、これらが敷物を固定するなど、木棺部構築に伴うものであるかは不明である。

副葬品としては、床面から漆塗椀１点、数珠玉66点、また横木（322）の上から元銭の「至大通寳」（初鋳1310年）が１点出土した。数珠玉は、原位置で検出できたものが46点であった。数珠玉が出土した北西隅付近には白色粘土塊が出土し、それのサンプル土内に数珠玉４点が混入していた。また遺構覆土を水洗した際にも、数珠玉が16点出土した。以上、数珠玉は個体として66点出土したが、腐植が進んで壊れてしまったものもいくつかはあったものと推測する。遺構の時期は、出土銭貨の初鋳年代が14世紀であるが、側板の放射性炭素年代測定（AMS）の数値が17世紀前半～中頃の値を示している。

6）　集　　石

SY25（図版11・56・115）

７E19・24・25区に位置する。SD２の覆土中で検出した。９×４㎝大の円礫27個、30㎝大の扁平な礫、18㎝大の礫それぞれ１個が集中していたが、その配置に規則性は認められず、集石下にも遺構はなかった。18㎝大のものは被熱している。

7）　溝

SD234（図版５～７・60）

16C、17B・C、18B・C、19B、20B区に位置する。SD288と同時存在で、SD286・289・447より新しく、SD236より古い。南北方向の溝で、主軸方向はN12°Eである。東西方向のSD237と同一の溝であるが、屈

曲部から北側を便宜的にSD234とした。SD237・234は、SD236と同一の主軸方向で北西に向かい、SD288と交差した後北上する溝である。断面形は階段状で、底面の北側および東側が1段低くなっている。長さは現存値で37.1m、幅は2.1m、深さは0.34mである。遺構の性格は区画溝と考える。遺物は覆土１・２層中から珠洲焼の壺、陶器、瓷器系陶器、須恵器の壺などが出土した。

SD236（図版７・８・59・116）

15D・E・F、16C・D区に位置する。SD237・288・289・304・415より新しい。直線的な溝で、主軸方向はN43°Wである。南東端は調査区外へ延びる。断面形は台形状で、長さは現存値で36.5m、幅は0.8m、深さは0.27mである。SD237が掘り直されたと考えた。覆土に砂質土を多く含む。南西側に平行するSD238と形状・覆土が類似する。出土遺物はない。

SD237（図版７・８・59・116）

15D・E・F、16C・D区に位置する。SD286・289より新しく、SD236より古い。直線的な溝で、主軸方向はN43°Wである。南東端は調査区外へ延び、北西端は16C10付近で北方向に屈曲し、これより北側はSD234として調査したが、同一の溝である。断面形は階段状で、長さは現存値で35.3m、幅は2.2m、深さは0.33mである。南西側に平行するSD252・303と形状・覆土が類似する。遺物は覆土１・２層中から珠洲焼の甕、青磁、瓷器系陶器、須恵器の横瓶などが出土した。

SD238（図版７・８・58）

14F区に位置する。直線的な溝で主軸方向はN45°Wである。南東端は調査区外へ延びる。断面形は台形状で、長さは現存値で1.4m、幅は0.4m、深さは0.16mである。覆土中に砂質土を多く含む。SD252より新しく、この溝が掘り直されたと考えた。北東側に平行するSD236の形状・覆土に類似する。出土遺物はない。

SD252（図版７・８・58・116）

14E・F、15D・E・F区に位置する。SD238より古い。直線的な溝で、主軸方向はN45°Wである。南東端は調査区外へ延び、北西端は削平により途切れるが、同一の主軸のSD303と繋がるものであろう。断面形は弧状で、長さは現存値で18.3m、幅は1.58m、深さは0.21mである。北東側に平行するSD237と形状・覆土が類似する。出土遺物はない。

SD286（図版７・８・59・116）

15C・D・E・F、16B・C・D・E区に位置する。SK331、SD415より新しく、SK285、SD237・303・304より古い。直線的な溝で、主軸方向はN60°Wである。両端共に調査区外へ延びる。断面形は弧状で、長さは現存値で36.8m、幅は２m、深さは0.25mである。北側に平行するSD289と形状・覆土が類似している。遺物は覆土４層中から土師器の椀、他に須恵器の杯などが出土した。

SD288（図版７・59・116）

16B・C・D・E・F区に位置する。東西方向の溝で、主軸方向はN64°Wである。SD289、SX355・356より新しく、SD236、P298より古い。断面形は階段状で、北側の底面が１段低くなっている。長さは現存値で36.7m、幅は2.15m、深さは0.31mである。遺構の性格は区画溝と考える。遺物は覆土３層中から珠洲焼の壺・片口鉢、須恵器の甕・横瓶、他に須恵器の杯、白磁などが出土した。

SD289（図版７・59）

16B・C・D・E・F区に位置する。SB11、SD234・236・237・288、P294、SX306より古い。東西方向の溝で、主軸方向はN62°Wである。遺構の大半はSD288により壊れている。SD286と主軸方向および覆土

が類似しており、この二つの溝は同時存在であった可能性が高い。断面形は階段状で、長さは現存値で36.8m、幅は0.83m、深さは0.25mである。遺物は覆土１層中より須恵器の甕、他に須恵器の蓋が出土した。

SD303（図版７・８・60・116）

15C・D、16B・C区に位置する。SD286・304・415より新しい。緩曲線的な溝で、主軸方向は東側がN42°Wである。北西端は調査区外へ延び、南東端は削平により途切れるが、同じ主軸方向のSD252に繋がるものと考える。断面形は弧状で、長さは現存値で17.4m、幅は1.4m、深さは0.13mである。北東側に平行するSD237と形状・覆土が類似している。出土遺物はない。

SD304（図版７・８・60）

15C、16C区に位置する。SD286・415より新しく、SD236・303より古い。直線的な溝で、主軸方向はN19°Eである。北端はSD236等に切られ、南側は削平により途切れる。断面形は弧状で、長さは現存値で5.83m、幅は1.2m、深さは0.03mである。遺物は覆土１層中から珠洲焼の甕、他に須恵器の杯が出土した。

SD415（図版７・８・60）

15C、16C区に位置する。SD236・286・303・304より古い。直線的な溝で、主軸方向はN0°である。北端はSD236等に切られ、南側は削平により途切れる。断面形は弧状で、長さは現存値で8.75m、幅は1.44m、深さは0.1mである。出土遺物はない。

SD447（図版６・７・60）

17B・C区に位置する。SD234より古い。直線的な溝で、主軸方向はN71°Wである。西端は調査区外へ延びる。断面形は台形状で、長さは現存値で3.2m、幅は0.92m、深さは0.28mである。出土遺物はない。

SD535（図版３・61・118）

24B、25B・C・D・E・F区に位置する。SD650より新しい。東西方向の溝で、主軸方向はN72°Wである。溝は西側の調査区壁でN24°E方向に屈曲する。断面形は階段状で、長さは現存値で44.2m、幅は2.3m、深さは0.33mである。覆土はⅡb層土が主体で、自然堆積の状態を示す。出土遺物はない。

SD392（図版４・60・117）

21C・D・E・F、22B・C・D・E区に位置する。SD579・581より新しく、SE574、SD524・525・526・527・580より古い。直線的な溝で、主軸方向はN65°Wである。南東端は調査区外へ延びる。断面形は台形状で、長さは現存値で38.3m、幅は0.6m、深さは0.26mである。覆土の下層は埋め戻し土と推測する。遺物は覆土１層中から珠洲焼の甕が出土した。

SD412（図版４・60）

21C・D区に位置する。SD527より古い。東西方向の溝で、主軸方向はN73°Wである。断面形は浅い弧状で、長さは現存値で11.1m、幅は0.43m、深さは0.04mである。出土遺物はない。

SD524（図版４・60・117）

21D・22D区に位置する。SD392・526より新しく、SD832より古い。直線的な溝で、主軸方向はN16°Eである。北端は調査区外へ延びる。断面形は台形状で、長さは現存値で11.8m、幅は1.3m、深さは0.2mである。覆土の下層は埋め戻し土と推測する。出土遺物はない。

SD525（図版４・60）

21D・E・F、22D区に位置する。SD392・526・580、SX536より新しく、SD832、SX859、P487・533・575・576より古い。L字型の溝で、主軸方向は東側がN73°W、西側がN16°Eである。両端共に調査区外

へ延びると考えられるが、東側は21F4区付近で、最大３m途切れるものと推測する。断面形は台形状で、長さは現存値で21.6m、幅は0.95m、深さは0.42mである。覆土上半は埋め戻し土と推測する。遺物は覆土２～５層中から珠洲焼の甕・壺・片口鉢・小型鉢、箸状木製品などが出土した。

SD526（図版４・60・117）

21D・E、22D区に位置する。SD392・527より新しく、SD524・525、P517・572・784より古い。L字型の溝で、主軸方向は東側がN71°W、西側がN20°Eである。北端は調査区外へ延びる。断面形は台形状で、長さは現存値で17.3m、幅は0.66m、深さは0.16mである。覆土の下層は埋め戻し土と推測する。出土遺物はない。

SD527（図版４・60）

20D、21D、22D区に位置する。SD392・412より新しく、SD526、P572より古い。平面形はやや開いたコの字型で、主軸方向は北側でN88°E、中央部でN12°E、南側でN69°Wである。北端は開渠により壊れている。断面形は台形状で、長さは現存値で18.4m、幅は0.6m、深さは0.15mである。覆土下層は埋め戻し土と推測する。遺物は覆土１層中から珠洲焼の甕・壺、瓷器系陶器、砥石、陶器の壺などが出土した。

SD579（図版４・60）

21E・F、22E区に位置する。SD581より新しく、SD392・833、P612・640より古い。L字型の溝で、主軸方向は東側がN67°W、西側がN15°Eである。北端は撹乱により壊れており、東端は調査区外へ延びる。断面形は台形状で、長さは現存値で9.65m、幅は0.9m、深さは0.15mである。覆土下層は埋め戻し土である。出土遺物はない。

SD580（図版４・61）

21E、22E区に位置する。SD392・581より新しく、SE574、SD525・832・833より古い。直線的な溝で、主軸方向はN３°Eである。北端は暗渠で壊れている。断面形は台形状で、長さは現存値で9.2m、幅は0.5m、深さは0.15mである。出土遺物はない。

SD581（図版４・61・117）

21E、22E区に位置する。SD392・579・580・833、P742より古い。L字型の溝で、主軸方向は北側がN21°E、南側がN77°Wである。北端は撹乱により壊れている。断面形は弧状で、長さは現存値で7.75m、幅は0.6m、深さは0.18mである。出土遺物はない。

SD594（図版３・61・118）

24D・E、25D・E・F区に位置する。SD596より新しい。主軸方向はN72°Wである。SD535とほぼ平行する。断面形は台形状で、長さは現存値で16m、幅は0.65m、深さは0.2mである。覆土はⅡb層土が上層、下層はⅡb層とⅢ層の混合土である。出土遺物はない。

SD832（図版４・61・118）

22D・E・F区に位置する。SD524・525・580、SX859、P280・282・870より新しい。東西方向の溝で、主軸方向はN56°Wである。断面形は弧状で、長さは現存値で19.4m、幅は現存値で0.55m、深さは0.31mである。遺物は覆土１層中から珠洲焼の片口鉢、越前焼、白磁が出土した。

SD833（図版４・61・118）

22E・F区に位置する。SD579・580・581、P843・851・860・865・869・871より新しい。東西方向の溝で、主軸方向はN59°Wである。遺構の北側は撹乱により壊れている。断面形は弧状で、長さは現存値で13m、幅は現存値で0.8m、深さは0.2mである。遺物は覆土１層中から珠洲焼の壺、染付、瓷器系陶器など

が出土した。

SD847（図版３・61）

24D区に位置する。B区SD525と同一溝の可能性がある。主軸方向はN15°Eである。断面形は台形状で、長さは現存値で3.5m、幅は1.05m、深さは0.2mである。覆土は埋め戻し土と推定した。出土遺物はない。

SD1（図版12・57・115）

５B・C・D区に位置する。東西方向の溝で、主軸方向はN72°Wである。断面形は台形状で、長さは現存値で14.4m、幅は1.53m、深さは0.39mだが東側は浅くなる。壁の立ち上がりが明瞭で幅広の底部を有する。断面形はB区北端にあるSD525に類似している。遺物は覆土１・２層中から珠洲焼の甕、陶器の甕が出土した。

SD２（図版10・11・12・57・115）

４E、５E、６E、７E、８E・F、9F区に位置する。SX19、SD24・40より新しく、SD13・42より古い。また、覆土中に６E区では杭４～７、７E区では杭14・15・26が打ち込まれていた。いずれの杭も打ち込みは溝の覆土内で終わっていることから、溝より新しいと考えた。主軸方向はN34°Eである。溝は９F区で東方向に向きを変え調査区の外へ延びていく。断面形は弧状で、長さは現存値で51.28m、幅は2.1m、深さは0.23mである。覆土はⅡb層土が主体で、自然堆積の状況を示す。遺物は覆土１層中から珠洲焼の甕・片口鉢、他に土師器の椀、土師質土器などが出土した。

SD８（図版11・57）

７D・E区に位置する。SB１より新しく、SK23、SX９より古い。主軸方向はN83°Wである。断面形は弧状で、長さは現存値で9.1m、幅は0.83m、深さは0.07mである。覆土はⅡb層とⅢb層の混合土が自然堆積している。覆土中から珠洲焼の甕などが出土した。

SD13（図版10・57）

９E・F区に位置する。SD２・42、SX12より新しい。L字型の溝で、主軸方向は東側がN49°W、西側のSX12と重複する部分はN33°Eである。東端は調査区外へ延びる。断面形は弧状で、長さは現存値で8.1m、幅は0.9m、深さは0.11mである。覆土はⅡb層土が主体である。出土遺物はない。

SD24（図版11・12・57）

６E区に位置する。SD２より古い。主軸方向はN65°Wである。断面形は弧状で、長さは5.13m、幅は1.11m、深さは0.06mである。覆土はⅡb層土が主体である。出土遺物はない。

SD30（図版11・12・57）

６C、７C区に位置する。遺構の南側が撹乱により壊れている。主軸方向はN61°Wである。断面形は台形状で、長さは現存値で3.2m、幅は現存値で0.48m、深さは0.09mである。出土遺物はない。

SD35（図版10・57・115）

11D区に位置する。東側は南方向へ曲がりSD36と重複し、これより新しい。主軸方向はN64°Wである。断面形は弧状で、長さは現存値で3.2m、幅は１.44m、深さは0.08mである。出土遺物はない。

SD36（図版9・10・57・115）

10D、11D、12D区に位置する。SD35より古い。主軸方向はN3°Eである。断面形は弧状で、長さは11.85m、幅は0.85m、深さは0.06mである。出土遺物はない。

SD40（図版11・12・57）

６E区に位置する。SD２より古い。主軸方向はN72°Eである。断面形は弧状で、長さは現存値で1.4m、

幅は0.65m、深さは0.1mである。覆土はⅡb層土が主体である。出土遺物はない。

SD41（図版10・57・115）

９D、10B・C・D区に位置する。東側はSX12と重複し、これより新しい。主軸方向は東側がN31°E、西側がN76°Wである。西端部は調査区外へ延びる。断面形は弧状で、長さは現存値で29.4m、幅は1.2m、深さは0.12mである。覆土３層中から珠洲焼の甕などが出土した。

SD42（図版10・57）

９F区に位置する。SD２より新しく、SD13より古い。主軸方向はN30°Eである。長さは現存値で5.2mだが南側と北側は浅くなっていて形状は不明、溝幅も現存値で0.67mだが東側が開渠掘削のため失われていて不明、深さは0.02mである。覆土はⅡb層土が主体である。出土遺物はない。

SD50（図版11・57）

８B・C・D区に位置する。SD68・72より古い。東西方向の溝で、主軸方向はN75°Wである。断面形は台形状で、長さは現存値で14m、幅は0.5m、深さは0.11mである。遺物は覆土１層中から珠洲焼の壺が出土した。

SD68（図版11・57）

８C・D区に位置する。SD50より新しい。南北方向の溝で、主軸方向はN４°Wである。断面形は弧状で、長さは現存値で4.1m、幅は0.41m、深さは0.05mである。覆土はⅡb層土が主体である。出土遺物はない。

SD70（図版11・57）

８B・C区に位置する。SK52より古い。東西方向の溝で、主軸方向はN７1°Wである。断面形は弧状で、長さは現存値で6.14m、幅は0.8m、深さは0.08mである。覆土はⅡb層土が主体である。出土遺物はない。

SD71（図版10・57）

９C区に位置する。SE82より古い。東西方向の溝で、主軸方向はN40°Wである。断面形は弧状で、長さは現存値で3.42m、幅は0.85m、深さは0.06mである。覆土はⅡb層土が主体である。出土遺物はない。

SD72（図版11・57）

８D区に位置する。SD50より新しい。南北方向の溝で、主軸方向はN４°Wである。断面形は弧状で、長さは1.56m、幅は0.32m、深さは0.05mである。覆土はⅡb層土が主体である。出土遺物はない。

SD79（図版10・57）

９C、10C区に位置する。P80・106・107より新しい。主軸方向はN26°Eである。断面形は弧状で、長さは3.36m、幅は0.66m、深さは0.12mである。遺物は砥石が出土した。

SD87（図版10・57）

９B・C区に位置する。東西方向の溝で、主軸方向はN65°Wである。断面形は弧状で、長さは現存値で2.75m、幅は0.64m、深さは0.05mで東側は浅くなる。東側にSD71が延びており関連のある可能性がある。出土遺物はない。

SD95（図版10・11・57）

８C・９C区に位置する。主軸方向はN32°Eである。断面形は弧状で、長さは2.28m、幅は0.53m、深さは0.1mである。出土遺物はない。

SD96（図９・10・57）

11C、12B・C区に位置する。主軸方向はN８°Eに傾くが12C2区でN65°Wに屈曲する。断面形は台形

状で、長さは6.78m、幅は0.58m、深さは0.17mである。覆土はⅡb層土が主体で自然埋没の状況を示す。覆土中から自然礫が出土した。

SD103（図版10・58）

10B・C区に位置する。主軸方向はN59°Wである。断面形は弧状で、長さは1.75m、幅は0.53m、深さは0.11mである。遺構の性格は不明である。出土遺物はない。

SD121（図版９・58）

12C区に位置する。主軸方向はN34°Eで、北端で西に44°傾いている。断面形は台形状で、長さは3.12m、幅は0.73m、深さは0.12mである。出土遺物はない。

SD126（図版９・58）

12C区に位置する。南北方向の溝であるが、北西に延びる可能性がある。主軸方向はN21°Wである。断面形は台形状で、長さは2.75m、幅は0.9m、深さは0.16mである。出土遺物はない。

SD135（図版10・58）

11C・D区に位置する。直線的な溝で、主軸方向はN82°Wである。東側は撹乱により壊れている。断面形は弧状で、長さは現存値で4.7m、幅は0.55m、深さは0.15mである。出土遺物はない。

SD139（図版８・９・58・116）

12B・C、13C・D・E、14E・F区に位置する。SD259より新しく、P233より古い。東西方向に調査区外まで直線状に延びている。主軸方向はN84°Eである。断面形は台形状で、長さは現存値で43m、幅は1.38m、深さは0.25mである。覆土は７層に分けた。主体土はⅡb層土である。規模等から区画溝と考える。遺物は覆土１・３・７層中より珠洲焼の甕・片口鉢、須恵器の横瓶などが出土した。

SD140（図版８・９・58・116）

13B・C・D区に位置する。SD175より新しく、SD186より古い。東西方向の溝で、主軸方向はN72°Wである。断面形は台形状で、長さは現存値で15.1m、幅は２m、深さは0.19mである。SD186と重複する付近は浅くなる。出土遺物はない。

SD175（図版８・９・58）

13B・C区に位置する。SD140より古い。南西から南へ屈曲する溝で、主軸方向はN75°E、南側はN5°Eである。断面形は台形状で、長さは現存値で6.7m、幅は0.5mである。残存部における深さは0.15mだが、SD140の底面より深いことから北側の方が深くなると推測する。出土遺物はない。

SD186（図版８・９・58・116）

12B、13B区に位置する。SD140より新しい。南北方向の溝で、主軸方向はN３°Wである。溝北端は調査区外へ延び、南側は撹乱により壊れている。断面形は台形状で、長さは現存値で6.1m、幅は0.95m、深さは0.18mである。重複状況からSD140に関係するものと考える。覆土は３層に分けた。Ⅱb層土が主体である。出土遺物はない。

SD258（図版８・９・58）

14B・C区に位置する。東西方向の溝で、主軸方向はN66°Wである。断面形は台形状で、長さは3.1m、幅は0.84m、深さは0.23mである。覆土に炭化物を多く含む。出土遺物はない。

SD259（図版９・58）

12B・C区に位置する。SD139より古い。南から南東へ屈曲する溝で、主軸方向は東側がN28°E、西側がN30°Wである。断面形は弧状で、長さは現存値で7.05m、幅は現存値で1.3m、深さは0.21mである。出

土遺物はない。

SD290（図版７・８・58）

15B・C、16C区に位置する。南北方向の溝で、主軸方向はN32°Eである。断面形は階段状で、長さは9.54m、幅は1.9m、深さは0.25mである。Ⅱb層掘削後に検出したもので、遺構覆土の上位はⅢa層土を含む黄灰色である。16ラインより北側では覆土に炭化物が混じる。出土遺物はない。

SD291（図版7・８・58）

15B、16B区に位置する。南北方向の溝で、主軸方向はN20°Eである。西側が撹乱により壊れている。断面形は弧状で、長さは９m、幅は0.8m、深さは0.08mである。Ⅱb層掘削後に検出したもので、遺構覆土の上位はⅢa層土を含む黄灰色である。遺物は覆土１層中から須恵器の横瓶、製塩土器が出土した。

SD334（図版４・５・60）

19E、20E区に位置する。SK316、SD673より新しく、P345・348・439・445・446・467・477より古い。直線的な溝で、主軸方向はN21°Eである。一部削平により途切れる。断面形は弧状で、長さは現存値で13.6m、幅は１m、深さは0.19mである。出土遺物はない。

SD472（図版４・60）

20B、21B区に位置する。南北方向の溝で、主軸方向はN31°Eである。遺構の西側は撹乱により壊れている。断面形は半円状で、長さは現存値で3.8m、幅は現存値で0.21m、深さは0.14mである。覆土は砂を多く含んでおり、SX76の覆土と類似している。出土遺物はない。

SD596（図版３・61・118）

24E・F、25E・F区に位置する。SD594より古い。主軸方向はN36°Eである。断面形は弧状で、長さは現存値で4.9m、幅は0.6m、深さは0.12mである。覆土はⅡb層土が主体である。出土遺物はない。

SD597（図版３・61）

24F、25F区に位置する。主軸方向はN36°Eである。SD596にほぼ平行する。断面形は弧状で、長さは6.25m、幅は0.7m、深さは0.05mである。覆土はⅡb層土が主体である。出土遺物はない。

SD650（図版３・61）

24D、25D区に位置する。東側は暗渠により壊れており、南側はSX651を切って、これより新しい。北側はSD535に切られ、これより古い。主軸方向はN27°Eである。断面形は弧状で、長さは現存値で1.7m、幅は現存値で0.24m、深さは0.1mである。覆土はⅡb層土が主体である。出土遺物はない。

SD673（図版４・61・117）

20E・F区に位置する。SD334より古い。東西方向の溝で、主軸方向はN75°Wである。東端は調査区外へ延び、西端は浅くなる。断面形は台形状で、長さは現存値で5.8m、幅は0.82m、深さは0.65mである。覆土は５層に分層され上層はⅡb層が、下層は粘質土が主体である。遺構の底部はこの部分に堆積する河川堆積層を掘り込んでいる。遺物は柱状木製品、土師質土器皿、縄文土器などが出土した。柱状木製品と縄文土器は遺構底面で出土した。縄文土器は流れ込み、柱状木製品は礎板に転用された可能性がある。

SD793（図版４・61）

20F、21F区に位置する。直線的な溝で、主軸方向はN27°Eである。断面形は弧状で、長さは1.7m、幅は0.48m、深さは0.1mである。出土遺物はない。

SD798（図版２・61）

28D区に位置する。SB25の北側に位置し、この桁行方向に平行する。主軸方向はN81°Wである。断面

形は箱状で、長さは7.4m、幅は1.1m、深さは0.2mである。覆土は埋め戻し土と推測した。出土遺物はない。

SD806（図版２・61）

27E、28E区に位置する。SB25の東側に梁間と平行に位置する。主軸方向はN9°Eである。断面形は箱状で、長さは４m、幅は0.8m、深さは0.18mである。覆土は埋め戻し土と推測した。出土遺物はない。

SD808（図版２・61）

27C区に位置する。主軸方向はN14°Wである。断面形は弧状で、長さは3.1m、幅は0.7m、深さは0.09mである。覆土はⅡb層土が主体である。出土遺物はない。

SD809（図版２・61）

27E、28E区に位置する。SD806に平行する。平面形で中央から南側の部分が東方向に曲がる。主軸方向はN26°Eである。断面形は弧状で、長さは3.4m、幅は0.75m、深さは0.2mである。覆土はⅡb層土が主体である。出土遺物はない。

SD835（図版３・61）

24C区に位置する。南側はA区の調査区外に延びるがB区には達していない。主軸方向はN18°Eである。断面形は台形状で、長さは現存値で3.2m、幅は１m、深さは0.27mである。覆土は埋め戻し土と推定した。出土遺物はない。

SD838（図版３・61）

24B・C区に位置する。南側はA区の調査区外に延びるがB区には達していない。SD835に平行する。主軸方向はN18°Eである。断面形は台形状で、長さは現存値で2.8m、幅は1.3m、深さは0.29mである。覆土は埋め戻し土と推定した。出土遺物はない。

SD873（図版３・61）

25D・E区に位置する。主軸方向はN75°Wである。断面形は弧状で、長さは1.3m、幅は0.36m、深さは0.11mである。覆土はⅡb層土の流れ込みである。出土遺物はない。

8）　性格不明遺構

SX９（図版11・63）

７D12・17区に位置する。SD８より新しい。平面形は長楕円形で、主軸方向はN55°Eである。断面形は弧状で、長さは1.15m、幅は0.44m、深さは0.07mである。覆土は埋め戻し土である。出土遺物はない。

SX12（図版10・62・118）

9D・E・F、10D・E・F区に位置する。SD13・41より古い。平面形は10×13mの、やや歪んだ長方形に浅い溝が廻る形状の遺構である。ただし北東辺の溝は北東方向に3.3m程延長し、北端部は削平によって途切れる。また、北東辺の溝の南東端部は0.3～0.8mの幅で途切れる。溝で囲まれた部分には遺構はなかった。主軸方向はN55°Wである。溝部の断面形は浅い台形状だが、底面に細かい凹凸がある。各辺の溝外側の長さは北東・南西辺が10.4m・13.4m、北西辺が10.7m、南東辺は13.2mである。溝の幅は北東・南西側が2.3m、北西側が1.75m、南東側は1.5mである。深さは0.2mである。覆土下層は埋め戻し土と推測する。覆土中より珠洲焼の甕、板などが出土した。

SX19（図版11・63）

７E22・23区に位置する。SD2が大部分を壊しているため平面形は不明である。断面形は弧状で、長さ

は1.6m、幅は現存値で0.65m、深さは0.05mである。覆土はⅡb層土の流れ込みである。出土遺物はない。

SX32（図版11・63）

７Ｄ２・７区に位置する。遺構の上半は撹乱により壊れている。平面的にはSK23と重複するが、切り合い部分は撹乱により壊れているため、新旧関係は不明である。平面形は不整形である。断面形は弧状で、長さは0.54m、幅は0.37m、深さは0.11mである。出土遺物はない。

SX76（図版10・64・118）

10C22、10Ｄ２・３区に位置する。遺構の西側は撹乱により壊れている。平面形は不整楕円形である。断面形は弧状で、長さは3.94m、幅は現存値で1.85m、深さは0.35mである。覆土に砂が多量に混入しており、新しい時代の遺構の可能性がある。出土遺物はない。

SX89（図版10・64・119）

11B12・13・17・18・22・23区に位置する。平面形は長楕円形である。断面形は台形状で、長さは現存値で4.2m、幅は2.9m、深さは0.37mである。覆土はⅡb層土の流れ込み土である。遺物は覆土中から珠洲焼の片口鉢・甕、青磁皿、陶器椀、黒漆が付着した木片（折敷か）、礫などが出土した。

SX108（図版10・63）

９Ｃ９・10区に位置する。P58より古い。平面形は不整楕円形である。断面形は台形状で、長さは0.88m、幅は0.45m、深さは0.1mである。出土遺物はない。

SX173（図版８・９・63）

13D19・20区に位置する。平面形は楕円形で、浅い窪み状の遺構である。断面形は弧状で、長さは1.07m、幅は0.8m、深さは0.18mである。出土遺物はない。

SX232（図版９・63）

12Ｃ５、13Ｃ１区に位置する。平面形は不整楕円形で、南側で若干東に屈曲する。主軸方向はN35°Eである。断面形は弧状で、長さは2.95m、幅は1.04m、深さは0.15mである。出土遺物はない。

SX274（図版２・63）

27F４・５・９・10に位置する。東側を開渠に切られ、平面形は不明である。断面形は弧状で、長さは現存値で1.6m、幅は現存値で0.57m、深さは0.09mである。覆土はⅡb層土で自然堆積土である。出土遺物はない。

SX306（図版７・63）

16F３・７・８区に位置する。SD289、杭895より新しい。平面形は不整形である。断面形は弧状で、長さは3.35m、幅は1.16m、深さは0.07mである。覆土はⅡb層土が主体であり、自然堆積土である。出土遺物はない。

SX329（図版４・５・63）

20E６・11区に位置する。P831より古い。平面形は不整円形である。断面形は台形状で、長さは現存値で１m、幅は0.9m、深さは0.12mである。出土遺物はない。

SX355（図版７・65）

16C20・24・25区に位置する。SD288に切られているため、これより古く、平面形は不明である。断面形は浅い弧状で、長さは現存値で1.25m、幅は現存値で1.4m、深さは0.1mである。出土遺物はない。

SX356（図版７・65）

16D24・25、16E４・５区に位置する。SD288に切られているため、これより古く、平面形は不明である。断面形は浅い弧状で、長さは1.85m、幅は現存値で0.88m、深さは0.1mである。出土遺物はない。

SX536（図版４・65）

21E２・３・７・８区に位置する。北側をSD525に切られているため、これより古い。平面形は隅丸方形で、主軸方向はN68°Wである。断面形は台形状だが、壁の立ち上がりは緩やかである。南辺は３m、北辺は3.5m程、南北方向の現存値は2.5mで、深さは0.23mである。遺物は覆土２層中から珠洲焼の甕、土師質土器皿が出土した。

SX651（図版３・65）

24D10・15区に位置する。平面形は暗渠・開渠に壊されているため不明である。断面形は台形状で、長さは現存値で1.4m、幅は現存値で0.97m、深さは0.18mである。覆土はⅡb層土の自然堆積である。出土遺物はない。

SX802（図版３・65）

24D10区に位置する。平面形は南側を開渠に壊されているため不明である。断面形は弧状で、長さは0.6m、幅は現存値で0.33m、深さは0.12mである。覆土はⅡb層土で自然堆積である。出土遺物はない。

SX859（図版４・65）

22D17区に位置する。SD525より新しく、SD832より古い。平面形はSD832に壊されており不明である。断面形は段を有する弧状で、長さは現存値で0.7m、幅は現存値で0.75m、深さは0.22mである。出土遺物はない。

9）杭　　列

杭列（図版５・６・66・119）

17D・E区に位置する。東西方向に列をなす。先端を削りだし、剣先状にしたものを垂直に打ち込んでいる。杭列の軸方向を重視しSA１～３に分けたが、同時に存在していた可能性がある。西側は用水路により消失したと考える。東側にはSB22があり、これに関連する杭列の可能性がある。

10）ピ　ッ　ト

P112（図版10・67・119）

11D19区に位置する。平面形は長楕円形で、長軸0.42m、短軸0.23m、深さは0.4mである。断面形は柱根部分が深く掘り込まれる階段状で、柱根の下端は斜めに加工されている。

P120（図版10・67）

11D８区に位置する。平面形は楕円形で、長軸0.42m、短軸0.35m、深さは0.29mである。断面形は階段状で、底面の一部に小穴を検出した。底面から柱状木製品が出土した。

P155（図版９・67）

11D15区に位置する。平面形は楕円形で、長軸0.16m、短軸0.12m、深さは0.11mである。断面形はU字状である。柱根は掘方底面下にまでおよび、柱根の下端は斜めに加工されている。

P210（図版８・９・67）

13E15・14E11区に位置する。平面形は円形で、長軸0.22m、短軸現存値0.09m、深さは0.26mである。断面形はU字状である。柱根が斜めになった状態で遺存しており、柱根の下端は平らに加工されている。

P275（図版４・５・67・119）

20E１区に位置する。平面形は東半を撹乱に壊されており不明である。長軸0.4m、短軸現存値0.3m、深さは0.19mである。断面形は箱状である。底部から曲物の底板が出土した。礎板に転用したものであろう。

P333（図版５・６・67）

19E22区に位置する。平面形は円形で、長軸0.3m、短軸0.28m、深さは0.17mである。断面形は漏斗状である。柱根は腐植が進み、加工痕は判然としない。

P512（図版４・67）

21E５区に位置する。平面形は円形で、長軸0.28m、短軸0.25m、深さは0.46mである。断面形は漏斗状である。出土遺物はない。

P531（図版４・67・120）

20E14区に位置する。平面形は隅丸方形で、長軸0.2m、短軸0.19m、深さは0.2mである。断面形は階段状である。柱根が掘方の底面下まで及んでいる。

P618（図版５・６・67・120）

19D１区に位置する。平面形は隅丸方形で、長軸、短軸共に0.25m、深さは0.36mである。断面形は階段状である。柱根が掘方の底面下まで及んでいる。

P619（図版５・６・67・120）

19D６区に位置する。平面形は円形で、長軸0.35m、短軸0.33m、深さは0.35mである。断面形は階段状である。柱根が掘方の底面下まで及んでいる。

P629（図版５・67・120）

19D14・19区に位置する。平面形は円形で、長軸0.23m、短軸0.2m、深さは0.37mである。断面形は漏斗状である。柱根が掘方底面下までおよび、二つに分かれて出土した。柱は腐植が進んでおり、本来は１本の柱材であったと推測する。

P634（図版５・67・120）

19D13・14・18・19区に位置する。平面形は楕円形で、長軸0.32m、短軸0.27m、深さは0.24mである。断面形は台形状である。柱根が掘方の底面に接した状態で残存していた。

P691（図版５・６・67・120）

18D10区に位置する。P690より古い。平面形は不整円形で、長軸0.32m、短軸0.29m、深さは0.33mである。断面形は台形状である。柱根が掘方の底面に接した状態で残存していた。

P735（図版５・６・67・120）

18D５区に位置する。平面形は円形で、長軸、短軸共に0.1m、深さは0.28mである。断面形はU字状である。柱根が１点出土しているが、本来は掘方を持たない打ち込み柱であった可能性がある。

P845（図版４・67・120）

22E17区に位置する。平面形は不整楕円形で、長軸0.36m、短軸0.27m、深さは0.06mである。断面形は台形状である。底面には礎板が残る。

3　遺　　物

A　概　　要

田屋道遺跡で出土した遺物は、平箱にして約78箱分である。内訳は古代～中・近世の陶磁器・土器類が約３箱、木製品・柱・杭などが約62箱、石製品が７点、礫が約13箱である。本遺跡は近・現代の耕作によって、包含層が大幅に削平されており、出土遺物は遺構に比して少ない傾向にある。

陶磁器・土器類は中世のものが主体で、おおよそ12世紀末～14世紀にかけてのものと、16世紀前後のものが出土している。古代の土器は８世紀～10世紀頃の土師器・須恵器が少量出土しているが、本遺跡にはその時期の遺構はなく、近隣の古代遺跡からの混入と考えたい。石製品は全て砥石で、加工品と自然礫を用いた砥石の２種類が出土している。また陶器片を砥石に転用したものも２点程確認した。木製品の多くは井戸からの出土であり、最も多種多様な内容となっている。柱は腐食が進んで形状の不明瞭なものも多かったが、円柱・角柱・割材を用いた角柱の３種に大別できる。銭貨は包含層とSG313から１点ずつ出土している。

B　各　　説

1)　記述の方法

陶磁器・土器類では、縄文土器・珠洲焼・輸入陶磁器・土師質土器皿・瓷器系陶器・須恵器・土師器などが出土している。これらの遺物については、先学諸氏によって多くの研究蓄積があり、本報告でもそれらの成果を用いて報告する。なお、観察表の口径・底径は推定値を、高さ・幅は残存値を（　）で記載した。

珠洲焼　編年および器種分類・用語は、吉岡分類・編年［吉岡1994］を参考として記述する。また本遺跡では、胎土に黒色吹出物を含むなど、珠洲以外の在地産焼き締め陶器の存在が想定できる。珠洲以外の産地が想定できるものに関しては、備考に在地産の可能性を記載している。詳細な生産地などの把握については、今後の新潟県内の資料の増加によって解決されるべきものと考える。

輸入陶磁器　中国輸入陶磁器全般については横田・森田分類［横田・森田1978］および山本分類［山本1983］、14世紀以降の白磁については森田分類［森田1982］、14世紀以降の青磁については上田分類［上田1982］、15・16世紀の染付（青花）については小野分類［小野1982］、上田分類［上田1991］および森分類［森1992］を参考として記述する。

土師質土器皿　土師質土器皿はロクロ成形のものと手づくね成形のものの２種類に大別できる。ロクロ成形の皿は本来底部ヘラ切りと底部糸切りの２種類の存在が知られているが、本遺跡では底部ヘラ切りのもののみが出土した。図示したものは、全てロクロ成形底部ヘラ切りのものである。

須恵器・土師器　古代の土器については春日編年［春日1999］を参考として記述する。

木製品　漆器・曲物・板材・箸状木製品などのいわゆる「木製品」と、柱・礎板・杭などの「建築部材」の２種類に大別できる。今回はそれらを一括して、木製品の項で記述する。

石製品　自然礫・加工石を用いた砥石がある。搬入自然礫は、被熱しているものと、そうではないものの２種類に大別できる。

金属製品・銭貨　包含層出土の煙管１点、銭貨１点とSG313出土の銭貨１点がある。。

2)　土器・陶磁器

SB14-P723（1）

土師質土器皿が１点出土している。ロクロ成形底部ヘラ切りの皿で、比較的深い形状を呈している。14世紀頃のものと考える。

SB15-P464（2）

土師質土器皿が１点出土している。ロクロ成形底部ヘラ切りの皿で、14世紀頃のものと考える。

SE53（3・4）

珠洲焼の甕が2点出土している。3は外面に自然釉のかかった口縁～胴部にかけての破片で、Ⅱ期のものと考える。4は胴部片で、Ⅲ期以前のものと考える。3・4ともに在地産と考える。

SE82（5）

珠洲焼の片口鉢が1点出土している。卸し目はない。内面はやや磨耗している。Ⅱ期のものと考え、SD139出土の31・SX89出土の71と同一個体の可能性がある。

SE327（6）

珠洲焼の片口鉢が1点出土している。1単位8条以上の卸し目をもつ体部片で、Ⅲ期のものと考える。

SE328（7・8）

珠洲焼の片口鉢が2点出土している。7はⅢ期の底部片で1単位9条の卸し目が放射状に付く。8はⅢ～Ⅳ期にかけての体部片で1単位8条の卸し目が付く。

SE330（9）

珠洲焼の片口鉢が1点出土している。Ⅲ期のものと考える。ほかに13世紀頃のものと考えるロクロ成形の土師質土器皿が1点（未掲載）出土している。

SE357（10・11）

珠洲焼の片口鉢が1点（10）、白磁の小杯が1点（11）出土している。10は体部片でⅣ期のものと考える。11は口禿椀の口縁～胴部片で口縁は端反りである。景徳鎮系の白磁で、森田E群に属する。15世紀頃のものと考える。

SE534（12～15）

珠洲焼の甕が3点（12～14）、片口鉢が1点（15）出土している。12は胴部片でⅡ～Ⅲ期、13は胴部片でⅠ～Ⅱ期と考える。14は無文の頸部片で、SD525出土の51と同一個体の可能性がある。15は口縁部が内湾する形態である。Ⅰ期のものと考える。

SE684（16・17）

珠洲焼の甕が1点（16）、土師質土器皿が1点（17）出土している。16は胴部片でⅡ～Ⅲ期と考える。在地産と考える。17はロクロ成形底部ヘラ切りで、14世紀頃のものと考える。

SK285（18）

白磁の水滴が1点出土している。瓜形と推測する水滴の注口部の破片で、注口の周りに印刻の輪花紋がある。12世紀頃のものと考える。

SK610（19）

珠洲焼の甕が1点出土している。胴部片で、Ⅳ～Ⅴ期のものと考える。

SK693（20）

青磁の小椀が1点出土している。口縁～体部は輪花形を呈している。時期、産地は不明である。

SD1（21・22）

珠洲焼の甕が1点（21）、陶器の甕が1点（22）出土している。21は胴部片で在地産の可能性が高い。Ⅲ期以前のものと考える。22は胴部片で、常滑産の可能性がある。

SD2（23～25）

珠洲焼の甕が2点（23・24）、片口鉢が1点（25）出土している。23は胴部片でⅡ期、24は胴部片でⅣ期のものと考える。前者は在地産と考える。25は底部片で、外面に煤が付着している。また外面にハケ目が付く。Ⅳ期以前のものと考える。他にロクロ整形で10世紀頃のものと考える土師器椀が1点（未掲載）出

土している。

SD8（26）

珠洲焼の甕が１点出土している。肩部片で、在地産であろう。Ⅱ期のものと考える。SD139出土の30、SX12出土の69と同一個体である。

SD41（27・28）

珠洲焼の甕が２点出土している。27は胴部片でⅣ期以前のもの、28は胴部片でⅠ～Ⅱ期のものである。28は割れ口の一部に擦面があることから転用砥石とした。

SD50（29）

珠洲焼の壺が１点出土している。Ⅰ～Ⅲ期頃の体～底部片で、体部下端には幅２mmの沈線が平行に付く。SD２から同一個体の破片が１点出土している。

SD139（30～32）

珠洲焼の甕が１点（30）、片口鉢が１点（31）、須恵器の横瓶が１点（32）出土している。30は胴部片でⅡ期のものと考える。SD８出土の26、SX12出土の69と同一個体である。31は体～底部片で、底部外面には静止糸切り痕がある。Ⅱ期のものと考える。32は胴部片で９世紀頃のものと考えられ、SD291出土破片と接合した。

SD234（33～36）

珠洲焼の壺が１点（33）、陶器の壺が１点（34）、瓷器系の甕が１点（35）、須恵器の壺が１点（36）出土している。33は胴部片でⅣ期以前のものと考える。34は肩部片で13世紀後半頃のものと考える。産地は在地と考えるが詳細は不明である。35は格子目の叩き痕が遺る胴部片で、色調はややにぶい灰色で越前産の可能性がある。13世紀後半のものと考える。36は胴部片で、佐渡産でⅤ期以降のものと考える。

SD237（37～40）

珠洲焼の甕が１点（37）、青磁椀が１点（38）、瓷器系の甕が１点（39）、須恵器の横瓶が１点（40）出土している。37は在地産と思われる甕の胴部片である。Ⅲ期以前のものと考える。38は龍泉窯系の鎬蓮弁文椀で、太宰府Ⅲ類である。鎌倉後期の所産と考える。39は肩部片で、外面に自然釉がかかる。40は胴部片で包含層（15E25）出土破片と接合した。

SD286（41）

土師器椀が１点出土している。口縁～体部片で９世紀中葉以降のものと考える。

SD288（42～45）

珠洲焼の壺が１点（42）、片口鉢が１点（43）、須恵器の横瓶が１点（44）、甕が１点（45）出土している。42は頸部片でⅠ～Ⅱ期、43は胴部片で１単位８条の卸し目が付く。Ⅲ期のものと考える。44は胴部片で、外面に自然釉がかかる。45は胴部片で阿賀北産と考えられ、SD289出土の46と同一個体である。

SD289（46）

須恵器の甕が１点出土している。阿賀北産と考えられ、SD288出土の45と同一個体である。

SD291（47）

製塩土器と考える土器が１点出土している。口縁部は緩く外反しながら丸く収まる。器壁は二次焼成で荒れている。他にSD139出土の32と接合した、須恵器横瓶の胴部片が出土している。

SD304（48・49）

珠洲焼の甕が２点出土している。ともに在地産の甕で48が肩部近くの、49が下半の胴部片である。Ⅰ～

Ⅱ期のものと考える。

SD392（50）

珠洲焼の甕が１点出土している。肩部片で、Ⅰ～Ⅱ期のものと考える。

SD525（51～55）

珠洲焼の甕が１点（51）、壺が１点（52）、片口鉢が２点（53・54）、小型鉢（55）が１点出土している。51は頸～肩部片でSE534出土の14と同一個体の可能性がある。52はロクロ整形の胴部片である。53は口縁部が緩く内湾する形態で、Ⅰ期のものと考える。54は口縁～体部片で、口唇部は外方に面をもつ。１単位14条の卸し目が付く。Ⅲ期のものと考える。55は口縁部が内湾する小型鉢で、Ⅰ～Ⅱ期のものと考える。

SD527（56～60）

珠洲焼の甕が２点（56・57）、壺が１点（58）、瓷器系の甕が１点（59）、陶器の壺が１点（60）出土している。56・57は肩部片で、Ⅱ～Ⅲ期、58はロクロ成形の壺の胴部片である。Ⅳ期以前のものと考える。59は外面に格子目の叩き痕がある胴部片で、13世紀頃のものと考える。60は頸～肩部片で、13世紀後半頃の在地産である。

SD673（61・62）

土師質土器皿が１点（61）、縄文土器が１点（62）出土している。61は手づくねを模倣したようなロクロ成形底部ヘラ切りの皿で、14世紀頃のものと考える。62は溝の底面直上で出土した深鉢で、胴部上半～口縁部を欠損する。底部外面に網代痕がある。詳細な時期は不明だが、縄文時代後期のものと考える。

SD832（63～65）

珠洲焼の片口鉢が１点（63）、白磁の八角鉢が１点（64）、越前焼と考える甕が１点（65）出土している。63は体部片で粗い卸し目が施されており、Ⅴ期以降のものと考える。64は口縁部片で、森田D群に属する。15世紀頃のものと考える。65はにぶい褐色を呈する焼き締め陶器の甕で、越前焼の可能性がある。割れ口に漆継ぎ痕が遺る。

SD833（66～68）

珠洲焼のＴ種壺が１点（66）、染付の皿が１点（67）、瓷器系の甕が１点（68）出土している。66は胴部片で、綾杉状の叩きがある。Ⅳ期のものと考える。67は口縁～体部片で小野E群、16世紀後半頃のものと考える。68は口縁～頸部片である。口縁部は小さく外側に垂れ下がる。笹神産で、13世紀後半頃のものと考える。

SX12（69）

珠洲焼の甕が１点出土している。在地産と考えられ、Ⅱ期のものである。SD８出土の26、SD139出土の30と同一個体である。

SX89（70～73）

珠洲焼の甕が１点（70）、片口鉢が２点（71・72）、青磁皿が１点（73）出土している。70は底部片で底部外面には粘土片がくい込むような形で付着している。Ⅲ期以前の在地産と考える。71は口縁～体部片、72は胴部片で、ともにⅡ期のものと考える。71はSE82出土の５、SD139出土の31と同一個体の可能性がある。73は同安窯系の平底皿の底部片で、13世紀初頭頃のものと考える。

SX536（74～76）

珠洲焼の甕が１点（74）、土師質土器皿が２点（75・76）出土している。74は胴部片で、Ⅰ～Ⅱ期のものと考える。75・76は体～底部片である。ロクロ成形で底部はヘラ切りの皿である。前者が15世紀頃の、後

者が14世紀頃のものと考える。

P844（77）

須恵器の甕が１点出土している。胴部片で佐渡産、Ⅴ期のものと考える。

包含層（78～98）

78～80は珠洲焼の甕である。78は胴部片でⅠ期の可能性がある。79は下半の底部に近い胴部片である。在地産でⅢ期以前のものと考える。80は胴部片でⅣ期以前のものと考える。81は珠洲焼のＴ種壺胴部片で、Ⅳ～Ⅴ期のものと考える。82～85は珠洲焼の片口鉢である。83・85は珠洲産で、前者が胴部片でⅢ期、後者が胴部片でⅢ～Ⅳ期のものと考える。82・84は在地産で、前者が口縁～体部片で口端は面を持たず丸く収まる。Ⅲ期のものと考える。後者が体部片でⅡ期末～Ⅲ期初頭頃のものと考える。86は青磁の龍泉窯系鎬蓮弁文椀の口縁～体部片である。太宰府Ⅱ類で鎌倉後期のものと考える。87は龍泉窯系の青磁椀の口縁部片である。太宰府Ⅰ-１類で、12世紀末～13世紀前半頃のものと考える。88は青磁椀の口縁～体部片で、16世紀末の端反椀である。89は龍泉窯系の青磁椀の高台部である。上田D類で、15世紀頃のものと考える。90・91は白磁の口禿椀の口縁～体部片で、鎌倉後期のものと考える。92は白磁の平底皿底部片で、12世紀末頃のものと考える。93は景徳鎮系の染付椀口縁部で、16世紀頃のものと考える。94は染付椀底部で、漳州窯系である。見込みには花文、外面底部と高台外面にも文様が付く。16世紀末頃のものと考える。95は染付の徳利の胴部片で、草花文が付く。16世紀末頃のものである。96は瓷器系の甕の胴部片で、割れ口に擦り痕があることから、砥石に転用されたと考えた。12世紀～13世紀前半頃のものと考える。97・98は須恵器の無台杯で、97は体部片で佐渡産でⅤ期、98は体～底部片で口縁部に焦げ痕が付く。阿賀北産でⅣ期のものと考える。

撹乱（99～102）

99は珠洲焼の甕の胴部片で、Ⅴ期頃のものと考える。100はロクロ成形の土師質土器皿の体～底部片で、14世紀頃のものと考える。101は同安窯系の青磁皿の口縁部片で、太宰府分類のⅡ-１類にあたる。12世紀末～13世紀初頭頃のものと考える。102は染付椀の高台部で、16世紀以降のものと考える。

3）　金属製品（103）

包含層から煙管の銅製吸い口が１点出土している。吸い口内には羅宇片がわずかに残る。近世以降のものと考える。

4）　石製品

砥石（104～110）

井戸から４点、溝から２点、包含層から１点出土した。104・105・107・109は加工品の砥石で、石材は流紋岩である。106・108・110は自然礫を利用した砥石で、106・110は小型の手持ち砥石である。108は正裏面に磨痕、側面に敲打痕が残る。110は片面に傷痕がある。石材は106がホルンフェルス、108・110は花崗岩である。

5）　木製品

SB１（111～116）

杭が６点出土した。柱として打ち込まれた杭と考える。材は全て丸材で、一部に樹皮が残る。下端はほ

ぼ杭状に加工されているが、113・115は下端の加工が雑であまり尖っていない。樹種は全てトネリコ属である。杭の長さは35cm～56.3cm、幅は7.6～12.3cmである。

SB 3（117～119）

柱根が 3 点出土した。117（P49・東側柱）・118（P51・北東隅柱）は割材を用いた角柱で底面は平坦に加工、119（P77・西側柱）は円柱で底面はやや斜めに加工されているが腐食のため詳細は不明である。樹種は全てクリである。角柱の幅は11.6cmと13.8cm、円柱は径6.3cmと規模にばらつきがある。

SB 4（120～124）

柱根が 5 点出土した。124は割材で、他は丸材である。樹種は120（P127・西側柱）・123（P133・中柱）がサクラ属、121（P132・東側柱）・124（P144・西側柱）がオニグルミ、122（P143・東側柱）がキハダである。121・122は本遺跡最大の柱根で、底面は 4 方向から削りが入り、底面を平坦に加工している。前者は長さ84cm、径12.9cm、後者は長さ115.2cm、径15.6cmの柱である。120・123は径5.8～7.2cmの丸材である。124は遺存状態が悪く、木取りは不明である。

SB 7（125）

柱根が 1 点（P149・南西隅柱）出土した。丸材で、樹皮は残っていない。樹種はケヤキである。底面の加工は腐食により不明瞭である。径は13cmである。

SB 9（126～129）

柱根が 4 点出土した。全て丸材で、径は6.2～ 9 cmである。樹種は126（P211・身舎東側柱）がクリで、129（P242・廂北東隅柱）がサクラ属である。127（P190・廂西側柱）は底面が 3 方向から加工されほぼ平坦、128（P191・廂西側柱）は底面がやや斜め楔状に加工されている。129は 3 方向から加工され平坦になっている。

SB11（130）

柱根が 1 点（P298・東側柱）出土した。長さは約60cmと短いものの、SB 4 の121・122に次ぐ規模の柱根である。樹種はカラスザンショウである。底面は浅い楔形に加工されている。径は14cmである。

SB12（131～140）

柱根が 8 点（131～137・139）、礎板が 2 点（138・140）出土した。樹種は131（P319・身舎北東隅柱）・132（P320・身舎北側柱）・133（P321・身舎北側柱）・135（P324・身舎南側柱）・136（P325・身舎南側柱）・139（P722・廂南側柱）・140（P872・廂北側柱礎板）はクリ、134（P323・身舎南東隅柱）はコナラ節、137（P719・身舎南西隅柱）はキハダ、138（P719・身舎南西隅柱礎板）はカツラである。138は臍穴があることから部材からの転用であろう。端部は楔形に加工されている。丸材の柱根の径は6.7～19.1cmである。131・133・134・135・136・139は下端が平坦に加工されている。134は下端に縄掛けの抉りがほぼ全周に巡り加工が明瞭に観察できる。135は 1 方向からの加工で平坦になっている。136は幅13cm程の、芯持ちの角柱で面取りされている。底面の加工は腐食のため不明瞭である。138・140はやや斜めに加工されている。137は腐食のため下端の形状は不明である。

SB13（141）

礎板が 1 点（P373・南西隅柱礎板）出土した。長さ32.6cm程の目が斜行する柾目板である。

SB14（142～147）

柱根が 1 点（145）、礎板が 5 点（142～144、146・147）出土した。145（P699・廂南側柱）は、幅12.9cmの割材を用いた角柱である。底面は平坦に 2 方向から加工されている。礎板は142（P338・廂北側柱礎板）　が27.4cm、143（P338・廂北側柱礎板）が28.5cm、144（P677・廂南側柱礎板）が10cm、146（P702・廂南側柱礎

板）・147（P723・廂北側柱礎板）が26.9㎝である。厚さは1.5～ 3 ㎝で比較的薄い。他にP338から礎板が 1 点（未掲載）出土した。

SB15（148・149）

柱根が 1 点（149）、礎板が 1 点（148）出土した。樹種は全てクリである。149（P475・廂西側柱）は表面を削って整形した丸材で、径12.9㎝である。底面をやや斜めに加工している。加工は 2 方向からのものが確認できるが、腐食のため判然としない。148（P370・身舎西側柱礎板）は半割材である。

SB17（150）

柱根が 1 点（P530・北側柱）出土した。丸材で、径6.5㎝、芯部分は腐食し、底面の加工は不明である。

SB18（151～153）

柱根が 3 点出土した。樹種は全てクリである。151（P553・身舎北側柱）・152（P559・身舎中柱）は割材を用いた角柱で、幅15～18㎝程、底面を平坦に加工している。151は面取りされている。152は建物の中心に位置する柱で、1/4割材とすると、直径は35㎝程になる。153（P591・身舎南側柱）は丸材で、径 9 ㎝である。腐食のため底面の形状は不明である。

SB21（154）

柱根が 1 点（P426・北東隅柱）出土した。樹種はクリである。丸材で、径8.8㎝である。底面は腐食のため判然としないが楔形に加工されていた可能性がある。

SB22（155～157）

礎板が 3 点（P407・南西隅柱礎板）、重なった状態で出土した。腐食のため本来の形状は不明、各々の板材の形状・規模はほぼ同じと推測する。柱の当たりは観察できない。柾目板で厚さは 4 ㎝程である。

SB26（158）

柱根が 2 点出土した。158（P489・南東隅柱）は割材だが、腐食が進んでおり、角柱であったかは不明である。樹種はクリである。Ｐ606（北側柱）の柱根は腐食のため実測できなかった。

SB27（159・160）

柱根が 1 点（160）、礎板が 1 点（159）出土した。159（P640・南西隅柱礎板）は断面かまぼこ型を呈する礎板である。柱材の転用であろう。加工痕は一方だけにあり、片側は折れている。160（P861・北東隅柱）は径12.4㎝の丸材である。底面は平坦に加工されている。樹種は 2 点ともクリである。

SB28（161～164）

柱根が 4 点出土した。樹種は全てクリである。161（P224・北東隅柱）・163（P470・北西隅柱）は角柱で、前者は割材を用いた角柱、後者は芯持ちの角柱である。162（P318・西側柱）・164（P646・中柱）は丸材で、径は10.8～14.9㎝である。SB28は柱の形状・規模ともに不統一で材を寄せ集めて使用した感がある。161は面取り加工され、柱側面にも加工痕がある。162は腐食のため底面の加工痕は不明である。163の底面は浅いＶ字形に加工されている。側面にも加工痕がある。164の底面は腐食のため加工痕は判然としない。

SB29（165）

柱根が 1 点（P340・南西隅柱）出土した。丸材で、径12.3㎝である。底面の形状は平坦な加工であるが腐食のため加工痕は判然としない。樹種はクリである。

SB32（166）

礎板が 1 点（P692・東側柱礎板）出土した。割材で一方の端は斜めに加工されている。樹種はクリである。

SB34（167）

礎板が１点（P756・南側柱礎板）出土した。割材で長さは18.3㎝、腐食のため加工痕は不明である。

SB36（168～171）

柱根が６点出土した。このうち状態の良い168（P491・北東隅柱）・169（P492・南東隅柱）・170（P497・北西隅柱）・171（杭573・北側柱）を図示した。168～170はいずれも丸材で、径4.8～8.4㎝である。底面は平坦にみえるが腐食のため判然としない。171は暗渠で掘方が壊され杭573として検出したが、検討の結果、建物の一部と判断した。他の柱根と同じく丸材である。底面の加工痕は腐食のため不明だが斜めに加工されている。169・170の樹種はクリである。

SE53（172～180）

漆塗皿が１点（172）、曲物が１点（173）、箸状木製品が２点（174・175）、羽子板状木製品が１点（176）、杭状木製品が２点（177・178）、杭が２点（179・180）出土した。172は黒漆塗りの総高台の皿で、口縁の径は9.4㎝である。12～13世紀頃のものと考える。外底部に、ロクロツメ痕がある。173は曲物の側板で木釘および釘穴、ケビキがある。174・175は箸状木製品で断面が角状のものである。176は小型の羽子板状木製品で、中央に直径２mmの穴が２か所ある。頸部は上方に向かってやや斜めに作られている。177・178は断面長方形の、矢板状を呈する杭状木製品である。いずれも上端部を低い山形に整形している。179は割材を用いた、断面三角形の杭である。180は枝を落とした丸木の先端を加工した杭である。

SE54（181～185）

漆塗皿が１点（181）、箸状木製品が３点（182～184）、棒状木製品が１点（185）出土した。181は総高台の皿で、12～13世紀頃のものと考える。底部にロクロツメ痕がある。182～184はいずれも小片で全体形は不明である。185は割材を棒状に加工している。

SE55（186・187）

箸状木製品が２点出土した。186はほぼ完形であるが腐食のため細部の形状は不明である。

SE56（188～195）

箸状木製品が８点出土した。いずれも両端が尖ったいわゆる両箸である。長さは188の18㎝前後、189～192の21㎝前後とほぼ２種がある。

SE75（196・197）

箸状木製品が１点（196）、棒状木製品が１点（197）出土した。196は上端を欠損、197は割材で上端部が台形状に加工されている。また中央部の側面が削られこの部分の幅がやや狭くなり下端は尖っている。斎串の可能性がある。樹種はクリである。

SE82（198）

有頭の木製鉤が１点出土した。枝の部分を利用し鉤状にしている。下端に焦げ痕がある。樹種はアジサイ属である。

SE88（199～204）

箸状木製品が５点（199～203）、不明木製品が１点（204）出土した。199～203はいずれも両端が尖った両箸である。長さは、199・200が24.5㎝前後、201が18㎝前後、202はやや短く17㎝である。203は上端を欠損しているため不明である。204は薄い板状を呈しており、斎串であった可能性がある。

SE134（205・206）

箸状木製品が２点出土した。いずれも破損していて全体は不明である。

SE327（207～216）

曲物の底板と思われるものが１点（207）、箸状木製品が８点（208～215）、不明木製品が１点（216）出土した。箸状木製品は端部が欠損しているものもあるが、すべて両箸であろう。216は側面に縦方向の削り痕があり、不整形だが斎串の可能性がある。

SE328（217～222）

曲物が２点（217・218）、漆塗椀片１点（未掲載）、棒状木製品が１点（219）、矢板状木製品が２点（220・221）、杭が１点（222）出土した。217は箱物もしくは曲物の底板、218は曲物の底板の可能性がある。219は焦げ痕があることから火つけ木［田辺2001］であろう。220は薄い矢板状木製品で、板の先端をＶ字形に加工している。221は比較的厚板の先端を斜めに切断している。222は自然木を加工した杭である。

SE330（223～273）

漆塗皿が２点（223・224）、曲物の側板が１点（225）、杭が１点（226）、菰槌（こもつち）が１点（227）、棒状木製品が２点（228・229）、箸状木製品が41点（230～270）、斎串状木製品が１点（271）、部材が１点（272）、柄状木製品が１点（273）出土した。223・224は総高台の皿で、12～13世紀のものと考える。223の口径は8.8㎝、224の口径は8.6㎝である。樹種はケヤキである。225は図左側に斜めのケビキが付く。226は断面四角の杭で、釘穴が２か所ある。頭部も斜めに面取りされている。228・229は同一個体と思われる断面角棒状の細い棒で、釘穴３か所のほかに、切り込みや縛ったような圧痕がある。箸状木製品は断面形状が角棒状のものと、楕円形状のものの２種類がある。長さは、19㎝前後のものが234・252・259、20㎝前後のものが235・257、21㎝前後のものが230・256、23㎝前後のものが255、24㎝前後のものが246～248・250、最長の25.9㎝のものが249である。271は薄い板状製品で、斎串または木札の可能性がある。272は3.5×３㎝の方形の臍穴がある。建築部材と考える。両端に加工痕があり、形状から礎板に転用したものが井戸へ廃棄されたものと考える。273は丸棒の表面を四角状に削り、先端にも削りがある。柄の可能性がある。

SE336（274～296）

漆塗椀１点（274）、曲物２点（275・276）、箸状木製品18点（277～294）、木釘と思われるもの１点（295）、不明木製品１点（296）が出土した。274は口縁～体部片である。口径15㎝、内外面黒色の漆が塗布される。275は曲物の側板の破片で、幅1.7㎝の樺紐とこれを留める軸棒が残っている。276にはケビキがあるが曲げられる厚さではなく性格は不明である。箸状木製品はSE330と同様、断面形状が２種類ある。296は下端が腐食のため不明瞭だがやや尖り、上端は切断されている。杭の可能性がある。

SE398（297～299）

箸状木製品が３点出土した。297・298は両箸で断面形が楕円形、299は下端欠損で詳細不明だが断面形は角棒状である。

SE534（300～302）

杭が１点（300）、ひょうたん製品が１点（301）、棒状木製品が１点（302）出土した。300は丸棒の先端を斜めに１回で削った杭である。301はひょうたんを用いた製品で、穿孔が１か所確認できた。ひょうたんの下半を用いた容器の可能性がある。302は両端を欠損している。表面には削り痕がある。

SE551（303・304）

漆塗椀が１点（303）、曲物が１点（304）出土した。303は口径12.6㎝で内外面に黒漆が塗られ、小さく削り出された高台を有する。外底面にはロクロツメ痕がある。13世紀前半～中頃のものと考える。304は底板が外されており、側板の上位と下位にまわしが回されている。側板およびまわしはそれぞれ樺紐で閉じ

られている。木釘穴がまわしから側板にかけて下面に21か所、側板内面には縦方向のケビキがある。横になって土圧で潰れたような状況で出土した。

SE574（305）

曲物の底板が１点出土した。木釘穴はなく、表面に炭化物の付着がある。

SE684（306～312）

漆塗皿が１点（306）、箸状木製品が２点（307・308）、刳物が１点（309）、木材と思われるものが１点（310）、部材と思われるものが１点（311）、板が１点（312）出土している。306は口径9.3㎝で、内外面に黒漆が塗られている。底面は総高台だが高台は低い。12～13世紀のものと考える。307・308は両箸である。309は方形を呈する刳物の一部と考えるが、詳細は不明である。310は割材で性格は不明。311は上部が括れ嵌め込み式と思う形状を呈し、下部は先端に向かって細く削られている。部材と考えるが、詳細は不明である。312は板材で全面に手斧によると思う工具痕が残る。

SE863（313）

部材と思われる木製品が１点出土した。材の上部に幅1.3㎝、深さ0.7㎝の抉りがある。先端をヘラ状に薄く削っている。

SK81（314・315）

曲物の底板が２点出土した。両方とも部分的に炭化している。同一個体の可能性もあるが接合しなかった。

SK341（316）

曲物の底板と思われる木製品が１点出土した。

SG313（317～381）

副葬品として漆塗椀が１点（317）、数珠玉が66点（327～381）以上、遺構構築材として横木が２点（321・322）、蓋板が２点（323・324）、側板が４点318（西側）・319（南側）・325（東側）・326（北側）、板が１点（320）出土した。323・324の蓋板は大きく反っており、土圧のためと考える。318・319・325・326の側板は腐食が著しいが下方向の木釘又は穴が２か所残っている。321・322は側板の下に差し入れられていた。両端は削られ薄くなっている。322には樹皮が一部残る。317は口径が12㎝で、木質部分がほとんど腐食しており詳細は不明だが、小さく削りだされた高台を有する椀である。外面は黒漆、内面は朱漆が施されている。数珠玉は66点が出土しており、そのうち55点を図示した。337だけが径1.3㎝とやや大きいが、それ以外はおおよそ0.8～１㎝である。玉は縦にやや潰れた楕円形に削り出され、紐穴の面は平坦である。径1.5～２mmの紐穴内部には穿孔の際の工具痕が残る。樹種はアスナロである。

SD525（382）

箸状木製品が１点出土した。腐食のため判然としないが両箸であろう。

SD673（383～385）

柱状木製品が３点出土した。いずれも丸材で383は底面がややＶ字形に加工、384は２方向から平坦に加工している。385はやや斜めに加工していると思うが腐食のため詳細は不明である。出土状況は溝の底面に東から横に並べた形で384と383が４㎝の間をあけて、次いで西に2.7m離れ385が並ぶ。このことから、柱材を何らかの基礎（礎板）として転用したものと考える。

SX12（386）

板が１点出土した。両端を欠損するやや厚めの板材である。

SA 1（387～398）

SA 1 は12本の杭からなる杭列で、その全てを図示した。393・398のように先端部のみが遺存している杭もあるが、それ以外は比較的良好に遺存していた。杭の長さは12.9～43.6㎝、径は2.1～11.5㎝である。先端部は四面の加工で構成されているものが多い。390は他の杭と比較してやや太めである。

SA 2（399～404）

SA 2 は 7 本の杭からなる杭列で、そのうち 6 本を図示した。杭の長さは25.5～50.5㎝、径は3.5～6.9㎝である。402は他の杭と比較し長いが性格は不明である。

SA 3（405・406）

SA 3 は 3 本の杭からなる杭列で、そのうち 2 本を図示した。杭の長さは45.8～51.2㎝、径は7.5～7.9㎝である。SA 1 ～ 3 の杭はいずれも加工痕が鉈状工具によるものと思われ、小刻みな削り痕が連続する点が特徴的である。405・406以外は樹皮が剥がされている。枝打ちは一様に雑である。

その他（407～475）

ここではSB・SAとは認定できなかった柱・礎板・杭のなかで、特徴的なものについて記述する。柱根・柱状木製品は19遺構から20点、礎板は 7 遺構から10点、杭・杭状木製品は36点、その他 3 点を図示した。407～413・418・419・421・422・424～431・434・437は柱根・柱状木製品である。407・408（P18）は双方ともほぼ半割材である。同一個体の可能性が高いが、腐食のためか接合できなかったこと、408の中間部が欠けていることなどから、別個体として掲載した。409・410はP112から出土した。409は底面付近に加工痕があるが腐食のため形状は不明である。410は出土状況から柱根を根絡として転用したものと考える。411（P120）の柱状木製品は、方形で4.5×4.3㎝の臍穴があることから建築部材であった可能性が高い。412（P155）は丸材で下端がＶ字状に加工されている。413（P210）は腐食のため判然としないが平坦に近い切断加工であろう。418（P278）は割材で、丸材を1/4分割している。底面は腐食のため加工痕は不明である。419（P333）は丸材で、底面は腐食のため加工痕は判然としない。421（P458）は割材で、腐食のためやせて本来の形状は不明である。422（P487）は割材である。腐食のため底面の加工痕は不明である。424（P531）は内部の芯が腐食し側だけが遺存する。425・426はいずれも丸材で、426（P619）の底面は 3 方向以上から平坦に加工している。425（P618）の底面は腐食のため判然としない。427・428（P629）は一本の柱根であるが腐食のため割れている。429（P634）は丸材である。底面の一部に斜めの加工痕があるが、腐食のため全体像は不明である。430（P654）は丸材で、底面は腐食のため加工痕は不明である。431（P691）は丸材で、底面はほぼ平坦な加工である。加工痕は不明瞭だがおおまかに 3 方向から加工されている。434（P796）は半割材で、底面は腐食して加工痕は不明である。414～417・420・423・432・433・435・436は礎板である。414～417はP275から出土した。いずれも薄い板で414・417には両端に焦げ痕がある。417を下にして414さらに415・416が重なって出土した。420（P381）は半割材で、腐食のため加工痕は観察できない。423（P528）は半割材である。両端に加工痕がわずかに付くが、腐食のため判然としない。432（P705）・433（P729）は丸材を半割して、両端を加工している。435（P845）は木目の観察からかなりの大木を加工したもので、両端には加工痕がある。436（P850）は板目である。加工痕は明瞭ではない。438～475は杭またはそれに近い用途で使用されたものである。438～448、450～453は先端を鉈状工具で削っている。先端部の加工は四面で加工されているものが多いが、径は細くても453のように五面で構成されるものもある。449はヘラ状木製品で、丁寧な加工が施されてはいるが、用途は不明である。454は先端側面部を三角形に加工した矢板状木製品である。455～475も杭だが、457・470については先端の削りが片

面からだけのものである。460・467・471・474については腐食のため加工痕は判然としない。

6）　銭　　貨

SG313（476）

元銭の「至大通寶」（1310年初鋳）が木棺内から１点出土した。

包含層（477）

北宋銭の「熙寧元寶」（1068年初鋳）が15F10区のⅡb層中から出土した。右上部が欠損している。

4　自然科学分析

A　はじめに

新潟県岩船郡神林村大字九日市に所在する田屋道遺跡は、越後平野北部の海岸砂丘後背の沖積地に立地している。本遺跡の発掘調査の結果、掘立柱建物跡をはじめとして、井戸跡や溝状遺構、杭列、土坑、墓と考えられる遺構が確認され、珠洲焼、陶磁器、須恵器、土師質土器、木製品、柱根や杭等の建築部材が出土している。これらの調査所見から、田屋道遺跡は12世紀末～14世紀頃の遺跡であることが想定されている。

本報告では、発掘調査成果から課題とされた、１）古環境変遷、２）植物利用、３）木製品、の３点を検証するため自然科学分析調査を実施している。

B　試　　料

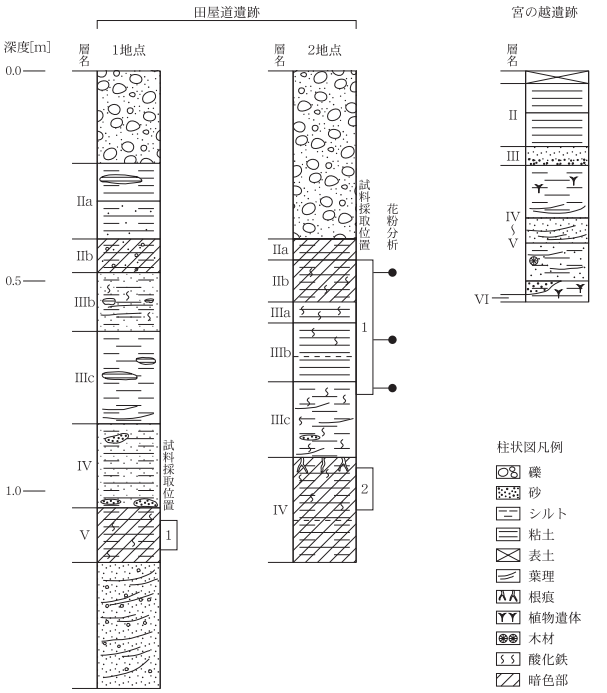
試料は、調査区壁に認められた基本土層や井戸跡覆土から採取された土壌試料及び木製品からなる。以下に、試料の概要を示す。

1)　土壌試料

本遺跡では堆積環境に関わる情報を得るため、任意の地点を対象に基本土層（V～II層）の層相観察を行っている。以下に、各地点の観察所見を記す。なお、各土層名は、発掘調査時に付された基本土層名に準拠している。

a)　１地点（B区調査区北東）

観察対象とした最下位の土層は、葉理が発達する中礫～細粒砂からなり、葉理は北側に傾斜する傾向が認められる。本土層上部は、下部と比較して細粒の砂からなるが、淘汰は不良であり、黒色を呈する粘土の偽礫や後背の泥岩層に由来すると考えられる風化礫等が混じる。この土層の上位は、植物遺体が混じる塊状の暗灰色を呈する砂混じりシルト（Ｖ層）が堆積する。さらに上位は、灰白～青灰色を呈する極細粒砂～粘土質シルトである。葉理や級化等が認められ、層界は不明瞭であるが、複数のユニットに分けられる可能性がある。なお、本土層については、堆積構造や土色等からⅣ～Ⅲb層に分層されている。また、Ⅳ層の最下部では、下位層（Ｖ層）に由来すると考えられる径３－４㎝の偽礫を含む粗粒～中粒砂が、レンズ状に堆積する



第11図　各地点の模式柱状図及び試料採取位置

状況が認められている。Ⅲb層上位には、暗灰～暗灰褐色を呈する砂混じりシルト質粘土（Ⅱb層）が不整合で堆積する。当土層中には細礫、細粒砂、細粒の炭化物等が混じり、下部にはⅢb層に由来すると考えられる偽礫も認められる。その上位は、灰～灰褐色を呈するシルト質粘土（Ⅱa層）からなる。下部は砂混じりで空隙が多く、上部はⅢb層に由来すると考えられる灰褐色粘土に偽礫が混じる。

b）　2地点（B区調査区中央部）

本地点ではⅣ～Ⅱ層が認められている。なお、本地点北側では、基本土層Ⅵ層とされる塊状の青灰色を呈する粘土が確認されている。最下位は、暗灰色を呈する塊状のシルト～粘土（Ⅳ層）であり、上部は上位の堆積物に由来すると考えられる灰色シルトが根痕状に発達する。上位は灰色を呈するシルト（Ⅲc層）であり、極細粒砂をレンズ状に挟在し、弱い葉理も認められる。Ⅲc層の上位は、灰褐～暗灰色を呈する塊状のシルト（Ⅲb層）からなり、上部は土壌化によってやや暗色化する状況が認められる。Ⅲa層は灰～灰白色を呈する塊状の粘土であり、下位のⅢb層と不整合である。Ⅲa層は、調査区内では一部でしか検出されない。さらに、上位のⅡb、Ⅱa層は、いずれも暗灰色を呈する泥質土であり、Ⅱb層は糸根状の管状酸化鉄の発達が顕著である。

土壌試料は、1地点より層位試料1点（試料番号1）、2地点より柱状試料1点（試料番号1）、層位試料1点（試料番号2）を採取している。なお、後述する宮の越遺跡においても基本土層の観察及び試料採取を行っていることから、第11図にこれらの各遺跡・地点の模式柱状図および試料採取位置を示す。

c）　井戸跡

試料は、SE53　9層、SE88　1～3・7層から採取された土壌3点である。調査所見によれば、SE53は、覆土は1～10層からなり、4層は炭化物層、覆土下部の8・9層は炭化した植物遺体が混じる土層とされている。一方、SE88は、覆土は1～7層からなり、1層は炭化物を多量に含む土層、3・6層が炭化物層とされている。

上記した3試料の観察の結果、SE53　9層は、炭化物や未炭化の植物遺体が多量に混じる黒色を呈する泥質土、SE88　1～3層は極細粒砂径の灰状の物質を主体とし、炭化物や暗灰～灰褐色粘土の偽礫が混じる土壌、SE88　7層は炭化物や植物遺体が混じる黒褐～暗灰色を呈する泥質土からなる。

2）　木製品

試料は、柱根や礎板・杭等42点、木製品14点の計56点からなる。なお、柱根や礎板等を対象とした放射性炭素年代測定や、漆器を対象とした漆塗膜構造分析（特殊薄片作成鑑定）を実施していることから、試料の由来や漆器の木地（木胎）に関わる情報を得るため、これらの分析試料（12点）についても分析対象としている。したがって、分析対象とした試料は、計68点である。

試料採取は、各遺物の観察を行った後、建築部材や杭材については破損部や接合部等を利用して木片を採取する。一方、木製品類については、基本的に剃刀を用いて表面から3断面の切片を直接採取している。なお、放射性炭素年代測定対象とした試料については、観察範囲内に認められた最外年輪に相当する箇所、当該箇所からの試料採取が不可能な場合にはそれに近い箇所から木片を採取している。

以上の試料を対象に、放射性炭素年代測定、花粉分析、灰像分析、微細物分析、樹種同定、特殊薄片作成鑑定を実施する。分析対象試料及び試料の詳細は、結果とともに表に示す。

C　分析方法

1)　放射性炭素年代測定

土壌や根など目的物と異なる年代を持つものが付着している場合、これらをピンセット、超音波洗浄などにより物理的に除去する。その後、HClにより炭酸塩等酸可溶成分の除去、NaOHにより腐植酸等アルカリ可溶成分の除去、HClによりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分の除去を行う（酸・アルカリ・酸処理）。

試料をバイコール管に入れ、１gの酸化銅（Ⅱ）と銀箔（硫化物を除去するため）を加えて、管内を真空にして封じきり、500℃（30分）850℃（２時間）で加熱する。液体窒素と液体窒素＋エタノールの温度差を利用し、真空ラインにてCO_2を精製する。真空ラインにてバイコール管に精製したCO_2と鉄・水素を投入し封じ切る。鉄のあるバイコール管底部のみを650℃で10時間以上加熱し、グラファイトを生成する。

化学処理後のグラファイト・鉄粉混合試料を内径１mmの孔にプレスして、タンデム加速器のイオン源に装着し、測定する。測定機器は、３MV小型タンデム加速器をベースとした^{14}C－AMS専用装置（NEC Pelletron　9SDH－２）を使用する。AMS測定時に、標準試料である米国国立標準局（NIST）から提供されるシュウ酸（HOX－Ⅱ）とバックグラウンド試料の測定も行う。また、測定中同時に$^{13}C/^{12}C$の測定も行うため、この値を用いて$\delta^{13}C$を算出する。

放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5,568年を使用する。また、測定年代は1950年を基点とした年代（BP）であり、誤差は標準偏差（One Sigma:68%）に相当する年代である。なお、暦年較正は、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV5.02（Copyright 1986－2005 M Stuiver and PJ Reimer）を用い、誤差として標準偏差（One Sigma）を用いる。

2)　花粉分析

試料10ccを正確に秤り取り、水酸化カリウムによる泥化、篩別、重液（臭化亜鉛，比重2.3）による有機物の分離、フッ化水素酸による鉱物質の除去、アセトリシス（無水酢酸９，濃硫酸１の混合液）処理による植物遺体中のセルロースの分解を行い、物理・化学的処理を施して花粉を濃集する。残渣をグリセリンで封入してプレパラートを作成し、400倍の光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査し、出現する全ての種類を対象に200個体以上同定・計数する（花粉の少ない試料ではこの限りではない）。また、花粉・胞子量のほかに、試料中に含まれる微粒炭量も求める。炭片は20μm以上を対象とし、それ以下のものは除外する。

結果は同定・計数結果の一覧表、および主要花粉群集の層位分布図として表示する。微粒炭量は、堆積物１ccあたりに含まれる個数を一覧表・図として示す。この際、有効数字を考慮し、10の位を四捨五入して100単位に丸める。図中の木本花粉は木本花粉総数を、草本花粉・シダ類胞子は総数から不明花粉を除いた数をそれぞれ基数として、百分率で出現率を算出し図示する。

3)　灰像分析

植物体の葉や茎に存在する植物珪酸体は、珪化細胞列等の組織構造を呈している。植物体が土壌中に取り込まれた後は、大部分は土壌化や撹乱等の影響によって分離し単体となるが、植物が燃えた後の灰には組織構造が珪化組織片等の形で遺存している場合が多い［パリノ・サーヴェイ株式会社1993など］ことから、珪化組織片の産状を調査することにより灰の材質が明らかになると考えられる。

本分析試料では、灰状の物質に含まれると考えられる珪化組織片について以下の方法で濃集・分離を行っている。湿重５g前後の試料について過酸化水素水・塩酸処理、沈定法の順に物理・化学処理を行い、珪化組織片を分離・濃集する。検鏡しやすい濃度に希釈し、カバーガラス上に滴下・乾燥させる。乾燥後、プリュウラックスで封入してプレパラートを作製する。その後、400倍の光学顕微鏡下で観察し、イネ科葉部（葉身と葉鞘）の葉部短細胞に由来した植物珪酸体（以下、短細胞珪酸体と呼ぶ）や葉身機動細胞に由来した植物珪酸体（以下、機動細胞珪酸体と呼ぶ）、およびこれらを含む珪化組織片を［近藤2004］の分類に基づいて同定する。

4）　微細物分析

土壌試料（SE53は225cc（286.2g）、SE88は250cc（333.6g））を水に浸し、粒径0.5mmの篩を通して水洗する。篩内の試料を粒径別にシャーレに集めて双眼実体顕微鏡下で観察し、同定可能な種実や、４mm角以上の木材や炭化材、昆虫、動物遺存体、土器などの遺物を抽出する。検出された種実は、現生標本および［石川1994］、［中山ほか2000］等の図鑑との対照から、種実の種類と部位を同定し、個数を数えて表示する。実体顕微鏡下による区別が困難な複数種間は、ハイフォンで結んで表示する。なお、イネの穎の破片については、基部の果実序柄が確認できたものを計数し、最小個体数を求める。分析後の種実は、種類毎に容器に入れ、70％程度のエタノール溶液による液浸保存処理を施し、保管する。

5）　樹種同定

剃刀の刃を用いて木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の３断面の徒手切片を作製する。木製品類については、基本的に剃刀を用いて表面から３断面の切片を直接採取する。切片は、試料ごとにガム・クロラール（抱水クロラール，アラビアゴム粉末，グリセリン，蒸留水の混合液）で封入し、プレパラートを作製する。作製したプレパラートは、生物顕微鏡で木材組織を観察し、種類を同定する。

なお、同定の根拠となる顕微鏡下での木材組織の特徴等については、［島地・伊東1982］、［Wheelerほか1998］、［Richterほか2006］を参考にする。また、各樹種の木材組織配列の特徴は、［林1991］、［伊東1995,1996,1997,1998,1999］や、独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースを参考にする。

6）　特殊薄片作成鑑定

漆塗膜片を合成樹脂に包埋し、樹脂を固化させる。塗膜の断面が出るようにダイヤモンドカッターで切断し、切断面を研磨する。研磨した面をスライドガラスに接着し、反対側も切断と研磨を行い、プレパラートとする。プレパラートは、生物顕微鏡、落射蛍光顕微鏡、反射顕微鏡を用いて断面にみられる塗膜構造を観察する。

D　分析結果

1）　放射性炭素年代測定

同位体効果による補正を行った測定結果（第２表）は、SB１（杭 21）は1,330±40BP、SB11（P298 柱根）は830±40BP、SB015（P370 礎板）は840±30BP、SB18（P591 柱根）は780±30BP、SB27（P861 柱根）は830±30、SG313（側板）は290±30BPを示す。また、暦年較正結果（第３表、測定誤差をσとして計算）は、SB１（杭21）はcalAD 653－ calAD 765、SB11（P298 柱根）はcalAD 1,183－ calAD 1,254、SB15

（P370 礎板）はcalAD 1,163－ calAD 1,224、SB18（P591 柱根）はcalAD 1,225－ calAD 1,267、SB27（P861 柱根）はcalAD 1,183－ calAD 1,252、SG313（側板）はcalAD 1,522－ calAD 1,651である。

帰属遺構	遺構番号	器種・種類	種　類	補正年代 BP	δ13C (‰)	測定年代 BP	Code No.	測定機関番号
SB1	杭21	杭	トネリコ属	1,330± 40	−29.30±0.88	1,400± 30	9414−5	IAAA−61379
SB11	P298	柱根	カラスザンショウ	830± 40	−28.12±0.78	880± 40	9414−4	IAAA−61378
SB15	P370	礎板	クリ	840± 30	−27.98±0.85	890± 30	9414−2	IAAA−61376
SB18	P591	柱根	クリ	780± 30	−25.19±0.85	780± 30	9414−1	IAAA−61375
SB27	P861	柱根	クリ	830± 30	−27.50±0.80	870± 30	9414−3	IAAA−61377
SG313		側板(326)	アスナロ	290± 30	−26.79±0.87	320± 30	9414−6	IAAA−61380

1)年代値の算出には、Libbyの半減期5,568年を使用。
2)BP年代値は、1,950年を基点として何年前であるかを示す。
3)付記した誤差は、測定誤差σ(測定値の68%が入る範囲)を年代値に換算した値。

第２表　放射性炭素年代測定結果

帰属遺構	遺構番号	器種種類	補正年代(BP)		暦年較正年代(cal)															相対比	Code No.
SB1	杭21	杭	1,329± 37	σ	cal	AD	653	−	cal	AD	694	cal	BP	1,297	−	1,256	0.778	9414−5
					cal	AD	704	−	cal	AD	705	cal	BP	1,246	−	1,245	0.010	
					cal	AD	748	−	cal	AD	765	cal	BP	1,202	−	1,185	0.212	
				2σ	cal	AD	646	−	cal	AD	730	cal	BP	1,304	−	1,220	0.768	
					cal	AD	735	−	cal	AD	772	cal	BP	1,215	−	1,178	0.232	
SB11	P298	柱根	831± 37	σ	cal	AD	1,183	−	cal	AD	1,254	cal	BP	767	−	696	1.000	9414−4
				2σ	cal	AD	1,055	−	cal	AD	1,076	cal	BP	895	−	874	0.031	
					cal	AD	1,154	−	cal	AD	1,272	cal	BP	796	−	678	0.969	
SB15	P370	礎板	844± 31	σ	cal	AD	1,163	−	cal	AD	1,224	cal	BP	787	−	726	1.000	9414−2
				2σ	cal	AD	1,055	−	cal	AD	1,077	cal	BP	895	−	873	0.037	
					cal	AD	1,154	−	cal	AD	1,263	cal	BP	796	−	687	0.963	
SB18	P591	柱根	781± 33	σ	cal	AD	1,225	−	cal	AD	1,267	cal	BP	725	−	683	1.000	9414−1
				2σ	cal	AD	1,190	−	cal	AD	1,196	cal	BP	760	−	754	0.010	
					cal	AD	1,207	−	cal	AD	1,282	cal	BP	743	−	668	0.990	
SB27	P861	柱根	832± 34	σ	cal	AD	1,183	−	cal	AD	1,252	cal	BP	767	−	698	1.000	9414−3
				2σ	cal	AD	1,058	−	cal	AD	1,064	cal	BP	892	−	886	0.007	
					cal	AD	1,068	−	cal	AD	1,071	cal	BP	882	−	879	0.005	
					cal	AD	1,155	−	cal	AD	1,271	cal	BP	795	−	679	0.988	
SG313		側板(326)	290± 33	σ	cal	AD	1,522	−	cal	AD	1,574	cal	BP	428	−	376	0.641	9414−6
					cal	AD	1,584	−	cal	AD	1,589	cal	BP	366	−	361	0.032	
					cal	AD	1,625	−	cal	AD	1,651	cal	BP	325	−	299	0.328	
				2σ	cal	AD	1,489	−	cal	AD	1,603	cal	BP	461	−	347	0.671	
					cal	AD	1,610	−	cal	AD	1,663	cal	BP	340	−	287	0.329	

1)計算には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV5.02(Copyright 1986-2005 M Stuiver and PJ Reimer)を使用。
2)計算には表に示した丸める前の値を使用している。
3)1桁目を丸めるのが慣例だが、暦年較正曲線や暦年較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、1桁目を丸めていない。
4)統計的に真の値が入る確率はσは68%、2σは95%である。
5)相対比は、σ、2σのそれぞれを1とした場合、確率的に真の値が存在する比率を相対的に示したものである。

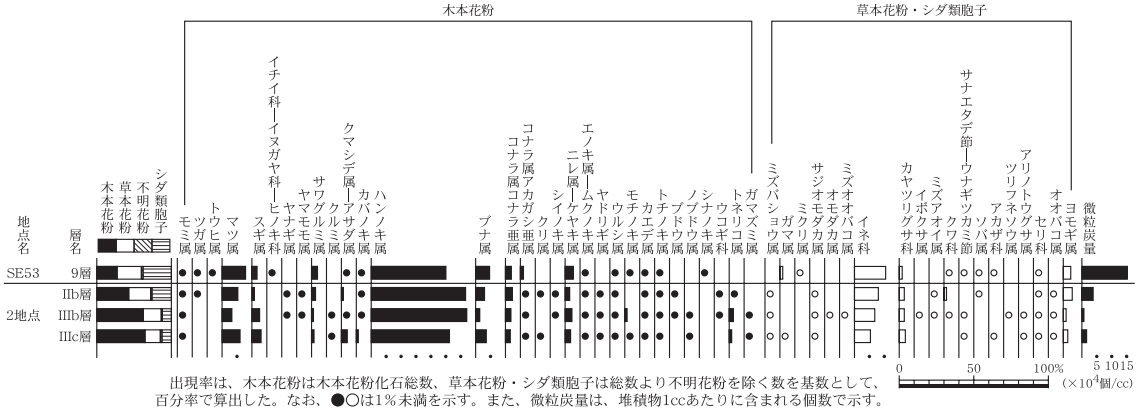
第３表　暦年較正結果

なお、暦年較正とは、大気中の^{14}C濃度が一定で半減期が5,568年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の^{14}C濃度の変動、及び半減期の違い（^{14}Cの半減期5,730±40年）を較正することである。暦年較正に関しては、本来10年単位での表記が通例とされるが、将来的に暦年較正プログラムや暦年較正曲線の改正があった場合の再計算、再検討に対応するため、本報告では１年単位で表記している。暦年較正については、北半球の大気中炭素に由来する較正曲線を用いる。

暦年較正結果は、測定誤差σ、２σ双方の値を示す。σは統計的に真の値が68%の確率で存在する範囲、２σは真の値が95%の確率で存在する範囲である。表中の相対比とは、σ、２σの範囲をそれぞれ１とした場合、その範囲内で真の値が存在する確率を相対的に示したものである。

2)　花粉分析

結果を第４表、第12図に示す。図表中で複数の種類をハイフォンで結んだものは、種類間の区別が困難なものを示す。いずれも花粉の産出状況は良好であり、保存状態も比較的良好である。以下に、基本土層とSE53　９層に分けて産状を示す。



出現率は、木本花粉は木本花粉化石総数、草本花粉・シダ類胞子は総数より不明花粉を除く数を基数として、百分率で算出した。なお、●○は1％未満を示す。また、微粒炭量は、堆積物1ccあたりに含まれる個数で示す。

第12図　主要花粉群集の層位分布

a)　基本土層

2地点のⅢc層、Ⅲb層、Ⅱb層の花粉群集は類似しており、木本花粉が多い。木本花粉ではハンノキ属が多産し、マツ属、スギ属、ブナ属、コナラ属コナラ亜属、ニレ属－ケヤキ属等を伴う。この他では、サワグルミ属、クマシデ属－アサダ属、トネリコ属等なども認められる。草本花粉ではイネ科が最も多く産出し、カヤツリグサ科、ヨモギ属等を伴う。また、ミズバショウ属、ガマ属、サジオモダカ属、オモダカ属、ミズオオバコ属、イボクサ属、ミズアオイ属、ツリフネソウ属などの水湿地生植物に由来する花粉が検出され、Ⅱb層からは栽培種のソバ属も検出される。

b)　SE53　9層

上記した3試料と類似した群集組成を示す。木本花粉ではハンノキ属が多産し、マツ属、ブナ属、ニレ属－ケヤキ属、スギ属、サワグルミ属、コナラ亜属等を伴う。草本花粉ではイネ科が最も多く産出し、カヤツリグサ科、ヨモギ属、ガマ属等が認められる。また、僅かであるがミクリ属、ソバ属等も検出される。

上記した4試料の微粒炭量は、2地点　Ⅲc層は約15,400個/cc、Ⅲb層は約6,500個/cc、Ⅱb層は約37,600個/cc、SE53は9層で約151,800個/ccである。

3)　灰像分析

結果を第5表に示す。SE88　1～3層からは、珪化組織片として栽培植物のイネ属の籾殻に形成される穎珪酸体、葉部に形成される短細胞列や機動細胞列が検出される。これらの珪化組織片の中では、短細胞列の産出が目立ち、穎珪酸体や機動細胞列は少ない。

種　類	SE53	2地点		
試料番号	9層	IIb層	IIIb層	IIIc層
木本花粉				
モミ属	1	2	1	3
ツガ属	1	1	－	－
トウヒ属	1	－	－	－
マツ属単維管束亜属	1	1	－	1
マツ属複維管束亜属	1	6	－	7
マツ属（不明）	30	25	22	29
スギ属	7	5	17	19
イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科	1	－	－	－
ヤナギ属	－	1	1	－
ヤマモモ属	－	1	1	－
サワグルミ属	8	8	4	5
クルミ属	－	－	2	1
クマシデ属－アサダ属	1	4	3	12
カバノキ属	1	1	1	4
ハンノキ属	102	192	215	162
ブナ属	19	18	9	22
コナラ属コナラ亜属	8	14	12	10
コナラ属アカガシ亜属	4	1	2	3
クリ属	－	2	－	1
シイノキ属	－	1	2	－
ニレ属－ケヤキ属	11	9	15	11
エノキ属－ムクノキ属	1	1	1	2
ヤドリギ属	－	1	1	1
フウ属	－	1	－	－
キハダ属	－	－	1	－
アカメガシワ属	－	－	－	1
ウルシ属	1	1	3	1
モチノキ属	2	－	5	3
ニシキギ属	－	－	1	－
カエデ属	1	1	1	1
トチノキ属	1	1	1	2
ブドウ属	－	1	1	－
ノブドウ属	－	－	1	1
シナノキ属	1	－	－	－
ウコギ科	－	1	2	－
ハイノキ属	－	1	－	－
トネリコ属	－	3	9	5
ガマズミ属	－	－	1	2
スイカズラ属	－	－	1	－
草本花粉				
ミズバショウ属	－	2	4	1
ガマ属	14	－	－	1
ミクリ属	1	－	－	－
サジオモダカ属	－	2	1	2
オモダカ属	－	－	2	－
ミズオオバコ属	－	－	1	－
イネ科	154	112	72	50
カヤツリグサ科	15	24	18	19
イボクサ属	－	－	1	－
ミズアオイ属	－	3	3	－
クワ科	5	12	3	－
サナエタデ節－ウナギツカミ節	7	－	1	2
ソバ属	2	1	－	－
アカザ科	2	－	－	1
ナデシコ科	4	1	－	－
アブラナ科	－	1	－	－
バラ科	－	1	3	3
マメ科	－	－	1	2
カタバミ属	－	1	－	－
ツリフネソウ属	－	－	1	－
ミソハギ属	－	1	－	1
アリノトウグサ属	－	－	1	1
セリ科	4	1	2	1
シソ科	－	－	1	－
オオバコ属	－	1	1	1
ヨモギ属	37	42	10	14
オナモミ属	－	1	－	－
キク亜科	－	3	3	－
タンポポ亜科	－	1	－	－
不明花粉	16	13	9	11
シダ類胞子				
シダ類胞子	287	185	65	60
合　計				
木本花粉	204	304	336	309
草本花粉	245	210	129	99
不明花粉	16	13	9	11
シダ類胞子	287	185	65	60
総計(不明を除く)	736	699	530	468
1ccあたりの微粒炭量[個]	151800	37600	6500	15400

1)微粒炭量は、10の位を四捨五入して100単位に丸めている。

第4表　花粉分析結果

4)　微細物分析

結果を第６表に示す。２試料からは、草本18分類群1,278個以上の種実が検出され、この他に、木材、炭化材、昆虫、動物遺存体、土器片等も検出される。以下に各試料の産状を示す。

a)　SE53　9層

草本17分類群1,276個の種実が検出された。栽培植物のイネの穎（基部の果実序柄が確認できたもの）705個、胚乳６個、ヒエに近似するイネ科の果実437個、胚乳43個、アサ１個、エゴマ１個が確認された。また、汽水生植物のカワツルモや、水生植物のヘラオモダカ、ホタルイ属（一部）、イボクサ等も検出されたほか、木材、炭化材、昆虫、動物遺存体、土器片等も確認された。

b)　SE88　7層

草本２分類群２個の種実が検出された。水生植物のヒルムシロ属１個、湿生～中生草本のカヤツリグサ科１個が確認され、この他に、木材、炭化材、昆虫が確認された。

以上の検出された種実遺体の保存状態は比較的良好であり、SE53　9層の栽培植物のイネの穎112個、胚乳６個、ヒエに近似するイネ科の果実24個、胚乳43個には炭化が認められた。

種　　類	SE88 1-3層
検出された種類	
イネ属穎珪酸体	＋＋＋
イネ属短細胞列	＋
イネ属機動細胞列	＋
想定される種類	稲籾殻 稲藁

＋＋＋：非常に多い，＋：検出

第５表　灰像分析結果

分類群	部位	状態	SE53 9層	SE88 7層
カワツルモ	果実		1	－
ヒルムシロ属	果実		－	1
ヘラオモダカ	果実		6	－
● イネ	穎		>593	－
		炭化	112	－
	胚乳	炭化	6	－
エノコログサ属	果実		3	－
● イネ科(ヒエ近似種)	果実		413	－
		炭化	24	－
	胚乳	炭化	43	－
ホタルイ属	果実		7	－
カヤツリグサ科	果実		21	1
イボクサ	種子		1	－
● アサ	種子		1	－
タデ属	果実		1	－
アカザ科	種子		20	－
ヒユ科	種子		3	－
ナデシコ科	種子		5	－
キジムシロ属－ヘビイチゴ属－オランダイチゴ属	核		4	－
オトギリソウ属	種子		1	－
● エゴマ	果実		1	－
シロネ属	果実		10	－
木材(>4mm角)			51	4
炭化材(>4mm角)			150	9
昆虫			33	6
動物遺存体			20	－
土器			2	－
		分析量	225cc (286.2g)	250cc (333.6g)

●：栽培植物

第６表　微細物分析結果

5)　樹種同定

結果を第７表に示す。木製品等68試料は、針葉樹４種類（マツ属複維管束亜属、マツ属、スギ、アスナロ）と広葉樹12種類（オニグルミ、コナラ属コナラ亜属コナラ節、クリ、ケヤキ、カツラ、アジサイ属、サクラ属、バラ科ナシ亜科、キハダ、カラスザンショウ、ハリギリ、トネリコ属）に同定された。

6)　特殊薄片作成鑑定

漆器６試料のうち、SE53－172、SE330－223・224、SE336－274、SE551－303の５試料は内面塗膜片を調査試料とし、SE54－181は内面からの試料採取は困難であったことから、外面塗膜片を調査試料としている。以下に、各試料の観察結果を述べる。

a)　SE53－172（樹種：ケヤキ,木取：横木取り）

試料とした塗膜は、肉眼で黒色を呈する。下地・漆塗膜共に保存状態は悪い。断面観察では、木材組織中に下地と考えられる黒色粒子の散在が認められたが、膠着材はほとんど認められない。黒色粒子には植物の細胞が認められることから、炭粉を用いた下地と判断される。下地の上の漆層は、観察範囲内では１層のみで、混和材は認められない。漆層の厚さは、木地の凹凸に伴って一定でなく約10～80μmを測る。

b)　SE54－181（樹種：ケヤキ,木取：横木取り）

試料は、肉眼で黒色を呈するが、漆にみられる光沢は認められない。断面観察では、下地層のみ認めら

掲載No.	帰属遺構	遺構番号	遺物番号	器種・種類	木　取	樹　種
111	SB 1	杭10	1	杭	芯持丸木	トネリコ属
112	SB 1	杭11	1	杭	芯持丸木	トネリコ属
113	SB 1	杭20	1	杭	芯持丸木	トネリコ属
114	SB 1	杭21	1	杭	芯持丸木	トネリコ属
115	SB 1	杭22	1	杭	芯持丸木	トネリコ属
116	SB 1	杭27	1	杭	－	トネリコ属
117	SB 3	P49	1	柱根	ミカン割	クリ
118	SB 3	P51	1	柱根	柾目	クリ
119	SB 3	P77	1	柱根	芯持丸木	クリ
120	SB 4	P127	1	柱根	芯持丸木	サクラ属
121	SB 4	P132	1	柱根	芯持丸木	オニグルミ
122	SB 4	P143	1	柱根	芯持丸木	キハダ
123	SB 4	P133	1	柱根	芯持丸木	サクラ属
124	SB 4	P144	1	柱根	形状不明	オニグルミ
125	SB 7	P149	1	柱根	芯持丸木	ケヤキ
126	SB 9	P211	1	柱根	芯持丸木	クリ
129	SB 9	P242	1	柱根	丸木	サクラ属
130	SB11	P298	1	柱根		カラスザンショウ
131	SB12	P319	1	柱根	芯持丸木	クリ
132	SB12	P320	1	柱根	芯持丸木	クリ
133	SB12	P321	1	柱根	半裁木	クリ
134	SB12	P323	1	柱根	ミカン割	コナラ属コナラ亜属コナラ節
135	SB12	P324	1	柱根	板目	クリ
136	SB12	P325	1	柱根	芯持角材	クリ
137	SB12	P719	2	柱根	芯持丸木	キハダ
138	SB12	P719	1	礎板	ミカン割	カツラ
139	SB12	P722	1	柱根	芯持材	クリ
140	SB12	P872	2	礎板	板目状	クリ
145	SB14	P699	1	柱根	分割材	クリ
146	SB14	P702	1	礎板	板目状	ハリギリ
148	SB15	P370	1	礎板	半裁木	クリ
149	SB15	P475	1	柱根	芯持丸木	クリ
151	SB18	P553	1	柱根	分割材	クリ
152	SB18	P559	1	柱根	分割材	クリ
153	SB18	P591	1	柱根	芯持丸木？	クリ
154	SB21	P426	1	柱根	芯持丸木	クリ
158	SB26	P489	1	柱根	形状不明	クリ
159	SB27	P640	1	礎板	半裁木	クリ
160	SB27	P861	1	柱根	芯持丸木	クリ
161	SB28	P224	1	柱根	分割材	クリ
162	SB28	P318	1	柱根	丸木	クリ
163	SB28	P470	1	柱根	芯持角材	クリ
164	SB28	P646	1	柱根	芯持丸木	クリ
165	SB29	P340	1	柱根	芯持丸木	クリ
166	SB32	P692	1	礎板	板目	クリ
169	SB36	P492	1	柱根	芯持丸木	クリ
170	SB36	P497	1	柱根	芯持丸木	クリ
172		SE53	20	漆塗皿	横木取	ケヤキ
176		SE53	3	羽子板状木製品	柾目	クリ
181		SE54	20	漆塗皿	横木取	ケヤキ
197		SE75	7	棒状木製品	－	クリ
198		SE82	2	木製鉤	丸木	アジサイ属
223		SE330	59	漆塗皿	横木取	ケヤキ
224		SE330	21	漆塗皿	横木取	ケヤキ
246		SE330	49	箸状木製品	削出丸棒	スギ
274		SE336	4	漆塗椀	横木取	ケヤキ
292		SE336	底面一括	箸状木製品	削出角棒	バラ科ナシ亜科
297		SE398	2	箸状木製品	削出角棒	スギ
301		SE534	11	ひょうたん製品	－	ヒョウタン(果皮)
303		SE551	2	漆塗椀	横木取	ケヤキ
304		SE551	1	曲物	柾目	スギ
309		SE684	一括	刳り物	平坦面が木口	サクラ属
315		SK081	1	曲物の底板	柾目	スギ
321		SG313	10	横木	分割材(角棒状)	マツ属
323		SG313	1	蓋板	柾目	アスナロ
326		SG313	3	側板		マツ属複維管束亜属
未掲載		SG313	一括	数珠玉	削出球形	アスナロ
未掲載		杭156	1	杭	芯持丸木	ハンノキ属ハンノキ亜属

第７表　樹種同定結果

れ、漆層は認められない。下地層には植物の組織構造が認められ、炭粉を用いた下地と判断されるが、膠着材は認められない。下地層の厚さは100μm以上を測る。

c）　SE330－224（樹種：ケヤキ,木取：横木取り）

試料とした塗膜は、肉眼で黒色を呈する。端部から採取したが、下地と漆塗膜が剥離した状態にあったことから、塗膜部分を対象に薄片を作成している。漆塗膜に下地の一部が残存しており、植物の組織構造が認められ、炭粉を用いた下地と判断される。下地の上の漆層は、観察範囲内では２層認められる。下地の上の漆層は、木地の凹凸を埋めるように場所によって厚さが異なり、ほとんど漆が認められない部分から100μm近い部分まである。その上部の漆層の厚さは約50～70μmを測り、下部と比較して比較的均質な厚さで塗布される。漆層は、２層とも混和物は認められない。

d）　SE330－223（樹種：ケヤキ,木取：横木取り）

試料とした塗膜は、肉眼で黒色を呈する。下地層は、薄片作成の過程で木地から剥離してしまったため、厚さは不明である。下地層には植物組織が認められる黒色粒子が認められることから、炭粉を用いた下地と判断される。炭の密度が高く、膠着材はほとんど観察できない。下地の上の漆層は、観察範囲内では１層のみで混和物は認められない。漆層の厚さは約50～100μmを測る。

e）　SE336－274（樹種：ケヤキ,木取：横木取り）

試料は、肉眼で黒色を呈する。漆塗膜部分が脆く、薄片作成の過程で破損してしまったため、下地層を観察対象としている。下地層には植物の組織構造が認められることから、炭粉を用いた下地と判断される。下地層は約10～30μmを測る。

f）　SE551－303（樹種：ケヤキ,木取：横木取り）

試料とした塗膜は、肉眼で黒色を呈する。下地は、黒色の粒子が高い密度で認められる。下地層の一部に塗布面と直行する割れがあり、上部の漆層が入り込んでいる様子が認められる。下地の黒色粒子には植物組織が認められることから、炭粉を用いた下地と判断される。下地は、木地から剥離しかかっており、正確な厚さは計測できないが約40～50μmを測る。炭粉の一部は、木地の道管内にも入り込んでいる様子も認められる。漆塗膜は３層認められ、下地層上部の漆層は木地の凹凸に合せて厚さが変化しており10μm以下～約30μmを測る。その上の漆層の段階でも一部に木地の凹凸が残っているため厚さは一定ではなく、漆層の厚さは約20～40μmを測る。最上部の漆層の厚さは10μm以下～約10μmと比較的均一である。漆層は、観察範囲内ではいずれも混和物は認められない。

E　まとめ

1）　古環境変遷

発掘調査所見及び本遺跡内２箇所の土層観察所見では、１地点でⅤ層下位に粒径の粗い砂を主体とする河川堆積物が認められたこと、さらに、遺跡内の粗粒堆積物の分布状況や葉理の傾斜方向等から、Ⅴ層形成時は河道が遺跡付近に存在し、その主体は遺跡北側にあったと推測される。Ⅴ層は、上記した河川堆積

物及びⅥ層の上位に堆積しているが、上記した河川堆積物上部にもⅤ層に由来すると考えられる偽礫が混じることから、Ⅴ層形成時においても河道の影響を受け、周辺の周囲Ⅴ層の一部が削剥・再堆積した可能性がある。２地点のⅣ層は塊状のシルト～粘土であり、Ⅲ層と不整合であることや根痕状の酸化鉄の発達が認められた。Ⅲc～b層は極細粒砂～シルト径の堆積物からなり、葉理や級化構造が認められたことから、洪水時の溢流水等に伴う氾濫堆積物と考えられる。このことから、Ⅳ～Ⅲ層は、層界は不明瞭であるが複数のユニットから構成されており、B区内では北から南に向かって粒径が細粒化するとともに、各層内に認められた堆積構造も不明瞭となる変化が認められた。Ⅲa層は、調査区壁では２地点周辺で認められた。Ⅲb層上部がやや土壌化することやⅢb～a層との層界は不整合であったことから、これらの土層は一連の堆積物ではなく、異なる時期の堆積物と判断される。また、Ⅱ層は本来の堆積構造が認めらない土壌化層であった。

このことから、Ⅵ～Ⅴ層堆積時は極近傍に存在したと想定される河川の影響を直接受けるような環境であり、周囲にはⅤ層のような黒泥が発達する湿地的な環境が存在したと推測される。また、Ⅳ～Ⅲ層堆積時は、湿地的な環境から河川氾濫等に伴う溢流水等の影響を度々受ける環境へと変化したと考えられ、これらの時期に微高地等の微地形が形成されたと推測される。Ⅲa層も、層相から氾濫堆積物と考えられ、本土層の検出状況はこれらの微地形や上位のⅡ層における擾乱の影響により痕跡的となったことが推測さ

遺構名・器種名	樹種		マツ属複維管束亜属	マツ属	スギ	アスナロ	オニグルミ	ハンノキ亜属	コナラ節	クリ	ケヤキ	カツラ	アジサイ属	サクラ属	ナシ亜科	キハダ	カラスザンショウ	ハリギリ	トネリコ属	ヒョウタン(果皮)	合計
SB１	杭																		6		6
SB３	柱根									3											3
SB４	柱根						2							2		1					5
SB７	柱根										1										1
SB９	柱根									1				1							2
SB11	柱根																1				1
SB12	柱根								1	6						1					8
	礎板									1		1									2
SB14	柱根									1											1
	礎板																	1			1
SB15	礎板									1											1
	柱根									1											1
SB18	柱根									3											3
SB21	柱根									1											1
SB26	柱根									1											2
SB27	礎板									1											1
	柱根									1											1
SB28	柱根									4											4
SB29	柱根									1											1
SB32	礎板									1											1
SB36	柱根									2											1
－	漆塗椀・皿										6										6
	刳物													1							1
	曲物				1																1
	曲物の底板				1																1
	箸状木製品	削出角棒			2																2
		削出丸棒													1						1
	木製鉤												1								1
	数珠玉					1															1
	羽子板状木製品									1											1
	棒状木製品									1											1
	ひょうたん製品																			1	1
	杭							1													1
	木棺	蓋板				1															1
		側板	1																		1
		横木		1																	1
合　計			1	1	4	2	2	1	1	31	7	1	1	4	1	2	1	1	6	1	68

第８表　遺構・器種別樹種構成

れる。

湿地から溢流水等の影響を受けるような堆積環境の変化が想定されるⅢc、Ⅲb層、遺物包含層であるⅡb層の花粉分析の結果、比較的広域の植生を反映する木本類では、3試料ともハンノキ属の優占が認められた。この他に、マツ属、スギ属、ブナ属、コナラ属コナラ亜属、ニレ属－ケヤキ属、サワグルミ属、クマシデ属－アサダ属、トネリコ属等も検出された。多産したハンノキ属は、河畔や低湿地等の適湿地に林分を形成する種を含む分類群であり、ニレ属－ケヤキ属やヤナギ属、サワグルミ属、クルミ属、クマシデ属－アサダ属、トチノキ属、シナノキ属、トネリコ属等も同様の生育環境を示す分類群である。ブナ属は、コナラ亜属等とともに冷温帯性落葉広葉樹林の主要構成要素であり、マツ属は生育の適応範囲が広く、尾根筋や湿地周辺、海岸沿いにも生育が可能であり、伐採された土地などに最初に進入する二次林の代表的な種類でもある。このことから、Ⅲc～Ⅱb層堆積時には、花粉の産状を見る限りでは周辺の低湿地にハンノキ属を主体とする河畔林・湿地林が分布していたと考えられる。また、後背山地や丘陵部にはブナ属を主体とする落葉広葉樹林が分布し、低地や丘陵縁辺にはマツ属、スギ属等の針葉樹、コナラ属アカガシ亜属、シイノキ属等の常緑広葉樹、海岸砂丘上にはマツ属等が生育していたと推測される。また、花粉群集の層位的な変化では、僅かではあるが、上位に向かってスギ属の割合の減少、草本類の割合の増加が認められる。これらの変化は、上述したⅢ～Ⅱ層における堆積環境の変化等に起因する可能性もあるが、この点については今後の課題である。

草本類では、3試料ともイネ科の多産が特徴的であり、カヤツリグサ科、ヨモギ属等が検出された。この他に、ミズバショウ属やガマ属、サジオモダカ属、オモダカ属、ミズオオバコ属、イボクサ属、ミズアオイ属、ツリフネソウ属等の水湿地生植物に由来する花粉も検出された。このうち、イネ科やカヤツリグサ科、アカザ科、ヨモギ属等は、開けた場所に草地を形成する人里植物に属する種類を多く含む分類群であることから、遺跡周辺域には明るく開けた草地が分布したと考えられる。また、ミズバショウ属やガマ属、サジオモダカ属、オモダカ属、ミズオオバコ属、イネ科の一部、カヤツリグサ科の一部、イボクサ属、ミズアオイ属、ツリフネソウ属等が生育する水湿地の存在も窺われる。

SE53　9層における花粉群集においても同様の傾向が認められた。同試料及びSE88　7層を対象とした微細物分析では、カヤツリグサ科やアカザ科等が多く産出し、カワツルモ、ヒルムシロ属、ヘラオモダカ、ホタルイ属、イボクサなどの水生植物も検出された。これらの結果からも、遺跡内や周辺にこれらの草本類が生育する草地や水湿地が存在したことが支持される。また、これらの多く分類群は、水田雑草としても普通にみられたとされる種類を含むことや、SB53　9層からは栽培植物のイネの穎や胚乳が検出されていることから、周囲には耕作地等が存在した可能性もあり、今後の調査に期待される。

2)　植物利用

井戸跡内の炭層に相当するSE53　9層からは、栽培植物のイネの穎705個、胚乳6個、ヒエに近似するイネ科の果実437個、胚乳43個、アサ1個、エゴマ1個が検出された。なお、イネの穎は大部分が破片であり、最小個体数を求めるため基部の果実序柄が確認できたものを対象としていることから、果実序柄が残存しない破片を考慮すると本試料中にはより多くの穎が含まれていたと言える。

上記した栽培植物のうち、穀類のイネ、ヒエ近似種は、胚乳が食用される種類である。アサは、種子が食用や油料に、繊維が衣料や縄用等に、エゴマは果実が食用や油料に利用される。これらの栽培植物の可食部である種実が検出されたことや、イネの穎112個、胚乳6個、ヒエに近似するイネ科の果実24個、胚

乳43個には炭化が認められたこと、さらにSE88　1～3層からはイネ属の籾殻や葉部に形成される珪化組織片が検出されたことから、これらの栽培植物の利用や燃やされたイネ植物体の混入が指摘される。また、花粉分析ではⅢb層やSB53　9層からソバ属に由来する花粉も検出されたことから、当該期には遺跡周辺でソバ栽培が行われていたことが推測される。

なお、基本土層及びSE53　9層の微粒炭量は、Ⅲc層は約15,400個/cc、Ⅲb層は約6,500個/cc、Ⅱb層は約37,600個/cc、SE53　9層は約151,800個/ccであった。微粒炭は人間活動と密接に関係しているとされ、その変化から火入れなどの人為活動が推定されている［安田1987;松井・近藤1992など］。Ⅲ層上部は遺構検出面とされることや栽培植物の種実が多量に含まれることを考慮すると、井戸跡覆土の炭層（SE53　9層）における微粒炭の多産は人為活動を反映していると考えられる。

3）　木製品

掘立柱建物跡の柱根や礎板等の建築部材、漆器、側板、曲物等の木製品からは、針葉樹4種類（マツ属複維管束亜属、マツ属、スギ、アスナロ）と広葉樹12種類（オニグルミ、コナラ属コナラ亜属コナラ節、クリ、ケヤキ、カツラ、アジサイ属、サクラ属、バラ科ナシ亜科、キハダ、カラスザンショウ、ハリギリ、トネリコ属）が認められた（第7表）。全体では、広葉樹の占める割合が高く、針葉樹は少ない傾向にあり、広葉樹材ではクリが約半数を占め、この他にケヤキやトネリコ属が比較的多い傾向にある。

a）　建築部材

遺構･器種別の樹種構成（第8表）をみると、建築部材からは10種類の木材が認められ、クリが最も多かった。クリは、強度および耐朽性に優れた材質を有しており、本遺跡の立地に適した木材といえる。クリ以外の樹種も高い強度を有する種類が多く、ケヤキやキハダはクリと同様に耐朽性が高い材質を有しており、強度や耐朽性を考慮した木材利用が窺われる。SB4の柱根に認められたオニグルミ、サクラ属、コナラ節、SB1杭に認められたトネリコ属も重硬で強度が高い材質を有することから同様の木材利用が推測される。なお、トネリコ属には、低湿地に生育するヤチダモが含まれ、西部遺跡等で立木に確認されている（未公表資料）ことや、前述の花粉分析から周辺にハンノキ属等からなる低湿地林の存在が想定されることから、トネリコ属の木材は遺跡周辺で比較的容易に入手できたと考えられる。

調査対象とした柱根には、芯持丸木や芯持角材、割材等の加工が認められた。このうち、調査試料の多いSB12では、柱根の加工方法は多用であった。また、柱根に多く利用されるクリをみても、芯持丸木や半裁木（分割材）、板目状（分割材）、芯持角材が認められるなど一様ではなく、木材と加工方法に明確な関係は認められなかった。柱根の出土位置と樹種をみると、クリ以外のコナラ節とキハダは、それぞれ内側柱列の南東隅、南西隅に利用されている。さらに、柱根と礎板の樹種をみると、礎板のみ確認されたP872は柱材に多く利用されるクリ、柱根と礎板が認められたP719では柱根はキハダ、礎板はカツラが利用されており、これらの木材利用の違いは注目される。

複数の柱根を対象に調査を行った掘立柱建物跡の樹種構成に着目すると、クリのみを利用する掘立柱建物跡（SB3、SB18、SB28、SB36）、クリ及び他の樹種を利用する掘立柱建物跡（SB9、SB12）、クリ以外の樹種を利用する掘立柱建物跡（SB1、SB4）に分類される。なお、掘立柱建物跡の放射性炭素年代測定結果では、SB1は7～8世紀、SB11・SB15・SB18・SB27は12～13世紀頃の年代観が得られた。

上記した樹種構成を考慮すると、クリ以外の樹種によって構成される掘立柱建物跡は、柱根や礎板等に

クリが２点以上認められた掘立柱建物跡と比較して古い年代を示した。本地域では、天王前遺跡（神林村）の中世の柱材を対象とした分析調査では、クリの多い結果が認められている［パリノ･サーヴェイ株式会社1998］。一方、中世以前の柱材を対象とした分析調査では、道端遺跡（荒川町）の古墳前期の掘立柱建物跡出土の柱材にコナラ節やトネリコ属、エゴノキ属等の利用が認められている［吉川・鈴木2005］が、クリは認められていない。鴨侍遺跡・高柳B遺跡・中曽根遺跡（荒川町）の古代に相当する柱材には、クリが認められ、高柳B遺跡や中曽根遺跡ではクリを主体とする傾向が認められている［株式会社古環境研究所1996、2002;植田2006b］。西部遺跡の掘立柱建物跡の柱根では、クリの割材の利用が認められたほか、筏穴を有する柱根も認められている［未公表資料］。これらの点を考慮すると、本地域周辺では、古代頃にクリ材の利用が始まったと考えられ、中世頃には柱材の主たる用材となったと推測され、本分析結果で認められた掘立柱建物跡の年代観と樹種構成の相異は、これらの傾向を反映している可能性がある。

b）　木製品

木製品は、漆塗椀・皿、刳物、曲物、箸状木製品、木製鉤、数珠玉、羽子板状木製品、棒状木製品、杭、木棺部材、ひょうたん製品からなる。これらの木製品からは、計11種類の樹種が認められた。

漆塗椀・皿は、横木取であり、樹種はケヤキであった。ケヤキは、ブナ属やトチノキと共に漆塗椀・皿に多くみられる樹種の一つである。新潟県内では、中世～近世の挽物容器については200例近い調査事例のうちケヤキが約100例を占めており、確認されている樹種の中で最も利用量が多い。

なお、住吉遺跡（新発田市）では、調査対象とされた漆塗皿、漆塗稜椀、漆塗椀、白木皿の計28例のうち、スギ（２点）とトチノキ（１点）を除くと全てがケヤキであり、ケヤキが多く利用される［植田2006a］。一方、大武遺跡（長岡市）では、中世の挽物容器の調査結果でブナ属が多く、ケヤキが少ないといった対照的な事例［松葉2000］も認められている。現段階では、遺跡間において樹種構成が異なる背景は不明である。また、新潟県内で出土した挽物容器には皿や椀等が認められているが、器種による樹種構成の差異は明瞭ではなく、木材利用の違いを言及するに至らない。

刳物は、サクラ属であった。サクラ属の木材は、重硬で均質・緻密であり、刳物や彫刻などに利用される。本地域における刳物の調査事例では、大木戸遺跡（神林村）でクリの利用が認められているのみである［パリノ･サーヴェイ株式会社2001］。また、新潟県内においても、仲田遺跡（上越市）においてトチノキの利用が認められている［三村・植田2003］程度である。

曲物は、いずれも針葉樹のスギであった。スギ材は、木理が通直で割裂性が高く、加工が容易な材質を有する。曲物の部材としては、スギやヒノキ科の木材が多く利用される傾向にあるが、本地域ではスギ材の利用が多く、ヒノキ科の木材は少ない。ヒノキ科は、主に山地の尾根線上等に生育しており、低地には生育していない。また、現在の本地域の植生をみると、ヒノキ科の樹木はほとんど分布していないことから、中世においてもヒノキ科の木材は容易に入手できる種類ではなかった可能性があり、そのことが本地域でヒノキ科が少ない背景に考えられる。一方、スギは低地に生育する樹木であり、新潟県南部を中心に多くの調査事例が認められている。本遺跡周辺ではスギの調査事例が少なく課題が残るが、上記した花粉分析結果ではスギ属が検出されていることから、周辺で入手可能な木材であったと考えられる。

箸状木製品は、いずれも削出棒状を呈し、角棒状（断面が角材）・丸棒状（断面が楕円形）の２種類が認められた。樹種は、スギとナシ亜科である。新潟県内における中世の箸の調査事例は多数あり、スギを中心として針葉樹材を利用する傾向が認められているが、広葉樹材の事例は知られていない。

木製鉤は、アジサイ属であった。試料の観察では、樹木の枝が出た部分を利用している状況が認められた。アジサイ属には多くの種類が含まれるが、本地域の現植生や得られる木材の大きさ、強度等を考慮すると、比較的強度の高いノリウツギの可能性がある。ノリウツギは本地域の山野の林縁部等に普通にみられる種類であることから、周辺で入手可能な木材を利用したことが推定される。なお、新潟県内における木製鉤の調査事例では、寺地遺跡（糸魚川市）から出土した中世～近世とされる資料が１例あり、アカマツに同定されている［植田2002］。

墓（SG313）からは、木棺及び数珠玉が出土している。このうち、数珠玉は、針葉樹のアスナロであった。数珠玉は多数出土しており、これらの観察では木目・色調・木取はいずれも類似していたことから、同一の樹種の可能性がある。新潟県内では、東原町遺跡（柏崎市）において中・近世とされる数珠玉の調査事例があり、散孔材の道管配列を有する広葉樹であることが確認されている［パリノ･サーヴェイ株式会社2005］。一方、木棺は、蓋はアスナロ、側板はマツ属複維管束亜属、横木はマツ属であった。マツ属は、保存状態が悪かったが、側板の同定結果や周辺の植生を考慮するとマツ属複維管束亜属の可能性がある。また、桜林遺跡（荒川町）において検出された木棺からもマツ属複維管束亜属が確認されており（未公表資料）、調査事例は少ないものの木材利用の傾向が同じであることから、マツ属複維管束亜属の木材が選択的に利用された可能性がある。なお、蓋板及び数珠玉に認められたアスナロは、現在の植生では福島県との県境付近の山地尾根上に分布しているが、本地域周辺には分布は認められていない。よって、アスナロの利用やその背景については今後の課題である。

漆器の塗膜構造については分析対象とした漆器椀・皿は、いずれも内・外とも黒色を呈し、炭粉を用いた下地であることが認められた。炭粉のみでは塗布面が固定できないことから、何らかの物資を混ぜていることが想像されるが、いずれの試料も炭粉の密度が高く、膠着材はほとんど認められなかった。これまでの漆器を対象とした研究によれば、平安時代末以降の出土漆器では炭粉と漆を混ぜた炭粉下地はほとんど認められず、漆の代替として柿渋に炭粉を混ぜた柿渋下地が大部分を占めるとされている［岡田1995］。本地域周辺での分析事例をみても柿渋下地が確認されていることから、今回の試料も炭粉と柿渋を混ぜた柿渋下地の可能性がある。ただし、膠着剤が認められなかったことや、炭粉の状況から赤外分光分析等による検証も不可能と判断されるため、柿渋の存在を特定するに至らない。また、下地の上の漆層が観察された４試料は、それぞれ漆層の塗布回数の違いが認められた。観察範囲内で認められた漆塗りの回数（漆層）は、１回（１層）が２点、２回（２層）が１点、３回（３層）が１点であった。漆層の厚さの違いは、製品の耐久性などに直結すると共に、漆塗りの回数が増える分だけ時間・労力・材料費等が増大すると考えられ、これらの違いは漆器の品質等の違いを反映している可能性がある。

引用・参考文献

伊東隆夫　1995　「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ」『木材研究・資料31』　京都大学木質科学研究所

伊東隆夫　1996　「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ」『木材研究・資料32』　京都大学木質科学研究所

伊東隆夫　1997　「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ」『木材研究・資料33』　京都大学木質科学研究所

伊東隆夫　1998　「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ」『木材研究・資料34』　京都大学木質科学研究所

伊東隆夫　1999　「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ」『木材研究・資料35』　京都大学木質科学研究所

石川茂雄　1994　『原色日本植物種子写真図鑑』　石川茂雄図鑑刊行委員会

植田弥生　2002　「木製品および埋没林の樹種同定」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第113集　北陸新幹線関係発掘調査報告書Ⅰ　寺地遺跡』　新潟県教育委員会

植田弥生　2006a　「出土木製品の樹種同定」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第157集　日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書XIII　住吉遺跡』　新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

植田弥生　2006b　「出土木製品の樹種同定」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第168集　日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書XXI　中曽根遺跡』　新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

岡田文男　1995　『古代出土漆器の研究　顕微鏡で探る材質と技法』　京都書院

株式会社古環境研究所　1996　「自然科学分析」『荒川町埋蔵文化財発掘調査報告第3集　高柳A遺跡・高柳B遺跡・名割遺跡　県営圃場整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ』　新潟県荒川町教育委員会

株式会社古環境研究所　2002　「鴨侍遺跡出土木材の樹種同定」『荒川町埋蔵文化財発掘調査報告第8集　一級河川乙大日川（烏川工区）統合一級河川整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　鴨侍遺跡』　荒川町教育委員会

近藤錬三　2004　「植物ケイ酸体研究」『ペドロジスト』48

島地　謙・伊東隆夫　1982　『図説木材組織』　地球社

中山至大・井之口希秀・南谷忠志　2000　『日本植物種子図鑑』　東北大学出版会

林　昭三　　1991　『日本産木材　顕微鏡写真集』　京都大学木質科学研究所

パリノ・サーヴェイ株式会社　1993　「自然科学分析からみた人々の生活（1）」『慶應義塾藤沢校地埋蔵文化財調査室編「湘南藤沢キャンパス内遺跡　第1巻　総論」　慶應義塾

パリノ・サーヴェイ株式会社　1998　「柱根等の用材」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第89集　県営ほ場整備事業（神林村）関連埋蔵文化財発掘調査報告書　天王前遺跡・有明的場遺跡・石川遺跡』　新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

パリノ・サーヴェイ株式会社　2001　「里本庄遺跡群の自然科学分析」『神林村埋蔵文化財報告第11集　里本庄遺跡群内御堂遺跡・大木戸遺跡・里本庄B遺跡・光明寺遺跡』　神林村教育委員会・山武考古学研究所

パリノ・サーヴェイ株式会社　2005　「木製品樹種同定及び鉄滓成分分析」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第140集　一般国道8号　柏崎バイパス関係発掘調査報告書Ⅲ　東原町遺跡・下沖北遺跡Ⅱ』　新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.（編）　1998　『広葉樹材の識別　IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト　伊東隆夫・藤井智之・佐伯　浩（日本語版監修）』　海青社

松井　健・近藤鳴雄　1992　『土の地理学－世界の土・日本の土－』　朝倉書店

松谷暁子　1980　「十勝太若月遺跡出土炭化物の識別について」『浦幌町郷土博物館報告』16

松谷暁子　2000　「植物遺残の識別と保存について」『Ouroboros,東京大学総合研究博物館ニュース』5,

松葉礼子　2000　「大武遺跡出土木製品の樹種同定」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第97集　一般国道116号和島バイパス関係報告書Ⅰ　大武遺跡Ⅰ（中世編）』　新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

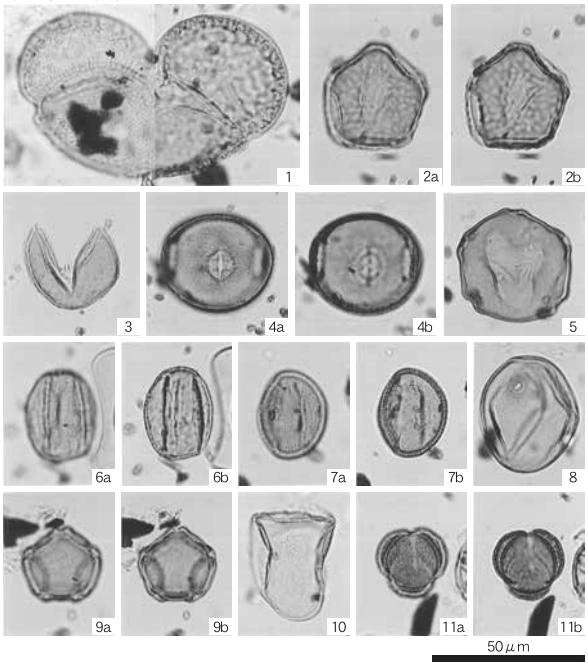
三村昌史・植田弥生　2003　「仲田遺跡出土木製品の樹種」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第128集　北陸新幹線関係発掘調査報告書Ⅱ　仲田遺跡』　新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

安田喜憲　1987　『文明は緑を食べる』　読売新聞社

吉川純子・鈴木三男　2005　「道端遺跡より出土した加工材の樹種」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第142集　日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書Ⅶ　道端遺跡Ⅲ』　新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

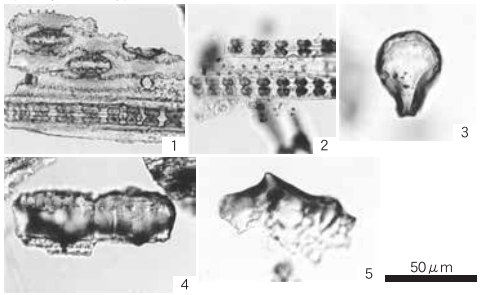
Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E.（編）　2006　『針葉樹材の識別　IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト　伊東隆夫・藤井智之・佐野雄三・安部　久・内海泰弘（日本語版監修）』　海青社

第13図　花粉



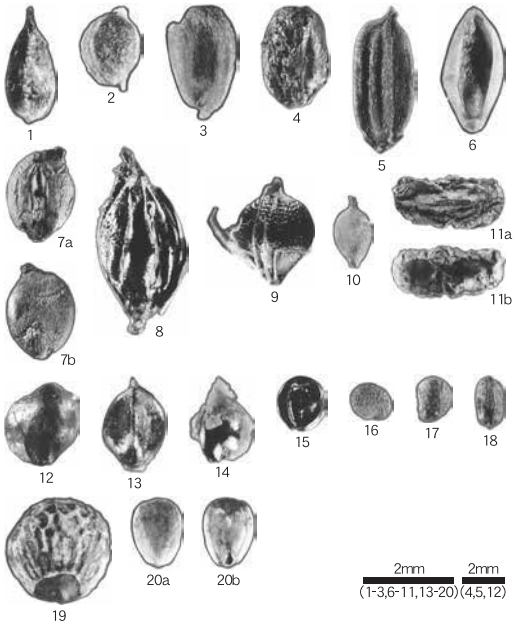
1. マツ属(2地点；Ⅲb層)
2. ニレ属ーケヤキ属(2地点；Ⅲb層)
3. スギ属(2地点；Ⅲb層)
4. ブナ属(2地点；Ⅲb層)
5. サワグルミ属(2地点；Ⅲb層)
6. コナラ属コナラ亜属(2地点；Ⅲb層)
7. トネリコ属(2地点；Ⅲb層)
8. イネ科(2地点；Ⅲb層)
9. ハンノキ属(2地点；Ⅲb層)
10. カヤツリグサ科(2地点；Ⅲb層)
11. ヨモギ属(2地点；Ⅲb層)

第14図　灰像



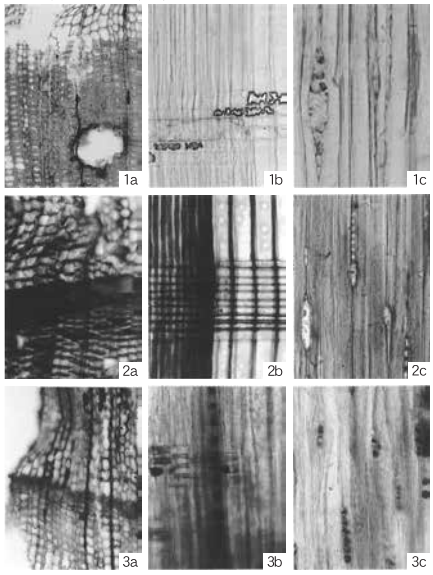
1. イネ属短細胞列(SE88；1－3層)
2. イネ属短細胞列(SE88；1－3層)
3. イネ属機動細胞珪酸体(SE88；1－3層)
4. イネ属機動細胞列(SE88；1－3層)
5. イネ属穎珪酸体(SE88；1－3層)

第15図　種実遺体



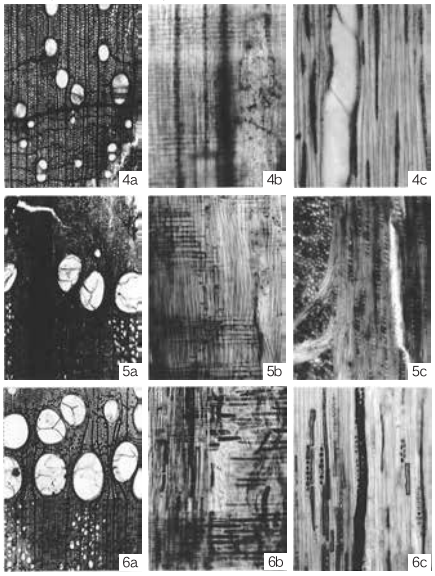
1. カワツルモ 果実(SE53；9層)
2. ヒルムシロ属 果実(SE88；7層)
3. ヘラオモダカ 果実(SE53；9層)
4. イネ 胚乳・穎(SE53；9層)
5. イネ 穎(SE53；9層)
6. エノコログサ属 果実(SE53；9層)
7. イネ科(ヒエ近似種) 胚乳(SE53；9層)
8. イネ科(ヒエ近似種) 果実(SE53；9層)
9. ホタルイ属 果実(SE53；9層)
10. カヤツリグサ科 果実(SE53；9層)
11. イボクサ 種子(SE53；9層)
12. アサ 種子(SE53；9層)
13. タデ属 果実(SE53；9層)
14. アカザ科 種子(SE53；9層)
15. ヒユ科 種子(SE53；9層)
16. ナデシコ科 種子(SE53；9層)
17. キジムシロ属ーヘビイチゴ属ー
    オランダイチゴ属 核(SE53；9層)
18. オトギリソウ属 種子(SE53；9層)
19. エゴマ 果実(SE53；9層)
20. シロネ属 果実(SE53；9層)

第16図　木材(1)



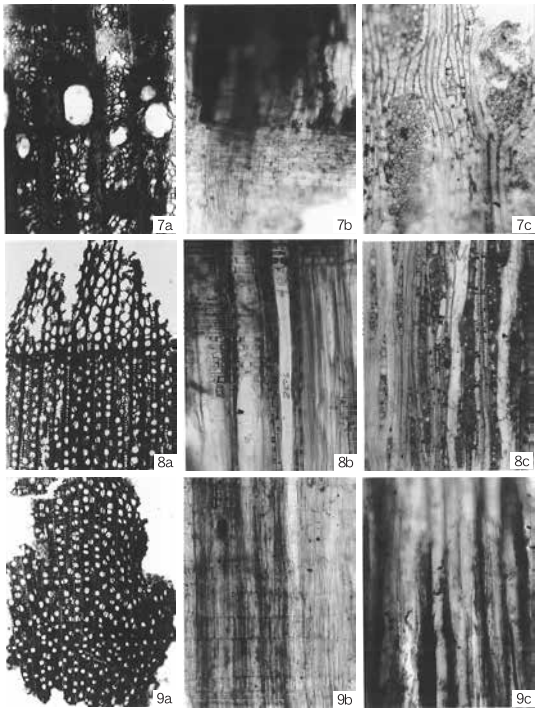
1. マツ属複維管束亜属(SG313；326)　200μm：a
2. スギ(SK81；315)　200μm：b,c
3. アスナロ(SG313；323) a：木口，b：柾目，c：板目

第17図　木材(2)



4. オニグルミ(SB4 P132；121)　200μm：a
5. コナラ属コナラ亜属コナラ節(SB12 P323；134)　200μm：b,c
6. クリ(SB3 P51；118) a：木口，b：柾目，c：板目

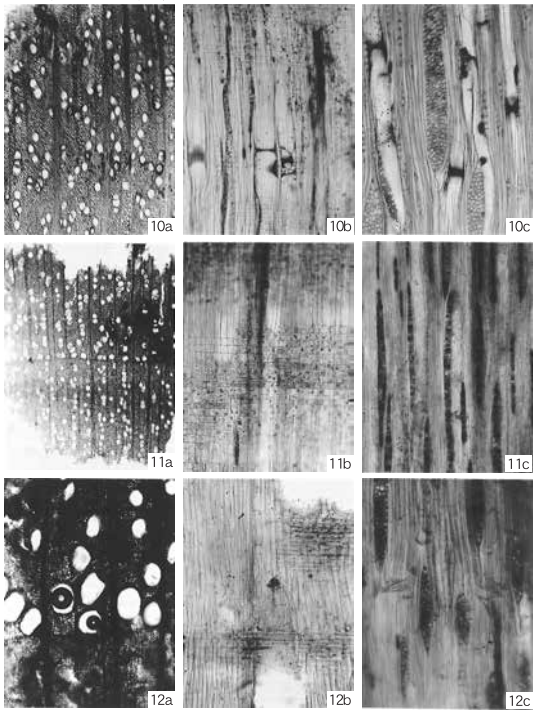
第18図　木材(３)



7. ケヤキ(SE551；304)
8. カツラ(SB12 P719；138)
9. アジサイ属(SE82；198) a：木口，b：柾目，c：板目

200μm：a
200μm：b,c

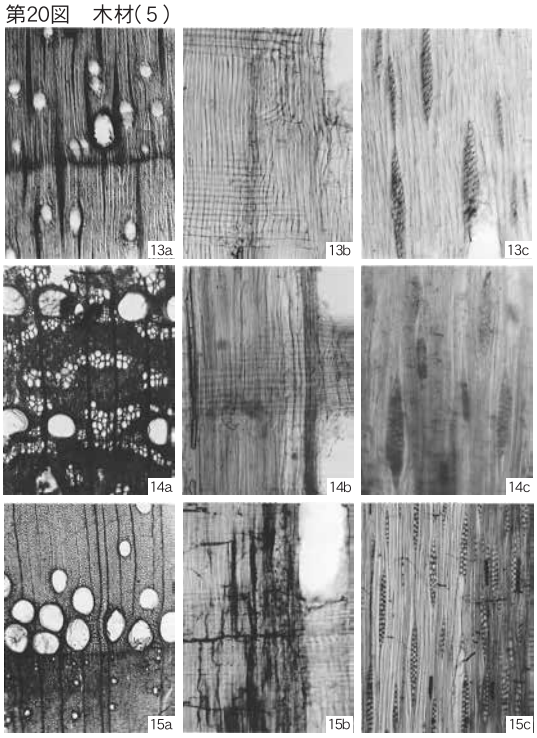
第19図　木材(４)



10. サクラ属(SB4 P133；123)
11. バラ科ナシ亜科(SE336；292)
12. キハダ(SB4 P143；112) a：木口，b：柾目，c：板目

200μm：a
200μm：b,c

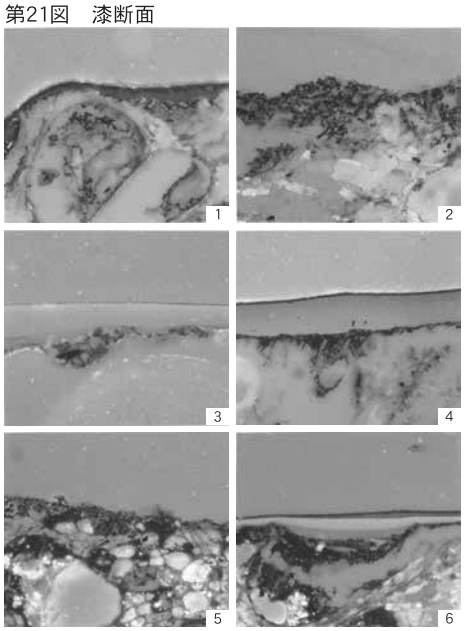
第20図　木材(５)



13. カラスザンショウ(SB11 P298；130)
14. ハリギリ(SB14 P702；146)
15. トネリコ属(SB1 杭21；114) a：木口，b：柾目，c：板目

200μm：a
200μm：b,c

第21図　漆断面



1. SE53；172内面
2. SE54；181外面
3. SE330；224内面
4. SE330；223内面
5. SE336；274内面
6. SE551；303内面

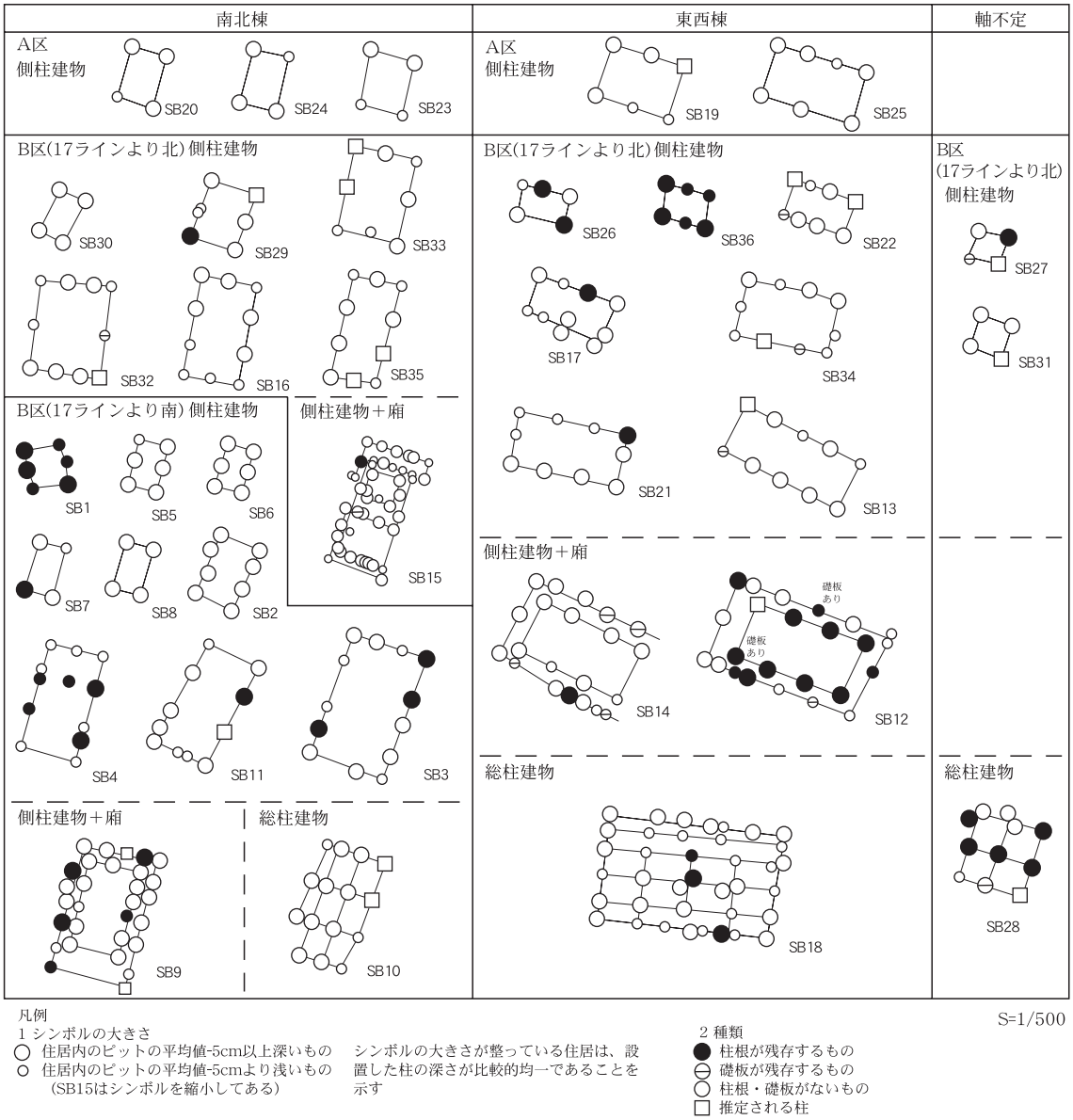
100μm

5 ま と め

A 遺 構

1) 掘立柱建物

本遺跡で検出した柱穴および杭を検討した結果、掘立柱建物は36棟が確認できた。建物は遺跡北部の19E・F区付近で多数確認したのに対し、17ラインより南側では疎となる。



第22図 掘立柱建物の構造分類図

田屋道遺跡で確認した掘立柱建物36棟のうち3棟が総柱建物（SB10・18・28）で、残りは側柱建物である。側柱建物で廂があるものはSB 9 ・12・14・15である。建物の構造別ごとに規模の最大・最小のものを以下に示した。（記載順 建物種別：最大、最小規模建物No/長辺規模/短辺規模） 1）

1） 桁・梁については上屋構造が不明のため、掘立柱建物の柱列の長い方を「長辺」短い方を「短辺」とし、上屋構造を述べる等必要があれば桁・梁を用いた。

総柱建物　　：最大SB18/長辺約12m/短辺約６m（廂を除く）：最小SB28/調査区隅で規模不明
側柱建物　　：最大SB３/長辺約９m/短辺約５m　　：最小SB27/全辺約２m
側柱建物に廂：最大SB12(身舎)/長辺約８m/短辺約４m　　：最小SB９(身舎)/長辺約６m/短辺約４m

遺跡全体の掘立柱建物をみると、建物の種別と規模の間には関連性はないと考える。だが側柱建物で廂を持つSB12と14は身舎の規模、廂の幅が近似している。また、長辺方向が５mを超える掘立柱建物は、短辺方向は柱間が１間で４m、２間で４mというのがこの建物の規格の基準になるようである。近隣の遺跡をみると新発田市住吉遺跡［高橋・新山ほか2006］において長辺が５mを超える掘立柱建物17棟の平均短辺（廂部分を除く）が4.2m、西部遺跡［鈴木・折原ほか2005］の掘立柱建物４棟の平均短辺（全て側柱建物）が3.8mであることから、短辺（梁行）の寸法は近似している。

柱穴構造には掘方がない打込み柱、掘方の底面下に打込むもの、掘方があり、その中に柱を据えるもの、柱穴底面に礎板を置くものがある。建物の構造と柱穴の構造の関連性を考察するため、柱根・礎板の残存状況および柱穴の深さについて分析した（第22図）結果は以下の通りである。

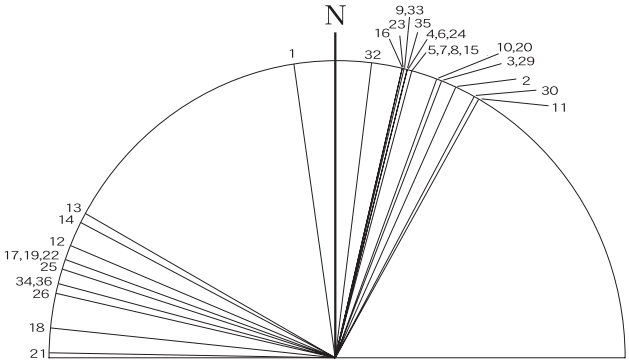
１．長辺（桁行）５m以下の側柱建物については、比較的柱穴の深さが均一である。
２．掘立柱建物における柱根の残存位置に斉一性は見られない。
３．掘立柱建物内で礎板を有する柱穴は少なく、他の柱穴に比べ浅いものが多く見られる。

１については、『日本常民生活絵引』［澁澤1984］などから、この規模の建物は比較的簡素な造りで上屋の重量も軽いものが多く、荷重のかかる柱を深くする必要がないため、柱穴の深さが均一になると考える。一方、近世民家の例であるが、長野県栄村の「旧山田家住宅」のように規模の大きい上屋を持つものでは、荷重のかかる位置には太い柱や掘立柱を用い、残りのものは礎石の上に直接柱をたてている。柱にかかる荷重の差が住居全体の柱の深さが均一でないことの要因と考える。

２については、柱根が顕著に残っている掘立柱建物はSB１、12、28、36であるが、その他の建物については柱根が残存する柱穴はまばらで、その位置にも斉一性がない。これは建物を建替え又は壊す際に、使用できる部材を抜き取り転用した結果と、また柱根が残るのは根腐れ等により抜き取り時に折れたものと考える。

３については、前述した「旧山田家住宅」で見られるように、すべて柱に礎板を用いるのではなく、屋根などの荷重がかかる柱を選択して用いた可能性がある。この点は礎板が多く残存する掘立柱建物が確認された住吉遺跡とは対照的である。

次に主軸方向についてまとめた（第22・23図）。南北棟については21棟のうち12棟がN15°E近辺にある。南北棟の中で主軸が外れているのはSB１である。SB１は全て打込み杭で、中柱がやや外側に膨らむ構造である。建物の時期は放射性炭素年代測定の結果が古代で、時期が異なる。同じ時期の西部遺跡［鈴木・吉田ほか2006］のSX4001に構造が類似している。東西棟については、17ラインより北側の調査区B区に集中しており、SB13・14と12・17およびSB18・21は建物の主軸方向が近似している。南北棟および東西棟の関連については、遺跡全体の掘立柱建物について東西棟と南北棟の主軸はほぼ直交



第23図　掘立柱建物の主軸方向

する。このことから田屋道遺跡では、なんらかの理由で建物を建てる際に南北または東西に建物の軸が制限されたことが伺える。また、『日本常民生活絵引』［澁澤1984］では、集落内の建物がコの字形に配置されているものが見られることから、田屋道遺跡の南北棟と東西棟については必ずしも時期差をあらわすものではないと考える。

SB No	放射性炭素年代測定(AMS)	近接井戸No	井戸の遺物年代（備考）	備考	SB No	放射性炭素年代測定(AMS)	近接井戸No	井戸の遺物年代（備考）	備考
1	621(37)				16		534	珠洲Ⅰ～Ⅲ期	
2		53	珠洲Ⅰ～Ⅲ期･漆塗皿12～13世紀		17		327	珠洲Ⅲ期	
		82	珠洲Ⅱ期				328	珠洲Ⅲ～Ⅳ期	
		88			18	1169(33)	534	珠洲Ⅰ～Ⅲ期	SB18はSE551より古い
3		54	漆塗皿12～13世紀				**551**	漆塗椀13世紀前～中	
		56					684	珠洲Ⅰ～Ⅱ期･土師質土器皿14世紀	
4		105			19		**778**		
		134			20		778		
5		181			21		534	珠洲Ⅰ～Ⅲ期	
7		181		SB5はSE181より古い	23		613		
11	1119(37)				24		613		
12		326			27	1118(34)			
		398			28		**326**		SE326はP318より古い
13		326					330	珠洲Ⅲ期･漆塗皿12～13世紀･土師質土器皿13世紀	
		328	珠洲Ⅲ～Ⅳ期				**336**		
		330	珠洲Ⅲ期･漆塗皿12～13世紀･土師質土器皿13世紀		29		326		
		336					336		
14		**398**		P723より14世紀の土師質土器出土	30		**326**		SE336はP337より新しい
15	1106(31)	326		P464より14世紀の土師質土器出土			**336**		
		327	珠洲Ⅲ期		32～35		**684**	珠洲Ⅰ～Ⅱ期･土師質土器皿14世紀？	SB32～34はSE684より古い
		330	珠洲Ⅲ期･漆塗皿12～13世紀･土師質土器皿13世紀						
		336			36				

AMSについては分析した柱材の放射性炭素年代測定、暦年較正結果の数値を1950から引き、（）内の数値は前後差である。
近接井戸については掘立柱建物の外縁から3m以内のものとした。太字のものは掘立柱建物内（柱間にある場合を含む）にある井戸である。

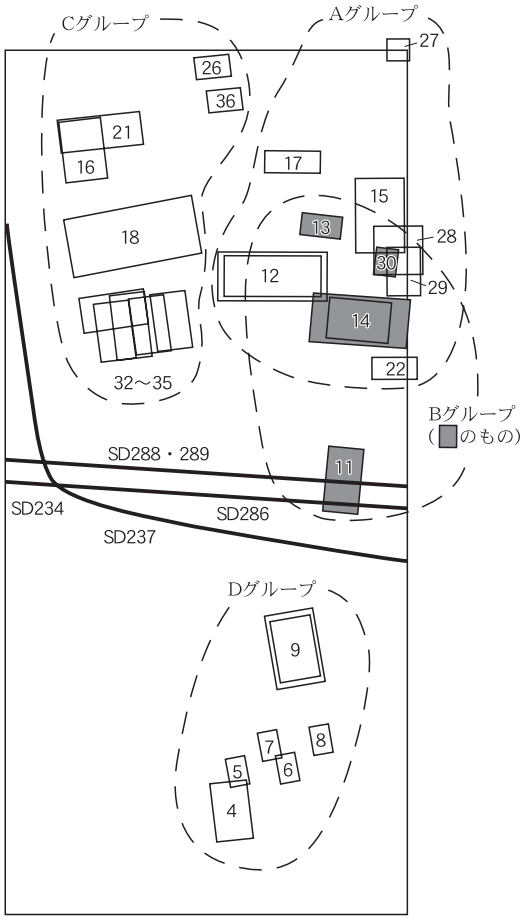
第９表　掘立柱建物と井戸の推定年代一覧

次に井戸が近接する建物の構造と遺跡における位置を検討すると（第９表）、中～大規模の建物には井戸が近接することが多い。坂井遺跡［小田2006］で指摘されているように、井戸は一定の規模をもった建物に付属する形で設置されたと考えられ、越後の中世村落の一般的な形態と言えよう。

田屋道遺跡では掘立柱建物間の重複や出土遺物がほとんど見られないことから時期の特定は難しい。柱材の放射性炭素年代測定（AMS）の結果はSB１以外の建物は概ね12世紀以降の値を示す。井戸から出土した遺物の年代も考慮すると、田屋道遺跡の掘立柱建物の帰属年代は概ね中世前～中期と考えてよさそうである。

田屋道遺跡の掘立柱建物を個々の要素について述べたが、最後に掘立柱建物の構成と分布を概観したい。掘立柱建物の主軸、構造、分布などから特徴が見られた建物を４グループに分けた（第24図）。

Ａグループ　主軸がN70°W付近のSB12・17・22、直交関係にあり主軸がN20°E付近のSB15・27・28・29で、調査区B区の北東部に位置し、東側で建物の重複が見られる。（SB27・28は正方形であるが側から推定）



第24図　Ｂ区掘立柱建物グループ模式図

Bグループ　主軸がN60°W付近のSB13・14、直交関係にあり主軸がN30°E付近のSB11・30で、Aグループよりやや南に位置し、東側でAグループの建物と重複が見られる。

Cグループ　主軸がN75～80°W付近のSB18・21・26・34・36、直交関係にあり主軸がN15°E付近のSB16・32・33・35で、西側および南側で建物の重複が見られる。

Dグループ　主軸がN15°E付近のSB４～９で調査区B区中央に位置する。SB４～６については建物の重複が見られる。

建物と溝の関連をみると、A・Bグループの建物は主軸がSD286・288・289と、Cグループは主軸がSD234と平行または直交する。SD237についてはSD234・535（A区）を含め区画を呈していると思われ、Cグループはこの区画との関連性が高いと思われる。

次にグループ間の新旧関連について述べる。

Aグループについては、SB28に製材で角柱のものが含まれる。SB28とBグループのSB30の新旧関係はSB28の方が新しい。近接する井戸の遺物年代が概ね12～14世紀で、SB15・27の柱材の放射性炭素年代測定（AMS）の数値は12世紀前半を示す。

Bグループについては、近接する井戸の遺物年代が12～13世紀で、SB11の柱材の放射性炭素年代測定（AMS）の数値は12世紀前半を示す。

Cグループについては、近接する井戸の遺物年代が12世紀後半～14世紀で、SB18の柱材の放射性炭素年代測定（AMS）の数値は12世紀後半を示す。SB18・21はそれぞれSE551・684より古い。

Dグループについては、新旧関係を分析することはできなかった。

井戸の遺物年代、放射性炭素年代測定値（AMS）等からグループ間に明確な時期差は存在しなかったと考える。

グループ内の建物の構成について検討すると、AグループのSB12・17、BグループのSB14・13、DグループのSB９・４はともに廂を持つ建物と、井戸が近接する側柱建物の組み合わせであり、身舎の規模が類似している。Cグループにおいても大型の建物のSB18と井戸が近接する側柱建物のSB16・21が見られる。このことから、大型の建物、井戸が近接する中型の側柱建物、中～小型の建物がグループ内でのセットであり、集落における屋敷地の建物構成に関連があると考える。

以上のことから、田屋道遺跡では、数棟の掘立柱建物と井戸からなる屋敷地をもつ散村的な景観［坂井1997］があり、その中には区画溝を廻らしたり、道路で隔てられたりしていたものがあったであろう。今後、区画溝と屋敷地の変遷について詳細に分析されれば、中世における建物を区画する溝の成立についての考察が深まるものと考える。

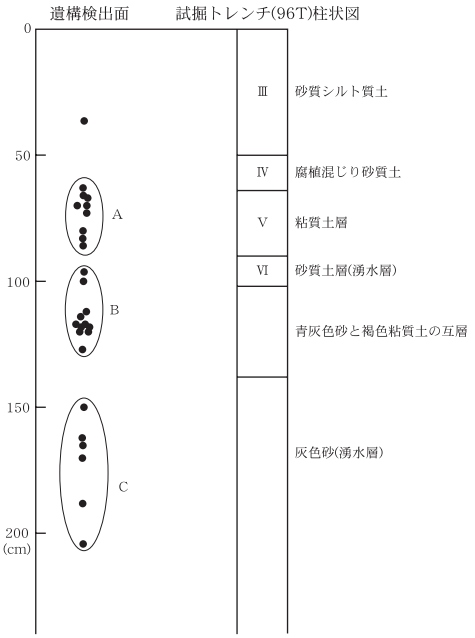
2）井　　戸

田屋道遺跡からは27基の井戸を検出した。井戸はいずれも井戸側等の施設がない素掘りの井戸である。井戸の平面形はおおよそ円形であるが、SE56のように六角形に近い形状のものもある。断面形は台形状のものと、漏斗状に上面が外側に開くものに二分できるが、台形状としたものでも元々漏斗状であったものの上部が削平され、その結果、台形状となったものも含まれると推測する。SE82のように袋状を呈するものについては、壁が崩落した結果、形状が変化したものと考える。

井戸の掘削深度は、第25図のように多くが0.6～２mの間に収まりA～Cの集中域がある。Aグループは

深さ0.6～0.9mの間にあり、遺構検出面から１mほどのところにある湧水層のやや上に井戸底部があり、水は染み出すように湧水する。Bグループは1.1～1.2mのところに集中している。この部分ではかなりの湧水量があり、ほぼ一時間ほどで井戸の8割ほどが水没した。Cグループは1.5～２mの深さを持つもので、この部分の壁は灰色砂になっており、やはり湧水がある。

井戸の覆土については、人為的な埋め戻しと、自然に埋没したものに大別した。その模式図を第26図に示した。これによると人為的な埋め戻しに際しては、ヨシ・アシ類が入れられるもの（SE33・55)、炭化物が入れられるもの（SE53・88・118・327・330・336)、埋まり切れずに窪み状になったものを埋め戻したもの（SE82・88・336・684）と、ほぼ全部を埋め戻したもの（SE326・327・398・330）がある。全て自然に埋没したものにはSE54・75・134・328・357・534・551がある。

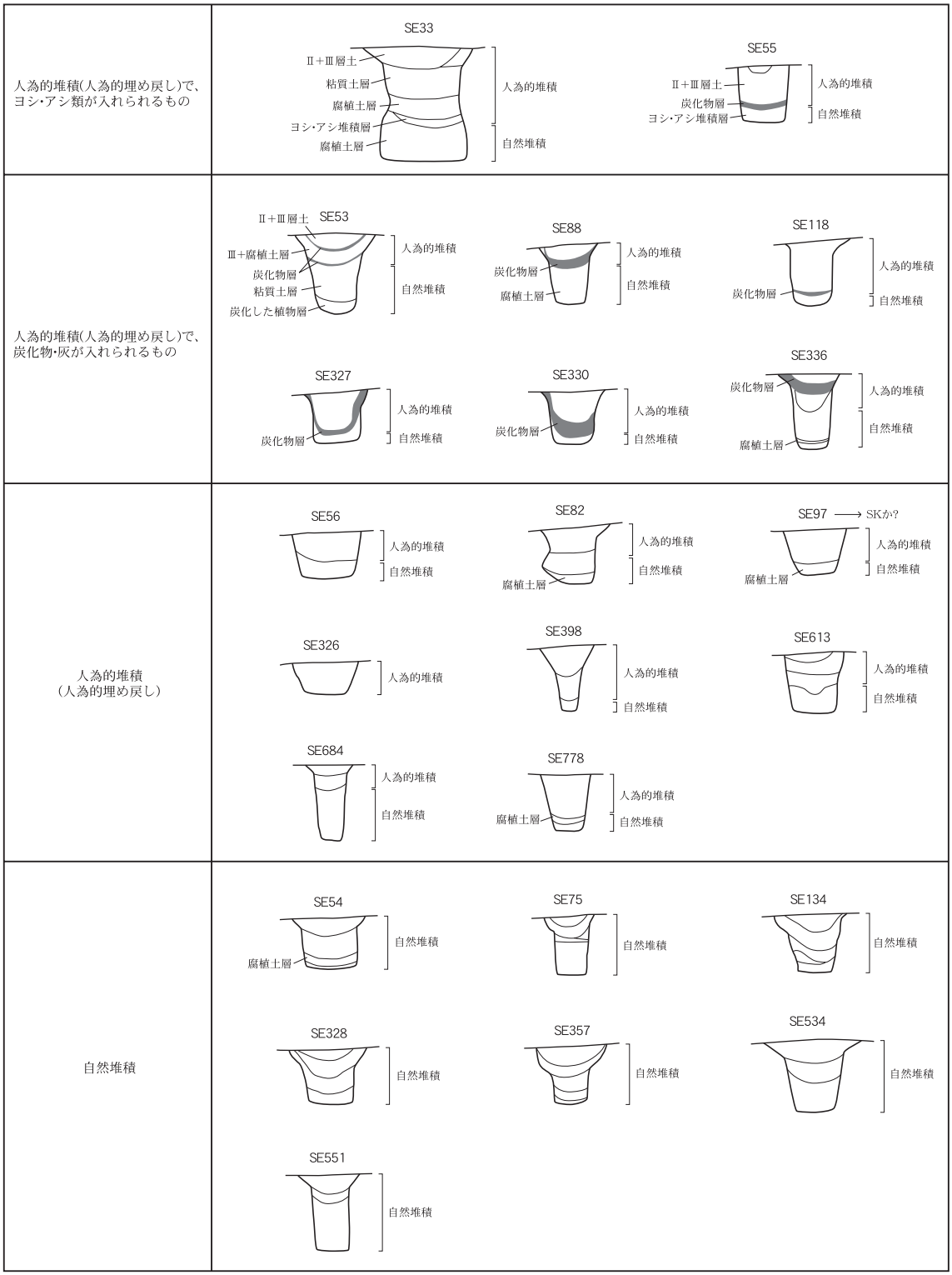


第25図　井戸の掘削深度と地層相関図

井戸と他遺構の関連としては、掘立柱建物に伴うものとそうでないものがある。前者としてはSB３に付随するものとしてSE54・56がある。SE56はSB３の拡張に際し埋め戻され、SE54が新たに掘られたものと解釈した。９B・C区にはSE53・75・82・88の４基の井戸が集中しているが、ここにはSB２が１棟あるだけで、すべてこれに付随するのものとは考えづらい。他の用途を想定する必要があるが検討材料に乏しい。建物に伴わない例としては他にSE97が該当しよう。その他の井戸は、掘立柱建物に伴う井戸としてよいものと考える。

遺物の出土状況について、前文で述べた井戸覆土の分類に自然科学分析の成果を加味して述べる。井戸の人為的な埋め戻しに際して、ヨシ・アシ類を入れる点については神林村内の事例から梅干しとヨシとの語呂合わせを用いた祭祀があることを住民から聴取しており、これについての論考もすでになされている［田辺2001］。また、井戸の廃棄後は、井戸神様の祟りをさけるため自然に埋没させるのが一般的で、一挙に埋める必要があるときは息抜きのための竹などを差し入れるとされる［鐘方2003］が、本遺跡ではこのような痕跡を確認していない。覆土に炭化物を入れる点についは、やはり神林村の住民から水質を改善するために今でも入れることを聴取しているが、調査では井戸底面に炭化物はなく、井戸覆土の中位から上位で検出している。自然科学分析では井戸から検出した炭化物の灰像分析を行った。その結果、炭化物中にはイネの穎、ヒエに近似するイネ科の果実、アサ、エゴマが多く（報告ではSE53の９層からはイネの穎705個、ヒエに近似するイネ科の果実437個とある）確認同定されている。これらはいずれも食用とされる種類であり、井戸を埋める際に井戸神様に供したものと考えることもできる。

次に井戸内から検出した礫・焼礫について述べる。新潟県内では井戸内部から焼礫が出土する事例が多い。埋め戻す際に入れられると考えられているがその意味合いは不明である。本遺跡では、SE75・88・105・134・328・330・336・398・534・551・684の各井戸から出土している。このうちSE684では、底面に焼礫と自然礫が敷き詰められたような状態であった。同じ事例が用言寺遺跡Ⅰ［加藤2006］のSE61・151で報告されており、考察では井戸の廃棄儀礼としているが、本遺跡では敷き詰められているという状況から浄水施設としての可能性を付記しておきたい。



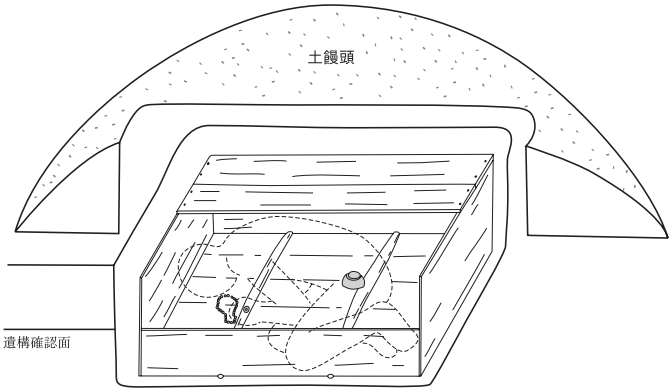
第26図　井戸覆土の分類図

次に遺物の出土状況について少し整理しておきたい。覆土の堆積状況について分類を行ったが、それに基づき遺物の出土状況をまとめてみた。人為的埋め戻しと判断した３グループのうち、アシ・ヨシ類が入れられた井戸からは目立った遺物は出土していない。SE55にわずかに箸状木製品と考えたものがあるのみである。炭化物が大量に入れられた井戸では、漆塗皿、杭状木製品、曲物、羽子板状木製品、菰槌などが、いずれも炭化物層下の自然堆積土中から出土している。アシ・ヨシ類および炭化物層がない人為的埋

め戻し井戸では、８基中２基から木製鉤、漆塗皿、刳物、板、箸状木製品が出土している。出土層位はいずれも自然堆積層である。遺物の出ない井戸は全部が人為的堆積と思われる覆土を持つものである。一方自然堆積と思われる井戸では概ね中～下層で漆塗皿・椀、箸状木製品、曲物、矢板状木製品、杭等が出土している。出土した遺物はほとんどが井戸の廃棄後に入れられた遺物といえよう。

3） 墓

墓は、B区北西部21C４・９区で１基検出した。周辺にはほかに遺構はなく、やや離れた位置に大型土坑（SK400・437）や、小規模な溝（SD392・412）があるのみである。長軸0.98m、短軸0.82mの掘方の中に、長辺0.85m、短辺0.58m、深さ0.16m程の木棺が構築されていた。本遺跡は後世の削平が激しく、実際はもう少し掘り込みが深かったものと推測する。



第27図　墓模式図

おそらく上部構造は土饅頭が築かれ、植樹や積み石などがされていたと想像する。木棺は床板の上に横木を２本渡し、４辺を板材（側板）で囲っていた。北・東側は遺存していたが、西・南側はほとんど残っていなかった。木棺の接合部が荷重に耐えられないと考えられることから、遺体を収納して持ち運ぶような性格の棺ではなかったと推測できる。蓋板は２枚のみを検出した。遺構は剥ぎ取り保存をしたため、掘方の底面は未確認であるが、床板からそれほど深くはなかったと考える。人骨を検出していないため遺体の体位は不明であるが、木棺の規模・地域性などから考えて屈葬であったと推測する。木棺の規模が小さいため座屈葬の可能性もあるが、遺構の深さを考えると無理があるようで、側臥屈葬であった可能性が最も高い。側臥屈葬であったと仮定すると、木棺の長辺が0.85m程であることから、被葬者は小柄な人物、女性や子どもの可能性があるのではないか。

副葬品は数珠玉が66点以上、漆塗椀が１点、至大通寶が１点であった。遺構の年代は、棺材の放射性炭素年代測定（AMS）の結果および遺物の特徴から、16世紀から17世紀前葉であろう。中世北陸の副葬品については、中世前期は土師質土器皿のセットが主体であるのに対し、中世後期は六道銭としての銭貨が中心となり、それに数珠玉・漆器などが加わる傾向にあることが指摘されている［島田1994］。本遺構も六道銭としての銭貨が１枚と簡素化されてはいるが、中世後期の副葬品の特徴を備えているといえる。

以上のように、SG313は中世後期の墓であることは間違いないであろう。そこでSG313は、どのような性格の墓であるのかということが問題となる。中世後期の墓制の特徴として、火葬の普及と共同墓地の成立があげられる。中世後期は土葬も多くなるが、前期と比べて圧倒的に火葬の事例が増える。中世前期において庶民層は風葬に処されるのが一般的であったが、後期になると土葬・火葬の違いはあるものの埋葬されることが増える。その結果墓域が遺跡として検出され、共同墓地の成立という現象となる。葬送形態が風葬から埋葬に変化した背景には、死体は穢れたものという意識から、死体を「仏」として供養対象とするようになった現れであるという［勝田2006］。副葬品が六道銭や数珠など仏教的色彩の濃いものが主体となるのは、こういった変化の現れといえるかもしれない。また共同墓地とは対になる墓の形態として、中世前期に誕生した「屋敷墓」も一部の地域を除いて存続する。これは集落内の建物の近隣に１～数基程の単位で設けられる墓で、その土地を開発した先祖が葬られ、祖先の土地継承を守護するものとされてい

る。

では、SG313はどの種類の墓といえるであろうか。まず、火葬墓か土葬墓かが問題となる。山梨県二本柳遺跡では火葬骨が埋葬されていたと推測される木棺墓が検出されているが、本遺構覆土には灰や炭化物のような火葬を伺わせるようなものが確認できなかったことから、SG313は土葬墓と考える。次に墓域の問題であるが、本遺構以外に周辺に墓が確認できないことから、SG313は共同墓地内の墓ではない単独墓であろう。また周辺に掘立柱建物を多数検出しているが、放射性炭素年代測定（AMS）の結果などからこれらの建物は中世前期のものと推測できるため、本遺構はいわゆる屋敷墓ではないと考える。以上のことから、SG313は中世後期に一般的に見られる墓とは、若干異なった性格の墓と考えたい。

では中世後期の田屋道遺跡は、どのような状況であったのであろうか。「中世集落の展開と城館の動向」では、中世集落はⅡ期（14～15世紀）からⅢ期（16世紀）にかけて時期的に断絶し、16世紀以降不明瞭となる。これは16世紀以降の集落が、現代の集落とほぼ重なることによると考えられる。近現代の集落は近世集落であり、それは16世紀に成立したと考えられる、とある［坂井1997］。この説を引用すると、田屋道遺跡は後述する遺物の年代などから、13～14世紀代にかけて集落が展開し、その後一時断絶を経た後、16世紀代にはいり現在の牧目や九日市集落とほぼ同じ位置に集落が展開したということになる。当該期の田屋道遺跡は、16世紀代の遺構・遺物が極端に少ないことから、「野地」と呼ばれるような湿地ないしは水田であった可能性が高い1）。そのような場所に築かれたSG313は、以下のような性格が推測できる。まず前述の屋敷墓の一種で、田畑の中に墓を築く事例が知られている。屋敷墓は先祖の霊が子孫の土地継承を守護することを願い、屋敷の近くに墓を設けることが多いが、田畑などの私有地内に墓が設けられることもある。16世紀代の田屋道遺跡が水田・畑地であったとすれば、SG313は後者の例である可能性が考えられる。

次に16世紀代の田屋道遺跡が湿地や荒地などであったとすると、SG313は通常葬られる墓域から隔離された墓ということになる。このような共同墓地から隔離された単独墓としては、南関東や東北で多くみられる「鍋被り葬」のような事例がある。これは特殊な病気や不慮の事故などで亡くなった人物の遺体に鍋を被せ、共同墓地とは離れた場所に葬る風習である。鍋被り葬墓が必ずしも単独墓というわけではなく、共同墓地に葬られることも多いが、南関東では隔離されている事例が多い［桜井1992・2001］。本遺構の副葬品には鍋のような特殊な製品はないが、隔離されているという状況から推測すると、特殊な亡くなり方をした人物の墓の可能性もある。また成人ではなく幼児が亡くなった場合、成人とは異なった方法によって葬られる事例は各地で知られている［勝田2006］。その場合、成人とは異なった場所に葬られることもあったという。特にSG313の規模から被葬者は成人男性ではなく、女性や子どもである可能性が高いことから、本遺構は何らかの事情で隔離して葬られた人物の墓の可能性がある。

以上仮説と推論を並べたてたが、SG313が一般的な墓とは考えづらいこと、そしてそのことが中世末から近世にかけての田屋道遺跡が、どのような意味をもった場所であったかを考える一要素になり得るのではないだろうか。

4）　溝

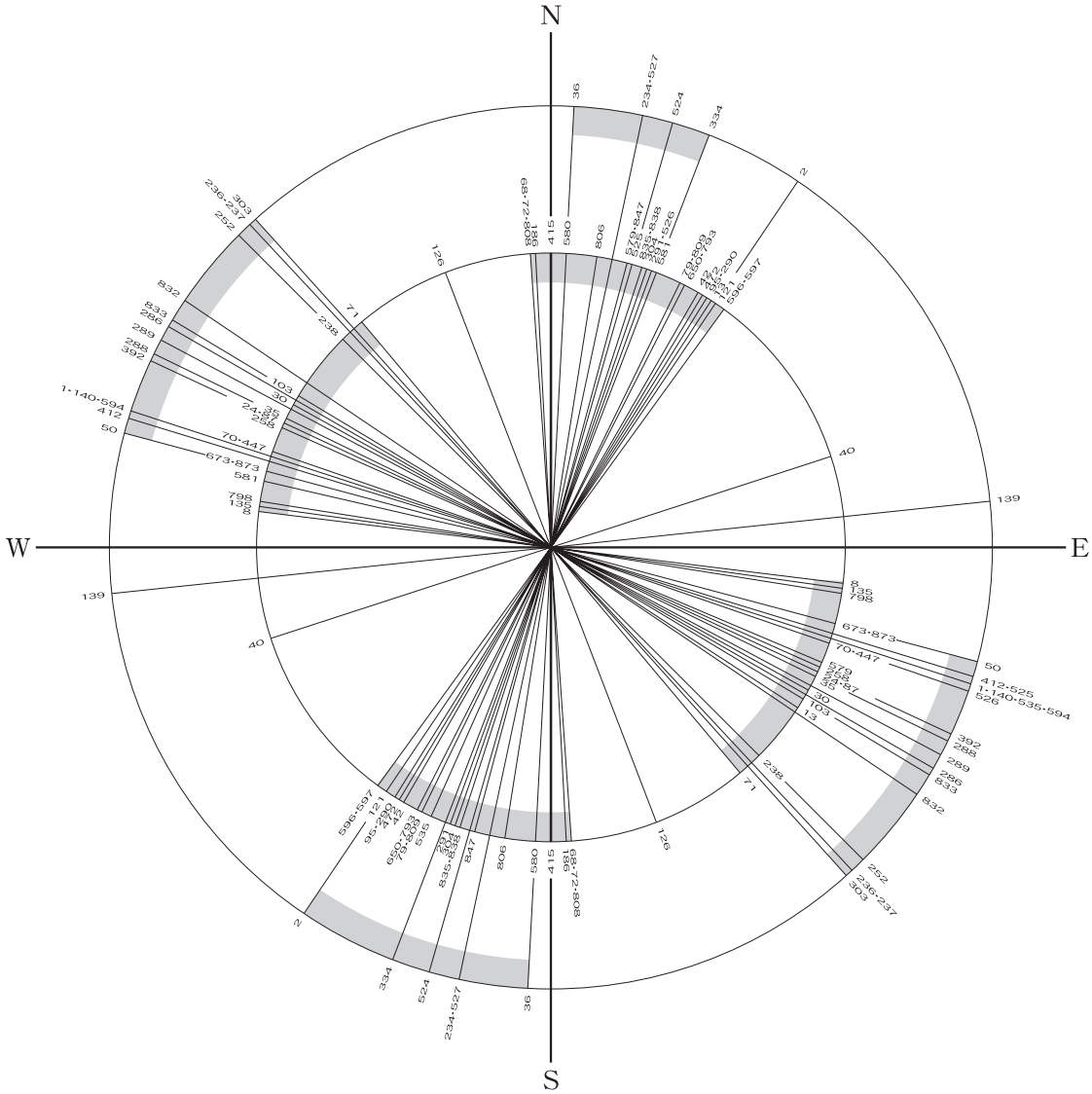
田屋道遺跡で検出した溝は、72条である。形状・規模でこれを分類すると、検出長別では10m未満のものが最も多く46条で、これは全体の約63.9%である。次いで10m以上20m未満が14条（約19.4%）、30m以上

1）　慶長２年（1597年）に描かれたとされる『瀬波郡絵図』（米沢市市立上杉博物館所蔵）では、現在の牧目・九日市とほぼ同じと思われる位置に集落が描かれており、田屋道遺跡が位置するあたりは「野地」と記載されている。

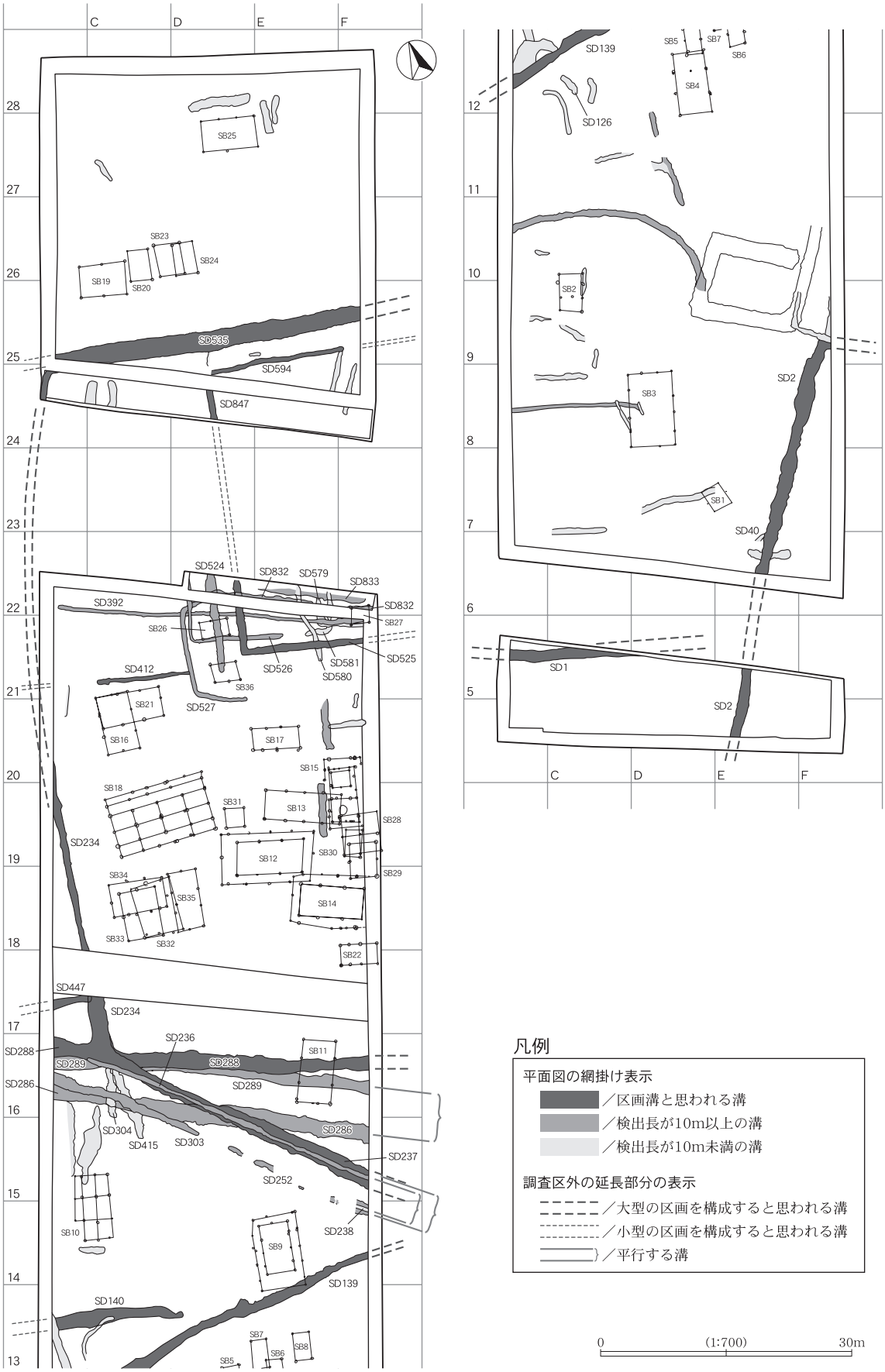
40m未満は７条（約9.7%）、以下は20m以上30m未満・40m以上50m未満がともに２条、50m以上が１条である。ただし、用途を推測できる溝のほとんどは検出長10mを超える大型の溝であり、これより短い小型の溝の多くは用途不明であった。溝の断面形別では、弧状が最も多く37条で約51.4%を占める。次いで台形状が26条（約36.1%）、以下は階段状が６条、箱状２条、半円状１条である。溝の断面形と検出長の関係をみると検出長30m以上の溝では階段状の断面形が多く、30m未満では弧状・台形状が多くなる。

溝の検出時の平面形状別では、直線状が最も多く47条（約65.3%）であり、以下緩曲線状が11条（約15.2%）、L字状９条（約12.5%）、曲線状４条（約5.5%）、コの字状１条（約1.3%）となる。溝の平面形状と検出長の関係をみると、平面形が直線状の溝の約2/3は10m以下の小型の溝で、曲線・緩曲線の溝の場合はほとんどが小型の溝である。コの字状・L字状の溝の場合は10m以上の大型の溝が多い傾向にある。

溝の主軸方向については、平面形が曲線の溝４条を除いて分類を行った（第28図）。図中の直線は溝の軸方向を表し、長いものは検出長が10m以上、短いものは10m未満のものを示す。尚、L字状の溝については両端の２方向を示した。主軸方向の傾向として、およそ２つの集団に分かれた。N40～83°Wの西北西方向を中心に43°の範囲に分布する集団と、N４°W～N36°Eで北北東方向を中心に40°の範囲で分布す



第28図　溝の主軸方向


凡例
平面図の網掛け表示
／区画溝と思われる溝
／検出長が10m以上の溝
／検出長が10m未満の溝
調査区外の延長部分の表示
／大型の区画を構成すると思われる溝
／小型の区画を構成すると思われる溝
／平行する溝
0
(1:700)
30m

第29図　溝の分布図

る集団である。この主軸方向の集中は地形の傾斜の影響や、周辺の河川・道路の方向による規制等が考えられるが、特定はできない。この溝の主軸方向の２集団から外れるものはSD40・126・139の３条のみである。

調査区内の溝の分布状況（第29図）は、中央部の15～16グリッドと、北側の現道を挟んだ21～25グリッドの２か所に集中し、特に大型の溝についてこの傾向が強い。このほかでは調査区の南西部分と北東部分に分布し、ここでは小型の溝が多い。15～16グリッドの集中部では、大型の溝８条を中心に、大きく４次にわたる重複を確認した。出土遺物の年代と合わせて示すと以下のようになる。最も古いのがほぼ南北方向のSD415で、これと重複して新しいのがSD286、約3.5mの間隔で平行するSD289も同時期と考える。次に新しいのがSD304と、同一の溝と考えたSD234・237、これと交わるSD288と1.5m～2.2m程の間隔を置いて平行するSD252・303である。最も新しいのがSD236と、約3.2mの間隔を置いて平行するSD238であり、両遺構はSD237・252の覆土中に掘り込まれている。21～26グリッドでは大型の溝10条を中心に、およそ７次にわたる重複関係を確認した。古いものから順にSD581→579→392・412→527→526・580→524・525→832・833となる。これら特定の範囲で重複しているものは同様の機能をもつものと推測する。特に大型の溝は、覆土の様子や形状などから用水路などとしての用途は想定し難く、区画溝として機能したものがほとんどと考える。ただし、中には道路状遺構に伴う可能性を有すものもあり、並列する溝のSD289と286、SD237と303・252、SD236と238がこれに該当する。時代はずれるが、中世末期の『瀬波郡絵図』では、これらの溝を検出した位置付近に牧目村と岩船町を繋ぐ道が通っていたことが読み取れる。

調査区内で、特定の区画を構成する溝としてSD234・237・535およびSD288が台形を呈する大型区画の一部に想定できる。この区画は16～21グリッドの掘立柱建物群に伴う可能性が高い。また、北端部が東側に曲がり調査区外へ続くSD２も比較的大型の区画を構成するものと考える。ほかにも調査区内を直線的に貫流するSD１・139なども大型の区画溝の一部と推測する。

小型区画としては、SD525・594・847を南北約33mの方形区画の一部と想定する。SD525の21F4グリッド付近の一旦途切れる部分は、区画内のSB27と合わせて入口に関連した施設を構成する可能性もある。この小区画周辺では、直角に曲がる溝が複数重複して検出できたことから、数次にわたり同様の区画が形成されていたものと推測する。

以上のほかにも区画溝の一部分の可能性があるのものとして、SD140・412・447がある。これらの溝は調査区西寄りに分布し、主軸方向はほぼN72°Wを指し平行関係にある。さらに各溝の間隔は約38mでほぼ等しい。このことから、調査区西側に南北に連なる同規格の区画が想定できる。この区画と、A区で検出した掘立柱建物群の主軸方向はほぼ一致し、何らかの関連性が伺える。

5） 遺構の変遷と遺跡の性格

田屋道遺跡の存続年代はその出土遺物、放射性炭素による年代測定（AMS）、遺構の切り合いや建物・井戸のセット関係からおおよそ7世紀と、その後、間が大きく空いて12世紀末～14世紀にわたるものと考える。ただし墓の年代は放射性炭素の測定年代から16～17世紀代が想定され、他の遺構から離れた年代を示している。田屋道遺跡が所在する岩船郡神林村村域は7世紀代においては古代の岩船郡内にある。磐舟柵や郡衙の所在などいまだ不明な点が多い。12世紀代の神林村村域は小泉荘であり、仁平３（1153）年には金剛心院領の荘園となっている。保元３（1158）年の一庄立券状によると荘域は南が荒川河川敷、東が出羽と越後の国境、西と北の荘域は不明だが、岩船郡全域にわたる領域型荘園となっていた。保元元

（1156）年の荘園整理令、建久２（1191）年の荘園整理令により加納が廃止されるなどの紆余曲折がある中、12世紀後半には東国武士が地頭として補任され、文治４（1188）年奥山荘には和田氏、文治５（1117）年加治荘には佐々木氏、年は不明だが荒川保には河村氏がやはり地頭として補任されている。小泉荘にも文治段階で地頭職がおかれ、鎌倉御家人秩父季長が補任されている。13世紀初頭の小泉荘は一条家に伝領されており、小泉荘は建永年間（1206～1207年）に成立した地頭請け制度により支配されていた。ただし色部氏、小泉氏とも鎌倉に在住しており、越後へ下向したのは村上市史［高橋1999］によれば文永５（1268）年頃とされている。その後、承久３（1221）年に起こった承久の乱を経て、朝廷勢力が衰退し鎌倉方の勢力が強くなるとこの地域は関東御領とよばれる幕府の直轄地となった。地頭請所が廃止された小泉荘は鎌倉末の段階では鎌倉幕府首脳による所領獲得により荘域が減少していた。鎌倉幕府滅亡後、建武の新政で戦功を上げた新田義貞が越後国司となり、小泉荘と荒川保の立地する旧岩船郡は瀬波郡と改編されている。

このような時代背景のなかでの田屋道遺跡は、神林村大字九日市字堂田に所在し、色部氏との関わりが伝承される牧目館の西100ｍに位置する。牧目館の年代は発掘調査による出土遺物から15～16世紀代にその主体があると報告されているが、14世紀後半とされる遺物も出土しており、一部、田屋道遺跡の時代と重なる部分がある。田屋道遺跡の平成18年度の調査範囲は南北方向に243m、東西に42mであり、結果として、この地区に長大な試掘坑を設置した状況となり、隣接して調査された松蔭東遺跡［青木2007］、窪田遺跡［前川2007］の成果を含めて、牧目館成立以前の地域集落の状況を探る上でひとつの手掛かりになったといえる。

田屋道遺跡で検出した建物跡は第Ⅲ章５のＡ１）でまとめているとおり、側柱建物、廂付き側柱建物、総柱建物の３種に分けられる。これらの建物に放射性炭素の年代測定値、遺構の切り合い、井戸とのセット関係、出土遺物から推定できる年代を調査区の南側から順に示すと、放射性炭素の測定年代からSB１は７世紀、８～10ラインにあるSB２・３は付属すると考えた井戸出土遺物の年代から13世紀という年代が付与される。SB１と同時期の７世紀代を示す出土遺物はない。柱は杭状の打ち込み柱で、中柱がやや外側に膨らむ構造を持つ。この柱の配置は西部遺跡［鈴木・吉田ほか2006］のSX4001と類似する。

SB２・３以外の遺構でその出土遺物から年代が推定できるのは、東西方向に走る溝SD８が13世紀、南北方向に走り途中から東方向へ大きく屈曲する溝SD２が13～14世紀、方形の浅い溝が巡るSX12が13世紀、これと重複しSX12より新しい溝SD41が12～14世紀、大型土坑SX89からは井戸SE82の出土遺物と同一個体と思われる珠洲焼の鉢（13世紀）が出土した。

SX12は、南北方向の軸がやや東に傾いており、掘立柱建物とは軸が合わない。これに軸が合うのはSD２であるがSD２が区画溝だとするとSX12は区画の外側に位置する。SX12の性格について言及するには判断材料が少なく難しいが区画であろうことは推測できる。区画内には柱穴を検出できなかったが小規模なお宮などの地覆立ち構造の建物が存在していた可能性がある。

グリッドの12～15ラインにはSB４・５・６・７・８・９の建物がある。このうちSB４は、当初２間×２間の建物で、北側の２間×１間の建物であるSB５・６とのセット関係が考えられた。SB４が北側に１間分拡張されるに伴い、SB５・６もさらに北側に１間×１間の建物SB７・８として立て替えられたと解釈した。ただこれらの建物の時期を探る直接的な手段はない。これらの建物群の北側に廂を持つ建物SB９が存在するが、このSB９も含めて13世紀代の建物SB２・３と主軸方向が同一であることから同じ時期の建物と考えてよいのではと思う。

SB９とSB７・８の間にはやや南側へ傾いて東西方向へ走る溝SD139がある。この溝から９～13世紀ま

での遺物が出土している。田屋道遺跡で検出した溝の中で古代の遺物が出土したのはこの溝とSD286だけである。SB 9 の西側にあるSB10は総柱建物で、建物の西側には身舎部分の柱間より狭い廂と思われる柱列が 2 間分みられる。この柱穴の断面形状から柱の先端が杭状であったことが想定でき、身舎部分が通常の柱である点で構造上の違いがある。この点から廂の形態が身舎から延びるものではなく棟落ちのような荷重を軽減できる構造であった可能性を考えた。SB 9 ・10の北側には東西に走る溝が重複しており、溝から出土した遺物の時期を当てはめると調査区を真横に走るSD286から10世紀の遺物、これに平行して北側を走るSD288から12～13世紀の遺物、SD286・288を切ってやや北に傾いて東西に走る溝SD237から14世紀の遺物が出土している。推定できる区画の形態については、Ⅲ章 5 のA 4 ）で詳述されているのでここでは触れない。この溝群より北は、南側では見られなかった東西棟の建物が存在し、建物も密集した状態にある。溝の重なりに対応する形で、溝の内側の建物も時間差を持って建て替えられた結果と理解される。この点を踏まえて、区画内の建物について同時性を見てみると、12世紀後半～13世紀中頃と考えるSB11と12世紀中頃～13世紀前半と考えるSB15がほぼ同じ主軸方向を持つ。これらと同じ主軸方向を持つ建物にSB29・31がある。また、これらの建物の主軸方向に直交する建物にSB12・22がある。SB15と重複関係にある東西棟SB13はこれに伴うと考える井戸（SE330）の出土遺物から13世紀後半の時期が想定できるが、主軸方向がやや北に傾いている。

SB13と同じ主軸を持つものにSB14がある。SB14はSB12とともに身舎の周囲に廂を持つ建物である。SB14は、西側の廂部分に太い柱が使用され、隅柱と次の側柱との間隔が他の柱間隔より狭くなっている。この構造はSB12と共通しており、北西の季節風に対応する構造とも推察できる。SB14は、P677とP698の間が広くあいており、ここが開口部であった可能性がある。身舎の柱はSB12には太い角柱が使用されているのに対し、SB14の身舎は、浅い掘方が遺存するだけで、かえって廂部分の柱にしっかりとしたものがある。

SB13は前に述べたように13世紀という年代を想定しているが、この建物と直交する形で重複するSB15は放射性炭素の年代測定で12世紀中頃～13世紀前半の年代が示されており、SB13より古い可能性が高い。SB15も廂を持つ建物で、身舎内部に 1 × 1 間の柱間を持つ部分があるのと付属施設と考える土坑SK335がある。また、廂部分も全周するのではなく変則的なものと思われ、建物の構造および性格については不明である。東西棟のうち主軸方向がやや南に傾く建物としてSB18・21・34がある。このうちSB18の年代については、SE551との切り合い関係から13世紀前半の時期が想定される。SB18の建物構造は北面廂を持つ総柱建物と考えている。SB18・21・34の南側には南北棟であるSB16・32・33・35が位置する。建物の年代はSE684との切り合い関係から14世紀より古いと考えている。SB32・33・35は重複しており、ある程度連続した建て替えの結果と思う。ほかに年代を与えることができる建物は、SB27が放射性炭素の年代測定で12世紀後半～13世紀前半の測定値を示した。建物の他にB区の北端にある溝SD832から珠洲焼のⅣ、Ⅴ期のものが出土しており、14～15世紀の年代が想定できる。この部分にある溝は恐らく平面形が方形に近い区画溝と思われ、その東側は牧目集落方向へ延びていく。区画溝に伴う建物も同様であろう。以上建物、溝、井戸の時期的な相対関係を示した。

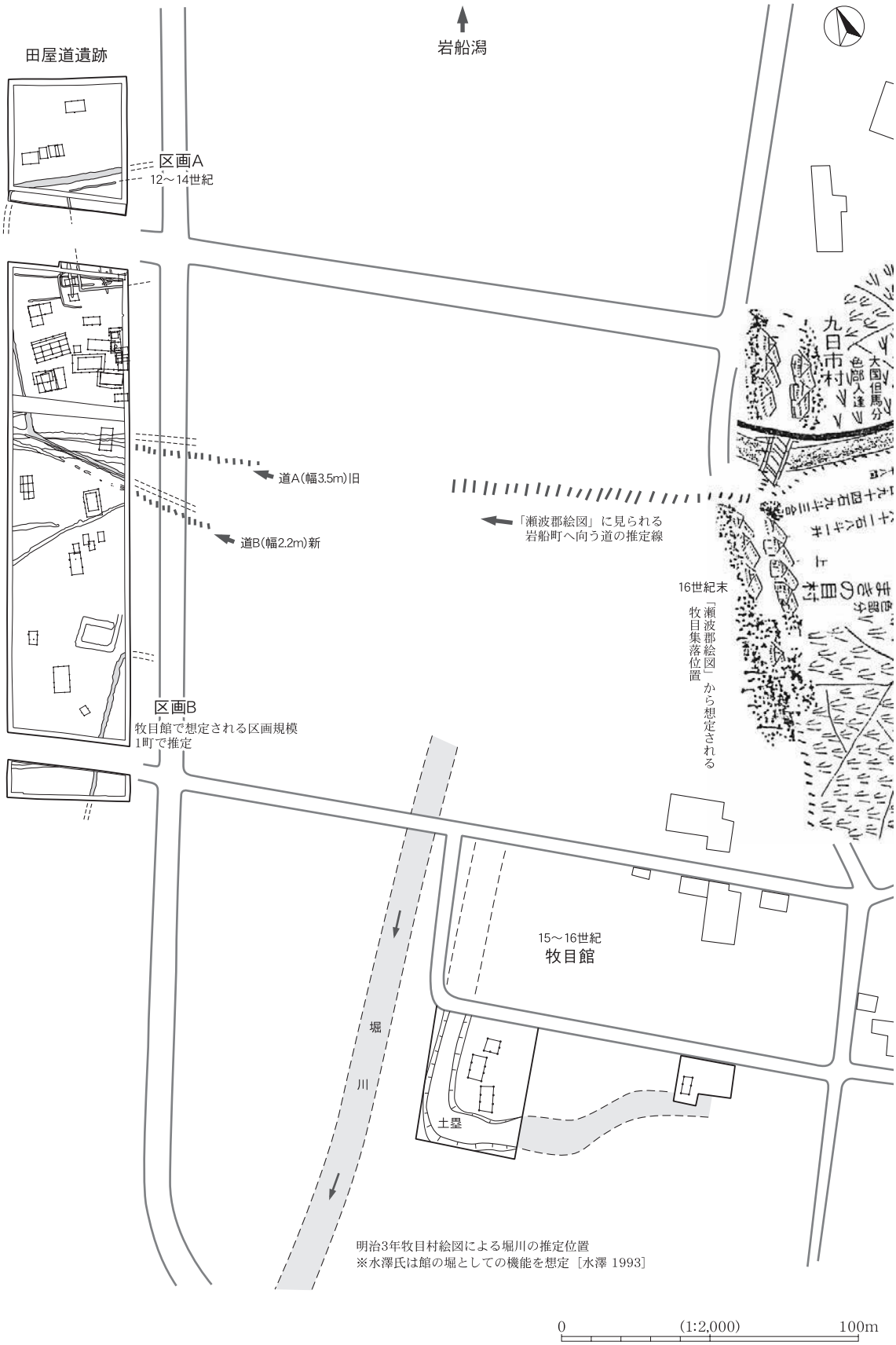
次にこの地域の中世村落の様相について考えてみたい。田屋道遺跡では大型の区画溝に囲まれた掘立柱建物・井戸、屋敷地を区画した小規模な区画を検出した。坂井秀弥［坂井1997］が示す中世集落の変遷は、Ⅰ期（12世紀後半～13世紀）－建物は全て掘立柱建物になり、平面積70～80㎡以上の比較的大型の総柱建物がみられるようになる。Ⅱ期（14～15世紀）－溝が建物群を区画し、複数の区画が並存する。江上館・牧目

館など平地に方形の居館が成立。Ⅲ期（16世紀）－方形館が衰退し、山城（要害山）が普遍的に成立、麓に根小屋式の居館が出現するとされている。田屋道遺跡は12世紀～14世紀が主体であり、Ⅰ～Ⅱ期の状況に符合すると考える。

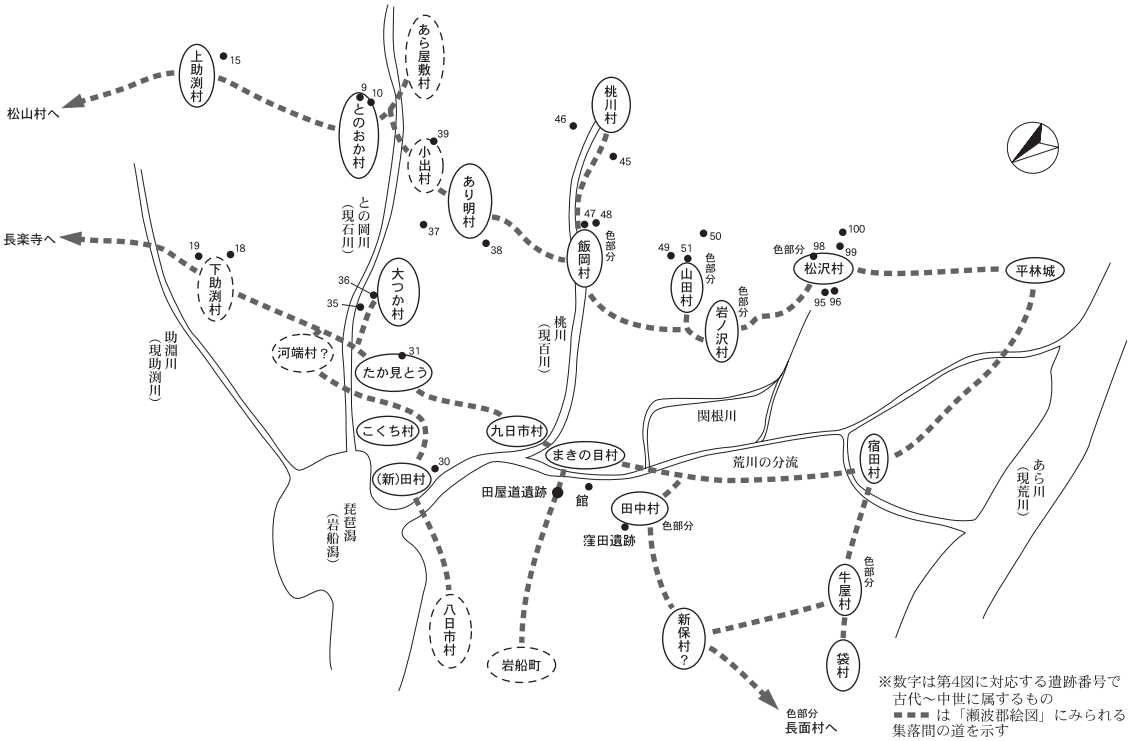
田屋道遺跡で想定した区画溝の規模と牧目館の位置、および『瀬波郡絵図』にみる「まきの目村」の位置を2,000分の１地形図に当てはめ相関を検討した（第30図）。遺跡の南東約100mのところに牧目館が位置するが、明治３年『牧ノ目村絵図』では遺跡と館の間に現在東西方向に流れる堀川が流れていた。牧目館の発掘調査［田辺1992］では土塁の西側に自然流路が確認されており、これが堀川と推測されている。水澤幸一［水澤1993］によれば堀川はその名が示すとおり、「牧目館」の堀の機能を有していたとされる。
田屋道遺跡の区画を北にあるものを区画Ａ、南のものを区画Ｂとした。区画Ａは西側の一辺が長さ約90mほどと推定できる。またその区画内には一辺約33mほどの小区画がある。この区画規模は十日町市の伊達八幡館遺跡における副郭とされた区画の規模に類似するが、区画Ａより新しいと考える。

区画Ｂについては、その規模は特定できないが、牧目館で想定される区画の規模１町（約109m）を援用して検討してみた。その結果区画Ｂは堀川を挟んで館と対峙する位置に来る。

区画Ａの南側の溝は西側の溝に対しやや南側に開く。この部分には、前項の溝のまとめで小林が示した『瀬波郡絵図』にある岩船町へ向かう道を想定した平行する溝SD289とSD286およびSD237とSD303・SD252がある。遺跡とは異なる時代の絵図を対比させるという問題もあり、この点を検討するために、『瀬波郡絵図』記載の集落と集落間を結ぶ道を現在同じ地名が残る集落の位置に置き換え、さらに発掘調査された遺跡のうち中世のものを付け加えてみた（第31図）。その結果、現集落に近い位置に中世の遺跡が位置することが見て取れ、おそらくその位置から、現集落の位置へ集約されていったものと考えることができた。『瀬波郡絵図』の道は、山側を「平林、松沢、岩ノ沢、山田、飯岡、あり明、小出、とのおか、上助渕」と南北に繋がる道、「平林、宿田、田中、まきの目、九日市、たか見とう、河端、下助渕」と湿地部の自然堤防上を南北に繋がる道、それに海岸砂丘上を南北に連なる計３本の主要な道がある。集落の位置があまり動いていないとすれば、道についてもそれほど変化していない可能性がある。平行する溝を道として考える場合、その規模や構造も問題となるが、用言寺遺跡Ⅰ［加藤ほか2006］では道の幅を10尺（約３m）として想定し、平行する溝SD９とSD10が道である可能性を示している。本跡で道と想定されるSD289とSD286の幅は約3.5m（道Ａ）、SD237とSD303・SD252の幅は2.2m（道Ｂ）である。重複関係があり、道Ｂが新しい。道Ａとした道幅がやや広いのが気にかかるが、湿地内の道であることから土盛構造が推定でき、路肩の杭などを検出しないことから、断面形は台形状だったと考えれば実際の道幅はもっと狭かったことが想定される。ここで道説を採ると区画Ａの南側と道の区画が接することになるので、もう少し検討が必要である。区画全てを掘りきった訳ではないため、現段階では推定にとどめておく。水澤幸一［水澤1993］は中世の遺跡の立地について、「平野の微高地に築かれる居館は、村落の中の「村」自体から現れてくるもの」とし、さらに16世紀の一般集落の移動は、「本拠移動などに伴う地域センターとしての居館の役割低下という村落構造の変化、開発の進展に伴う低地の開発と集村化」と説明している。このことはまさに、田屋道遺跡の状況を示しており、16世紀段階での牧目集落への集村化、集落廃絶後の水田化または野地化（瀬波郡絵図による）、16世紀のある時点での牧目館から平林城への本拠移転［坂井1997］と云う構図で説明ができる。水澤の云う村の中から出てくる状況が区画Ａであり、ある時点で区画が強化（堀、土塁）された居館へ進化し、逆に集落は区画から開放された形態へと変化していくのではないかと推察できる。



第30図　田屋道遺跡の区画と牧目館



第31図　『瀬波郡絵図』記載の集落と道

田屋道遺跡が溝により集落の一部が区画される形態を示していることを述べた。この形態が中世前期における集落の普遍的な村落形態なのか、それとも地域的な特性を示すものなのかは今のところ不明である。ただし近接する窪田遺跡と比較すると、田屋道遺跡の出土遺物は質・量ともに貧弱であることから、集落間には物質的な格差が存在していたことは確かである。村上市史には、12世紀の初めには、城氏が小泉荘の現地支配に関わっていたと記述されており、国衙勢力と対立関係にあったとされる。また、同史によれば13世紀の前半には色部公長が小泉荘加納の色部と粟島の地頭職を安堵されるとし、さらに13世紀の末までには色部氏は忠長、長茂、氏長の三系統に家を分立させ、14世紀に入るとさらに分立が進むと記載されている。このような時代背景の中、おそらく加納も本庄も、拠点となる集落とその周囲に島状に分布する集落により構成されていたことは想像に難くない。ある意味で、現在の牧目集落周辺に点在する集落と田んぼという組み合わせが示す景観は、中世におけるこの地域の景観とそれほど変わっていないように思う。田屋道遺跡は建物の規模や数からいって拠点集落とは言えず、むしろ拠点集落の周囲に点在する集落のひとつであったと考えたい。

B　遺　　物

1）　陶磁器・土器類

本遺跡では前述の通り包含層の大部分が削平されており、出土遺物は少ない。以下遺物の概要を述べるが、数値的なことに関する記述は全て破片数に基づいている。

遺物の大半は中世のものであるが、それ以外の時代の遺物も若干混入している。出土陶磁器・土器のうち、近世以前のものは200点弱あり、そのうち中世に属する遺物は160点余りである。種別毎にみると、珠洲焼が最も多く、全体の６割程を数える。そのうちの２割弱が在地産の珠洲系陶器であった。次いで輸入陶磁器が全体の２割強、土師質土器が全体の１割強となっている。

珠洲焼はⅠ期～Ⅴ期のものが出土しており、Ⅱ・Ⅲ期のものが主体である。Ⅳ期のものも一定量出土しており、吉岡編年に従えば、鎌倉時代から南北朝期にかけての遺物が主体と言えよう。器種毎に見てみると、甕が最も多く珠洲焼全体の約5割を占めている。片口鉢がそれに次いで多く、珠洲焼全体の約2割を占めている。

輸入陶磁器は、13～14世紀と16世紀後半頃のものが主体である。前者の時期は青磁・白磁が主体で、後者の時期は染付が主体である。出土量が少なく、明確な傾向を述べることはできないが、青磁・白磁に関しては珠洲焼と大差ない時期のものが出土している。それに対し、16世紀代の染付に対応する陶器片が出土していないことが特徴と言えるかもしれない。

土師質土器皿は、ロクロ成形底部ヘラ切りと手づくね成形の2種類が出土している。わずか9点の出土ではあるが、ロクロ成形のものが大半を占めるという傾向が指摘できる。土師質土器皿の年代は14世紀代が中心で、16世紀代のものは皆無であった。

以上大まかな傾向を述べてきたが、本遺跡の陶磁器・土器は13～14世紀代と16世紀代の、おおよそ2時期に大別できる。前者の時期については、後述する漆塗椀と比べても矛盾はない。また掘立柱建物の柱材の放射性炭素年代測定値（AMS）と、多少ズレはあるものの許容範囲内に収まる誤差といえる。後者の時期に関しては遺物自体が少ないこともあり、SG313以外に当該期の遺構は確認できていない。遺物も染付しか出土しておらず、陶器・土器類が全く出土していない。これは1項D節で述べたように、その時期の田屋道遺跡が水田ないしは湿地帯であったことを示しているといえよう。

2） 木製品

本遺跡出土遺物の大半は、井戸・ピットなどから出土した木製品である。本項では、それら木製品のうち、漆器・柱根・礎板・杭以外のものについて記述する。曲物は22点出土しており、その内訳は本体14点、タガ1点、底板7点である。ほとんどが破片であり、個体が確認できたのは、SE551出土の304のみである。304は径33㎝、高さ24.4㎝である。新発田市住吉遺跡で水溜に使用された曲物をみると、径50㎝以上のものが多く、径40㎝以下のものは極めて少ない。304は底板がはずされており、井戸の水溜として使われた可能性もあるが、住吉遺跡に比べるとかなり小型の部類に入るといえる。水溜として使用されたのではなく、底板を転用した後、体部部分が廃棄された可能性もある。

井戸からは、曲物のほかに祭祀行為に使われたと推測する遺物が大量に出土している。最も多いのが箸状木製品で、小片も含めて100個体以上出土している。長さは15.4～25.9㎝で、平均は21㎝程である。断面形状が角棒状のものと楕円形状のものの2種類があり、後者の方が圧倒的に主体を占めていた。材質は4項で述べた様に、断面形状による差は見受けられなかった。また杭・杭状木製品も様々な形態のものが出土しており、丸材・割材・板状のものなどが出土している。これらの製品がどのような性格のものであったのかは不明だが、井戸の廃絶に伴う祭祀遺物であったことは想像に難くない。他に羽子板状木製品なども出土しており、これなども井戸などから出土する祭祀的な遺物としてよく知られている。

3） 漆　　器

漆器は全部で10点出土しており、その内訳は皿5点、椀4点、不明1点である。基本的には総黒色で、SG313出土の317だけが内面赤色である。椀は遺存状態が悪く年代を特定することが難しいが、SE551出土の303は13世紀頃、皿は全て総高台で12～13世紀頃のものと考える。材質は、樹種同定したものに関して

は、全てケヤキであった。木取りは、確認できたものはすべて横木取りであった。塗膜分析の結果（4項参照)、下地は炭粉を用いたもので膠着材はほとんど確認できなかったが、炭粉と柿渋を混ぜた柿渋下地の可能性が指摘されている。漆塗り回数は1回が2点、2回が1点、3回が1点であった。漆塗りの回数だけを見れば、SE551出土の303が最も優品ということになり、SE330出土の224がそれに続く品質のものとなる。ただし、SE330からは漆塗り1回の223も供伴しており、この2製品間には、さほどの品質差はなかった可能性もある。

4)　柱・杭・礎板

本遺跡ではピット・溝から出土した柱根およびそれに類するものが69点、礎板が30点、杭跡から出土した杭およびそれに類する木製品が91点出土した。また井戸から出土した杭・杭状木製品については、ここではなく木製品の項で取り上げている。

柱根は、ピット656基から66点が出土している。多くのピットにおいて柱痕を確認していることから考えても、この出土量は少ない。柱材を抜き取り・転用した後は、薪などとして燃やされたのであろう。柱根は丸材が39点、割材が24点で、明らかに角柱と判断できるものは非常に少ない。同じ掘立柱建物内のピットでも、柱材の規模・形態はまちまちで、前述の抜き取り・転用がかなりの頻度で行われたと推測する。材質はクリが最も多い。礎板は、ピット22基から30点が出土している。形態は厚手の板状を呈するものから、木材を荒く板状に割っただけのものまで様々であった。一つの柱穴内で3～4枚の礎板が重ねられている遺構もあるが、礎板のないピットの方が圧倒的に多く、礎板設置の目的も一様ではないようである。

ピット・杭跡95基（SB1含む）から出土した杭や柱根等は91点で、65点を図示した。そのうち2点はヘラ状木製品や板状木製品が深く打ち込まれていたもので、正確には杭跡とは言い難い。杭は丸材が49点、割材が16点で、長さは約15～72㎝程と幅がある。材質は、SB1関連の杭のみがトネリコ属と判明している。

5)　石製品

本遺跡出土の石製品は7点出土しており、全て砥石である。砥石は前述の通り自然礫を用いたものと、石材を四角く加工したものの2種類がある。前者は花崗岩とホルンフェルスが使われている。後者は全て流紋岩であった。出土量が少ないため確証はないが、自然石を用いた砥石は花崗岩、加工石を用いた砥石は流紋岩が多用されるという傾向が指摘できる。

第Ⅳ章　宮の越遺跡

1　遺跡の概要

A　概　　観

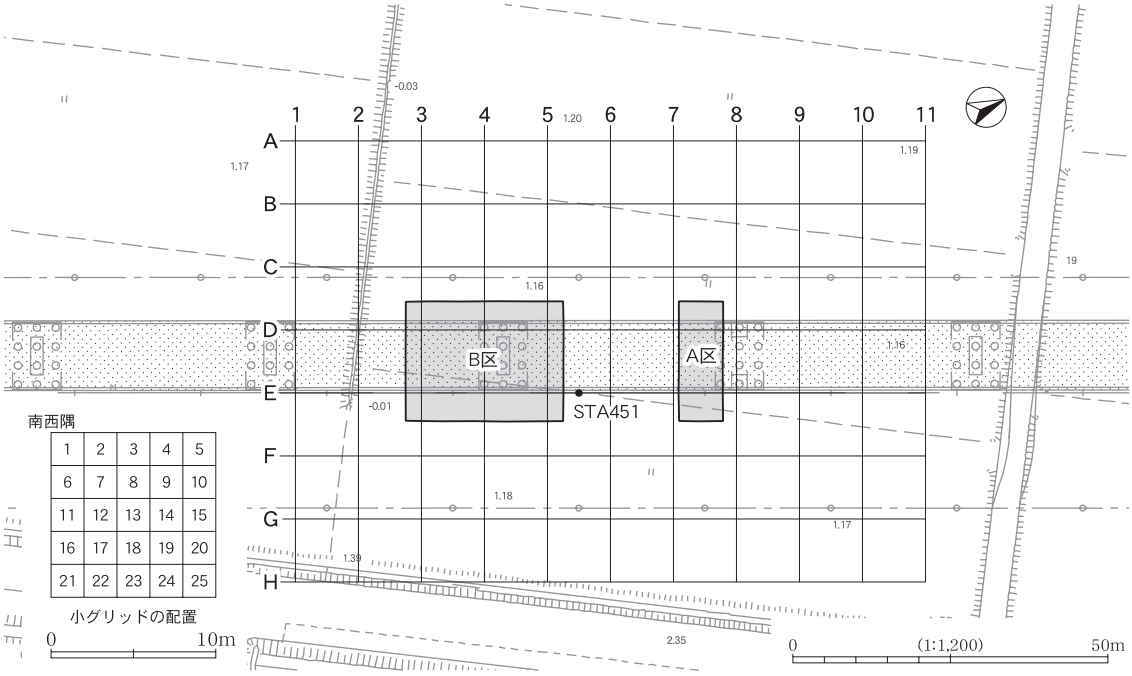
本遺跡は、荒川の右岸に広がる低湿地部に立地する遺跡である。田屋道遺跡から北へ２kmの位置にあり、『瀬波郡絵図』（慶長２年）に記載される「新飯田」の集落が北西方向、「九日市」の集落が南西方向に位置する。遺跡の南には百川（旧桃川）、北には笛吹川が流れ、これらの川に挟まれるように遺跡が立地する。遺跡の標高は約0.6mである。これらの小河川はかつて岩船潟へ注いでいた。

遺跡からは土坑、杭を検出した。遺構の時期は、放射性炭素年代測定（AMS）による杭の数値が７世紀代を示していることから、遺構検出面を覆っている再堆積土中から出土した遺物の時期（９世紀後半）と齟齬が生じている。遺物は須恵器の無台杯・有台杯・杯蓋・横瓶・壺、土師器の小甕・鍋、製塩土器、土錘などが出土している。

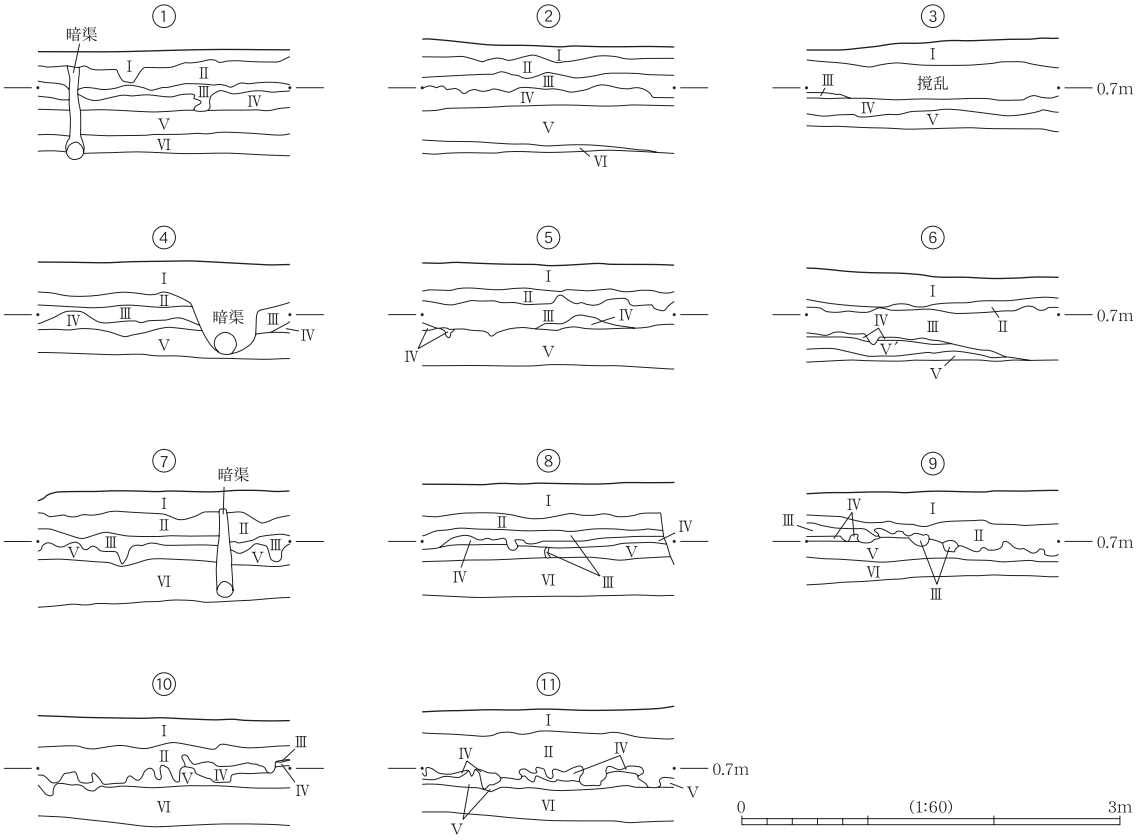
B　グリッドの設定（第32図）

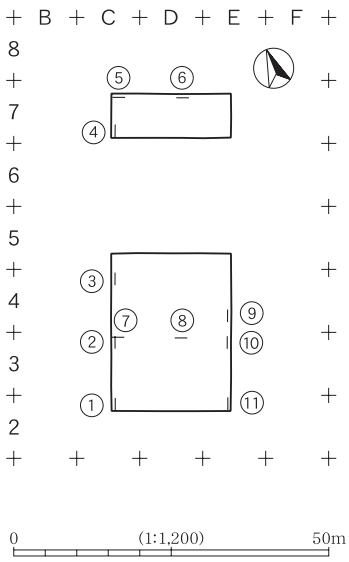
グリッドの方向は、高速道路のセンター杭を基準として、道路の方向に一致させた。STA451（旧日本測地系　X＝242322.703、Y＝84000.162）とSTA450（旧日本測地系　X＝242229.718、Y＝83963.367）とを結んだ線を南北方向の基準線として、10m四方の方眼を組み、大グリッドとした。このため、グリッドの南北方向は真北から21°35′21″東偏している。

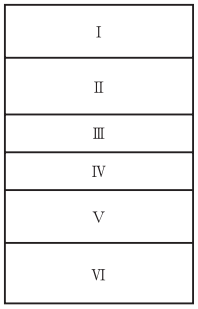
大グリッドの名称は南西隅を基点とし、南北方向を算用数字、東西方向をアルファベットとして「３D」



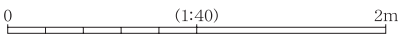
第32図　宮の越遺跡グリッド設定図







基本層序模式図



基本土層
Ⅰ層　灰黄褐色、粘質土、畑耕作土、しまり弱、粘性中。
Ⅱ層　褐灰色、粘質土、水田耕作土、しまり中、粘性中。
Ⅲ層　褐灰色、砂層、洪水堆積層、砂質シルトを縞状に含む、しまりなし、粘性なし。
Ⅳ層　暗褐色、粘質土、しまり弱、粘性中。
Ⅴ層　灰色、砂質シルト、腐植土、木片とアシを含む、洪水の影響を受ける、しまり弱、粘性弱。
Ⅵ層　オリーブ黒色、砂質シルト、しまり弱、粘性弱。

第33図　宮の越遺跡土層図

のように表示した。大グリッドをさらに２ｍ四方に25分割し、小グリッドを設定した。小グリッドは１～25の算用数字で表し、南西隅が１で、北へ２・３・４・５、東へ６・11・16・21の順で、北東隅を25とした。表記は大グリッドの後につけて「３D12」のように呼称した。なお、B区中央北側に位置する４Eグリッドの座標は旧日本測地系　X＝242308.755、Y＝83994.642である。

C　発掘調査の方法

表土除去　調査区は工事の関係から、２か所に別れ、北側の調査区をA区（136㎡）、南側をB区（475㎡）とした。表土には畑の耕作土（Ⅰ層）と水田耕作土（Ⅱ層）がある。これを取り除くと、褐灰色の砂層でⅢ層となり、層厚は10～20㎝程である。Ⅲ層中にはラミナ状に黒色土が入ることから河川の氾濫等に起因する再堆積土と判断した。同層中には遺物が多数含まれることから、Ⅰ・Ⅱ層を重機で掘削したのち、Ⅲ層については、人力で掘削作業を行い、遺物の検出に努めた。ただしⅢ層は遺跡全体に均一に分布するわけではなく、B区の南側半分では同層は薄く、数センチ程度の堆積しかなかった。また、B区の東側では、水田耕作の深度がⅣ層にまで及んでいるか所があり、この部分ではⅢ層の砂とⅣ層の暗褐色粘質土が混合した状況になっている。

遺構検出は試掘確認調査時にⅣ層上面で行われていることから、最初の掘り下げは同層までとし、この面で遺構の精査を行った。Ⅳ層上面で確認できたのは土坑１基と木杭が数本であるが、念のためⅣ層を除去しⅤ層上面まで掘り下げを行った。その過程でさらに数本の杭を検出した。

土層観察　土層観察は、調査区の外周囲に設けた開渠の壁面を利用して行った。また比較的大きな調査区であるB区においては、４ラインから南へ40㎝程離し、土層観察用のベルトを設置した。土層観察は、A区の西壁と北壁、B区の西壁と東壁、４ラインの南壁で行い、図面を作成し写真に記録した。遺構の土層観察については、サブトレンチを設定して壁の立ち上がりの確認と覆土の観察を行い記録した。

遺構検出　遺構の検出は試掘確認調査のデータから、Ⅳ層上面で行った。検出したものは土坑１基である。土坑は人為的に埋め戻されたもので、Ⅳ層～Ⅵ層土の混合土が充填されていた。この面ではほかに木杭を検出したが、Ⅳ層面で確認できたものとⅤ層面で検出したものがある。この検出面の違いは必ずしも打ち込み層位の違いを表しているわけではなく、いずれの杭も上端を欠損する形で検出したことから、耕作やそのほかの原因により折り取られ、折れた深度によりそのような結果になったものと推測する。

遺構調査　遺構の覆土を掘り下げる前に、外形を確認するため平面での精査を行った。覆土の掘り下げは、遺構の片側半分を残す形で行い土層断面図を作成した。完掘に際しては、遺構の覆土と周囲の土質との区別がつきにくいので、掘り足りないことがないように注意した。杭の側面図では、杭の両脇に基本土層を記入し、打ち込み深度を示した。遺構平面図作成、遺物の取り上げはトータルステーションで行い、土層断面図および微細図は原則手実測で作成した。

D　層　　序

概要　遺跡の層序は、試掘確認調査のデータを参考にしながらⅠからⅥ層に分層した。Ⅰ層は畑の耕作土で当初水田として利用していた土地を畑にしたもので、水田耕作土の上部を削り取り、畑土を入れている。Ⅱ層は水田耕作土である。Ⅱ層のうち、床土と考えた特に粘性と腐食の強い部分を便宜上Ⅱ′層として分層している。水田耕作の影響は部分的にⅣ層にまで及んでいるか所がある。

Ⅱ層の下位には遺物を包含するⅢ層（再堆積層）が存在する。Ⅲ層はⅣ層の上面を削り取るようにして

堆積し、さらにⅣ層上面で観察できるヨシ・アシ類の根痕にまで入り込んでいる。Ⅳ層は暗褐色粘質土で、田屋道遺跡におけるⅡb層に相当するものと推測するが、この層中から遺物は出土しなかった。なお、この層は調査区A区の北壁セクション内で、Ⅳ層下位に洪水堆積層がみられる部分をⅤ′層として分層した。この下位にはⅤ層があり、水成堆積と考えた腐植土の細かいラミナが縞状に互層となっている。この層は南側に厚く堆積しており、調査区の南側がより水の影響を多く受けていたことを示している。この遺跡が過去において、南に125m離れた地点を流れている百川の影響下にあったことは想像に難くない。Ⅴ層下のⅥ層は砂質シルト層で、これについてもやはり水成堆積の状況を示している。

基本土層　Ⅰ層は、30～40cm程の厚さを持つ耕作土である。水田耕作土を削り取り、畑作用の土壌を客土したものである。土質はやや粘質でしまりは弱い。Ⅱ層は、水田耕作土である。層厚は20～40cmで場所により耕作が及んでいる深度が異なり下位層のⅢ、Ⅳ層が同層中に含まれる部分も存在している。概ねB区の南西部で確認できる。また、同層中には部分的に床土と推定できる部分がありそれを便宜的にⅡ′層として分層している。Ⅲ層土は洪水堆積層で、層厚は10～20cmである。主体は砂だがⅣ層土を削りながらの堆積のため、Ⅳ層土および河川性堆積物がラミナ状に含まれる。同層中には須恵器、土師器が含まれており遺跡の遺物包含層が洪水により流失して再堆積したものと考えた。Ⅳ層は遺構検出面である。暗褐色粘質土で層厚は20～25cmである。しまりは弱く粘性は中程度である。Ⅴ層は灰色砂質シルト層である。層厚は30～40cmで田屋道遺跡のⅢ層に相当するものと推測するが、田屋道遺跡のように安定した堆積状況ではなく、腐植土のラミナや木片、アシ・ヨシ類、トチの実等を含むところから、洪水堆積層と考える。しまりは弱く、粘性も弱である。Ⅵ層はオリーブ黒色を呈する砂質シルト層である。開渠溝での掘り下げはこの層までである。同層中にも粘土が混じり部分的に互層となっていることから、同層についても水成堆積層である可能性が高い。わずかに植物遺体が混じる。

2　遺　　構

本遺跡で検出した遺構は土坑１基と打ち込み杭が８本である。土坑は試掘確認調査時に検出されていたものである。

A　土　　坑

SK１（図版86・121）

４D１・２・６・７区に位置し、Ⅳ層上面で検出した。平面形は円形で、断面形は台形状である。底面はやや凸凹である。覆土はⅣ～Ⅵ層土がブロック状に入り人為的な埋め戻しを想定した。出土遺物はない。

B　杭

杭２（図版86・122）

３C12区に位置する。Ⅳ層下で検出した。丸材で樹皮は剥がされている。杭の平面上での傾きはN174°Wで、鉛直に対し18°傾き、Ⅵ層中まで打ち込まれている。

杭３（図版86・122）

３E５区に位置する。Ⅱ層上面で検出した。割材で樹皮は剥がされている。杭の平面上での傾きはN30°

Wで、鉛直に対し10°傾き、Ⅴ層中まで打ち込まれている。

杭４（図版86・122）

４Ｄ６区に位置する。Ⅳ層上面で検出した。丸材で樹皮は剥がされている。杭の平面上での傾きはN140°Eで、鉛直に対し20°傾き、Ⅵ層中まで打ち込まれている。

杭５（図版86・122）

４Ｄ６区に位置する。Ⅳ層上面で検出した。丸材で樹皮は剥がされている。杭の平面上での傾きはN150°Eで、鉛直に対し45°傾き、Ⅴ層中まで打ち込まれている。

杭６（図版86）

４C22区に位置する。Ⅳ層中で検出した。丸材で樹皮は剥がされている。傾きはなく、Ⅵ層上面まで垂直に打ち込まれている。

杭７（図版86）

４Ｄ６区に位置する。Ⅴ層中で検出した。丸材で樹皮は剥がされている。杭の平面上での傾きはN55°Eで、鉛直に対し20°傾き、Ⅵ層上面まで打ち込まれている。

杭８（図版86・122）

４D10区に位置する。Ⅳ層下面で検出した。丸材で樹皮は剥がされている。杭の平面上での傾きはN55°Wで、鉛直に対し45°傾き、Ⅵ層上面まで打ち込まれている。

杭９（図版86・122）

５C21区に位置する。Ⅳ層下面で検出した。丸材で樹皮が一部残る。杭の平面上での傾きはN120°Eで、鉛直に対し40°傾き、Ⅵ層中まで打ち込まれている。

3　遺　　物

本遺跡から出土した遺物は、木杭以外、いずれも洪水による再堆積層（Ⅲ層）からの出土である。その総数は184点で、内訳は土師器59点、製塩土器51点、土製品２点、須恵器61点、磁器１点、杭９点、板１点であるが、土器については須恵器３点がほぼ完形品のほかは全て破片である。土師器・須恵器の記述については春日真実氏［春日1999］の成果を参考に記述した。また須恵器の産地に関する記述も春日氏の鑑定によるものである。

A　須　恵　器

１～８は無台杯である。口縁はやや外傾しながら真っ直ぐに立ち上がる。１は底部に左回転のヘラ切り痕、外側口縁部に重ね焼き痕がそれぞれ付く。内面には墨が付着している。墨溜め容器として利用したものと考える。佐渡小泊産の胎土に類似する。２は底部に左回転のヘラ切り痕があり、切り離し後の調整はない。口縁に重ね焼き痕がある。新津または元山窯と考える。３は底部に右回転ヘラ切り痕と切り離し後のナデ痕がある。口縁には重ね焼き痕がある。産地は阿賀北であろう。４は底部にヘラ切り後の再調整痕、口縁には重ね焼き痕がある。胎土には石英粒が多く含まれ、阿賀北産と考える。５は底部に右回転のヘラ切り痕がある。焼きが軟調で全体的に摩滅している。胎土には石英粒が多く含まれ、阿賀北産と考える。６・７は口縁～体部片で、６は外面に自然釉を被り光沢がある。胎土は鉄分を含み暗赤褐色を呈する。新津または元山窯のものと考える。７は外面体部に自然釉が付かないことから重ね焼きの際、内側にあった

ものと考える。８は口縁に重ね焼き痕がある。新津または元山窯と考える。９～11は有台杯である。９は体部に自然釉を被る。体部外面下部に磨痕があるが性格は不明である。新津または元山窯と考える。10は口縁の上部がやや膨らみ僅かに外傾する器形である。新津または元山窯と考える。11はよく精選された胎土で微細な石英を含む。新津または元山窯と考える。12は杯蓋である。外面は自然釉を被る。新津または元山窯と考える。13・14は、横瓶の肩部片である。13は平行叩き目とカキ目が付き、その上に細い沈線で螺旋状の文様が描かれる。内面には同心円状の当て具痕がある。14は外面の頸部の基部に同心円状の整形痕と肩部に平行叩き目が付く。外面全体に薄緑色の自然釉を被る。内面には同心円状の当て具痕がある。13・14ともに阿賀北産のものであろう。

B　土師器

15は小甕である。口縁は、くの字状に外反する。外面体部には横位のナデ痕と縦位のヘラ削り痕がある。内面にはヘラナデ痕、炭化物の付着がある。16・17・18は鍋で、体部には叩き目、内面には当て具痕とハケ目がある。

C　製塩土器

19は製塩土器である。器形は口縁がやや外反しながら外傾する鉢形である。口唇部は薄くつまみ上げられる。輪積み成形であるが器面の劣化が著しく整形痕は判然としない。底部付近は加熱により一部赤変している。胎土は粗く石英粒や小礫を多く含む。

D　土製品

20は酸化炎焼成の太形土錘である。胎土には石英・長石・雲母を含む。

E　木製品

21～28の杭のうち23はハンノキ、28はサクラである。木取りは22の割材を除いて全て丸材である。いずれも樹皮は剥がされているが28には一部残存している。21には上端に刻んだと考える浅い溝がある。26の杭は先端に焼きが入り一部炭化している。

4　自然科学分析

A　はじめに

新潟県岩船郡神林村大字新飯田に所在する宮の越遺跡は、越後平野北部の海岸砂丘後背の沖積地に立地している。現在の本遺跡の南側には百川、北には笛吹川が流れ、これらの川に挟まれるように立地している。本遺跡の発掘調査では、土坑や杭が検出されており、後述するⅢ層からは須恵器や土師器、土錘等が出土しており、これらの遺物の検討から9世紀頃の遺跡であることが想定されている。

本報告では、遺構検出面及び遺構の年代観に関わる情報を得るため放射性炭素年代測定を実施する。

B　試　　料

試料は、Ⅴ層から出土した杭材（杭4）であり、樹皮等は認められない芯持丸木である。分析目的を考慮し、観察範囲内に認められた最外年輪に相当する箇所より木片試料を採取している。なお、試料の由来に関わる情報を得るため、さらに樹種同定用試料として木片より切片を採取している。

また、本遺跡の基本土層と田屋道遺跡で認められた基本土層との対比、堆積環境等について検討するため、発掘調査区南西隅より柱状のブロックで土壌試料の採取を行い、当該試料について室内観察を行っている。以下に、観察所見を示す。なお、各層名については、発掘調査時に付された基本土層名に準拠している。

採取試料の最下位は、植物遺体が混じる暗灰色を呈する塊状の粘土（Ⅵ層）からなり、上位には木材等の植物遺体が混じる暗灰色を呈する砂質シルト（Ⅴ層）が認められる。Ⅵ～Ⅴ層間には砂混じりシルトがレンズ状に挟在する。その上位は弱い葉理が認められる暗灰色を呈するシルト～極細粒砂、植物遺体を薄層状に挟在する灰～褐灰色を呈するシルトが堆積する（Ⅳ層）。Ⅳ層の上位には、灰～橙褐色を呈する粗粒～細粒砂（Ⅲ層）が不整合に堆積し、上方に向かって細粒化する傾向が認められる。さらに上位は、暗灰～灰色を呈する泥質土（Ⅱ層）、耕作土からなる。

発掘調査所見では、Ⅳ層上面が遺構検出面とされており、Ⅲ層からは須恵器や土師器が検出されている。なお、Ⅲ層から出土した遺物については、層相観察所見から再堆積した遺物の可能性が指摘されている。

C　分析方法

分析方法については、田屋道遺跡における内容と同一のため割愛する。

D　結　　果

杭材（杭4）はハンノキ属ハンノキ亜属であった。本試料の同位体効果による補正を行った測定結果（第10表）は1,380±30BPを示す。暦年較正結果（第11表、測定誤差をσとして計算）はcalAD 640-666である。

暦年較正とは、大気中の^{14}C濃度が一定で半減期が5,568年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の^{14}C濃度の変動、及び半減期の違い（^{14}Cの半減期5,730±40年）を較正することである。暦年較正に関しては、本来10年単位での表記が通例とされるが、将来的に暦年較正プログラムや暦年較正曲線の改正があった場合の再計算、再検討に対応するため、本報告では1年単位で表記している。暦年較正については、北半球の大気中炭素に由来する較正曲線を用いる。

暦年較正結果は、測定誤差σ、2σ双方の値を示す。σは統計的に真の値が68%の確率で存在する範囲、

２σは真の値が95%の確率で存在する範囲である。表中の相対比とは、σ、２σの範囲をそれぞれ１とした場合、その範囲内で真の値が存在する確率を相対的に示したものである。

Ｅ　考　　察

杭材（杭４）は、７世紀中頃の年代を示した。本分析結果を参考とすると、宮の越遺跡のⅣ層はこれより古い土層と判断される。田屋道遺跡で認められた遺構検出面及び下位に相当するⅢ～Ⅳ層は、基本的に洪水等に伴う堆積物であり、Ⅳ層下部で砂分が多い傾向が認められている。ただし、田屋道遺跡より検出された掘立柱建物跡からは、７～８世紀頃の年代を示す柱根も認められていることから、Ⅲb～a層の形成年代はそれ以前の可能性もあり、この点については宮の越遺跡と共通している。現段階では、土層の年代観に関わる資料が少ないことや、田屋道遺跡と本遺跡間における土層に関わる所見がないことから、明確な対比には至らない。

試料名	試料の質	種　類	補正年代 BP	δ13C (‰)	測定年代 BP	Code No.	測定機関番号
杭４	木材	ハンノキ属ハンノキ亜属	1,380± 30	−29.24±0.62	1,450± 30	9414−7	IAAA−62095

1)年代値の算出には、Libbyの半減期5,568年を使用。
2)BP年代値は、1,950年を基点として何年前であるかを示す。
3)付記した誤差は、測定誤差σ(測定値の68%が入る範囲)を年代値に換算した値。

第10表　放射性炭素年代測定結果

試料名	種　類	補正年代 (BP)	暦年較正年代(cal)																相対比	Code No.
杭４	木材(ハンノキ属ハンノキ亜属)	1,381± 29	σ	cal	AD	640	−	cal	AD	666	cal	BP	1,310	−	1,284	1.000	9414−7
			2σ	cal	AD	608	−	cal	AD	677	cal	BP	1,342	−	1,273	1.000	

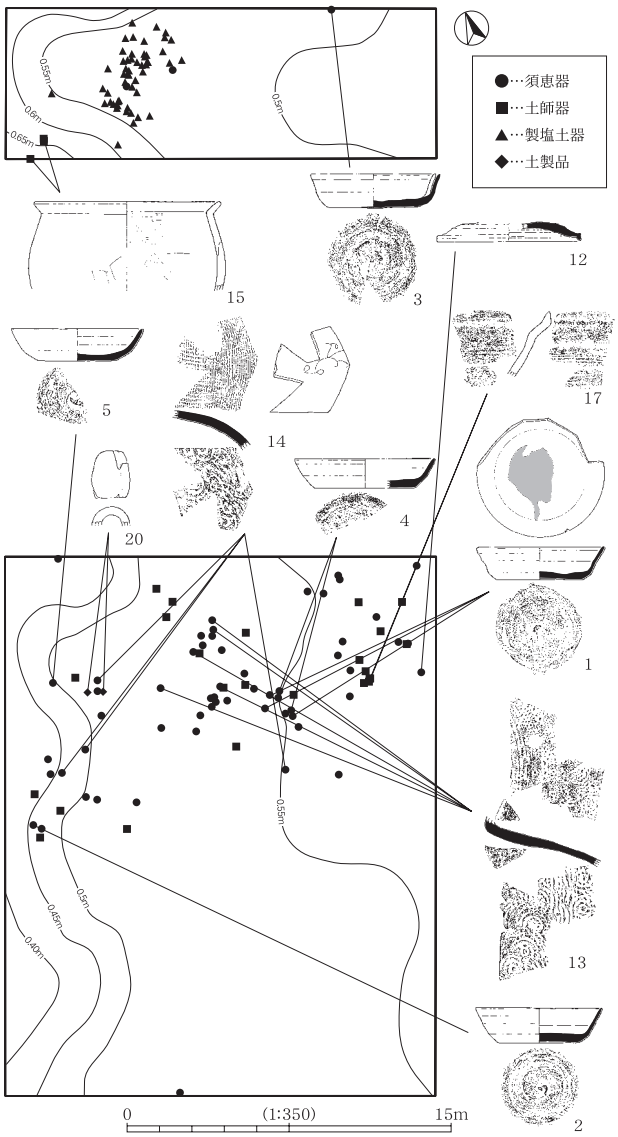
1)計算には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV5.02(Copyright 1986-2005 M Stuiver and PJ Reimer)を使用。
2)計算には表に示した丸める前の値を使用している。
3)1桁目を丸めるのが慣例だが、暦年較正曲線や暦年較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、1桁目を丸めていない。
4)統計的に真の値が入る確率はσは68%、2σは95%である。
5)相対比は、σ、2σのそれぞれを1とした場合、確率的に真の値が存在する比率を相対的に示したものである。

第11表　暦年較正結果

なお、杭材に認められたハンノキ属ハンノキ亜属は、河畔林・湿地林に生育する種類である。田屋道遺跡の花粉分析では、Ⅲc～Ⅱb層でハンノキ属の優占する結果が得られていることから、Ⅳ層堆積時の本遺跡周辺にも同様の植生が存在し、周辺に生育したハンノキ属の木材を利用したと考えられる。

5 ま と め

宮の越遺跡で検出した遺構は土坑１基、打ち込み杭８本である。土坑からの出土遺物はなく、遺構の時期を知る直接的な手掛かりはなかった。しかし周辺で検出した杭４の放射性炭素年代測定（AMS）による数値が７世紀代を示し、９世紀代の遺物を包含する砂層（Ⅲ層）が遺構覆土に含まれないことから、土坑は杭と同時期の可能性がある。神林村域では７世紀代の遺構調査例が少なく、大字牛屋に所在する西部遺跡Ⅲ［鈴木・吉田ほか2006］、平成18年度に調査された窪田遺跡や田屋道遺跡で掘立柱建物が調査された程度であろう。一方Ⅲ層出土遺物の時期である９世紀代の遺跡は多く、六百地遺跡、金曲遺跡、銅鉄遺跡、樋渡遺跡、高田遺跡等があげられる。本遺跡では遺物包含層は確認できず、洪水堆積と考えた砂層中で須恵器、土師器が出土したことから、これらの遺物の供給源を特定する必要がある。出土遺物の状態（第34図）は、調査区の北側に製塩土器片がかたまって出土し、調査区の南側では須恵器杯・大甕片が多く出土している。ここの遺物の状態は、須恵器の無台杯には完形に近いものが多いこと、他の器種についても摩滅がほとんどないことから、調査地点の西側に広がる宮の越遺跡の本体部分からもたらされたものと考えるのが自然である。出土した土器・土製品には須恵器の有台杯・無台杯・杯蓋・大甕・横瓶、土師器の小甕・鍋、製塩土器、土錘などがある。須恵器の産地は、佐渡小泊産、阿賀北産、新津または元山窯産と推定できるものがある。時期的には春日編年［春日1999］のⅣ～Ⅵ期までのものが多いようである。製塩土器については口縁が先細りでやや外側へ反ることと底部が外側へ張り出さないことから、新潟市大藪遺跡出土のものに類似しよう。高橋保［高橋1999］によると９世紀後半に海岸部から離れて内陸部の集落で製塩がみられるようになるとされる。発掘調査では遺跡の性格を示すような遺構の発見はなかったが、製塩土器や土錘の存在から、集落の生業の一端を知ることが出来た。また須恵器の産地が複数想定できることから、資料の増加を待って、消費地と生産地との関係についても言及できる可能性がある。



第34図　遺物分布図

要　約

［田屋道遺跡］

1. 田屋道遺跡は、岩船郡神林村大字九日市字堂田1459ほかに所在し、標高は約1.5mである。
2. 調査は日本海沿岸東北自動車道建設に伴い、平成18年度に実施した。調査面積は8,614㎡である。
3. 調査の結果、古代では7世紀代の掘立柱建物１棟、中世では12～14世紀代の掘立柱建物35棟、井戸27基、土坑30基、集石１基、溝72条、性格不明遺構18基、杭列３条、ピット656基（掘立柱建物分含む）、近世では16～17世紀前葉の墓１基を検出した。
4. 中世の掘立柱建物には側柱建物と総柱建物があり、側柱建物には廂を持つものがある。建物主軸方向で東西棟、南北棟に分けられる。
5. 中世の井戸の中には、埋土の状況から埋め戻しに際し、アシ・ヨシ類、炭化物、焼石を投げ入れる作為を想定できるものがあり、井戸の廃棄儀礼に関わるものと考えた。
6. 中世の溝には、方形の区画溝があり、推定で一辺が90mを超える大型の区画と、一辺が約33m程度の小型の区画がある。
7. 近世の墓としたSG313は、方形の掘方内に木枠を設けたもので、内部に至大通寶、漆塗椀、数珠玉が副葬されていた。時期は側板のAMSによる測定値から16～17世紀前葉である。
8. 遺物は、古代に属するもので須恵器、中世に属するもので青磁、白磁、珠洲焼、土師質土器、陶器、染付、漆塗皿・椀、箸状木製品、斎串状木製品、杭状木製品、刳物、曲物、羽子板状木製品、木製鉤、菰槌、砥石、銭貨、近世に属するもので数珠玉、煙管がある。

［宮の越遺跡］

1. 宮の越遺跡は、岩船郡神林村大字新飯田字宮ノ越14ほかに所在し、標高は約0.6mである。
2. 調査は日本海沿岸東北自動車道建設に伴い、平成18年度に実施した。調査面積は611㎡である。
3. 調査の結果、古代の土坑１基、打ち込まれた杭８本を検出した。杭の年代は放射性炭素年代測定（AMS）の結果から７世紀代の数値が示されている。
4. 遺物は古代の須恵器無台杯・有台杯・杯蓋・大甕・横瓶・土師器鍋・小甕・製塩土器・土錘が出土した。
5. 須恵器は春日編年［春日1999］のⅤ期に該当すると考える。

引用・参考文献

青木　学ほか　2007　『新潟県埋蔵文化財調査報告書第180集　日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書XXVI　松陰東遺跡』新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

荒川隆史ほか　1999　『新潟県埋蔵文化財調査報告書第93集　上信越自動車道関係発掘調査報告書Ⅴ　和泉A遺跡』新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

荒川隆史ほか　2006　『新潟県埋蔵文化財調査報告書第153集　一般国道49号安田バイパス関係発掘調査報告書Ⅰ　大坪遺跡』新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

岩本正二　2001　「中世の井戸」『中世北陸の井戸』北陸中世考古学研究会

上田秀夫　1982　「14～16世紀の青磁碗の分類について」『貿易陶磁研究』№2　日本貿易陶磁研究会

上田秀夫　1991　「16世紀末から17世紀前半における中国製染付碗・皿の分類と編年への予察」の青磁碗の分類について」『関西近世考古学研究』関西近世考古学研究会

小田由美子　2006　『新潟県埋蔵文化財調査報告書第169集　一般国道８号見附バイパス関係発掘調査報告書　坂井遺跡』新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

小野正敏　1982　「15～16世紀の染付碗、皿の分類と年代」『貿易陶磁研究』２　日本貿易陶磁研究会

春日真実　1999　「土器編年と地域性」『新潟県の考古学』新潟県考古学会　高志書院

春日真実　2003　『新潟県埋蔵文化財調査報告書第123集　磐越自動車道関係発掘調査報告書　沖ノ羽遺跡Ⅲ（C地区）』　新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

加藤　学ほか　2006　『新潟県埋蔵文化財調査報告書第159集　北陸新幹線関係発掘調査報告書Ⅳ　用言寺遺跡Ⅰ』新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

勝田　至　2006　『日本中世の墓と葬送』吉川弘文館

鐘方正樹　2003　『井戸の考古学』ものが語る歴史８　同成社

金子拓男　1996　「大化元年『越後秦上』についての検討」『越と古代の北陸』古代王権と交流３　名著出版

神林村史編纂委員会編　1985　『神林村誌』　神林村

貴島恒夫・岡本省吾他　1962　『原色木材大図鑑』保育者

橘田正徳　1991　「屋敷墓試論」『中近世土器の基礎研究』Ⅶ　日本中世土器研究会

橘田正徳　2003　「お墓が語る中世の家と社会　－曲川遺跡木棺墓とその周辺－」

橘田正徳　2004　「中世前期の墓制 - 墓地・屋敷墓からみた中世前期の家・集落・社会 - 」『考古学が語る「中世墓地物語」』大谷女子大学文化財学科公開講座発表資料

小池邦明　1999　「陶磁器類の組成と変遷　中世前期　12世紀後半から13世紀前半」『新潟県の考古学』新潟県考古学会

駒見和夫　1992　「井戸をめぐる祭祀」『考古学雑誌』第77巻　第4号　日本考古學會

小村正之ほか　2006　『新潟県埋蔵文化財調査報告書第161集　日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書XIV　澤田遺跡Ⅱ・桜林遺跡』新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

小村　弐ほか　1998　「北越の勇者」『図説　新潟県の歴史』河出書房

坂井秀弥　1989　『新潟県埋蔵文化財調査報告書第53集　新新バイパス関係発掘調査報告書　山三賀Ⅱ遺跡』新潟県教育委員会・建設省新潟国道工事事務所

坂井秀弥　1997　「中世集落の展開と城館の動向」『中近世の北陸－考古学が語る社会史－』　桂書房

桜井準也　1992　「近世の鍋被り人骨の出土例とその民俗学的意義」『民族考古』第１号　慶應義塾大学文学部民族学考古学研究室

桜井準也　2001　「近世の鍋被り葬と村境　－村落空間論との関わりから－」『民族考古』第５号　慶應義塾大学文学部民族学考古学研究室

狭山真一　2004　「中世後期の葬送墓制」『考古学が語る「中世墓地物語」』大谷女子大学文化財学科公開講座発表資料

品田高志　1997　「越後国における土師器の変遷と諸相」『中近世の北陸－考古学が語る社会史－』　桂書房

澁澤敬三　1984　『日本常民生活絵引』第5巻　株式会社平凡社
島田美佐子　1994　「第Ⅳ章まとめ・５墓」『梅原胡摩堂遺跡発掘調査報告書（遺構編）』（財）富山県文化振興財団
島地　謙・伊藤隆夫　1988　『日本の遺跡出土木製品総覧』雄山閣
菅沼　亘ほか　2005　『十日町市埋蔵文化財調査報告書第26集　伊達八幡館跡発掘調査報告書』十日町市教育委員会
鈴木孝之　1990　「古代～中近世の井戸跡について」『研究紀要7号』埼玉県埋蔵文化財調査事業団
鈴木俊成・折原洋一ほか　2005『新潟県埋蔵文化財調査報告書第148集　日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書Ⅻ　西部遺跡Ⅰ』新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
鈴木俊成・吉田寿ほか　2006『新潟県埋蔵文化財調査報告書第163集　日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書ⅩⅥ　西部遺跡Ⅲ』新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
鈴木敏則・鈴木靖　2004『中村遺跡（南伊場地区）・井戸・木製品編』浜松市博物館・（財）浜松市文化協会
関根達人　2003　「鍋被り葬考　－その系譜と葬法上の意味合い－」『人文社会論叢』人文科学篇　第９号　弘前大学人文学部
高取正男　1979　「屋敷付属の墓地‐死の忌みをめぐって‐」『葬送墓制研究集成』第５巻　名著出版
高橋一樹　1999　「小泉荘の成立と展開」「鎌倉時代の小泉荘」『村上市史』村上市
高橋　保　1999　「第4項　製塩」『新潟県の考古学』新潟県考古学会
高橋　保・新山雅広ほか　2006『新潟県埋蔵文化財調査報告書第157集　日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書ⅩⅢ　住吉遺跡』新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
田中耕作ほか　1990　『三光館跡・宝積寺館跡』新発田市教育委員会
田中久夫　1979　「子墓　－その葬制に占める位置について－」『葬送墓制研究集成』第１巻　名著出版
田辺早苗　1992　「牧目館跡発掘調査報告書」新潟県岩船郡神林村教育委員会
田辺早苗・松田政基　2001　『里本庄遺跡群』新潟県岩船郡神林村教育委員会・山武考古学研究所
田辺早苗・大賀　健　2002　『六百地遺跡発掘調査報告書』新潟県岩船郡神林村教育委員会・山武考古学研究所
田村浩司　1999　「漆器」『新潟県の考古学』高志書院
鶴巻康志ほか　2003　『桑ノ口遺跡発掘調査報告書』新発田市教育委員会
鶴巻康志ほか　2005　『荒神裏Ａ遺跡発掘調査報告書』新発田市教育委員会
戸根与八郎　2004　「第一編　古代・考古」『中条町史　通史編』　新潟県中条町史編さん委員会
直江浩治　1966　『屋敷神の研究』　吉川弘文館
新潟県農地部農地計画課　1972　「下越開発地域土地分類基本調査『中条』」新潟県農地部農地計画課
新潟県農地部農村総合整備課　1989　「土地分類基本調査『村上』」新潟県農地部農村総合整備課
畑　大介　2006　「中世前期の村落祭祀と串状の木製品」『鎌倉時代の考古学』小野正敏・萩原三雄編　高志書院
北陸中世土器研究会編　1996　『飾る・遊ぶ・祈るの木製用具』北陸中世考古学研究会
前川雅夫ほか　2007　『新潟県埋蔵文化財調査報告書第176集　窪田遺跡Ⅰ』　日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書ⅩⅩⅢ　新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
水澤幸一　1993　「越後における中世村落の様相」『中世北陸の家・屋敷・暮らしぶり』　北陸中世土器研究会
水澤幸一　1997　『下町・坊城遺跡Ⅱ』中条町埋蔵文化財調査報告　第12集　中条町教育委員会
水澤幸一　2000　「板碑分布から見た越後国小泉荘加納の地域信仰圏」『考古学研究』第７号
水澤幸一　2001　『下町・坊城遺跡Ⅴ』中城町埋蔵文化財調査報告　第21集　中条町教育委員会
水澤幸一・戸根与八郎　2004　「第二編　第六章　中世遺跡から見た中条」『中条町史　通史編』　新潟県中条町史編さん委員会
水澤幸一　2005　『下町・坊城遺跡Ⅵ』中条町埋蔵文化財調査報告　第33集　中条町教育委員会
森　毅　1992　『難波宮址の研究』第９　（財）大阪市文化協会
森　達也　2000　「宋・元代竜泉窯青磁の編年的研究」『東洋陶磁』29　東洋陶磁学会
森田　勉　1982　「14～16世紀の白磁の形式分類と編年」『貿易陶磁研究』２　日本貿易陶磁研究会
山本信夫　1983　「付編　土器の分類」『太宰府市の文化財第7集　大宰府条坊跡Ⅱ』太宰府市教育委員会
横田賢次郎・森田　勉　1978　「大宰府出土の輸入中国陶磁器について」『九州歴史資料館研究論集4』九州歴史資料館

吉井雅勇　1996　『高柳A遺跡・高柳B遺跡・名割遺跡』県営圃場整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ　新潟県荒川町教育委員会
吉井雅勇ほか　1999　『元山窯跡群』平成9・10年度町内遺跡試掘確認調査報告書　新潟県荒川町教育委員会
吉井雅勇　2002　『鴨侍遺跡』一級河川乙大日川統合一級河川整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　新潟県荒川町教育委員会
吉岡康暢　1994　『中世須恵器の研究』　吉川弘文館
四柳嘉章　1991　「古代～近世漆器の変遷と塗装技術」『石川考古学研究会々誌』第34号　石川考古学研究会
四柳嘉章　1995　「漆器」中世土器研究会編『概説　中世の土器・陶磁器』真陽社
四柳嘉章　1997　「北陸の漆器考古学 - 中世とその前後 - 」『北陸の漆器考古学』北陸中世土器研究会

田屋道遺跡　遺構観察表(1)

掘立柱建物(SB)（1）

（　）は残存値　［　］は廂部分を含む

SB1		側柱建物	桁行　2間 2.7m							梁間　1間 2.24m				面積　6㎡				主軸　N8° W	
遺構No.	遺構種	グリッド	形状		覆土堆積状況					規模(cm)			柱根・杭傾斜		出土遺物			他遺構との切合い
			平面形	断面形	分類	細分類 a	b	c	d	長径	短径	深さ	角度	方向	柱根	礎板	その他	
10	KUI	7D22										35	0°	垂直	○			
11	KUI	7E3										36	5°	N32° E	○			
20	KUI	7D22										40	14°	N77° W	○			
21	KUI	7E3										32	31°	N19° W	○			
22	KUI	7E7										46	17°	N81° W	○			
27	KUI	7D23										56	1°	垂直	○			＜SD8

SB2		側柱建物	桁行　3間 4.62m							梁間　1間 2.86m				面積　13㎡				主軸　N24° E	
遺構No.	遺構種	グリッド	形状		覆土堆積状況					規模(cm)			柱根・杭傾斜		出土遺物			他遺構との切合い
			平面形	断面形	分類	細分類 a	b	c	d	長径	短径	深さ	角度	方向	柱根	礎板	その他	
62	P	9C4･5	円形	U字状	A		2	1		22	20	23						
64	P	9C4	円形	U字状	C					22	19	24						
69	P	9C9･14	隅丸方形	漏斗状	F		1	1		34	32	25						
80	P	9C15	楕円形	階段状						46	31	18						＜SD79
99	P	10C1	楕円形	V字状	C	1				29	24	22						
107	P	10C11	楕円形	U字状	B		2	2		27	20	24						＜SD79
109	P	9C14･15	不整円形	半円状	F		1	2		24	24	17						
137	P	9C5	円形	台形状	F					40	38	17						

SB3		側柱建物	桁行　4間 8.72m							梁間　3間 5.31m				面積　46㎡				主軸　N21° E	
遺構No.	遺構種	グリッド	形状		覆土堆積状況					規模(cm)			柱根・杭傾斜		出土遺物			他遺構との切合い
			平面形	断面形	分類	細分類 a	b	c	d	長径	短径	深さ	角度	方向	柱根	礎板	その他	
3	P	8C21，8D1	円形	U字状	B		2	2	1	23	20	23						
45	P	8D10	円形	台形状	B			3	2	21	18	10						
46	P	8C25	円形	U字状	C					24	21	27						
47	P	8D5	円形	半円状	E					30	27	16						
48	P	8D13	円形	U字状	A		1			24	24	34						
49	P	8D14	円形	階段状	A			1		24	21	36	5°	N68° W	○			
51	P	8D15	円形	階段状	A			1		22	21	33	4°	N75° W	○			
77	P	8C21，8D1	円形	階段状	A			1		20	20	44	17°	N130° W	○			？SD68
78	P	8C22	楕円形	階段状	D		2	2		37	23	24						
92	P	8C24	円形	半円状	A		1			24	20	9						
101	P	8D11	楕円形	半円状	C		2			24	18	28						
102	P	8D11･12	円形	V字状	B		1	2	1	25	21	27						
104	P	8D6	円形	U字状	C		2			18	16	24						

SB4		側柱建物	桁行　3間 7.45m							梁間　2間 3.74m				面積　28㎡				主軸　N15° E	
遺構No.	遺構種	グリッド	形状		覆土堆積状況					規模(cm)			柱根・杭傾斜		出土遺物			他遺構との切合い
			平面形	断面形	分類	細分類 a	b	c	d	長径	短径	深さ	角度	方向	柱根	礎板	その他	
127	P	12D13	隅丸方形	U字状	B		1	2		28	23	23	54°	N32° W	○			＞P128
128	P	12D13	円形	半円状	F					(22)	34	10						＜P127
129	P	12D14	楕円形	半円状	B	1				30	24	11						
130	P	12D19	不整楕円形	半円形	B	1				34	28	17						
131	P	12D24	円形	半円状	B	1				30	26	23						
132	P	12D23	円形	U字状	B		1	2		20	20	102	8°	N10° E	○			
133	P	12D18	円形	階段状	F		1	2		30	25	22	5°	N15° E	○			
142	P	12D21	楕円形	半円状	B		1	3		22	16	18						
143	P	12D22	円形	U字状	A			1		26	22	107	8°	N70° W	○			＞P165
144	P	12D12	長楕円形	台形状	F		1	2		32	15	13	36°	N33° W	○			
145	P	11D15	楕円形	台形状	F					35	25	15						
165	P	12D22	不整円形	半円状	B		2	2		(26)	23	20						＜P143

SB5		側柱建物	桁行　2間 3.28m							梁間　1間 2.08m				面積　7㎡				主軸　N16° E	
遺構No.	遺構種	グリッド	形状		覆土堆積状況					規模(cm)			柱根・杭傾斜		出土遺物			他遺構との切合い
			平面形	断面形	分類	細分類 a	b	c	d	長径	短径	深さ	角度	方向	柱根	礎板	その他	
147	P	12D19	楕円形	半円状	F					45	32	17						
148	P	12D24	長楕円形	半円状	F					29	16	15						
183	P	12D25	長楕円形	階段状	C		2	2	2	30	20	20						
184	P	12D20	楕円形	U字状	F					17	14	24						
185	P	12D20，13D11･16	不整円形	階段状	F					34	32	12						
200	P	13D16･21	長楕円形	半円状	C	1				37	20	20						＜SE181

SB6		側柱建物	桁行　2間 2.96m							梁間　1間 1.96m				面積　6㎡				主軸　N15° E	
遺構No.	遺構種	グリッド	形状		覆土堆積状況					規模(cm)			柱根・杭傾斜		出土遺物			他遺構との切合い
			平面形	断面形	分類	細分類 a	b	c	d	長径	短径	深さ	角度	方向	柱根	礎板	その他	
162	P	12E10	長楕円形	台形状	F					38	24	16						
163	P	13E6	長楕円形	台形状	B		2	1		40	25	12						
166	P	12E10	不整楕円形	半円状	F					31	25	15						
172	P	12E4	円形	半円状	F					17	15	10						
178	P	13E1	不整円形	箱状	F					24	17	13						
235	P	12E5	長楕円形	弧状	B		2	3		31	19	7						

田屋道遺跡　遺構観察表(2)
掘立柱建物(SB)（2）

SB7		側柱建物	桁行　1間 3.52m						梁間　1間 2.05m			面積　7㎡				主軸　N16°E	
遺構No.	遺構種	グリッド	形状		覆土堆積状況				規模(cm)			柱根・杭傾斜		出土遺物			他遺構との切合い
			平面形	断面形	分類	細分類 a	b	c	d	長径	短径	深さ	角度	方向	柱根	礎板	その他	
149	P	12D25，12E5	円形	U字状	A			2		26	25	30	30°	N105°E	○			
164	P	13E2	長楕円形	台形状	B	2				28	18	11						
167	P	13E1	楕円形	台形状	F					27	22	26						
174	P	13D22	不整円形	台形状	B		2	2		25	25	34						

SB8		側柱建物	桁行　1間 3.25m						梁間　1間 1.95m			面積　6㎡				主軸　N16°E	
遺構No.	遺構種	グリッド	形状		覆土堆積状況				規模(cm)			柱根・杭傾斜		出土遺物			他遺構との切合い
			平面形	断面形	分類	細分類 a	b	c	d	長径	短径	深さ	角度	方向	柱根	礎板	その他	
161	P	13E11	楕円形	半円状	F					35	24	17						
169	P	13E13	円形	半円状	F		1	2		25	22	17						
170	P	13E16	楕円形	半円状	F					36	26	27						
171	P	13E18	不整円形	半円状	F					25	22	12						

SB9		側柱建物＋廂	桁行　4間 5.92 [8.68] m						梁間　2間 3.52 [5.12] m			面積　21 [44] ㎡				主軸　N13°E	
遺構No.	遺構種	グリッド	形状		覆土堆積状況				規模(cm)			柱根・杭傾斜		出土遺物			他遺構との切合い
			平面形	断面形	分類	細分類 a	b	c	d	長径	短径	深さ	角度	方向	柱根	礎板	その他	
190	P	14E2	円形	U字状	A			2		20	18	34	20°	N58°E	○			
191	P	14D23	円形	U字状	C			2		15	13	26	5°	N107°E	○			
192	P	14E3	不整円形	半円状	B		2	2		30	28	21						
193	P	14D23	円形	半円状	F					24	21	15						
194	P	14E2･3	不整円形	階段状	B		2	3		21	19	17						
196	P	14E2	隅丸長方形	U字状	C		2	2		20	16	16						
197	P	14E1	隅丸長方形	台形状	B		2	1		24	20	13						
199	P	14E1	隅丸方形	半円状	F					18	16	12						
202	P	14E13	不整円形	半円状	B		2	2		21	21	19						
203	P	14E12	隅丸方形	階段状						25	25	18						
206	P	14E12	円形	半円状	F					21	20	18						
207	P	14E8･9･13･14	円形	U字状	B		2	2	2	24	22	29						
208	P	14E14	隅丸方形	半円状	B					25	23	17						
209	P	14E11	隅丸長方形	台形状	B	1				29	24	19						
211	P	14E13	不整円形	半円状	B			2		19	17	20	8°	N7°W	○			
239	P	14E9･14	円形	半円状	C		2	2		27	27	13						
240	P	14E14	円形	台形状	C		2	2		21	21	21						
241	P	14E15	隅丸長方形	台形状	F					28	23	14						
242	P	14E15	円形	階段状	B		2	2		27	23	23	10°	N30°E	○			
243	P	14E9･14	隅丸方形	台形状	B		1	2		29	26	18						
244	P	14E4･9	円形	台形状	F					24	21	16						
245	P	14E4	隅丸方形	U字状	C		2	2		24	23	26						
247	P	14E5	不整円形	U字状	B		2	3		20	20	21						
248	P	14D24	不整円形	台形状	C		2	2		26	25	21						
249	P	14E2	円形	弧状	F					15	13	7						
250	P	14E11･16	楕円形	弧状	F					16	13	7						
283	P	13E5	円形	半円状	F		1	2		23	21	11	21°	N58°E	○			

SB10		総柱建物＋廂	桁行　3間 7.84m						梁間　2間 3.2 [4.25] m			面積　25 [30] ㎡				主軸　N20°E	
遺構No.	遺構種	グリッド	形状		覆土堆積状況				規模(cm)			柱根・杭傾斜		出土遺物			他遺構との切合い
			平面形	断面形	分類	細分類 a	b	c	d	長径	短径	深さ	角度	方向	柱根	礎板	その他	
260	P	14B24	円形	階段状	F		1			17	17	20						
261	P	15B21	楕円形	U字状	F		1			17	13	24						
262	P	15B22	楕円形	半円状	A	2				18	14	9						
263	P	15B22	楕円形	半円状	F					30	26	20						＞SD290
264	P	15B21	不整形	階段状	F					39	26	21						
265	P	14B24	楕円形	階段状	C	1				29	24	18						
266	P	14B23	楕円形	半円状	C	1				31	25	14						
267	P	14C3	不整円形	U字状	C		2	2		28	24	19						
268	P	14C4	楕円形	半円状	B	1				34	26	21						
269	P	15C1	楕円形	階段状	B	2				35	28	15						
270	P	15C2	隅丸長方形	半円状	F		1	3	2	27	21	19						
271	P	14C9	楕円形	半円状	F					13	9	11						
272	P	14C8	不整円形	半円状	F					19	17	10						

SB11		側柱建物	桁行　3間 7.64m						梁間　2間 3.96m			面積　30㎡				主軸　N28°E	
遺構No.	遺構種	グリッド	形状		覆土堆積状況				規模(cm)			柱根・杭傾斜		出土遺物			他遺構との切合い
			平面形	断面形	分類	細分類 a	b	c	d	長径	短径	深さ	角度	方向	柱根	礎板	その他	
293	P	16E12	円形	U字状	C		2	2		28	26	53						
294	P	16E13	円形	U字状	C		2	2	2	28	25	45						＞SD289
295	P	16E14	円形	U字状	B		2	2	2	28	26	57						
296	P	16E15	楕円形	U字状	B	1				30	23	34						
297	P	16E25	円形	U字状	B		2	2	2	33	28	44						
298	P	16E24	不整楕円形	U字状	A			2		39	20	70	2°	N155°E	○			＞SD288
299	P	16E21	不整楕円形	U字状	C		2	2	2	47	37	51						
300	P	16E11	不整楕円形	U字状	C		2	2	2	35	27	62						
301	P	16E16	長楕円形	半円状	B	1				23	14	22						
302	P	16E16	隅丸方形	U字状	B		2	2		29	25	30						

田屋道遺跡　遺構観察表(3)
掘立柱建物(SB)（3）

SB12		側柱建物＋廂	桁行　3間 7.76 [11.04] m						梁間　1間 3.92 [6.1] m				面積　30 [68] ㎡				主軸　N67°W
遺構No.	遺構種	グリッド	形状		覆土堆積状況				規模(cm)			柱根・杭傾斜		出土遺物			他遺構との切合い
			平面形	断面形	分類	細分類 a	b	c	d	長径	短径	深さ	角度	方向	柱根	礎板	その他	
319	P	19E12	円形	台形状	A			1		29	25	27	8°	N48°W	○			＜杭725
320	P	19E7	円形	階段状	F			2		32	27	39	11°	垂直	○			
321	P	19E2	楕円形	台形状	B			2		39	(29)	36	8°	N65°E	○			
323	P	18E15	円形	漏斗状	F			1		31	27	43	0°	垂直	○			
324	P	18E10	楕円形	台形状	F			2		30	25	33	0°	垂直	○			
325	P	18E5		漏斗状	A			1				50	0°	垂直	○			
443	P	19E13	円形	台形状	F					21	20	22						＞P450
444	P	19E18	不整楕円形	台形状	F					28	22	17						
449	P	19E17･18	楕円形	U字状	F					19	15	8						
637	P	19D12･17	円形	半円状	C		1	3		26	25	25	0°	垂直	○			
638	P	19D17	不整円形	階段状	C		1	3		31	26	32						
639	P	19D22･23	円形	半円状	B		1	3		29	(18)	24						
645	P	19E16	不整円形	漏斗状	C		2	2		22	19	16	10°	N36°W	○			
666	P	18E20	円形	半円状	B		2	3		18	16	19						
670	P	18E15	楕円形	半円状	B		1	2		29	22	16				○		
672	P	18E4･5	不整円形	台形状	C		2	2		32	30	15						
688	P	19D11･16	楕円形	階段状	C		2	2	1	41	35	33						
719	P	18D20･25	楕円形	階段状	C		1	2	1	39	30	50	10°	N11°W	○	○		
720	P	18D19･20	円形	U字状	B		1	2		30	27	31						
721	P	18D14･19	楕円形	半円状	B		2	2		31	25	22						
722	P	18D24	円形	U字状	C		2	2		27	26	32	15°	N106°W	○			
788	P	18D24	楕円形	U字状	A					10	8	13	0°	垂直	○			
872	P	19E3	長楕円形	U字状	B		2	2		29	18	14	17°	N106°E	○	○		

SB13		側柱建物	桁行　4間 9.04m						梁間　1間 3.44m				面積　31㎡				主軸　N60°W
遺構No.	遺構種	グリッド	形状		覆土堆積状況				規模(cm)			柱根・杭傾斜		出土遺物			他遺構との切合い
			平面形	断面形	分類	細分類 a	b	c	d	長径	短径	深さ	角度	方向	柱根	礎板	その他	
343	P	19E8	楕円形	台形状	B		1	2	2	39	29	32						
344	P	19E13･18	円形	台形状	F					30	30	26						
345	P	19E18･23	隅丸方形	台形状	C		2	2		30	30	29						＞SD334
346	P	19E10	円形	台形状	B	1				32	30	28						
347	P	19E15･20	不整形	台形状	F					27	24	15						
348	P	19E25	不整形	U字状	C		1	2		30	28	25						＞SD334
373	P	19E3														○		
478	P	19F3	不整形	漏斗状	F					32	27	37						
647	P	19F5	円形	台形状	F					25	25	11						

SB14		側柱建物＋廂	桁行　3間 7.56 [8.05] m						梁間　1間 3.68 [5.2] m				面積　28 [42] ㎡				主軸　N62°W
遺構No.	遺構種	グリッド	形状		覆土堆積状況				規模(cm)			柱根・杭傾斜		出土遺物			他遺構との切合い
			平面形	断面形	分類	細分類 a	b	c	d	長径	短径	深さ	角度	方向	柱根	礎板	その他	
332	P	18E15	円形	台形状	F					24	22	26						
338	P	18E25，18F5	隅丸方形	箱状	C		2	3		34	30	19				○		
349	P	18F4	円形	台形状	F		2	3	2	40	40	19						
350	P	18E19･24	円形	台形状	F					38	38	19						
351	P	18E14	円形	台形状	C					40	38	22						
352	P	18F2	不整楕円形	台形状	F					40	30	14						
353	P	18E17	不整楕円形	台形状	F					37	28	9						
354	P	18E12･13	円形	台形状	B					33	29	12						
663	P	18E20･25	円形	U字状	C		1	2		15	15	19						
669	P	18E15	円形	台形状	B		1	2		20	17	17						
671	P	18E14	円形	台形状	C		2	3		24	22	17						
677	P	18E12	不整円形	弧状	C		2	2		39	33	7				○		
697	P	18E12	楕円形	半円状	B		2	3		21	16	16						
698	P	18E22	隅丸方形	弧状	C		2	2		25	22	10						
699	P	18F2	楕円形	台形状	B		1	2		30	25	19	0°	垂直	○			
701	P	18F2	円形	台形状	B		2	3		24	21	16						
702	P	18F2･7	円形	半円状	B		2	2		46	40	9				○		＞P743
703	P	18F7	円形	弧状	C		2	3		19	16	6						
707	P	18F9	楕円形	半円状	C		2	2		36	29	12						
723	P	18F10	円形	半円状	F		2	2		39	37	14				○	土師質土器	
743	P	18F2･7	円形	弧状	F					43	(25)	7						＜P702

田屋道遺跡　遺構観察表(4)
掘立柱建物(SB)（4）

SB15	側柱建物＋廂	桁行　4間 6.24 [8.24] m	梁間　1間 3.04 [4.32] m	面積　19 [36] ㎡	主軸　N16°E

遺構No.	遺構種	グリッド	形状 平面形	形状 断面形	覆土堆積状況 分類	細分類 a	細分類 b	細分類 c	細分類 d	規模(cm) 長径	規模(cm) 短径	規模(cm) 深さ	柱根・杭傾斜 角度	柱根・杭傾斜 方向	出土遺物 柱根	出土遺物 礎板	出土遺物 その他	他遺構との切合い
360	P	19E8	円形	台形状	F					15	14	9						
361	P	19F3	円形	U字状	E		2	3		(20)	20	34						＞P402 ＜P362
362	P	19F3	楕円形	U字状	B		2	2		19	15	25						＞P361
363	P	19F3	楕円形	U字状	C		2	2		18	15	21						
364	P	19F3	楕円形	U字状	B		2	2		19	15	23						＞P840
365	P	19E23	不整円形	台形状	B		2	2		26	22	18						＞P657
366	P	19E24	不整円形	半円状	A					13	11	11						
370	P	19E24･25	円形	階段状	B		1	2	3	35	29	30				○		
371	P	19E25	円形	階段状	F		2			27	27	23						
372	P	19F10	円形	階段状	F		1			26	26	33						
374	P	19E25	楕円形	台形状	A					28	23	20						＞P375
375	P	19E25	円形	半円状	C					26	(14)	21						＜P374
376	P	19E25	円形	U字状	C		2	2		19	19	23						
377	P	19F5	楕円形	階段状	F					18	14	10						
379	P	19F5	円形	台形状	F					25	25	16						
380	P	19F10	円形	U字状	F					22	20	39						
384	P	20F1	隅丸方形	V字状	A					29	26	22						
385	P	20E21	楕円形	弧状	F					27	21	11						＞P550
386	P	20E21	隅丸方形	V字状	F					23	20	36						
387	P	20F1	円形	半円状	F					16	16	12						
388	P	20F1	隅丸方形	台形状	A					19	19	10						
389	P	20F1･6	不整円形	台形状	C	2				27	(24)	15						＞P390
390	P	20F1	円形	台形状	F					16	16	9						＜P389
402	P	19F3	長楕円形	台形状	A					25	16	20						＜P361
448	P	20F1	円形	台形状	E	2				21	21	30						
462	P	20E21	円形	U字状	F					26	26	34						
463	P	19E24	円形	階段状	F					31	28	25						
464	P	19E24･25	円形	階段状	F					27	23	16					土師質土器	
475	P	20E21	不整楕円形	半円状	B		2	2		31	26	25	14°	N133°W	○			
550	P	20E21	不整楕円形	弧状	F					24	19	9						＜P385
585	P	20F2	不整円形	階段状	C		1	3	1	35	30	28						
586	P	20E22	不整円形	階段状	C		2	3	1	45	41	29						
602	P	20E22	円形	U字状	F					17	15	16						
605	P	20E21	楕円形	弧状	F					24	19	7						＞P609
609	P	20E21	楕円形	弧状	A					21	17	4						＜P605
623	P	20F2･7	楕円形	半円状	C		2	1		36	29	26						＞P624
624	P	20F2･7	楕円形	半円状	F					42	(33)	26						＜P623
626	P	20F7	不整楕円形	半円状	F					23	18	7						
627	P	19F4･5	不整円形	台形状	B					39	33	36						
656	P	19E23	楕円形	階段状	F		2	3		34	25	15						
657	P	19E23	円形	U字状	F					18	17	34						＜P365
754	P	19F8	隅丸方形	U字状	C		2	2		23	22	21						
839	P	19E23･24	長楕円形	階段状	B					35	23	19						
849	P	20F7	円形	漏斗状	B		2	3	2	27	24	32						

SB16	側柱建物	桁行　3間 6.92m	梁間　2間 3.84m	面積　27㎡	主軸　N11°E

遺構No.	遺構種	グリッド	形状 平面形	形状 断面形	覆土堆積状況 分類	細分類 a	細分類 b	細分類 c	細分類 d	規模(cm) 長径	規模(cm) 短径	規模(cm) 深さ	柱根・杭傾斜 角度	柱根・杭傾斜 方向	出土遺物 柱根	出土遺物 礎板	出土遺物 その他	他遺構との切合い
227	P	20C3･8	隅丸長方形	台形状	F		2	3		40	33	35						
421	P	20C5，21C1	隅丸方形	U字状	C		2	3		27	23	45						
422	P	21C6	円形	U字状	F		2	3		21	20	36						
424	P	21C11	隅丸長方形	階段状	F					27	22	30						
427	P	20C4･5	円形	階段状	E		2	2		28	27	48						
428	P	20C15	隅丸方形	U字状	F		2	3		22	19	59						
434	P	20C7	円形	漏斗状	F					25	22	28						
435	P	20C12	隅丸方形	漏斗状	C		2	3		22	19	30						
436	P	20C18	円形	U字状	C		2	2		26	25	27						
455	P	20C14	隅丸方形	U字状	F		2	3		22	20	62						

SB17	側柱建物	桁行　3間 5.66m	梁間　1間 2.56m	面積　15㎡	主軸　N70°W

遺構No.	遺構種	グリッド	形状 平面形	形状 断面形	覆土堆積状況 分類	細分類 a	細分類 b	細分類 c	細分類 d	規模(cm) 長径	規模(cm) 短径	規模(cm) 深さ	柱根・杭傾斜 角度	柱根・杭傾斜 方向	出土遺物 柱根	出土遺物 礎板	出土遺物 その他	他遺構との切合い
481	P	20D24	円形	半円状	E					33	30	14						
482	P	20E4	円形	弧状	A					28	24	10						
484	P	20D22･23，20E2	楕円形	半円状	C		1	2		44	32	12						
485	P	20E2･3	円形	半円状	F					36	33	12						
520	P	20E7･8	隅丸長方形	階段状	C		1	1		32	21	24						＞P521
521	P	20E7	円形	台形状	F					29	(20)	27						＜P520
522	P	20E13	不整円形	台形状	B		1	2		33	29	22						
529	P	20E12･13	不整円形	半円状	B		1	2		27	24	27						
530	P	20E9	円形	半円状	F			2		29	26	19	20°	N36°E	○			
532	P	20E14	隅丸長方形	箱状	C		2	3		32	27	21						

田屋道遺跡　遺構観察表(5)
掘立柱建物(SB)（5）

SB18	総柱建物＋廂	桁行　4間 11.72m			梁間　4間 6.32 [7.1] m							面積　74 [83] ㎡					主軸　N84° W
遺構No.	遺構種	グリッド	形状		覆土堆積状況					規模(cm)			柱根・杭傾斜		出土遺物			他遺構との切合い
			平面形	断面形	分類	細分類 a	b	c	d	長径	短径	深さ	角度	方向	柱根	礎板	その他	
537	P	19C9･10	不整円形	階段状	F		2	2		25	25	26						
538	P	19C15	楕円形	階段状	B		2	2	2	34	28	46						
539	P	19C20	不整長楕円形	漏斗状	B		2	2		42	26	37						
540	P	19C25，20C21	円形	漏斗状	B		2	2	2	34	34	49						＞P541
541	P	20C21	円形	半円状	F					34	30	16						＜P540
542	P	20D1	円形	漏斗状	C		2	3		24	23	32						
543	P	20D6	不整円形	箱状	F		2	2		27	25	28						
544	P	19C9	隅丸長方形	箱状	C		2	3		35	31	29						
545	P	19C14･15	隅丸方形	階段状	C		1	1		29	26	23						
546	P	19C20	楕円形	半円状	B		2	3		36	27	14						
547	P	19C25，19D5	隅丸方形	半円状	B		2	3		28	25	11						
548	P	20D6	円形	半円状	B		2	3		34	32	17						
549	P	19C8･9	不整円形	箱状	B		2	2		49	43	41						
552	P	19C14	不整円形	台形状	F					34	32	19						
553	P	19C24	円形	階段状	A			2		37	(20)	46	0°	N170° W	○			
554	P	19D5	隅丸方形	階段状	C		2	2		31	30	16						
555	P	19D10･15	円形	半円状	B	2				32	32	20						＞P556
556	P	19D10･15	円形	U字状	B		2	3		29	26	39						＜P555
557	P	19C8	円形	半円状	B		2	3		30	30	17						
558	P	19C13･18	隅丸長方形	階段状	B		2	2		53	38	50						
559	P	19C23･24	長楕円形	階段状	C		2	2		48	32	42	25°	N0°	○			＞P560
560	P	19C23･24	長楕円形	箱状	B		2	2		(52)	38	31						＜P559
561	P	19D4	楕円形	U字状	B		2	3		29	20	26						
562	P	19D4･9	円形	U字状	F					40	38	44						
563	P	19D14	円形	階段状	C		2	2		30	28	17						
564	P	19C7	円形	階段状	B		2	2		52	47	35						
566	P	19C17	楕円形	階段状	B		2	2		34	28	12						
567	P	19C22･23	円形	台形状	B		2	3		45	40	40						
568	P	19D8	不整円形	台形状	B		2	3		32	29	23						＜SE551
569	P	19D13	楕円形	U字状	C		2	3		43	35	54						
570	P	19C11	楕円形	階段状	C		2	3		44	32	38						
571	P	19C16･17	不整楕円形	階段状	F					33	26	18						
588	P	19C22	不整方形	階段状	C		2	3		32	31	19						
589	P	19D2	楕円形	階段状	C		2	2		45	35	24						＞P590
590	P	19D2	円形	階段状	C		2	3		31	30	22						＜P589
591	P	19D7	楕円形	箱状	A			1		33	29	36	8°	N47° W	○			
592	P	19D7	円形	箱状	C		2	3		27	26	22						
593	P	19D13	不整長楕円形	階段状	C		2	3	1	52	34	28						

SB19	側柱建物	桁行　2間 5.52m			梁間　1間 3.68m							面積　20㎡					主軸　N70° W
遺構No.	遺構種	グリッド	形状		覆土堆積状況					規模(cm)			柱根・杭傾斜		出土遺物			他遺構との切合い
			平面形	断面形	分類	細分類 a	b	c	d	長径	短径	深さ	角度	方向	柱根	礎板	その他	
765	P	25C15	隅丸方形	台形状	B		2	3		27	24	14						
773	P	25C5･10	隅丸方形	台形状	B		2	2		32	29	16						
774	P	26C1･2	楕円形	台形状	B		2	2		28	22	22						
775	P	26B21	楕円形	漏斗状	B		2	2		30	24	24						
776	P	25B24･25	隅丸方形	U字状	B		2	2		35	31	36						
900	P	26C12																

SB 20	側柱建物	桁行　1間 3.68m			梁間　1間 2.4m							面積　9㎡					主軸　N20° E
遺構No.	遺構種	グリッド	形状		覆土堆積状況					規模(cm)			柱根・杭傾斜		出土遺物			他遺構との切合い
			平面形	断面形	分類	細分類 a	b	c	d	長径	短径	深さ	角度	方向	柱根	礎板	その他	
766	P	25C15，26C11	楕円形	台形状	F					26	21	16						
768	P	26C12	隅丸方形	U字状	F					16	14	19						
769	P	26C17	不整円形	箱状	C		2	2		29	26	19						
771	P	25C20，26C16	円形	階段状	B		2		2	36	33	32						

SB21	側柱建物	桁行　3間 7.64m			梁間　2間 3.8m							面積　29㎡					主軸　N89° W
遺構No.	遺構種	グリッド	形状		覆土堆積状況					規模(cm)			柱根・杭傾斜		出土遺物			他遺構との切合い
			平面形	断面形	分類	細分類 a	b	c	d	長径	短径	深さ	角度	方向	柱根	礎板	その他	
421	P	20C5，21C1	隅丸方形	U字状	C		2	3		27	23	45						
423	P	21C6	隅丸方形	階段状	F					28	28	29						
425	P	21C16	円形	U字状	F					23	23	43						
426	P	21C21	楕円形	階段状	C		1	2		30	24	46	0°	垂直	○			
429	P	21C21	楕円形	U字状	C		1	2		24	20	32						
430	P	20C4･9	楕円形	U字状	C		1	2		31	27	40						
431	P	20C14	楕円形	U字状	B		2	2		34	27	53						
432	P	20C19	円形	半円状	B		2	2		43	41	40					斎串状木製品	
433	P	20C24･25	円形	U字状	B		2	2		26	23	36						
466	P	20C5	円形	階段状	B		1	3		24	21	16						

田屋道遺跡　遺構観察表(6)
掘立柱建物(SB)（6）

SB22	側柱建物	桁行　3間 4.24m							梁間　1間 2.45m				面積　10㎡				主軸　N70°W	
遺構No.	遺構種	グリッド	形状		覆土堆積状況					規模(cm)			柱根・杭傾斜		出土遺物			他遺構との切合い
			平面形	断面形	分類	細分類 a	b	c	d	長径	短径	深さ	角度	方向	柱根	礎板	その他	
212	P	17F15	楕円形	U字状	F		2	2		26	20	30						
407	P	17F4･5	円形	半円状	B		2	1		38	38	16				○		
408	P	17F5	不整円形	半円状	C		2	2		35	34	20						
409	P	17F10	楕円形	U字状	C		2	2	2	28	21	30						
410	P	18F6	隅丸方形	階段状	F					40	40	41						
411	P	18F1	楕円形	箱状	B		2	2		36	28	18						

SB23	側柱建物	桁行　1間 3.84m							梁間　1間 2.95m				面積　11㎡				主軸　N12°E	
遺構No.	遺構種	グリッド	形状		覆土堆積状況					規模(cm)			柱根・杭傾斜		出土遺物			他遺構との切合い
			平面形	断面形	分類	細分類 a	b	c	d	長径	短径	深さ	角度	方向	柱根	礎板	その他	
746	P	26D1	円形	V字状	B		2	2		29	27	21						
749	P	26C18･23	隅丸方形	U字状	B		2	2	2	38	36	47						
752	P	26D3	隅丸方形	台形状	B		2	2		38	33	34						
801	P	26C21	円形	半円状	C		2	3		28	26	18						

SB24	側柱建物	桁行　1間 3.84m							梁間　1間 2.58m				面積　10㎡				主軸　N15°E	
遺構No.	遺構種	グリッド	形状		覆土堆積状況					規模(cm)			柱根・杭傾斜		出土遺物			他遺構との切合い
			平面形	断面形	分類	細分類 a	b	c	d	長径	短径	深さ	角度	方向	柱根	礎板	その他	
598	P	26D6	隅丸方形	階段状	B		1	3		32	28	13						
753	P	26C23，26D3	隅丸方形	漏斗状	C		2	2		33	31	34						
797	P	26D8	円形	弧状	F					19	16	7						
800	P	26D1	楕円形	U字状	F					17	13	18						

SB25	側柱建物	桁行　3間 6.35m							梁間　1間 3.6m				面積　23㎡				主軸　N72°W	
遺構No.	遺構種	グリッド	形状		覆土堆積状況					規模(cm)			柱根・杭傾斜		出土遺物			他遺構との切合い
			平面形	断面形	分類	細分類 a	b	c	d	長径	短径	深さ	角度	方向	柱根	礎板	その他	
231	P	27E3･4	円形	半円状	B		1	2		19	17	17						
781	P	27D8	円形	半円状	B		2	2		23	21	22						
782	P	27D18	円形	台形状	B		2	2		27	25	20						
783	P	27D20	円形	箱状	A					18	17	10						
792	P	27D10	円形	U字状	C		1	2		21	19	22						
795	P	27D15	円形	台形状	F					21	20	24						
807	P	27D25，27E5	不整楕円形	台形状	B		2	2		33	26	20						

SB26	側柱建物	桁行　2間 3.36m							梁間　1間 2m				面積　7㎡				主軸　N77°W	
遺構No.	遺構種	グリッド	形状		覆土堆積状況					規模(cm)			柱根・杭傾斜		出土遺物			他遺構との切合い
			平面形	断面形	分類	細分類 a	b	c	d	長径	短径	深さ	角度	方向	柱根	礎板	その他	
488	P	21D20	不整楕円形	半円状	C		2	3	2	33	25	26						
489	P	21D19	不整楕円形	階段状	B		2	2		35	28	24	0°	垂直	○			
606	P	21D15	楕円形	階段状	C		2	2		22	18	24	18°	N156°E	○			
784	P	21D9	隅丸方形	台形状	F					29	28	55						＞SD526
882	P	21D10	円形	台形状	A					19	17	13						

SB27	側柱建物	桁行　1間 2.08m							梁間　1間 2.05m				面積　4㎡				主軸　N23°E	
遺構No.	遺構種	グリッド	形状		覆土堆積状況					規模(cm)			柱根・杭傾斜		出土遺物			他遺構との切合い
			平面形	断面形	分類	細分類 a	b	c	d	長径	短径	深さ	角度	方向	柱根	礎板	その他	
282	P	22F1		階段状	F		2			42	30	53						＜SD832
640	P	21F5	不整円形	U字状	E		2	3		31	27	24				○		＞SD579
861	P	22F6	楕円形	U字状	C		2	2		29	26	39	11°	N90°E	○			

SB28	側柱建物	桁行　2間 4.65m							梁間　2間 4.56m				面積　21㎡				主軸　N16°E	
遺構No.	遺構種	グリッド	形状		覆土堆積状況					規模(cm)			柱根・杭傾斜		出土遺物			他遺構との切合い
			平面形	断面形	分類	細分類 a	b	c	d	長径	短径	深さ	角度	方向	柱根	礎板	その他	
222	P	19F12･13		U字状	A			2				44						
224	P	19F14		U字状	A			2				44	11°	N114°E	○			
318	P	19F2	不整円形	U字状	A			2		26	25	36	0°	垂直	○			＞SE326
368	P	19F9	円形	階段状	C		1	2		23	20	35						＜P465
465	P	19F8･9	隅丸長方形	階段状	C		1	2		35	25	30						＞P368
469	P	19F3･4	不整円形	U字状	C		2	2		30	27	34						＞P470
470	P	19F3･4，19E23	長楕円形	漏斗状	C		2	2		49	29	30	7°	N77°W	○			＜P469
646	P	19F7	不整円形	U字状	C		2	2		25	21	40	7°	N114°E	○			
711	P	19F6	円形	U字状	C		2	3		28	27	34				○		
713	P	19F1	円形	半円状	C		2	2		32	28	22						＞P787

SB29	側柱建物	桁行　2間 4.08m							梁間　1間 3.25m				面積　13㎡				主軸　N21°E	
遺構No.	遺構種	グリッド	形状		覆土堆積状況					規模(cm)			柱根・杭傾斜		出土遺物			他遺構との切合い
			平面形	断面形	分類	細分類 a	b	c	d	長径	短径	深さ	角度	方向	柱根	礎板	その他	
219	P	18F15		台形状	B		2	2				38						
221	P	19F11		U字状	F							23						
340	P	18F5	不整円形	階段状	A			2		29	26	24	0°	垂直	○			
659	P	19F1	円形	V字状	F					27	27	18						＞P660
660	P	19F1	不整円形	半円状	F					28	(22)	17						＜P659
709	P	19F2	不整楕円形	台形状	C		2	2		41	34	29						

田屋道遺跡　遺構観察表(7)

掘立柱建物(SB)（7）

SB30	側柱建物	桁行　1間 3.25m			梁間　1間 1.92m							面積　6㎡					主軸　N27°E
遺構No.	遺構種	グリッド	形状		覆土堆積状況					規模(cm)			柱根・杭傾斜		出土遺物			他遺構との切合い
			平面形	断面形	分類	細分類 a	b	c	d	長径	短径	深さ	角度	方向	柱根	礎板	その他	
337	P	19F8	楕円形	台形状	C		1	2		30	23	29						＜SE336
710	P	19F6	不整円形	台形状	C		1	2		38	28	37						
714	P	19F3	楕円形	階段状	C		1	2		21	16	25						
787	P	19F1	長楕円形	U字状	B		1	2		24	14	26						＜P713

SB31	側柱建物	桁行　1間 2.44m			梁間　1間 2.32m							面積　6㎡					主軸　N17°E
遺構No.	遺構種	グリッド	形状		覆土堆積状況					規模(cm)			柱根・杭傾斜		出土遺物			他遺構との切合い
			平面形	断面形	分類	細分類 a	b	c	d	長径	短径	深さ	角度	方向	柱根	礎板	その他	
632	P	19D19	円形	半円状	B		1	2		32	30	28						
633	P	19D24	楕円形	半円状	F					29	24	28						
636	P	19D18	楕円形	階段状	C		1	2		36	29	26						

SB32	側柱建物	桁行　2間 6.44m			梁間　3間 4.88m							面積　31㎡					主軸　N7°E
遺構No.	遺構種	グリッド	形状		覆土堆積状況					規模(cm)			柱根・杭傾斜		出土遺物			他遺構との切合い
			平面形	断面形	分類	細分類 a	b	c	d	長径	短径	深さ	角度	方向	柱根	礎板	その他	
692	P	18D3	円形	半円状	B		2	2		24	24	15				○		
727	P	18C25	不整楕円形	半円状	B		2	2		26	21	11						
732	P	18D2	円形	U字状	B		2	2		23	22	30						
734	P	18C16	円形	U字状	F		2	2		36	32	60						
755	P	18C25	円形	U字状	F		2	3		24	21	37						
758	P	18C21･22	円形	U字状	C		2	3	2	25	22	42						
759	P	18C13･18	円形	U字状	B	1				27	23	25						
760	P	18C19･20	不整円形	漏斗状	F					52	50	34						
829	P	18C14	隅丸方形	台形状	F					26	25	25						＜SE684

SB33	側柱建物	桁行　2間 5.88m			梁間　2間 4.36m							面積　26㎡					主軸　N13°E
遺構No.	遺構種	グリッド	形状		覆土堆積状況					規模(cm)			柱根・杭傾斜		出土遺物			他遺構との切合い
			平面形	断面形	分類	細分類 a	b	c	d	長径	短径	深さ	角度	方向	柱根	礎板	その他	
679	P	18C19･24	円形	U字状	F					24	22	23						
728	P	18C23	隅丸長方形	U字状	B					36	30	49						
731	P	18C21	円形	U字状	B					28	27	52						
733	P	18C16	円形	U字状	F					22	19	19						
830	P	18C14･19	円形	U字状	B					36	35	54						＜SE684
891	P	18C11	隅丸方形	U字状	B					25	23	31						

SB34	側柱建物	桁行　3間 6.48m			梁間　2間 3.92m							面積　25㎡					主軸　N75°W
遺構No.	遺構種	グリッド	形状		覆土堆積状況					規模(cm)			柱根・杭傾斜		出土遺物			他遺構との切合い
			平面形	断面形	分類	細分類 a	b	c	d	長径	短径	深さ	角度	方向	柱根	礎板	その他	
230	P	18C9	楕円形	U字状	B	1				23	19	53						
680	P	18C25	円形	U字状	E		2	2		33	31	48						
685	P	18C24	円形	U字状	C					23	21	30						
736	P	18C20	円形	U字状	C		2	1		25	23	60						
756	P	18C18	隅丸方形	半円状	C		2	2		28	25	15				○		
762	P	18C23	長楕円形	半円状	B		2	3	2	32	21	22						
828	P	18C15	不整長楕円形	弧状	B		2	2	2	40	18	21						＜SE684
896	P	18C8	不整方形	階段状	B		2	3	2	31	27	23						
897	P	18C7･8	円形	V字状	A					29	25	18						

SB35	側柱建物	桁行　3間 7.08m			梁間　2間 3.36m							面積　24㎡					主軸　N14°E
遺構No.	遺構種	グリッド	形状		覆土堆積状況					規模(cm)			柱根・杭傾斜		出土遺物			他遺構との切合い
			平面形	断面形	分類	細分類 a	b	c	d	長径	短径	深さ	角度	方向	柱根	礎板	その他	
681	P	18C25	隅丸長方形	U字状	F					25	20	26						
682	P	18D5	円形	U字状	F					26	23	37						
683	P	18D10	不整円形	階段状	E		1	2		27	25	27						
686	P	18C24，18D4	不整円形	U字状	C		2	3		25	23	36						
689	P	18D9	隅丸長方形	U字状	B		2	3	2	30	23	34						
730	P	18D3	円形	U字状	C		2	3	2	27	25	50						
737	P	18D7･12	楕円形	半円状	B		1	2		34	24	23						
764	P	18D2	円形	U字状	B		1	2		20	19	32						

SB36	側柱建物	桁行　2間 2.96m			梁間　1間 2.26m							面積　7㎡					主軸　N75°W
遺構No.	遺構種	グリッド	形状		覆土堆積状況					規模(cm)			柱根・杭傾斜		出土遺物			他遺構との切合い
			平面形	断面形	分類	細分類 a	b	c	d	長径	短径	深さ	角度	方向	柱根	礎板	その他	
491	P	21D18	隅丸方形	階段状	B		1	2		26	24	30	12°	N10°E	○			
492	P	21D22	隅丸方形	U字状	C		1	2		27	26	33	0°	垂直	○			
494	P	21D16･17	楕円形	半円状	B		1	2		31	25	26	0°	垂直	○			
497	P	21D12･13	楕円形	階段状	C		1	2		38	27	46	0°	垂直	○			
573	KUI	21D18											8°	N42°W	○			？SD524
621	P	21D11･12	楕円形	漏斗状	B			3	2	32	25	46	0°	垂直	○			

田屋道遺跡　遺構観察表(8)

井戸(SE)

遺構No.	グリッド	形状		覆土分類	細分類a	規模(cm)			出土遺物	他遺構との切合い
		平面形	断面形			長径	短径	深さ		
33	6B20		漏斗状	D	1	110	(77)	112		
53	9B19･20･24･25		漏斗状	B	1	(130)	150	162	珠洲焼(甕)、漆塗皿、曲物、箸状木製品、羽子板状木製品、杭状木製品、棒状木製品、杭	
54	8D20	円形	台形状	D		115	105	70	漆塗皿、曲物、箸状木製品	
55	10D1	円形	台形状	D	1	93	85	96	棒状木製品、箸状木製品	
56	8D14･15	不整円形	台形状	B	1	160	140	114	箸状木製品、木、種	
75	9C1･2･6･7	円形	漏斗状	D		100	98	118	箸状木製品、棒状木製品、焼礫	
82	9C3･8	不整楕円形	半円状	C	1	108	90	73	珠洲焼(片口鉢)、木製鉤	＞SD71
88	9B25，9C5	不整楕円形	漏斗状	B	1	120	100	118	箸状木製品、焼礫、不明木製品	＜P73
97	11C5，12C1	楕円形	台形状	E	1	98	80	80		
105	11D15･20	不整円形	台形状	B	1	106	90	35		
118	12C22･23，12D2･3		漏斗状	B	1	(78)	123	117		
134	11D19･20･24･25	不整円形	漏斗状	B		140	126	100	板状木製品、箸状木製品	＞P195
181	13D16･21	円形	漏斗状	B	1	(65)	90	64		＞P200
326	19E22･23，19F2･3	円形	台形状	C	2	153	150	70		＞P724 ＜P318
327	20E13･18	不整円形	台形状	E	1	113	100	86	珠洲焼(片口鉢)、箸状木製品、串状木製品、曲物	＞P858
328	20E1･2･6･7	楕円形	漏斗状	B		265	200	117	漆塗椀、曲物(底板)、棒状木製品、矢板状木製品、杭、珠洲焼(片口鉢･甕)、焼礫、箸状木製品	
330	19F9	円形	台形状	B	1	110	110	84	土師質土器(皿)、珠洲焼(片口鉢)、漆塗皿、箸状木製品、斎串状木製品、曲物、建築部材、杭、砥石、柱、摺鉢、焼礫	
336	19F3･8	円形	台形状	B	1	96	92	165	漆塗椀、曲物、棒状木製品、木釘、箸状木製品、焼礫	＞P337
357	21F2･7	不整円形	漏斗状	B		150	134	120	砥石、白磁、珠洲焼(片口鉢)	
398	18E13	円形	漏斗状	B	1	98	90	150	箸状木製品、板状木製品、棒状木製品、焼礫	
534	20C22･23，20D2･3･8	不整円形	漏斗状	B		(275)	245	170	珠洲焼(片口鉢･甕)、砥石、ひょうたん、杭、焼礫	
551	19D3･4･8･9	円形	漏斗状	B		150	145	188	漆塗椀、曲物、焼礫	＞P568
574	21E15･20，22E11･16	楕円形	台形状	B	1	120	98	67	曲物の底板、板状木製品、木材小片	＞SD392･580
613	26D11	円形	台形状	B	1	127	106	127		
684	18C14･15･19･20	不整形	漏斗状	B	1	164	145	204	珠洲焼(甕)、土師質土器(皿)、漆塗皿、刳物、板、焼礫、部材、箸状木製品	＞P828･829･830
778	26C7	円形	台形状	B	1	(65)	68	68		
863	24E13･18	円形	漏斗状	B		193	(100)	120	部材、砥石	

土坑(SK)

遺構No.	グリッド	形状		覆土分類	細分類a	規模(cm)			出土遺物	他遺構との切合い
		平面形	断面形			長軸	短軸	深さ		
23	7D2･7	楕円形	弧状	B		115	(42)	20		＞SD8 ？SX32
31	7B19	円形	台形状	B		128	(55)	35		
52	8B19･20･24･25	円形	台形状	B		137	133	33		＞SD70
81	10B22･23，10C2･3	円形	台形状	B		72	65	38	曲物(底板)、焼礫	
83	10B22･23	円形	半円状	B		87	81	40	焼礫	
180	12D25，13D21	隅丸方形	台形状	B		66	(37)	25		
253	14C16	円形	弧状	B		128	(64)	20		
255	14C13･14	円形	弧状	E		86	74	25		
256	14B23･24	楕円形	台形状	B		74	55	30		
285	15E15･20，16E11･16	不整長楕円形	台形状	A		134	80	9	白磁(水滴)	＞SD286
292	16E16･17	円形	弧状	B		70	60	22		
305	16E24･25	楕円形	台形状	B		67	55	48		
307	16D21･22	隅丸長方形	台形状	B	1	143	105	27		
316	20E18･23･24	楕円形	台形状	B		198	155	16		＜SD334
322	18F5	楕円形	台形状	B	1	110	87	35		
331	16D6･11	不整長方形	台形状	A		130	64	14		＜SD237･286
335	19F4	不整楕円形	台形状	B		115	93	30		
339	7E9	不整円形	台形状	A		58	53	19		
341	19E10	円形	台形状	B		74	70	34	曲物(底板)	
391	18E16	隅丸方形	台形状	B		72	66	27	焼礫	
400	21B20･25，22B16･21	楕円形	漏斗状	B		168	140	71		
437	21C24	楕円形	半円状	B		130	88	53		
442	18E20	隅丸長方形	弧状	A		68	53	10		
473	20C11･16	円形	半円状	B		76	73	25		
599	25D9･10･14･15	円形	台形状	B	1	110	110	30		
610	19E3･4	楕円形	半円状	B		(50)	75	29	珠洲焼(甕)	
622	19C8･13	不整形	弧状	A		95	85	17		
693	18D21	不整円形	台形状	B		84	78	44	青磁(小椀)	
810	17C3	不整円形	弧状	B		(50)	64	9		
819	21F8	楕円形	台形状	B	1	75	(50)	36		

墓(SG)

遺構No.	グリッド	形状		覆土分類	細分類a	規模(cm)			出土遺物	備考
		平面形	断面形			長辺	短径	深さ		
313	21C4･9	長方形	箱状	B		85	58	16	板、横木、数珠玉、銭貨、漆塗椀	掘方長辺98cm、短辺82cm

田屋道遺跡　遺構観察表(9)

集石(SY)

遺構No.	グリッド	形状		覆土分類	細分類a	規模(cm)			出土遺物	他遺構との切合い
		平面形	断面形			長径	短径	深さ		
25	7E19･24･25					85	58	16	礫29点出土	＞SD2

溝(SD)（1）

遺構No.	グリッド	断面形状	覆土分類	細分類a	規模(cm)			方向	出土遺物	他遺構との切合い
					長さ	幅	深さ			
1	5B，5C，5D	台形状	B	1	(1440)	153	39	N72° W	珠洲焼(甕)　陶器(甕)	
2	4E，5E，6E，7E，8E，8F，9F	弧状	B		(5128)	210	23	N34° E	珠洲焼(甕･片口鉢)、土師器(椀)、土師質土器	＞SD24･40･SX19 ＜SY25･SD13･42･KUI4･5･6･7･14･15･26･34
8	7D，7E	弧状	A		(910)	83	7	N83° W	珠洲焼(甕)	＞KUI27 ＜SK23･SX9
13	9E，9F	弧状	A		(810)	90	11	N33° E		＞SD2･42･SX12？KUI38
24	6E	弧状	A		513	111	6	N65° W		＜SD2
30	6C，7C	台形状	A		(320)	(48)	9	N61° W		
35	11D	弧状	B		(320)	144	8	N64° W		＞SD36
36	10D，11D，12D	弧状	A		1185	85	6	N3° E		＜SD35
40	6E	弧状	A		(140)	65	10	N72° E		＜SD2
41	9D，10B，10C，10D	弧状	B		(2940)	120	12	N76° W N31° E	珠洲焼(甕)	＞SX12
42	9F	弧状	C		(520)	(67)	2	N30° E		＞SD2 ＜SD13
50	8B，8C，8D	台形状	C		(1400)	50	11	N75° W	珠洲焼(壺)	＜SD68･72
68	8C，8D	弧状	A		(410)	41	5	N4° W		＞SD50？P77
70	8B，8C	弧状	B		(614)	80	8	N71° W		＜SK52
71	9C	弧状	B		(342)	85	6	N40° W		＜SE82
72	8D	弧状	A		156	32	5	N4° W		＞SD50
79	9C，10C	弧状	A		336	66	12	N26° E	砥石	＞P80･106･107
87	9B，9C	弧状	A		(275)	64	5	N65° W		
95	8C，9C	弧状	A		228	53	10	N32° E		
96	11C，12B，12C	台形状	B		678	58	17	N8° E N65° W		
103	10B，10C	弧状	A		175	53	11	N59° W		
121	12C	台形状	B		312	73	12	N34° E		
126	12C	台形状	C		275	90	16	N21° W		
135	11C，11D	弧状	B		(470)	55	15	N82° W		
139	12B，12C，13C，13D，13E，14E，14F	台形状	E		(4300)	138	25	N84° E	須恵器(横瓶)、珠洲焼(甕、片口鉢)	＞SD259 ＜P233
140	13B，13C，13D	台形状	B		(1510)	200	19	N72° W		＞SD175 ＜SD186
175	13B，13C	台形状	B		(670)	50	15	N75° E N5° E		＜SD140
186	12B，13B	台形状	B		(610)	95	18	N3° W		＞SD140
234	16C，17B，17C，18B，18C，19B，20B	階段状	B		(3710)	210	34	N12° E	須恵器(壺)、珠洲焼(壺)、瓷器系(甕)、陶器(壺)	＞SD286･289･447 ＜SD236 =SD237･288
236	15D，15E，15F，16C，16D	台形状	E		(3650)	80	27	N43° W		＞SD237･288･289･304･415
237	15D，15E，15F，16C，16D	階段状	B		(3530)	220	33	N43° W	青磁(碗)、珠洲焼(甕)、瓷器系(甕)、須恵器(横瓶)	＞SK331･SD286･289 ＜SD236 =SD234･288･KUI309～312･479
238	14F	台形状	E		(140)	40	16	N45° W		＞SD252
252	14E，14F，15D，15E，15F	弧状	B		(1830)	158	21	N45° W		＜SD238 =SD303
258	14B，14C	台形状	B		310	84	23	N66° W		
259	12B，12C	弧状	B		(705)	(130)	21	N30° W N28° E		＜SD139･P233
286	15C，15D，15E，15F，16B，16C，16D，16E	弧状	B		(3680)	200	25	N60° W	土師器(椀)、須恵器(杯)	＜SK285･SD237･303･304 ＞SK331･SD415
288	16B，16C，16D，16E，16F	階段状	B		(3670)	215	31	N64° W	珠洲焼(壺･片口鉢)、須恵器(甕･横瓶･杯)、白磁	＞SD289･SX355･356 ＜SD236･P298 =SD234･237
289	16B，16C，16D，16E，16F	階段状	B		(3680)	83	25	N62° W	須恵器(甕･蓋)	＜SD234･236･237･288･P294･SX306
290	15B，15C，16C	階段状	B		954	190	25	N32° E		＜P263
291	15B，16B	弧状	B		900	80	8	N20° E	須恵器(横瓶)、製塩土器	
303	15C，15D，16B，16C	弧状	B		(1740)	140	13	N42° W		＞SD286･304･415 =SD252･KUI317
304	15C，16C	弧状	A		(583)	120	3	N19° E	珠洲焼(甕)、須恵器(杯)	＜SD236･303 ＞SD286･415
334	19E，20E	弧状	B		(1360)	100	19	N21° E		＞SK316･SD673 ＜P345･348･439･445･446･467･477
392	21C，21D，21E，21F，22B，22C，22D，22E	台形状	B	2	(3830)	60	26	N65° W	珠洲焼(甕)	＞SD579･581 ＜SE574･SD524･525･526･527･580？P578･741
412	21C，21D	弧状	A		(1110)	43	4	N73° W		＜SD527
415	15C，16C	弧状	A		(875)	144	10	N0°		＜SD236･286･303･304
447	17B，17C	台形状	A		(320)	92	28	N71° W		＜SD234
472	20B，21B	半円状	A		(380)	(21)	14	N31° E		
524	21D，22D	台形状	C	2	(1180)	130	20	N16° E		＞SD392･526 ＜SD832 ?KUI573
525	21D，21E，21F，22D	台形状	B	1	(2160)	95	42	N16° E N73° W	箸状木製品、珠洲焼(甕･壺･片口鉢･小型鉢)	＞SD392･526･580･SX536 ＜SD832･SX859･P487･533･575･576

田屋道遺跡　遺構観察表(10)

溝(SD)（2）

遺構No.	グリッド	断面形状	覆土分類	細分類a	規模(cm) 長さ	幅	深さ	方向	出土遺物	他遺構との切合い
526	21D，21E，22D	台形状	B	2	(1730)	66	16	N20°E N71°W		＞SD392･527 ＜SD524･525･P517･572･784？KUI694
527	20D，21D，22D	台形状	B	2	(1840)	60	15	N12°E	珠洲焼(甕･壺)、瓷器系(甕)、砥石、陶器(壺)	＞SD392･412 ＜SD526･P572
535	24B，25B，25C，25D，25E，25F	階段状	B		(4420)	230	33	N72°W N24°E		＞SD650
579	21E，21F，22E	台形状	B	2	(965)	90	15	N15°E N67°W		＞SD581 ＜SD392･833･P612･640？P641
580	21E，22E	台形状	A		(920)	50	15	N3°E		＞SD392･581 ＜SE574･SD525･832･833
581	21E，22E	弧状	A	2	(775)	60	18	N77°W N21°E		＜SD392･579･580･833･P742 ？P577
594	24D，24E，25D，25E，25F	台形状	B		(1600)	65	20	N72°W		＞SD596
596	24E，24F，25E，25F	弧状	B		(490)	60	12	N36°E		＜SD594
597	24F，25F	弧状	A		625	70	5	N36°E		
650	24D，25D	弧状	B		(170)	(24)	10	N27°E		＞SX651 ＜SD535
673	20E，20F	台形状	B		(580)	82	65	N75°W	土師質土器、縄文土器(深鉢)、柱状木製品	＜SD334
793	20F，21F	弧状	B		170	48	10	N27°E		
798	28D	箱状	F		740	110	20	N81°W		
806	27E，28E	箱状	F		400	80	18	N9°E		
808	27C	弧状	B		310	70	9	N14°W		
809	27E，28E	弧状	A		340	75	20	N26°E		
832	22D，22E，22F	弧状	B		(1940)	(55)	31	N56°W	珠洲焼(片口鉢)、越前焼(甕)、白磁(八角鉢)	＞SD524･525･580･SX859･P280･282･870
833	22E，22F	弧状	B		(1300)	(80)	20	N59°W	珠洲焼(壺)、染付(皿)、陶器(壺)、瓷器系(甕)	＞SD579 ･580･581･P843･851･860･865･869･871
835	24C	台形状	C	2	(320)	100	27	N18°E		
838	24B，24C	台形状	B	2	(280)	130	29	N18°E		
847	24D	台形状	C	2	(350)	105	20	N15°E		
873	25D，25E	弧状	C		130	36	11	N75°W		

性格不明遺構(SX)

遺構No.	グリッド	形状 平面形	断面形	覆土分類	細分類a	規模(cm) 長さ	幅	深さ	出土遺物	他遺構との切合い
9	7D12･17	長楕円形	弧状	F	2	115	44	7		＞SD8
12	9D18～20･23～25，9E3･4･8･9･13･14･17～19･22～25，9F3～5，10D16･21～23，10E1～3･7･8･12･16･17･21･22，10F1･2･7～9	長方形	台形状	C	2	1340	1320	20	珠洲焼(甕)、板状木製品	＜SD13･41
19	7E22･23		弧状	A		160	(65)	5		＜SD2
32	7D2･7	不整形	弧状	C		54	37	11		？SK23
76	10C22，10D2･3	不整楕円形	弧状	B		394	(185)	35		
89	11B12･13･17･18･22･23	長楕円形	台形状	B		(420)	290	37	珠洲焼(片口鉢･甕)、青磁(皿)、陶器(椀)、黒漆塗の木片(折敷か)	
108	9C9･10	不整楕円形	台形状	B		88	45	10		＜P58
173	13D19･20	楕円形	弧状	B		107	80	18		
232	12C5，13C1	不整楕円形	弧状	B		295	104	15		
274	27F4･5･9･10		弧状	B		(160)	(57)	9		
306	16F3･7･8	不整形	弧状	A		335	116	7		＞SD289･KUI895
329	20E6･11	不整円形	台形状	C	2	(100)	90	12		＜P831
355	16C20･24･25		弧状	A		(125)	(140)	10		＜SD288
356	16D24･25，16E4･5		弧状	A		185	(88)	10		＜SD288
536	21E2･3･7･8	隅丸方形	台形状	B	2	350	(250)	23	土師質土器(皿)、珠洲焼(甕)	＜SD525
651	24D10･15		台形状	B		(140)	(97)	18		＜SD650
802	24D10		弧状	A		60	(33)	12		
859	22D17		弧状	B		(70)	(75)	22		＞SD525 ＜SD832

ピット(P)（1）

遺構No.	グリッド	形状 平面形	断面形	覆土堆積状況 分類	細分類 a	b	c	d	規模(cm) 長軸	短軸	深さ	柱根・杭傾斜 角度	方向	出土遺物	他遺構との切合い
18	6D14	円形	U字状	A			1		15	15	77	27°	N110°W	柱(半割材)	
28	7B19	円形	台形状	C					20	20	17				
57	9C5	円形	階段状	A		1	1		30	26	29				
58	9C9･10	円形	階段状	B		2	2	1	25	25	21				＞SX108
59	9C4	円形	半円状	C					32	28	22				
60	9C8	円形	半円状	C		1	2	1	28	28	17				
61	9C9	円形	台形状	C		1	2	1	25	22	28				
63	9C4	円形	半円状	B		2	2	2	23	20	18				
65	8C9	円形	半円状	F					23	20	15				
66	9B24	楕円形	半円状	F					24	20	10				
67	9B25	円形	半円状	A					18	16	12				

田屋道遺跡　遺構観察表(11)
ピット(P)　(2)

遺構No.	グリッド	形状		覆土堆積状況					規模(cm)			柱根・杭傾斜		出土遺物	他遺構との切合い
		平面形	断面形	分類	細分類 a	b	c	d	長軸	短軸	深さ	角度	方向		
73	9C5，10C1	円形	漏斗状	B					66	62	56				＞SE88
74	8C5	円形	半円状	A	1				24	20	15				
84	9C20	円形	半円状	A					25	21	18				
85	9C20	円形	半円状	F					45	38	21				
86	10C21	円形	台形状	C					32	30	28				
90	8D2	円形	台形状	B	1				32	25	25				
93	10B22	楕円形	階段状	C					30	20	26				
94	9C7	隅丸長方形	半円状	F					24	20	14				
98	10C16	円形	半円状	F					23	20	16				
100	10C21，10D1	楕円形	箱状	A					28	19	16				
106	10C11	楕円形	階段状	A					36	30	24				＜SD79
112	11D19	長楕円形	階段状	B		1	2		42	23	40	15°	N12° W	柱(半割材)、杭状木製品(丸材)	
119	10C6	楕円形	台形状	F					26	20	23				
120	11D8	楕円形	階段状	F		1	2		42	35	29		N11° W	柱状木製品(割材)	＞P138
122	11D12	円形	台形状	F					33	30	22		N11° W		
123	11D13	楕円形	階段状	C	2				33	25	19				
124	12C1	円形	半円状	B		2	1		21	18	12				
125	12C1	楕円形	半円状	F					25	18	18				
136	11C4･9	円形	箱状	B					22	20	21				
138	11D8	楕円形	階段状	F					30	22	26				＜P120
141	11D24	楕円形	台形状	F					32	24	18				
150	11D15	楕円形	漏斗状	B	2				33	27	11			木	
151	11D10･15	不整円形	U字状	B	2				28	26	30				？P152
152	11D15	不整円形	半円状	B	2				31	31	15				？P151
153	12D22	円形	半円状	B					23	22	8				
154	11D20	長楕円形	台形状	F					41	27	26				
155	11D15	楕円形	U字状	B			2		16	12	11	5°	N24° E	柱(丸材)	
157	11D20	不整楕円形	U字状	A					14	11	17				
158	12E8	楕円形	半円状	C	2				23	18	10				
159	12E8	楕円形	半円状	F					18	15	13				
160	12E8･9	楕円形	弧状	B		1	2		24	17	8				
168	13D21，13E1	長楕円形	台形状	B					20	13	14				
176	12D24･25	円形	台形状	B	2				64	(27)	23				
177	13E8	楕円形	弧状	F	1				30	23	4				
179	12D25	円形	半円状	F					(15)	20	7				
182	12D16	不整円形	弧状	A					20	19	8				
187	13E5，14E1		台形状	B		2	1		48	(16)	19				
188	13E5･10，14E1･6	円形	半円状	E					59	(33)	27				
189	13E10	円形	台形状	D		2	2		(13)	23	30				
195	14D24･25	楕円形	台形状	C		2	2		48	40	24				＜SE134
198	14D21，14E1	不整円形	台形状	F					28	23	19				
201	14E1	円形	U字状	B	1				32	31	49				
204	14E7･12	隅丸方形	台形状	F					25	22	11				
205	14E12･13	円形	台形状	F					28	28	22				
210	13E15，14E11	円形	U字状	C			2		22	(9)	26	23°	N75° E	柱(丸材)	
213	18F12		台形状	A							24				
214	14E11	円形	U字状	F					29	25	32				
215	18F13		台形状	F							37				
216	18F13		U字状	B	2						16				
217	18F14		台形状	A							11				
218	18F14		台形状	F							19				
220	18F15		台形状	F							17				
223	19F13		半円状	B							18				
225	20F12		台形状	F							17				
226	20F12		台形状	E		2	3				14				
228	21F13		U字状	F							25				
229	18C10	円形	台形状	C		2	2		21	20	26				
233	12B18	円形	半円状	B	1				27	25	12				＞SD139･259
246	14E10	不整方形	半円状	C					23	20	21				
251	14D25，14E5	不整方形	台形状	C	1				36	32	26				
257	14B25	不整円形	U字状	F					(23)	28	30				
273	22B18		半円状	A	1						19				
275	20E1		箱状	B		2	3		40	(30)	19			礎板	
277	17D25	不整円形	台形状	B		1	2		33	28	12				
278	22E2	円形	U字状	B		1	3		17	17	36	7°	N138° W	柱(割材)	
280	22F1･6	楕円形	台形状	B		2	2		34	24	32				＜SD832
284	15B11･16	円形	半円状	F					19	15	14				
287	15B22	円形	U字状	F					19	16	23				
308	16F3･8	不整円形	U字状	C		2	3	2	29	27	49				
314	16F1	不整楕円形	台形状	F					33	25	31				
315	16E23	不整楕円形	台形状	C	1				29	24	18				
333	19E22	円形	漏斗状	C		2	2		30	28	17	0°	垂直	柱(丸材)	

田屋道遺跡　遺構観察表(12)
ピット(P)　(3)

遺構No.	グリッド	形状		覆土堆積状況					規模(cm)			柱根・杭傾斜		出土遺物	他遺構との切合い
		平面形	断面形	分類	細分類				長軸	短軸	深さ	角度	方向		
					a	b	c	d							
342	19F1	円形	階段状	B		2	3		27	27	25				
358	17E19	円形	半円状	A					15	(4)	11				
359	17E10	不整形	半円状	A					18	15	11				
367	19F4	円形	台形状	A					22	19	18				
369	19F4	不整楕円形	U字状	A					18	14	19				
378	19F5	楕円形	U字状	A					20	15	27				
381	20E21	楕円形	箱状	B		2	2		37	28	36			礎板	
382	20E21	円形	U字状	A					15	13	30				
383	20F1	円形	弧状	A					22	19	8				
395	17C1	円形	半円状	A					22	22	10				
396	16B23	不整円形	箱状	B		2	3		23	23	13				
399	16C15	不整円形	半円状	B		2	3		20	20	13				
401	16C15	不整円形	半円状	B	2				25	19	16				
403	19E24	円形	U字状	B		2	3		18	18	21				
404	20F1	円形	台形状	A					11	10	7				
405	20F1	円形	V字状	A					16	14	8				
406	19F5	円形	台形状	A					15	12	6				
413	16D25，17D21	円形	台形状	B	2				53	43	16				
416	17E9･10･14･15	円形	台形状	B		1	2		44	37	16				
419	21B18	不整円形	台形状	E	2				47	41	21				
420	21B18	不整円形	台形状	A					31	28	22				
439	19E25	円形	階段状	A					35	30	13				＞SD334
440	19E20	楕円形	弧状	A					29	22	11				
441	19E15	円形	弧状	B		2	3		31	26	4				
445	19E22	円形	U字状	A					23	23	24				＞SD334
446	19E24	円形	階段状	A					26	24	28				＞SD334
450	19E13	円形	台形状	B					21	(15)	17				＜P443
456	20B18	楕円形	半円状	B	2				25	18	18				
457	20B22	不整円形	半円状	B					22	18	21				
458	18E11	円形	階段状	B		2	3		43	36	13	0°	垂直	柱(割材)	
461	20F1	円形	階段状	A					25	21	28				
467	19E19･24	隅丸方形	階段状	A					23	21	29				＞SD334
468	19F8	円形	半円状	C		2	3		21	19	20				
471	20B24，20C4	円形	階段状	B		2		2	30	26	42				
474	18F1･6	不整円形	台形状	F					27	25	7				
476	19E20	円形	半円状	E	2				21	19	6				
477	19E20	隅丸方形	台形状	A					21	21	18				＞SD334
480	20D19	不整円形	台形状	A					46	44	6				
486	22D16	円形	台形状	B					25	22	12				
487	21D20	円形	U字状	B		1	2		32	28	35	0°	垂直	柱(割材)	＞SD525
490	21D18･19	楕円形	半円状	E					29	23	21				
493	21D17･22	不整円形	U字状	A		2			28	27	29				
495	21D17	楕円形	台形状	F					29	21	19				
496	21D12	楕円形	台形状	B		2	3	1	44	30	22				
511	21E5	不整円形	階段状	C		1	3		27	26	27				
512	21E5	円形	漏斗状	F					28	25	46				
513	21E5	不整円形	箱状	B					30	30	19				
514	21E5	円形	半円状	C		1	2		19	17	18				
515	22D21	不整円形	台形状	E	2				32	31	15				
516	21E5･10	不整円形	U字状	E	2				23	27	37				
517	21D10	楕円形	U字状	B		1	1		44	36	66				＞SD526
518	21D9	円形	漏斗状	B		1	2		27	25	30				
519	20E1	楕円形	半円状	F					53	39	19				
523	21E23	楕円形	階段状	B		2	3		29	24	20				
528	21E24	楕円形	半円状	B		1	2		35	31	35			礎板	
531	20E14	隅丸方形	階段状	A			2		20	19	20	15°	N72° E	柱(丸材)	
533	21E24	楕円形	半円状	A					25	20	20				＞SD525
565	19D8	楕円形	階段状	B		2	3		35	28	30				
572	22D6	円形	U字状	C		1	1		36	31	51				＞SD526･527
575	21E24	円形	台形状	B		2	2		33	32	20				＞SD525
576	21F4	円形	半円状	B					29	27	11				＞SD525
577	21E20･25	不整円形	半円状	B		1	2		23	23	16				？SD581
578	21E5	円形	箱状	B		1	2	1	16	15	24				？SD392
582	21E23	円形	階段状	C		1	2		22	21	25				
583	20F4	円形	階段状	C		1	3	1	29	26	22			かわらけ(中世前期)	
584	20F2･3･7･8	不整円形	階段状	C		1	3	1	31	28	28				
587	20E16･17	不整円形	半円状	F					20	18	4				
595	25D15，26D11	円形	半円状	B		1	3		25	24	19				
600	26D7	円形	台形状	B		1	3		16	15	26				
601	20E16	不整円形	階段状	B		1	3		33	32	22				
603	20E22	円形	階段状	C		2	1		31	28	24				
604	19C6	円形	台形状	A					22	20	9				

田屋道遺跡　遺構観察表(13)
ピット(P)　(4)

遺構No.	グリッド	形状		覆土堆積状況					規模(cm)			柱根・杭傾斜		出土遺物	他遺構との切合い
		平面形	断面形	分類	細分類				長軸	短軸	深さ	角度	方向		
					a	b	c	d							
607	20F1	円形	階段状	C		1	2		23	20	13				
608	19E19･20	円形	弧状	F					24	23	8				
611	20E11	不整楕円形	階段状	C		2	2		23	20	21				
612	21F10		階段状	B		1	2		38	(14)	11				＞SD579
614	20D11	円形	U字状	F					11	11	15				
615	19D15	円形	半円状	F					18	16	9				
616	19C21	円形	半円状	C		1	2	2	30	29	23				
617	19D1	隅丸方形	階段状	C		1	2		23	21	10				
618	19D1	隅丸方形	階段状	B		1	3		25	25	36	7°	N133° E	柱(丸材)	
619	19D6	円形	階段状	B		1	3	2	35	33	35	11°	N90° W	柱(丸材)	
620	19D6･7	円形	箱状	F					19	19	17				
625	19F3	不整形	階段状	B		1	2		38	33	44				
628	18C15	不整円形	箱状	F					28	26	13				
629	19D14･19	円形	漏斗状	C		1	3		23	20	37	12°	N66° W	柱(割材)	
630	19D19	円形	漏斗状	C		2	3		32	29	27				
631	19D24･25	円形	半円状	F					23	21	12				
634	19D13･14･18･19	楕円形	台形状	B		1	2		32	27	24	0°	垂直	柱(丸材)	
635	19D24	円形	台形状	F					30	27	33				
641	21F5	隅丸方形	U字状	B		1	2		27	25	23				？SD579
642	20F3･4	長楕円形	階段状	F		1	2		33	21	23				＞P643
643	20F3･4	不整楕円形	階段状	F					41	(33)	20				＜P642
648	25E6	円形	階段状	C		2	3		17	14	19				
649	25D21	円形	階段状	F					20	19	12				
652	25E16	円形	半円状	F					18	16	13				
653	19E22	楕円形	半円状	F					22	17	11				
654	19F1	円形	U字状	C		1	2		26	25	50	6°	N115° E	柱(丸材)	
655	19E22	円形	階段状	B		1	3		23	28	24				
658	19F1	不整円形	半円状	A					21	18	4				
661	19E21	不整円形	台形状	B		2	2		27	24	11				＞P662
662	18F5，19F1	円形	半円状	F					22	19	7				＜P661
664	18F5	楕円形	半円状	B		2	3		20	14	19	0°	垂直		
665	18F4	円形	半円状	B		1	3		19	17	15				
667	18D21，18E1	楕円形	台形状	B		2	2		41	31	13				
668	18F3	円形	半円状	B		1	3		20	17	10				
674	19E25，19F5	楕円形	半円状	B		2	2		32	25	25				
675	20E17	不整円形	半円状	F					20	18	9				
676	18E12	楕円形	階段状	C		2	2		36	30	17				
678	19D18	円形	台形状	F					28	26	22				
687	18D9	隅丸方形	半円状	A					20	19	15				
690	18D10	不整楕円形	台形状	A					22	16	12				＞P691
691	18D10	不整円形	台形状	B		1	3		32	29	33	11°	N31° W	柱(丸材)	＜P690
695	21D7･12	楕円形	半円状	B		2	2		38	29	25				
696	25B19	円形	U字状	B		1	2		15	14	16				
700	18F2	楕円形	階段状	B		1	2		39	32	24				
704	18F8	円形	半円状	C		1	2		42	37	28				
705	18F4･5	円形	弧状	B		1	2		39	36	14			礎板	
706	18F5	円形	弧状	B		1	3		29	26	5				
708	19E12	楕円形	半円状	F		2	2		55	41	35				
712	19F1	円形	U字状	B		2	3		22	21	28				
715	19F2	円形	弧状	A					27	23	5				
716	17E15	楕円形	階段状	B		1	3		27	21	12				
717	18D16	円形	弧状	F					30	28	13				
718	19F2	円形	U字状	C		2	2		22	19	27				
724	19E22，19F2		弧状	A					(26)	(7)	14				＜SE326
726	19E7	円形	弧状	B					24	24	9				
729	18C23，18D3	円形	U字状	B		2	2		19	18	56			礎板	
735	18D5	円形	U字状	F			1		10	10	28	3°	N0°	柱	
738	18D7	隅丸方形	半円状	B		2	2		23	18	17				
739	19F7	不整方形	箱状	C		1	2		33	31	26				
740	19F4	楕円形	階段状	C		1	2		20	16	16				
741	21E15	楕円形	U字状	B		2	3		14	11	22				？SD392
742	21E25	円形	漏斗状	F					19	18	42				＞SD581
744	25E1	円形	箱状	A					19	18	7				
745	25E7	円形	V字状	F					17	15	12				
747	25C20	円形	漏斗状	F					27	25	17				
748	25C15	円形	半円状	F					22	20	17				
750	25C9	円形	U字状	B		2	2		24	22	26				
751	25C20	円形	弧状	B		1	2		19	18	8				
757	18C22，18D2	隅丸方形	台形状	C		2	2		27	26	14				
761	18C25	円形	半円状	B		2	2		14	13	13				
763	18C19	円形	台形状	C		1	2		25	25	21				
767	26C12	楕円形	弧状	F					21	19	7				

田屋道遺跡　遺構観察表(14)
ピット(P)　(5)

遺構No.	グリッド	形状		覆土堆積状況					規模(cm)			柱根・杭傾斜		出土遺物	他遺構との切合い
		平面形	断面形	分類	細分類 a	b	c	d	長軸	短軸	深さ	角度	方向		
770	25D5	不整円形	台形状	B		1	3		31	29	12				
772	26C18･23	隅丸長方形	階段状	B		2	2		39	28	20				
777	25B24	円形	半円状	B		2	2		21	19	12				
779	25B19	円形	半円状	B		1	2		17	17	14				
780	25D1	円形	U字状	F					19	16	23				
785	17E5	楕円形	漏斗状	B		1	2		26	21	28				
786	17E5	楕円形	半円状	B		1	2		23	16	7				
789	20F4	円形	漏斗状	C		1	2		23	23	26				
790	20F8	円形	台形状	A					18	16	13				
791	19E2	不整円形	弧状	C		1	2		31	29	10				
794	27D15	円形	台形状	F					13	13	10				
796	26D5	円形	半円状	B		2	3		22	19	31	34°	N175° W	柱(半割材)	
799	27D19	円形	弧状	F					18	18	9				
817	18B16	円形	半円状	B					55	52	23				
818	19F2	楕円形	漏斗状	B		2	2		18	14	10				
821	19E20	不整形	弧状	A					28	27	12				
822	18F5･10	楕円形	漏斗状	F					21	15	8				
831	20E11	円形	半円状	F					24	21	19				＞SX329
836	21D7	円形	弧状	F					39	36	19				
837	21D8･13	円形	弧状	F					27	26	11				
840	19F3	円形	U字状	F					20	(15)	15				＜P364
841	22D7	隅丸方形	台形状	F					34	31	39				
842	22E2	円形	階段状	C		1	3		20	17	23				
843	22E7	楕円形	V字状	F					28	25	38				＜SD833
844	22D22，22E2	円形	V字状	A		3		2	39	35	26			須恵器(甕)	
845	22E17	不整楕円形	台形状						36	27	6			礎板	
846	19F4	不整形	弧状	F					30	28	8				
848	20E10･15	円形	弧状	B	2				59	52	9				
850	22F6･11	円形	台形状	E	2				40	35	42			礎板	
851	22F2	楕円形	台形状	F					40	27	26				＜SD833
852	22E22	不整円形	台形状	C		2	3		32	28	21				
853	22E2･7	楕円形	弧状	B		2	2		44	29	28				
854	22E2	楕円形	台形状	F					26	20	16				
855	21E17･22	長楕円形	弧状	B					60	40	9				
856	20E10･15	長楕円形	台形状	F					17	11	8				
857	19E11	円形	半円状	B		2	3		21	19	9				
858	20E18	楕円形	半円状	B		2	3		28	(20)	22				＜SE327
860	22E22	不整円形	半円状	F					30	27	18				＜SD833
862	24E8	円形	半円状	A		1	2		23	21	13				
864	20E17･18	円形	半円状	B		2	3		16	16	12				
865	22E17	楕円形	台形状	C		1	3		33	26	15				＜SD833
866	21D16	円形	漏斗状	B		2	3		20	17	19				
867	22F1	円形	半円状	B		2	3		21	20	13				
868	18F2	円形	半円状	B		1	3		19	16	10				
869	22E12･17	円形	台形状	C		1	2		51	47	41				＜SD833
870	22F6	不整円形	台形状	C		1	2		38	35	26				＜SD832
871	22E7	楕円形	弧状	B		1	2		40	35	13				＜SD833
874	20B21	円形	半円状	F					21	19	15				
875	19B25	隅丸方形	台形状	F					21	18	11				
876	27D5･10	円形	U字状	F			2		16	14	31	33°	N119° W	柱(割材)	
877	22E17	不整楕円形	半円状	F		3	3		36	25	12				
878	22F2	円形	半円状	B		1	3		27	22	12				
879	18F10	円形	半円状	B		1	2		39	35	27				
880	18D25，18E5	楕円形	半円状	B		1	2		22	18	18				
881	19E6	円形	半円状	A					21	20	14				
883	22E16･17	不整楕円形	半円状	B		2	3		47	27	31				
884	22E2･3	不整形	半円状	F					30	29	13				
885	11D7	楕円形	台形状	B		2	2		30	22	31				
886	11D8	楕円形	漏斗状	F					19	15	27				
887	11D8･9	円形	漏斗状	F					18	16	28				
890	22D21	円形	台形状	B		2	2		21	20	13				
898	18C4	円形	半円状	A					16	16	19				
899	11B12（未掘）														

田屋道遺跡　遺構観察表(15)

杭列(SA)

SA1

遺構No.	遺構種	グリッド	深さ(cm)	杭傾斜 角度	杭傾斜 方向	出土遺物	他遺構との切合い
498	KUI	17D25	37	0°	垂直	杭(丸材)	
499	KUI	17D25	40	5°	N5° E	杭(丸材)	
500	KUI	17D25	35	7°	N42° W	杭(丸材)	
501	KUI	17D25	37	0°	垂直	杭(丸材)	
502	KUI	17D24	30	10°	N11° W	杭(丸材)	
503	KUI	17D24	31	22°	N55° W	杭(丸材)	
504	KUI	17D19	5	70°	N70° W	杭(丸材)	
505	KUI	17D19	30	0°	垂直	杭(丸材)	
506	KUI	17D19	19	0°	垂直	杭(丸材)	
507	KUI	17D19	42	10°	N73° W	杭(丸材)	
508	KUI	17D14	36	10°	N132° E	杭(丸材)	
803	KUI	17E5	9	38°	N9° E	杭(割材)	

SA2

遺構No.	遺構種	グリッド	深さ(cm)	杭傾斜 角度	杭傾斜 方向	出土遺物	他遺構との切合い
451	KUI	17E10	26	0°	垂直	杭(割材)	
452	KUI	17E10	31	8°	N0°	杭(丸材)	
453	KUI	17E5	24	20°	N17° E	杭(丸材)	
454	KUI	17E5	49	13°	N13° E	杭(丸材)	
459	KUI	17E5	38	0°	垂直	杭(丸材)	
460	KUI	17E5	30	0°	垂直	杭(丸材)	
510	KUI	17D19	29	9°	N59° W	杭(丸材)	

SA3

遺構No.	遺構種	グリッド	深さ(cm)	杭傾斜 角度	杭傾斜 方向	出土遺物	他遺構との切合い
509	KUI	17D24	21	7°	N82° W	杭(丸材)	
804	KUI	17E4	48	18°	N113° W	杭(丸材)	
805	KUI	17E9･10	45	19°	N152° W	杭(割材)	

杭(KUI)

遺構No.	グリッド	杭傾斜 角度	杭傾斜 方向	出土遺物	他遺構との切合い
4	6E19	5°	N0°	杭(半割材)	＞SD2
5	6E19	5°	N0°	杭(半割材)	＞SD2
6	6E19	10°	N18° E	杭(丸材)	＞SD2
7	6E19	0°	垂直	杭(丸材)	＞SD2
14	7E23	29°	N167° W	杭(丸材)	＞SD2
15	7E23	10°	N165° E	杭(丸材)	＞SD2
16	7E18	24°	N165° E	杭(割材)	
17	7E18	4°	N163° E	杭(割材)	
26	7E24	11°	N161° E	杭(丸材)	＞SD2
29	6C24	57°	N76° E	杭(丸材)	
34	5E6	4°	N147° W	杭(丸材)	＞SD2
37	9F1	19°	N165° E	杭(丸材)	
38	9F3	0°	N135° E	ヘラ状木製品	？SD13
39	7E18	10°	N160° E	杭(丸材)	
43	9E16	15°	N21° E	杭(丸材)	
44	9E22	7°	N135° E	杭(丸材)	
91	9F5	5°	N49° W	杭(丸材)	
110	11D19	27°	N67° E	杭(丸材)	
111	11D19	10°	N40° E	矢板状木製品	
113	11D14	22°	N17° W	杭(割材)	
114	11D14	0°	N125° E	杭(丸材)	
115	11D14	13°	N103° E	杭(丸材)	
116	11D14	13°	N90° E	杭(丸材)	
117	11D15	13°	N144° E	杭(丸材)	
146	11D24	11°	N66° W	杭(丸材)	
156	11D20	55°	N71° E	杭(丸材)	
254	14C24	8°	N50° E	杭(丸材)	
276	21D16	0°	垂直	杭(丸材)	
279	17E17･22	22°	N47° E	杭(丸材)	
281	17E12	22°	N62° E	杭(丸材)	
309	15F7	15°	N164° W	杭(丸材)	=SD237
310	15F2	21°	N173° W	杭(丸材)	=SD237
311	15F7	14°	N97° W	杭(割材)	=SD237
312	15F7	17°	N138° W	杭(丸材)	=SD237
317	16B23	2°	N57° W	杭(割材)	=SD303
393	17E20･25	11°	N35° E	杭(割材)	
394	17E20	14°	N71° E	杭(丸材)	
397	16E11	19°	N160° W	杭(割材)	
414	16D7	0°	垂直	杭(割材)	
417	16E21	10°	N62° E	杭(割材)	
418	16F1	30°	N83° W	杭(割材)	
438	16E16	4°	N20° W	杭(割材)	
479	15F7	12°	N117° W	杭(丸材)	=SD237
483	20D17	3°	N67° W	杭(丸材)	
644	18C21				
694	21D9	0°	垂直		？SD526
725	19E12	6°	N25° E	杭(半割材)	＞P319
811	19B24	0°	N166° W	杭(丸材)	
812	19B24	0°	N55° E	杭(丸材)	
813	19B24				
814	19C4	12°	N109° E	杭(割材)	
815	19C4	3°	N55° E	杭(樹皮のみ)	
816	19C4	0°	垂直	杭(丸材)	
820	19E4･9	39°	N83° W	杭(丸材)	
823	17E8	37°	N58° E	杭(丸材)	
824	17E3	30°	N84° E	杭(丸材)	
825	17D23	44°	N88° E	杭(丸材)	
826	17D23	48°	N40° E	杭(丸材)	
827	17D18	32°	N67° E	杭(丸材)	
834	21D11	7°	N49° W	杭(丸材)	
888	11D10	7°	N24° E	杭(丸材)	
889	17C12	7°	N37° E	杭(割材)	
892	18C5･10				
893	16E21，16F1	3°	N39° E	杭(丸材)	
894	16F6	1°	N103° E	杭(丸材)	
895	16F3	24°	N127° W	杭(丸材)	＜SX306

田屋道遺跡　遺物観察表(1)
陶磁器・土器(1)

No.	遺構名	出土地点	層位	種別	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	時　期	調整・文様等	色調	備　　考
1	P723	18F10	1	土師質土器	皿	－	(8.0)	(1.9)	14C	ロクロ成形　ヘラ切り	淡黄	
2	P464	19E24	1	土師質土器	皿	－	(10.0)	(1.7)	14C	ロクロ成形　ヘラ切り後ナデ	淡黄	
3	SE53	9B24	9	珠洲焼	甕	－	－	(12.2)	Ⅱ期	外面平行叩き　内面当て具	灰	外面自然釉　在地
4	SE53	9B25	9	珠洲焼	甕	－	－	(3.0)	Ⅰ～Ⅲ期	外面平行叩き　内面当て具	灰	在地
5	SE82	9C3	5	珠洲焼	片口鉢	(32.0)	－	(9.9)	Ⅱ期	ロクロ成形	黒	31,71と同一か　在地
6	SE327	20E18	3	珠洲焼	片口鉢	－	－	(7.9)	Ⅲ期	ロクロ成形　太い卸し目8条以上	灰	
7	SE328	20E7	1	珠洲焼	片口鉢	－	－	(1.7)	Ⅲ期	ロクロ成形　卸し目9条(幅2.3cm) 底部外面ナデ	灰	
8	SE328	20E6	7	珠洲焼	片口鉢	－	－	(7.5)	Ⅲ～Ⅳ期	ロクロ成形　卸し目8条(幅1.6cm)	灰	
9	SE330	19F9	2	珠洲焼	片口鉢	－	－	(4.3)	Ⅲ期	ロクロ成形　卸し目7条以上	灰	
10	SE357	21F2	1	珠洲焼	片口鉢	－	－	(6.0)	Ⅳ期	ロクロ成形　卸し目8条以上	灰白	
11	SE357	21F2	11	白磁	小杯	(9.0)	－	(2.8)	15C	ロクロ成形　内外面施釉	灰白	景徳鎮系　森田E群
12	SE534	20D3	5	珠洲焼	甕	－	－	(6.4)	Ⅱ～Ⅲ期	外面平行叩き　内面ナデ	灰	外面自然釉　在地
13	SE534	20D3	5	珠洲焼	甕	－	－	(5.1)	Ⅰ～Ⅱ期	ナデ	灰	
14	SE534	20D3	6	珠洲焼	甕	－	－	(4.7)		横ナデ	灰	51と同一か
15	SE534	20D3	1	珠洲焼	片口鉢	－	－	(3.3)	Ⅰ期	ロクロ成形	灰	
16	SE684	18C14	5	珠洲焼	甕	－	－	(7.5)	Ⅱ～Ⅲ期	外面平行叩き　内面当て具	灰	在地
17	SE684	18C14	5	土師質土器	皿	－	(7.0)	(1.4)	14Cか	ロクロ成形　ヘラ切り後ナデ	にぶい橙	
18	SK285	15E20	1	白磁	水滴	－	－	(2.5)	12C	内外面施釉　瓜形	灰白	
19	SK610	19E4	3	珠洲焼	甕	－	－	(9.2)	Ⅳ～Ⅴ期	外面平行叩き　内面ナデ	オリーブ灰	
20	SK693	18D21	1	青磁	小椀	－	－	(3.0)		内外面施釉　輪花	緑灰	
21	SD1	5C8	2	珠洲焼	甕	－	－	(8.2)	Ⅲ期以前	外面平行叩き　内面当て具	灰	在地
22	SD1	5C13	1	陶器	甕	－	－	(9.7)		ナデ	灰	常滑か
23	SD2	9F7	1	珠洲焼	甕	－	－	(5.5)	Ⅱ期	外面平行叩き　内面当て具	灰	在地
24	SD2	9F6	1	珠洲焼	甕	－	－	(11.4)	Ⅳ期	外面平行叩き　内面当て具	灰	
25	SD2	9F1	1	珠洲焼	片口鉢	－	(12.0)	(5.2)	Ⅳ期以前	ロクロ成形　外面ハケ目	浅黄	破損後被熱、部分的に煤付着
26	SD8	7D17	1	珠洲焼	甕	－	－	(6.6)	Ⅱ期	外面平行叩き　内面当て具	灰	30,69と同一　在地
27	SD41	9D25	2	珠洲焼	甕	－	－	(11.5)	Ⅳ期以前	外面平行叩き　内面当て具	灰	
28	SD41	10D17	3	珠洲焼	壺	－	－	(6.0)	Ⅰ～Ⅱ期	外面平行叩き　内面当て具	灰	転用砥石　在地
29	SD50	8C23	1	珠洲焼	壺	－	7.0	(3.3)	Ⅰ～Ⅲ期	ロクロ成形	灰	在地
30	SD139	13D19	7	珠洲焼	甕	－	－	(5.1)	Ⅱ期	外面平行叩き　内面当て具	灰	26,69と同一　在地
31	SD139	12B13	1	珠洲焼	片口鉢	－	(15.0)	(7.2)	Ⅱ期	ロクロ成形　静止糸切り	暗灰	5,71と同一か　在地
32	SD139, SD291	13D19, 15B24	3	須恵器	横瓶	－	－	(20.4)	9C	外面平行叩き　内面同心円当て具	灰	Ⅳ～Ⅴ期
33	SD234	16C5	2	珠洲焼	壺	－	－	(3.1)	Ⅳ期以前	ロクロ成形	灰	
34	SD234	19B16	1	陶器	壺	－	－	(5.0)	13C後半	頸部横ナデ　外面平行叩き	オリーブ灰	在地
35	SD234	19B16･17	1	瓷器系	甕	－	－	(17.8)	13C後半	外面格子目叩き　内面ナデ	灰	越前焼か
36	SD234	19B18	1	須恵器	壺	－	－	(6.5)	Ⅴ期以降	外面叩き後ナデ　内面ナデ	灰白	佐渡
37	SD237	15E23	2	珠洲焼	甕	－	－	(4.5)	Ⅲ期以前	外面平行叩き　内面ナデ	灰	在地
38	SD237	15F3	1	青磁	椀	－	－	(4.8)	鎌倉後期	ロクロ成形　鎬蓮弁文	緑灰	太宰府Ⅲ類
39	SD237	15E5	1	瓷器系	甕	－	－	(4.0)		ナデ	黒褐	外面自然釉
40	SD237 包含層	15E19･25, 15E25	1	須恵器	横瓶	－	－	(20.9)		外面叩き　内面同心円当て具	灰	
41	SD286	16D6	4	土師器	椀	(12.0)	－	(2.5)	9C中葉以降	ロクロ整形	にぶい橙	
42	SD288	16D19	3	珠洲焼	壺	－	－	(5.9)	Ⅰ～Ⅱ期	横ナデ	灰	
43	SD288	16C14	3	珠洲焼	片口鉢	－	－	(4.9)	Ⅲ期	ロクロ成形　卸し目8条(幅1.3cm)	灰	
44	SD288	16D24	3	須恵器	横瓶	－	－	(3.7)		外面叩き　内面当て具	灰	外面自然釉
45	SD288	16D19	3	須恵器	甕	－	－	(5.1)		外面叩き　内面同心円当て具	灰	阿賀北　46と同一
46	SD289	16D23	1	須恵器	甕	－	－	(6.5)		外面叩き　内面同心円当て具	灰	阿賀北　45と同一
47	SD291	15B24	1	土器	製塩土器	－	－	(3.8)		ナデ	橙	
48	SD304	16C7	1	珠洲焼	甕	－	－	(6.2)	Ⅰ～Ⅱ期	外面平行叩き　内面当て具	灰	在地
49	SD304	16C7	1	珠洲焼	甕	－	－	(12.4)	Ⅰ～Ⅱ期	外面平行叩き　内面当て具	灰	外面自然釉　在地
50	SD392	21E25	1	珠洲焼	甕	－	－	(5.7)	Ⅰ～Ⅱ期	外面平行叩き　内面ナデ	灰	
51	SD525	21E19	2	珠洲焼	甕	－	－	(6.3)		ナデ　内面指頭痕あり	灰	14と同一か
52	SD525	21D24	4	珠洲焼	壺	－	－	(3.9)		ナデ	灰	
53	SD525	22D21	4	珠洲焼	片口鉢	－	－	(3.8)	Ⅰ期	ロクロ成形	灰	
54	SD525	21E3	2	珠洲焼	片口鉢	－	－	(3.5)	Ⅲ期	ロクロ成形　卸し目14条(幅2.9cm)	灰	
55	SD525	21E24	5	珠洲焼	小型鉢	－	－	(2.4)	Ⅰ～Ⅱ期	ロクロ成形	灰	
56	SD527	21D7	1	珠洲焼	甕	－	－	(4.5)	Ⅱ～Ⅲ期	外面平行叩き　内面ナデ	暗オリーブ灰	外面自然釉　在地
57	SD527	21D11	1	珠洲焼	甕	－	－	(5.1)	Ⅱ～Ⅲ期	外面平行叩き　内面ナデ	灰	
58	SD527	21D21	1	珠洲焼	壺	－	－	(4.9)	Ⅳ期以前	ロクロ成形	灰	
59	SD527	21D6	1	瓷器系	甕	－	－	(4.2)	13C	外面格子目叩き　内面ナデ	灰	
60	SD527	21D21	1	陶器	壺	－	－	(3.3)	13C後半	ナデ	灰	外面自然釉　在地
61	SD673	20F4	1	土師質土器	皿	7.2	4.5	1.8	14C	ロクロ成形　ヘラ切り	にぶい黄橙	
62	SD673	20F4	5	縄文土器	深鉢	－	9.2	(10.4)	縄文時代後期	ナデ	オリーブ褐	
63	SD832	22E2	1	珠洲焼	片口鉢	－	－	(4.7)	Ⅴ期以降	ロクロ成形　粗い卸し目9条(幅2.3cm)	灰	
64	SD832	22F6	1	白磁	八角鉢	－	－	(2.1)	15C	内外面施釉	灰白	森田D群
65	SD832	22F1	1	越前焼か	甕	－	－	(8.2)		ナデ	にぶい褐	漆継ぎ痕あり
66	SD833	22F1	1	珠洲焼	壺	－	－	(4.9)	Ⅳ期	外面綾杉文叩き　内面当て具	灰	
67	SD833	22F2	1	染付	皿	(14.0)	－	(2.2)	16C後半	ロクロ成形　内外面に文様	白	小野E群
68	SD833	22E22	1	瓷器系	甕	(22.0)	－	(5.7)	13C後半	ロクロ成形	オリーブ褐	内外面自然釉　笹神
69	SX12	10D22	1	珠洲焼	甕	－	－	(7.6)	Ⅱ期	外面平行叩き　内面当て具	灰	26,30と同一　在地
70	SX89	11B22	6	珠洲焼	甕	－	(16.0)	(4.2)	Ⅲ期以前	外面平行叩き　内面ナデ	灰	底部粘土片付着　在地

田屋道遺跡　遺物観察表(2)

陶磁器・土器(2)

No.	遺構名	出土地点	層位	種別	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	時　期	調整・文様等	色調	備　考
71	SX89	11B23	6	珠洲焼	片口鉢	(32.0)	－	(10.7)	Ⅱ期	ロクロ成形	暗灰	5,31と同一か　在地
72	SX89	11B22	4	珠洲焼	片口鉢	－	－	(4.1)	Ⅱ期	ロクロ成形	灰	在地
73	SX89	11B18	1	青磁	皿	－	(5.0)	(0.8)	13C初	ロクロ成形　外面無釉、底部糸切り 内面櫛描文	灰オリーブ	同安窯系
74	SX536	21E8	2	珠洲焼	甕	－	－	(4.9)	Ⅰ～Ⅱ期	外面平行叩き　内面ナデ	灰白	
75	SX536	21E8	2	土師質土器	皿	－	(8.0)	(2.3)	15C	ロクロ成形　ヘラ切り後ナデ	灰白	
76	SX536	21E3	2	土師質土器	皿	8.0	6.0	1.4	14C	ロクロ成形　ヘラ切り後ナデ	浅黄橙	
77	P844	22E2	1	須恵器	甕	－	－	(5.7)	Ⅴ期	外面叩き　内面同心円当て具	灰	佐渡
78	包含層	20D15	Ⅱ	珠洲焼	甕	－	－	(3.6)	Ⅰ期か	外面平行叩き　内面ナデ	灰	外面自然釉
79	包含層	93T	Ⅱ	珠洲焼	甕	－	－	(10.6)	Ⅲ期以前	外面平行叩き　内面当て具	灰	在地
80	包含層	93T	Ⅱ	珠洲焼	甕	－	－	(9.1)	Ⅳ期以前	外面平行叩き　内面当て具	暗オリーブ灰	
81	包含層	89T	Ⅱ	珠洲焼	壺	－	－	(5.9)	Ⅳ～Ⅴ期	外面平行叩き　内面ナデ	オリーブ灰	
82	包含層	90T	Ⅱ	珠洲焼	片口鉢	－	－	(7.4)	Ⅲ期	ロクロ成形　細い櫛目10条以上	灰	在地
83	包含層	21D14	Ⅱ	珠洲焼	片口鉢	－	－	(5.3)	Ⅲ期	ロクロ成形　櫛目9条(幅2.1cm)	灰	
84	包含層	90T	Ⅱ	珠洲焼	片口鉢	－	－	(7.5)	Ⅱ期末～Ⅲ期初	ロクロ成形　櫛目3条(幅0.6cm)、 12条(幅2.0cm)	灰	在地
85	包含層	21F6	Ⅱ	珠洲焼	片口鉢	－	－	(4.8)	Ⅲ～Ⅳ期	ロクロ成形　櫛目13条以上	にぶい褐	
86	包含層	89T	Ⅱ	青磁	椀	－	－	(5.9)	鎌倉後期	ロクロ成形　鎬蓮弁文	オリーブ灰	龍泉窯系　太宰府Ⅱ類
87	包含層	20D1	Ⅱ	青磁	椀	(16.0)	－	(2.9)	12C末～13C前半	ロクロ成形　内外面施釉	灰オリーブ	龍泉窯系　太宰府Ⅰ－1類
88	包含層	22D17	Ⅱ	青磁	椀	(16.0)	－	(3.1)	16C末	ロクロ成形　内外面施釉	灰オリーブ	端反椀
89	包含層	21D17	Ⅱ	青磁	椀	－	(5.0)	(2.2)	15C	ロクロ成形　高台内無釉　見込み蛇の 目釉ハギか	灰オリーブ	龍泉窯系　上田D類
90	包含層	89T	Ⅱ	白磁	椀	(14.0)	－	(2.2)	鎌倉後期	ロクロ成形　口禿	明オリーブ灰	
91	包含層	15F9	Ⅱ	白磁	椀	－	－	(4.0)	鎌倉後期	ロクロ成形　口禿	灰	景徳鎮系
92	包含層	11C5	Ⅱ	白磁	皿	－	(5.0)	(0.9)	12C末	ロクロ成形　外面無釉　底部外面回転 ヘラ整形	灰オリーブ	
93	包含層	85T	Ⅱ	染付	椀	－	－	(2.7)	16C	ロクロ成形　外面草花文	灰白	景徳鎮系　小野D又はE群
94	包含層	20D23	Ⅱ	染付	椀	－	4.4	(1.3)	16C末	ロクロ成形　見込み花文、高台･外面底部 に文様	明緑灰	漳州窯系　畳付に目積痕
95	包含層	22F6	Ⅱ	染付	徳利	－	－	(4.9)	16C末	ロクロ成形　草花文	明緑灰	
96	包含層	11B25	Ⅱ	瓷器系	甕	－	－	(6.8)	12～13C前半か	外面叩き　内面ナデ	暗オリーブ	外面自然釉　転用砥石
97	包含層	10C5, 11C13	Ⅱ	須恵器	杯	－	(9.0)	(4.0)	Ⅴ期	ロクロ整形　ヘラ切り	灰	佐渡
98	包含層	21E15	Ⅱ	須恵器	杯	－	(10.0)	(2.2)	Ⅳ期	ロクロ整形　ヘラ切り後ナデ	灰	口縁部焦げ痕　阿賀北
99	撹乱	10B21		珠洲焼	甕	－	－	(7.3)	Ⅴ期か	外面平行叩き　内面ナデ	灰	
100	撹乱	21E9		土師質土器	皿	－	(8.0)	(1.8)	14C	ロクロ成形	灰白	
101	撹乱	84T		青磁	皿	(14.0)	－	(2.2)	12C末～13C初	ロクロ成形　外面下半無釉　内面櫛描文	灰白	同安窯系　大宰府Ⅱ－1類
102	撹乱	18E24		染付	椀	－	(3.9)	(1.3)	16C以降	ロクロ成形　見込み花文	灰白	

金属製品

No.	遺構名	出土地点	層位	種　別	器種	遺存状況	長(cm)	幅(cm)	高(cm)	重量(g)	備　考
103	包含層	22E21	Ⅱ	銅製品	煙管	吸口部	5.2	0.8	0.8	2.6	

石製品

No.	遺構名	出土地点	層位	種　別	石　材	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	備　考
104	SE330	19F9	7	砥石	流紋岩	6.2	6.0	0.9	42.5	
105	SE357	21F2	11	砥石	流紋岩	7.7	3.0	4.1	91.6	
106	SE534	20D3	6	砥石	ホルンフェルス	7.3	4.5	0.5	29.1	
107	SE863	24E18	1	砥石	流紋岩	13.1	3.8	4.1	134.2	
108	SD79	10C11	1	砥石	花崗岩	20.5	8.3	4.7	1205.5	
109	SD527	21D11	1	砥石	流紋岩	5.8	2.5	4.0	78.0	
110	包含層	12C6	Ⅱ	砥石	花崗岩	7.9	7.1	2.7	220.6	

木製品(1)

No.	遺構名	出土地点	層位	種　別	長(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	遺存状況	樹　種	木取り	備　考
111	杭10	7E22	Ⅲb	杭	(35.0)	7.6	7.4	上端欠損	トネリコ属	丸材	SB1
112	杭11	7E3	Ⅲb	杭	(35.5)	12.2	12.1	上端欠損	トネリコ属	丸材	SB1
113	杭20	7D22	Ⅲb	杭	46.2	9.7	10.0		トネリコ属	丸材	SB1
114	杭21	7E3	Ⅲb	杭	(38.7)	8.0	7.5	上端欠損	トネリコ属	丸材	SB1
115	杭22	7E7	Ⅲb	杭	49.2	12.3	8.2		トネリコ属	丸材	SB1
116	杭27	7D23	Ⅲb	杭	56.3	10.8	10.5		トネリコ属	丸材	SB1　接合部中心に孔あり
117	P49	8D14	1	柱根	44.1	13.8	8.5		クリ	割材	SB3　角柱
118	P51	8D15	1	柱根	(38.5)	11.6	6.7	上端欠損	クリ	割材	SB3　角柱
119	P77	8C21	1	柱根	43.0	6.3	7.0		クリ	丸材	SB3
120	P127	12D13	1	柱根	31.3	5.8	5.8		サクラ属	丸材	SB4　芯腐食
121	P132	12D23	1	柱根	84.0	12.9	13.0		オニグルミ	丸材	SB4
122	P143	12D22	1	柱根	115.2	15.6	15.0		キハダ	丸材	SB4
123	P133	12D18	1	柱根	18.4	7.2	5.4		サクラ属	丸材	SB4
124	P144	12D12	1	柱根	19.7	3.3	2.6		オニグルミ	割材	SB4
125	P149	12D25	1	柱根	(34.5)	13.0	11.0	上端欠損	ケヤキ	丸材	SB7
126	P211	14E13	1	柱根	23.6	6.2	6.0		クリ	丸材	SB9
127	P190	14E2	1	柱根	34.7	7.4	6.7			丸材	SB9

田屋道遺跡　遺物観察表(3)
木製品(2)

No.	遺構名	出土地点	層位	種　別	長(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	遺存状況	樹　種	木取り	備　考
128	P191	14D23	1	柱根	(25.7)	6.5	6.1	上端欠損		丸材	SB9
129	P242	14E15	2	柱根	26.5	9.0	8.5		サクラ属	丸材	SB9
130	P298	16E24	1	柱根	60.9	14.0	15.3		カラスザンショウ	丸材	SB11
131	P319	19E12	1	柱根	36.0	12.0	10.0		クリ	丸材	SB12
132	P320	19E7	1	柱根	44.5	14.7	12.7		クリ	丸材	SB12
133	P321	19E2	1	柱根	44.6	19.1	13.7		クリ	丸材	SB12
134	P323	18E15	1	柱根	49.0	15.7	10.9		コナラ節	割材	SB12　下部に抉りあり
135	P324	18E10	1	柱根	27.7	11.5	9.5		クリ	割材	SB12
136	P325	18E5	1	柱根	58.0	13.2	12.8		クリ	割材	SB12　角柱
137	P719	18D20	4	柱根	44.4	6.7	6.3		キハダ	丸材	SB12
138	P719	18D20	4	礎板	22.7	10.2	5.8		カツラ	柾目	SB12　孔あり　臍穴あり
139	P722	18D24	1	柱根	(34.3)	14.0	11.2	上端欠損	クリ	丸材	SB12　中心腐食激しい
140	P872	19E3	2	礎板	27.9	6.9	2.5		クリ	板目	SB12
141	P373	19E3		礎板	32.6	10.0	1.6			柾目	SB13
142	P338	18E25	2	礎板	27.4	3.9	1.5			柾目	SB14
143	P338	18E25	2	礎板	28.5	6.1	1.9			柾目	SB14
144	P677	18E12	2	礎板	10.0	13.0	3.0			柾目	SB14
145	P699	18F2	1	柱根	21.6	12.9	11.9		クリ	割材	SB14　角柱
146	P702	18F7	2	礎板	26.9	8.0	2.3		ハリギリ	柾目	SB14
147	P723	18F10	5	礎板	26.9	13.0	2.4			柾目	SB14
148	P370	19E25	3	礎板	14.0	5.5	2.4		クリ	半割材	SB15
149	P475	20E21	1	柱根	39.6	12.9	10.6		クリ	丸材	SB15
150	P530	20E9	1	柱根	13.2	6.5	6.2			丸材	SB17　芯部分腐食
151	P553	19C24	1	柱根	56.6	15.8	15.2		クリ	割材	SB18　角柱
152	P559	19C23	1	柱根	42.1	18.2	15.6		クリ	割材	SB18　角柱
153	P591	19D7	1	柱根	30.8	9.0	8.3		クリ	丸材	SB18
154	P426	21C21	1	柱根	44.1	8.8	7.5		クリ	丸材	SB21
155	P407	17F5	1	礎板	18.5	14.3	3.9			柾目	SB22
156	P407	17F5	1	礎板	21.7	9.6	4.0			柾目	SB22
157	P407	17F5	1	礎板	24.5	12.6	3.9			柾目	SB22
158	P489	21D19	1	柱根	(27.0)	5.7	5.6	上端欠損	クリ	割材	SB26
159	P640	21F5	1	礎板	26.5	11.7	5.1		クリ	割材	SB27
160	P861	22F6	1	柱根	(39.9)	12.4	11.4	上端欠損	クリ	丸材	SB27
161	P224	19F14	1	柱根	55.0	10.5	9.5		クリ	割材	SB28　角柱
162	P318	19F2	1	柱根	30.9	14.9	12.8		クリ	丸材	SB28
163	P470	19F3	1	柱根	37.6	16.2	15.2		クリ	割材	SB28　芯持ちの角柱
164	P646	19F7	1	柱根	(41.0)	10.8	11.8	上端欠損	クリ	丸材	SB28
165	P340	18F5	1	柱根	26.0	12.3	11.3		クリ	丸材	SB29
166	P692	18D3	3	礎板	21.0	6.3	2.3		クリ	割材	SB32
167	P756	18C18	2	礎板	18.3	9.8	4.6			割材	SB34
168	P491	21D18	1	柱根	15.5	4.8	3.7			丸材	SB36
169	P492	21D22	1	柱根	(32.7)	8.4	8.4	上端欠損	クリ	丸材	SB36
170	P497	21D13	1	柱根	34.0	6.4	6.3		クリ	丸材	SB36
171	杭573	20D18	Ⅲb	杭	29.1	11.0	8.7			丸材	SB36
172	SE53	9B24	7	漆塗皿	口：9.4	高：1.3	底：6.1	口縁～底部	ケヤキ	横木取	高台を除き内外面黒漆　ロクロツメ痕あり
173	SE53	9B25	10	曲物	24.3	3.3	0.5	破片		柾目	穿孔5か所　木釘2か所残存　加工痕あり　ケビキあり
174	SE53	9B25	7	箸状木製品	10.5	0.5	0.4			柾目	
175	SE53	9B24	7	箸状木製品	(15.0)	0.6	0.6	上下端欠損		柾目	
176	SE53	9B24	7	羽子板状木製品	15.1	5.1	0.7	ほぼ完形	クリ	板目	穿孔2か所
177	SE53	9B24	7	杭状木製品	22.8	5.5	2.7			柾目	
178	SE53	9B25	7	杭状木製品	23.2	5.5	2.3			柾目	
179	SE53	9B24	7	杭	(22.6)	4.4	3.4	上端欠損		割材	
180	SE53	9B25	10	杭	34.7	1.9	1.9			丸材	
181	SE54	8D20	9	漆塗皿	口：8.4	高：1.6	底：6.0	ほぼ完形	ケヤキ	横木取	高台を除き内外面黒漆　ロクロツメ痕あり
182	SE54	8D20	6	箸状木製品	(10.6)	0.4	0.4	上端欠損		柾目	
183	SE54	8D20	9	箸状木製品	(8.9)	0.5	0.4	上下端欠損		柾目	
184	SE54	8D20	9	箸状木製品	(6.4)	0.4	0.3	上端欠損		柾目	
185	SE54	8D20	9	棒状木製品	32.8	2.1	1.3			割材	
186	SE55	10D1		箸状木製品	15.4	0.8	0.4			柾目	腐食のため調整不明瞭
187	SE55	10D1		箸状木製品	(6.1)	0.8	0.3	下端欠損		柾目	
188	SE56	8D15	6	箸状木製品	18.2	0.6	0.4			柾目	
189	SE56	8D14	6	箸状木製品	20.7	0.8	0.5			柾目	
190	SE56	8D15	6	箸状木製品	21.6	0.4	0.4			柾目	
191	SE56	8D15	6	箸状木製品	22.8	0.5	0.4			柾目	
192	SE56	8D15	6	箸状木製品	21.3	0.6	0.5			柾目	
193	SE56	8D15	6	箸状木製品	(16.8)	0.7	0.4	中間部欠損		柾目	
194	SE56	8D15	6	箸状木製品	(12.9)	0.6	0.4	上下端欠損		柾目	
195	SE56	8D15	6	箸状木製品	(14.7)	0.6	0.3	上端欠損		柾目	
196	SE75	9C7	6	箸状木製品	(22.4)	0.7	0.6	上端欠損		柾目	
197	SE75	9C7	6	棒状木製品	108.0	2.7	3.2		クリ	柾目	
198	SE82	9C3	4	木製鉤	23.0	1.7	1.7		アジサイ属	丸材	下半煤付着
199	SE88	9C5	7	箸状木製品	24.5	0.6	0.4			柾目	
200	SE88	9C5	7	箸状木製品	24.6	0.6	0.3			柾目	

田屋道遺跡　遺物観察表(4)

木製品(3)

No.	遺構名	出土地点	層位	種　別	長(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	遺存状況	樹　種	木取り	備　考
201	SE88	9C5	7	箸状木製品	18.4	0.6	0.3			柾目	
202	SE88	9C5	7	箸状木製品	17.1	0.6	0.6			柾目	
203	SE88	9C5	7	箸状木製品	(17.0)	0.5	0.3	上端欠損		柾目	
204	SE88	9C5	6	不明木製品	(8.3)	0.9	0.3			柾目	
205	SE134	11D24･25	12	箸状木製品	(14.6)	0.3	0.4	破片4点		柾目	
206	SE134	11D24･25	12	箸状木製品	(6.2)	0.5	0.4	下端欠損		柾目	
207	SE327	20E18	8	曲物の底板か	(14.1)	(5.7)	0.5	破片		柾目	
208	SE327	20E18	6	箸状木製品	20.6	0.5	0.4			柾目	
209	SE327	20E13	6	箸状木製品	21.2	0.7	0.4			柾目	
210	SE327	20E18	6	箸状木製品	(18.0)	0.7	0.5			柾目	
211	SE327	20E13	5	箸状木製品	(17.2)	0.7	0.2	上下端欠損		柾目	
212	SE327	20E13	8	箸状木製品	(11.8)	0.7	0.4	上下端欠損		柾目	
213	SE327	20E18	6	箸状木製品	(10.2)	0.5	0.4	上下端欠損		柾目	
214	SE327	20E13	5	箸状木製品	(5.7)	0.7	0.4	上端欠損		柾目	
215	SE327	20E18	6	箸状木製品	(7.5)	0.6	0.5	上端欠損		柾目	
216	SE327	20E18	6	不明木製品	16.4	1.3	0.9			割材	斎串状
217	SE328	20E6	6	曲物	(25.3)	5.7	0.5	破片		柾目	
218	SE328	20E6	6	曲物の底板か	(17.0)	(3.0)	0.3	破片		板目	
219	SE328	20E7	4	棒状木製品	(9.9)	1.4	0.7	上端欠損		柾目	一部炭化
220	SE328	20E6	6	矢板状木製品	(19.0)	4.3	0.3	上端欠損		柾目	
221	SE328	20E7	4	矢板状木製品	53.4	10.0	4.0			割材	
222	SE328	20E6	4	杭	77.4	3.2	3.8			丸材	
223	SE330	19F9	11	漆塗皿	口：(8.8)	高：2.0	－	高台一部欠損	ケヤキ	横木取	内外面黒漆　内面の漆厚手
224	SE330	19F9	7	漆塗皿	口：8.6	高：1.7	底：5.3		ケヤキ	横木取	高台を除き内外面黒漆　体部穿孔か
225	SE330	19F9	7,10	曲物	(8.5)	12.9	0.3	破片		柾目	ケビキあり
226	SE330	19F9	11	杭	20.4	2.1	2.0			割材	釘穴2か所
227	SE330	19F9	11	菰槌	22.0	4.2	5.0			丸材	
228	SE330	19F9	11	棒状木製品	(30.9)	0.7	0.5	上下端欠損		柾目	釘穴1か所　上部に切り込み･圧痕あり　229と同一か
229	SE330	19F9	10	棒状木製品	(18.6)	0.6	0.4	上端欠損		柾目	釘穴2か所　228と同一か
230	SE330	19F9	10	箸状木製品	21.4	0.5	0.3			柾目	
231	SE330	19F9	7	箸状木製品	(14.3)	0.6	0.6	上下端欠損		柾目	
232	SE330	19F9	7	箸状木製品	15.4	0.6	0.5			柾目	
233	SE330	19F9	7	箸状木製品	(12.9)	0.4	0.4	上下端欠損		柾目	
234	SE330	19F9	7	箸状木製品	19.2	0.4	0.4			柾目	
235	SE330	19F9	11	箸状木製品	20.2	0.6	0.5			柾目	
236	SE330	19F9	10	箸状木製品	(13.5)	0.6	0.5	上下端欠損		柾目	
237	SE330	19F9	7	箸状木製品	(12.2)	0.5	0.4	上端欠損		柾目	
238	SE330	19F9	7	箸状木製品	(12.9)	0.8	0.2	上端欠損		柾目	
239	SE330	19F9	10	箸状木製品	(9.2)	0.6	0.4	破片2点		柾目	
240	SE330	19F9	7	箸状木製品	(9.7)	0.5	0.4	上下端欠損		柾目	
241	SE330	19F9	7	箸状木製品	(10.4)	0.5	0.5	上下端欠損		柾目	
242	SE330	19F9	7	箸状木製品	(8.8)	0.5	0.2	上端欠損		柾目	
243	SE330	19F9	7	箸状木製品	(7.7)	0.6	0.4	上端欠損		柾目	
244	SE330	19F9	11	箸状木製品	(8.5)	0.6	0.2	上下端欠損		柾目	
245	SE330	19F9	7	箸状木製品	(9.3)	0.6	0.3	上下端欠損		柾目	
246	SE330	19F9	10	箸状木製品	24.2	0.6	0.4		スギ	柾目	
247	SE330	19F9	11	箸状木製品	24.8	0.5	0.5			柾目	
248	SE330	19F9	10	箸状木製品	24.5	0.6	0.3			柾目	
249	SE330	19F9	10	箸状木製品	25.9	0.7	0.4			柾目	
250	SE330	19F9	7	箸状木製品	24.9	0.6	0.4			柾目	
251	SE330	19F9	11	箸状木製品	(18.2)	0.7	0.6	上端欠損		柾目	
252	SE330	19F9	11	箸状木製品	19.0	0.5	0.4			柾目	
253	SE330	19F9	10	箸状木製品	(18.7)	0.6	0.5	上端欠損		柾目	
254	SE330	19F9	10	箸状木製品	(21.6)	0.5	0.5	上端欠損		柾目	
255	SE330	19F9	11	箸状木製品	23.1	0.5	0.4			柾目	
256	SE330	19F9	11	箸状木製品	21.0	0.7	0.4			柾目	
257	SE330	19F9	11	箸状木製品	19.8	0.5	0.5			柾目	
258	SE330	19F9	11	箸状木製品	(17.9)	0.7	0.5	上端欠損		柾目	
259	SE330	19F9	7	箸状木製品	19.2	0.6	0.4			柾目	
260	SE330	19F9	11	箸状木製品	(19.0)	0.4	0.3	上端欠損		柾目	
261	SE330	19F9	7	箸状木製品	(15.6)	0.6	0.6	上端欠損		柾目	
262	SE330	19F9	7	箸状木製品	(15.2)	0.6	0.4	破片2点		柾目	
263	SE330	19F9	7	箸状木製品	(16.1)	0.6	0.4	上端欠損		柾目	
264	SE330	19F9	10	箸状木製品	(10.4)	0.5	0.4	上端欠損		柾目	
265	SE330	19F9	11	箸状木製品	(14.0)	0.5	0.3	上端欠損		柾目	
266	SE330	19F9	11	箸状木製品	(13.5)	0.6	0.5	上下端欠損		柾目	
267	SE330	19F9	10	箸状木製品	(14.6)	0.5	0.3	上端欠損		柾目	
268	SE330	19F9	11	箸状木製品	(10.5)	0.5	0.5	上端欠損		柾目	
269	SE330	19F9	11	箸状木製品	(8.0)	0.5	0.4	上端欠損		柾目	
270	SE330	19F9	11	箸状木製品	(5.9)	0.5	0.5	上下端欠損		柾目	
271	SE330	19F9	10	斎串状木製品	(12.3)	(1.3)	0.2	破片		柾目	木礼か
272	SE330	19F9	7	部材	18.8	10.7	3.8			割材	臍穴あり
273	SE330	19F9	7	柄状木製品	101.6	3.5	5.0			割材	

田屋道遺跡　遺物観察表(5)

木製品(4)

No.	遺構名	出土地点	層位	種　別	長(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	遺存状況	樹　種	木取り	備　考
274	SE336	19F8	8	漆塗椀	口：(15.0)	高：(3.7)	－	口縁～体部	ケヤキ	横木取	内外面黒漆
275	SE336	19F8	8	曲物	4.2	(7.3)	0.7	破片		柾目	桜皮綴じ　ケビキあり
276	SE336	19F8	8	曲物	21.1	(3.5)	1.0	破片		柾目	ケビキあり
277	SE336	19F8	8	箸状木製品	(17.9)	0.6	0.3	上端欠損		柾目	
278	SE336	19F8	10	箸状木製品	(18.4)	0.6	0.4	上端欠損		柾目	
279	SE336	19F8	10	箸状木製品	(17.2)	0.5	0.4	上端欠損		柾目	
280	SE336	19F8	10	箸状木製品	21.4	0.6	0.4			柾目	
281	SE336	19F8	8	箸状木製品	23.5	0.5	0.5			柾目	
282	SE336	19F8	10	箸状木製品	23.8	0.5	0.4			柾目	
283	SE336	19F8	8	箸状木製品	20.7	0.5	0.5			柾目	
284	SE336	19F8	11	箸状木製品	(16.2)	0.6	0.4	上端欠損		柾目	
285	SE336	19F8	11	箸状木製品	(12.0)	0.5	0.4	破片3点		柾目	
286	SE336	19F8	11	箸状木製品	(14.7)	0.5	0.3	上下端欠損		柾目	
287	SE336	19F8	11	箸状木製品	(12.5)	0.5	0.4	破片2点		柾目	
288	SE336	19F8	11	箸状木製品	(8.7)	0.5	0.3	上下端欠損		柾目	
289	SE336	19F8	8	箸状木製品	(7.6)	0.7	0.4	上下端欠損		柾目	
290	SE336	19F8	8	箸状木製品	(10.1)	0.6	0.3	上端欠損		柾目	
291	SE336	19F8	8	箸状木製品	(9.7)	0.5	0.4	上端欠損		柾目	
292	SE336	19F8	11	箸状木製品	(10.4)	0.5	0.3	上下端欠損	バラ科ナシ亜科	柾目	
293	SE336	19F8	10	箸状木製品	(9.6)	0.5	0.4	上端欠損		柾目	一部炭化
294	SE336	19F8	10	箸状木製品	(9.7)	0.5	0.4	上端欠損		柾目	
295	SE336	19F8	10	木釘か	5.4	0.8	0.5			柾目	
296	SE336	19F8	10	不明木製品	29.2	2.9	2.4			割材	角材状　一部炭化
297	SE398	18E13	5	箸状木製品	(17.1)	0.7	0.5	上端欠損	スギ	柾目	
298	SE398	18E13	5	箸状木製品	21.9	0.5	0.3			柾目	
299	SE398	18E13	5	箸状木製品	(6.4)	0.7	0.6	下端欠損		柾目	
300	SE534	20D3	13	杭	(51.3)	2.8	2.9	中間部欠損		丸材	
301	SE534	20D3	12	ひょうたん製品	－	高：(7.9)	0.7	破片	ヒョウタン(果皮)		穿孔1か所
302	SE534	20D3	13	棒状木製品	(16.2)	1.8	0.9	上下端欠損		割材	
303	SE551	19D8	4	漆塗椀	口：12.6	高：4.5	底：7.0	口縁～底部	ケヤキ	横木取	高台を除き内外面黒漆　ロクロツメ痕あり
304	SE551	19D8	4	曲物	径：33.0	高：24.4	－	胴部一部欠損	スギ	柾目	底板なし　桜皮綴じ　木釘穴21か所　ケビキあり
305	SE574	22E16	3	曲物の底板	17.8	(6.3)	0.7			柾目	表面炭化物付着
306	SE684	18C14	4	漆塗皿	口：9.3	高：1.5	底：6.7	口縁～底部		横木取	高台を除き内外面黒漆
307	SE684	18C14	5	箸状木製品	21.6	0.6	0.5			柾目	
308	SE684	18C14	5	箸状木製品	(10.3)	0.5	0.5	上端欠損		柾目	
309	SE684	18C14	5	刳物	(7.7)	(11.1)	4.2	破片	サクラ属	柾目	
310	SE684	18C14	5	木材か	39.3	3.8	2.2			割材	
311	SE684	18C14	5	部材か	(30.0)	3.3	3.2	上端欠損		割材	
312	SE684	18C14	5	板	64.6	16.6	3.6			柾目	加工痕あり
313	SE863	24E18	1	部材か	37.0	3.6	1.2			割材	先端を薄く削っている
314	SK81	10C2	3	曲物の底板	(24.7)	(8.7)	0.8	破片		柾目	一部炭化
315	SK81	10C3	3	曲物の底板	(32.3)	(13.3)	1.2	破片	スギ	柾目	一部炭化
316	SK341	19E10	2	曲物の底板か	(25.7)	(15.1)	1.0	破片		柾目	
317	SG313	21C9	4	漆塗椀	口：(12.0)	高：(3.6)	底：(6.0)	腐食進む		横木取	外面黒漆　内面朱漆
318	SG313	21C4	4	側板	(15.0)	(4.0)	1.1	破片	マツ属複維管束亜属	柾目	
319	SG313	21C9	4	側板	(11.5)	(2.6)	0.9	破片	マツ属複維管束亜属	柾目	
320	SG313	21C9	7	板	13.1	2.8	0.7			柾目	
321	SG313	21C4,9	4	横木	63.2	5.0	5.2		マツ属	丸材	
322	SG313	21C4,9	4	横木	64.3	3.4	3.9		マツ属	丸材	付着物あり
323	SG313	21C4,9	3	蓋板	(69.6)	(9.0)	0.6		アスナロ	柾目	湾曲する
324	SG313	21C9	3	蓋板	(68.6)	8.8	0.6		アスナロ		湾曲する
325	SG313	21C9	4	側板	(79.8)	(17.0)	1.0		マツ属複維管束亜属	柾目	木釘2か所残る
326	SG313	21C4	4	側板	55.0	15.2	1.0		マツ属複維管束亜属	柾目	
327	SG313	21C4	4	数珠玉	径：0.8	高：0.5	－		アスナロ		孔に糸状のもの残存
328	SG313	21C4	4	数珠玉	径：1.0	高：0.7	－		アスナロ		
329	SG313	21C4	4	数珠玉	径：1.0	高：0.6	－	一部欠損	アスナロ		
330	SG313	21C4	4	数珠玉	径：1.0	高：0.6	－		アスナロ		
331	SG313	21C4	4	数珠玉	径：1.0	高：0.6	－	一部欠損	アスナロ		
332	SG313	21C4	4	数珠玉	径：1.0	高：0.7	－		アスナロ		
333	SG313	21C4	4	数珠玉	径：1.0	高：0.7	－	一部欠損	アスナロ		やや潰れている
334	SG313	21C4	4	数珠玉	径：1.0	高：0.6	－	一部欠損	アスナロ		
335	SG313	21C4	4	数珠玉	径：1.0	高：0.7	－		アスナロ		
336	SG313	21C4	4	数珠玉	径：1.0	高：0.7	－		アスナロ		
337	SG313	21C4	4	数珠玉	径：1.3	高：0.9	－		アスナロ		横方向からの穿孔あり
338	SG313	21C4	4	数珠玉	径：1.0	高：0.7	－		アスナロ		
339	SG313	21C4	4	数珠玉	径：0.9	高：0.6	－		アスナロ		
340	SG313	21C4	4	数珠玉	径：1.0	高：0.6	－		アスナロ		
341	SG313	21C4	4	数珠玉	径：1.0	高：0.7	－		アスナロ		
342	SG313	21C4	4	数珠玉	径：0.9	高：(0.6)	－	1/3欠損	アスナロ		
343	SG313	21C4	4	数珠玉	径：0.9	高：0.7	－		アスナロ		
344	SG313	21C4	4	数珠玉	径：0.8	高：(0.6)	－	1/3欠損	アスナロ		
345	SG313	21C4	4	数珠玉	径：0.9	高：(0.6)	－	1/4欠損	アスナロ		
346	SG313	21C4	4	数珠玉	径：0.9	高：(0.5)	－	1/2欠損	アスナロ		

田屋道遺跡　遺物観察表(6)
木製品(5)

No.	遺構名	出土地点	層位	種　別	長(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	遺存状況	樹　種	木取り	備　考
347	SG313	21C4	4	数珠玉	径：0.9	高：(0.3)	－	2/3欠損	アスナロ		
348	SG313	21C4	4	数珠玉	径：1.0	高：0.7	－		アスナロ		
349	SG313	21C4	4	数珠玉	径：0.9	高：(0.7)	－	1/3欠損	アスナロ		穿孔貫通していない
350	SG313	21C4	4	数珠玉	径：0.9	高：0.7	－		アスナロ		
351	SG313	21C4	4	数珠玉	径：0.9	高：0.7	－	1/2欠損	アスナロ		
352	SG313	21C4	4	数珠玉	径：0.9	高：(0.6)	－	1/3欠損	アスナロ		
353	SG313	21C4	4	数珠玉	径：0.9	高：0.7	－		アスナロ		
354	SG313	21C4	4	数珠玉	径：0.9	高：0.6	－	一部欠損	アスナロ		
355	SG313	21C4	4	数珠玉	径：0.9	高：0.7	－		アスナロ		
356	SG313	21C4	4	数珠玉	径：0.9	高：0.7	－		アスナロ		
357	SG313	21C4	4	数珠玉	径：0.9	高：(0.4)	－	1/2欠損	アスナロ		
358	SG313	21C4	4	数珠玉	径：0.9	高：(0.5)	－	1/2欠損	アスナロ		
359	SG313	21C4	4	数珠玉	径：1.0	高：(0.6)	－	1/2欠損	アスナロ		
360	SG313	21C4	4	数珠玉	径：0.9	高：0.7	－		アスナロ		
361	SG313	21C4	4	数珠玉	径：0.9	高：(0.6)	－	1/3欠損	アスナロ		
362	SG313	21C4	4	数珠玉	径：1.0	高：0.6	－		アスナロ		
363	SG313	21C4	4	数珠玉	径：0.9	高：0.7	－		アスナロ		
364	SG313	21C4	4	数珠玉	径：1.0	高：0.7	－		アスナロ		
365	SG313	21C4	4	数珠玉	径：0.9	高：0.7	－		アスナロ		
366	SG313	21C4	4	数珠玉	径：(0.9)	高：(0.5)	－		アスナロ		
367	SG313	21C4	4	数珠玉	径：0.9	高：0.7	－	1/2欠損	アスナロ		
368	SG313	21C4	4	数珠玉	径：1.0	高：0.6	－	1/4欠損	アスナロ		
369	SG313	21C4	4	数珠玉	径：0.9	高：0.7	－		アスナロ		
370	SG313	21C4	4	数珠玉	径：0.9	高：0.7	－		アスナロ		
371	SG313	21C4	4	数珠玉	径：0.9	高：0.7	－	一部欠損	アスナロ		
372	SG313	21C4	4	数珠玉	径：0.9	高：(0.5)	－	1/3欠損	アスナロ		
373	SG313	21C4	4	数珠玉	径：0.9	高：0.7	－	一部欠損	アスナロ		
374	SG313	21C4	4	数珠玉	径：0.9	高：0.7	－	一部欠損	アスナロ		
375	SG313	21C4	4	数珠玉	径：0.9	高：0.7	－		アスナロ		
376	SG313	21C4	4	数珠玉	径：0.9	高：0.7	－		アスナロ		
377	SG313	21C4	4	数珠玉	径：0.9	高：0.6	－	一部欠損	アスナロ		
378	SG313	21C4	4	数珠玉	径：0.9	高：0.7	－	一部欠損	アスナロ		
379	SG313	21C4	4	数珠玉	径：0.9	高：0.6	－	1/2欠損	アスナロ		
380	SG313	21C4	4	数珠玉	径：0.9	高：(0.4)	－	一部欠損	アスナロ		潰れている
381	SG313	21C4	4	数珠玉	径：0.8	高：0.6	－		アスナロ		
382	SD525	21E3	4	箸状木製品	17.3	0.9	0.7			柾目	一部炭化
383	SD673	20F9	5	柱状木製品	48.2	12.3	9.4			丸材	圧痕あり
384	SD673	20F9	5	柱状木製品	37.8	12.6	8.1			丸材	
385	SD673	20F9	3	柱状木製品	58.8	10.2	9.8			丸材	
386	SX12	10D21	1	板	(14.1)	(4.5)	1.4	破片		柾目	
387	杭498	17D25	Ⅲb	杭	(36.2)	5.6	5.5	上端欠損		丸材	SA1
388	杭499	17D25	Ⅲb	杭	43.6	6.0	5.7			丸材	SA1　一部樹皮残存
389	杭500	17D25	Ⅲb	杭	34.9	4.6	4.6			丸材	SA1
390	杭501	17D25	Ⅲb	杭	37.5	11.5	10.3			丸材	SA1
391	杭502	17D24	Ⅲb	杭	(29.5)	2.5	2.3	上端欠損		丸材	SA1
392	杭503	17D24	Ⅲb	杭	33.5	6.6	6.4			丸材	SA1　一部樹皮残存
393	杭504	17D19	Ⅲb	杭	(13.6)	3.4	3.2	先端のみ		丸材	SA1
394	杭505	17D19	Ⅲb	杭	30.0	5.6	5.5			丸材	SA1
395	杭506	17D19	Ⅲb	杭	(18.7)	2.1	2.1	上端欠損		丸材	SA1
396	杭507	17D19	Ⅲb	杭	42.2	5.1	4.6			丸材	SA1
397	杭508	17D14	Ⅲb	杭	(29.5)	4.2	4.2	上端欠損		丸材	SA1
398	杭803	17E5	Ⅲb	杭	(12.9)	5.2	2.4	先端のみ		割材	SA1
399	杭451	17E10	Ⅲb	杭	25.5	3.7	2.7			割材	SA2
400	杭452	17E10	Ⅲb	杭	31.8	6.9	5.6			丸材	SA2
401	杭453	17E5	Ⅲb	杭	26.1	5.8	5.5			丸材	SA2
402	杭454	17E5	Ⅲb	杭	50.5	4.2	4.5			丸材	SA2
403	杭459	17E5	Ⅲb	杭	(37.7)	5.7	5.9	上端欠損		丸材	SA2
404	杭460	17E5	Ⅲb	杭	29.2	3.5	3.7			丸材	SA2
405	杭804	17E4	Ⅲb	杭	51.2	7.9	6.5			丸材	SA3　一部樹皮残存
406	杭805	17E10	Ⅲb	杭	45.8	7.5	6.1			割材	SA3　一部樹皮残存
407	P18	6D14	1	柱根	(77.2)	12.6	7.4	下端欠損		半割材	上部
408	P18	6D14	1	柱根	上(45.4) 下(38.2)	13.6	7.0	中間部欠損		半割材	下部　接合部腐食
409	P112	11D19	1	柱根	33.6	9.2	5.1			半割材	
410	P112	11D19	1	根絡	(7.7)	9.3	8.4	上端欠損		丸材	
411	P120	11D8	1	柱状木製品	(13.3)	9.6	6.4	上下端欠損		割材	臍穴あり　部材転用品
412	P155	11D15	1	柱根	28.7	6.0	6.3			丸材	先端加工
413	P210	13E15	1	柱根	26.6	6.1	6.3			丸材	
414	P275	20E1	4	礎板	30.3	5.3	0.9			柾目	一部炭化
415	P275	20E1	4	礎板	19.5	3.2	0.6			柾目	
416	P275	20E1	4	礎板	28.6	4.2	0.8			柾目	
417	P275	20E1	4	礎板	35.8	11.6	1.0			柾目	端部炭化　曲物の底板を転用か
418	P278	22E2	1	柱根	45.3	11.8	10.3			割材	

田屋道遺跡　遺物観察表(7)

木製品(6)

No.	遺構名	出土地点	層位	種　別	長(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	遺存状況	樹　種	木取り	備　考
419	P333	19E22	1	柱根	26.0	6.1	5.1			丸材	
420	P381	20E21	4	礎板	29.9	8.1	4.5			半割材	
421	P458	18E11	1	柱根	17.0	11.3	(3.8)			割材	
422	P487	21D20	1	柱根	27.1	7.5	5.4			割材	
423	P528	21E24	3	礎板	23.2	12.4	6.1			半割材	
424	P531	20E14	1	柱根	20.0	9.4	8.8	上端欠損		丸材	芯部分腐食
425	P618	19D1	1	柱根	39.0	6.9	5.5			丸材	
426	P619	19D6	1	柱根	30.2	10.7	8.9			丸材	
427	P629	19D14	1	柱根	35.0	(5.5)	(2.2)			割材	腐食激しい
428	P629	19D19	1	柱根	34.3	(3.3)	(3.3)			割材	腐食激しい
429	P634	19D14	1	柱根	23.3	13.8	9.7			丸材	
430	P654	19F1	1	柱根	(10.3)	7.9	6.7	上端欠損		丸材	
431	P691	18D10	1	柱根	32.2	12.7	12.1			丸材	
432	P705	18F4	2	礎板	27.9	10.3	3.7			半割材	
433	P729	18C23	3	礎板	18.7	10.3	4.4			半割材	
434	P796	26D5	1	柱根	39.8	7.8	3.8			半割材	一部樹皮残存
435	P845	22E17	1	礎板	25.2	12.2	4.9			柾目	
436	P850	22F11	3	礎板	18.9	6.3	2.9			板目	
437	P876	27D5	1	柱根	76.9	14.8	6.8			割材	
438	杭4	6E19	1	杭	(25.2)	6.6	3.7	上下端欠損		半割材	樹皮残存　SD2覆土中
439	杭5	6E19	1	杭	(32.8)	5.6	3.0	上端欠損		半割材	樹皮残存　SD2覆土中
440	杭6	6E19	1	杭	(31.6)	3.8	4.0	上端欠損		丸材	SD2覆土中
441	杭7	6E19	1	杭	(24.1)	3.4	3.4	上端欠損		丸材	SD2覆土中
442	杭14	7E23	1	杭	(8.0)	(3.2)	(2.7)	先端のみ		丸材	SD2覆土中
443	杭15	7E23	1	杭	(12.0)	(2.8)	(3.0)	先端のみ		丸材	SD2覆土中
444	杭16	7E18	1	杭	(17.0)	4.5	2.8	上端欠損		割材	SD2覆土中
445	杭17	7E18	1	杭	(14.2)	(5.7)	(2.4)	上下端欠損		割材	SD2覆土中
446	杭26	7E24	Ⅲ	杭	(24.8)	3.1	3.3	上端欠損		丸材	一部樹皮残存
447	杭29	6C24	Ⅲ	杭	(48.5)	6.4	6.1	上端欠損		丸材	
448	杭37	9F1	Ⅲ	杭	(31.8)	6.6	5.8	上端欠損		丸材	
449	杭38	9F3	1	ヘラ状木製品	(55.5)	4.8	2.0	上端欠損		板目	SD13覆土中
450	杭39	7E18	Ⅲb	杭	(23.0)	2.3	2.2	上端欠損		丸材	
451	杭43	9E16	Ⅲb	杭	-26.6	4.0	4.0	上端欠損		丸材	
452	杭91	9F5	Ⅲ	杭	(32.4)	6.7	6.4	上下端欠損		丸材	
453	杭110	11D19	Ⅲ	杭	(24.4)	5.8	5.9	上端欠損		丸材	
454	杭111	11D19	Ⅲ	矢板状木製品	53.4	10.2	2.2			板目	
455	杭114	11D14	Ⅲ	杭	54.8	4.8	4.8			丸材	
456	杭115	11D14	Ⅲ	杭	86.3	5.3	5.3			丸材	
457	杭116	11D14	Ⅲ	杭	41.5	7.0	6.3			丸材	
458	杭117	11D15	Ⅲ	杭	(33.0)	7.5	7.7	上端欠損		丸材	
459	杭146	11D24	Ⅲ	杭	(72.4)	6.4	6.2	上下端欠損		丸材	
460	杭276	21D16	Ⅲ	杭	36.6	3.1	2.8			丸材	
461	杭310	15F2	Ⅲ	杭	(35.6)	5.3	5.0	上端欠損		丸材	
462	杭317	16B23	Ⅲ	杭	24.4	4.2	3.8			割材	
463	杭393	17E20	Ⅲb	杭	16.5	(3.0)	3.1	一部欠損		割材	
464	杭394	17E20	Ⅲb	杭	(15.6)	3.2	3.4			丸材	
465	杭397	16E11	Ⅲ	杭	47.4	3.6	3.7			割材	
466	杭414	16D7	Ⅲ	杭	36.7	3.4	2.9			割材	
467	杭417	16E21	Ⅲ	杭	44.1	4.3	3.6			割材	
468	杭418	16F1	Ⅲ	杭	53.7	5.0	4.0			割材	
469	杭438	16E16	Ⅲ	杭	57.5	5.3	4.2			割材	
470	杭479	15F7	1	杭	50.0	8.0	7.3			丸材	SD237覆土中
471	杭483	20D17	Ⅲ	杭	32.3	2.9	1.6			丸材	
472	杭725	19E12	Ⅲ	杭	48.9	6.1	3.8			半割材	
473	杭816	19C4	Ⅲ	杭	(18.0)	4.5	4.7	先端のみ		丸材	
474	杭820	19E9	Ⅲ	杭	103.0	16.0	15.9			丸材	
475	杭893	16E21	Ⅲ	杭	47.3	5.3	4.9			丸材	

銭貨

No.	遺構名	出土地点	層位	銭名	国名	初鋳年	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	備　考
476	SG313	21C4	4	至大通寶	元	1310	2.3	2.3	0.1	2.6	
477	包含層	15F10	Ⅱb	熙寧元寶	北宋	1068	2.4	2.4	0.1	2.7	

宮の越遺跡　遺構観察表

土坑(SK)

遺構No.	グリッド	形状		覆土分類	細分類a	規模(cm)			出土遺物	他遺構との切合い
		平面形	断面形			長軸	短軸	深さ		
1	4D1･2･6･7	円形	台形状	F		180	170	50		

杭(KUI)

遺構No.	グリッド	杭傾斜		出土遺物	他遺構との切合い
		角度	方向		
2	3C12	18°	N174° W	杭(丸材)	
3	3E5	10°	N30° W	杭(割材)	
4	4D6	20°	N140° E	杭(丸材)	
5	4D6	45°	N150° E	杭(丸材)	

遺構No.	グリッド	杭傾斜		出土遺物	他遺構との切合い
		角度	方向		
6	4C22	0°	垂直	杭(丸材)	
7	4D6	20°	N55° E	杭(丸材)	
8	4D10	45°	N55° W	杭(丸材)	
9	5C21	40°	N120° E	杭(丸材)	

宮の越遺跡　遺物観察表

陶磁器・土器

【焼成】環硬：還元焔焼成・硬質　環軟：還元焔焼成・軟質　酸硬：酸化焔焼成　酸軟：酸化焔焼成・軟質
【胎土】石：石英　長：長石　白：白色粒　黒：黒色粒

No.	遺構名	出土地点	層位	種別	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	調整・文様等	色調	焼成	胎土	備　考
1	包含層	4D18･19	Ⅲ	須恵器	無台杯	12.4	8.5	3.3	ロクロ整形　左回転ヘラ切り	灰	環硬	白	佐渡　Ⅴ期　内面に墨痕
2	包含層	4C11	Ⅲ	須恵器	無台杯	12.3	8.0	3.4	ロクロ整形　左回転ヘラ切り	灰白	環軟	長、細礫	新津・元山
3	包含層	7D24	Ⅲ	須恵器	無台杯	(12.2)	9.0	3.3	ロクロ整形　右回転ヘラ切り	オリーブ黒	環軟	石	阿賀北　Ⅵ期
4	包含層	4D18･19	Ⅲ	須恵器	無台杯	(13.6)	(10.0)	2.9	ロクロ整形　ヘラ切り	灰	環硬	石、小礫	阿賀北　Ⅵ期
5	包含層	4C19	Ⅲ	須恵器	無台杯	(12.7)	8.0	3.2	ロクロ整形　右回転ヘラ切り	灰白	環軟	石	阿賀北　Ⅳ～Ⅵ期
6	包含層	4D13･18	Ⅲ	須恵器	無台杯	(11.3)	－	(2.5)	ロクロ整形	灰	環硬	石、白	新津・元山
7	包含層	4E5	Ⅲ	須恵器	無台杯	(13.0)	－	(3.0)	ロクロ整形	灰	環硬	石、小礫	阿賀北　Ⅵ期
8	包含層	4C23	Ⅲ	須恵器	無台杯	(11.7)	－	(2.8)	ロクロ整形	オリーブ灰	環硬		新津・元山
9	包含層	2D9	Ⅲ	須恵器	有台杯	(15.0)	－	(3.7)	ロクロ整形	青灰	環硬	白	新津・元山
10	包含層	4D18･22	Ⅲ	須恵器	有台杯	(14.0)	－	(3.9)	ロクロ整形	オリーブ黒	環硬		新津・元山
11	包含層	4D13	Ⅲ	須恵器	有台杯	(14.0)	－	(3.6)	ロクロ整形	灰	環硬	石	新津・元山
12	包含層	4E9	Ⅲ	須恵器	杯蓋	(14.0)	－	(1.8)	ロクロ整形	灰	環硬	長、黒	新津・元山　Ⅴ期
13	包含層	4D4･10･14･15,4E3	Ⅲ	須恵器	横瓶	－	－	(4.8)	外面平行叩き　内面同心円当て具	灰オリーブ	環硬	石、長	阿賀北　Ⅲ～Ⅴ期
14	包含層	4C17･22･24･4D17	Ⅲ	須恵器	横瓶	－	－	(3.9)	外面平行叩き　線刻　内面同心円当て具	暗オリーブ灰	環硬	長	阿賀北　Ⅳ期
15	包含層	7C11･16	Ⅲ	土師器	小甕	(18.0)	－	(8.7)	口縁部横ナデ　体部外面ヘラ削り　内面ハケ目	灰白	酸硬	石	Ⅳ期
16	包含層	4E4	Ⅲ	土師器	鍋	(34.0)	－	(3.6)	横ナデ	にぶい黄橙	酸軟	石、長、小礫	Ⅴ～Ⅵ期
17	包含層	4E4	Ⅲ	土師器	鍋	－	－	(6.4)	横ナデ　外面叩き	にぶい黄橙	酸軟	石、長、小礫	Ⅴ～Ⅵ期
18	包含層	4E4･5	Ⅲ	土師器	鍋	－	－	(9.7)	外面叩き　内面当て具	にぶい黄橙	酸軟	石、長、白	Ⅴ～Ⅵ期
19	包含層	7C23,7D3･4	Ⅲ	土器	製塩土器	－	－	－	ナデ	暗灰黄	酸軟	石、長	
20	包含層	4C24	Ⅲ	土製品	土錘	長	幅	厚		オリーブ黒	酸軟	石、長	
						4.7	3.6	(2.0)					

木製品

No.	遺構名	出土地点	層位	種　別	長(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	遺存状況	樹　種	木取り	備　考
21	杭2	3C12	Ⅳ	杭	37.1	5.7	5.3			丸材	
22	杭3	3E5	Ⅱ	杭	24.2	5.6	3.6			割材	
23	杭4	4D6	Ⅳ	杭	26.8	5.2	4.8		ハンノキ亜属	丸材	
24	杭5	4D6	Ⅳ	杭	37.5	5.4	5.0			丸材	
25	杭6	4C22	Ⅳ	杭	23.3	3.8	3.6			丸材	
26	杭7	4D6	Ⅴ	杭	14.3	2.8	2.7			丸材	先端炭化
27	杭8	4D10	Ⅳ	杭	31.9	4.5	4.2			丸材	
28	杭9	5C21	Ⅳ	杭	46.1	4.7	4.5		サクラ属	丸材	樹皮残存

図　　版

凡　例

1　遺構図で使用したスクリントーンは以下の通りである。

柱根・礎板

2　遺物の種類の略号および記号は以下の通りである。

土器・珠洲焼・陶磁器等 (P) ●　石製品 (S) ○　木製品・自然木 (W) △

3　土器実測図で使用したスクリントーンは以下の通りである。

炭化物付着

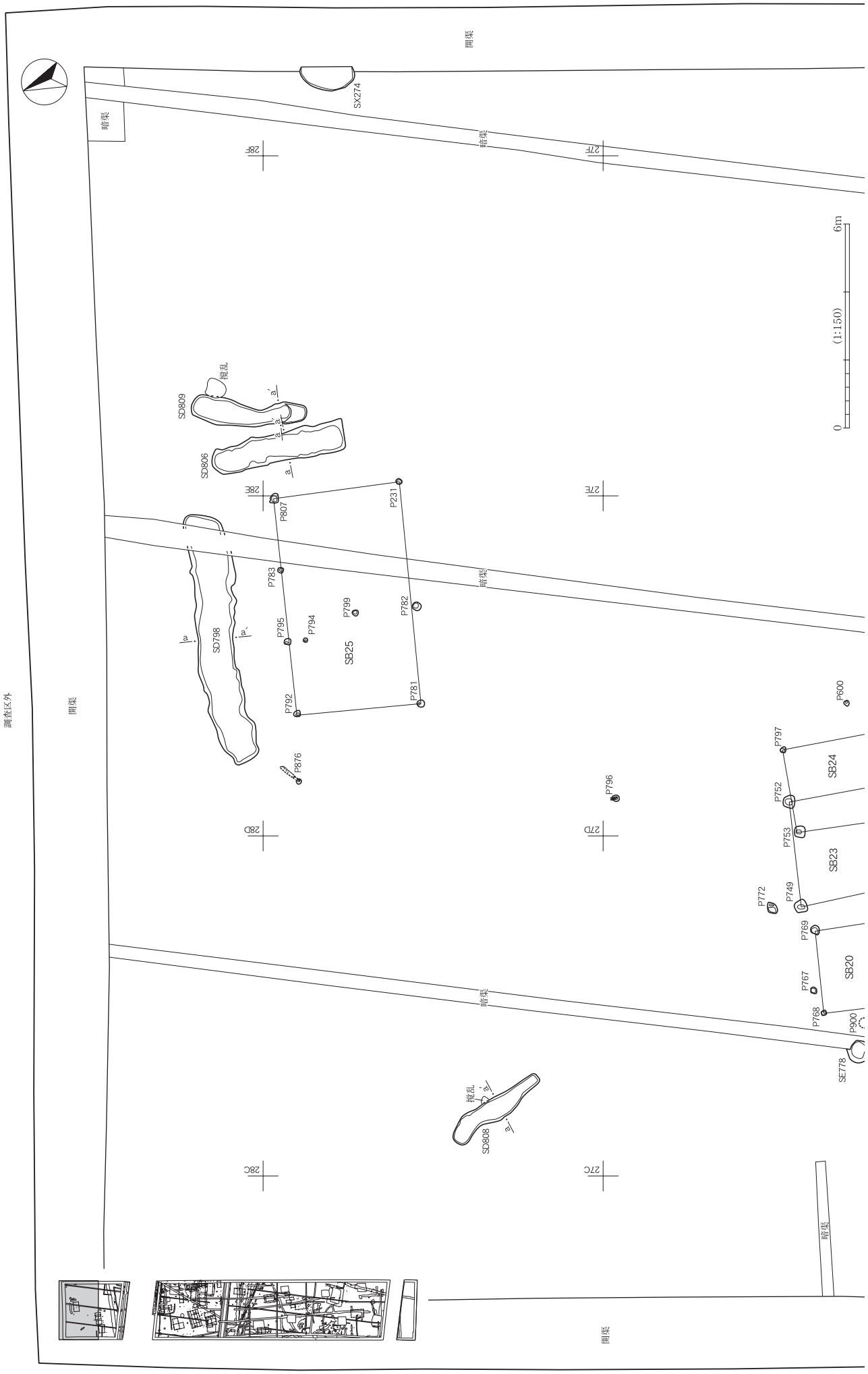
4　石器実測図で使用したスクリントーンは以下の通りである。

磨面

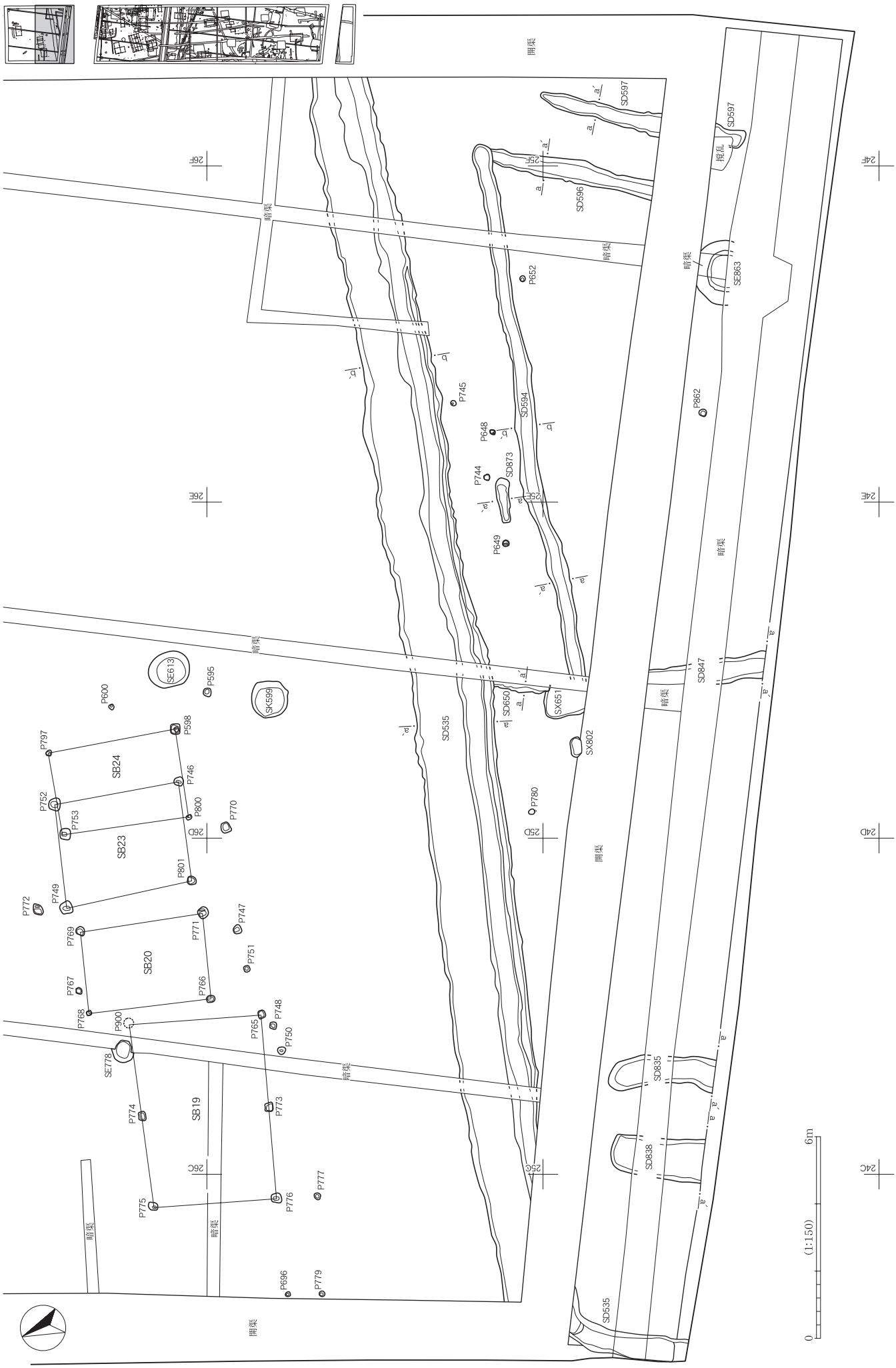
5　木製品実測図で使用したスクリントーンは以下の通りである。

黒漆　朱漆　炭化物付着

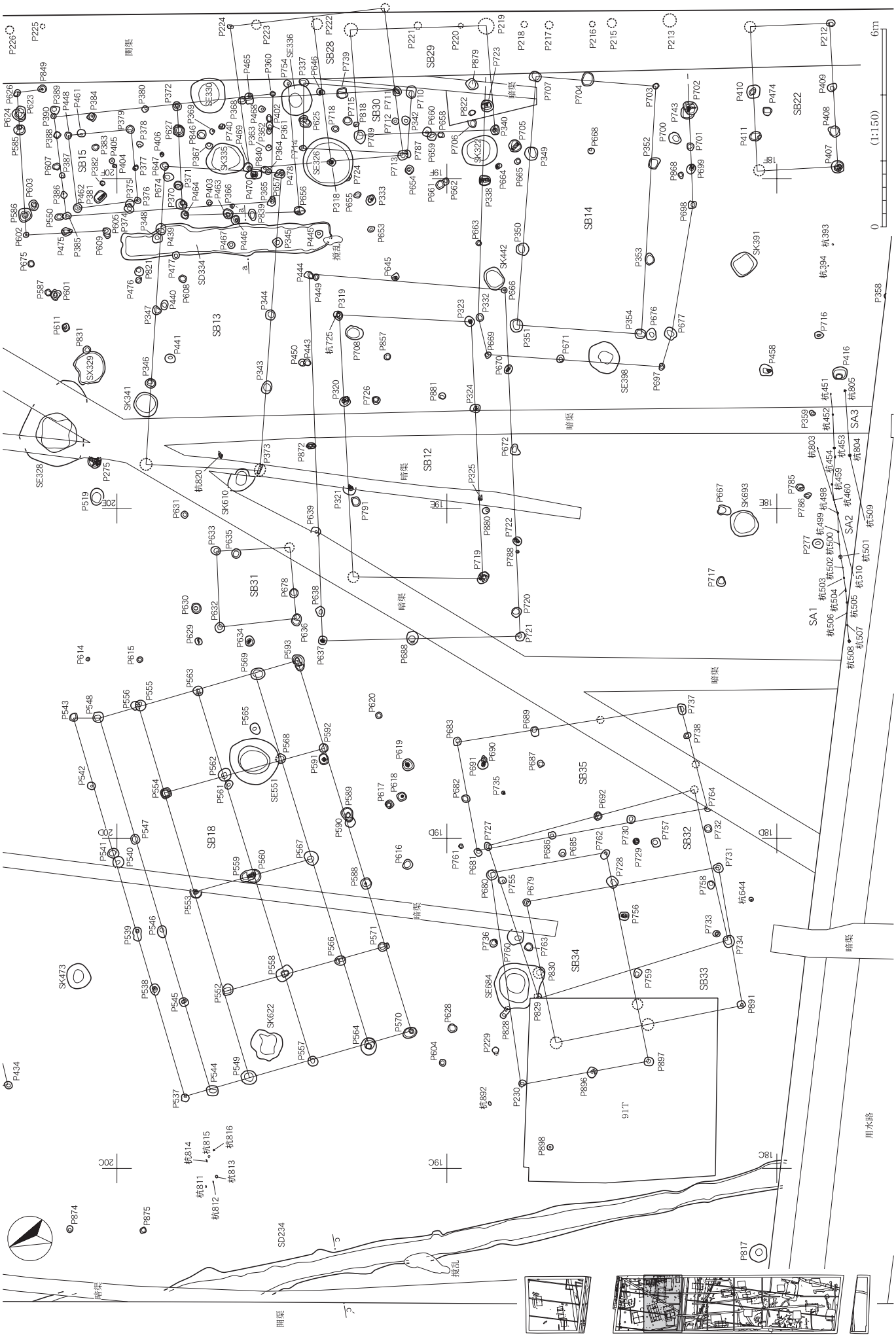
A
B
C
D
E
F
G
29
28
27
26
25
24
23
22
21
20
19
18
17
16
15
14
13
12
11
10
9
8
7
6
5
4
3
0
(1:800)
40m


調査区外
開渠
暗渠
SX274
28H
27H
28G
27G
28C
27C
SD809
攪乱
SD806
SD798
SD808
P807
P231
P783
P795
P794
P799
P782
P792
P781
P876
SB25
P796
P797
P752
P753
P749
P772
P769
P767
P768
P900
SE778
P600
SB24
SB23
SB20
0
(1:150)
6m

遺構分割図（2）


開渠
暗渠
SD597
SD596
SD594
SD873
SD535
SD650
SD847
SD835
SD838
SE863
SX651
SX802
SX599
SE613
SE778
SB24
SB23
SB20
SB19
P652
P745
P648
P744
P649
P862
P780
P600
P595
P598
P797
P746
P752
P753
P800
P770
P801
P749
P772
P769
P771
P747
P751
P767
P766
P768
P900
P765
P748
P750
P774
P773
P775
P776
P777
P696
P779
攪乱
24F
25F
26F
24E
25E
26E
24D
25D
26D
24C
25C
26C
0
(1:150)
6m

調査区外
開渠
暗渠
撹乱
SB15
SB16
SB17
SB18
SB21
SB26
SB27
SB36
SE357
SE534
SK316
SK400
SK437
SK473
SG313
SX536
SX329
SX859
SD392
SD412
SD472
SD524
SD525
SD526
SD527
SD579
SD580
SD581
SD673
SD793
SD832
SD833
SD334
SE574
SE327
SE328
93T
(1:150)
0
6m


(1:150)
0
6m
SB12
SB13
SB14
SB15
SB18
SB22
SB28
SB29
SB30
SB31
SB32
SB33
SB34
SB35
SA1
SA2
SA3
暗渠
開渠
用水路
撹乱
SD234
SD334
SE328
SE330
SE336
SE398
SE551
SE684
SK335
SK323
SK391
SK442
SK473
SK610
SK622
SK693
SX329
SK341
L16

SB12
SB13
SB14
SB18
SB22
SB28
SB29
SB30
SB31
SB32
SB33
SB34
SB35
SA1
SA2
SA3
SE326
SE551
SE684
SE398
SK322
SK391
SK693
SK810
SK622
SD234
SD447
SD334
91T
暗渠
開渠
用水路
撹乱
(1:150)
0
6m

遺構分割図（6）

用水路
SB11
SB10
SB8
SK305
SK292
SK285
SK307
SK331
SX306
SX355
SX356
SD288
SD289
SD286
SD237
SD236
SD252
SD238
SD234
SD290
SD291
SD303
SD304
SD415
SD447
暗渠
撹乱
開渠
杭279
杭281
杭823
杭824
杭825
杭827
杭889
杭414
杭317
杭894
杭895
杭893
杭418
杭417
杭438
杭397
杭309
杭310
杭311
杭312
杭479
P308
P314
P315
P297
P298
P299
P302
P301
P293
P300
P294
P295
P296
P413
P401
P399
P395
P396
P241
P242
P246
P247
P251
P271
P270
P269
P287
P263
P262
P264
P261
P257
P284
17F
16F
17E
16E
15E
17D
16D
15D
17C
16C
15C
0
(1:150)
6m

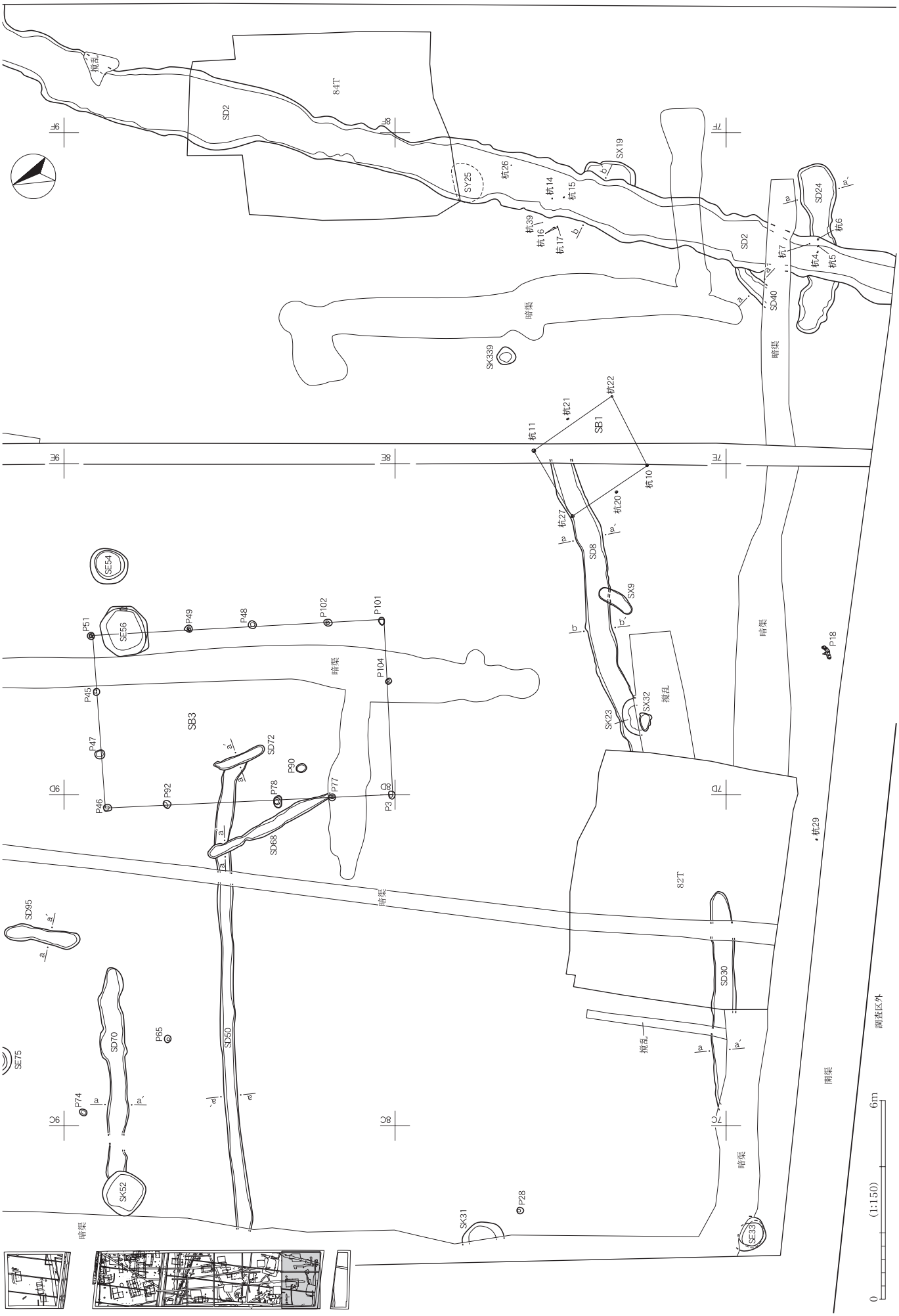
6m
(1:150)
0
87T
88T
SB9
SB10
SD139
SD140
SD175
SD186
SD252
SD237
SD236
SD238
SD286
SD290
SD291
SD303
SD304
SD415
SD258
SK285
SK331
SK173
SK253
SK255
SK256
杭254
杭309
杭310
杭311
杭312
杭417
杭418
杭438
杭479
杭893
P171
P177
P314
P299
暗渠
開渠
攪乱

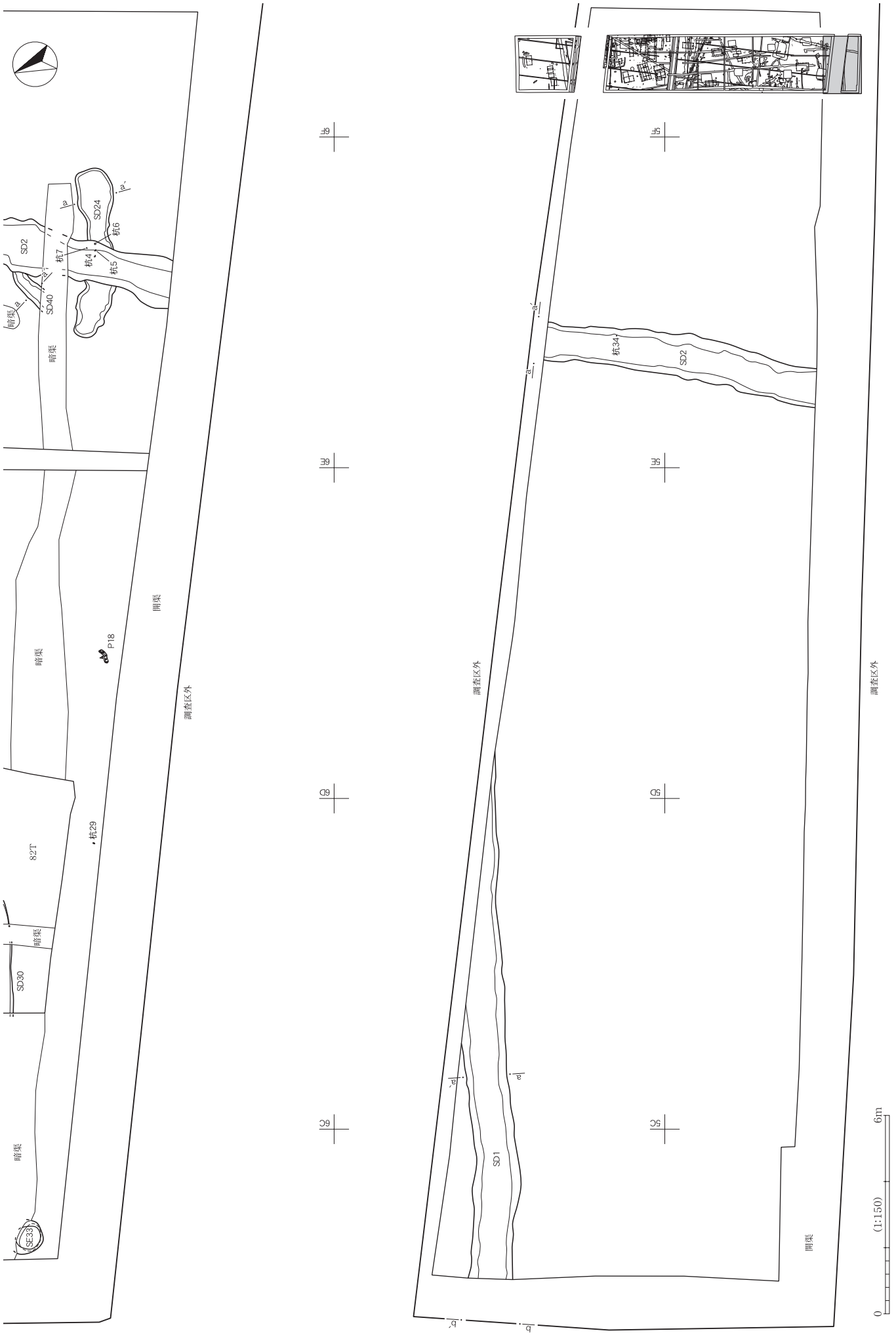
遺構分割図（8）

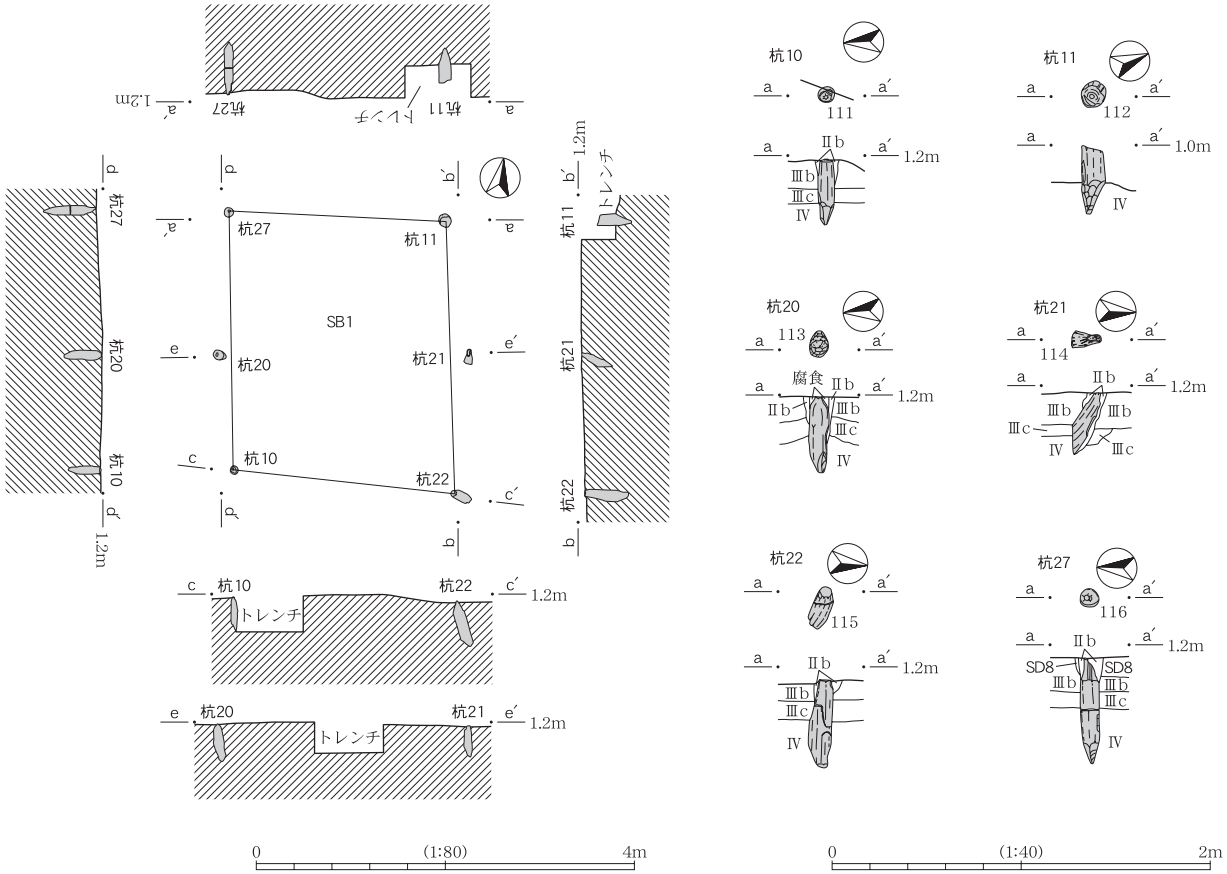
開渠
暗渠
87T
86T
SB4
SB5
SB6
SB7
SB8
SB9
SD139
SD140
SD175
SD186
SD259
SD258
SD36
SD96
SD121
SD126
SX232
SX173
SK180
SK253
SE105
SE97
SE118
SE134
SE181
撹乱
P136
P233
P124
P125
P195
P157
P154
P155
P150
P152
P151
P145
P142
P143
P165
P182
P144
P128
P127
P129
P130
P147
P131
P148
P132
P133
P153
P183
P184
P185
P200
P176
P179
P168
P149
P174
P164
P178
P167
P163
P162
P166
P235
P172
P160
P159
P158
P177
P169
P171
P170
P161
P189
P188
P187
P283
P199
P198
P190
P194
P249
P196
P197
P201
P203
P205
P204
P206
P209
P214
P250
P210
杭156
杭888
杭117
杭116
杭115
0
(1:150)
6m

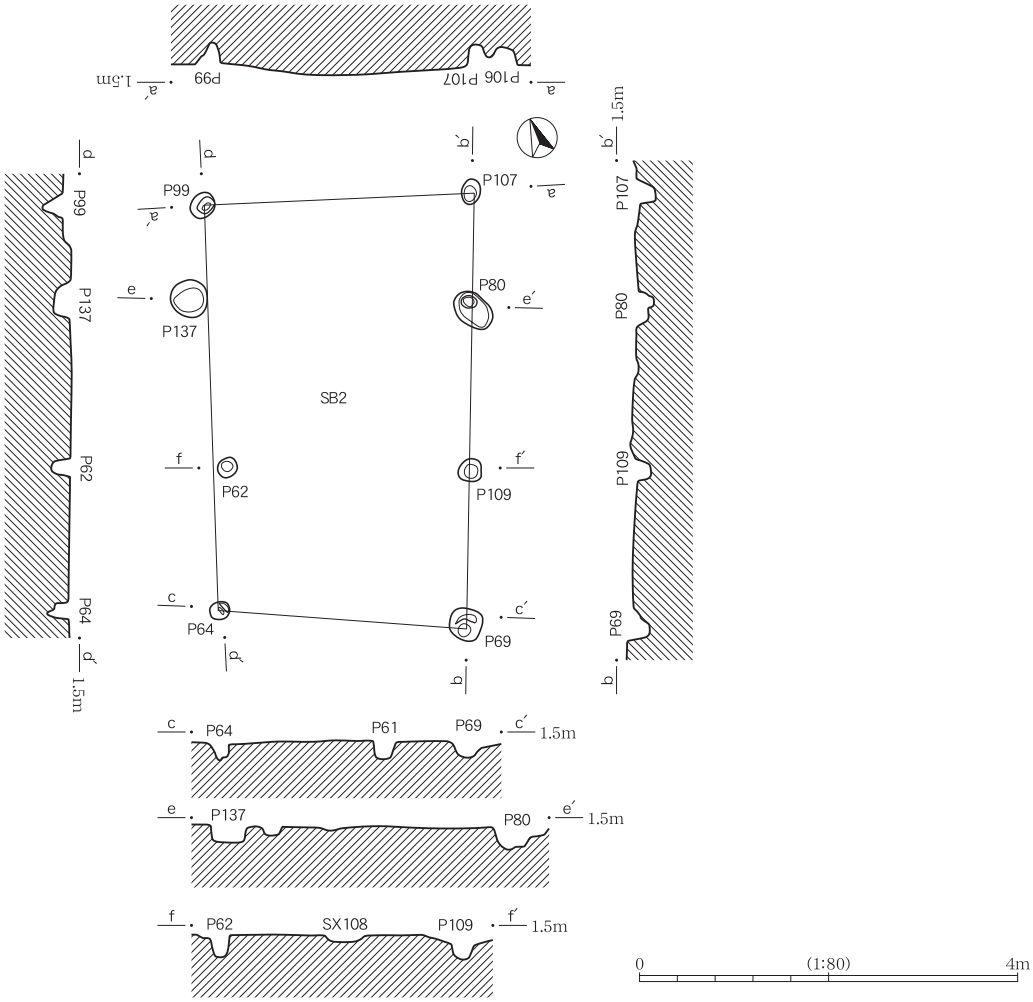
開渠
暗渠
85T
83T
SX12
SX76
SX89
SD13
SD35
SD36
SD41
SD42
SD71
SD79
SD87
SD95
SD103
SD135
SE53
SE55
SE75
SE82
SE88
SB2
SX108
SK81
SK83
撹乱
P899
(1:150)
0
6m

遺構分割図（10）

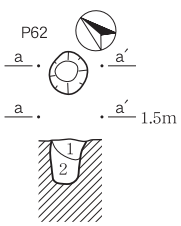

撹乱
84T
SD2
SY25
杭26
杭14
杭15
SX19
杭39
杭16
杭17
SD24
杭6
杭4
杭5
杭7
SD40
暗渠
SK339
杭22
杭21
SB1
杭11
杭10
杭20
杭27
SD8
SX9
SX32
SK23
SE54
SE56
P51
P49
P48
P102
P101
P104
P45
P47
P46
P92
SB3
SD72
P90
P78
P77
P3
SD68
P18
杭29
82T
SD30
SD95
SE75
SD70
P65
SD50
P74
SK52
SK31
P28
SE33
開渠
調査区外
0
6m
(1:150)

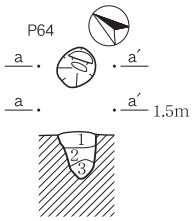

暗渠
SD2
SD40
SD24
杭6
杭7
杭4
杭5
暗渠
暗渠
P18
開渠
調査区外
82T
杭29
暗渠
SD30
暗渠
SE33
6H
6G
6F
6E
5H
5G
5F
5E
杭34
SD2
調査区外
調査区外
SD1
開渠
0
(1:150)
6m


SB1
杭10
杭11
杭20
杭21
杭22
杭27
トレンチ
腐食
SD8
0
(1:80)
4m
(1:40)
2m


SB2
P99
P107
P137
P80
P62
P109
P64
P69
P61
SX108
0
(1:80)
4m

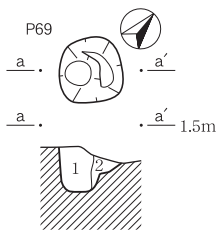
SB2

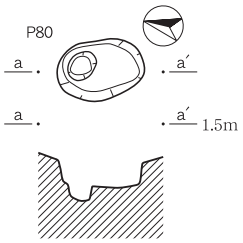




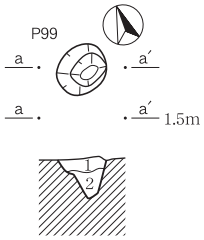
P62
1. 褐灰色、粘質土、炭化物を微量含む、しまりやや強、粘性中。
2. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土を微量含む、しまり中、粘性中。

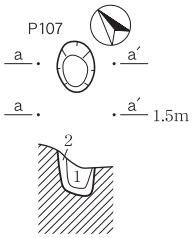
P64
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土と炭化物を少量含む、しまり強、粘性やや弱。
2. 黒褐色、粘質土、炭化物を微量含む、しまりやや強、粘性中。
3. 黒褐色、粘質土、しまり中、粘性中。





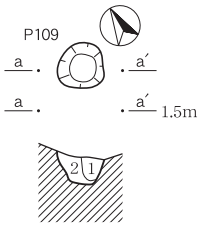
P69
1. 褐灰色、粘質土、炭化物を微量含む、しまり中、粘性中。
2. 褐灰色、粘質土、φ1～2cm程のⅢb層土をブロック状に含む、しまりやや強、粘性やや弱。

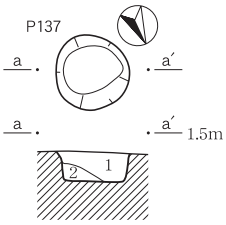




P99
1. 褐灰色、粘質土、φ0.5～1.5cm程のⅢb層土をブロック状に含む、炭化物を含む、しまりやや強、粘性中。
2. 褐灰色、粘質土、しまり中、粘性中。

P107
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土を含む、しまり中、粘性やや弱。
2. 灰オリーブ色、シルト質土、黒褐色土を少量含む、しまり中、粘性弱。

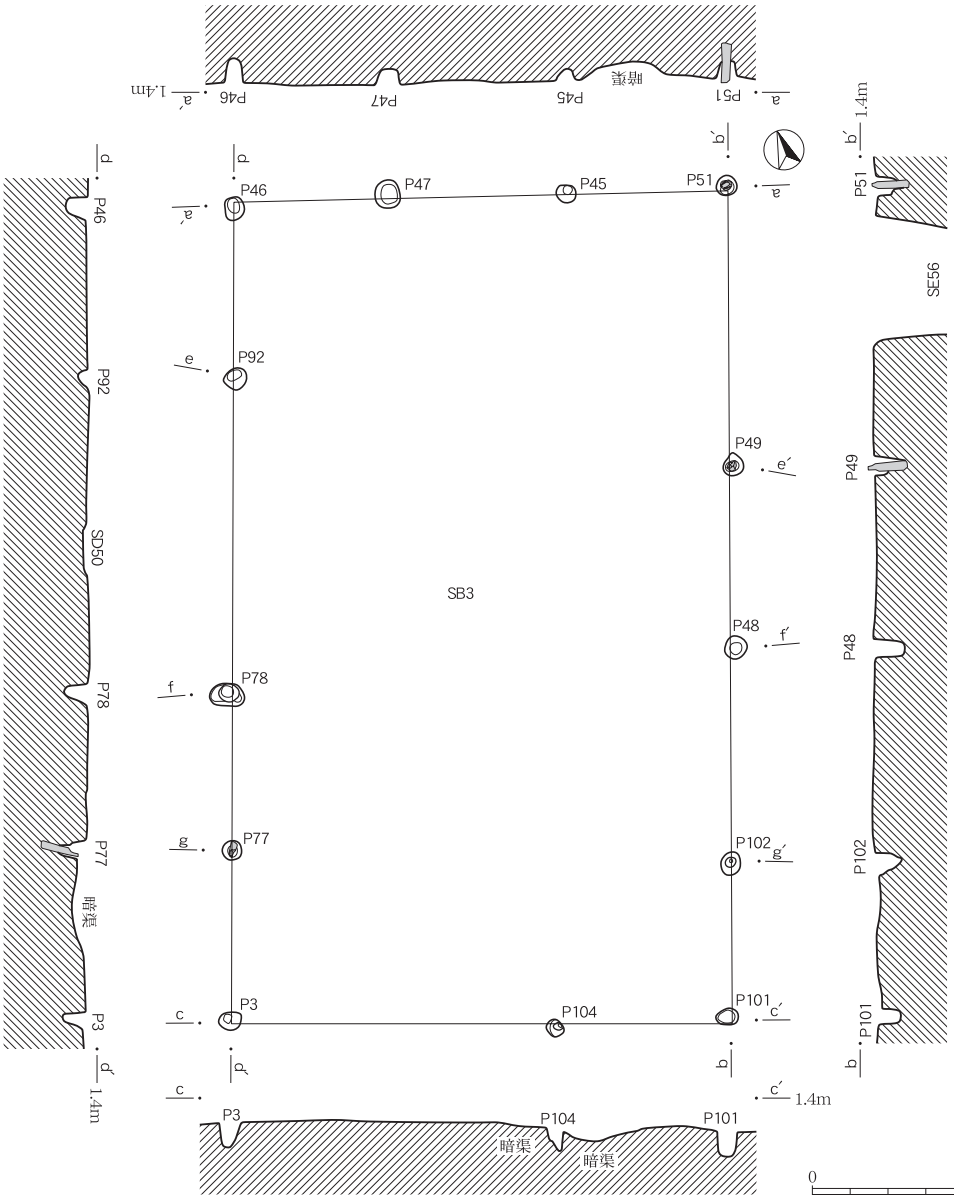




P109
1. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土を少量含む、炭化物を微量含む、しまり中、粘性やや弱。
2. 灰オリーブ色、シルト質土、褐灰色土を少量含む、しまりやや強、粘性弱。

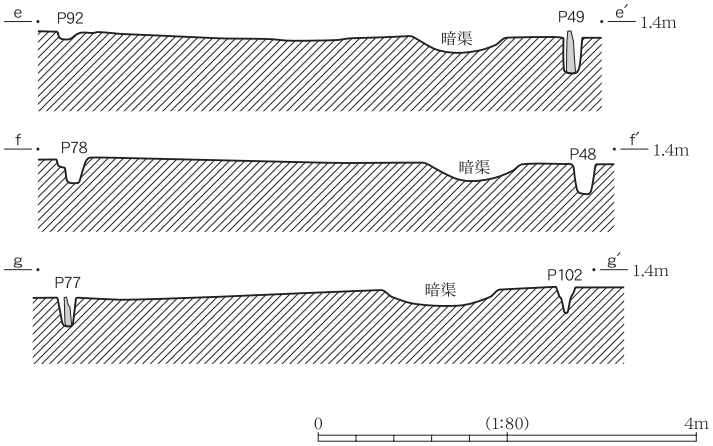
P137
1. 褐灰色、粘質土、φ1～5cm程のⅢb層土をブロック状に多量含む、しまり強、粘性弱。
2. 灰オリーブ色、シルト質土、褐灰色土を微量含む、しまり強、粘性弱。

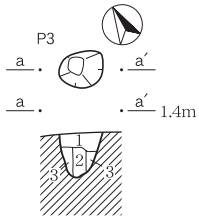
0　(1:40)　2m

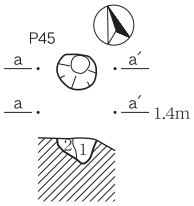


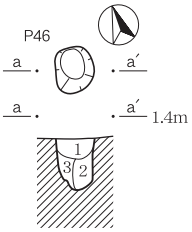
0　(1:80)　4m

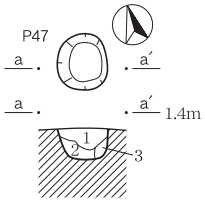
SB3









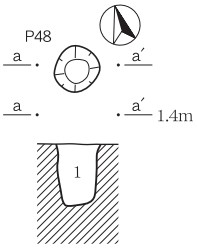


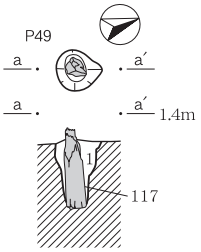
P3
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に少量含む、しまり強、粘性強。
2. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に微量含む、しまり中、粘性強。
3. 灰黄褐色、粘性シルト、1層土を少量含む、しまり弱、粘性弱。

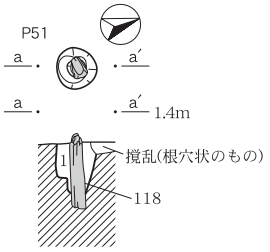
P45
1. 黒褐色、粘質土、しまりやや弱、粘性中。
2. オリーブ灰色、シルト質土、黒褐色土を少量含む、しまり強、粘性弱。

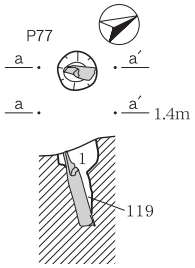
P46
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土を粒状に微量含む、炭化物を微量含む、しまり中、粘性中。
2. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土を含む、しまり中、粘性やや強。
3. 黒褐色、粘質土、しまりやや強、粘性中。

P47
1. 黒褐色、粘質土、しまりやや強、粘性中。
2. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土を含む、しまり中、粘性やや強。
3. オリーブ灰色、シルト質土、黒褐色土を含む、しまり強、粘性やや弱。







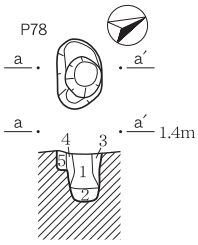


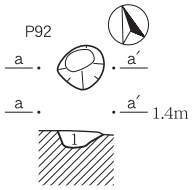
P48
1. 黒褐色、粘質土、しまりやや弱、粘性やや強。

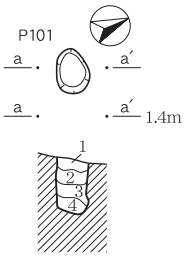
P49
1. 黒褐色、粘質土、しまりやや弱、粘性強。

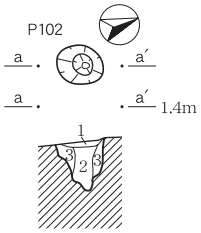
P51
1. 黒褐色、粘質土、しまりやや弱、粘性強。

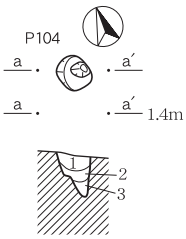
P77
1. 黒褐色、粘質土、しまりやや弱、粘性強。











P78
1. オリーブ黒色、粘質土、しまり中、粘性強。
2. 黒褐色、粘質土、しまり中、粘性中。
3. 灰色、粘質土、灰オリーブ色シルト質土を含む、しまり中、粘性中。
4. 黄灰色、シルト質粘土、Ⅲb層土と1層土を含む、しまり中、粘性中。
5. オリーブ黒色、粘質土、しまり中、粘性中。

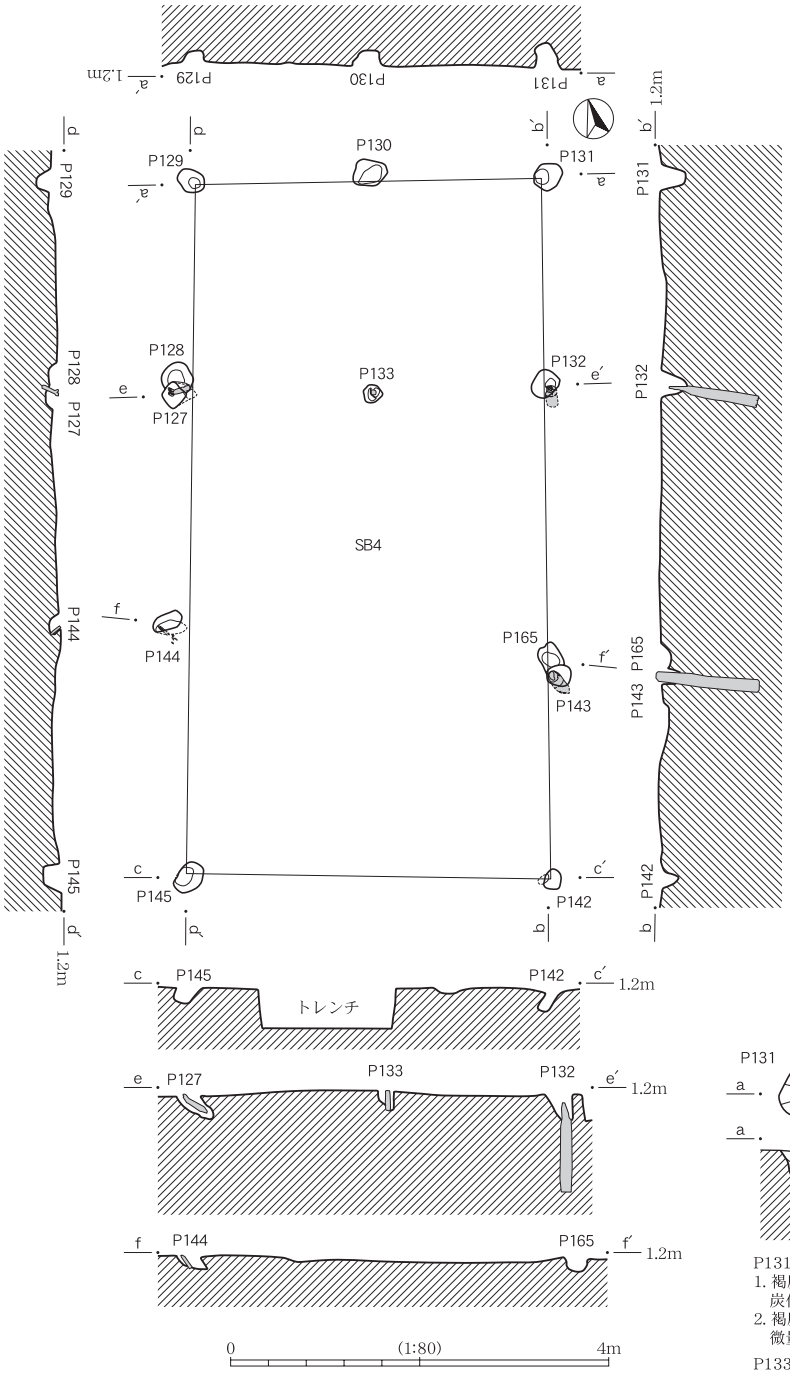
P92
1. 黒褐色、粘質土、しまりやや強、粘性やや強。

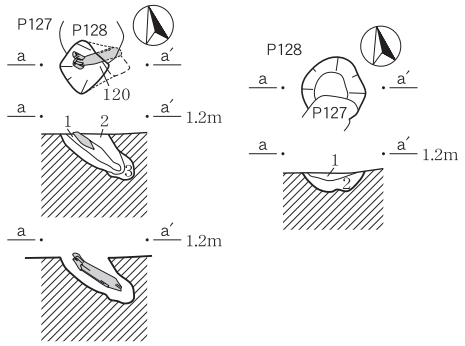
P101
1. 黒色、粘質土、しまりやや強、粘性中。
2. 黒褐色、粘質土、しまりやや強、粘性中。
3. 黄灰色、粘質土、しまりやや強、粘性やや強。
4. 黄灰色、粘質土、しまりやや強、粘性やや強。

P102
1. 黒褐色、粘質土、しまりやや強、粘性中。
2. 黒色、粘質土、しまりやや強、粘性中。
3. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、しまりやや強、粘性やや強。

P104
1. 黒褐色、粘質土、しまりやや強、粘性やや弱。
2. 褐灰色、粘質土、しまりやや強、粘性中。
3. 黒褐色、粘質土、しまり中、粘性中。

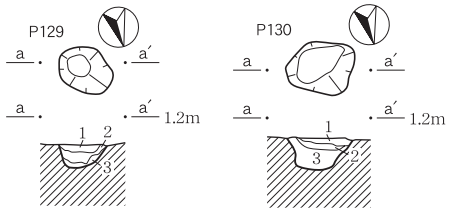
0　(1:40)　2m





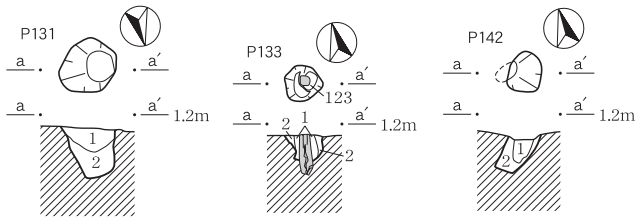
P127
1. 黒褐色、粘質土、炭化物を微量含む、しまりやや強、粘性強。
2. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に微量含む、φ0.1cm程の炭化物を微量含む、しまりやや強、粘性やや強。
3. 灰黄褐色、粘土質シルト、φ0.1cm程の炭化物を微量含む、しまり中、粘性中。

P128
1. 黒色、粘質土、Ⅲb層土を少量含む、しまり強、粘性やや弱。
2. 黒褐色、粘質土、炭化物を微量含む、しまり中、粘性中。



P129
1. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に多量含む、しまりやや強、粘性強。
2. 褐灰色、粘質土、しまりやや強、粘性強。
3. 褐灰色、砂質シルト、Ⅲb層土を斑状に多量含む、しまり中、粘性やや強。

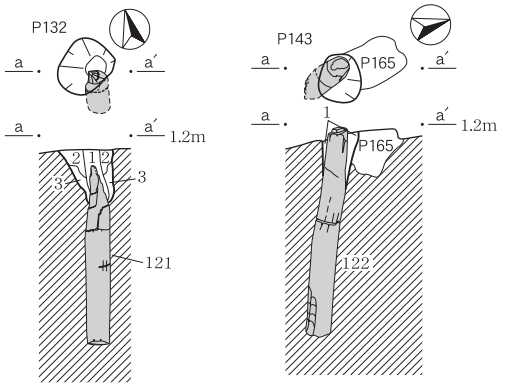
P130
1. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土を斑状に微量含む、φ0.1cm程の炭化物を微量含む、しまり強、粘性強。
2. 灰黄褐色、粘土質シルト、φ0.1cm程の炭化物を微量含む、しまりやや弱、粘性やや弱。
3. 灰黄褐色、粘土質シルト、1層土を斑状に微量含む、φ0.1cm程の炭化物を微量含む、しまりやや弱、粘性やや弱。



P131
1. 褐灰色、粘土質シルト、Ⅲb層土をブロック状に多量含む、φ0.1cm程の炭化物を微量含む、しまり中、粘性やや強。
2. 褐灰色、粘土質シルト、Ⅲb層土を斑状に微量含む、φ0.1cm程の炭化物を微量含む、しまりやや強、粘性やや強。

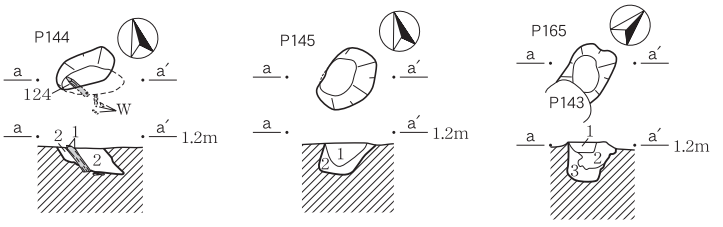
P133
1. 黒褐色、粘質土、φ0.1cm程の炭化物を微量含む、しまり強、粘性強。
2. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土を斑状に少量含む、しまりやや強、粘性中。

P142
1. 黒褐色、粘質土、φ0.4cm程のⅢb層土とφ0.1cm程の炭化物を微量含む、しまり強、粘性強。
2. 灰黄褐色、粘土質シルト、Ⅲb層土をブロック状に含む、黒褐色土を少量含む、φ0.1cm程の炭化物を微量含む、しまりやや弱、粘性やや弱。



P132
1. 黒褐色、粘質土、φ0.1cm程の炭化物を微量含む、しまり強、粘性強。
2. 黒褐色、粘質土、灰黄褐色シルト質土を微量含む、φ0.1cm程の炭化物を微量含む、しまり強、粘性強。
3. 褐灰色、粘質土、シルト質土中にφ0.1cm程の粘質土を粒状に含む、φ0.2cm程の炭化物を微量含む、しまりやや弱、粘性中。

P143
1. 黒褐色、粘質土、φ0.1cm程の炭化物を微量含む、しまり強、粘性強。

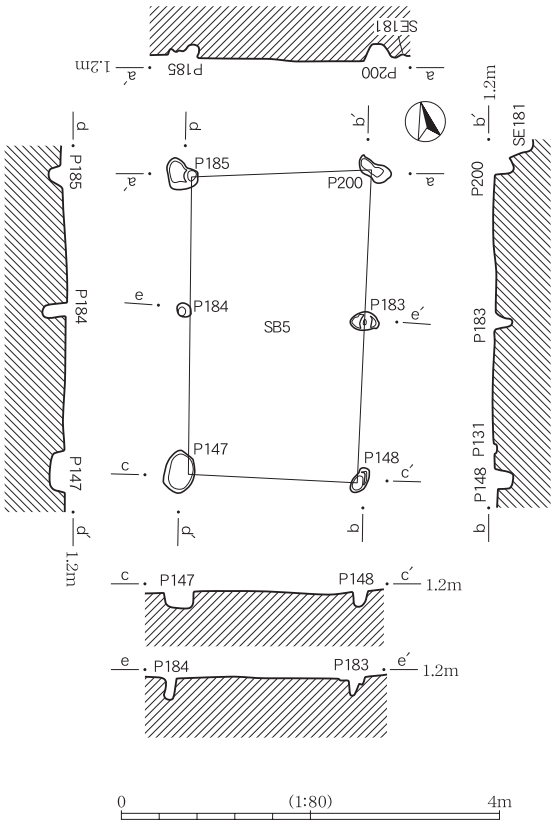


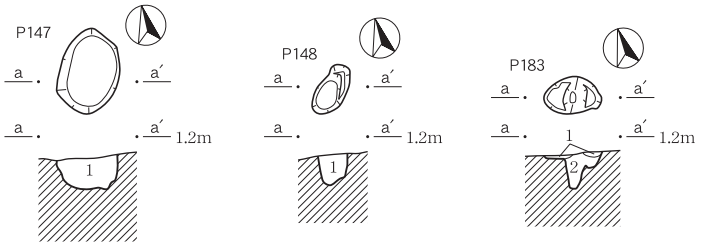
P144
1. 黒褐色、粘質土、しまりやや強、粘性強。
2. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に多量含む、しまりやや強、粘性やや強。

P145
1. 褐灰色、粘土質シルト、Ⅲb層土を斑状に少量含む、φ0.1cm程の炭化物を微量含む、しまりやや強、粘性やや強。
2. 褐灰色、砂質シルト、Ⅲb層土を斑状に多量含む、φ0.1cm程の炭化物を微量含む、しまり中、粘性中。

P165
1. 灰黄褐色、シルト質土、褐灰色土を少量含む、炭化物を微量含む、しまりやや弱、粘性弱。
2. 褐灰色、粘質土、褐灰色粘土質シルトを斑状に少量含む、炭化物を微量含む、しまりやや強、粘性強。
3. 褐灰色、粘質土、褐灰色粘土質シルトを斑状に多量含む、炭化物を微量含む、しまりやや強、粘性やや強。

0　(1:40)　2m

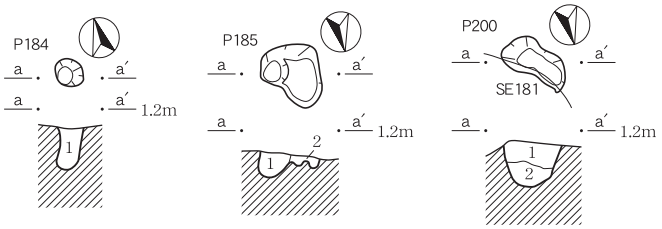




P147
1. 褐灰色、粘土質シルト、黒褐色土とⅢb層土を斑状に含む、φ0.1cm程の炭化物を微量含む、しまり中、粘性やや強。

P148
1. 灰黄褐色、粘土質シルト、φ2cm程のⅢb層土をブロック状に少量含む、φ0.1cm程の炭化物を微量含む、しまりやや強、粘性中。

P183
1. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土を多量含む、しまりやや強、粘性弱。
2. 灰色、シルト質土、黒褐色土とⅢb層土を少量含む、しまりやや強、粘性弱。

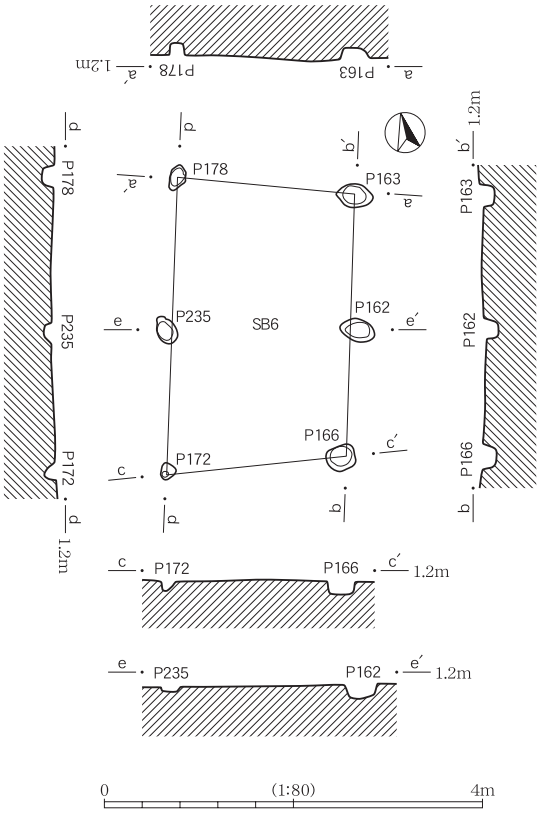


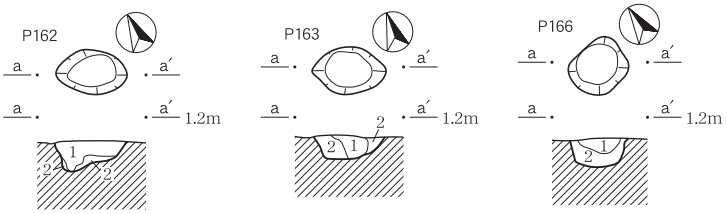
P184
1. 灰色、シルト質土、下層に褐灰色土を多量含む、しまり中、粘性弱。

P185
1. 灰色、シルト質土、褐灰色土を少量含む、しまり中、粘性弱。
2. 灰白色、シルト質土、しまりやや強、粘性弱。

P200
1. 褐灰色、粘質土、灰黄褐色土を斑状に含む、炭化物を微量含む、しまり中、粘性やや強。
2. 黒色、粘土質シルト、炭化物を微量含む、しまり中、粘性中。

0　(1:40)　2m

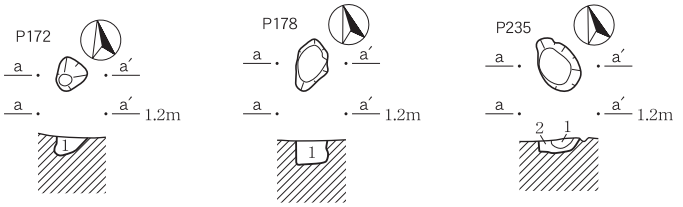




P162
1. 黒褐色、粘土質シルト、Ⅲb層土をブロック状に少量含む、φ0.1cm程の炭化物を微量含む、しまりやや強、粘性中。
2. 灰黄褐色、砂質シルト、黒褐色粘土質シルトを少量含む、しまりやや弱、粘性やや弱。

P163
1. 灰黄褐色、砂質シルト、黒褐色土を少量含む、φ0.1cm程の炭化物を微量含む、しまりやや弱、粘性やや弱。
2. 灰黄褐色、粘土質シルト、φ0.1cm程のⅢb層土を微量含む、φ0.1cm程の炭化物を微量含む、しまりやや弱、粘性中。

P166
1. 褐灰色、粘質土、φ2cm程のⅢb層土をブロック状に微量含む、φ0.1cm程の炭化物を微量含む、しまりやや強、粘性強。
2. 褐灰色、粘質土、φ3cm程のⅢb層土をブロック状に少量含む、φ0.1cm程の炭化物を微量含む、しまりやや強、粘性やや強。

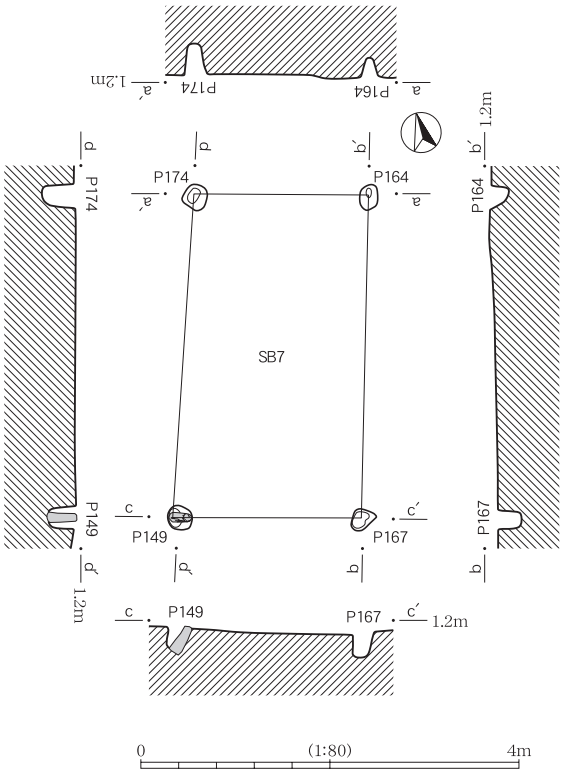


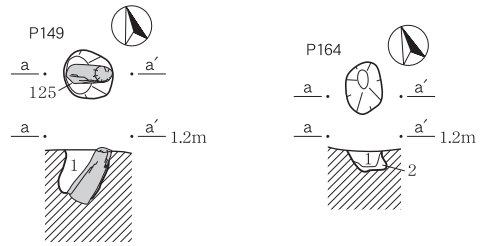
P172
1. 黒色、粘質土、φ1cm程のⅢb層土と炭化物を含む、しまりやや強、粘性やや弱。

P178
1. 黒褐色、粘質土、φ2cm程のⅢb層土をブロック状に少量含む、φ0.1cm程の炭化物を微量含む、しまりやや強、粘性やや強。

P235
1. 黒褐色、粘質土、灰黄褐色シルト質土を斑状に少量含む、炭化物を微量含む、しまりやや強、粘性やや強。
2. 灰黄褐色、シルト質土と黒褐色土を斑状に微量含む、炭化物を微量含む、しまりやや弱、粘性弱。

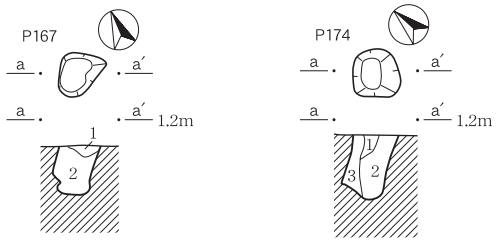
0　(1:40)　2m





P149
1. 褐灰色、粘土質シルト、Ⅲb層土をブロック状に多量含む、
φ0.1cm程の炭化物を微量含む、しまり中、粘性やや強。

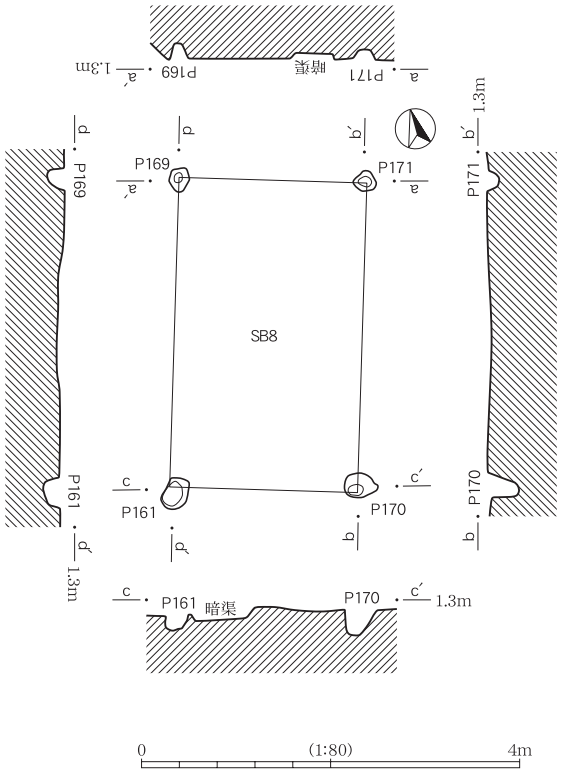
P164
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土を微量含む、しまり強、粘性やや弱。
2. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土を多量含む、しまり強、粘性弱。

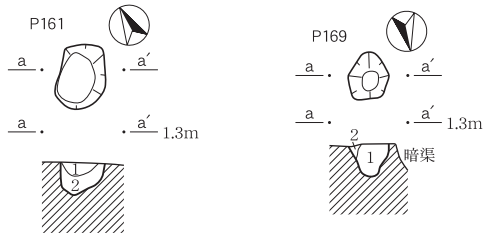


P167
1. 黒褐色、粘質土、φ1cm程のⅢb層土をブロック状に微量含む、φ0.1cm程の炭化物を微量含む、しまり強、粘性強。
2. 黒褐色、粘質土、φ5cm程のⅢb層土をブロック状に少量含む、しまり強、粘性強。

P174
1. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土を微量含む、しまり強、粘性やや弱。
2. 黒褐色、粘質土、オリーブ灰色土を含む、Ⅲb層土と炭化物を微量含む、しまりやや強、粘性やや弱。
3. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土を多量含む、しまり強、粘性やや弱。

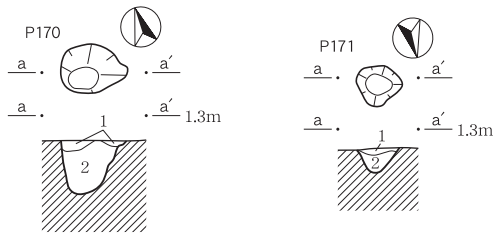
0 (1:40) 2m





P161
1. 黒褐色、粘質土、φ2cm程のⅢb層土をブロック状に微量含む、
φ0.1cm程の炭化物を微量含む、しまり強、粘性強。
2. 黒褐色、粘質土、φ5cm程のⅢb層土をブロック状に多量含む、
φ0.1cm程の炭化物を微量含む、しまりやや強、粘性やや強。

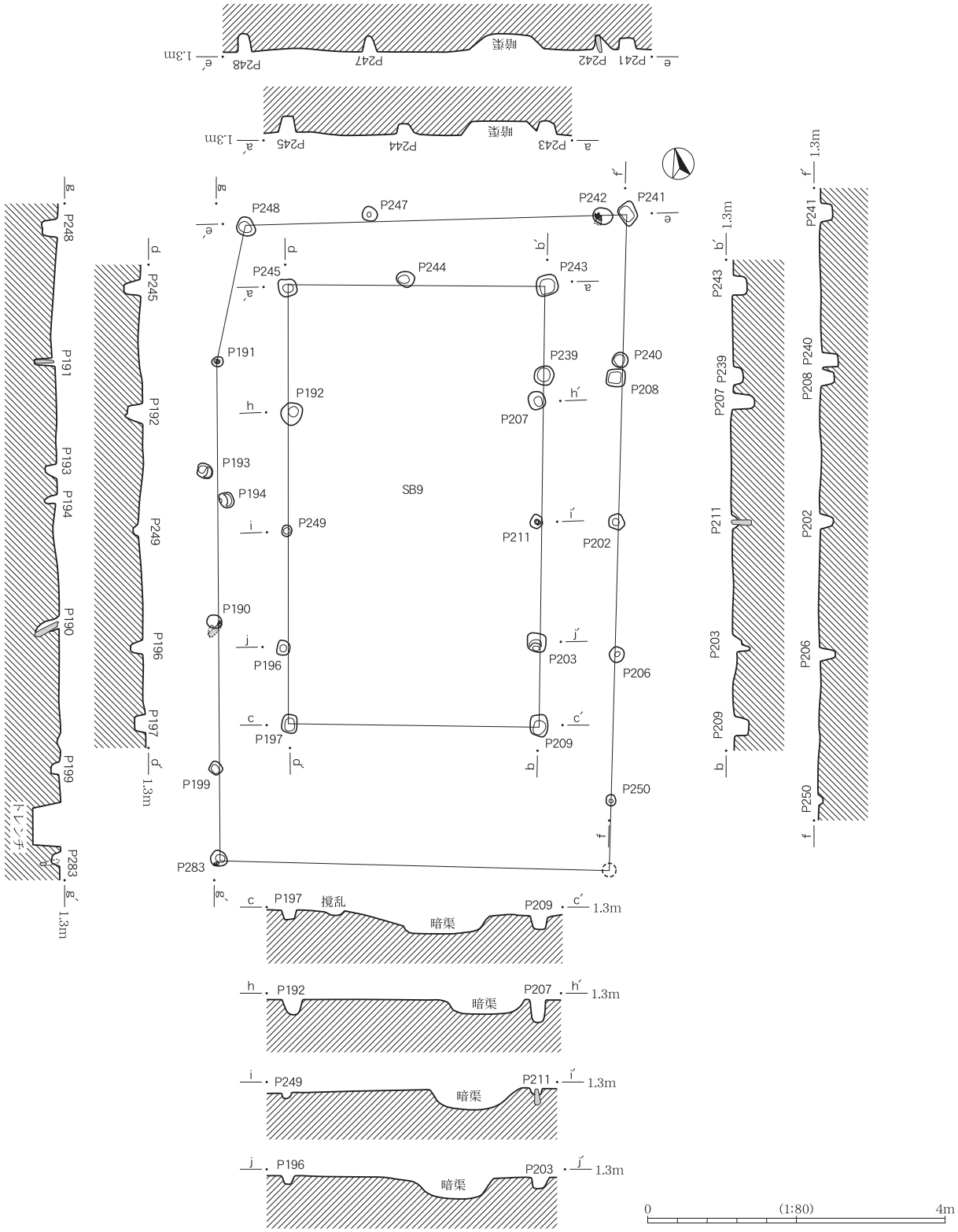
P169
1. 黒褐色、粘質土、灰色土を微量含む、しまりやや強、粘性やや弱。
2. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土を多量含む、しまり強、粘性弱。

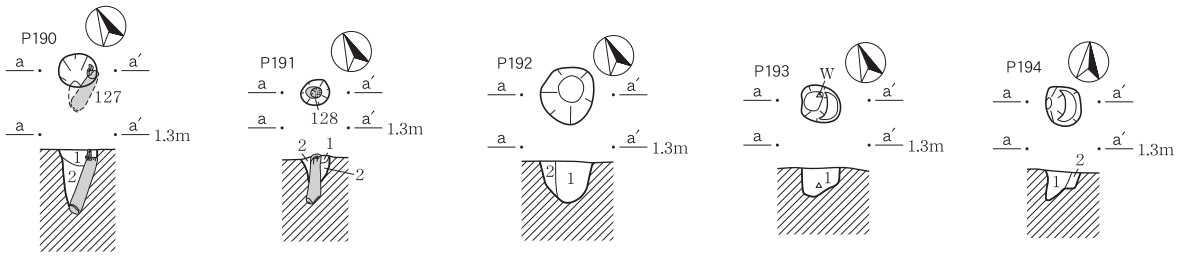


P170
1. 黒褐色、粘質土、φ2cm程のⅢb層土をブロック状に微量含む、
φ0.1cm程の炭化物を微量含む、しまりやや強、粘性やや強。
2. 褐灰色、粘質土、φ4cm程のⅢb層土をブロック状に多量含む、
φ0.1cm程の炭化物を微量含む、しまりやや強、粘性やや強。

P171
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土を微量含む、しまりやや強、粘性やや弱。
2. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土を多量含む、しまり中、粘性やや弱。

0 (1:40) 2m





P190
1. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土を多量含む、しまり強、粘性やや弱。
2. 褐灰色、シルト質土、Ⅲb層土を粒状に微量含む、炭化物を微量含む、しまり中、粘性弱。

P191
1. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土を含む、しまりやや弱、粘性やや強。
2. 灰色、シルト質土、褐灰色土を含む、しまり中、粘性中。

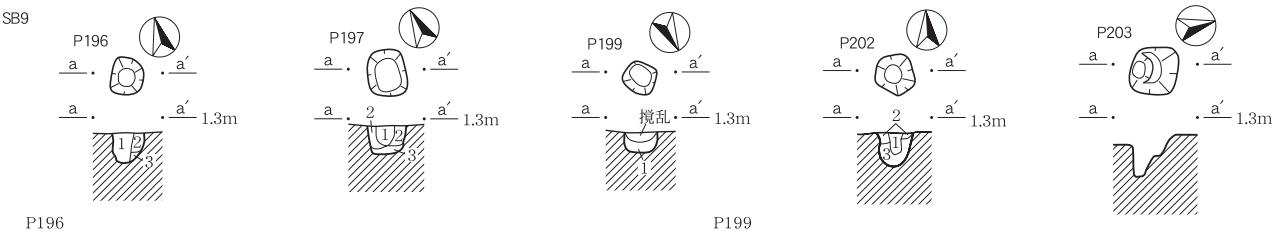
P192
1. 灰色、粘質土、黒灰色土とⅢb層土を含む、しまりやや強、粘性やや弱。
2. 灰オリーブ色、シルト質土、褐灰色土を含む、しまり強、粘性弱。

P193
1. 灰オリーブ色、粘質土、φ0.5～3cm程の黒褐色土をブロック状に含む、しまり中、粘性中。

P194
1. 灰オリーブ色、粘質土、黒褐色土を含む、しまり中、粘性中。
2. 灰オリーブ色、シルト質土、黒褐色土を微量含む、しまり中、粘性弱。

0　(1:40)　2m

SB9

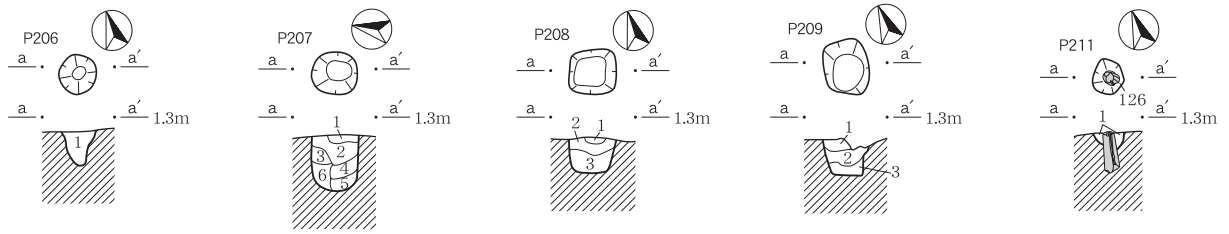


P196
1. 暗灰色、粘質土、Ⅲb層土を少量含む、しまりやや強、粘性やや弱。
2. 暗灰色、粘質土、Ⅲb層土を微量含む、しまり強、粘性やや弱。
3. 灰オリーブ色、シルト質土、しまり中、粘性弱。

P197
1. 暗灰色、粘質土、Ⅲb層土を含む、しまり中、粘性中。
2. 暗灰色、粘質土、Ⅲb層土を微量含む、しまりやや強、粘性中。
3. 灰オリーブ色、シルト質土、灰色土を少量含む、しまりやや強、粘性弱。

P199
1. 暗灰色、粘質土、Ⅲb層土を粒状に少量含む、しまり中、粘性中。

P202
1. 褐灰色、シルト質土、黒褐色土を含む、しまりやや弱、粘性弱。
2. 褐灰色、シルト質土、Ⅲb層土を微量含む、しまりやや強、粘性弱。
3. 灰オリーブ色、シルト質土、しまりやや強、粘性やや弱。



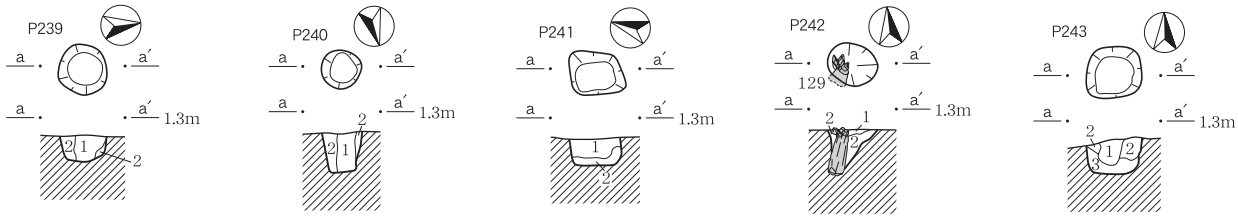
P206
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土を含む、しまり中、粘性中。

P207
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土を含む、しまり強、粘性やや弱。
2. 灰オリーブ色、シルト質土、褐灰色土と炭化物を微量含む、しまり強、粘性弱。
3. 灰オリーブ色、シルト質土、黒褐色土を微量含む、しまりやや強、粘性弱。
4. 灰色、シルト質土、Ⅲb層土と黒褐色土を含む、しまり中、粘性弱。
5. 灰オリーブ色、シルト質土、黒褐色土を微量含む、しまり中、粘性やや弱。
6. 灰オリーブ色、シルト質土、しまり強、粘性弱。

P208
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土を含む、しまり強、粘性やや弱。
2. 灰オリーブ色、シルト質土、黒褐色土を微量含む、しまり強、粘性弱。
3. 灰オリーブ色、シルト質土、黒色土を含む、しまりやや強、粘性やや弱。

P209
1. 浅黄色、シルト質土、黒色土を少量含む、しまり強、粘性弱。
2. オリーブ黒色、シルト質土、灰オリーブ色シルト質土を含む、しまり中、粘性弱。
3. 灰オリーブ色、シルト質土、しまり中、粘性やや弱。

P211
1. 褐灰色、シルト質土、黒色土とⅢb層土を含む、しまり強、粘性弱。



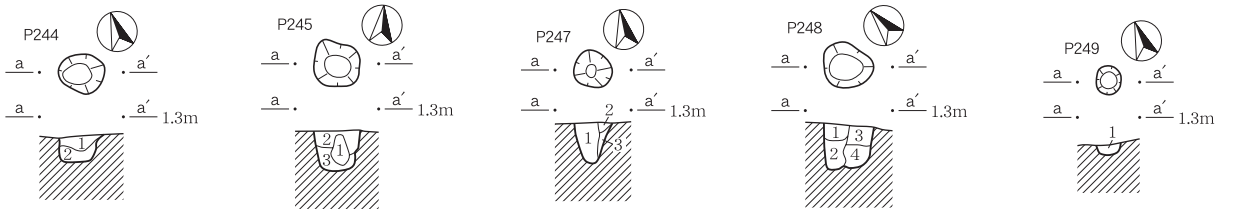
P239
1. 灰オリーブ色、シルト質土、黒褐色土を含む、しまり強、粘性弱。
2. 灰色、シルト質土、黒褐色土を微量含む、しまり強、粘性弱。

P240
1. 褐灰色、シルト質土、Ⅲb層土を微量含む、しまりやや強、粘性弱。
2. 黒褐色、粘質土、φ0.5～2cm程のⅢb層土をブロック状に含む、しまり強、粘性弱。

P241
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土を含む、しまり中、粘性中。
2. 灰オリーブ色、シルト質土、黒褐色土を微量含む、しまり中、粘性やや弱。

P242
1. 褐灰色、シルト質土、炭化物を微量含む、しまりやや強、粘性やや弱。
2. 灰オリーブ色、シルト質土、しまり中、粘性中。

P243
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土の粒を微量含む、しまり強、粘性弱。
2. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土を多量含む、しまり強、粘性弱。
3. 灰オリーブ色、シルト質土、黒褐色土を微量含む、しまり中、粘性弱。



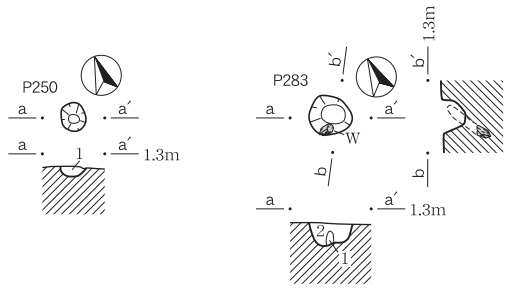
P244
1. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土を少量含む、しまりやや強、粘性やや弱。
2. 灰オリーブ色、シルト質土、褐灰色土を微量含む、しまりやや強、粘性やや弱。

P245
1. 灰色、シルト質土、黒褐色土を微量含む、しまりやや強、粘性弱。
2. 灰色、シルト質土、φ0.5～2cm程の黒褐色土をブロック状に含む、しまり強、粘性弱。
3. 灰色、シルト質土、黒褐色土粒を微量含む、しまり強、粘性弱。

P247
1. 灰色、シルト質土、黒褐色土を含む、しまり中、粘性やや弱。
2. 灰オリーブ色、シルト質土、褐灰色土を含む、しまり強、粘性弱。
3. 灰オリーブ色、シルト質土、しまり強、粘性弱。

P248
1. 灰色、シルト質土、黒褐色土を粒状に含む、しまり強、粘性やや弱。
2. 灰色、粘質土、Ⅲb層土を少量含む、しまり中、粘性中。
3. 灰オリーブ色、シルト質土、褐灰色土と灰白色シルト質土を少量含む、しまり強、粘性弱。
4. 灰オリーブ色、シルト質土、黒褐色土を粒状に微量含む、しまり強、粘性弱。

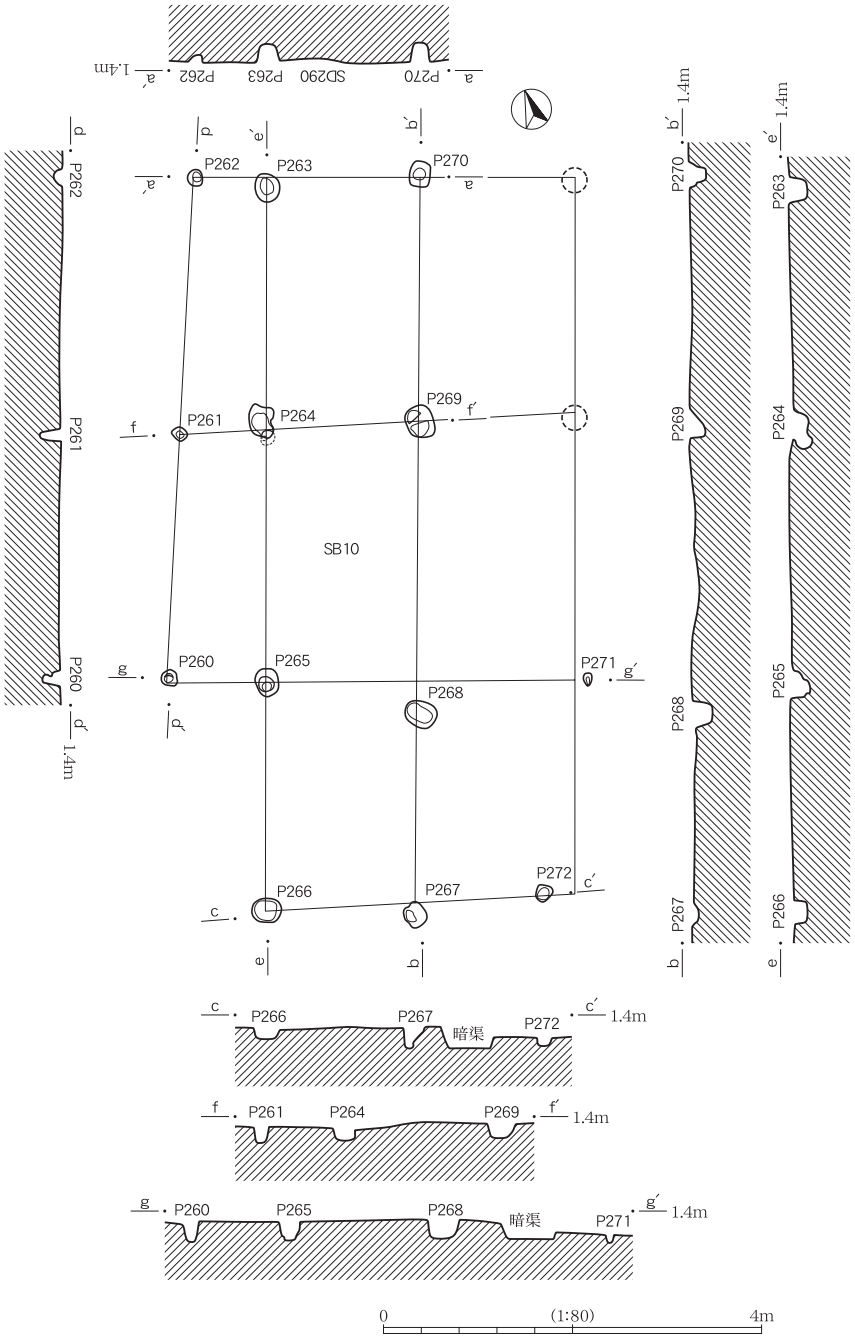
P249
1. 黒灰色、粘質土、Ⅲb層土を含む、しまりやや強、粘性やや弱。

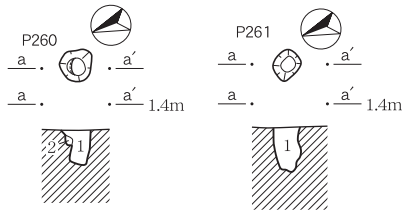


P250
1. 黒灰色、粘質土、Ⅲb層土を含む、しまりやや強、粘性やや弱。

P283
1. 黒褐色、粘質土、柱根腐植層、炭化物を少量含む、しまりやや弱、粘性中。
2. 灰オリーブ色、シルト質土、黒褐色土と炭化物を含む、しまり中、粘性やや弱。

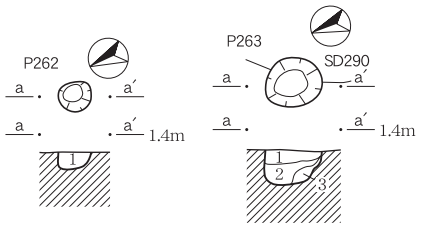
0　(1:40)　2m





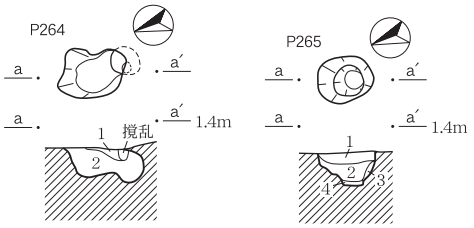
P260
1. 褐灰色、粘質土、灰白色シルト質土をブロック状に少量含む、しまり中、粘性中。
2. 褐灰色、粘質土、しまりやや弱、粘性中。

P261
1. 黒褐色、粘質土、しまり中、粘性やや強。



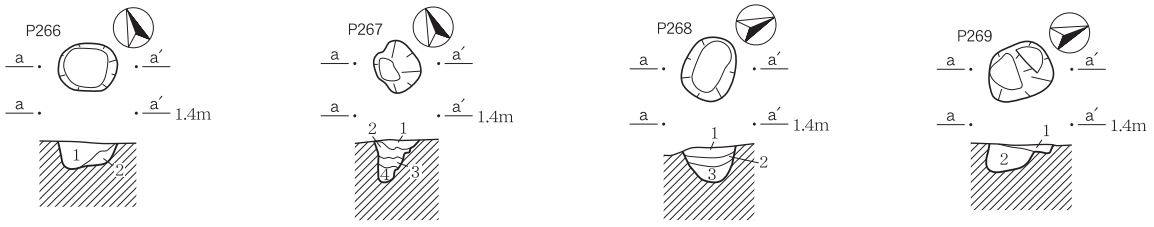
P262
1. 黒褐色、粘質土、下層に灰白色シルト質土をブロック状に多量含む、しまり中、粘性中。

P263
1. 褐灰色、粘質土、灰白色シルト質土をブロック状に微量含む、しまり中、粘性やや弱。
2. 黄灰色、粘質土、灰白色シルト質土をブロック状に多量含む、しまり中、粘性中。
3. 褐灰色、粘質土、しまり中、粘性中。



P264
1. 褐灰色、粘質土、しまり中、粘性中。
2. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、しまり中、粘性中。

P265
1. 褐灰色、粘質土、しまり中、粘性中。
2. 黒色、粘質土、しまり中、粘性やや強。
3. 褐灰色、粘質土、しまり中、粘性やや弱。
4. 黒褐色、粘質土、しまり中、粘性やや弱。

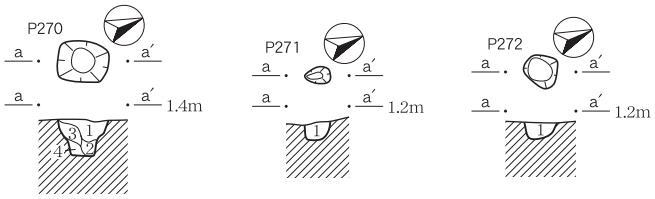


P266
1. 黄灰色、粘質土、灰白色シルト質土をブロック状に含む、しまり中、粘性中。
2. 黄灰色、粘質土、しまり中、粘性中。

P267
1. 褐灰色、粘質土、しまり中、粘性中。
2. 褐灰色、粘質土、しまり中、粘性中。
3. 褐灰色、粘質土、Ⅱb層土をブロック状に含む、しまり中、粘性中。
4. 褐灰色、粘質土、しまり中、粘性やや強。

P268
1. 黒褐色、粘質土、灰白色シルト質土をブロック状に少量含む、しまり中、粘性中。
2. 褐灰色、粘質土、灰白色シルト質土を多量含む、しまり中、粘性中。
3. 褐灰色、粘質土、しまり中、粘性中。

P269
1. 褐灰色、粘質土、しまり中、粘性中。
2. 褐灰色、粘質土、灰白色シルト質土をブロック状に多量含む、しまり中、粘性中。

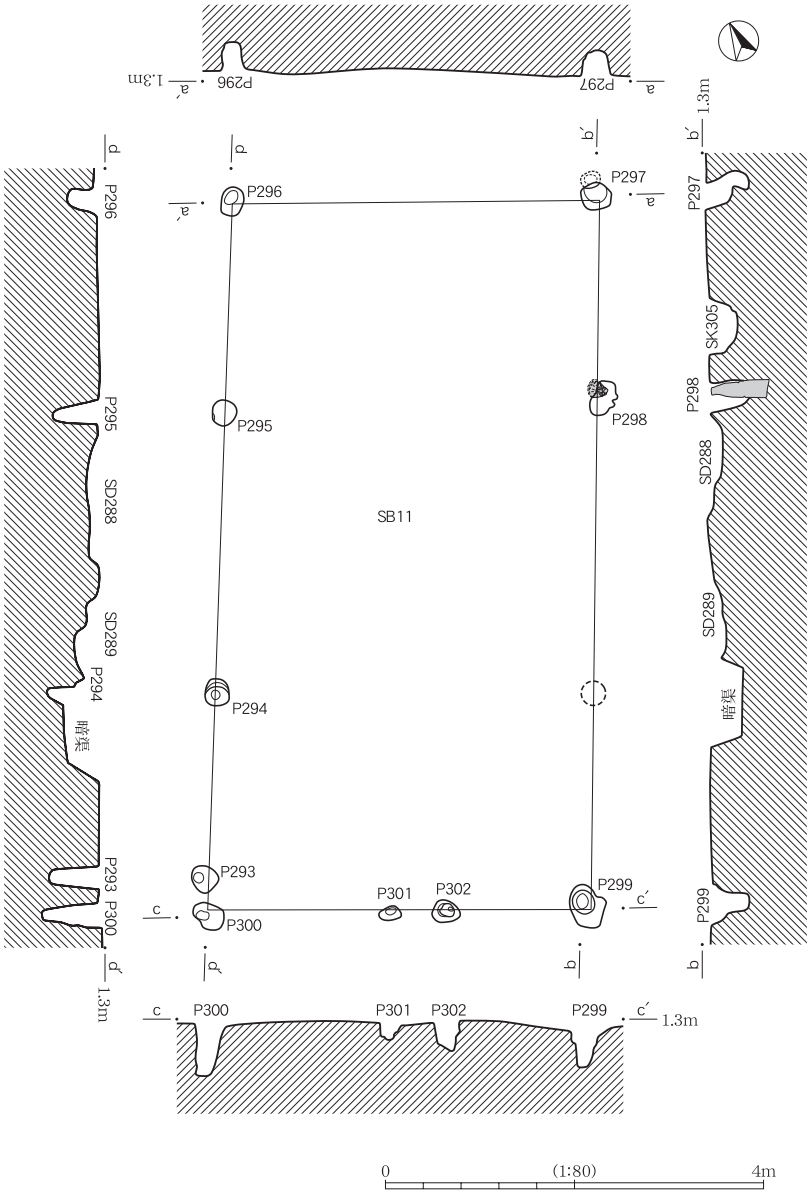


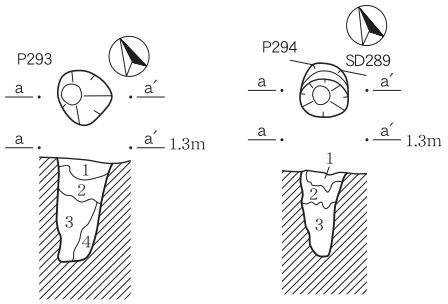
P270
1. 黒色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に少量含む、しまり中、粘性中。
2. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に少量含む、しまり中、粘性やや強。
3. 褐灰色、粘質土、しまり中、粘性やや弱。
4. 褐灰色、粘質土、しまり中、粘性やや弱。

P271
1. 褐灰色、粘質土、しまり中、粘性やや強。

P272
1. 黄灰色、粘質土、灰黄褐色シルト質土を少量含む、しまり中、粘性中。

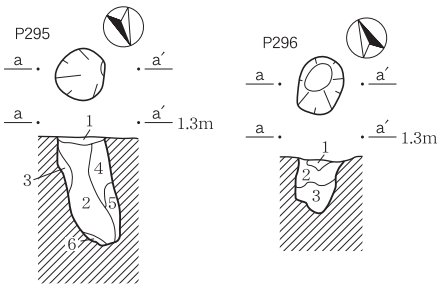
0　(1:40)　2m





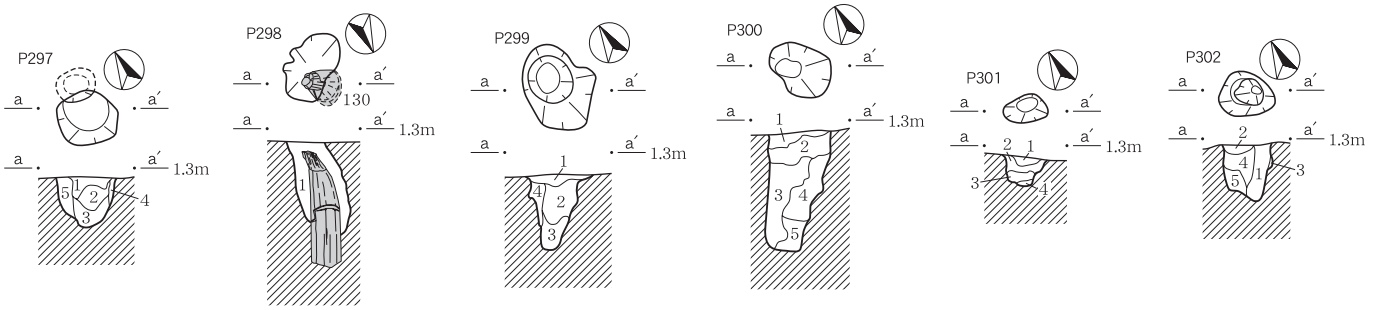
P293
1. 黒褐色、粘質土、しまり中、粘性中。
2. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、しまり中、粘性中。
3. 灰黄褐色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、しまり中、粘性やや強。
4. 褐灰色、粘質土、しまり中、粘性やや強。

P294
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、しまり中、粘性やや強。
2. 黒褐色、粘質土、しまり中、粘性やや強。
3. 黒褐色、粘質土、しまり中、粘性やや強。



P295
1. 黒褐色、粘質土、白色土とⅢb層土をブロック状に少量含む、しまり中、粘性中。
2. 黒褐色、粘質土、白色土とⅢb層土をブロック状に少量含む、しまり中、粘性中。
3. 褐灰色、粘質土、白色土とⅢb層土をブロック状に少量含む、しまり中、粘性中。
4. 褐灰色、粘質土、しまり中、粘性中。
5. 褐灰色、粘質土、しまり中、粘性中。
6. 褐灰色、粘質土、しまり中、粘性やや強。

P296
1. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、しまり中、粘性中。
2. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、しまり中、粘性中。
3. 黒色、粘質土、しまり中、粘性やや強。



P297
1. 黒褐色、粘質土、しまり中、粘性中。
2. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、しまり中、粘性中。
3. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、しまり中、粘性やや強。
4. 灰黄褐色、粘質土、しまり中、粘性やや弱。
5. 灰黄褐色、粘質土、しまり中、粘性中。

P298
1. 黒褐色、粘質土、白色土とⅢb層土をブロック状に多量含む、しまり中、粘性中。

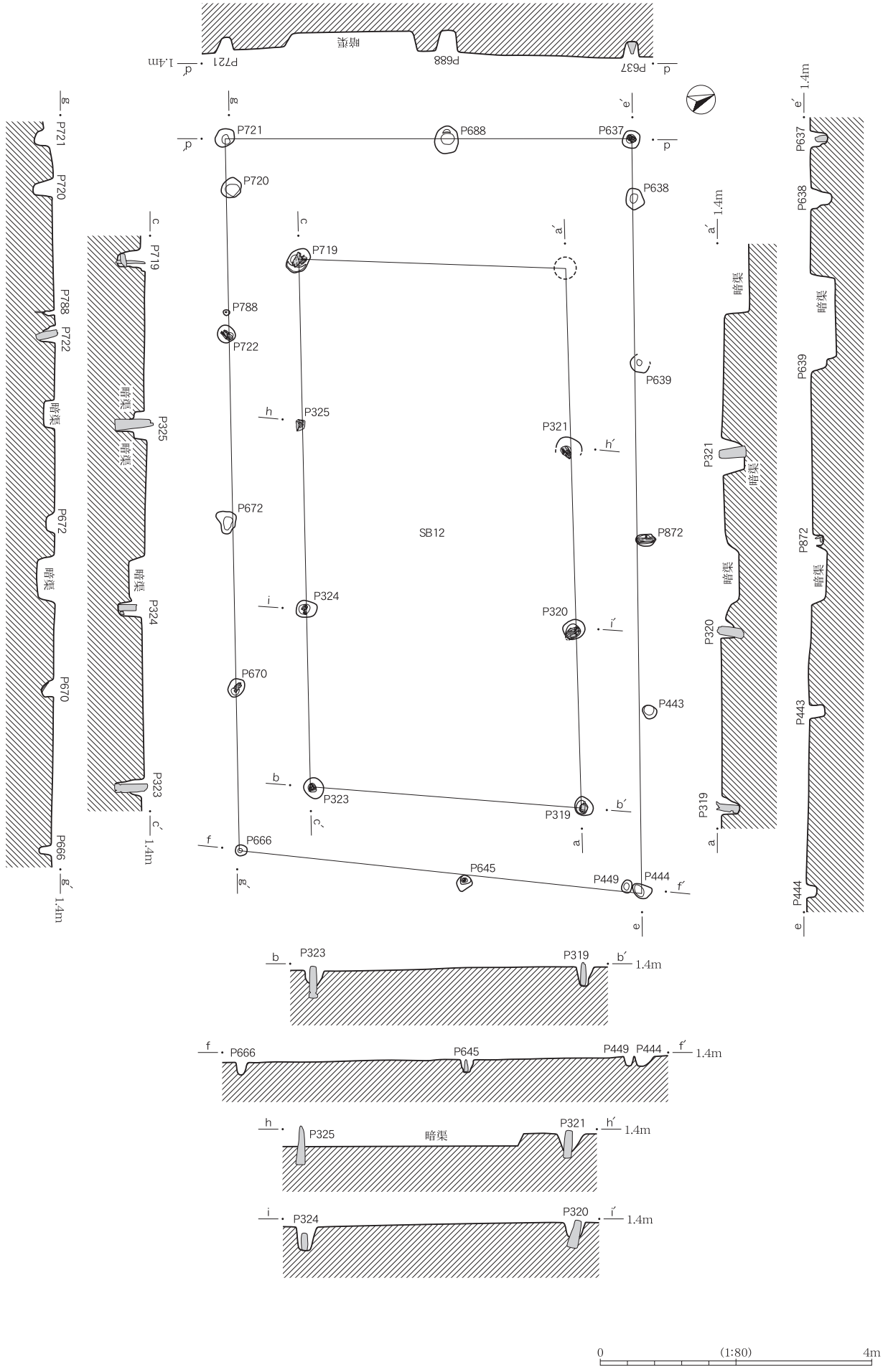
P299
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、しまり中、粘性中。
2. 灰黄褐色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、しまり中、粘性中。
3. 黒褐色、粘質土、しまり中、粘性中。
4. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、しまり中、粘性中。

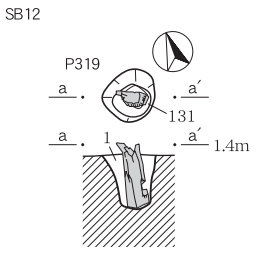
P300
1. 黒褐色、粘質土、しまり中、粘性中。
2. 褐灰色、粘質土、しまり中、粘性中。
3. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、しまり中、粘性中。
4. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、しまり中、粘性中。
5. 灰黄褐色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、しまり中、粘性やや強。

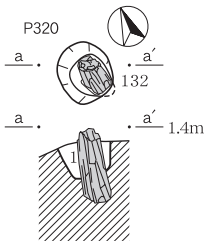
P301
1. 黒褐色、粘質土、しまり中、粘性中。
2. 灰黄褐色、粘質土、しまり中、粘性やや弱。
3. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、しまり中、粘性やや強。
4. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、しまり中、粘性中。

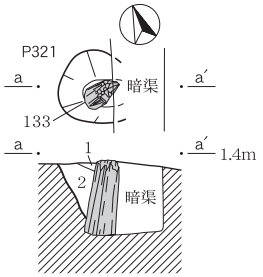
P302
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、しまり中、粘性中。
2. 黒褐色、粘質土、しまり中、粘性やや弱。
3. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、しまり中、粘性中。
4. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、しまり中、粘性中。
5. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、しまり中、粘性やや弱。

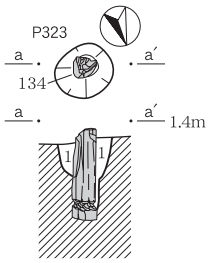
0　(1:40)　2m

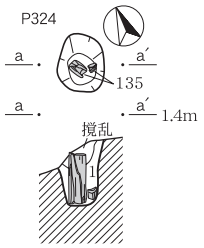

SB12
P637
P638
P639
P872
P443
P444
P449
P645
P666
P319
P320
P321
P323
P324
P325
P670
P672
P722
P788
P719
P720
P721
P688
暗渠
1.4m
0
(1:80)
4m











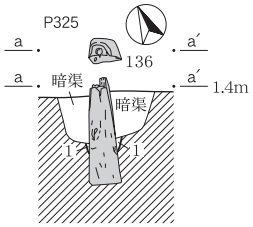
P319
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、しまり弱、粘性中。

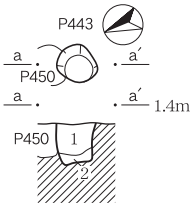
P320
1. 黒褐色、粘質土、しまり弱、粘性中。

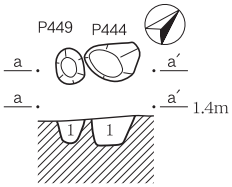
P321
1. 褐灰色、砂質シルト、しまり弱、粘性弱。
2. 黒褐色、粘質土、しまり弱、粘性中。

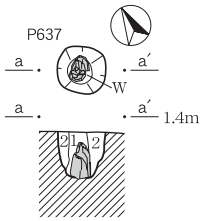
P323
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土を粒状に含む、しまり弱、粘性中。

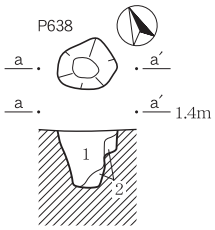
P324
1. 褐灰色、砂質シルト、しまり弱、粘性弱。











P325
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土を粒状に含む、しまり弱、粘性中。

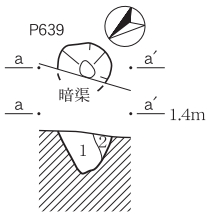
P443
1. 黒褐色、粘質土、φ0.2cm程の炭化物を含む、しまり中、粘性中。
2. 黄灰色、砂質シルト、しまり弱、粘性弱。

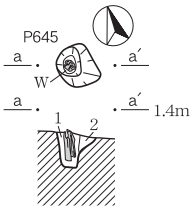
P444
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土を縞状に含む、しまり中、粘性中。

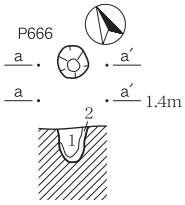
P449
1. 黄灰色、砂質シルト、しまり弱、粘性中。

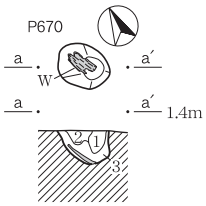
P637
1. 黒褐色、粘質土、炭化物を微量含む、しまり強、粘性やや弱。
2. 灰オリーブ色、シルト質土、黒褐色土を微量含む、しまり強、粘性弱。

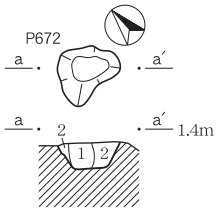
P638
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土を微量含む、しまり強、粘性弱。
2. 灰白色、シルト質土、黒褐色土を少量含む、しまり強、粘性弱。

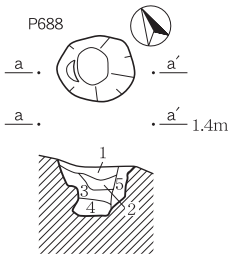












P639
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土を微量含む、しまり強、粘性弱。
2. 灰白色、シルト質土、褐灰色土を少量含む、しまり強、粘性弱。

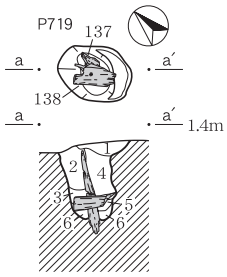
P645
1. 黒色、粘質土、しまり中、粘性中。
2. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、しまり中、粘性中。

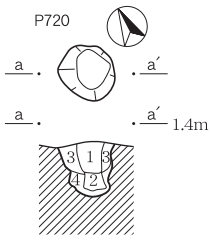
P666
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、しまり中、粘性中。
2. 褐灰色、粘質土、しまり中、粘性やや弱。

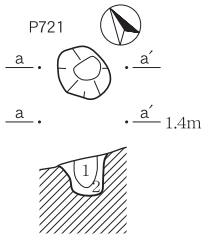
P670
1. 黒褐色、粘質土、φ0.5cm程の炭化物を少量含む、しまり中、粘性中。
2. 黒褐色、粘質土、φ0.5cm程の炭化物を少量含む、しまり中、粘性中。
3. 灰黄褐色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、しまり中、粘性中。

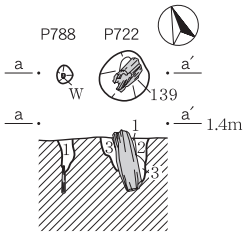
P672
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、φ0.2cm程の炭化物を微量含む、しまり中、粘性中。
2. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、しまり中、粘性やや強。

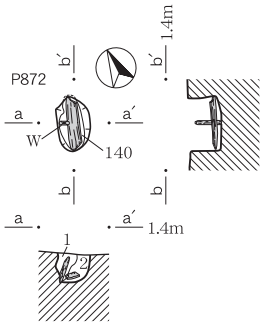
P688
1. 黒褐色、粘質土、砂を少量含む、しまり中、粘性中。
2. 褐灰色、粘質土、炭化物を微量含む、しまりやや弱、粘性やや強。
3. 灰色、シルト質土、φ1～3cm程の黒褐色土をブロック状に含む、しまり強、粘性弱。
4. 黒褐色、粘質土、炭化物を微量含む、しまり中、粘性やや弱。
5. 灰白色、シルト質土、黒褐色土を少量含む、しまり強、粘性弱。











P719
1. 褐灰色、粘質土、しまりやや強、粘性強。
2. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土を斑状に微量含む、しまりやや強、粘性強。
3. 灰黄褐色、シルト質土、黒褐色土を斑状に微量含む、しまり中、粘性やや弱。
4. 灰黄褐色、粘質土、Ⅲb層土を斑状に多量含む、しまりやや強、粘性強。
5. 黒色、粘質土、しまり強、粘性強。
6. 灰黄褐色、粘土質シルト、Ⅲc層土を多量含む、しまり中、粘性中。

P720
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、φ0.5cm程の炭化物を少量含む、しまり中、粘性中。
2. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、しまり中、粘性中。
3. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、φ0.5cm程の炭化物を微量含む、しまり中、粘性中。
4. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、しまり中、粘性やや弱。

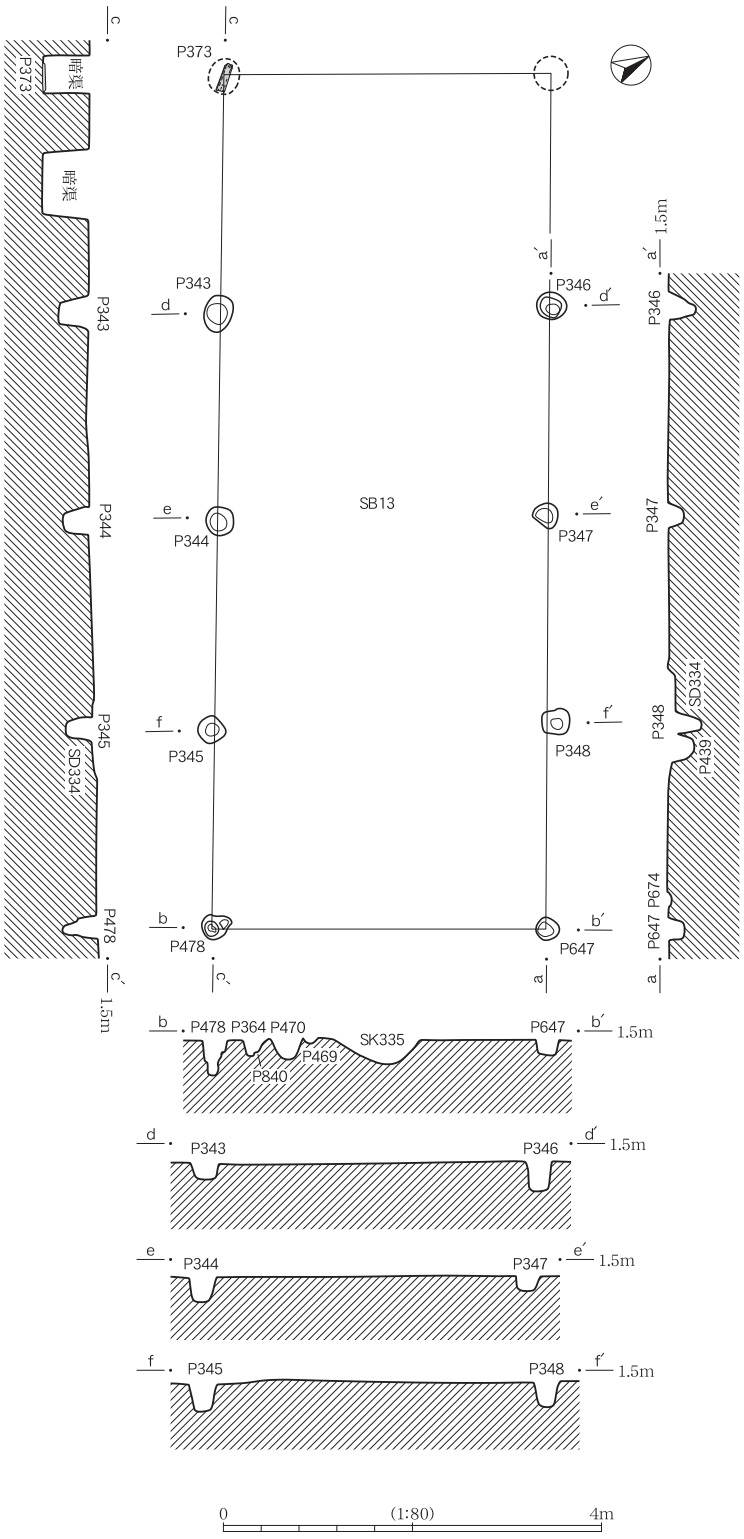
P721
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、しまり中、粘性中。
2. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、しまり中、粘性やや弱。

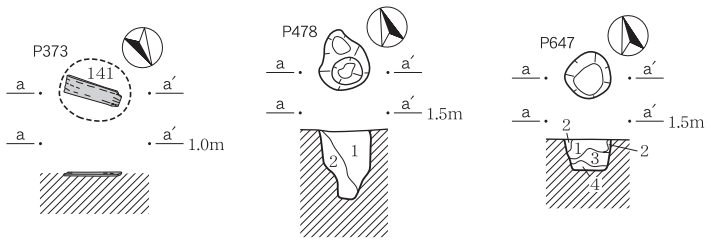
P722
1. 黒色、粘質土、しまり中、粘性中。
2. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、しまり中、粘性中。
3. 褐灰色、粘質土、しまり中、粘性やや弱。

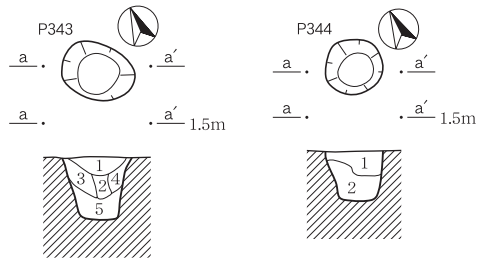
P788
1. 黒褐色、粘質土、φ0.5cm程の炭化物を微量含む、しまり中、粘性中。

P872
1. 黒褐色、粘質土、しまりやや強、粘性強。
2. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土を斑状に多量含む、炭化物を微量含む、しまりやや強、粘性やや強。

0　(1:40)　2m

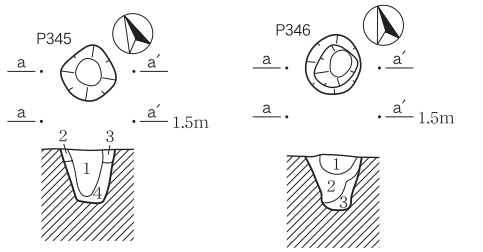






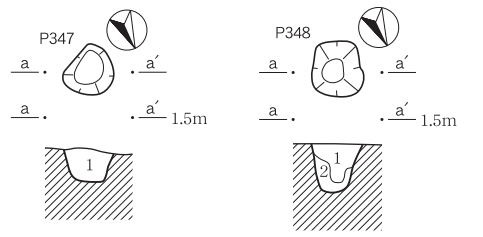
P343
1. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土を斑状に含む、しまり弱、粘性中。
2. 黒褐色、粘質土、しまり弱、粘性中。
3. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土を1層土より多量含む、しまり弱、粘性弱。
4. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土を1層土より多量含む、しまり弱、粘性弱。
5. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土が主体でⅡb層土を粒状に少量含む、しまり弱、粘性弱。

P344
1. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土を微量含む、しまり中、粘性中。
2. 褐灰色、砂質シルト、Ⅲb層土を微量含む、Ⅱb層土を粒状に含む、しまり弱、粘性弱。



P345
1. 黒褐色、粘質土、しまり中、粘性中。
2. 黒褐色、粘質土、しまり中、粘性強。
3. 黒褐色、粘質土、しまり中、粘性強。
4. 褐灰色、砂質シルト、しまり弱、粘性弱。

P346
1. 灰黄色、砂質シルト、Ⅲb層土をブロック状に含む、Ⅱb層土を少量含む、しまり弱、粘性弱。
2. 黒褐色、粘質土、Ⅱb層土を含む、しまり弱、粘性中。
3. 灰黄色、砂質シルト、φ0.5cm程の炭化物を含む、しまり弱、粘性弱。



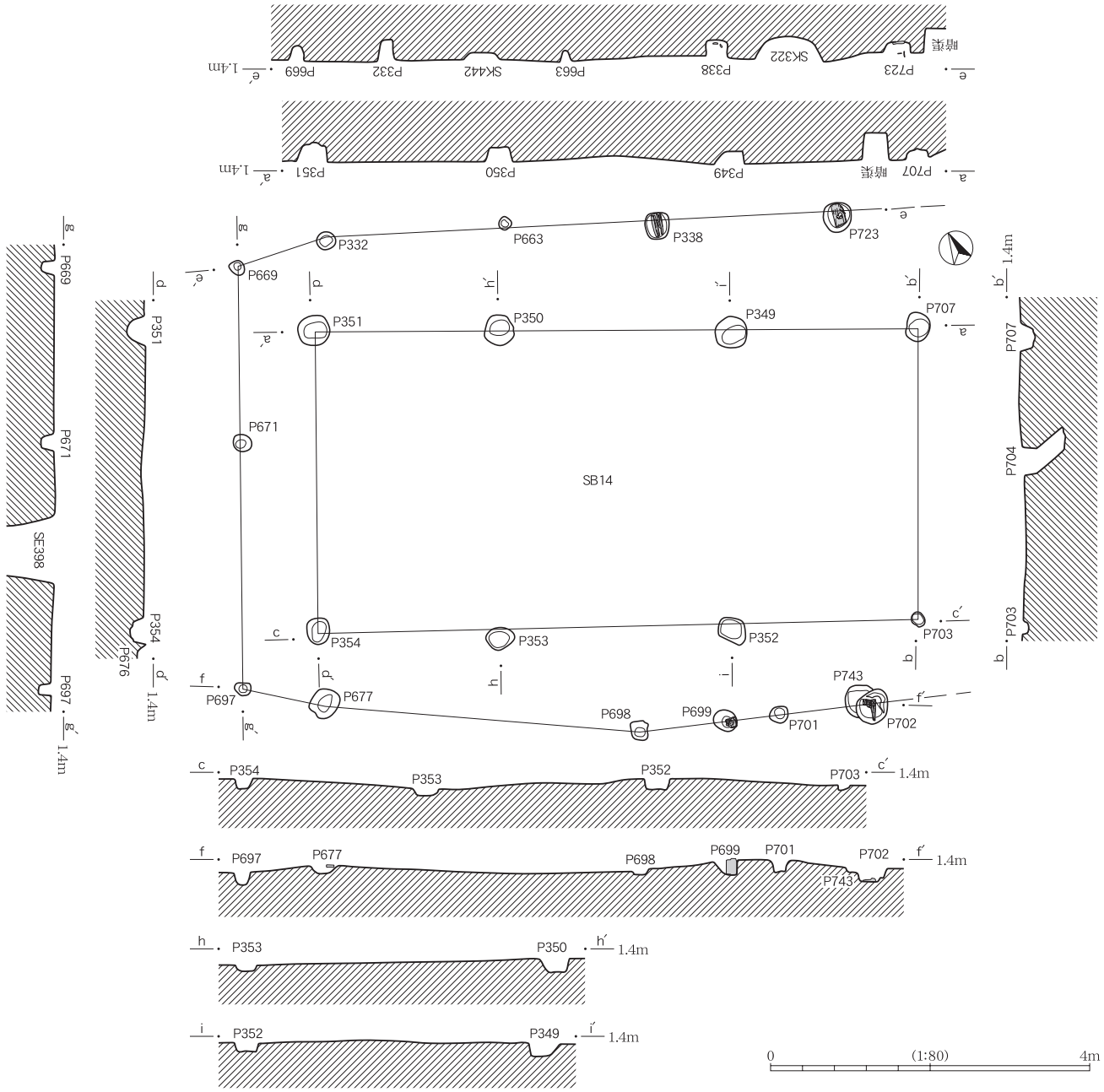
P347
1. 黄灰色、砂質シルト、Ⅱb層土を縞状に含む、しまり弱、粘性弱。

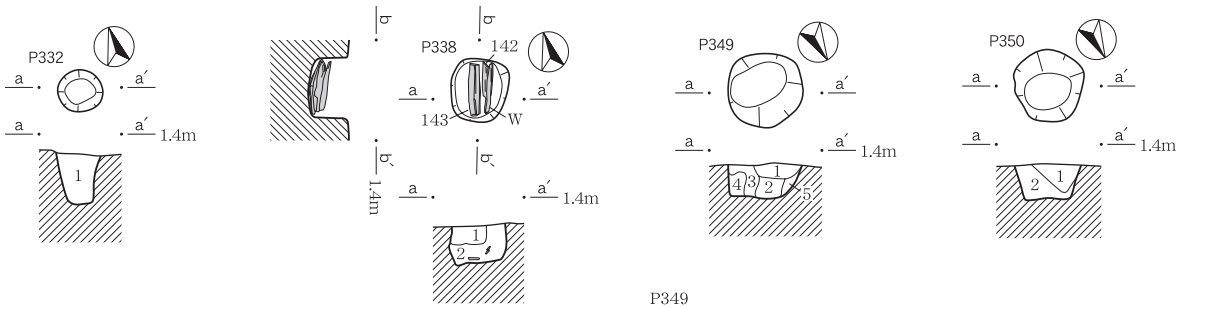
P348
1. 黒褐色、粘質土、しまり中、粘性弱。
2. 黄灰色、砂質シルト、1層土を粒状に含む、しまり弱、粘性弱。

P478
1. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、しまり中、粘性中。
2. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土を含む、炭化物をブロック状に少量含む、しまり中、粘性中。

P647
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、しまり中、粘性中。
2. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、しまり中、粘性中。
3. 灰黄褐色、粘質土、しまり中、粘性中。
4. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、しまり中、粘性中。

0　(1:40)　2m





P332
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土を斑状に含む、しまり中、粘性中。

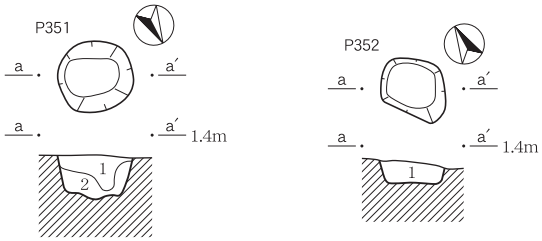
P338
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土を少量含む、しまり中、粘性やや弱。
2. 灰色、シルト質土、黒褐色土を微量含む、しまり強、粘性弱。

P349
1. 黄灰色、砂質シルト、Ⅲb層土を粒状に含む、しまり弱、粘性中。
2. 黒褐色、粘質土、しまり中、粘性中。
3. 黄灰色、砂質シルト、Ⅲb層土を粒状に含む、しまり弱、粘性弱。
4. 灰黄色、砂質シルト、シルト質土をブロック状に含む、しまり弱、粘性弱。
5. 灰黄色、砂質シルト、しまり弱、粘性弱。

P350
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土を粒状に含む、しまり弱、粘性中。
2. 灰黄色、砂質シルト、Ⅱb層土を微量含む、しまり弱、粘性弱。

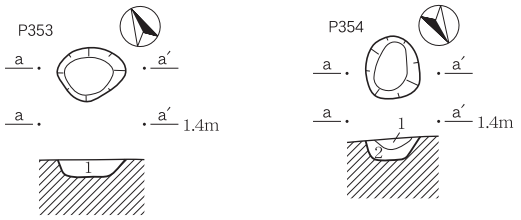
0　(1:40)　2m

SB14



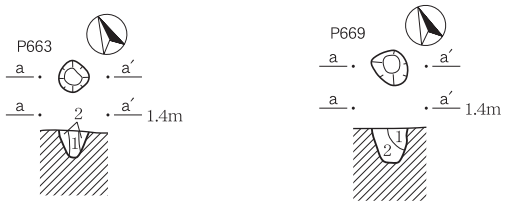
P351
1. 黒褐色、粘質土、Ⅱb層土、しまり弱、粘性中。
2. 灰黄色、砂質シルト、Ⅲb層土にⅡb層土を微量含む、しまり弱、粘性弱。

P352
1. 黒褐色、粘質土、しまり中、粘性中。



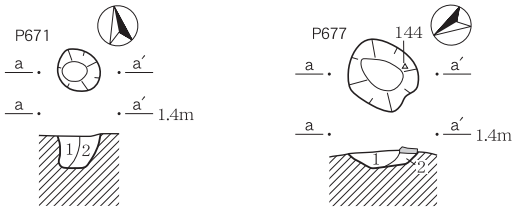
P353
1. 黒褐色、粘質土、しまり弱、粘性中。

P354
1. 黒褐色、粘質土、しまり弱、粘性中。
2. 灰黄色、砂質シルト、Ⅲb層土を縞状に含む、しまり弱、粘性弱。



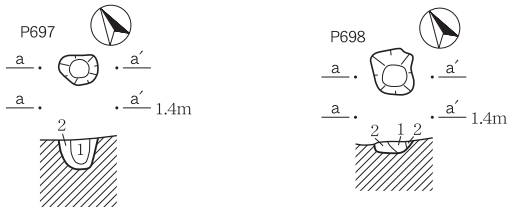
P663
1. 黒褐色、粘質土、しまり中、粘性中。
2. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、しまり中、粘性中。

P669
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、しまり中、粘性中。
2. 褐灰色、粘質土、Ⅱb層土をブロック状に含む、しまり中、粘性中。



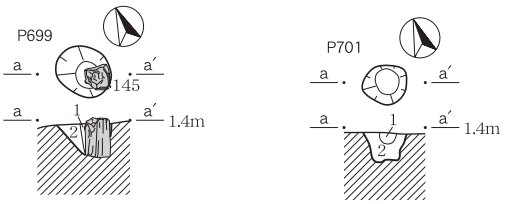
P671
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、しまり中、粘性中。
2. 褐灰色、粘質土、Ⅱb層土をブロック状に含む、しまり中、粘性やや弱。

P677
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、しまり中、粘性中。
2. 灰黄褐色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、しまり中、粘性やや弱。



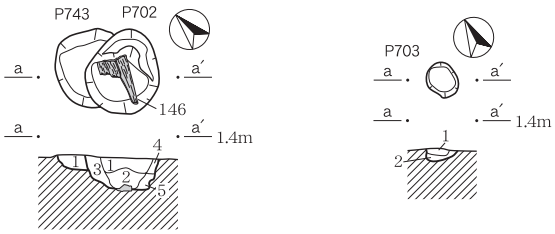
P697
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に多量含む、しまり強、粘性やや強。
2. 灰黄褐色、シルト質土、Ⅲb層土を斑状に少量含む、しまり中、粘性中。

P698
1. 褐灰色、シルト質土、Ⅲb層土をブロック状に少量含む、しまり中、粘性やや弱。
2. 灰黄褐色、シルト質土、黒褐色土をブロック状に少量含む、しまり中、粘性やや弱。



P699
1. 黒褐色、粘質土、しまり中、粘性中。
2. 褐灰色、粘質土、Ⅱb層土をブロック状に含む、しまり中、粘性やや弱。

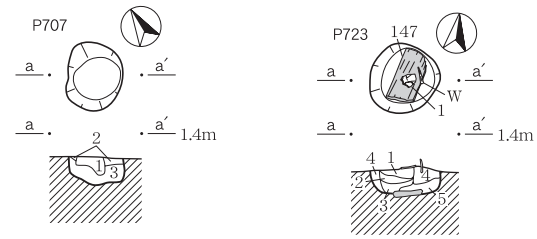
P701
1. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、しまり中、粘性中。
2. 褐灰色、粘質土、しまり中、粘性中。



P702
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、φ0.5cm程の炭化物を少量含む、しまり中、粘性中。
2. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、φ0.2cm程の炭化物を微量含む、しまり中、粘性中。
3. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、φ0.2cm程の炭化物を微量含む、しまり中、粘性中。
4. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、しまり中、粘性中。
5. 褐灰色、粘質土、しまり中、粘性やや弱。

P743
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、しまり中、粘性中。

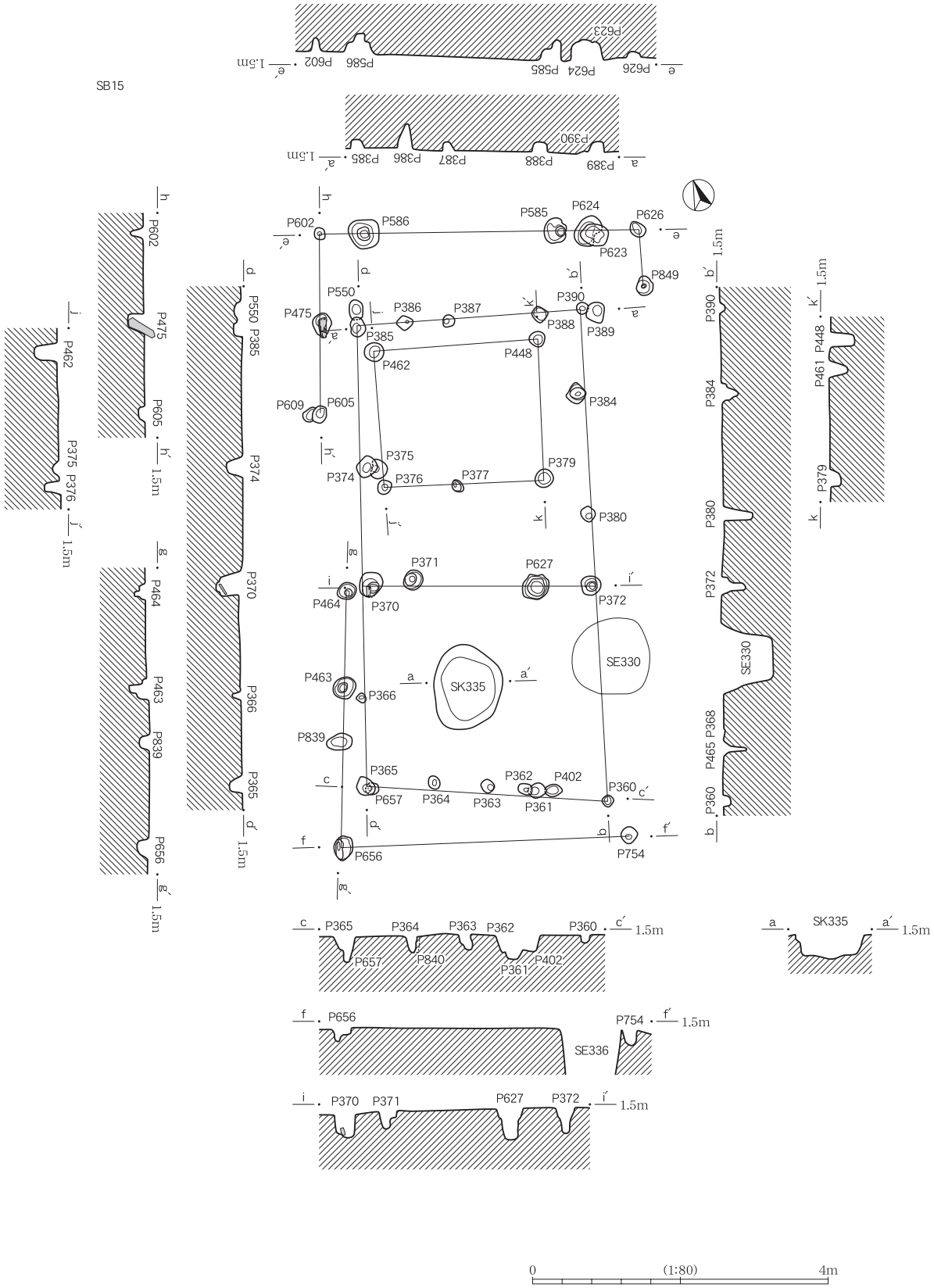
P703
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、φ0.3cm程の炭化物を少量含む、しまり中、粘性中。
2. 褐灰色、粘質土、しまり中、粘性やや弱。



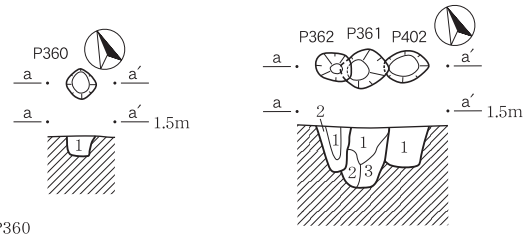
P707
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、φ0.5cm程の炭化物を少量含む、しまり中、粘性中。
2. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、しまり中、粘性中。
3. 褐灰色、粘質土、しまり中、粘性やや弱。

P723
1. 黒褐色、粘質土、しまり中、粘性中。
2. 褐灰色、粘質土、しまり中、粘性やや弱。
3. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、しまり中、粘性やや弱。
4. 褐灰色、粘質土、しまり中、粘性やや弱。
5. 褐灰色、粘質土、しまり中、粘性やや弱。

0　(1:40)　2m


SB15
SK335
SE330
SE336
P754
P656
P657
P840
P361
P402
P365
P364
P363
P362
P360
P371
P627
P372
P370
P464
P366
P463
P839
P374
P376
P377
P379
P380
P375
P609
P605
P602
P586
P585
P624
P626
P623
P849
P550
P475
P386
P387
P390
P388
P389
P385
P462
P448
P384
P461
P465
P368
P462
P475
P605
P550
P385
P374
P370
P366
P365
P464
P463
P839
P656
P390
P384
P380
P372
P368
P360
P448
P379
P389
P389
P390
P387
P386
P385
P624
P585
P586
P602
P626
P623
P849
P624
P585
P586
P602
P626
P623

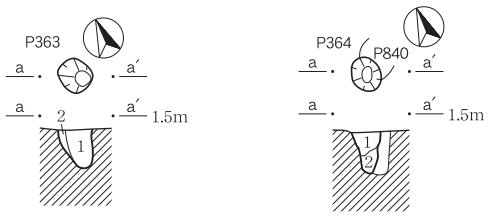
SB15



P360
1. 黒褐色、粘質土、しまり中、粘性中。

P361
1. 黒褐色、粘質土、φ0.5～1cm程の炭化物を多量含む、しまり弱、粘性中。
2. 黄灰色、砂質シルト、Ⅱb層土を含む、しまり弱、粘性弱。
3. 黄灰色、砂質シルト、Ⅲb層土を粒状に含む、しまり弱、粘性中。

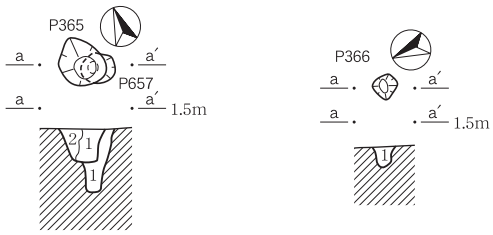
P362
1. 黒褐色、粘質土、しまり中、粘性中。
2. 黄灰色、砂質シルト、Ⅱb層土を含む、しまり弱、粘性弱。



P402
1. 黄灰色、砂質シルト、Ⅲb層土を粒状に含む、しまり弱、粘性弱。

P363
1. 黒褐色、粘質土、しまり中、粘性中。
2. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土を含む、しまり弱、粘性中。

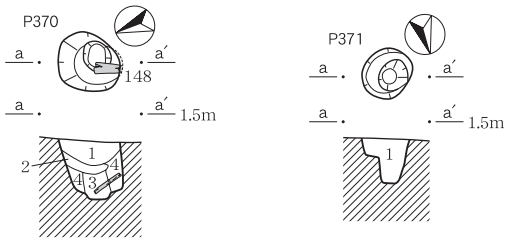
P364
1. 黒褐色、粘質土、しまり弱、粘性中。
2. 黄灰色、砂質シルト、炭化物を含む、しまり弱、粘性弱。



P365
1. 黒褐色、粘質土、φ0.5cm程の炭化物を含む、しまり中、粘性中。
2. 黄灰色、砂質シルト、1層土を含む、しまり弱、粘性弱。

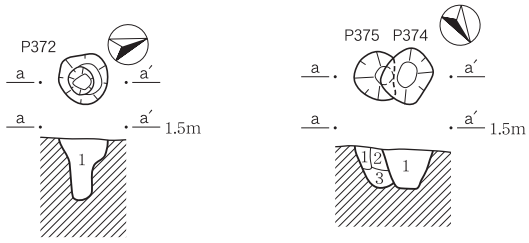
P657
1. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、しまり中、粘性中。

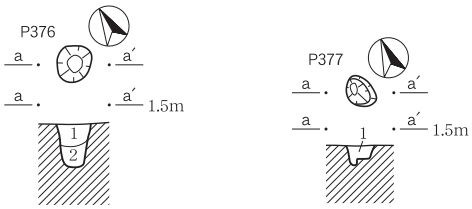
P366
1. 黒褐色、粘質土、しまり中、粘性中。



P370
1. 灰白色、砂質シルト、しまり弱、粘性弱。
2. 黒褐色、粘質土、しまり弱、粘性中。
3. 黒褐色、粘質土、しまり弱、粘性中。
4. 黄灰色、砂質シルト、Ⅱb層土を含む、しまり弱、粘性中。

P371
1. 黒褐色、粘質土、しまり中、粘性中。





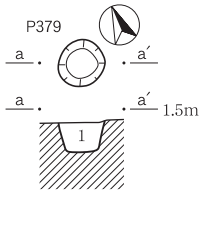
P372
1. 黒褐色、粘質土、しまり中、粘性中。

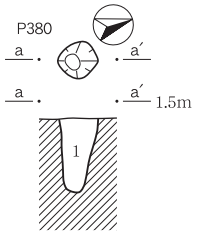
P374
1. 黒褐色、粘質土、しまり中、粘性中。

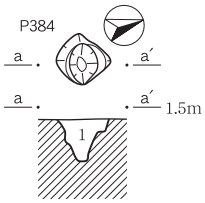
P375
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土を含む、しまり中、粘性中。
2. 黒褐色、粘質土、φ0.5cm程の炭化物を含む、しまり中、粘性中。
3. 黒褐色、粘質土、φ4～5cm程のⅢb層土をブロック状に含む、φ0.5cm程の炭化物を含む、しまり弱、粘性弱。

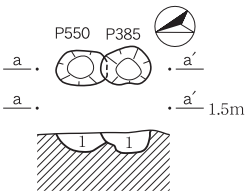
P376
1. 黒褐色、粘質土、しまり中、粘性中。
2. 黄灰色、砂質シルト、しまり弱、粘性弱。

P377
1. 黒褐色、粘質土、しまり中、粘性中。









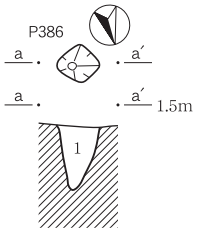
P379
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土を粒状に含む、しまり中、粘性中。

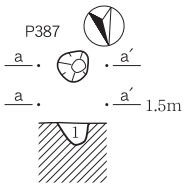
P380
1. 黒褐色、粘質土、φ0.5cm程の炭化物を含む、しまり中、粘性中。

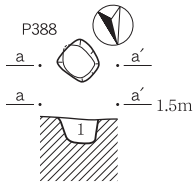
P384
1. 黒褐色、粘質土、φ0.5cm程の炭化物を少量含む、しまり中、粘性中。

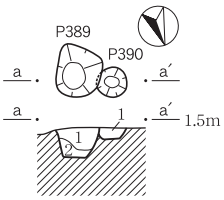
P385
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、しまり中、粘性中。

P550
1. 灰黄褐色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、しまり中、粘性中。









P386
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土を粒状に含む、しまり中、粘性中。

P387
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土とφ0.5cm程の炭化物を含む、しまり中、粘性中。

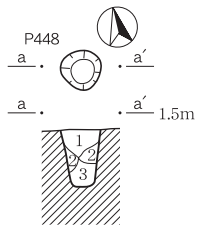
P388
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土を少量含む、しまり中、粘性中。

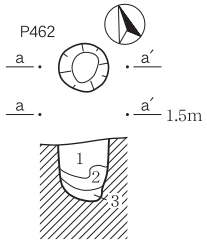
P389
1. 黒褐色、粘質土、炭化物を多量含む、しまり中、粘性中。
2. 黄灰色、粘質土、φ0.5cm程の炭化物を含む、しまり中、粘性中。

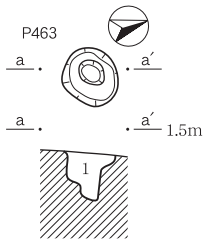
P390
1. 黒褐色、粘質土、炭化物を多量含む、しまり中、粘性中。

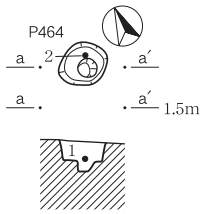
0　(1:40)　2m

SB15







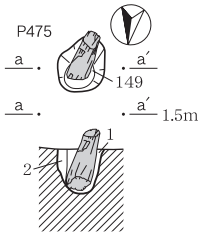


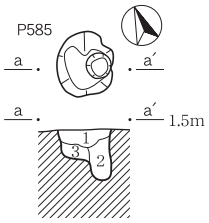
P448
1. 黒褐色、粘質土、しまり中、粘性中。
2. 黄灰色、粘質土、φ0.5cm程の炭化物を少量含む、しまり弱、粘性弱。
3. 黄灰色、砂質シルト、しまり弱、粘性弱。

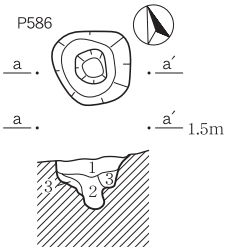
P462
1. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、しまり中、粘性中。
2. 黒褐色、粘質土、しまり中、粘性中。
3. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、しまり中、粘性中。

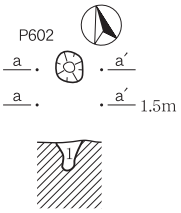
P463
1. 灰色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、しまり中、粘性中。

P464
1. 黒褐色、粘質土、φ0.5cm程の炭化物を少量含む、しまり中、粘性中。







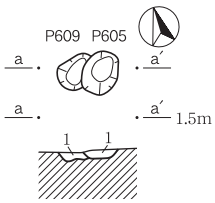


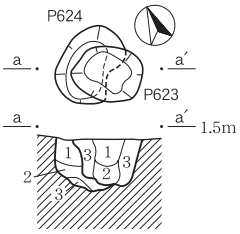
P475
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、しまり中、粘性中。
2. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、しまり中、粘性中。

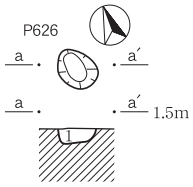
P585
1. 黒褐色、粘質土、φ0.2cm程の炭化物を少量含む、しまり中、粘性中。
2. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、しまり中、粘性中。
3. 黄灰褐色、粘質土、しまり中、粘性中。

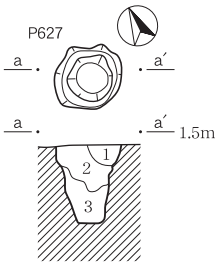
P586
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、しまり中、粘性中。
2. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、しまり中、粘性中。
3. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、しまり中、粘性中。

P602
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、しまり中、粘性中。









P605
1. 黒褐色、粘質土、しまり中、粘性中。

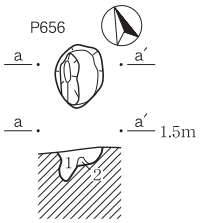
P609
1. 灰黄褐色、粘質土、しまり中、粘性中。

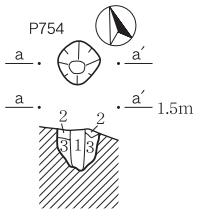
P623
1. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、φ0.2cm程の炭化物を微量含む、しまり中、粘性中。
2. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、しまり中、粘性中。
3. 灰黄褐色、粘質土、しまり中、粘性中。

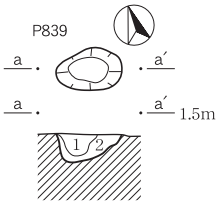
P624
1. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、しまり中、粘性中。
2. 灰黄褐色、粘質土、しまり中、粘性中。
3. 黒褐色、粘質土、しまり中、粘性中。

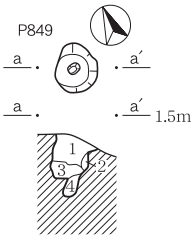
P626
1. 黒褐色、粘質土、しまり中、粘性中。

P627
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、φ0.5cm程の炭化物を少量含む、しまり中、粘性中。
2. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、φ0.5cm程の炭化物を微量含む、しまり中、粘性中。
3. 灰黄褐色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、しまり中、粘性中。









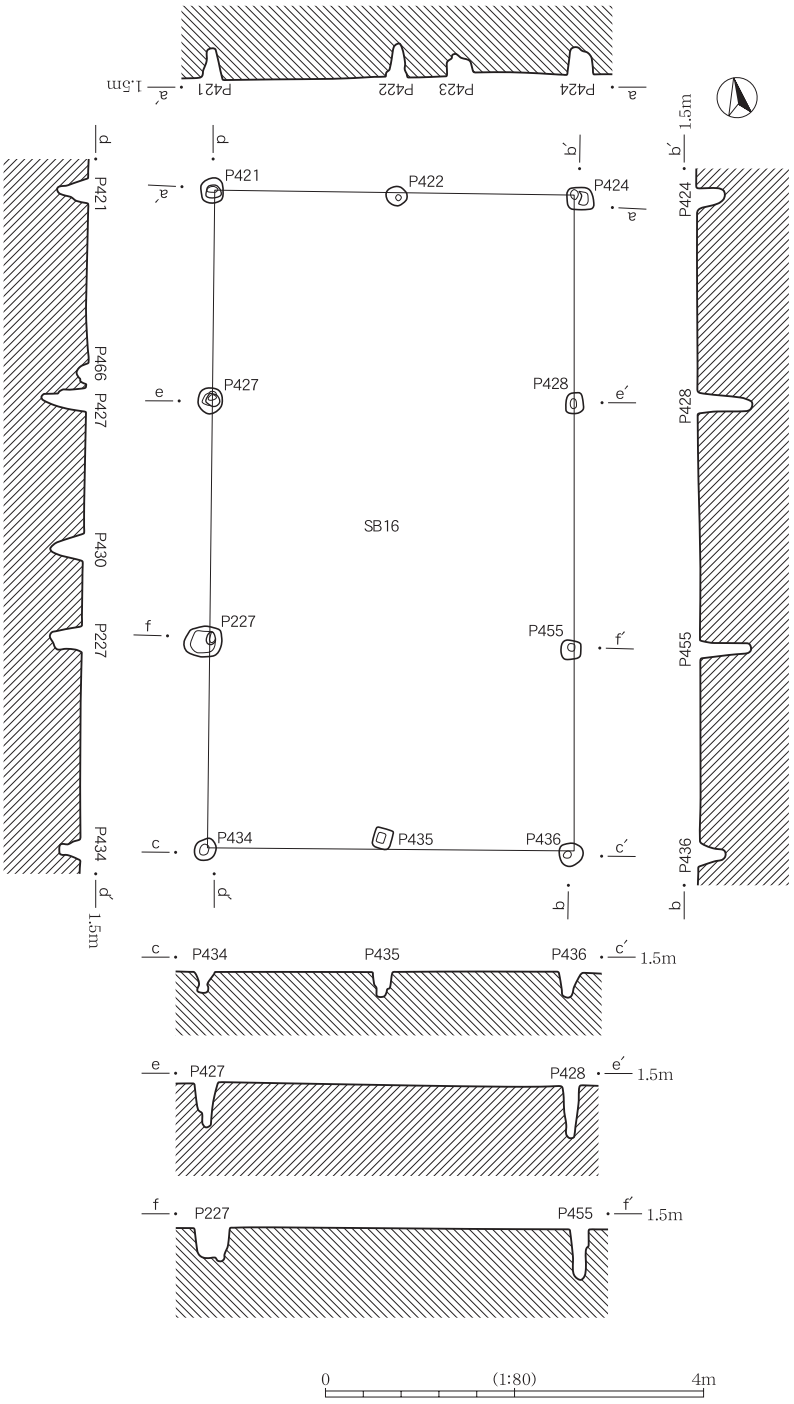
P656
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、しまり中、粘性中。
2. 褐灰色、粘質土、しまり中、粘性中。

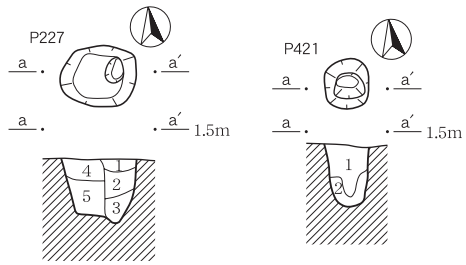
P754
1. 黒褐色、粘質土、φ0.2cm程の炭化物を少量含む、しまり中、粘性中。
2. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、しまり中、粘性中。
3. 褐灰色、粘質土、しまり中、粘性中。

P839
1. 褐灰色、粘質土、しまり中、粘性中。
2. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、しまり中、粘性中。

P849
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、しまり中、粘性中。
2. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、しまり中、粘性中。
3. 灰黄褐色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、しまり中、粘性中。
4. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、しまり中、粘性中。

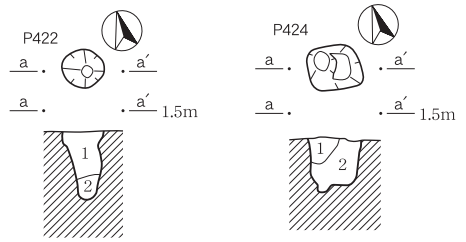
0　(1:40)　2m





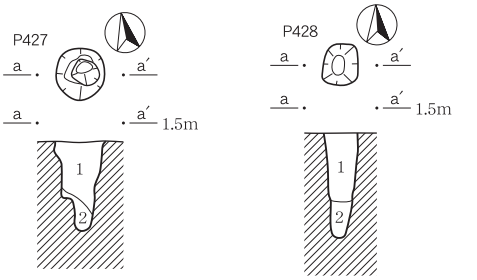
P227
1. 褐灰色、粘質土、φ1～2cm程のⅢb層土をブロック状に多量含む、しまり強、粘性弱。
2. 褐灰色、粘質土、黒褐色土とⅢb層土を少量含む、しまり中、粘性弱。
3. 灰色、粘質土、Ⅲb層土を少量含む、しまり弱、粘性やや強。
4. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土を多量含む、しまり強、粘性弱。
5. 灰色、シルト質土、黒褐色土とⅢb層土を少量含む、しまりやや強、粘性弱。

P421
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土を少量含む、しまり中、粘性やや弱。
2. 灰オリーブ色、シルト質土、しまり中、粘性弱。



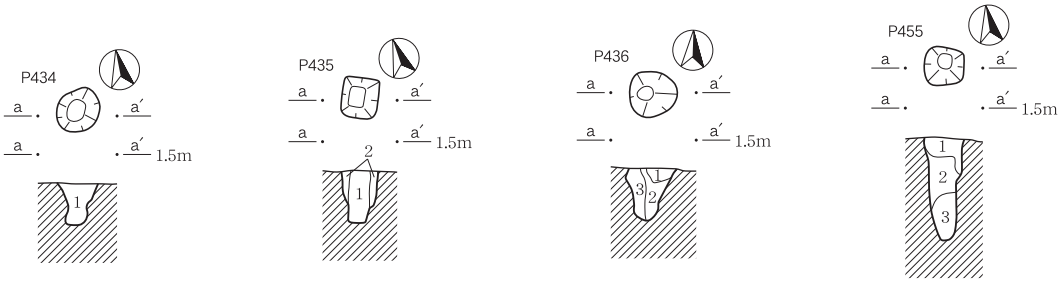
P422
1. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土を含む、しまりやや弱、粘性中。
2. 灰オリーブ色、シルト質土、褐灰色土を少量含む、しまり中、粘性弱。

P424
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土を含む、しまりやや強、粘性中。
2. 灰オリーブ色、シルト質土、褐灰色土と黒色土を少量含む、しまりやや強、粘性弱。



P427
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土を微量含む、しまり中、粘性やや弱。
2. 灰色、粘質土、Ⅲb層土を含む、しまり弱、粘性やや強。

P428
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土を含む、しまり弱、粘性中。
2. 灰オリーブ色、粘質土、Ⅳ層土を少量含む、しまり弱、粘性中。



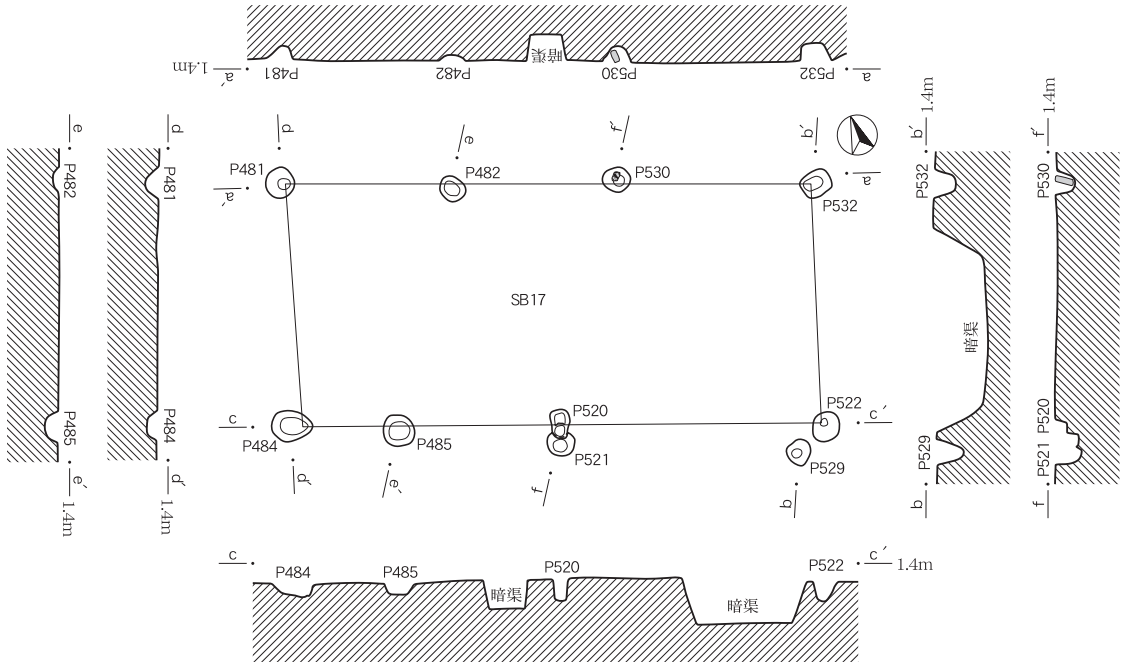
P434
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土を微量含む、しまりやや弱、粘性中。

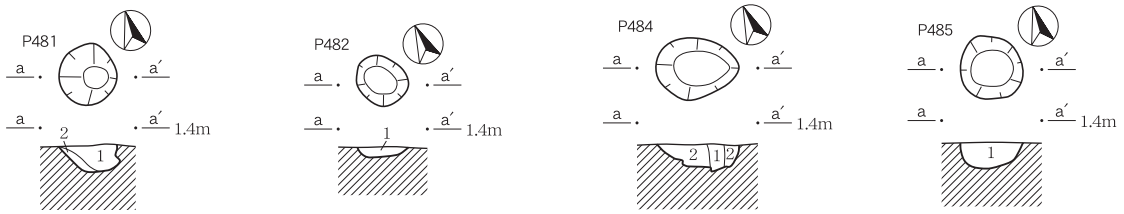
P435
1. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土を少量含む、しまりやや弱、粘性中。
2. 灰色、シルト質土、褐灰色土を微量含む、しまり強、粘性弱。

P436
1. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土を微量含む、しまり中、粘性やや弱。
2. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土を含む、しまりやや弱、粘性中。
3. 灰オリーブ色、シルト質土、褐灰色土を微量含む、しまりやや強、粘性弱。

P455
1. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土を少量含む、しまり中、粘性やや弱。
2. 灰オリーブ色、シルト質土、褐灰色土を含む、しまり中、粘性弱。
3. 褐灰色、粘質土、Ⅲc層土を含む、しまり弱、粘性やや強。

0　(1:40)　2m



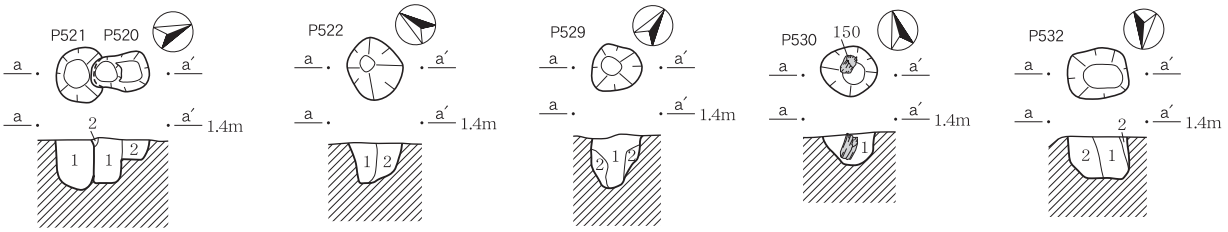


P481
1. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土を少量含む、炭化物を微量含む、しまりやや強、粘性やや弱。
2. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土を多量含む、しまりやや弱、粘性やや弱。

P482
1. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土を多量含む、しまりやや強、粘性やや弱。

P484
1. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土と炭化物を微量含む、しまり中、粘性中。
2. 褐灰色、粘質土、φ1～5cm程のⅢb層土をブロック状に多量含む、しまりやや強、粘性やや弱。

P485
1. 褐灰色、粘質土、φ0.5～2cm程のⅢb層土をブロック状に含む、炭化物を少量含む、しまり中、粘性中。



P520
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土と炭化物を少量含む、しまり弱、粘性中。
2. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土と炭化物を微量含む、しまりやや強、粘性中。

P521
1. 浅黄色、シルト質土、黒褐色土を少量含む、しまり強、粘性弱。

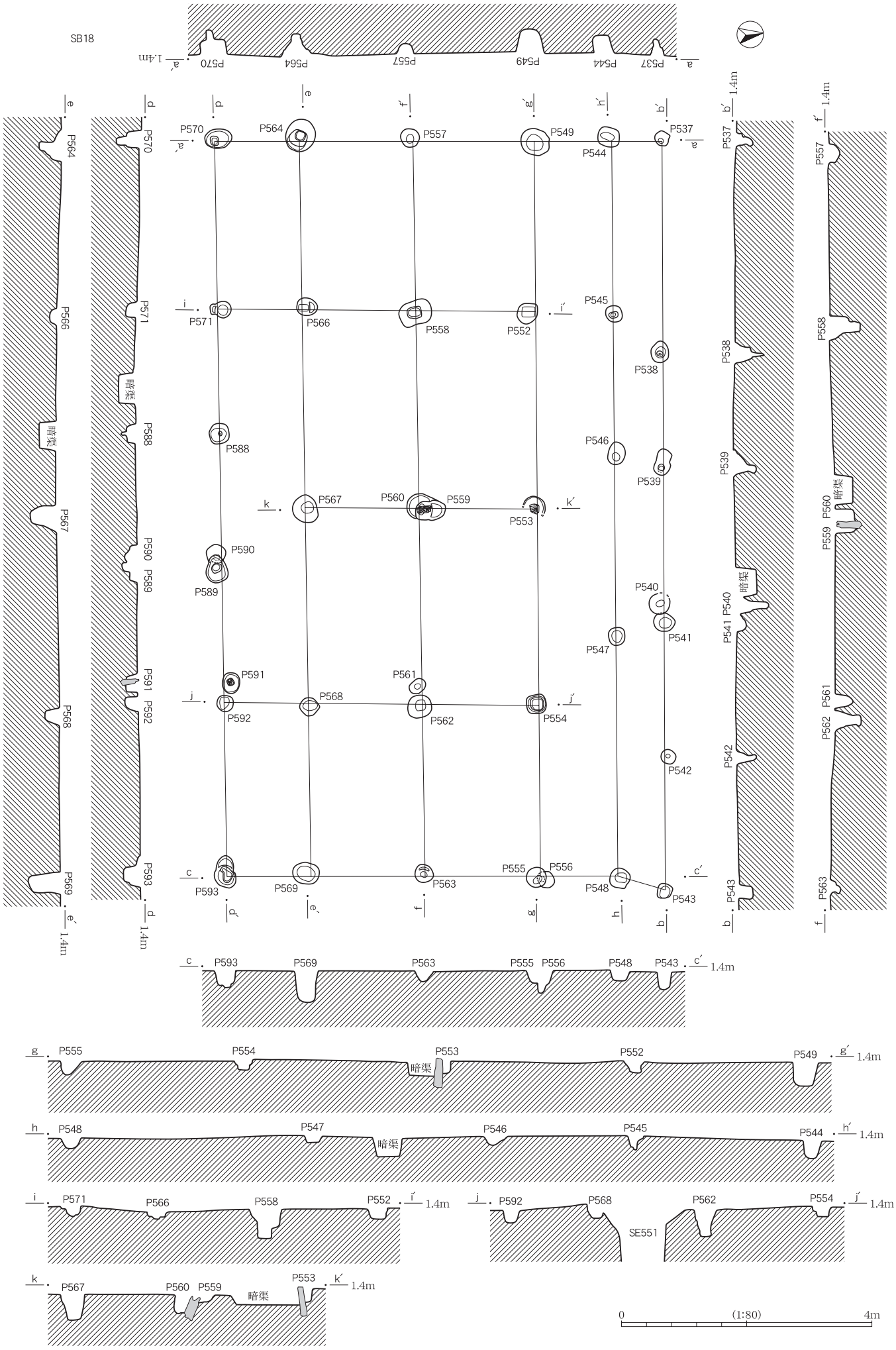
P522
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土と炭化物を微量含む、しまりやや強、粘性やや弱。
2. 黒褐色、粘質土、φ0.5～3cm程のⅢb層土をブロック状に多量含む、しまり強、粘性中。

P529
1. 褐灰色、粘質土、黒色土とⅢb層土を少量含む、しまり強、粘性やや弱。
2. 灰オリーブ色、シルト質土、褐灰色土と黒色土を微量含む、しまり強、粘性弱。

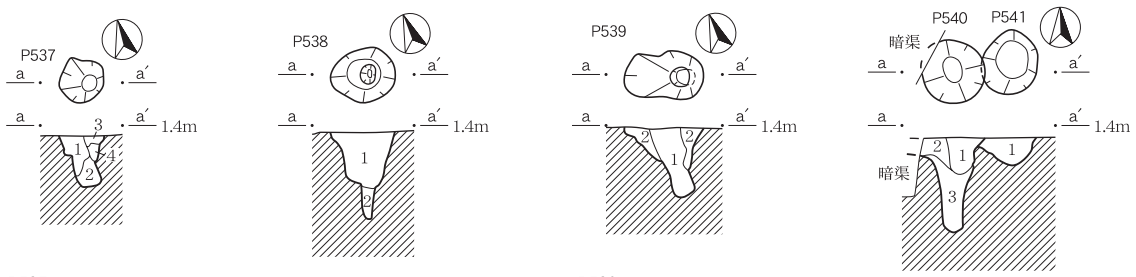
P530
1. 褐灰色、粘質土、黒褐色土とⅢb層土を含む、しまり中、粘性中。

P532
1. 黒褐色、粘質土、φ0.5～2cm程のⅢb層土をブロック状に含む、しまり弱、粘性中。
2. 灰オリーブ色、シルト質土、褐灰色土と黒色土を含む、Ⅲb層土を多量含む、しまり強、粘性弱。

0　(1:40)　2m


SB18
P537
P544
P549
P557
P564
P570
P538
P545
P558
P566
P571
P539
P546
P559
P560
P567
P588
暗渠
P540
P541
P547
P589
P590
P561
P562
P568
P591
P592
P542
P543
P548
P555
P556
P563
P569
P593
1.4m
SE551

SB18



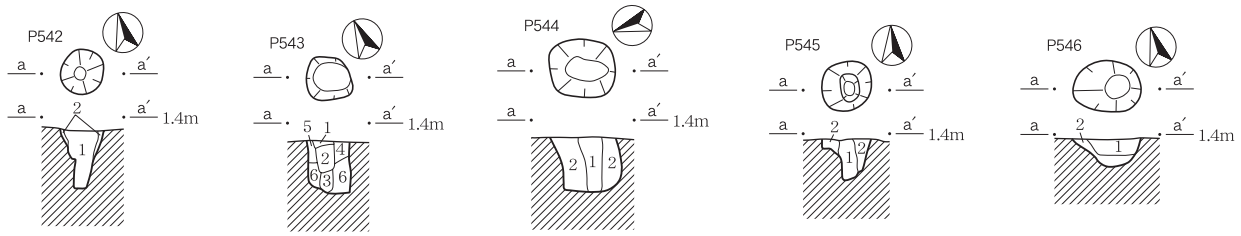
P537
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土を含む、しまり強、粘性やや弱。
2. 灰オリーブ色、シルト質土、黒褐色土を微量含む、しまり強、粘性弱。
3. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土を微量含む、しまり強、粘性やや弱。
4. 灰オリーブ色、シルト質土、褐灰色土を少量含む、しまり強、粘性弱。

P538
1. 黒褐色、粘質土、黒色土とⅢb層土を含む、しまりやや弱、粘性強。
2. オリーブ黒色、粘質土、しまり弱、粘性強。

P539
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土を微量含む、しまりやや強、粘性中。
2. 黒褐色、粘質土、褐灰色土とⅢb層土を含む、しまり強、粘性やや弱。

P540
1. 褐灰色、粘質土、φ1～5cm程のⅢb層土をブロック状に多量含む、しまりやや強、粘性やや弱。
2. 黒褐色、粘質土、しまり強、粘性やや弱。
3. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土を含む、しまり中、粘性中。

P541
1. 黒褐色、粘質土、褐灰色土を多量含む、Ⅲb層土を含む、しまりやや強、粘性やや弱。



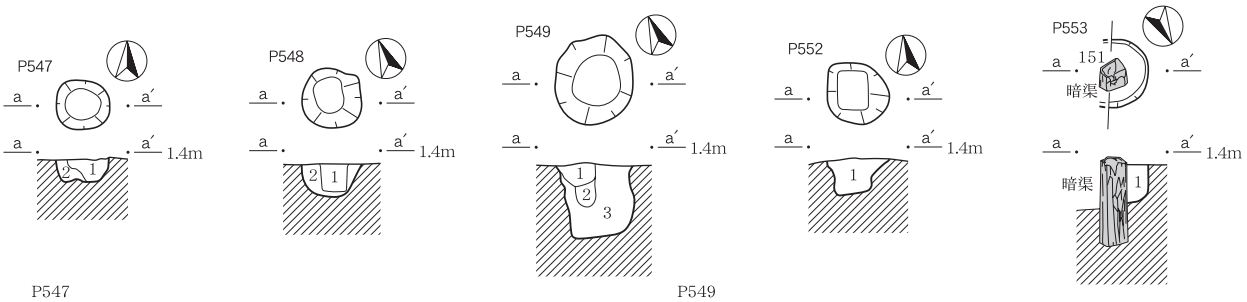
P542
1. 褐灰色、粘質土、黒色土を少量含む、Ⅲb層土を含む、しまり弱、粘性中。
2. 灰白色、シルト質土、褐灰色土を少量含む、しまりやや強、粘性弱。

P543
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土と炭化物を微量含む、しまりやや強、粘性中。
2. 灰白色、シルト質土、褐灰色土を少量含む、しまり中、粘性弱。
3. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土を少量含む、しまりやや弱、粘性やや弱。
4. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土を微量含む、しまり中、粘性中。
5. 褐灰色、シルト質土、Ⅲb層土を多量含む、しまり中、粘性弱。
6. 灰オリーブ色、シルト質土、褐灰色土を微量含む、しまり中、粘性弱。

P544
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土を少量含む、しまり中、粘性やや強。
2. 灰オリーブ色、シルト質土、黒褐色土を少量含む、しまり強、粘性弱。

P545
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土を微量含む、しまりやや強、粘性弱。
2. 黒褐色、粘質土、褐灰色土を多量含む、しまり強、粘性やや弱。

P546
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土を少量含む、褐灰色土を含む、しまり強、粘性やや弱。
2. 灰白色、シルト質土、灰色シルト質土を少量含む、しまり強、粘性弱。



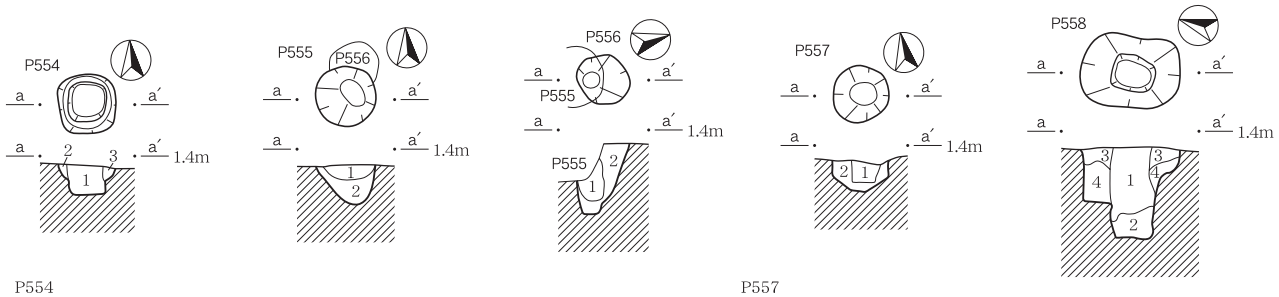
P547
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土を微量含む、しまり強、粘性やや弱。
2. 灰色、シルト質土、Ⅲb層土を多量含む、しまり強、粘性弱。

P548
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土を含む、炭化物を微量含む、しまり中、粘性中。
2. 灰オリーブ色、シルト質土、褐灰色土を含む、Ⅲb層土を多量含む、しまり中、粘性弱。

P549
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土を少量含む、しまり強、粘性やや強。
2. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土を微量含む、しまりやや弱、粘性やや弱。
3. 灰オリーブ色、シルト質土、黒色土を少量含む、褐灰色シルト質土を含む、しまり強、粘性弱。

P552
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土を微量含む、しまりやや強、粘性中。

P553
1. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土を含む、しまり弱、粘性やや強。



P554
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土を含む、炭化物を微量含む、しまり中、粘性中。
2. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土を微量含む、しまり中、粘性中。
3. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土を多量含む、しまりやや強、粘性やや弱。

P555
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土を少量含む、しまり中、粘性中。
2. 灰白色、シルト質土、褐灰色シルト質土を含む、しまり強、粘性弱。

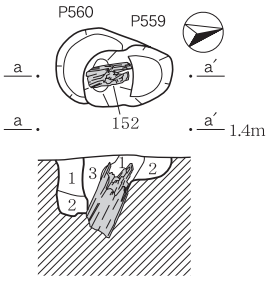
P556
1. 黒褐色、粘質土、φ0.5～2cm程のⅢb層土をブロック状に少量含む、しまり弱、粘性弱。
2. 灰色、シルト質土、φ1～4cm程のⅢb層土をブロック状に多量含む、しまり強、粘性弱。

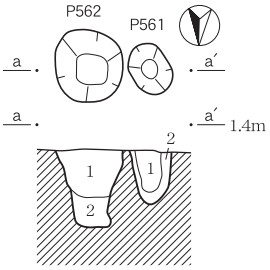
P557
1. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土を含む、しまり弱、粘性中。
2. 灰オリーブ色、シルト質土、Ⅲb層土を含む、しまりやや強、粘性弱。

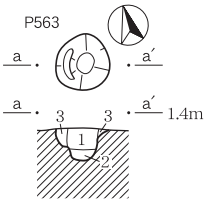
P558
1. 褐灰色、粘質土、φ0.5～4cm程のⅢb層土をブロック状に多量含む、しまりやや弱、粘性中。
2. 灰色、シルト質土、しまり弱、粘性やや弱。
3. 褐灰色、粘質土、φ0.5～3cm程のⅢb層土をブロック状に含む、しまり強、粘性やや弱。
4. 灰色、シルト質土、Ⅲb層土を多量含む、しまり強、粘性弱。

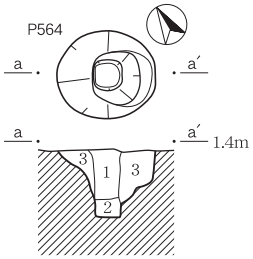
0　(1:40)　2m

SB18









P559
1. 褐灰色、粘質土、しまり弱、粘性やや強。
2. 褐灰色、粘質土、黒褐色土とⅢb層土を含む、しまり強、粘性やや弱。
3. 褐灰色、粘質土、黒褐色土とⅢb層土を含む、しまりやや強、粘性やや弱。

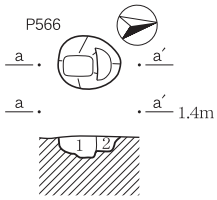
P560
1. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土を多量含む、しまり強、粘性弱。
2. 灰色、シルト質土、しまり強、粘性弱。

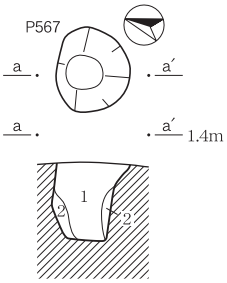
P561
1. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土を微量含む、しまりやや強、粘性中。
2. 灰色、シルト質土、Ⅲb層土を多量含む、しまり強、粘性弱。

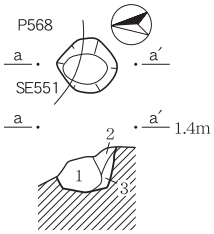
P562
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土を多量含む、しまりやや強、粘性中。
2. 灰色、シルト質土、黒褐色土を含む、しまり中、粘性弱。

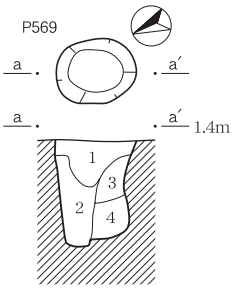
P563
1. 黒褐色、粘質土、褐灰色土とⅢb層土を少量含む、しまりやや強、粘性中。
2. 灰オリーブ色、シルト質土、黒褐色土を含む、しまりやや強、粘性弱。
3. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土を多量含む、しまり強、粘性弱。

P564
1. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土を微量含む、しまりやや強、粘性やや弱。
2. 黒褐色、粘質土、褐灰色土を含む、しまりやや弱、粘性中。
3. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土を多量含む、しまり強、粘性弱。







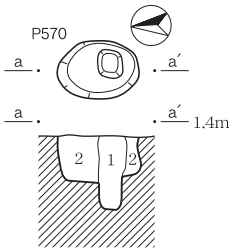


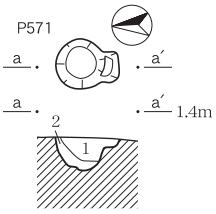
P566
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土を少量含む、しまり中、粘性やや弱。
2. 灰色、シルト質土、Ⅲb層土を含む、しまり強、粘性弱。

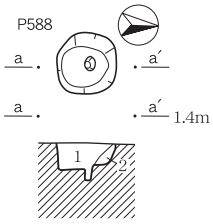
P567
1. 褐灰色、粘質土、φ1～5cm程のⅢb層土をブロック状に含む、しまりやや強、粘性中。
2. 灰色、シルト質土、黒褐色土を微量含む、しまり強、粘性弱。

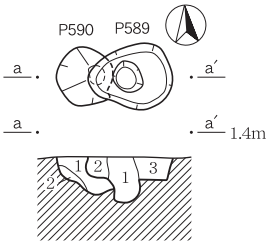
P568
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土を少量含む、しまりやや強、粘性やや弱。
2. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土を微量含む、しまり強、粘性弱。
3. 灰オリーブ色、シルト質土、黒褐色土を微量含む、しまり強、粘性弱。

P569
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土を少量含む、しまり強、粘性やや弱。
2. 灰白色、シルト質土、黒色土を少量含む、しまりやや弱、粘性弱。
3. 灰白色、シルト質土、黒褐色土を含む、しまり強、粘性弱。
4. 灰色、シルト質土、Ⅳ層土を含む、しまり中、粘性弱。









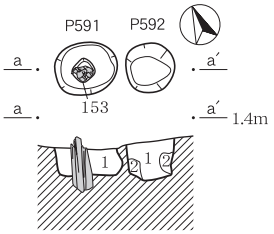
P570
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土を微量含む、しまり中、粘性弱。
2. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土を多量含む、しまり強、粘性弱。

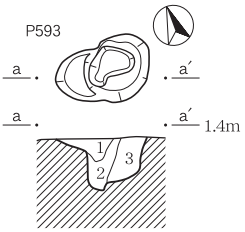
P571
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土を含む、しまり中、粘性やや弱。
2. 灰色、シルト質土、黒褐色土を微量含む、しまり強、粘性弱。

P588
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土と炭化物を少量含む、しまり中、粘性中。
2. 灰色、シルト質土、黒褐色土を微量含む、しまり強、粘性弱。

P589
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土と炭化物を含む、しまりやや強、粘性やや弱。
2. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土を微量含む、しまりやや強、粘性中。
3. 褐灰色、粘質土、φ0.5～3cm程のⅢb層土をブロック状に多量含む、しまり強、粘性弱。

P590
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土を微量含む、しまり強、粘性やや弱。
2. 灰白色、シルト質土、黒色土を含む、しまり強、粘性弱。



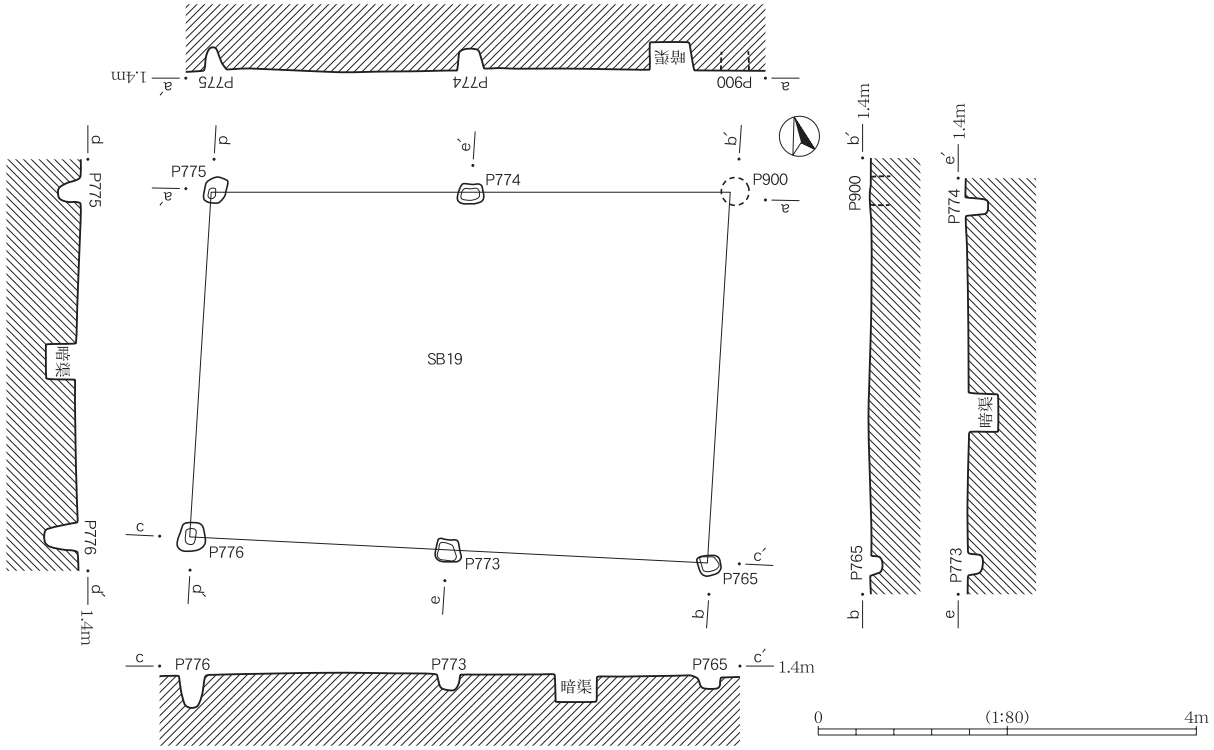


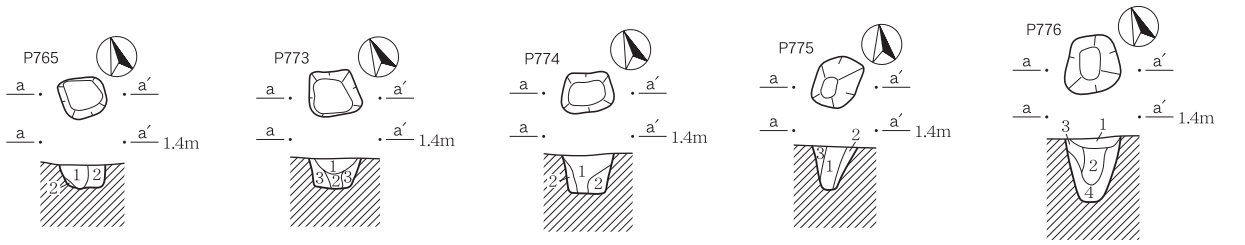
P591
1. 灰色、シルト質土、φ1～4cm程の黒褐色土をブロック状に含む、しまり強、粘性弱。

P592
1. 黒褐色、粘質土、φ1～2cm程のⅢb層土と炭化物を含む、しまりやや強、粘性中。
2. 灰色、シルト質土、黒色土を少量含む、しまり強、粘性弱。

P593
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土と炭化物を微量含む、しまり強、粘性やや弱。
2. 灰白色、シルト質土、褐灰色土を少量含む、しまり強、粘性弱。
3. 灰白色、シルト質土、褐灰色土を微量含む、しまり強、粘性弱。

0　(1:40)　2m





P765
1. 黒褐色、粘質土、しまり弱、粘性中。
2. 褐灰色、砂質シルト、φ0.5cm程の炭化物を含む、しまり弱、粘性弱。

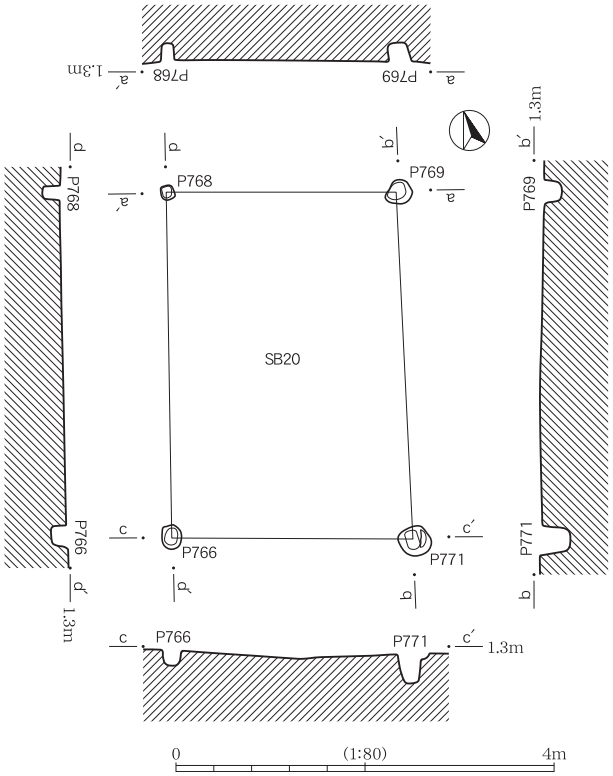
P773
1. 褐灰色、砂質シルト、Ⅱb層土を含む、φ0.3cm程の炭化物を含む、しまり弱、粘性弱。
2. 黒褐色、粘質土、しまり中、粘性中。
3. 褐灰色、砂質シルト、しまり弱、粘性弱。

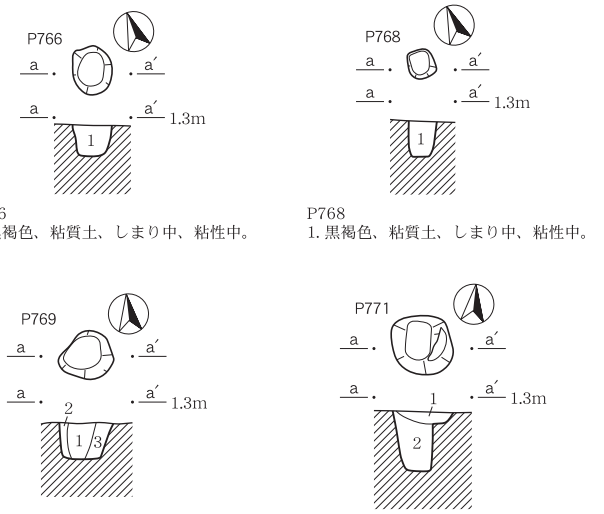
P774
1. 黒褐色、粘質土、しまり中、粘性中。
2. 褐灰色、砂質シルト、しまり弱、粘性弱。

P775
1. 黒褐色、粘質土、しまり中、粘性中。
2. 黒褐色、粘質土、砂を含む、しまり中、粘性弱。
3. 褐灰色、砂質シルト、しまり弱、粘性弱。

P776
1. 黒褐色、粘質土、φ0.3cm程の炭化物を含む、しまり弱、粘性中。
2. 黒褐色、粘質土、しまり弱、粘性中。
3. 褐灰色、砂質シルト、しまり弱、粘性弱。
4. 灰黄褐色、砂質シルト、しまり弱、粘性弱。

0 (1:40) 2m





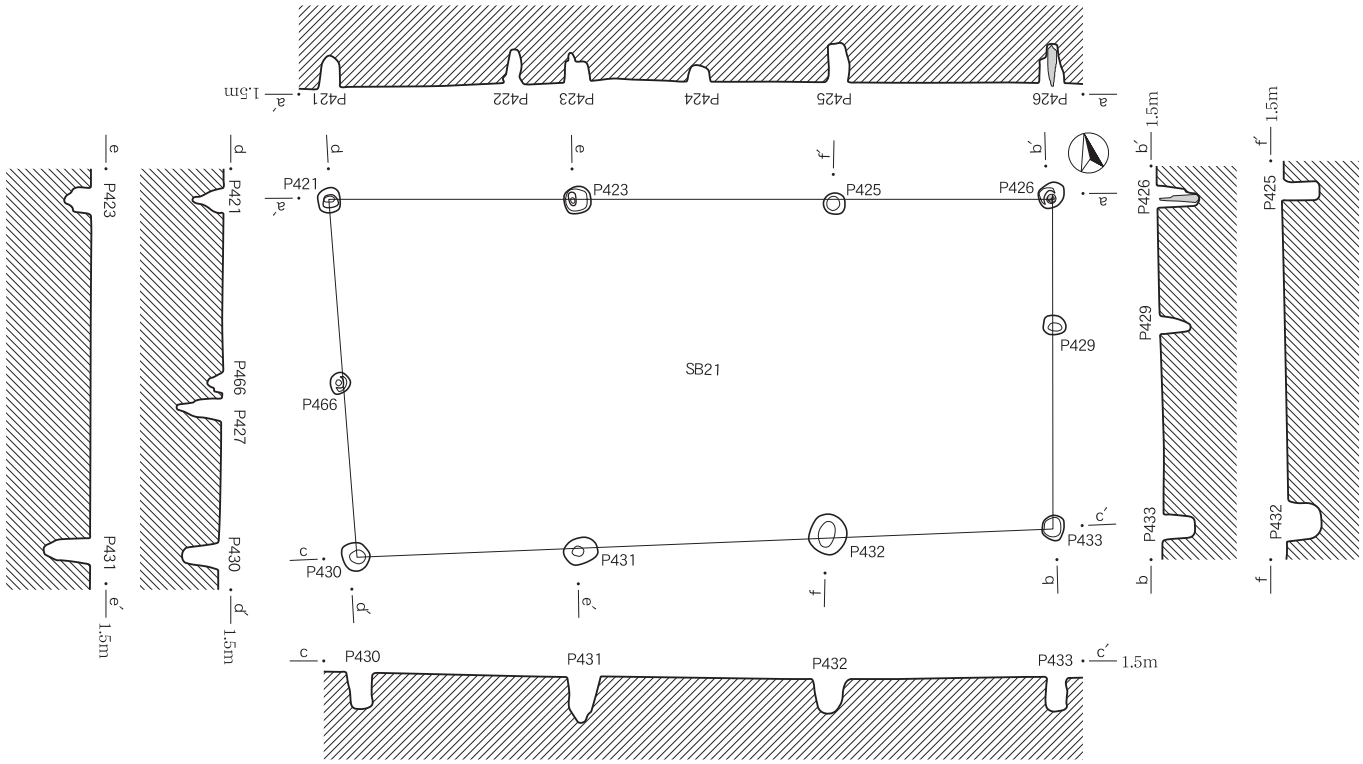
P766
1. 黒褐色、粘質土、しまり中、粘性中。

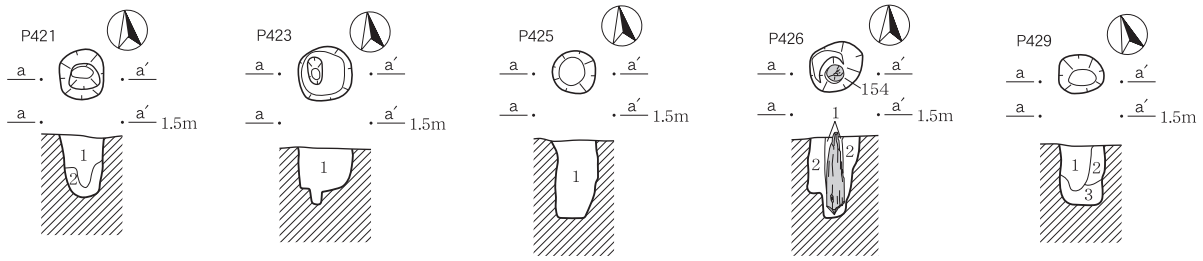
P768
1. 黒褐色、粘質土、しまり中、粘性中。

P769
1. 黒褐色、粘質土、しまり中、粘性中。
2. 褐灰色、砂質シルト、しまり弱、粘性弱。
3. 黒褐色、粘質土、砂を多量含む、しまり弱、粘性中。

P771
1. 黒褐色、粘質土、しまり中、粘性中。
2. 褐灰色、砂質シルト、しまり弱、粘性弱。

0 (1:40) 2m





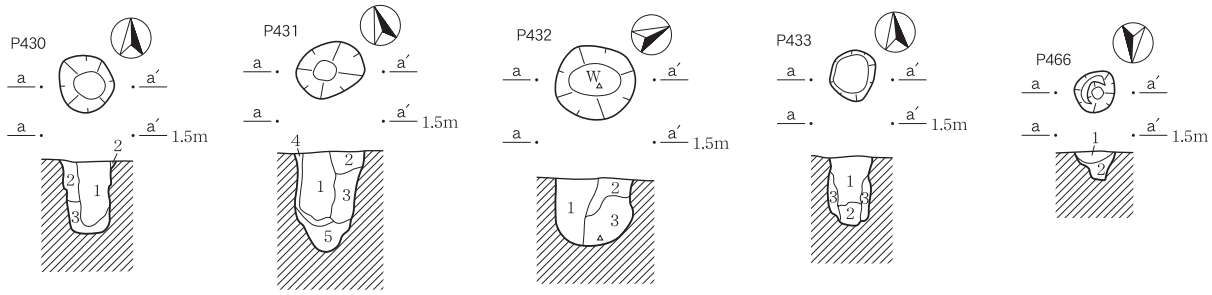
P421
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土を少量含む、しまり中、粘性やや弱。
2. 灰オリーブ色、シルト質土、しまり中、粘性弱。

P423
1. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土を多量含む、しまり中、粘性中。

P425
1. 褐灰色、粘質土、φ0.5～4cm程のⅢb層土をブロック状に多量含む、しまりやや弱、粘性中。

P426
1. 黒褐色、柱根の腐植土層、しまり弱、粘性中。
2. 灰色、粘質土、Ⅲb層土を含む、しまりやや弱、粘性中。

P429
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土を少量含む、しまり中、粘性中。
2. 灰色、粘質土、黒色土を微量含む、φ0.5～3cm程のⅢb層土ブロックを含む、しまり中、粘性中。
3. 灰オリーブ色、シルト質土、褐灰色土を少量含む、しまりやや弱、粘性弱。



P430
1. 灰色、粘質土、黒色土とⅢb層土を含む、しまりやや強、粘性中。
2. 灰色、粘質土、黒色土を微量含む、しまりやや強、粘性やや弱。
3. 灰色、粘質土、しまり中、粘性中。

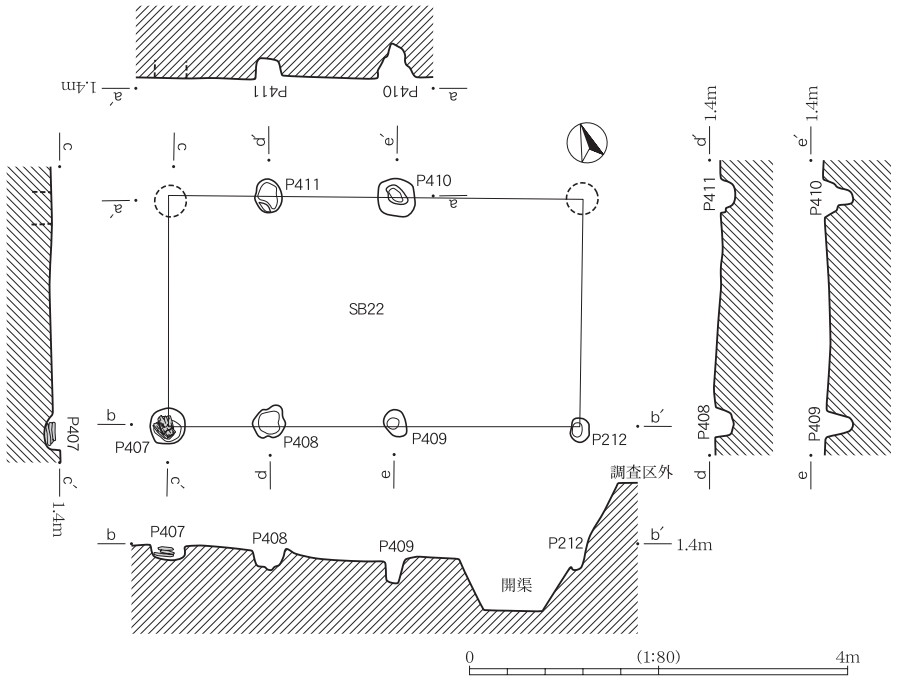
P431
1. 灰オリーブ色、シルト質土、褐灰色土を少量含む、しまりやや強、粘性弱。
2. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土を少量含む、しまり強、粘性やや弱。
3. 灰色、粘質土、黒色土とⅢb層土を少量含む、しまり中、粘性強。
4. 灰色、シルト質土、Ⅲb層土を含む、しまり中、粘性弱。
5. オリーブ黒色、砂質シルト、Ⅳ層土主体、しまりやや弱、粘性弱。

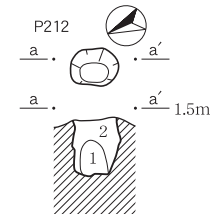
P432
1. 褐灰色、粘質土、φ0.5～3cm程のⅢb層土をブロック状に含む、しまり中、粘性弱。
2. 褐灰色、粘質土、上層にⅢb層土を多量含む、しまり弱、粘性やや強。
3. 灰色、粘質土、Ⅲb層土を多量含む、しまり中、粘性やや弱。

P433
1. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土を含む、しまり中、粘性中。
2. オリーブ黒色、粘質土、Ⅲc層土を含む、しまり弱、粘性やや強。
3. 灰オリーブ色、シルト質土、Ⅲb層土を少量含む、しまり中、粘性やや弱。

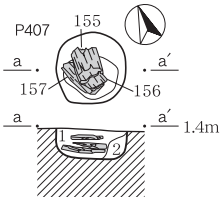
P466
1. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土を微量含む、しまり中、粘性やや弱。
2. 褐灰色、粘質土、黒褐色土とⅢb層土を含む、しまり中、粘性やや弱。

0　(1:40)　2m

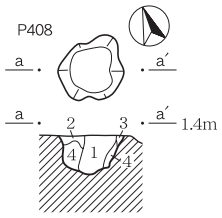


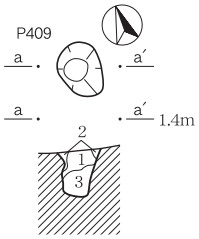


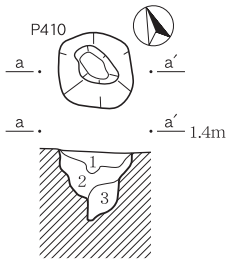
P212
1. 黒色、粘質土、Ⅲb層土を微量含む、しまり弱、粘性中。
2. 灰色、シルト質土、Ⅲb層土を含む、しまりやや強、粘性弱。

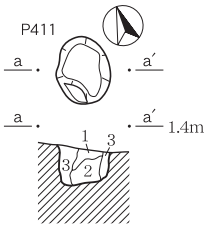


P407
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、しまり中、粘性中。
2. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、しまり中、粘性中。









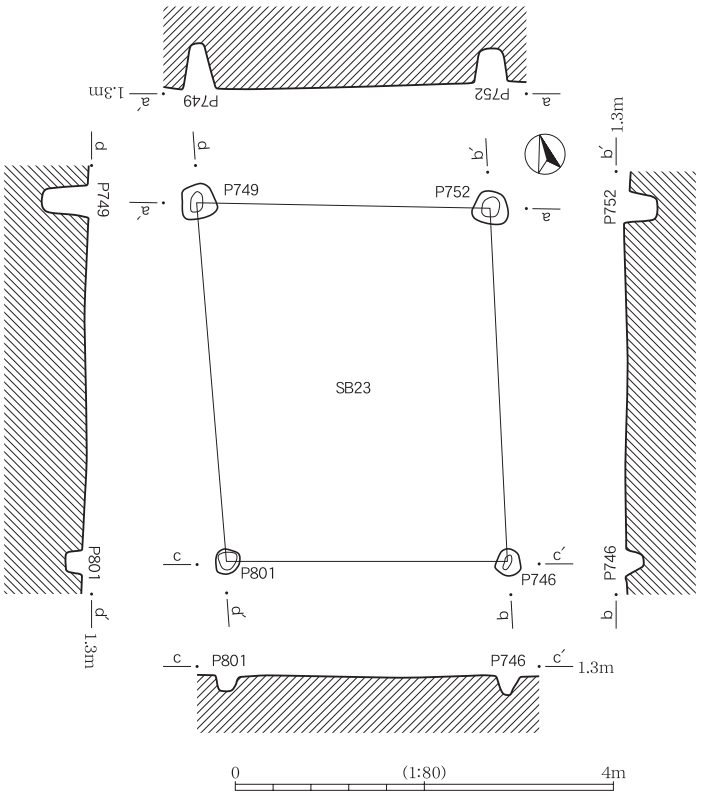
P408
1. 黒褐色、粘質土、炭化物を少量含む、しまり中、粘性中。
2. 褐灰色、粘質土、しまり中、粘性中。
3. 灰黄色、粘質土、しまり中、粘性やや弱。
4. 暗黄褐色、粘質土、Ⅱb層土をブロック状に含む、しまり中、粘性中。

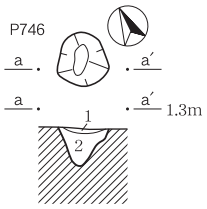
P409
1. 黒褐色、粘質土、暗灰黄色土とⅢb層土をブロック状に含む、しまり中、粘性中。
2. 黄灰色、粘質土、しまり中、粘性やや弱。
3. 暗灰黄色、粘質土、Ⅱb層土をブロック状に含む、しまり中、粘性中。

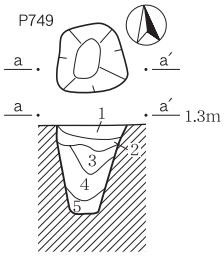
P410
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土を少量含む、しまり中、粘性中。
2. 暗灰黄色、粘質土、しまり中、粘性やや弱。
3. 暗灰黄色、粘質土、Ⅲb層土を多量含む、しまり中、粘性中。

P411
1. 黒褐色、粘質土、しまり中、粘性中。
2. 黒褐色、粘質土、しまり中、粘性中。
3. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、しまり中、粘性やや弱。

0　(1:40)　2m

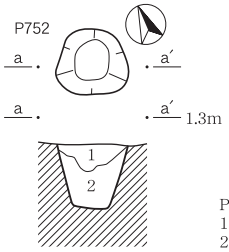


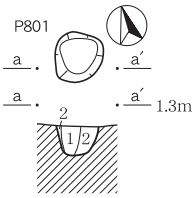




P746
1. 黒褐色、粘質土、しまり中、粘性中。
2. 褐灰色、砂質シルト、しまり弱、粘性弱。

P749
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土を含む、しまり中、粘性中。
2. 褐灰色、粘質土、しまり弱、粘性中。
3. 灰黄褐色、砂質シルト、2層よりやや明るい、φ0.2cm程の炭化物を含む、しまり弱、粘性弱。
4. 褐灰色、砂質シルト、φ0.5cm程の炭化物を含む、しまり弱、粘性弱。
5. 灰黄褐色、砂質シルト、Ⅳ層土を含む、しまり弱、粘性弱。

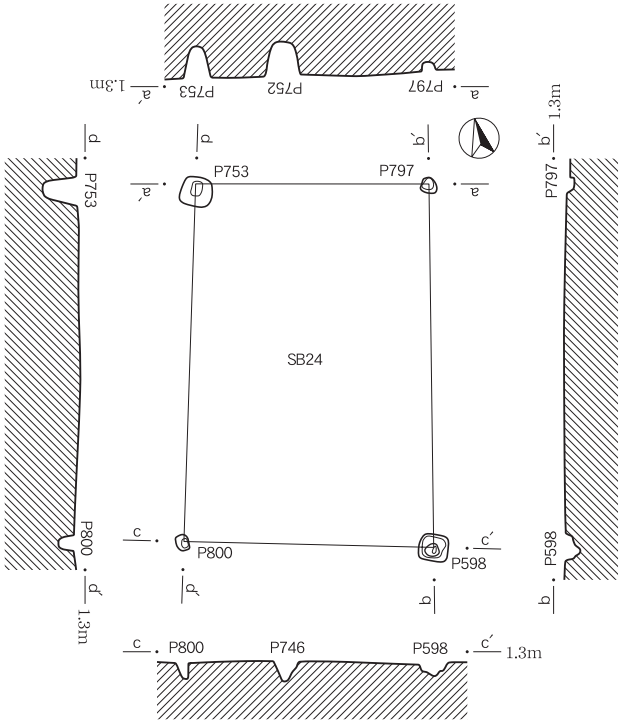


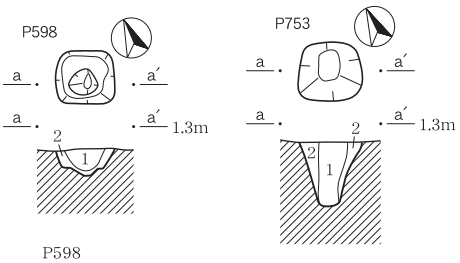


P801
1. 褐灰色、砂質シルト、しまり弱、粘性弱。
2. 灰黄褐色、砂質シルト、Ⅱb層土を微量含む、しまり弱、粘性弱。

P752
1. 黒褐色、粘質土、しまり中、粘性中。
2. 褐灰色、砂質シルト、しまり弱、粘性弱。

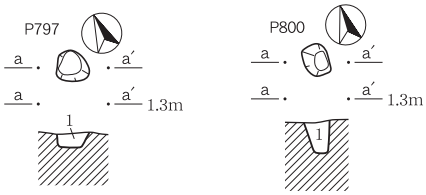
0　(1:40)　2m





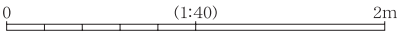
P598
1. 黒褐色、粘質土、しまり中、粘性中。
2. 灰黄褐色、粘土質シルト、しまり弱、粘性中。

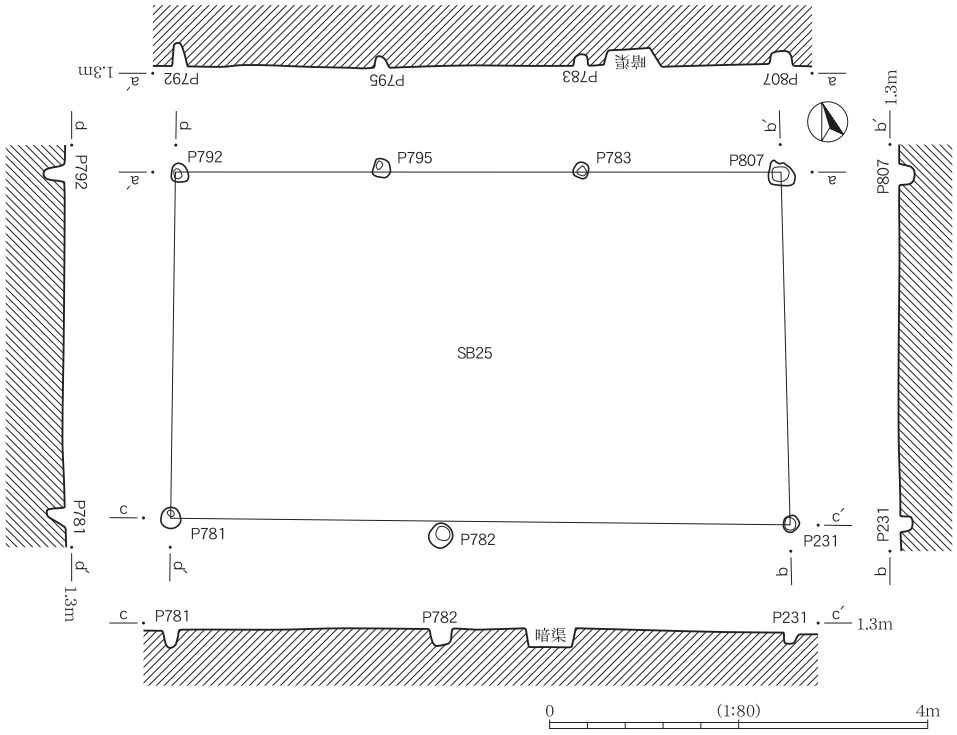
P753
1. 黒褐色、粘質土、しまり中、粘性弱。
2. 褐灰色、砂質シルト、しまり弱、粘性弱。

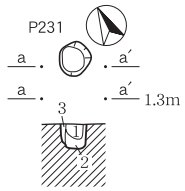


P797
1. 黒褐色、粘質土、しまり中、粘性中。

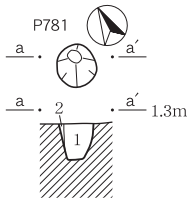
P800
1. 褐灰色、砂質シルト、Ⅲb層土とⅡb層土を斑状に含む、しまり弱、粘性弱。



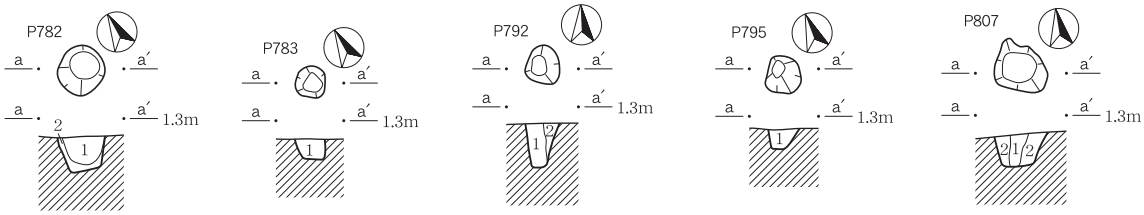




P231
1. 黒褐色、粘質土、しまり中、粘性中。
2. 灰黄褐色、粘質土、Ⅱb層土を含む、しまり弱、粘性弱。
3. 褐灰色、砂質シルト、しまり弱、粘性弱。



P781
1. 黒褐色、粘質土、しまり中、粘性中。
2. 褐灰色、砂質シルト、しまり弱、粘性中。



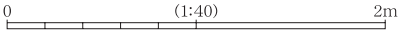
P782
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、しまり中、粘性中。
2. 褐灰色、砂質シルト、Ⅲb層土を含む、しまり弱、粘性弱。

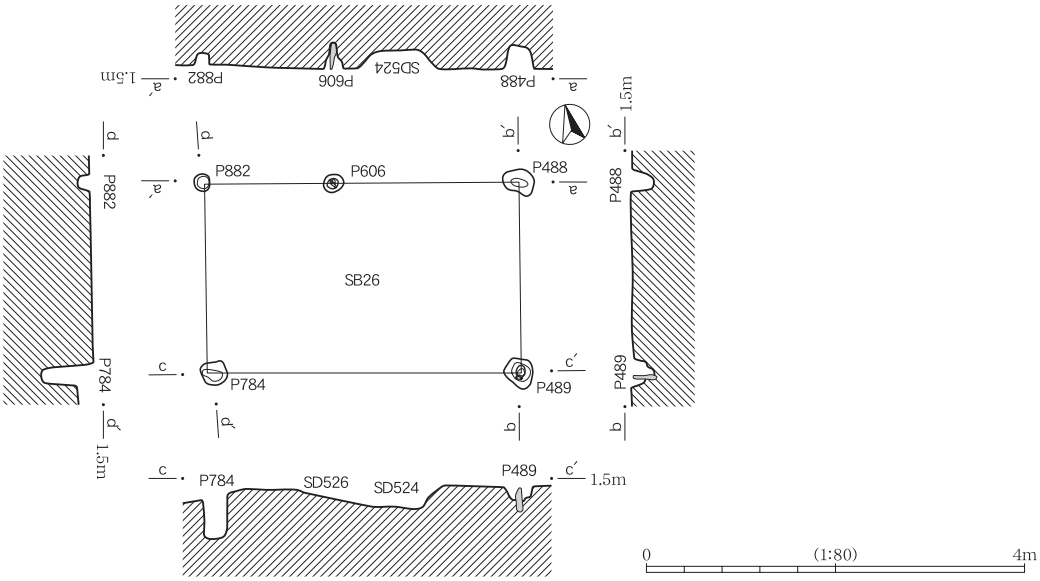
P783
1. 黒褐色、粘質土、しまり弱、粘性中。

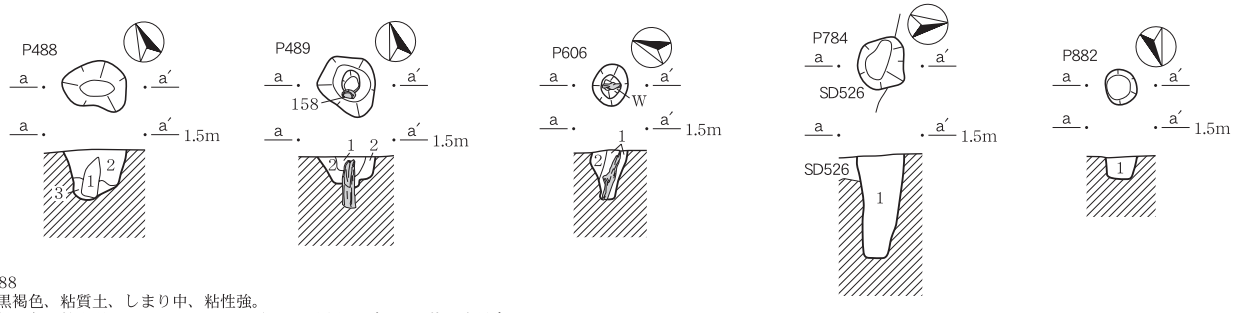
P792
1. 黒褐色、粘質土、しまり弱、粘性中。
2. 褐灰色、砂質シルト、しまり弱、粘性弱。

P795
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土を斑状に含む、しまり弱、粘性中。

P807
1. 黒褐色、粘質土、しまり中、粘性中。
2. 褐灰色、砂質シルト、しまり弱、粘性弱。







P488
1. 黒褐色、粘質土、しまり中、粘性強。
2. 褐灰色、粘土質シルト、φ0.3～3cm程のⅢb層土をブロック状に少量含む、炭化物を微量含む、しまり中、粘性やや強。
3. 灰黄褐色、シルト質土、褐灰色土を微量含む、しまりやや弱、粘性やや弱。

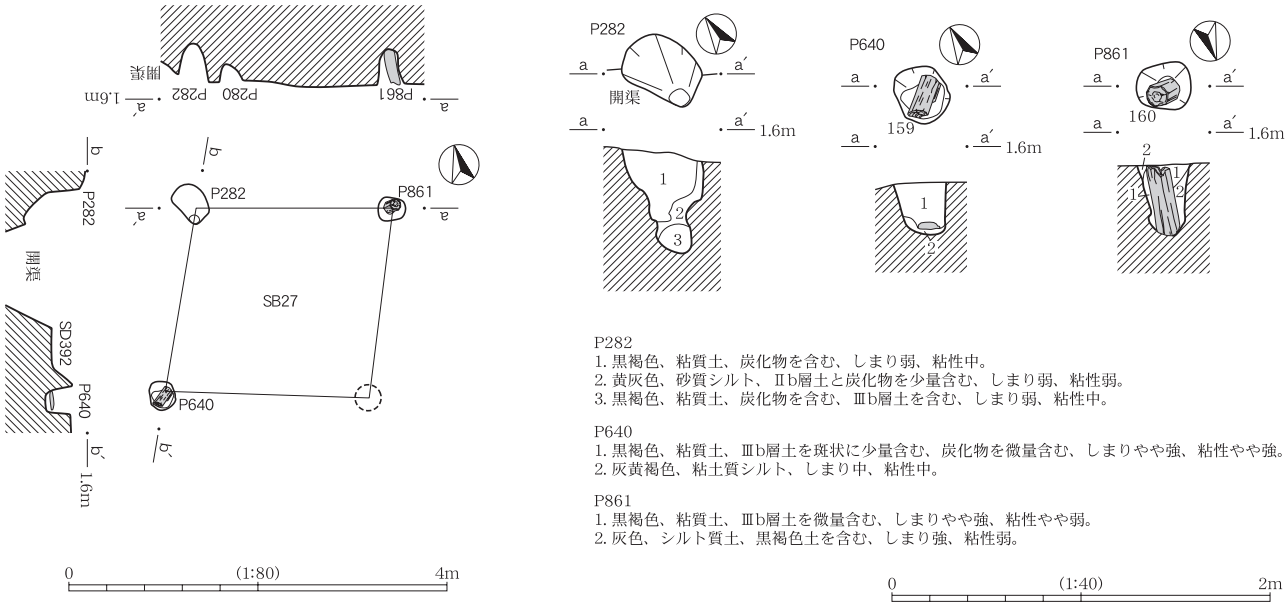
P489
1. 黒褐色、粘質土、炭化物を微量含む、しまりやや強、粘性やや強。
2. 灰黄褐色、粘質土、φ1～4cm程のⅢb層土をブロック状に多量含む、しまり中、粘性中。

P606
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土を斑状に微量含む、炭化物を微量含む、しまりやや弱、粘性やや強。
2. 灰黄褐色、シルト質土、黒褐色土を斑状に少量含む、炭化物を微量含む、しまりやや弱、粘性弱。

P784
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に少量含む、しまりやや強、粘性やや強。

P882
1. 黒褐色、粘質土、φ0.1cm程の炭化物を微量含む、しまりやや強、粘性強。

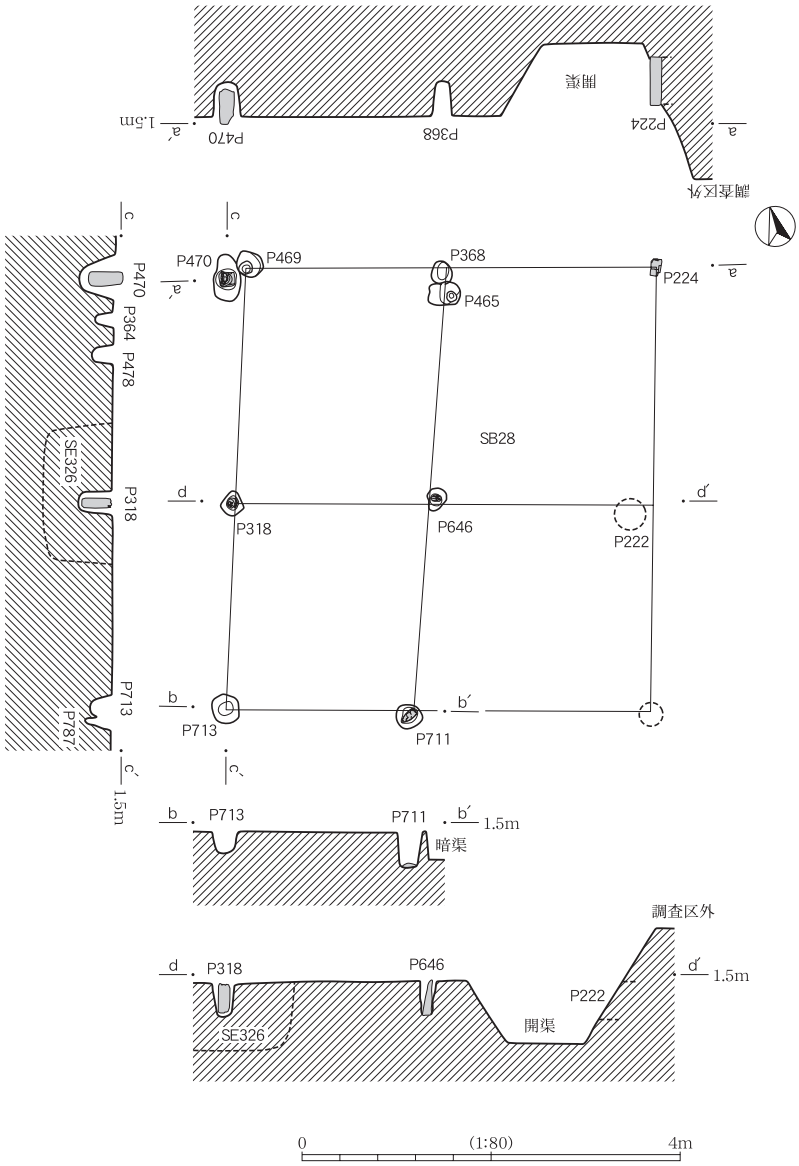
0　(1:40)　2m

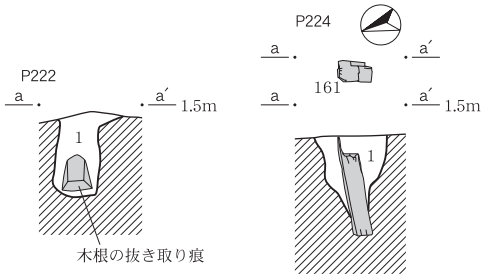


P282
1. 黒褐色、粘質土、炭化物を含む、しまり弱、粘性中。
2. 黄灰色、砂質シルト、Ⅱb層土と炭化物を少量含む、しまり弱、粘性弱。
3. 黒褐色、粘質土、炭化物を含む、Ⅲb層土を含む、しまり弱、粘性中。

P640
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土を斑状に少量含む、炭化物を微量含む、しまりやや強、粘性やや強。
2. 灰黄褐色、粘土質シルト、しまり中、粘性中。

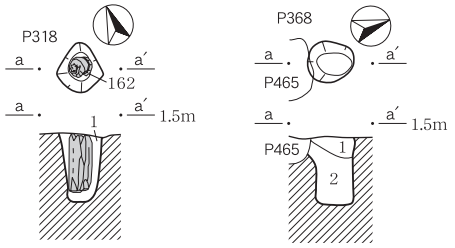
P861
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土を微量含む、しまりやや強、粘性やや弱。
2. 灰色、シルト質土、黒褐色土を含む、しまり強、粘性弱。





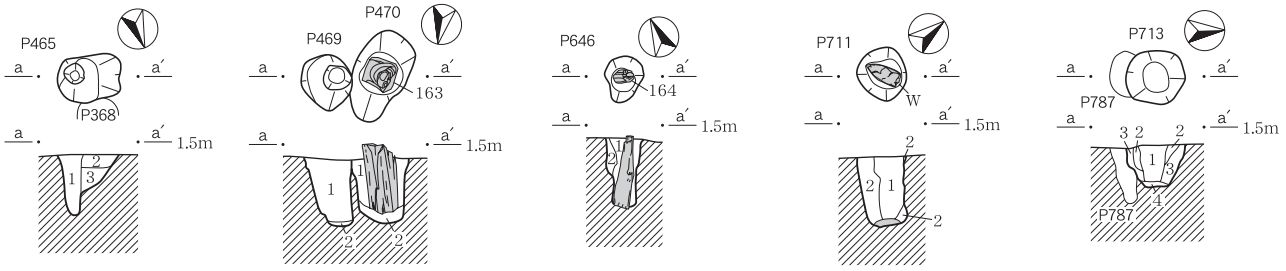
P222
1. 灰色、シルト質土、褐灰色土を多量含む、炭化物を微量含む、しまり中、粘性弱。

P224
1. 黒色、粘質土、Ⅲb層土を少量含む、炭化物を微量含む、しまり弱、粘性やや強。



P318
1. 黒褐色、粘質土、しまりやや強、粘性中。

P368
1. 黒褐色、粘質土、しまり中、粘性中。
2. 黄灰色、砂質シルト、φ0.5cm程の炭化物を含む、しまり弱、粘性弱。



P465
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、しまり中、粘性中。
2. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、しまり中、粘性中。
3. 褐灰色、粘質土、しまり中、粘性やや弱。

P469
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、しまり中、粘性中。
2. 灰黄褐色、粘質土、しまり中、粘性中。

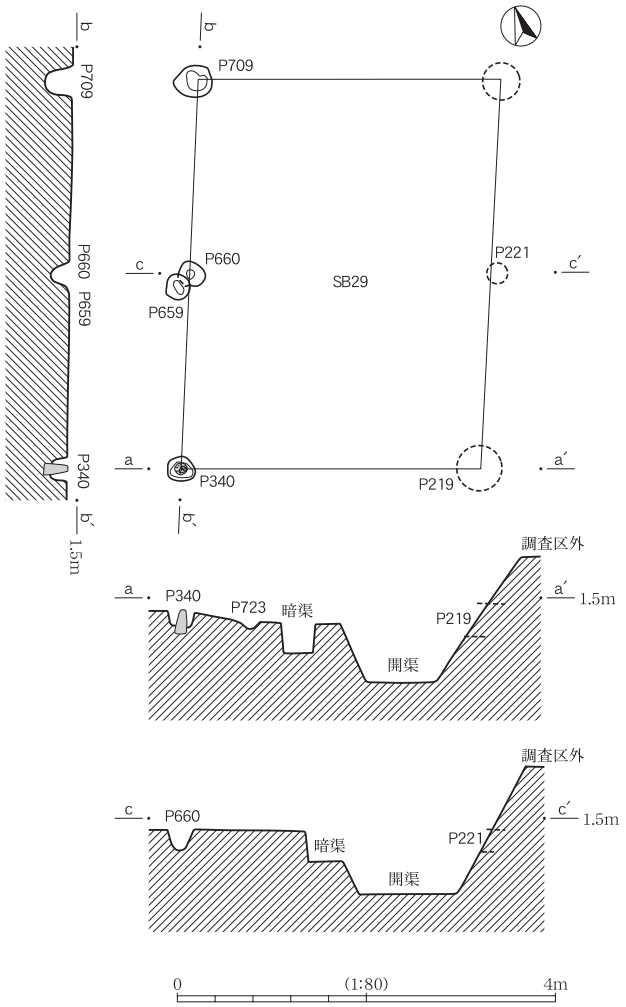
P470
1. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、しまり中、粘性中。
2. 灰黄褐色、粘質土、しまり中、粘性やや弱。

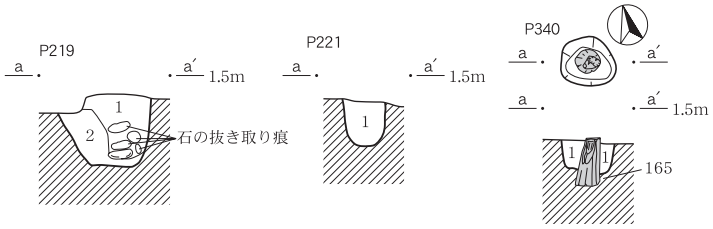
P646
1. 黒褐色、粘質土、しまり中、粘性中。
2. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、しまり中、粘性中。

P711
1. 黒褐色、粘質土、しまりやや強、粘性強。
2. 灰黄褐色、シルト質土、黒褐色土をブロック状に微量含む、しまりやや弱、粘性やや弱。

P713
1. 黒褐色、粘質土、φ0.4cm程の炭化物を微量含む、しまりやや強、粘性やや強。
2. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に微量含む、φ0.1cm程の炭化物を微量含む、しまりやや強、粘性強。
3. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に多量含む、しまり中、粘性中。
4. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に微量含む、しまりやや強、粘性中。

0　(1:40)　2m

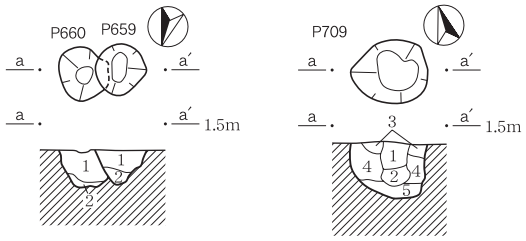




P219
1. 灰色、シルト質土、黒色土とⅢb層土を多量含む、しまりやや弱、粘性やや弱。
2. 灰色、シルト質土、黒色土とⅢb層土を少量含む、しまりやや弱、粘性弱。

P221
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土を含む、しまりやや弱、粘性中。

P340
1. 黒褐色、粘質土、Ⅱb層土とⅢb層土をブロック状に含む、しまり弱、粘性中。

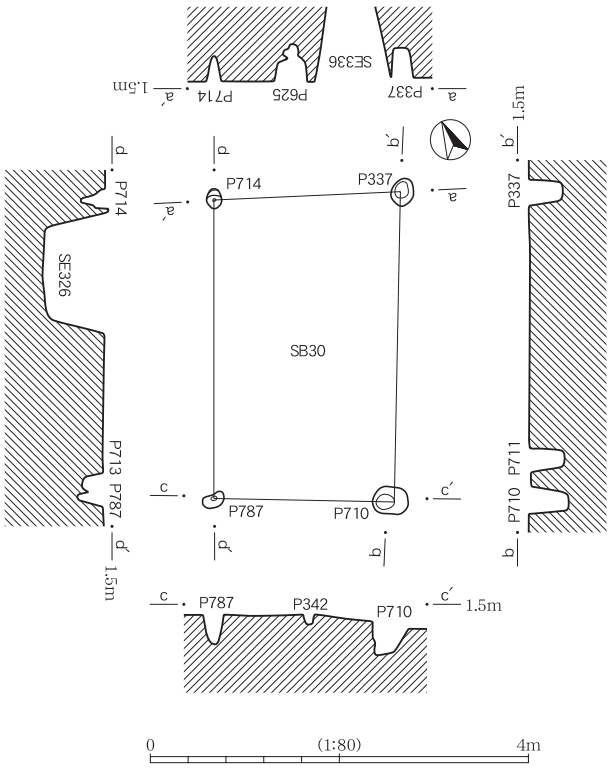


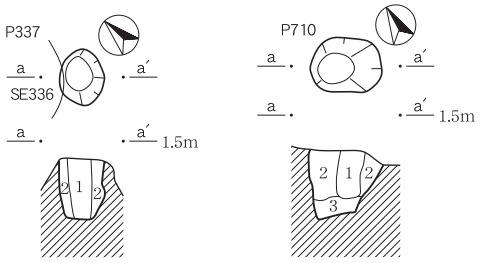
P659
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、φ0.5cm程の炭化物を少量含む、しまり中、粘性中。
2. 褐灰色、粘質土、しまり中、粘性やや弱。

P660
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、φ0.5cm程の炭化物を少量含む、しまり中、粘性中。
2. 褐灰色、粘質土、しまり中、粘性やや弱。

P709
1. 黒褐色、粘質土、炭化物を斑状に多量含む、しまり中、粘性中。
2. 黒褐色、粘質土、φ1cm程のⅢb層土をブロック状に少量含む、炭化物を斑状に少量含む、しまりやや強、粘性中。
3. 黒褐色、粘質土、炭化物を斑状に少量含む、しまり中、粘性中。
4. 褐灰色、粘土質シルト、φ1～2cm程のⅢb層土をブロック状に少量含む、炭化物を微量含む、しまり中、粘性やや弱。
5. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土を斑状に多量含む、しまり中、粘性中。

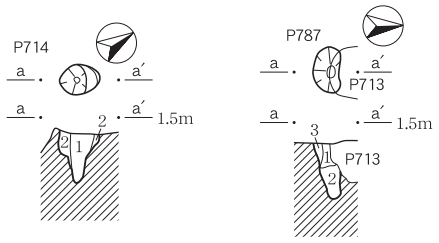
0　(1:40)　2m





P337
1. 黒褐色、粘質土、上層は粘性強く、下層に炭化物を含む、しまり中、粘性中。
2. 黄灰色、粘質土、Ⅲb層土を中量含む、しまり中、粘性弱。

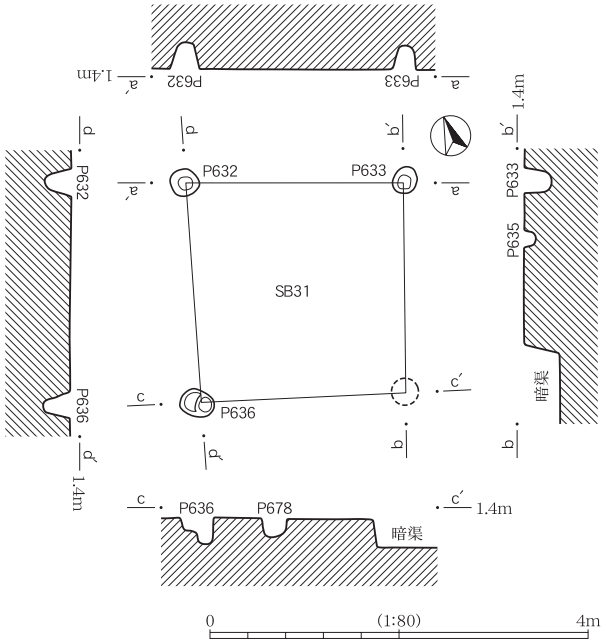
P710
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に微量含む、しまりやや強、粘性強。
2. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に多量含む、しまりやや強、粘性やや強。
3. 黒褐色、シルト質土、黒褐色土を斑状に微量含む、しまり中、粘性やや弱。

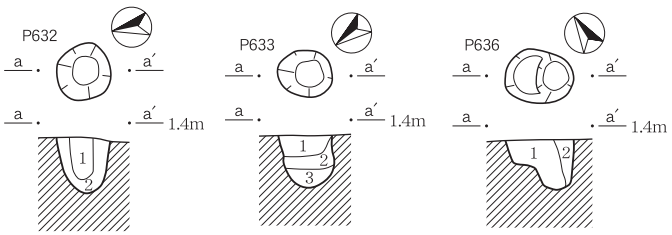


P714
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に少量含む、しまりやや強、粘性強。
2. 灰黄褐色、シルト質土、しまりやや弱、粘性やや弱。

P787
1. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に微量含む、しまりやや強、粘性やや強。
2. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に少量含む、しまり強、粘性強。
3. 灰黄褐色、シルト質土、褐灰色土を斑状に少量含む、しまり中、粘性中。

0　(1:40)　2m



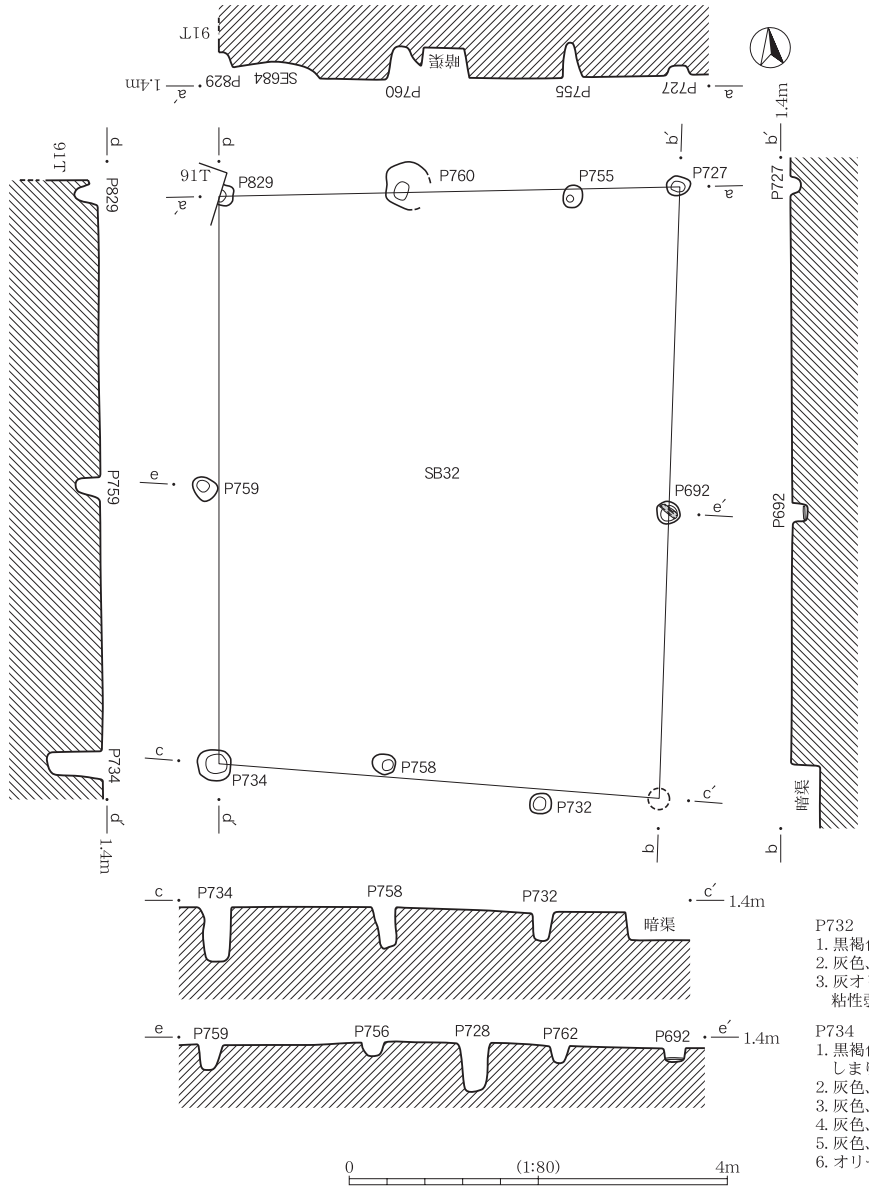


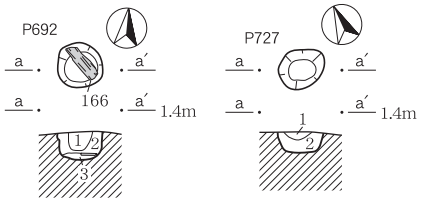
P632
1. 黒褐色、粘質土、黒色土とⅢb層土を微量含む、しまり中、粘性中。
2. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土を含む、しまりやや強、粘性やや弱。

P633
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土と炭化物を微量含む、しまりやや強、粘性中。
2. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土を含む、しまりやや強、粘性やや弱。
3. 灰オリーブ色、シルト質土、黒褐色土を少量含む、しまり中、粘性弱。

P636
1. 黒褐色、粘質土、褐灰色土を多量含む、しまり強、粘性やや弱。
2. 灰色、シルト質土、Ⅲb層土を多量含む、しまり強、粘性弱。

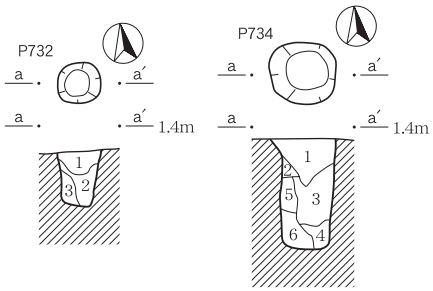
0　(1:40)　2m





P692
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土を微量含む、しまり中、粘性中。
2. 灰オリーブ色、シルト質土、黒褐色土を含む、しまりやや弱、粘性弱。
3. 灰オリーブ色、シルト質土、黒色土を少量含む、しまりやや弱、粘性弱。

P727
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土を少量含む、しまりやや強、粘性中。
2. 灰色、シルト質土、Ⅲb層土を含む、しまりやや弱、粘性弱。

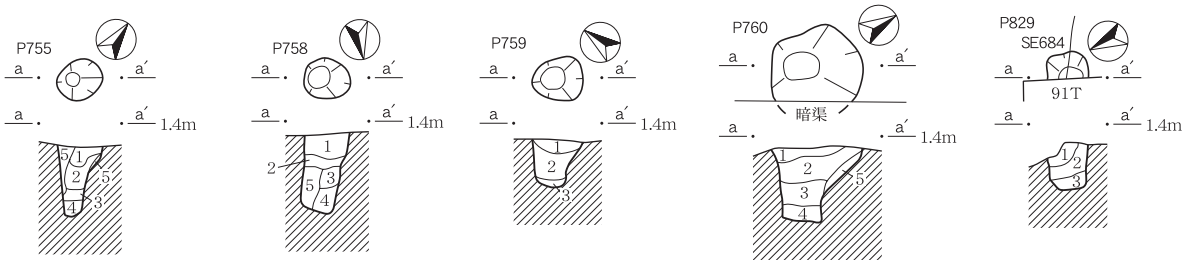


P732
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土を微量含む、しまり中、粘性やや強。
2. 灰色、シルト質土、黒褐色土を含む、しまりやや強、粘性弱。
3. 灰オリーブ色、シルト質土、黒褐色土を微量含む、しまりやや強、粘性弱。

P734
1. 黒褐色、粘質土、φ1～5cm程のⅢb層土をブロック状に少量含む、しまりやや強、粘性中。
2. 灰色、シルト質土、黒褐色土を含む、しまり中、粘性弱。
3. 灰色、シルト質土、黒褐色土とⅢb層土を含む、しまりやや弱、粘性弱。
4. 灰色、シルト質土、Ⅳ層土を含む、しまり弱、粘性弱。
5. 灰色、シルト質土、黒褐色土を少量含む、しまり弱、粘性弱。
6. オリーブ黒色、砂質シルト、Ⅲc層土を少量含む、しまり弱、粘性弱。

0　(1:40)　2m

SB32



P755
1. 黒褐色、粘質土、褐灰色土とⅢb層土と炭化物を含む、しまり中、粘性やや弱。
2. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土と炭化物を微量含む、しまりやや弱、粘性弱。
3. 褐灰色、粘質土、黒色土とⅢb層土を含む、しまり弱、粘性やや弱。
4. 灰オリーブ色、シルト質土、しまり弱、粘性弱。
5. 灰オリーブ色、シルト質土、黒褐色土とⅢb層土を少量含む、しまり強、粘性弱。

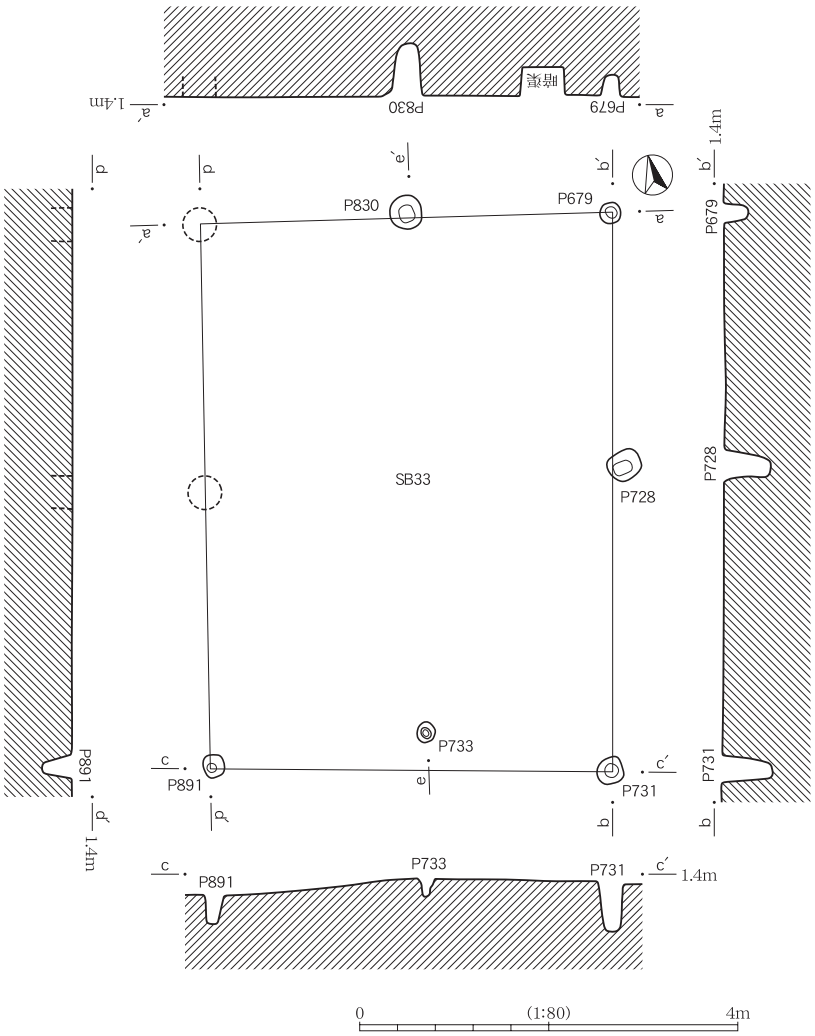
P758
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土を含む、しまり強、粘性中。
2. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土を微量含む、しまり中、粘性やや強。
3. 黒褐色、粘質土、しまり弱、粘性強。
4. 灰色、シルト質土、しまり弱、粘性弱。
5. 灰オリーブ色、シルト質土、しまり中、粘性弱。

P759
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土と炭化物を微量含む、しまり強、粘性中。
2. 褐灰色、粘質土、黒褐色土とⅢb層土を含む、しまり中、粘性中。
3. 黒色、粘質土、Ⅲb層土を含む、しまりやや強、粘性やや弱。

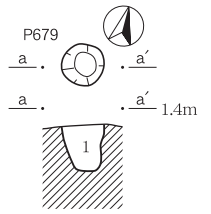
P760
1. 褐灰色、粘質土、黒褐色土とⅢb層土を少量含む、しまり強、粘性やや弱。
2. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土を含む、しまり中、粘性中。
3. 褐灰色、粘質土、黒褐色土を多量含む、しまり弱、粘性やや強。
4. 灰色、シルト質土、Ⅲb層土を少量含む、しまり中、粘性弱。
5. オリーブ黒色、シルト質土、しまり弱、粘性弱。

P829
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土を含む、しまりやや強、粘性中。
2. 褐灰色、粘質土、黒褐色土を含む、しまり中、粘性やや弱。
3. オリーブ黒色、シルト質土、黒色土を含む、しまりやや弱、粘性中。

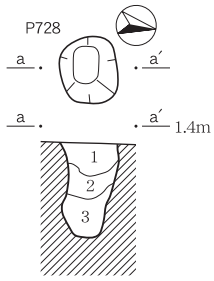
0 (1:40) 2m



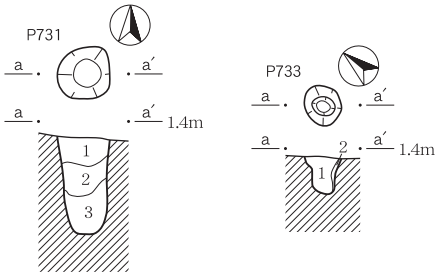
0 (1:80) 4m



P679
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土を含む、しまりやや強、粘性やや弱。

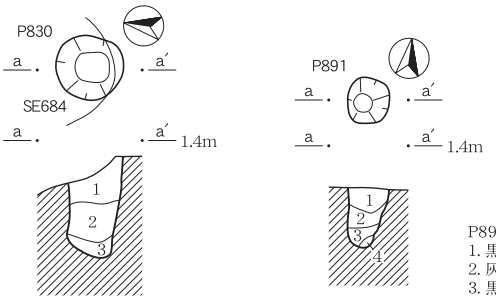


P728
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土を含む、しまり弱、粘性中。
2. 灰色、シルト質土、黒褐色土を含む、しまりやや弱、粘性弱。
3. 灰色、シルト質土、黒褐色土を微量含む、しまり弱、粘性弱。



P731
1. 黒褐色、粘質土、φ3cm程のⅢb層土をブロック状に含む、しまり中、粘性中。
2. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土を微量含む、しまりやや弱、粘性やや弱。
3. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土を微量含む、しまり弱、粘性やや強。

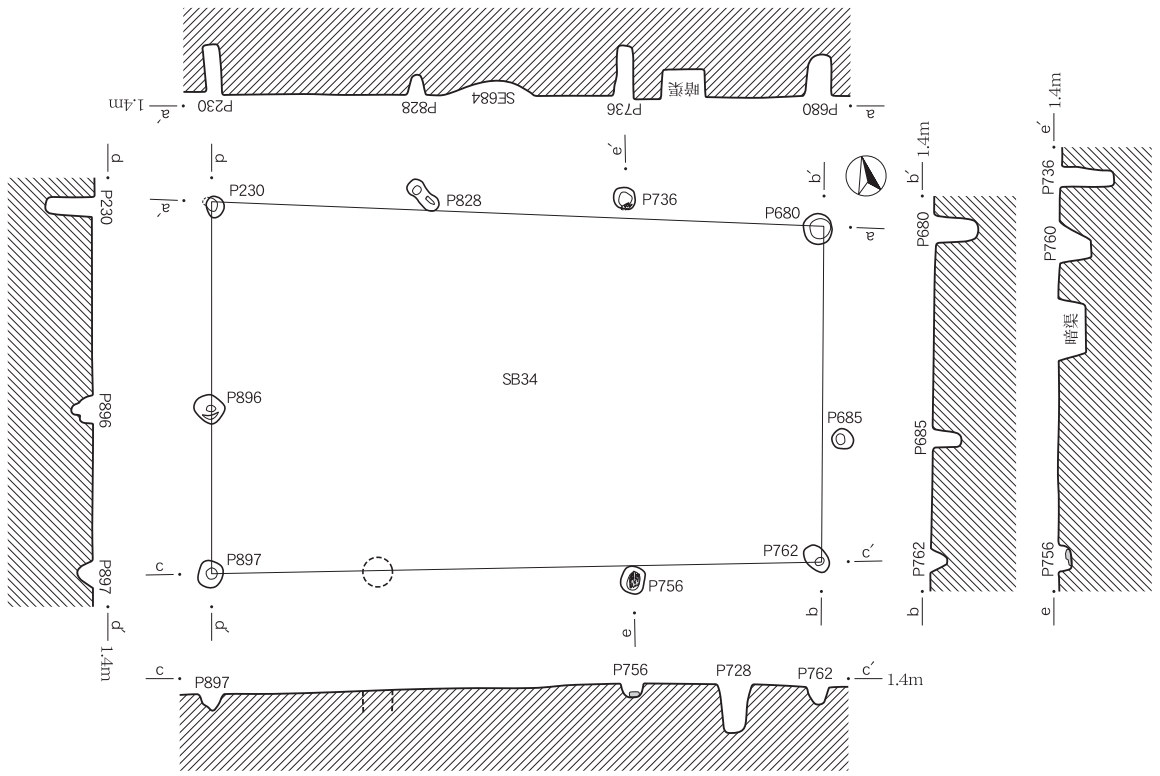
P733
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土を少量含む、しまり中、粘性やや強。
2. 灰色、シルト質土、しまりやや弱、粘性弱。

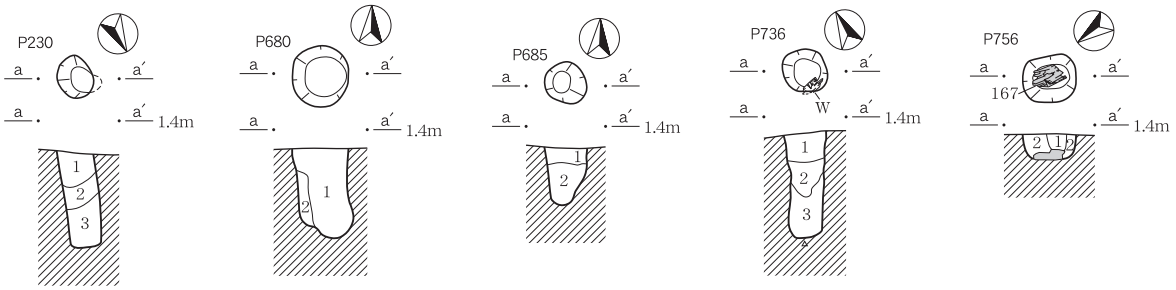


P891
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土を少量含む、しまり弱、粘性中。
2. 灰オリーブ色、シルト質土、黒色土を含む、しまりやや弱、粘性弱。
3. 黒色、粘質土、Ⅳ層土を少量含む、しまり弱、粘性中。
4. 灰オリーブ色、シルト質土、しまり弱、粘性弱。

P830
1. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土を含む、しまりやや強、粘性中。
2. 灰色、シルト質土、黒色土を微量含む、しまりやや弱、粘性中。
3. 灰オリーブ色、シルト質土、黒色土を微量含む、しまり弱、粘性やや弱。

0 (1:40) 2m





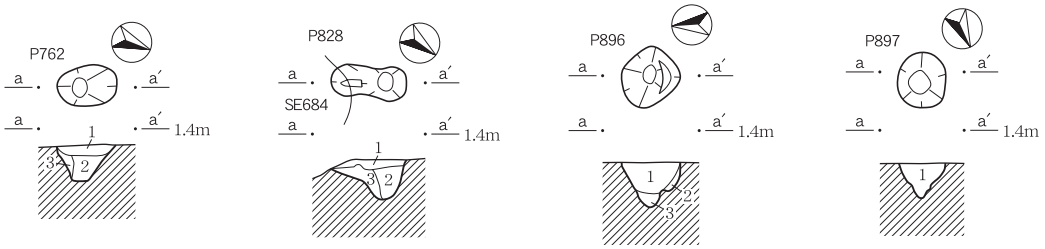
P230
1. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土を少量含む、しまりやや強、粘性中。
2. 灰色、粘質土、Ⅲb層土を含む、しまりやや弱、粘性強。
3. オリーブ黒色、砂質シルト、Ⅲc層土を少量含む、しまりやや弱、粘性弱。

P680
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土と炭化物を微量含む、しまり中、粘性やや弱。
2. 灰色、シルト質土、φ1～3cm程の黒褐色土をブロック状に含む、しまりやや弱、粘性弱。

P685
1. 褐灰色、粘質土、黒褐色土を含む、しまりやや弱、粘性強。
2. 灰色、シルト質土、黒褐色土を含む、しまりやや強、粘性やや弱。

P736
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土と炭化物を微量含む、しまり中、粘性中。
2. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土を多量含む、しまりやや弱、粘性中。
3. 灰色、シルト質土、しまり強、粘性弱。

P756
1. 灰色、粘質土、Ⅲb層土と炭化物を微量含む、しまり強、粘性中。
2. 灰色、シルト質土、Ⅲb層土を含む、しまり強、粘性弱。



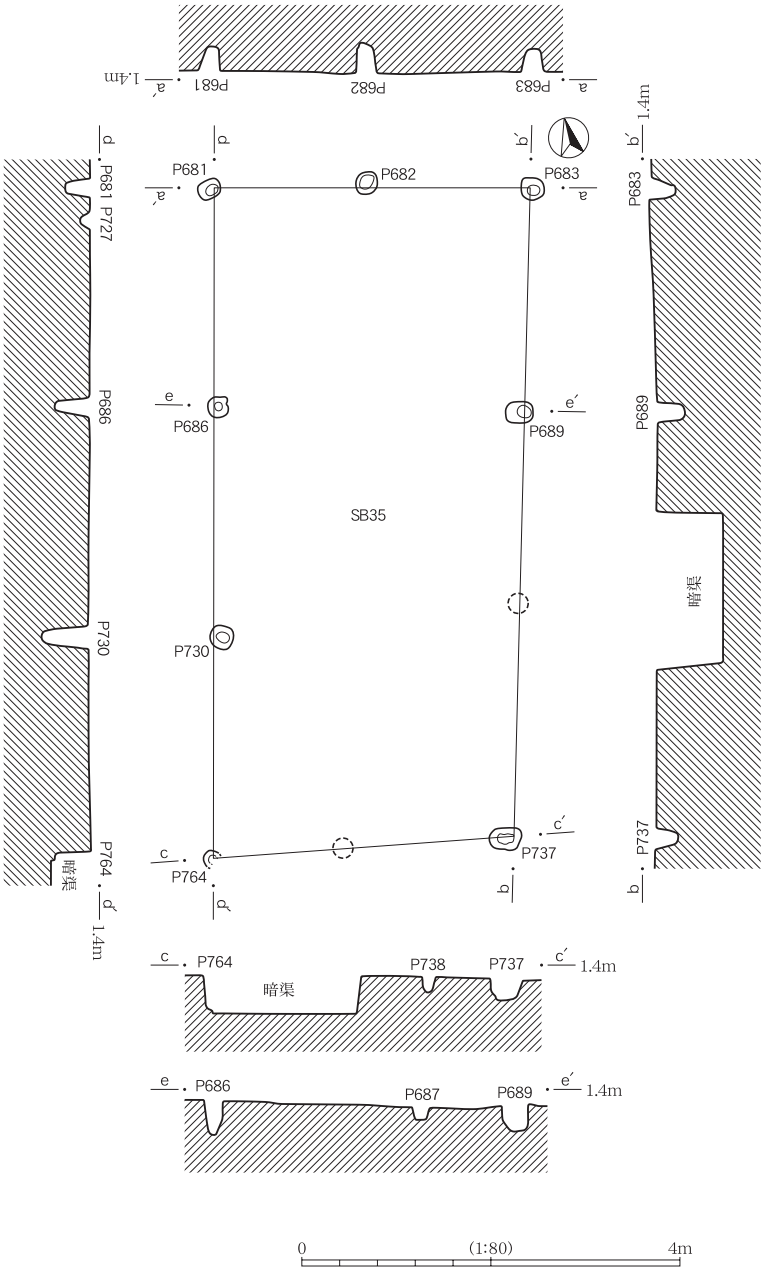
P762
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土を微量含む、しまり中、粘性やや弱。
2. 褐灰色、粘質土、黒褐色土を少量含む、しまり中、粘性中。
3. 灰色、シルト質土、黒褐色土を微量含む、しまり強、粘性弱。

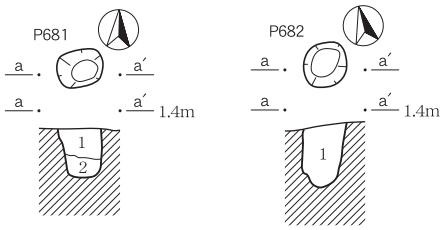
P828
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土を少量含む、しまり強、粘性やや弱。
2. 黒褐色、粘質土、φ1～3cm程のⅢb層土をブロック状に含む、しまり中、粘性中。
3. 灰オリーブ色、シルト質土、Ⅲb層土を含む、しまりやや強、粘性弱。

P896
1. 暗褐色、粘質土、炭化物を含む、しまり中、粘性中。
2. 褐色、粘質土、しまり弱、粘性中。
3. 暗褐色、粘質土、しまり中、粘性中。

P897
1. 暗褐色、粘質土、炭化物を含む、しまり中、粘性中。

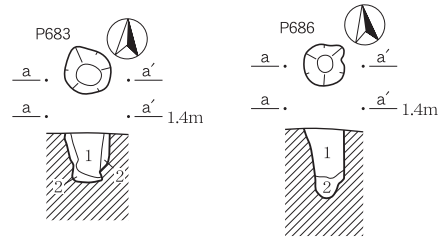
0　(1:40)　2m





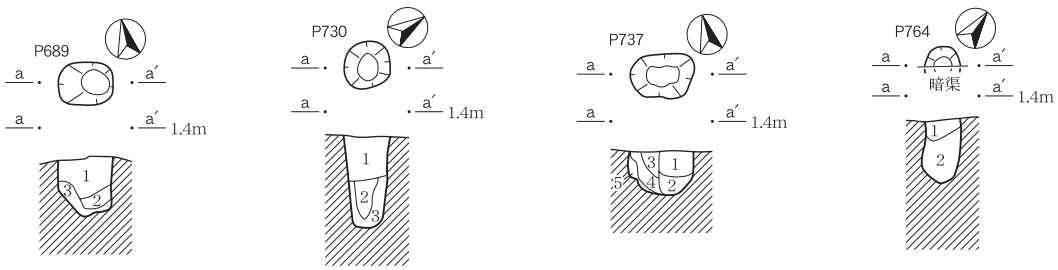
P681
1. 灰オリーブ色、シルト質土、褐灰色土を多量含む、しまりやや弱、粘性弱。
2. 灰オリーブ色、シルト質土、褐灰色土を微量含む、しまりやや強、粘性弱。

P682
1. 黒褐色、粘質土、φ0.5～2cm程のⅢb層土をブロック状に含む、しまり中、粘性中。



P683
1. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土を微量含む、しまりやや強、粘性やや弱。
2. 灰白色、シルト質土、褐灰色土を含む、しまり強、粘性弱。

P686
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土を少量含む、しまりやや弱、粘性中。
2. 灰色、粘質土、しまり弱、粘性強。



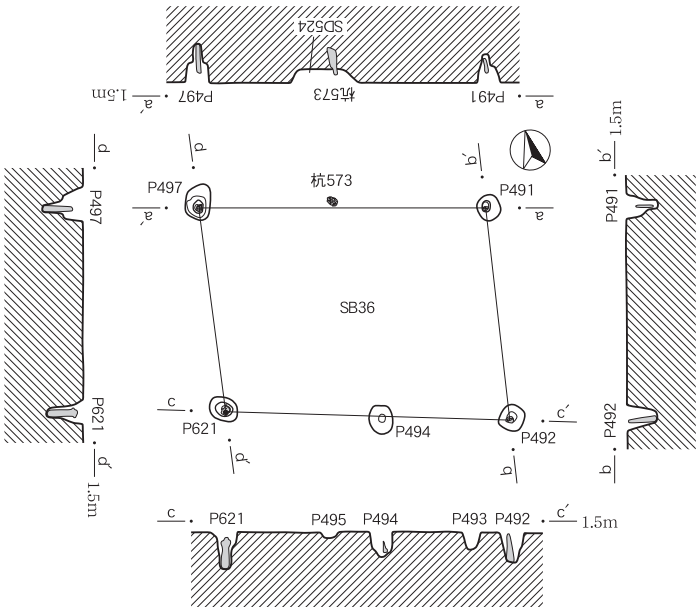
P689
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土を多量含む、しまり中、粘性中。
2. 黒褐色、粘質土、しまり弱、粘性やや強。
3. 灰オリーブ色、シルト質土、黒褐色土を微量含む、しまり強、粘性弱。

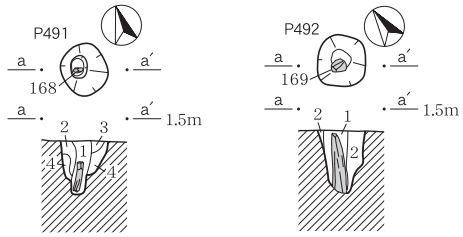
P730
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土を多量含む、しまり中、粘性やや強。
2. 褐灰色、シルト質土、Ⅲb層土を微量含む、しまり中、粘性やや弱。
3. 灰色、シルト質土、炭化物を微量含む、しまりやや強、粘性弱。

P737
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、しまり中、粘性中。
2. 褐灰色、粘質土、しまり中、粘性やや弱。
3. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、しまり中、粘性やや弱。
4. 黒褐色、粘質土、Ⅱb層土をブロック状に含む、しまり中、粘性中。
5. 褐灰色、粘質土、Ⅱb層土をブロック状に含む、しまり中、粘性やや弱。

P764
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土を少量含む、しまり強、粘性中。
2. 灰色、粘質土、φ0.5～3cm程のⅢb層土をブロック状に多量含む、しまり弱、粘性やや強。

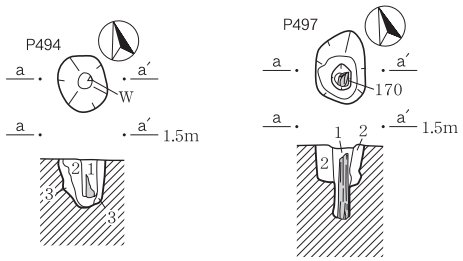
0　(1:40)　2m





P491
1. 黒褐色、粘質土、炭化物を微量含む、しまり中、粘性やや強。
2. 黒褐色、粘質土、炭化物を微量含む、しまりやや強、粘性やや強。
3. 黒褐色、粘質土、φ1～3cm程のⅢb層土をブロック状に多量含む、しまりやや強、粘性やや強。
4. 灰黄褐色、シルト質土、黒褐色土を斑に微量含む、しまりやや弱、粘性弱。

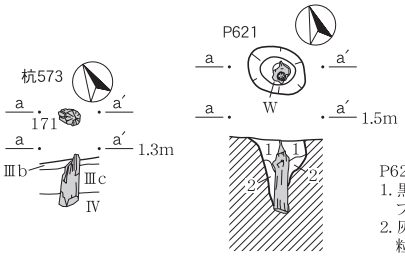
P492
1. 黒褐色、粘質土、しまりやや強、粘性強。
2. 黒色、粘質土、φ1～4cm程のⅢb層土をブロック状に多量含む、しまり強、粘性強。



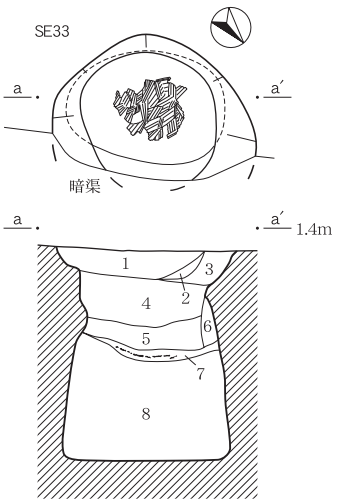
P494
1. 黒色、粘質土、しまり弱、粘性やや強。
2. 黒色、粘質土、φ1～3cm程のⅢb層土をブロック状に微量含む、しまりやや弱、粘性強。
3. 灰黄褐色、粘土質シルト、しまり弱、粘性やや弱。

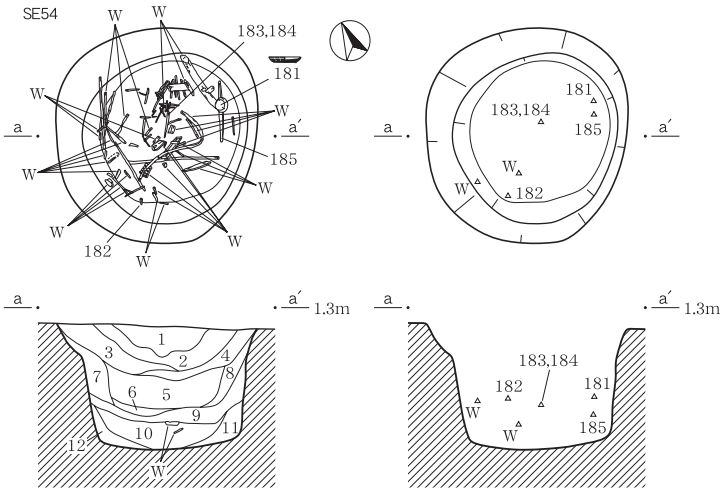
P497
1. 黒褐色、粘質土、しまりやや強、粘性強。
2. 黒色、粘質土、Ⅲb層土を斑に少量含む、しまり強、粘性強。

0　(1:40)　2m



P621
1. 黒色、粘質土、φ0.5～2cm程のⅢb層土をブロック状に微量含む、しまり中、粘性強。
2. 灰黄褐色、粘土質シルト、φ0.5cm程の黒色土を粒状に微量含む、しまり中、粘性やや強。

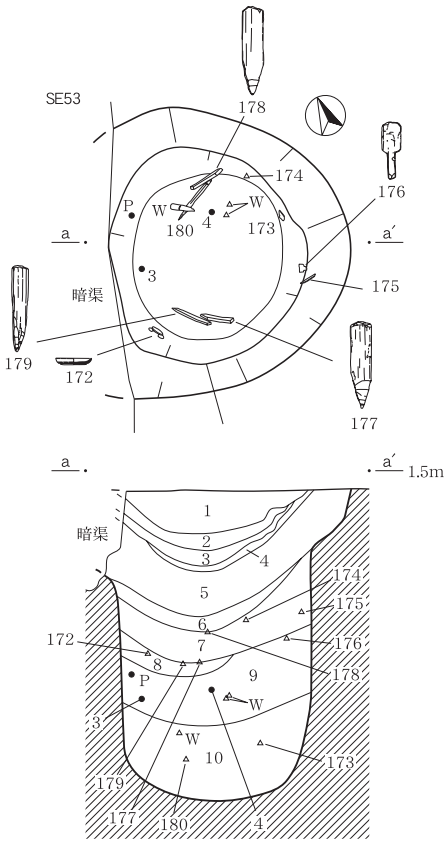


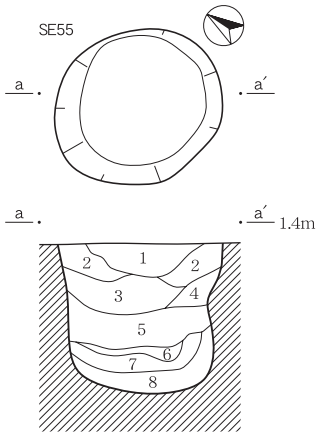


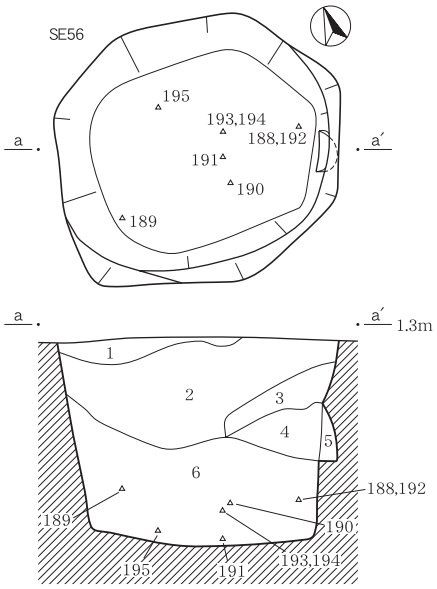
SE33
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土を少量含む、しまり中、粘性中。
2. 黒褐色、粘質土、φ1～3cm程のⅢb層土をブロック状に含む、しまりやや強、粘性中。
3. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土を少量含む、しまり中、粘性中。
4. 黒褐色、粘質土、しまりやや弱、粘性やや強。
5. 黒褐色、粘質土、植物繊維を多量含む、キメが粗い、しまり弱、粘性やや強。
6. 黒褐色、粘質土、φ1～3cm程のⅢb層土をブロック状に含む、しまり弱、粘性中。
7. 植物層、アシ・ヨシ類の堆積。
8. 黒色、粘質土、植物と黒色砂質土を多量含む、しまり弱、粘性中。

SE54
1. 黒褐色、粘質土、灰黄色シルト質砂を縞状に含む、しまり中、粘性強。
2. 黒褐色、粘質土、灰黄色シルト質砂をブロック状に含む、φ0.5cm程の炭化物を含む、しまり中、粘性強。
3. 灰色、粘質土、灰黄色シルト質土をブロック状に含む、しまり中、粘性強。
4. 黒褐色、粘質土、しまり中、粘性強。
5. オリーブ黒色、粘質土、しまり弱、粘性強。
6. オリーブ黒色、腐植土、植物繊維と木片を含む、しまり弱、粘性弱。
7. 灰色、シルト質粘土、Ⅲb層土と3層土を含む、しまり弱、粘性弱。
8. 灰色、シルト質粘土、Ⅲb層土と3層土を含む、しまり弱、粘性弱。
9. 黒褐色、腐植土、植物繊維を含む、しまり弱、粘性弱。
10. 黒褐色、腐植土、植物繊維を含む、腐植の度合が9層より弱、しまり弱、粘性弱。
11. 灰色、シルト質粘土、しまり中、粘性中。
12. 灰色、シルト質粘土、しまり中、粘性中。

0　(1:40)　2m



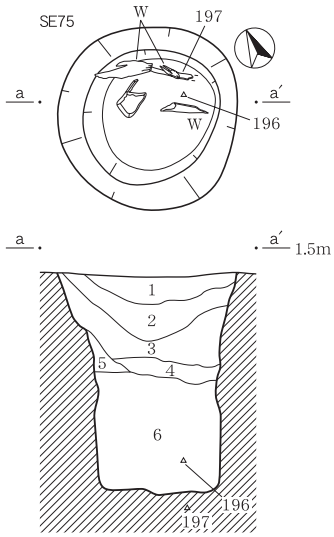


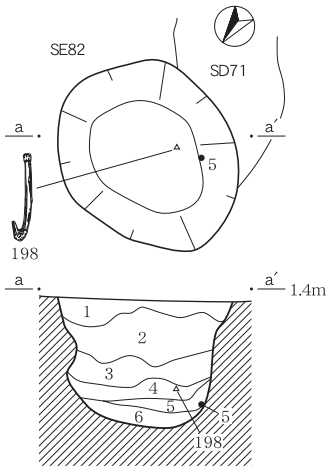


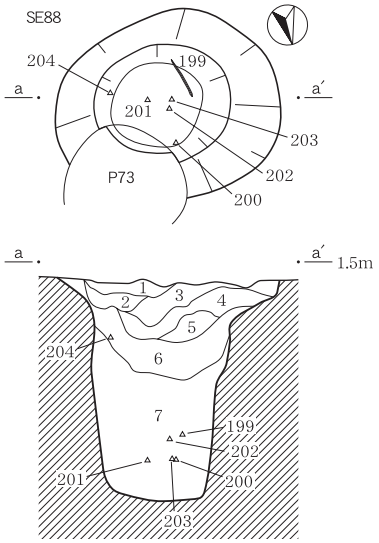
SE55
1. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土と炭化物を少量含む、しまりやや強、粘性中。
2. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土を微量含む、しまりやや強、粘性やや強。
3. 黒褐色、粘質土、φ1～5cm程のⅢb層土をブロック状に多量含む、炭化物を微量含む、しまり中、粘性中。
4. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土を微量含む、しまり中、粘性中。
5. 黒褐色、粘質土、φ1～3cm程のⅢb層土をブロック状に含む、しまり中、粘性やや強。
6. 黒色、炭化物層、しまり弱、粘性弱。
7. 灰オリーブ色、シルト質土、しまりやや弱、粘性やや弱。
8. にぶい赤褐色、植物層(ヨシや木などが厚く堆積)。

SE56
1. 褐灰色、シルト質粘土、灰黄色シルト質土をブロック状に含む、しまり強、粘性強。
2. 黄灰色、粘質土、黒褐色シルト質土をブロック状に含む、しまり中、粘性強。
3. 黒褐色、粘質土、φ5cm程の灰オリーブ色粘土を斑状に含む、しまり弱、粘性強。
4. 黄灰色、粘質土、砂を少量含む、暗灰黄色土を斑状に含む、しまり中、粘性強。
5. 黄灰色、粘質土、暗黄灰色土を4層より多量含む、しまり弱、粘性強。
6. 黒褐色、粘質土、Ⅳ層土を含むが自然堆積土。しまり弱、粘性中。

SE53
1. 褐灰色、粘質土、炭化物を微量含む、しまりやや強、粘性やや弱。
2. 褐灰色、砂質土、Ⅲb層土と炭化物を少量含む、しまり中、粘性弱。
3. 褐灰色、粘質土、φ0.5～2cm程の炭化物を含む、しまりやや弱、粘性中。
4. 炭化物層、褐灰色土を含む、しまり弱、粘性中。
5. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土と炭化物を微量含む、しまり弱、粘性やや強。
6. 褐灰色、粘質土、木片と植物繊維を多量含む、しまり弱、粘性強。
7. 褐灰色、粘質土、しまり弱、粘性強。
8. にぶい赤褐色、植物層。
9. 黒色、炭化した植物層。
10. 褐灰色、シルト質土、しまり弱、粘性やや弱。





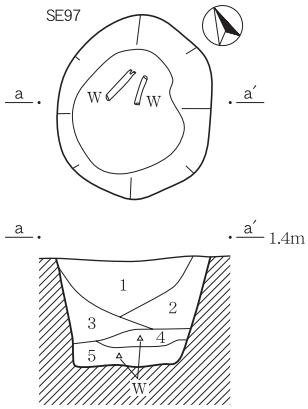


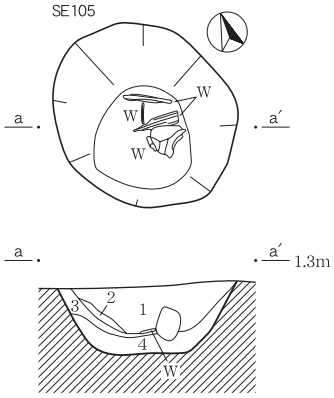
SE82
1. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土を少量含む、しまり強、粘性弱。
2. オリーブ灰色、シルト質土、ブロック主体、黒色土を含む、しまり中、粘性弱。
3. 黒色、粘質土、灰色砂とⅢb層土を含む、しまりやや弱、粘性強。
4. 黒色、粘質土、しまり弱、粘性強。
5. 黒色、炭化した植物層、しまり弱、粘性弱。
6. 黒色、粘質土、灰色砂を微量含む、しまり弱、粘性強。

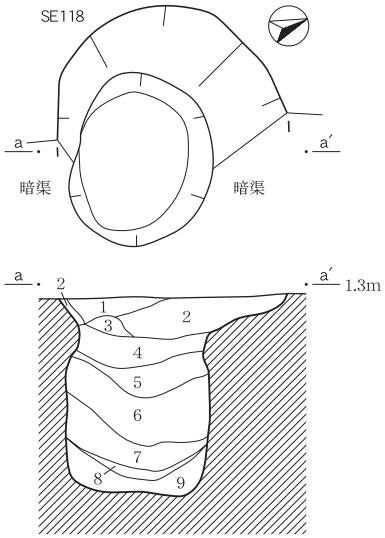
SE88
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土を少量含む、炭化物を多量含む、しまりやや強、粘性弱。
2. 灰色、シルト質土、Ⅲb層土を含む、しまり中、粘性やや弱。
3. 黒色、炭化物層、Ⅲb層土を斑状に含む、しまり強、粘性弱。
4. 灰色、シルト質土、φ1～3cm程のⅢb層土をブロック状に含む、炭化物を含む、しまり中、粘性弱。
5. 灰色、粘質土、φ0.5～2cm程のⅢb層土をブロック状に含む、しまり中、粘性中。
6. 黒色、炭化物層、φ1～5cm程のⅢb層土をブロック状に含む、しまり中、粘性弱。
7. 灰オリーブ色、シルト質土、しまり弱、粘性中。

SE75
1. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土と炭化物を微量含む、しまりやや強、粘性やや弱。
2. 黒褐色、粘質土、炭化物を微量含む、しまりやや弱、粘性やや強。
3. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土を少量含む、しまりやや弱、粘性強。
4. 褐灰色、粘質土、植物繊維を多量含む、しまり弱、粘性やや弱。
5. 灰オリーブ色、砂質シルト、褐灰色土を含む、しまり弱、粘性強。
6. 黒褐色、シルト質土、オリーブ灰色土を含む、しまり弱、粘性強。

0　(1:40)　2m



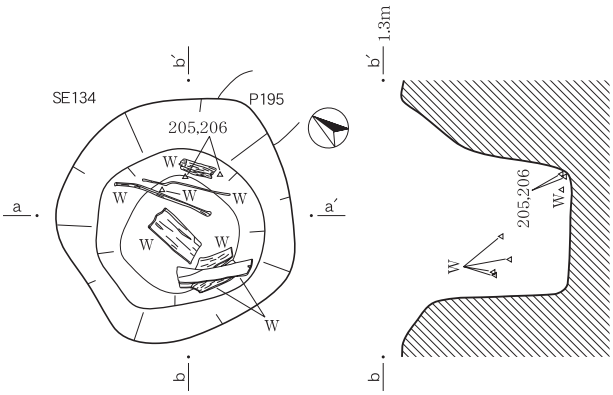


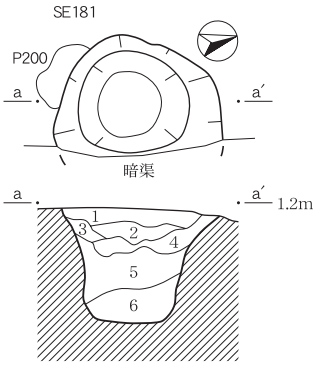


SE97
1. 褐灰色、粘質土、φ0.5～3cm程のⅢb層土をブロック状に含む、炭化物を微量含む、しまりやや強、粘性やや弱。
2. 褐灰色、粘質土、φ1～5cm程のⅢb層土をブロック状に多量含む、しまりやや強、粘性やや弱。
3. 黒褐色、粘質土、しまり中、粘性中。
4. 灰オリーブ色、シルト質土、黒褐色土を含む、しまり中、粘性弱。
5. 黒褐色、粘質土、しまりやや弱、粘性強。

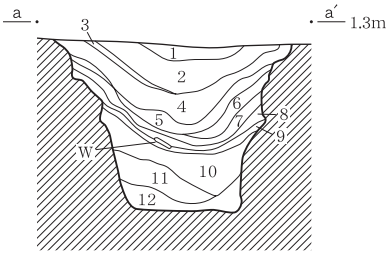
SE105
1. 黒褐色、粘質土、しまり中、粘性強。
2. 褐灰色、シルト質粘土、Ⅲ層土を含む、しまり弱、粘性弱。
3. 黒褐色、粘質土、炭化物を少量含む、しまり中、粘性中。
4. 黒褐色、粘質土、腐植土を含む、しまり弱、粘性中。

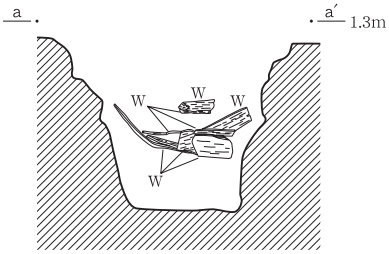
SE118
1. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土を少量含む、炭化物を微量含む、しまり中、粘性やや弱。
2. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土を中量含む、しまりやや強、粘性やや弱。
3. 褐灰色、粘質土、しまり中、粘性中。
4. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土を少量含む、しまり中、粘性中。
5. 褐灰色、粘質土、黒褐色土を含む、Ⅲb層土を少量含む、しまりやや弱、粘性やや強。
6. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土を微量含む、しまりやや弱、粘性中。
7. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土と炭化物を微量含む、しまりやや弱、粘性中。
8. 黒色、炭化物層、しまり弱、粘性弱。
9. 暗灰黄色、粘質土、しまり弱、粘性強。





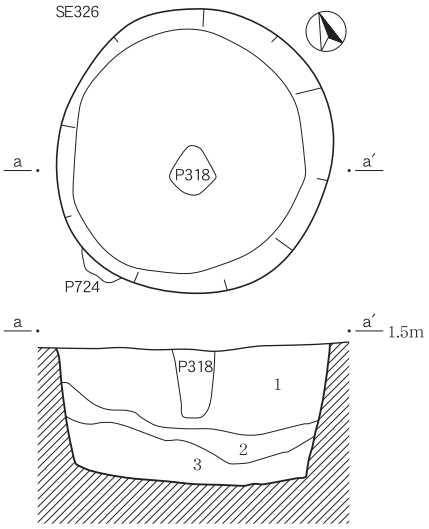
SE181
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土を含む、しまり強、粘性やや弱。
2. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土を微量含む、しまり強、粘性やや弱。
3. 黒色、粘質土、しまりやや強、粘性やや強。
4. 黒色、粘質土、Ⅲb層土を含む、しまりやや強、粘性中。
5. 黒色、粘質土、φ0.5～3cm程のⅢb層土をブロック状に含む、しまりやや強、粘性中。
6. 黒色、粘質土、しまり中、粘性やや強。



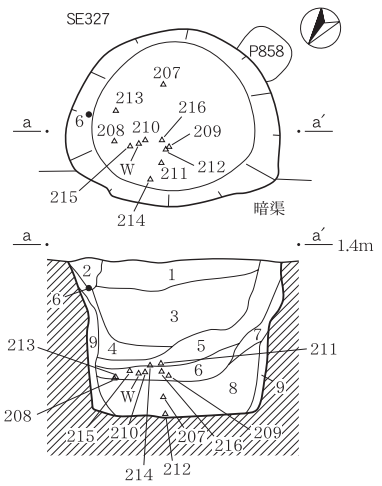


SE134
1. 褐灰色、粘土質シルト、φ0.1cm程の炭化物を微量含む、しまり強、粘性やや強。
2. 黒褐色、粘質土、φ5cm程のⅢb層土をブロック状に微量含む、φ0.1cm程の炭化物を微量含む、しまり強、粘性やや強。
3. 暗緑色、粘質土、φ0.2cm程の炭化物を少量含む、しまりやや強、粘性やや強。
4. 黒褐色、粘質土、φ4cm程のⅢb層土をブロック状に微量含む、φ0.1cm程の炭化物を微量含む、しまり強、粘性強。
5. 黄灰色、粘土質シルト、φ0.3cm程のⅢb層土を粒状に微量含む、φ0.1cm程の炭化物を微量含む、しまりやや強、粘性中。
6. 黒褐色、粘質土、φ0.1cm程の炭化物を微量含む、しまり強、粘性強。
7. 黒色、粘質土、φ0.1cm程の炭化物を微量含む、しまり強、粘性強。
8. 黒褐色、粘土質シルト、φ0.1cm程の炭化物を微量含む、しまりやや強、粘性やや強。
9. 黒色、粘質土、φ0.1cm程の炭化物を微量含む、しまり強、粘性強。
10. 黒褐色、粘質土、φ3cm程のⅢb層土とⅢc層土をブロック状に少量含む、φ0.1cm程の炭化物を微量含む、しまり強、粘性強。
11. 黒褐色、粘土質シルト、φ10cm程のⅢc層土をブロック状に多量含む、φ0.2cm程の炭化物を微量含む、植物繊維を少量含む、しまりやや強、粘性やや強。
12. 暗オリーブ灰色、粘質土、Ⅲc層土を斑状に少量含む、φ0.1cm程の炭化物を微量含む、植物繊維を微量含む、しまりやや強、粘性強。

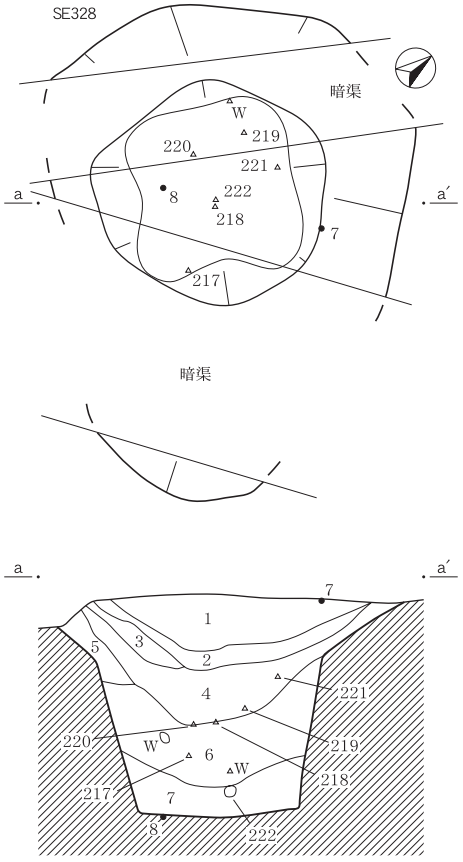
0　(1:40)　2m



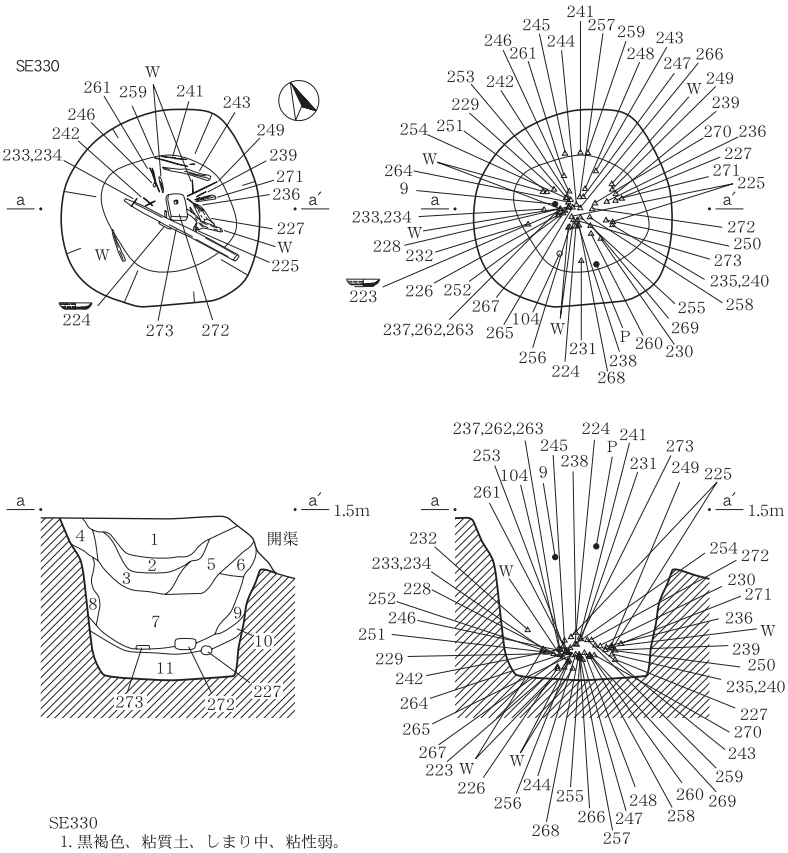
SE326
1. オリーブ黒色、粘質土、Ⅲ層土をブロック状に含む、しまり弱、粘性中。
2. 灰色、砂質シルト、Ⅱb層土をブロック状に含む、しまり弱、粘性弱。
3. 灰色、粘質土、Ⅱb層土を微量含む、しまり弱、粘性強。



SE327
1. 黒褐色、粘質土、Ⅱb層土相当、しまり中、粘性弱。
2. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、しまり中、粘性弱。
3. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土を粒状に含む、しまり中、粘性弱。
4. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、炭化物を含む、しまり弱、粘性中。
5. 黒色、炭化物層、しまり弱、粘性弱。
6. オリーブ黒色、粘質土、しまり弱、粘性強。
7. 黒色、炭化物層、Ⅲb層土を多量含む、しまり弱、粘性弱。
8. オリーブ黒色、粘質土、Ⅲb層土を粒状に含む、しまり弱、粘性強。
9. 灰色、砂質シルト、Ⅲb層土を含む、しまり弱、粘性中。

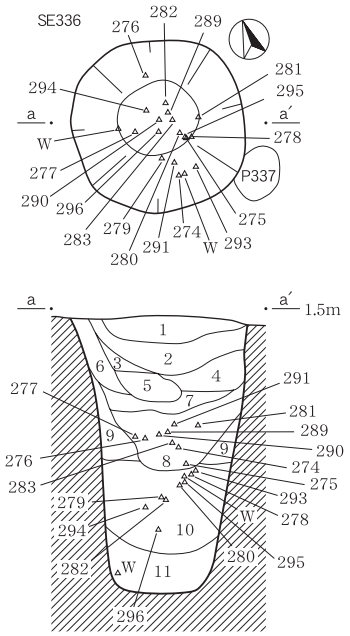


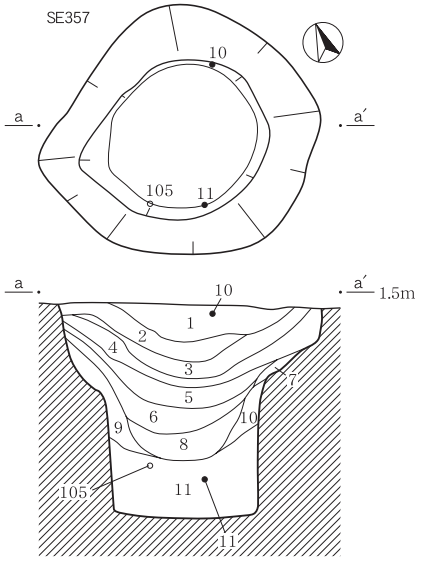
SE328
1. 黄灰色、粘質土、しまり中、粘性中。
2. 暗黄灰色、粘質土、Ⅲb層土を含む、しまり弱、粘性中。
3. 黄灰色、粘質土、しまり中、粘性強。
4. 黒褐色、粘質土、しまり弱、粘性強。
5. 黒褐色、粘質土、炭化物を少量含む、しまり弱、粘性中。
6. 黒褐色、粘質土、炭化物を少量含む、しまり弱、粘性強。
7. 黒褐色、粘質土、しまり弱、粘性強。

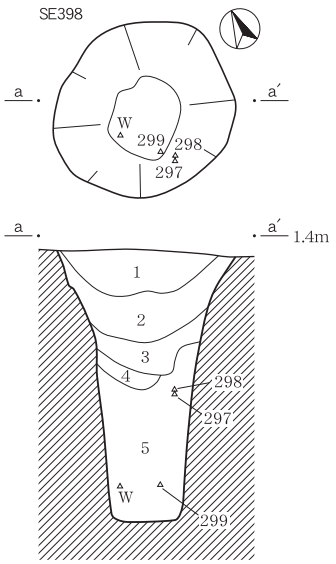


SE330
1. 黒褐色、粘質土、しまり中、粘性弱。
2. 褐灰色、粘質土、しまり弱、粘性強。
3. 黒褐色、粘質土、炭化物を粒状に含む、しまり弱、粘性中。
4. 黒褐色、粘質土、炭化物を粒状に少量含む、しまり弱、粘性中。
5. 黒褐色、粘質土、しまり中、粘性弱。
6. 黒褐色、粘質土、炭化物を多量含む、しまり弱、粘性中。
7. 黒色、炭化物層、しまり弱、粘性中。
8. 黄灰色、粘質土、炭化物を含む、しまり弱、粘性強。
9. 黄灰色、粘質土、しまり弱、粘性中。
10. 黒褐色、粘質土、しまり弱、粘性強。
11. 黄灰色、粘質土、しまり弱、粘性強。

0　(1:40)　2m



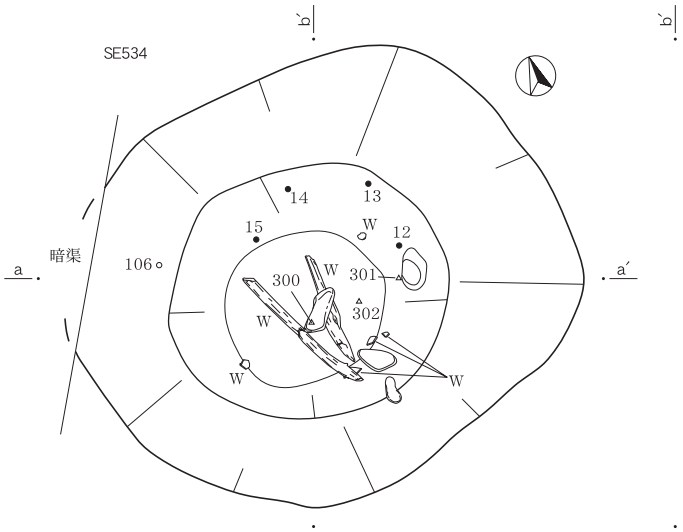


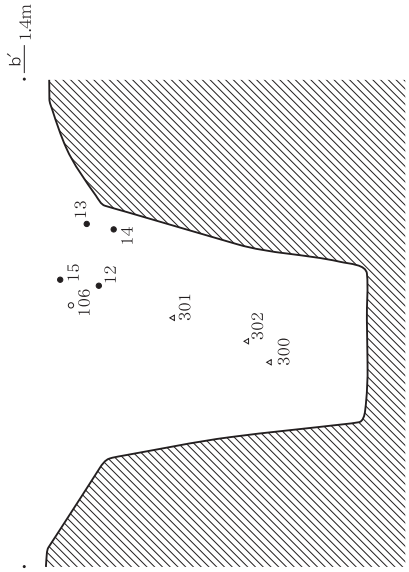


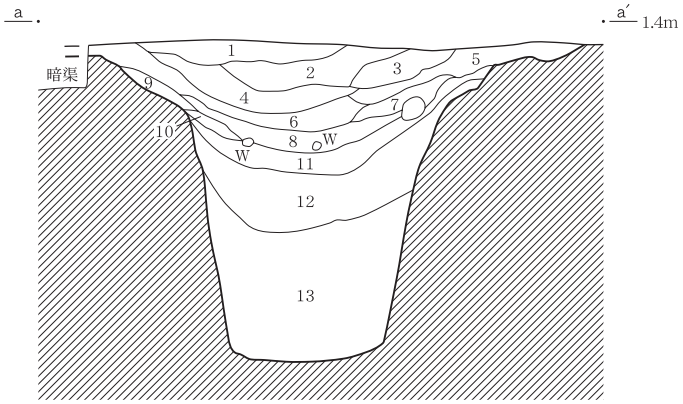
SE336
1. 黄灰色、粘質土、しまり中、粘性中。
2. 黒褐色、炭化物層、しまり弱、粘性弱。
3. 黒褐色、粘質土、しまり弱、粘性強。
4. 黄灰色、粘質土、Ⅲb層土を5層より多量含む、Ⅱb層土と炭化物を含む、しまり弱、粘性中。
5. 黒色、炭化物層、Ⅲb層土を微量含む、しまり弱、粘性弱。
6. 黄灰色、粘質土、Ⅱb層とⅢb層と炭化物を含む、しまり弱、粘性中。
7. 黒褐色、粘質土、しまり弱、粘性中。
8. 黄灰色、シルト質土、Ⅲb層土と炭化物を含む、しまり弱、粘性中。
9. 黒褐色、粘質土、しまり弱、粘性中。
10. 黒褐色、植物腐植層、しまり弱、粘性弱。
11. 黒色、粘質土、植物繊維を多量含む、しまり弱、粘性中。

SE357
1. 灰黄褐色、粘質土、しまり中、粘性中。
2. 黒褐色、粘質土、φ0.5cm程の炭化物を多量含む、しまり中、粘性中。
3. 黒褐色、粘質土、炭化物を2層より多量含む、しまり中、粘性中。
4. 黒褐色、粘質土、φ0.5cm程の炭化物を含む、しまり弱、粘性強。
5. 黒褐色、粘質土、しまり弱、粘性強。
6. 黒褐色、粘質土、砂を少量含む、しまり弱、粘性中。
7. 褐灰色、粘質土、しまり弱、粘性強。
8. 褐灰色、粘質土、しまり弱、粘性強。
9. 黒褐色、砂質土、しまり弱、粘性強。
10. 褐灰色、粘質土、砂を含む、しまり弱、粘性中。
11. 褐灰色、粘質土、砂を多量含む、しまり弱、粘性弱。

SE398
1. 暗灰黄色、粘質土、しまり中、粘性中。
2. 黒褐色、粘質土、Ⅲc層土をブロック状に含む、しまり弱、粘性中。
3. 黒褐色、粘質土、Ⅲc層土を2層より多量含む、しまり弱、粘性強。
4. 黄灰色、粘質土、しまり弱、粘性中。
5. 黒褐色、粘質土、砂を少量含む、しまり弱、粘性強。

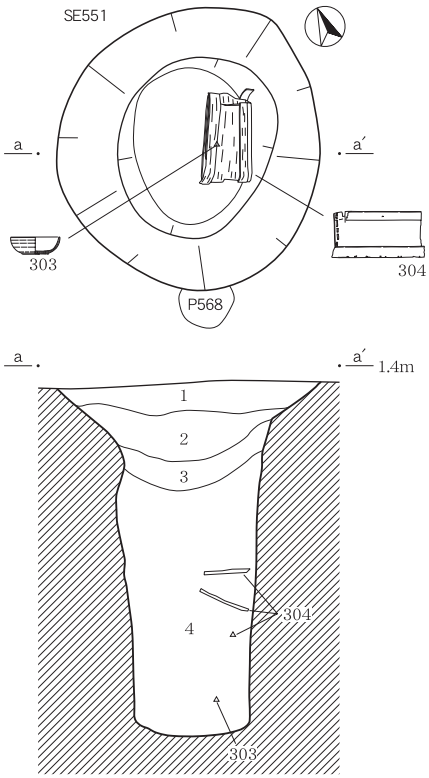




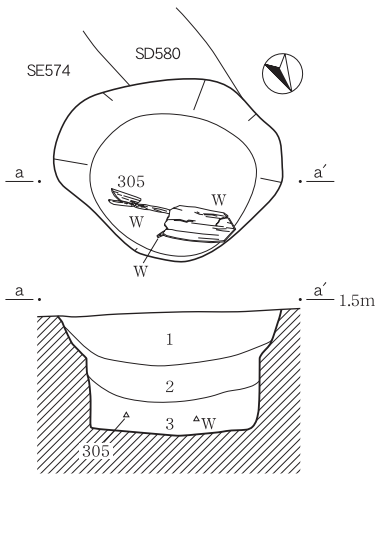


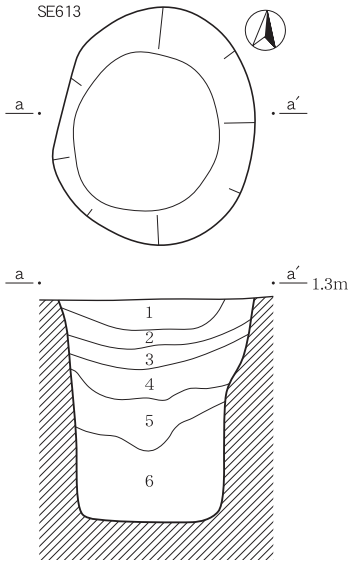
SE534
1. 褐灰色、粘質土、炭化物を微量含む、しまり強、粘性弱。
2. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土を少量含む、しまり強、粘性やや弱。
3. 褐灰色、粘質土、φ0.5～2cm程のⅢb層土をブロック状に含む、しまりやや強、粘性やや弱。
4. 黒褐色、粘質土、しまりやや弱、粘性中。
5. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土を少量含む、しまりやや弱、粘性中。
6. 黒色、粘質土、しまりやや弱、粘性強。
7. 黒褐色、粘質土、Ⅲc層土を少量含む、しまりやや弱、粘性中。
8. 黒褐色、粘質土、しまりやや弱、粘性やや弱。
9. 灰色、粘質土、Ⅲb層土を少量含む、しまり中、粘性やや弱。
10. 灰色、粘質土、しまりやや弱、粘性やや弱。
11. 灰色、粘質土、部分的にⅢb層土をブロック状に多量含む、しまりやや弱、粘性やや弱。
12. 灰色、粘質土、しまりやや弱、粘性中。
13. オリーブ黒色、粘質土、しまり弱、粘性強。

0　(1:40)　2m



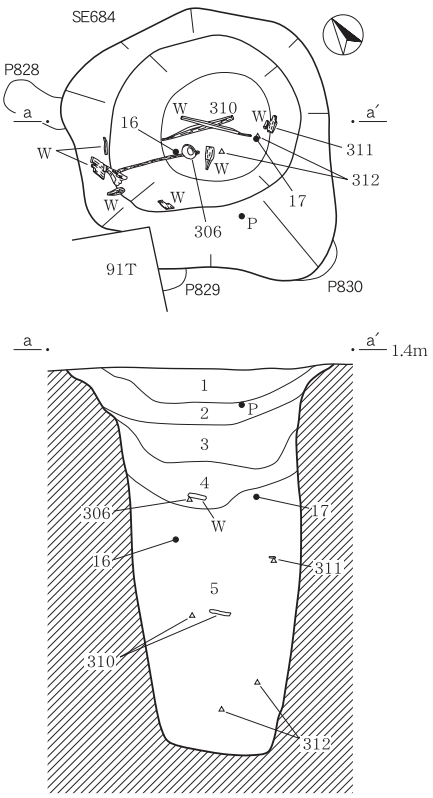
SE551
1. 黒褐色、粘質土、砂を多量含む、炭化物を微量含む、しまり強、粘性弱。
2. 黒褐色、粘質土、砂を含む、炭化物を微量含む、しまり強、粘性やや弱。
3. 黒褐色、粘質土、炭化物を微量含む、しまり中、粘性中。
4. 黒色、粘質土、しまりやや弱、粘性やや強。



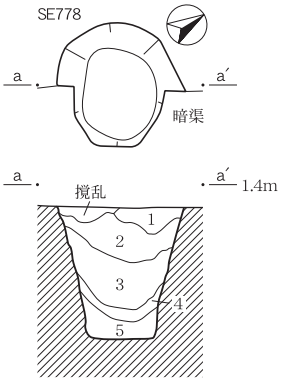


SE574
1. 黒褐色、粘質土、φ0.5～3cm程のⅢb層土をブロック状に少量含む、炭化物を微量含む、しまりやや強、粘性やや強。
2. 黒褐色、粘質土、φ1～4cm程のⅢb層土をブロック状に微量含む、炭化物を微量含む、しまり中、粘性やや強。
3. 黒褐色、粘質土、炭化物を微量含む、しまりやや強、粘性強。

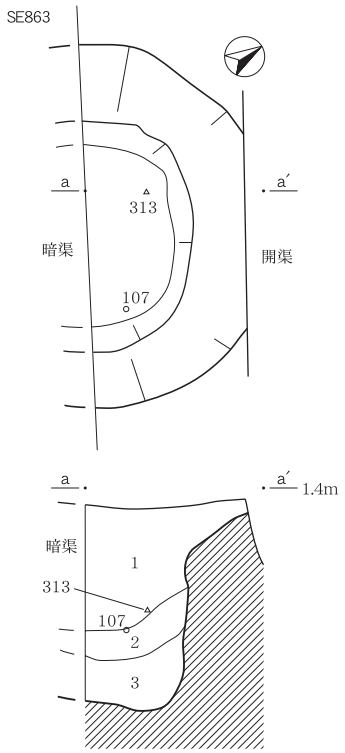
SE613
1. 黒褐色、粘質土、しまり弱、粘性中。
2. 黒褐色、粘質土、1層より色調がやや暗い、しまり弱、粘性中。
3. 黒褐色、粘質土、しまり弱、粘性強。
4. 黒褐色、粘質土、しまり弱、粘性中。
5. 黒褐色、粘質土、砂を含む、しまり弱、粘性中。
6. 黒褐色、シルト質粘土、砂を含む、しまり弱、粘性中。



SE684
1. 褐灰色、粘質土、炭化物を微量含む、しまり強、粘性やや弱。
2. 黒褐色、粘質土、砂と炭化物を微量含む、しまり中、粘性やや弱。
3. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土と炭化物を微量含む、しまりやや弱、粘性中。
4. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土を含む、しまり弱、粘性やや強。
5. 黒褐色、粘質土、アシ・ヨシを多量含む、しまり弱、粘性中。

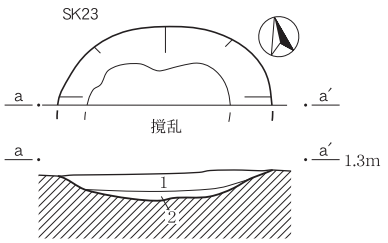


SE778
1. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土を含む、しまり中、粘性中。
2. オリーブ黒色、粘質土、しまり中、粘性中。
3. オリーブ黒色、粘質土、しまり中、粘性中。
4. 黒褐色、植物腐植層、しまり弱、粘性中。
5. 黒褐色、粘質土、しまり弱、粘性中。

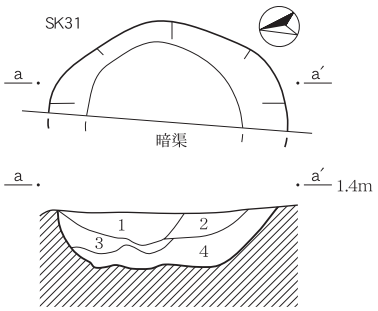


SE863
1. 黒褐色、粘質土、φ0.5cm程の炭化物を含む、しまり中、粘性中。
2. 黄灰色、粘質土、しまり中、粘性中。
3. 黒褐色、粘質土、しまり中、粘性中。

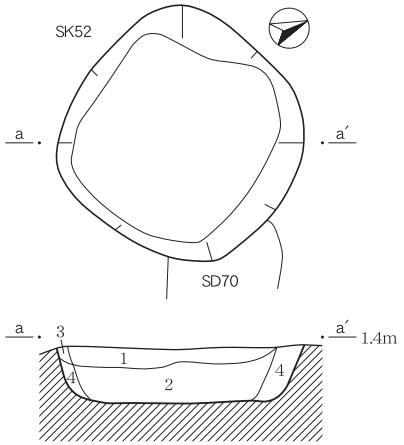
0　(1:40)　2m



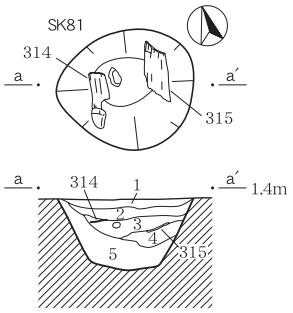
SK23
1. 黒褐色、粘質土、しまり中、粘性やや弱。
2. オリーブ灰色、シルト質土、1層土を少量含む、しまりやや弱、粘性弱。

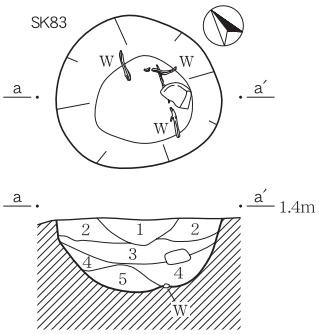


SK31
1. 褐灰色、粘質土、φ1cm～2cm程の黒色土をブロック状に含む、φ0.5～1cm程のⅢb層土をブロック状に含む、しまり中、粘性中。
2. 黒褐色、粘質土、φ0.5cm～1.5cm程の黒色土をブロック状に含む、φ0.5～4cm程のⅢb層土をブロック状に含む、しまり中、粘性やや強。
3. 黒褐色、粘質土、黒色土とⅢb層土を含む、しまりやや弱、粘性中。
4. 褐灰色、粘質土、黒色土を少量含む、φ1～5cm程のⅢb層土をブロック状に含む、しまりやや弱、粘性やや強。



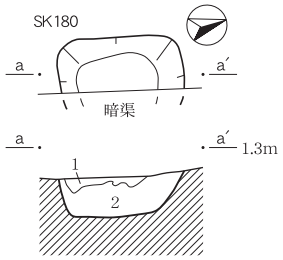
SK52
1. 黒褐色、粘質土、しまり弱、粘性弱。
2. 黒褐色、粘質土、しまり弱、粘性弱。
3. 黄灰色、粘質土、しまり弱、粘性弱。
4. 黄灰色、粘質土、しまり弱、粘性弱。



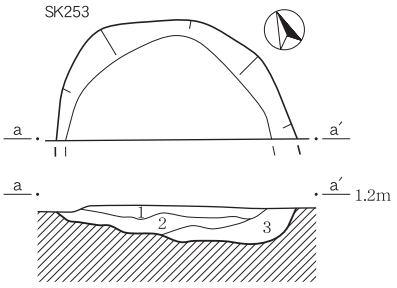


SK81
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土を少量含む、炭化物を微量含む、しまりやや強、粘性やや弱。
2. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土と炭化物を微量含む、しまり中、粘性中。
3. 褐灰色、粘質土、φ0.5～1.5cm程のⅢb層土をブロック状に含む、炭化物を微量含む、しまりやや弱、粘性中。
4. 黒色、粘質土、Ⅲb層土を少量含む、しまり中、粘性中。
5. 灰オリーブ色、粘質土、黒色土を少量含む、しまり弱、粘性強。

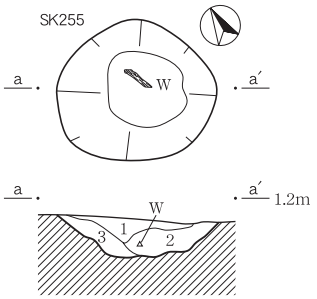
SK83
1. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土を含む、しまり中、粘性中。
2. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土を少量含む、しまり中、粘性やや弱。
3. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土を微量含む、しまりやや弱、粘性中。
4. 黒色、粘質土、しまりやや弱、粘性中。
5. 灰オリーブ色、シルト質土、黒色土を含む、しまりやや弱、粘性弱。



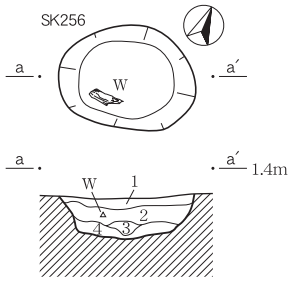
SK180
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土を少量含む、しまり強、粘性やや弱。
2. オリーブ灰色、シルト質土、黒色土を少量含む、淡黄色シルト質土を多量含む、しまり中、粘性中。



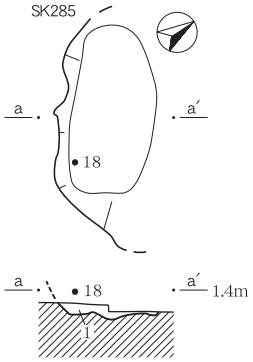
SK253
1. 黒褐色、粘質土、しまり中、粘性中。
2. 灰黄褐色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、しまりやや弱、粘性やや弱。
3. 灰黄褐色、粘質土、しまりやや弱、粘性やや弱。



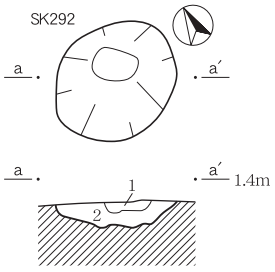
SK255
1. 黒褐色、粘質土、しまり中、粘性中。
2. 褐灰色、粘質土、Ⅱb層土をブロック状に少量含む、しまり中、粘性やや弱。
3. 灰黄褐色、粘質土、しまり中、粘性やや弱。

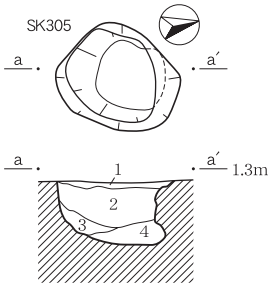


SK256
1. 褐灰色、粘質土、しまり中、粘性中。
2. 黄灰色、粘質土、しまり中、粘性中。
3. 黒褐色、粘質土、しまり中、粘性やや強。
4. 黄灰色、粘質土、しまり中、粘性中。



SK285
1. 黒褐色、粘質土、砂質土を少量含む、しまり中、粘性中。

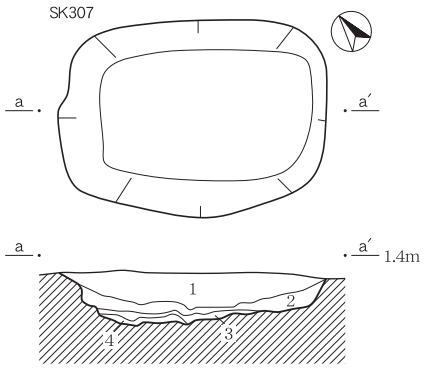




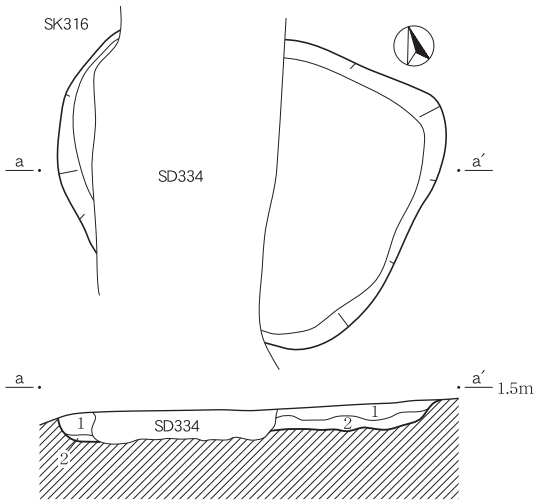
SK292
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、しまり中、粘性中。
2. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、しまり中、粘性中。

SK305
1. 黒褐色、粘質土、しまり中、粘性中。
2. 灰黄褐色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、しまり中、粘性中。
3. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、しまり中、粘性中。
4. 黒褐色、粘質土、しまり中、粘性やや強。

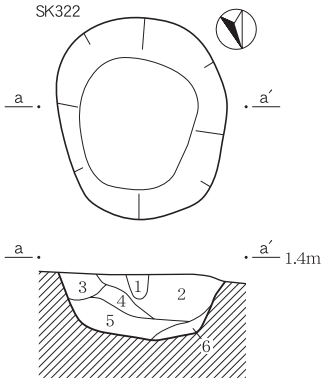
0　(1:40)　2m

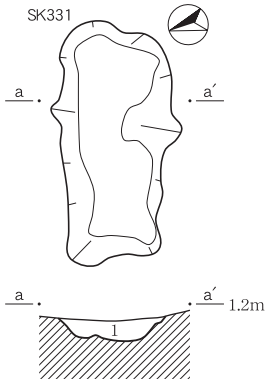


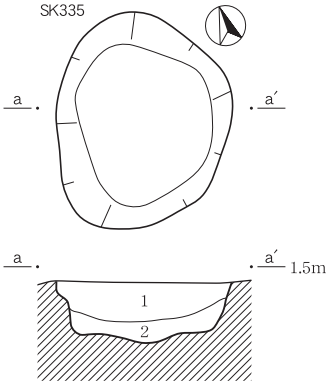
SK307
1. 黒褐色、粘質土、φ1～4cm程のⅢb層土をブロック状に多量含む、炭化物を微量含む、しまり中、粘性中。
2. 褐灰色、粘質土、灰白色シルト質土を上層中心に少量含む、φ4cm程のⅢb層土をブロック状に少量含む、炭化物を微量含む、しまり中、粘性中。
3. 灰白色、シルト主体、炭化物を微量含む、しまり弱、粘性弱。
4. 灰黄褐色、粘質土、炭化物を微量含む、しまり中、粘性中。



SK316
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、しまり中、粘性中。
2. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、しまり中、粘性中。



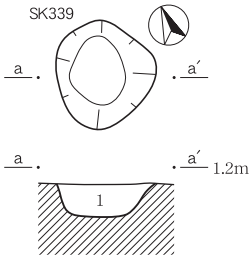


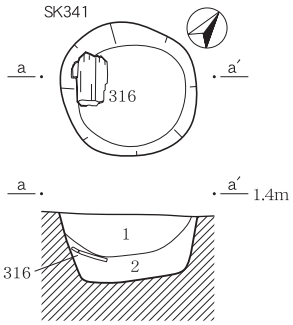


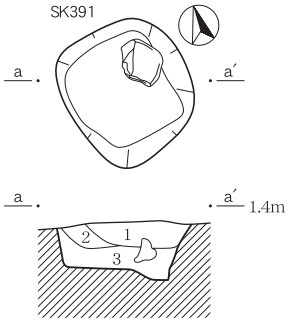
SK322
1. オリーブ黒色、粘質土、しまり弱、粘性中。
2. 灰オリーブ色、砂質シルト、1層土を斑状に含む、しまり弱、粘性弱。
3. 灰オリーブ色、砂質シルト、Ⅲb層土を斑状に多量含む、しまり弱、粘性弱。
4. オリーブ黒色、粘質土、砂を多量含む、しまり弱、粘性中。
5. オリーブ黒色、砂質シルト、Ⅲb層土を縞状に含む、しまり弱、粘性中。
6. オリーブ黒色、砂質シルト、Ⅲb層土を縞状に含む、しまり弱、粘性中。

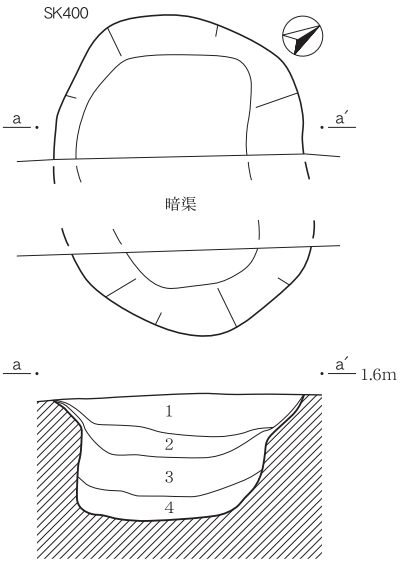
SK331
1. 黒褐色、粘質土、しまりやや強、粘性やや強。

SK335
1. 褐灰色、粘質土、しまりやや強、粘性やや弱。
2. 灰色、シルト質土、灰白色砂をラミナ状に含む、しまり中、粘性弱。









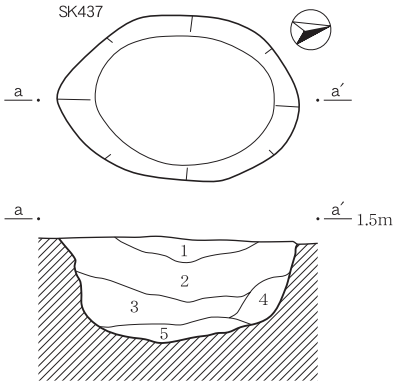
SK339
1. 黒褐色、粘質土、しまり中、粘性中。

SK341
1. 黒褐色、粘質土、しまり中、粘性弱。
2. 黒褐色、粘質土、1層より色調がやや暗い、炭化物を微量含む、しまり弱、粘性強。

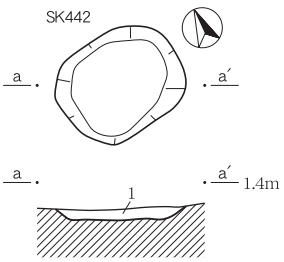
SK391
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土を含む、しまり弱、粘性中。
2. 黒褐色、粘質土、しまり中、粘性中。
3. 黒褐色、粘質土、砂を少量含む、Ⅲb層土をブロック状に含む、しまり弱、粘性弱。

SK400
1. 褐灰色、粘質土、しまり強、粘性やや弱。
2. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土を少量含む、しまりやや強、粘性中。
3. 灰色、粘質土、青灰色土を含む、しまりやや弱、粘性中。
4. 灰色、粘質土、青灰色土と砂を含む、しまり弱、粘性やや強。

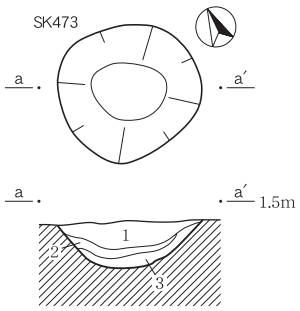
0　(1:40)　2m



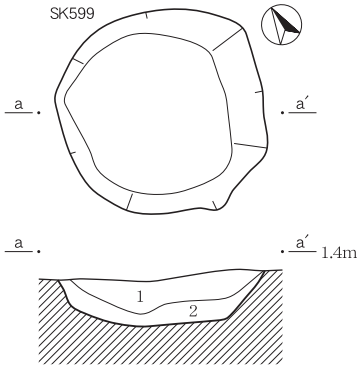
SK437
1. 褐灰色、粘質土、砂を含む、下層に浅黄色粘土を含む、しまり強、粘性弱。
2. 褐灰色、粘質土、砂とⅢb層土を少量含む、しまり中、粘性中。
3. 灰色、粘質土、砂とⅢb層土を微量含む、しまり中、粘性やや強。
4. 灰オリーブ色、シルト質土、褐灰色土とⅣ層土を含む、しまりやや強、 粘性弱。
5. オリーブ黒色、砂、灰色土とⅣ層土を少量含む、しまりやや強、 粘性弱。



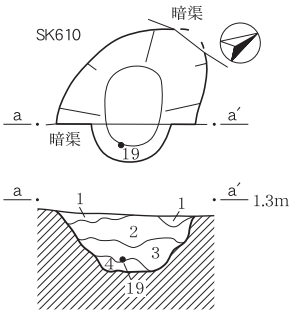
SK442
1. 褐灰色、粘質土、Ⅱb層土をブロック状に含む、しまり中、粘性やや弱。



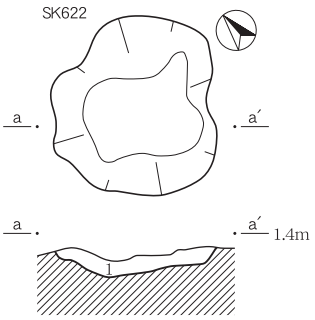
SK473
1. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土を少量含む、しまり強、粘性やや弱。
2. 灰色、粘質土、Ⅲb層土を含む、しまり弱、粘性中。
3. 灰色、シルト質土、Ⅲb層土を含む、しまり中、粘性弱。



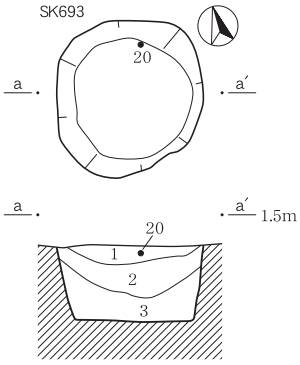
SK599
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土を含む、しまり弱、粘性中。
2. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土を1層より多量含む、しまり弱、粘性中。



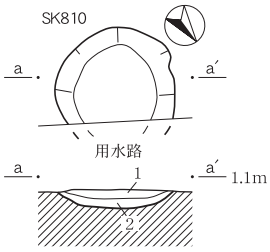
SK610
1. 褐灰色、粘質土、しまり中、粘性中。
2. 黒褐色、粘質土、しまり中、粘性中。
3. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、しまり中、粘性中。
4. 褐灰色、粘質土、しまり中、粘性中。



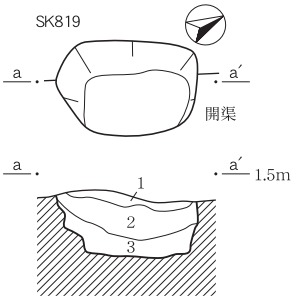
SK622
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土を少量含む、しまり強、粘性弱。



SK693
1. 黒色、粘質土、しまり中、粘性中。
2. 黒褐色、粘質土、しまり中、粘性中。
3. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、しまり中、粘性中。

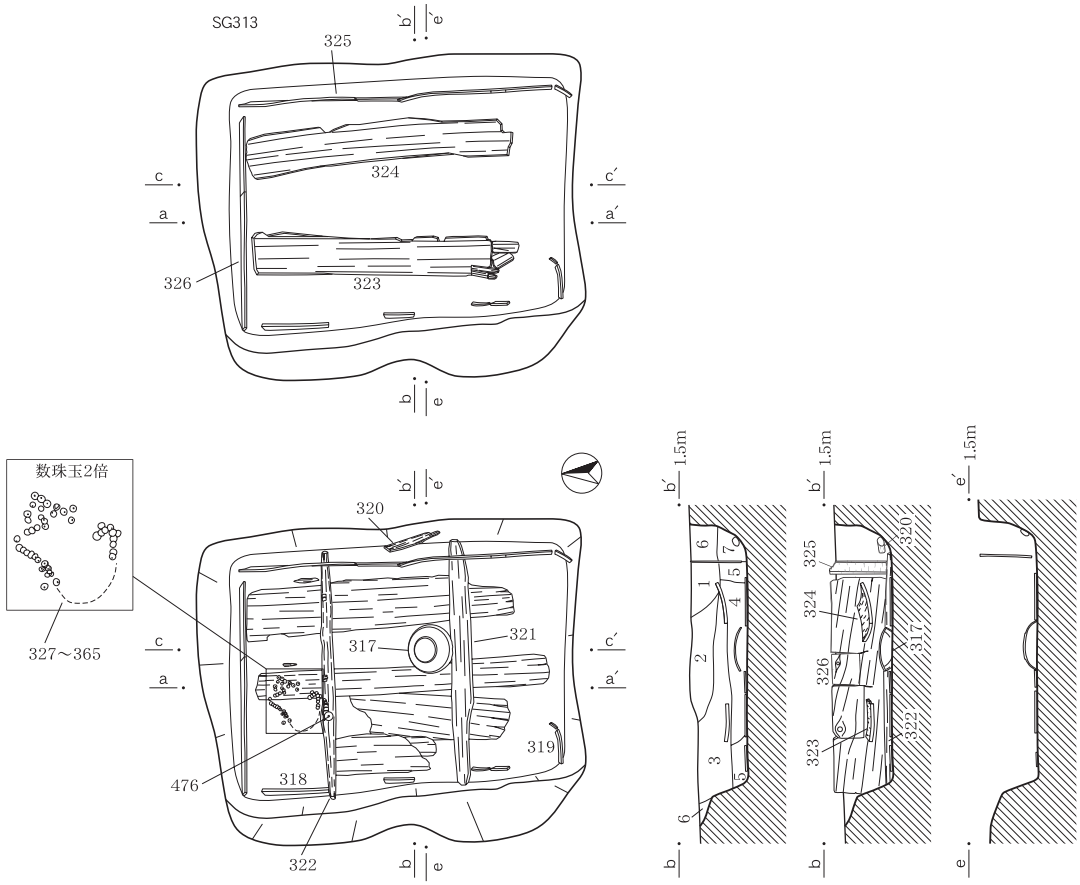


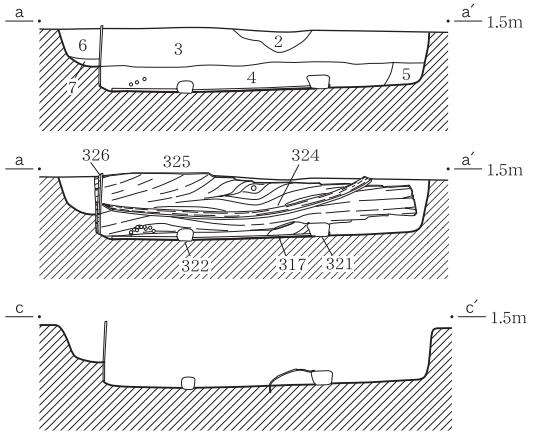
SK810
1. 黒褐色、粘質土、しまりやや強、粘性やや強。
2. 黒褐色、シルト質土、φ0.1cm程の炭化物を微量含む、しまり中、粘性中。



SK819
1. 黒褐色、粘質土、φ0.5cm程の炭化物を微量含む、しまりやや強、粘性強。
2. 褐灰色、シルト質土、Ⅲb層土をブロック状に少量含む、φ0.3cm程の炭化物を微量含む、しまり中、粘性中。
3. 灰黄褐色、シルト質土、黒褐色土をブロック状に微量含む、φ0.1cm程の炭化物を微量含む、しまりやや弱、粘性やや弱。

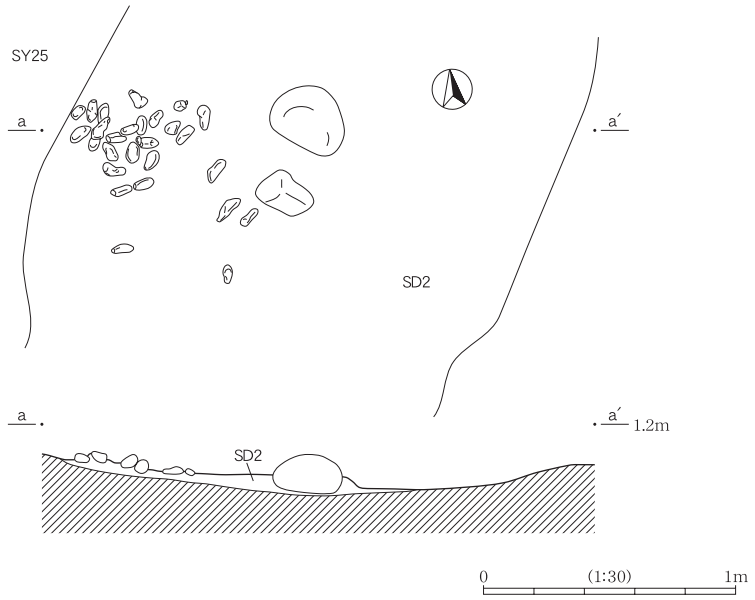
0　(1:40)　2m

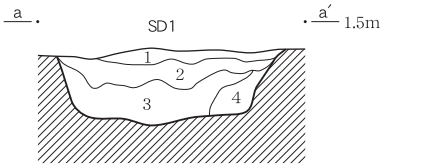


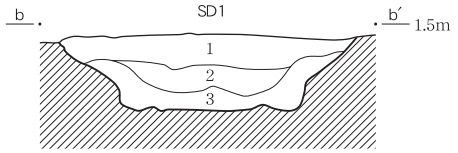


SG313
1. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土を少量含む、しまりやや強、粘性弱。
2. 褐灰色、粘質土、φ0.5～3cm程のⅢb層土をブロック状に多量含む、しまり中、粘性弱。
3. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土を少量含む、しまりやや強、粘性弱。
4. 灰色、粘質土、Ⅲb層土を少量含む、しまりやや弱、粘性やや強。
5. 灰オリーブ色、シルト質土、褐灰色土を少量含む、しまりやや強、粘性弱。
6. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土を含む、しまり中、粘性やや弱。
7. 灰オリーブ色、シルト質土、褐灰色土を少量含む、しまりやや強、粘性弱。

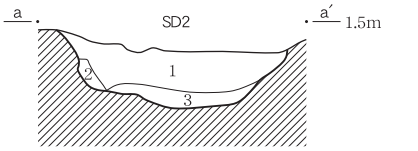
0 (1:20) 1m

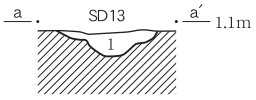


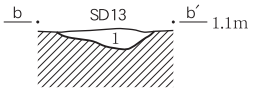


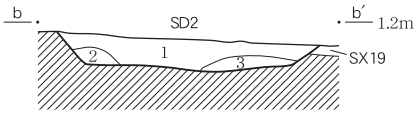


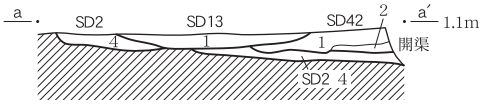
SD1
1. 黒褐色、粘質土、しまりやや弱、粘性中。
2. 黄灰色、粘質土、しまりやや弱、粘性中。
3. 灰色、シルト質土、しまり中、粘性やや弱。
4. 灰オリーブ色、シルト質土、黒色土をブロック状に含む、しまり中、粘性やや弱。







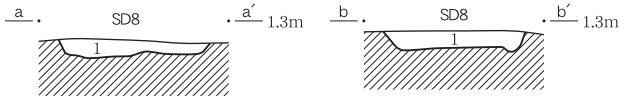




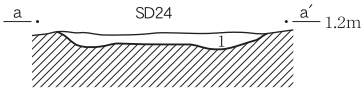
SD2
1. 黄灰色、粘質土、微細な炭化物を含む、しまり強、粘性強。
2. 黄灰色、砂質シルト、1層土を斑状に含む、しまり弱、粘性中。
3. 黄灰色、砂質シルト、しまり弱、粘性中。
4. 黒褐色、粘質土、灰オリーブ色シルト質粘土をブロック状に含む、しまり中、粘性中。

SD13
1. 黒褐色、粘質土、φ0.5cm程の砂質シルトを微量含む、φ0.2cm程の炭化物を微量含む、しまり強、粘性強。

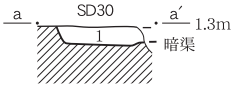
SD42
1. 黒褐色、粘質土、しまり強、粘性強。
2. 黄灰色、粘性土、しまり強、粘性強。



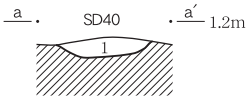
SD8
1. 黒褐色、粘質土、炭化物を少量含む、しまり強、粘性中。



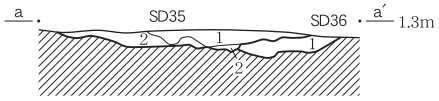
SD24
1. 褐灰色、シルト質粘土、灰白色粘土質シルトを含む、しまり中、粘性強。

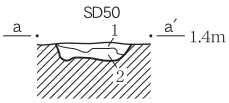


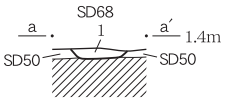
SD30
1. 黒褐色、粘質土、しまりやや強、粘性やや弱。



SD40
1. 黒褐色、粘質土、灰黄色シルト質土を含む、木片を含む、しまり強、粘性弱。





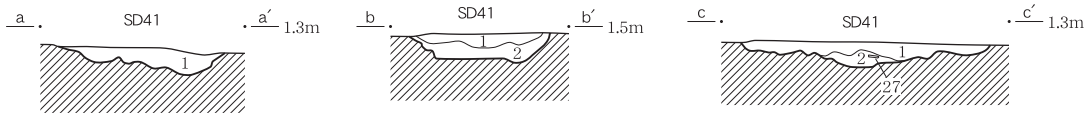


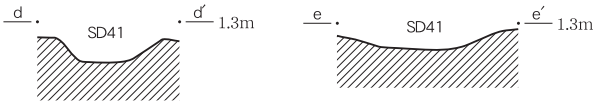
SD35
1. 黒褐色、粘質土、φ0.5cm程の砂質シルトを微量含む、しまり強、粘性強。
2. 灰黄褐色、砂質シルト、1層土を多量含む、しまり中、粘性やや強。

SD36
1. 褐灰色、粘質土、砂質シルトを斑状に少量含む、φ0.1cm程の炭化物を微量含む、しまりやや強、粘性やや強。

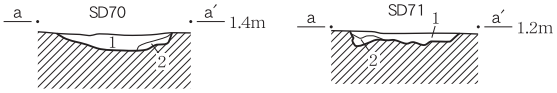
SD50
1. 黒褐色、粘質土、しまりやや弱、粘性中。
2. 灰色、シルト質土、しまりやや弱、粘性やや弱。

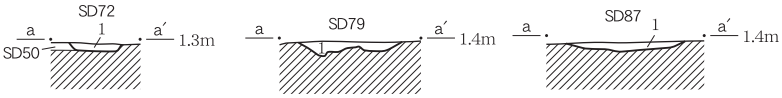
SD68
1. 黒褐色、粘質土、φ1～5cm程のⅢb層土をブロック状に含む、しまりやや強、粘性やや弱。





SD41
1. 黒褐色、粘質土、φ4cm程の砂質シルトを少量含む、φ0.1cm程の炭化物を微量含む、しまりやや強、粘性やや強。
2. 褐灰色、粘土質シルト、φ3cm程の砂質シルトを少量含む、φ0.1cm程の炭化物を微量含む、しまりやや弱、粘性やや弱。





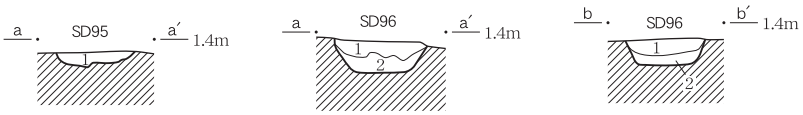
SD70
1. 黒褐色、粘質土、しまりやや強、粘性やや強。
2. 黄灰色、粘質土、しまりやや強、粘性やや強。

SD71
1. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土を多量含む、しまり強、粘性弱。
2. オリーブ灰色、シルト質土、褐灰色土を含む、しまり強、粘性弱。

SD72
1. 黒褐色、粘質土、φ1～5cm程のⅢb層土をブロック状に含む、しまりやや強、粘性中。

SD79
1. 褐灰色、粘質土、φ1～3cm程のⅢb層土をブロック状に多量含む、しまり強、粘性やや弱。

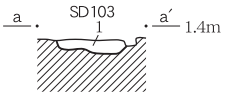
SD87
1. 黒褐色、粘質土、しまり中、粘性中。

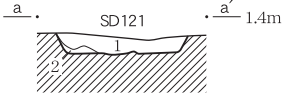


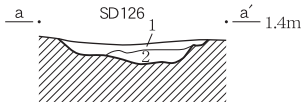
SD95
1. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土を多量含む、しまり強、粘性やや弱。

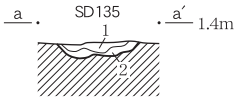
SD96
1. 黒褐色、粘質土、しまり中、粘性中。
2. 暗灰黄色、シルト質粘土、1層土を斑状に含む、しまり中、粘性弱。

0　(1:40)　2m







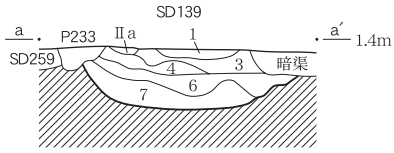


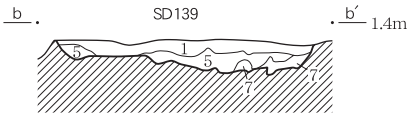
SD103
1. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土を含む、しまり強、粘性弱。

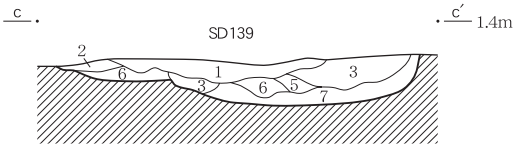
SD121
1. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土を含む、しまりやや強、粘性中。
2. 灰オリーブ色、シルト質土、褐灰色土を少量含む、しまり中、粘性やや弱。

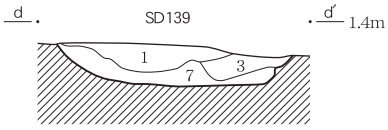
SD126
1. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土を少量含む、しまりやや強、粘性やや弱。
2. 灰オリーブ色、粘質土、褐灰色土を少量含む、しまり中、粘性中。

SD135
1. 褐灰色、粘質土、φ0.1cm程の炭化物を微量含む、しまり強、粘性強。
2. 灰黄褐色、砂質シルト、1層の粘質土を斑状に少量含む、φ0.1cm程の炭化物を微量含む、しまりやや強、粘性中。

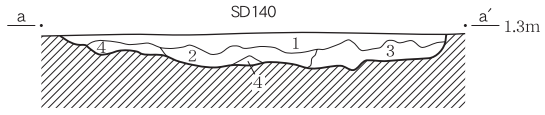


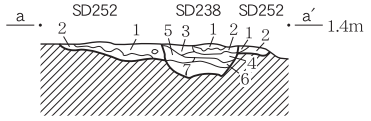


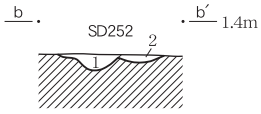


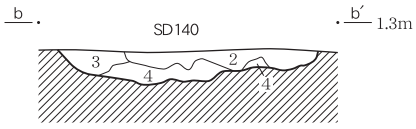


SD139
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土と炭化物を微量含む、しまり強、粘性やや弱。
2. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土を含む、しまり強、粘性弱。
3. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土を多量含む、しまりやや強、粘性やや弱。
4. 黒褐色、粘質土、褐灰色を多量含む、Ⅲb層土を含む、しまり中、粘性やや弱。
5. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土を多量含む、しまり中、粘性やや弱。
6. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土と炭化物を微量含む、しまり中、粘性中。
7. 灰オリーブ色、シルト質土、褐灰色土を含む、しまり中、粘性弱。





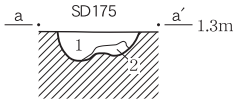


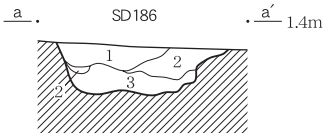


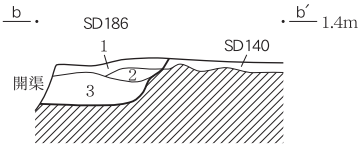
SD140
1. 黒褐色、粘質土、φ0.5～3cm程のⅢb層土をブロック状に含む、しまり強、粘性やや弱。
2. 褐灰色、粘質土、φ0.5～3cm程のⅢb層土をブロック状に含む、しまり強、粘性やや弱。
3. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土を微量含む、しまり強、粘性やや弱。
4. 灰オリーブ色、シルト質土、褐灰色土を少量含む、しまり強、粘性弱。

SD238
1. 黒褐色、粘質土、微細な砂を微量含む、しまりやや強、粘性やや強。
2. 褐灰色、粘質土、しまりやや強、粘性強。
3. 褐灰色、粘質土、粗粒砂質土と砂質土を微量含む、しまりやや弱、粘性弱。
4. 黒褐色、粘質土、微細な砂を微量含む、しまりやや強、粘性中。
5. 灰黄褐色、粘質土、粗粒砂質土を多量含む、炭化物を微量含む、しまりやや弱、粘性やや弱。
6. 黒褐色、粘質土、しまり強、粘性強。
7. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土を斑状に多量含む、しまりやや弱、粘性やや強。

SD252
1. 褐灰色、粘質土、しまり強、粘性やや強。
2. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に少量含む、しまりやや強、粘性やや強。

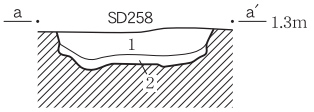


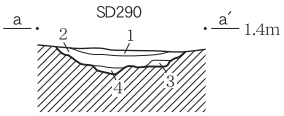


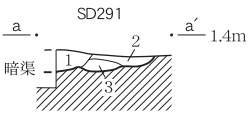


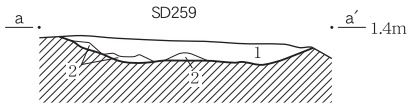
SD175
1. 黒褐色、粘質土、φ5cm程のⅢb層土をブロック状に含む、しまりやや強、粘性中。
2. 黄灰色、シルト質土、しまりやや弱、粘性やや弱。

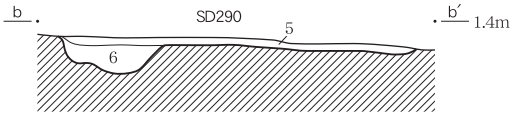
SD186
1. 黒褐色、粘質土、φ2cm程のⅢb層土をブロック状に含む、しまりやや強、粘性やや強。
2. 黒褐色、粘質土、φ2cm程のⅢb層土を含む、しまりやや強、粘性やや強。
3. 暗灰黄色、粘質土、黒色土とφ2～5cm程のⅢb層土とⅡc層土を含む、しまりやや強、粘性中。

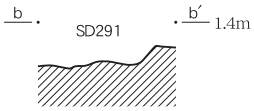










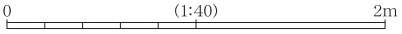


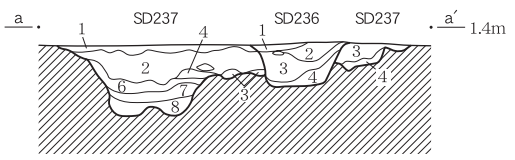
SD258
1. 黒色、粘質土、しまり中、粘性中。
2. 黄灰色、粘質土、しまり中、粘性やや強。

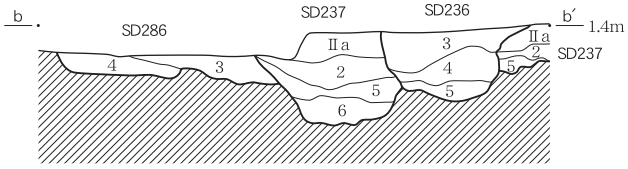
SD259
1. 黒褐色、粘質土、しまり中、粘性中。
2. 褐灰色、粘質土、しまり中、粘性中。

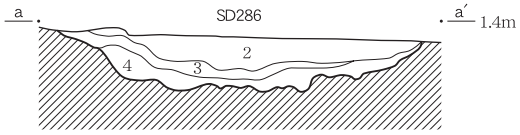
SD290
1. 黄灰色、粘質土、しまり中、粘性中。
2. 黄灰色、粘質土、しまり中、粘性中。
3. 黄灰色、粘質土、しまり中、粘性やや弱。
4. 黄灰色、粘質土、しまり中、粘性中。
5. 黒褐色、粘質土、φ0.5cm程の炭化物を少量含む、しまり中、粘性中。
6. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、しまり中、粘性中。

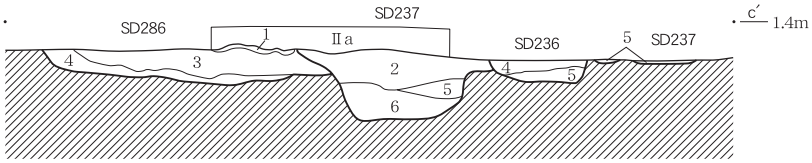
SD291
1. 黒褐色、粘質土、白色ブロックを多量含む、しまり中、粘性中。
2. 灰黄褐色、粘質土、白色ブロックを少量含む、しまり中、粘性中。
3. 褐灰色、粘質土、白色ブロックを多量含む、しまり中、粘性やや弱。

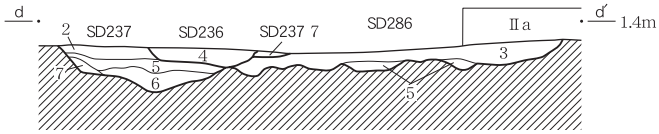


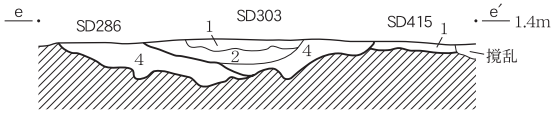


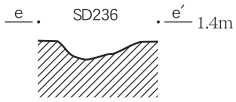








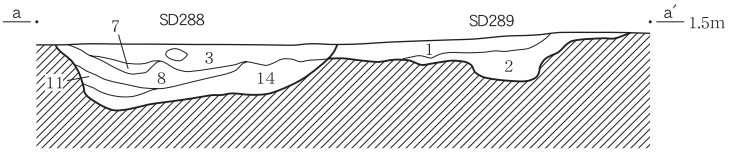


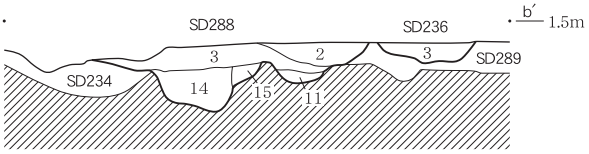


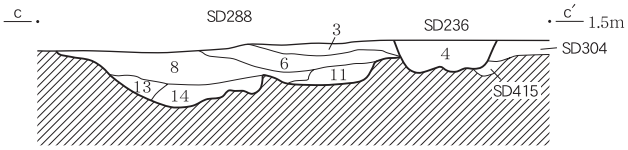
SD236
1. 黒褐色、粘質土、粗粒砂と炭化物を微量含む、しまり中、粘性やや強。
2. 黒褐色、粘質土、粗粒砂を多量含む、しまり弱、粘性やや弱。
3. 褐灰色、粘質土、粗粒砂と炭化物を微量含む、しまりやや強、粘性強。
4. 黒褐色、粘質土、φ2cm程のⅢb層土をブロック状に少量含む、粗粒砂と炭化物を微量含む、しまりやや強、粘性強。
5. 灰黄褐色、シルト質土、黒褐色土を微量含む、しまり中、粘性やや弱。

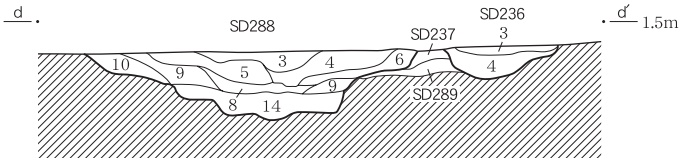
SD237
1. 黒褐色、粘質土、粘土質シルトと炭化物を微量含む、しまりやや強、粘性やや強。
2. 褐灰色、粘質土、炭化物を微量含む、しまり強、粘性強。
3. 黒褐色、粘質土、黒色土とⅢb層土をブロック状に少量含む、炭化物を微量含む、しまりやや強、粘性やや強。
4. 褐灰色、粘土質シルト、黒褐色土をブロック状に少量含む、しまりやや弱、粘性やや弱。
5. 黒色、粘質土、φ1～2cm程のⅢb層土をブロック状に少量含む、しまり強、粘性強。
6. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に少量含む、炭化物を微量含む、しまり強、粘性強。
7. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、炭化物を微量含む、しまり強、粘性強。
8. 褐灰色、粘質土、黒色土を粒状に少量含む、炭化物を微量含む、しまり強、粘性強。

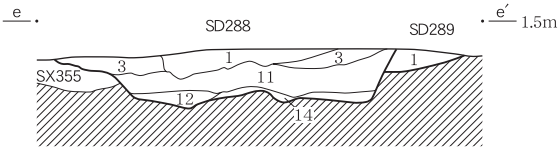
SD286
1. 黒褐色、粘質土、炭化物を少量含む、しまりやや強、粘性やや強。
2. 褐灰色、粘質土、灰白色砂質シルトと細粒砂と炭化物を微量含む、しまりやや強、粘性強。
3. 灰黄褐色、粘土質シルト、炭化物を微量含む、しまりやや強、粘性やや強。
4. 褐灰色、粘質土、灰黄褐色シルト質土をブロック状に少量含む、炭化物を微量含む、しまり強、粘性強。
5. 灰黄褐色、粘質土、φ0.2～0.5cm程のにぶい黄橙色土を粒状に多量含む、炭化物を微量含む、しまり強、粘性強。

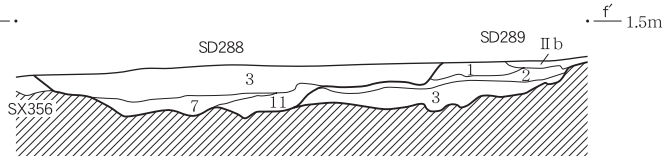


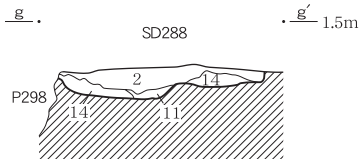


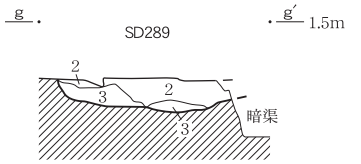








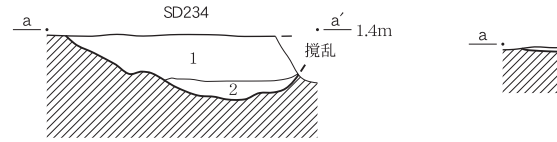


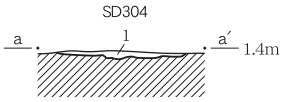


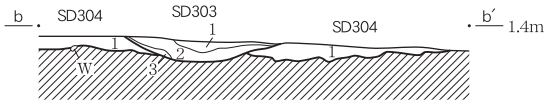
SD288
1. 灰黄色、シルト質土、褐灰色土を含む、しまり中、粘性弱。
2. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土を含む、黒色土を微量含む、下層に砂堆積、しまり中、粘性やや弱。
3. 褐灰色、粘質土、φ1～3cm程のⅢb層土をブロック状に微量含む、しまり中、粘性やや弱。
4. 黒褐色、粘質土、黒色土とⅢb層土を微量含む、しまり中、粘性やや弱。
5. 褐灰色、粘質土、φ1～10cm程の黒褐色土を少量含む、Ⅲb層土を粒状に含む、しまり中、粘性やや弱。
6. 黒褐色、粘質土、黒色土を少量含む、黄灰色土を含む、しまり中、粘性弱。
7. 灰黄色、シルト質土、黒褐色土を少量含む、しまりやや弱、粘性弱。
8. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土を微量含む、しまりやや弱、粘性中。
9. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土を含む、しまり中、粘性やや弱。
10. 黄灰色、砂質シルト、褐灰色土を少量含む、しまり中、粘性弱。
11. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土を含む、黒色土を微量含む、しまりやや弱、粘性強。
12. 褐灰色、粘質土、φ2～5cm程のⅢb層土をブロック状に少量含む、しまり中、粘性中。
13. 黄灰色、粘質土、しまりやや弱、粘性やや弱。
14. 黄灰色、砂質シルト、φ1～3cm程のⅢb層土をブロック状に多量含む、しまり中、粘性弱。
15. 灰黄色、シルト質土、褐灰色砂質シルトを少量含む、しまりやや弱、粘性弱。

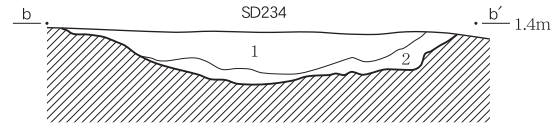
SD289
1. 灰黄色、粘質土、褐灰色土を少量含む、しまり中、粘性やや弱。
2. 褐灰色、粘質土、φ1～3cm程のⅢb層土をブロック状に微量含む、しまり中、粘性やや弱。
3. 灰黄色、シルト質土、黒褐色土を少量含む、しまりやや弱、粘性弱。

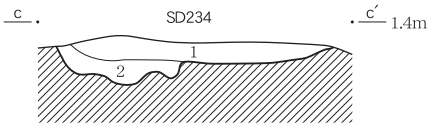
0　(1:40)　2m







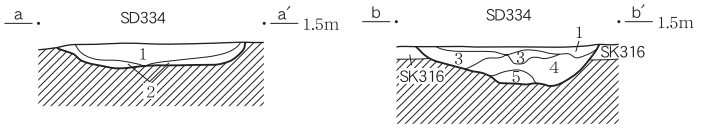




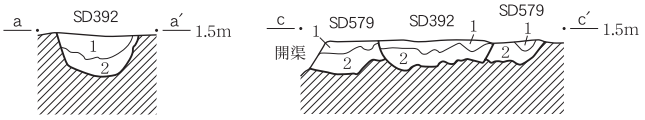
SD234
1. 褐灰色、粘質土、しまり中、粘性中。
2. 灰黄色、シルト質土、褐灰色土を含む、しまりやや弱、粘性やや弱。

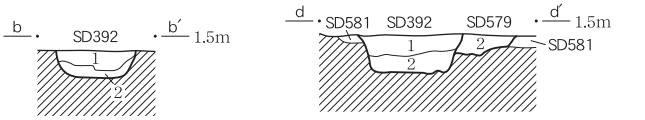
SD303
1. 黒褐色、粘質土、φ0.1～0.5cm程のⅢb層土を粒状に微量含む、炭化物を微量含む、しまりやや強、粘性やや強。
2. 灰黄褐色、シルト質土、黒褐色土を少量含む、炭化物を微量含む、しまり中、粘性中。
3. 黒褐色、粘質土、細粒砂を粒状に少量含む、しまり中、粘性中。
4. 黒褐色、粘質土、灰黄褐色シルト質土を縞状に微量含む、炭化物を微量含む、しまりやや強、粘性やや強。

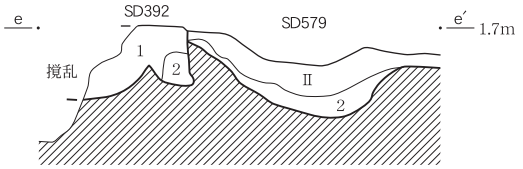
SD304
1. 褐灰色、シルト質土、砂質土を多量含む、しまり弱、粘性弱。

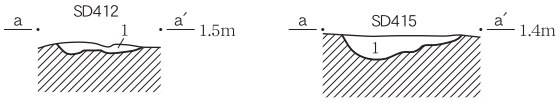


SD334
1. 黒褐色、粘質土、φ0.5cm程の炭化物を中量含む、しまり中、粘性中。
2. 灰オリーブ色、シルト質土、黒褐色土を少量含む、しまりやや強、粘性弱。
3. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、φ0.5cm程の炭化物を少量含む、しまり中、粘性中。
4. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、しまり中、粘性やや弱。
5. 黒色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、φ0.5cm程の炭化物を少量含む、しまり中、粘性中。







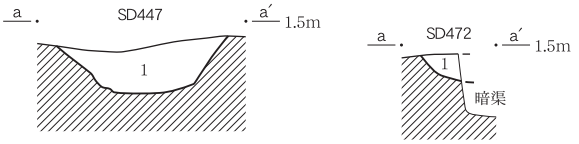


SD412
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土を含む、しまり中、粘性中。

SD415
1. 褐灰色、シルト質土、Ⅲb層土を斑状に多量含む、細粒砂とφ0.4cm程の炭化物を微量含む、しまり中、粘性やや弱。

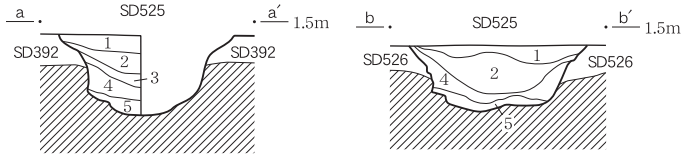
SD392
1. 褐灰色、粘質土、黒色土とⅢb層土を含む、しまり強、粘性やや弱。
2. 灰オリーブ色、シルト質土、黒色土を少量含む、しまりやや強、粘性弱。

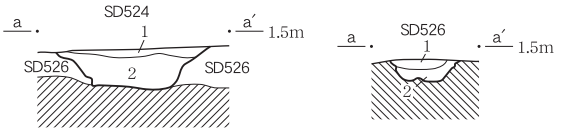
SD579
1. 黒褐色、粘質土、炭化物を微量含む、しまりやや強、粘性やや強。
2. 黒褐色、粘質土、φ1～5cm程の灰黄褐色シルト質土をブロック状に多量含む、しまり中、粘性中。



SD447
1. 黒褐色、粘質土、φ1～4cm程のⅢb層土をブロック状に少量含む、炭化物を微量含む、しまりやや強、粘性中。

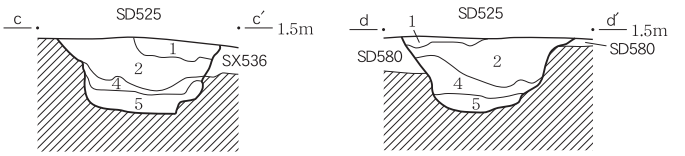
SD472
1. 褐灰色、粘質土、砂とⅢb層土を少量含む、しまりやや弱、粘性やや弱。

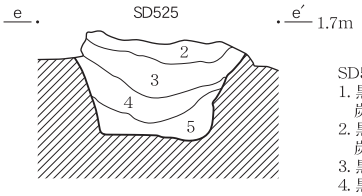




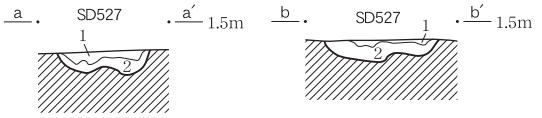
SD524
1. 黒褐色、粘質土、炭化物を微量含む、しまりやや強、粘性やや強。
2. 灰黄褐色、粘土質シルト、黒褐色土とφ0.5～5cm程のⅢb層土をブロック状に多量含む、しまりやや強、粘性やや強。

SD526
1. 黒褐色、粘土質シルト、φ0.5～1cm程のⅢb層土を少量含む、しまりやや強、粘性中。
2. 黒褐色、粘質土、φ0.5～5cm程のⅢb層土を多量含む、しまりやや強、粘性やや強。



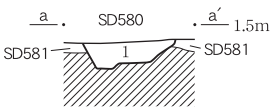


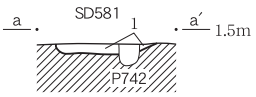
SD525
1. 黒褐色、粘質土、φ0.2～3cm程のⅢb層土を少量含む、炭化物を微量含む、しまり強、粘性やや強。
2. 黒褐色、粘質土、φ1～10cm程のⅢb層土を多量含む、炭化物を縞状に少量含む、しまりやや強、粘性強。
3. 黒褐色、粘質土、しまりやや強、粘性強。
4. 黒褐色、粘質土、φ0.1～1cm程のⅢb層土を少量含む、炭化物を微量含む、しまりやや強、粘性強。
5. 黒褐色、粘土質シルト、Ⅲb層土を斑状に少量含む、しまりやや弱、粘性中。



SD527
1. 黒色、粘質土、炭化物を微量含む、しまりやや強、粘性やや強。
2. 灰黄褐色、粘質土、Ⅲb層土主体、φ0.6～1cm程の黒色土を少量含む、しまりやや弱、粘性やや弱。

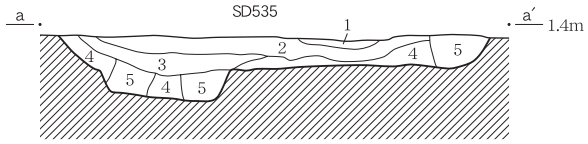
0　(1:40)　2m

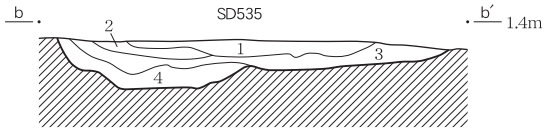




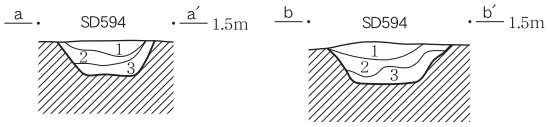
SD580
1. 黒褐色、粘質土、φ1～4cm程のⅢb層土をブロック状に少量含む、炭化物を微量含む、しまりやや強、粘性やや強。

SD581
1. 黒褐色、粘質土、φ1～4cm程のⅢb層土をブロック状に少量含む、しまりやや強、粘性中。

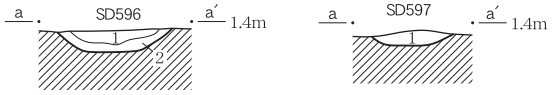


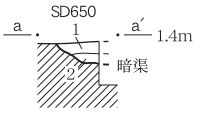


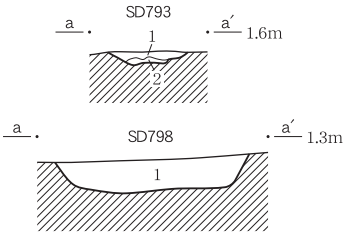
SD535
1. 黒褐色、粘質土、しまり中、粘性中。
2. 黒褐色、粘質土、φ0.5cm程の炭化物を含む、しまり弱、粘性中。
3. 灰黄褐色、粘質土、しまり中、粘性中。
4. 灰黄褐色、砂質シルト、Ⅱb層土をブロック状に含む、しまり弱、粘性弱。
5. 灰黄褐色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、しまり弱、粘性弱。



SD594
1. 黒褐色、粘質土、しまり中、粘性中。
2. 黒褐色、粘質土、φ0.5cm程の炭化物を含む、しまり弱、粘性強。
3. 灰黄褐色、粘質土、Ⅱb層土を粒状に含む、しまり中、粘性中。







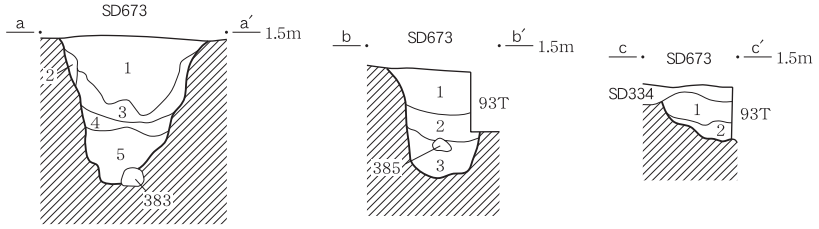
SD596
1. 黒褐色、粘質土、しまり中、粘性中。
2. 灰黄褐色、砂質シルト、Ⅱb層土を含む、しまり弱、粘性弱。

SD597
1. 黒褐色、粘質土、しまり中、粘性弱。

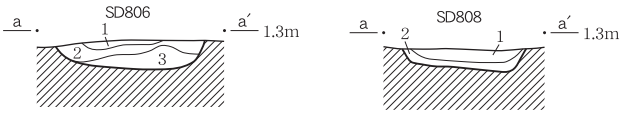
SD650
1. 黒褐色、粘質土、しまり中、粘性弱。
2. 褐灰色、砂質シルト、Ⅱb層土を縞状に含む、しまり弱、粘性弱。

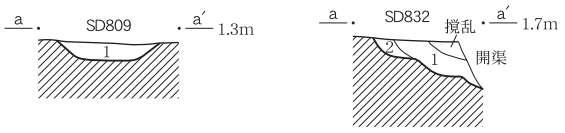
SD793
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、φ0.2cm程の炭化物を微量含む、しまり中、粘性やや弱。
2. 灰黄褐色、シルト質土、φ0.1cm程の炭化物を微量含む、しまり中、粘性やや弱。

SD798
1. 褐灰色、粘質土、Ⅱb層土とⅢb層土を斑状に含む、しまり弱、粘性中。



SD673
1. 黒褐色、粘質土、φ0.5cm程の炭化物を少量含む、しまり中、粘性やや弱。
2. 褐灰色、粘質土、しまり中、粘性中。
3. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、φ0.2cm程の炭化物を少量含む、しまり中、粘性中。
4. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、しまり中、粘性中。
5. 黒色、粘質土、しまり中、粘性やや強。



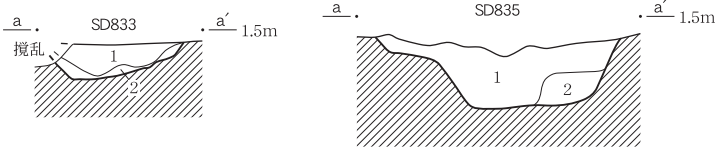


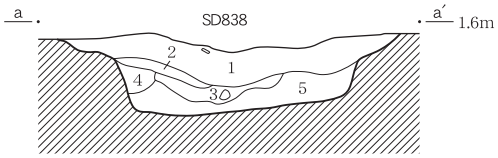
SD806
1. 黒褐色、粘質土、しまり中、粘性中。
2. 褐灰色、砂質シルト、しまり弱、粘性弱。
3. 灰黄褐色、砂質シルト、1層土と2層土を含む、しまり弱、粘性弱。

SD808
1. 黒褐色、粘質土、しまり中、粘性中。
2. 褐灰色、砂質シルト、Ⅱb層土を斑状に含む、しまり弱、粘性弱。

SD809
1. 褐灰色、砂質シルト、Ⅱb層土をブロック状に含む、しまり弱、粘性弱。

SD832
1. 褐灰色、粘質土、砂を含む、しまり強、粘性弱。
2. 浅黄色、シルト質土、褐灰色土を含む、しまりやや強、粘性弱。

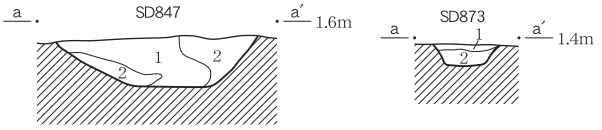




SD833
1. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土と炭化物を微量含む、しまりやや強、粘性やや弱。
2. 浅黄色、シルト質土、褐灰色土を少量含む、しまり強、粘性弱。

SD835
1. 褐灰色、砂質シルト、Ⅱb層土をブロック状に含む、しまり弱、粘性弱。
2. 褐灰色、砂質シルト、しまり弱、粘性弱。

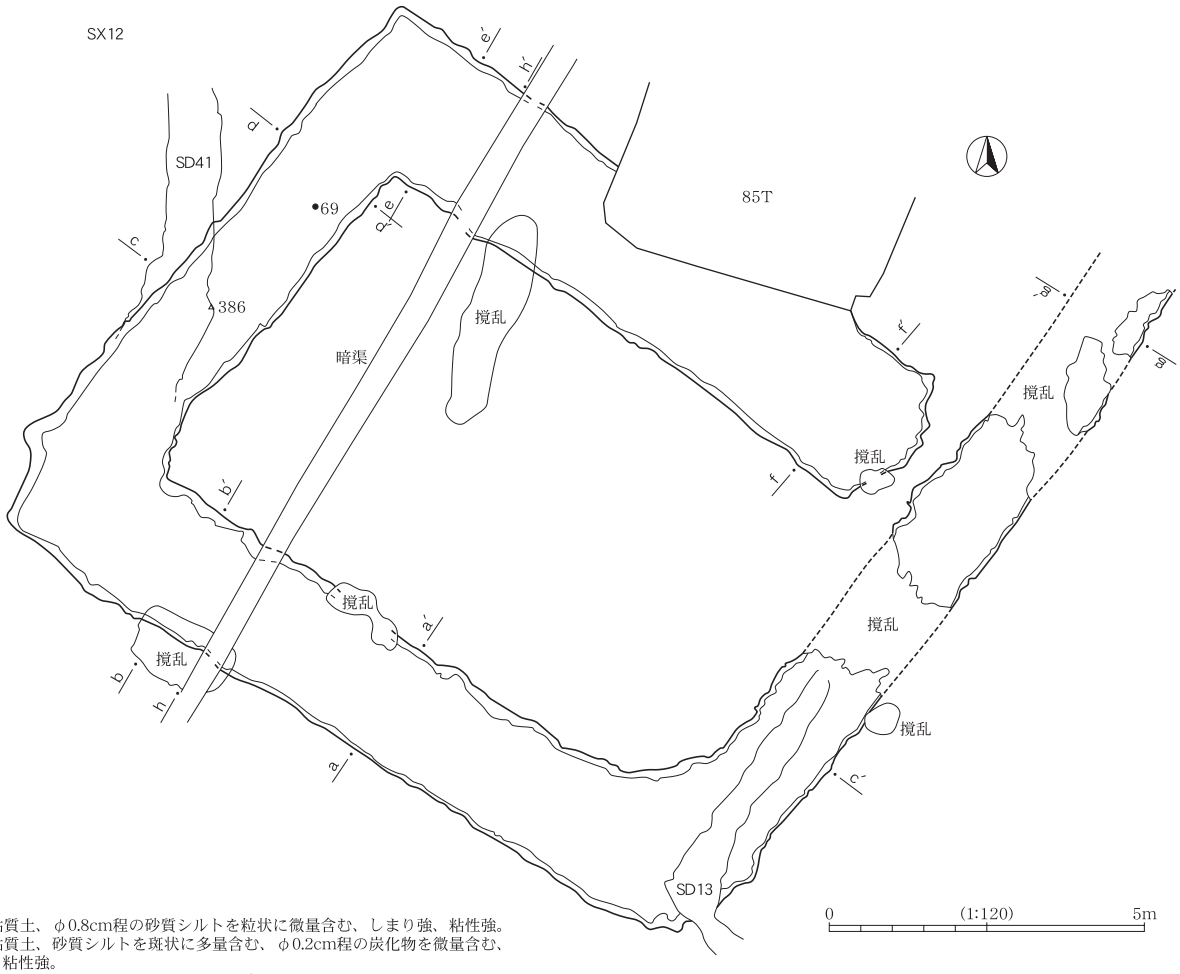
SD838
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、炭化物を含む、しまり中、粘性中。
2. 黒褐色、粘質土、しまり弱、粘性強。
3. 褐灰色、粘質土、しまり弱、粘性中。
4. 灰白色、砂質シルト、Ⅲb層土をブロック状に含む、しまり中、粘性弱。
5. 褐灰色、砂質シルト、Ⅱb層土を縞状に含む、しまり弱、粘性弱。



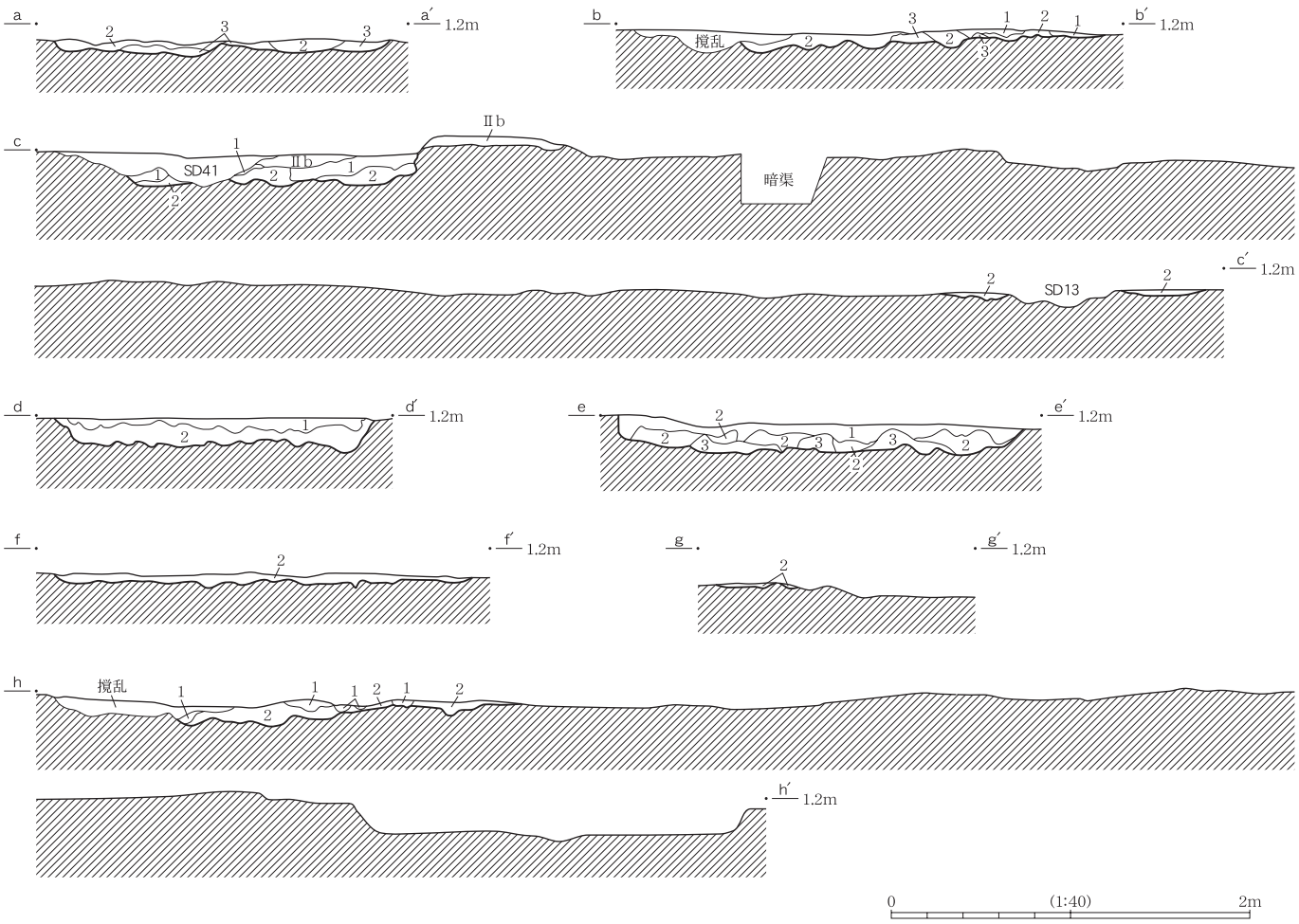
SD847
1. 灰黄色、砂質シルト、Ⅲb層土をブロック状に含む、しまり弱、粘性弱。
2. 黄灰色、粘質土、Ⅱb層土をブロック状に含む、しまり弱、粘性中。

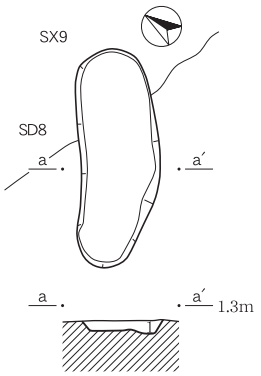
SD873
1. 黒褐色、粘質土、しまり中、粘性中。
2. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、しまり弱、粘性中。

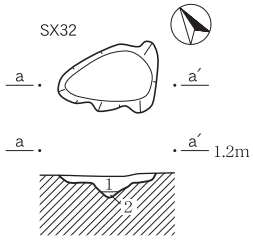
0　(1:40)　2m

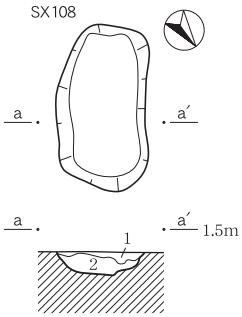


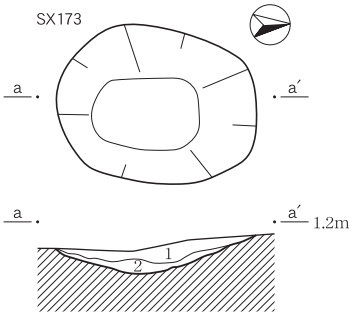
SX12
1. 黒褐色、粘質土、φ0.8cm程の砂質シルトを粒状に微量含む、しまり強、粘性強。
2. 黒褐色、粘質土、砂質シルトを斑状に多量含む、φ0.2cm程の炭化物を微量含む、しまり強、粘性強。
3. 灰黄褐色、砂質シルト、粘質土を斑状に微量含む、しまり中、粘性弱。









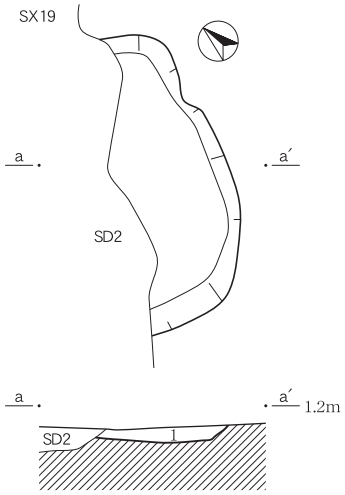


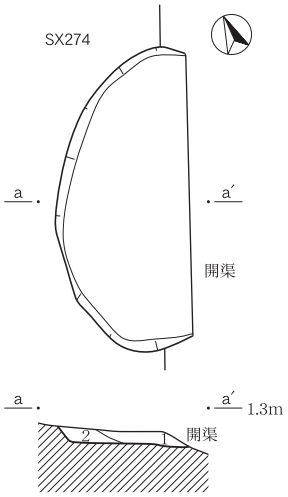
SX9
1. 黒褐色、粘質土、灰黄色シルト質粘土を斑状に含む、しまり強、粘性強。

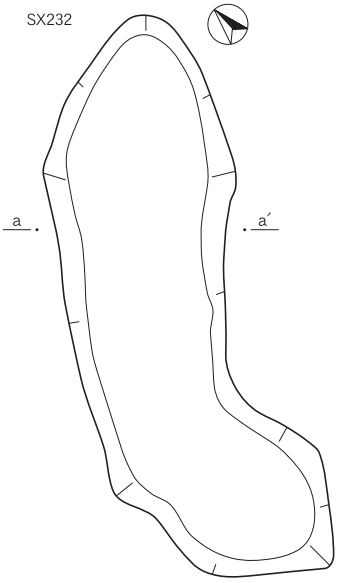
SX32
1. 黒褐色、粘質土、しまりやや弱、粘性弱。
2. オリーブ灰色、シルト質土、1層土を少量含む、しまりやや弱、粘性弱。

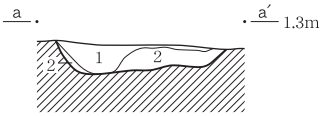
SX108
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土を含む、しまりやや強、粘性やや弱。
2. 灰オリーブ色、シルト質土、黒褐色土を少量含む、しまりやや強、粘性弱。

SX173
1. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土を少量含む、しまり強、粘性やや弱。
2. 灰オリーブ色、シルト質土、褐灰色土を少量含む、しまり中、粘性やや弱。





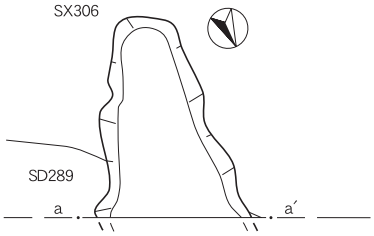


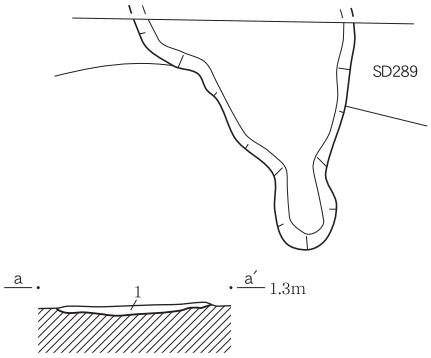


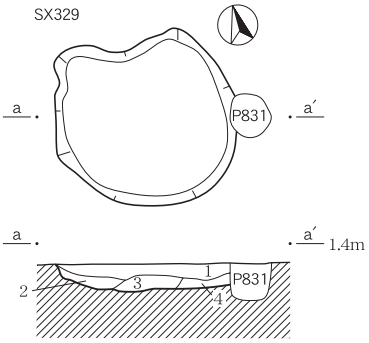
SX19
1. 黄灰色、シルト質土、炭化物を含む、しまり弱、粘性強。

SX274
1. 褐灰色、砂質シルト、しまり弱、粘性弱。
2. 灰黄褐色、砂質シルト、Ⅱb層土を含む、しまり弱、粘性弱。

SX232
1. 黒褐色、粘質土、しまり中、粘性やや強。
2. 褐灰色、粘質土、しまり中、粘性やや強。



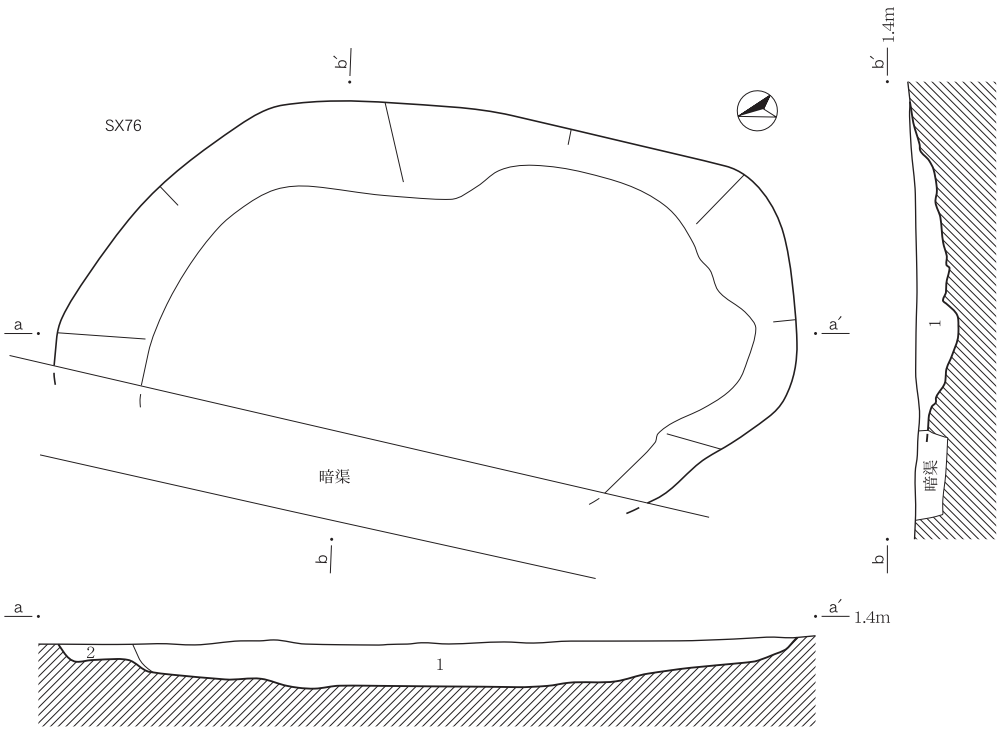




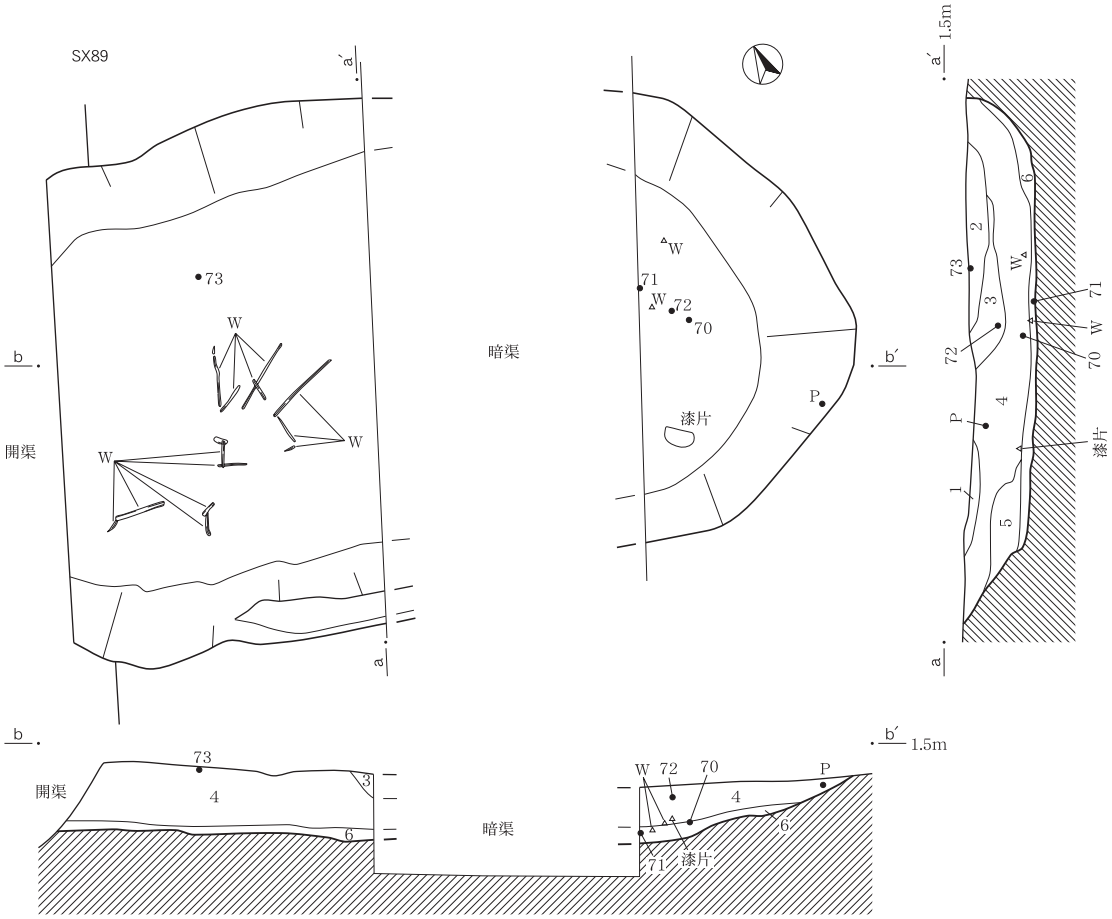
SX306
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、しまり中、粘性中。

SX329
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、φ0.5cm程の炭化物を少量含む、しまり中、粘性中。
2. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、しまり中、粘性中。
3. 褐灰色、粘質土、しまり中、粘性やや弱。
4. 黒色、粘質土、しまり中、粘性中。

0　(1:40)　2m

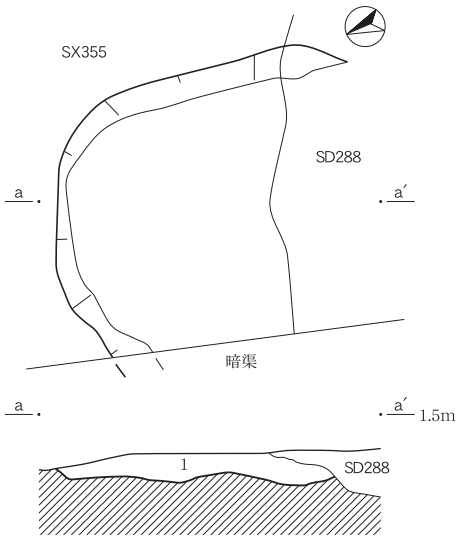


SX76
1. 灰黄褐色、砂質土、炭化物を含む、しまり中、粘性やや弱。
2. 灰黄褐色、砂質土、Ⅲb層土を斑状に含む、しまり強、粘性やや弱。

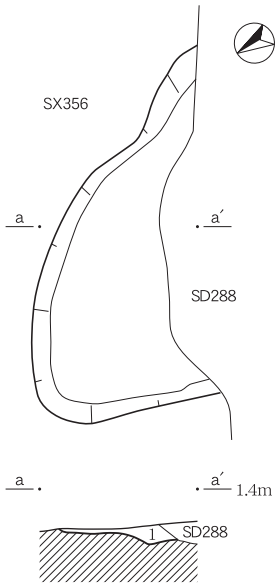


SX89
1. 灰色、粘質土、しまり中、粘性強。
2. オリーブ黒色、粘質土、しまり中、粘性強。
3. 黒色、粘質土、炭化物を含む、しまり中、粘性強。
4. 灰色、粘質土、灰オリーブ色シルト質粘土を斑状に含む、しまり弱、粘性強。
5. オリーブ黒色、粘質土、灰オリーブ色シルト質粘土をブロック状に含む、しまり弱、粘性中。
6. 褐灰色、粘質土、しまり弱、粘性強。

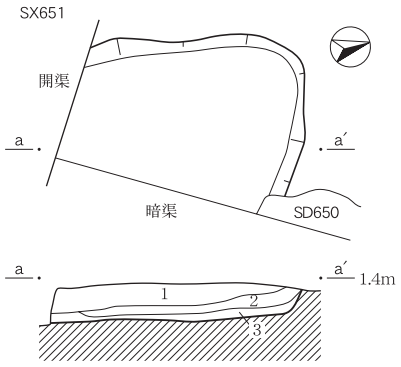
0　(1:40)　2m



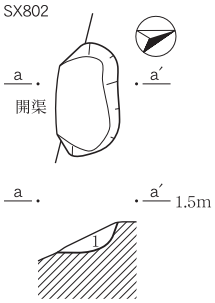
SX355
1. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土をラミナ状に含む、しまり中、粘性中。



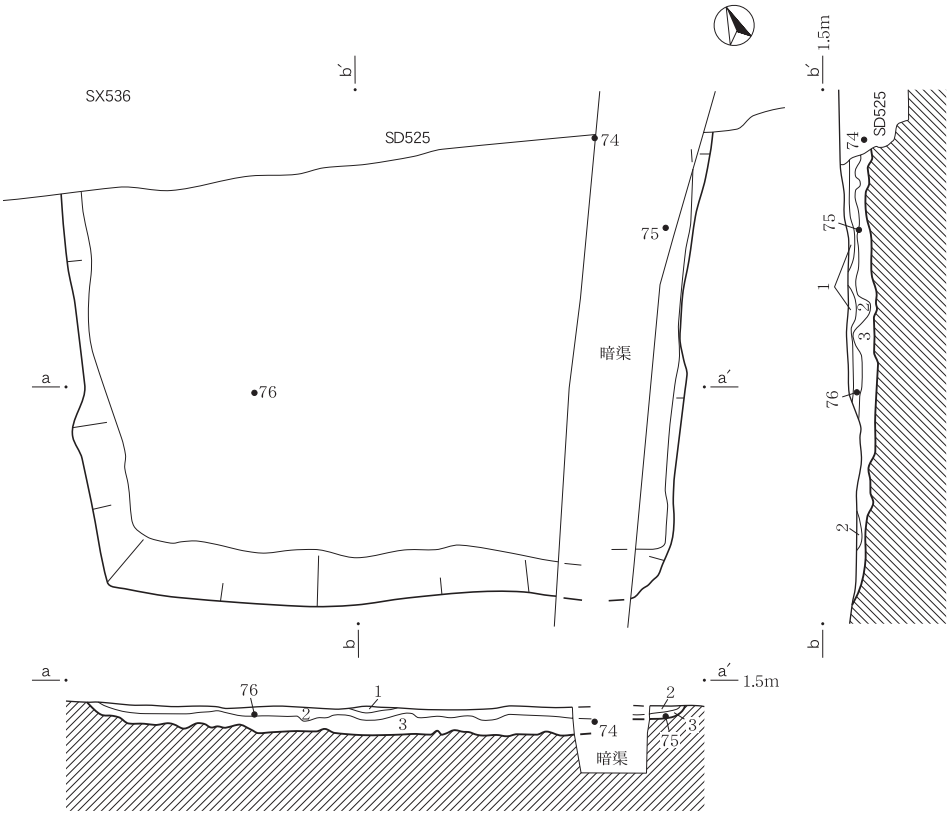
SX356
1. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土をラミナ状に含む、しまり中、粘性中。



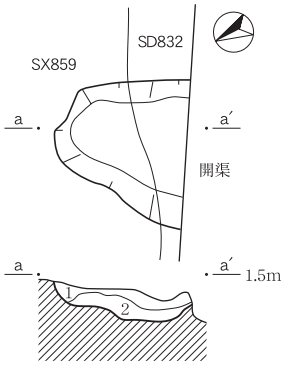
SX651
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土を斑状に含む、しまり弱、粘性中。
2. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土をブロック状に含む、しまり弱、粘性弱。
3. 褐灰色、砂質シルト、Ⅲb層土をブロック状に含む、しまり弱、粘性弱。



SX802
1. 褐灰色、砂質シルト、Ⅱb層土を斑状に含む、しまり弱、粘性弱。

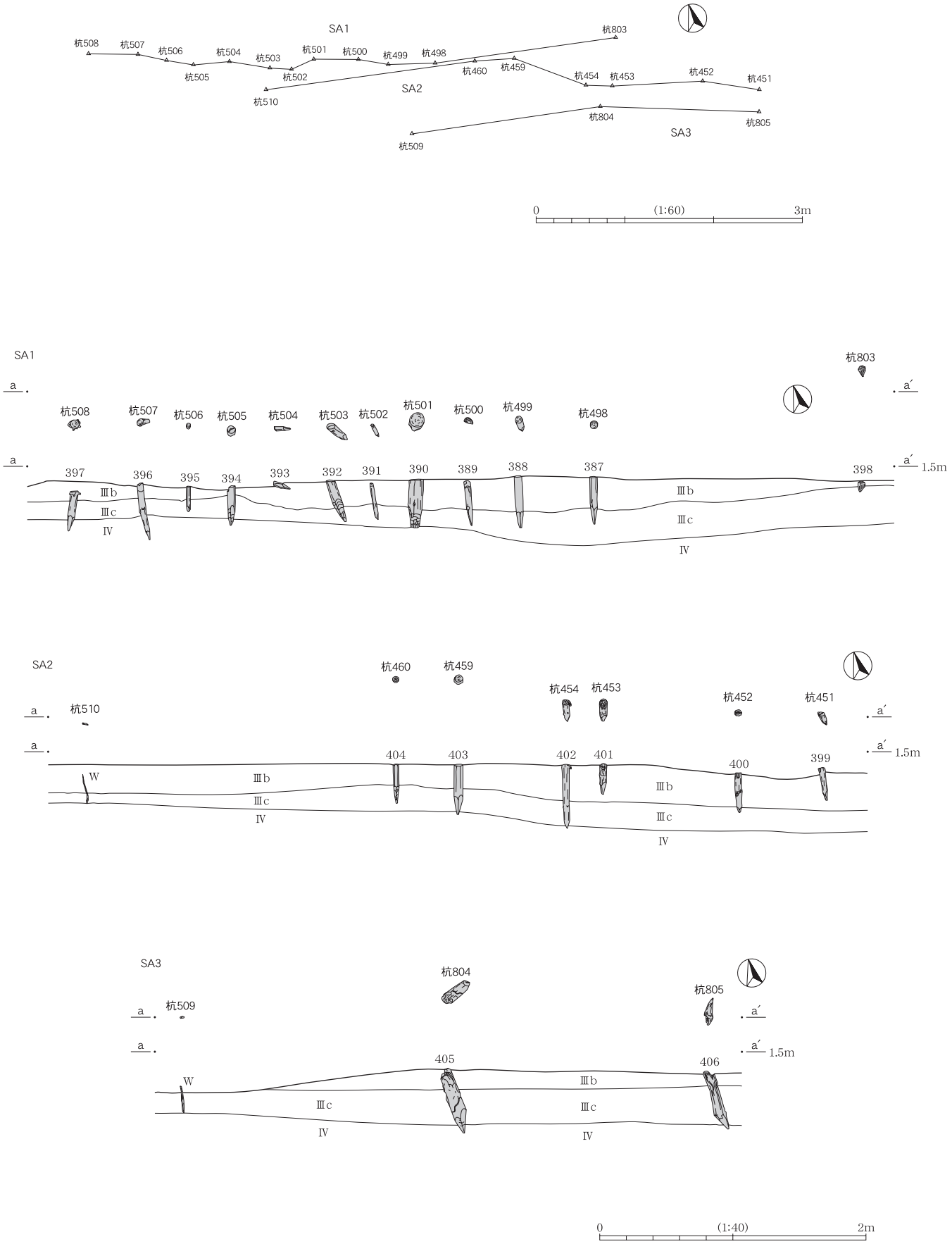


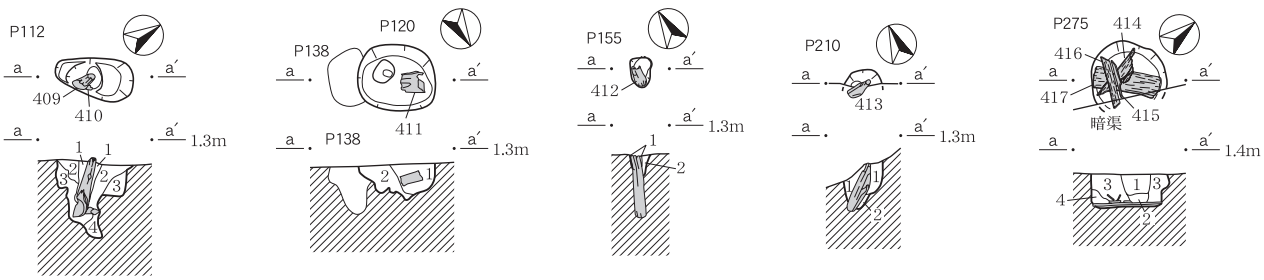
SX536
1. 黒褐色、粘土質シルト、Ⅲb層土を斑状に微量含む、しまりやや強、粘性中。
2. 黒褐色、粘質土、φ0.5cm程のⅢb層土と炭化物を微量含む、しまりやや強、粘性やや強。
3. 灰黄褐色、粘土質シルト、Ⅲb層土主体、φ0.2～1cm程の褐灰色土を粒状に微量含む、しまりやや弱、粘性やや弱。



SX859
1. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土を少量含む、しまり強、粘性中。
2. 灰白色、シルト質土、黒褐色土を少量含む、しまり強、粘性弱。

0　(1:40)　2m


SA1
杭508
杭507
杭506
杭505
杭504
杭503
杭502
杭501
杭500
杭499
杭498
杭803
杭460
杭459
杭454
杭453
杭452
杭451
杭510
SA2
杭804
杭805
杭509
SA3
0
(1:60)
3m
SA1
a
a′
杭508
杭507
杭506
杭505
杭504
杭503
杭502
杭501
杭500
杭499
杭498
杭803
397
396
395
394
393
392
391
390
389
388
387
398
1.5m
Ⅲb
Ⅲc
Ⅳ
SA2
杭510
杭460
杭459
杭454
杭453
杭452
杭451
404
403
402
401
400
399
W
SA3
杭509
杭804
杭805
405
406
0
(1:40)
2m



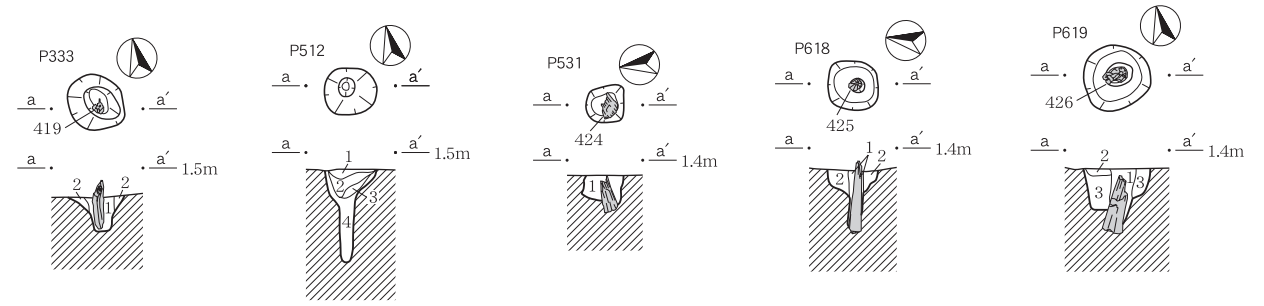
P112
1. 褐灰色、粘土質シルト、しまりやや強、粘性やや強。
2. 褐灰色、粘土質シルト、φ1cm程の灰黄褐色砂質シルトをブロック状に少量含む、φ0.2cm程の炭化物を微量含む、しまりやや強、粘性強。
3. 灰黄褐色、砂質シルト、褐灰色粘質シルトを多量含む、φ0.1cm程の炭化物を微量含む、しまり中、粘性中。
4. 褐灰色、粘土質シルト、しまり中、粘性中。

P120
1. 黒褐色、粘質土、φ0.2cm程の炭化物を微量含む、しまり強、粘性強。
2. 褐灰色、粘土質シルト、灰黄褐色砂質シルトをブロック状に少量含む、φ0.1cm程の炭化物を微量含む、しまりやや強、粘性やや強。

P155
1. 黒褐色、粘質土、しまり強、粘性強。
2. 褐灰色、粘土質シルト、Ⅲb層土を斑状に多量含む、φ0.1cm程の炭化物を微量含む、しまり中、粘性中。

P210
1. 灰オリーブ色、シルト質土、黒色土を含む、しまり中、粘性弱。
2. 灰色、粘質土、しまり弱、粘性中。

P275
1. 黒褐色、粘質土、φ2cm程のⅢb層土をブロック状に少量含む、φ0.1～0.5cm程の炭化物を微量含む、しまりやや強、粘性やや強。
2. 褐灰色、砂質シルト、φ1cm程のⅢb層土をブロック状に微量含む、φ0.1cm程の炭化物を微量含む、しまり中、粘性中。
3. 灰黄褐色、シルト質土、黒褐色土を斑状に少量含む、φ0.2cm程の炭化物を微量含む、しまり中、粘性やや弱。
4. 灰黄褐色、シルト質土、Ⅲc層土を斑状に少量含む、しまりやや弱、粘性弱。



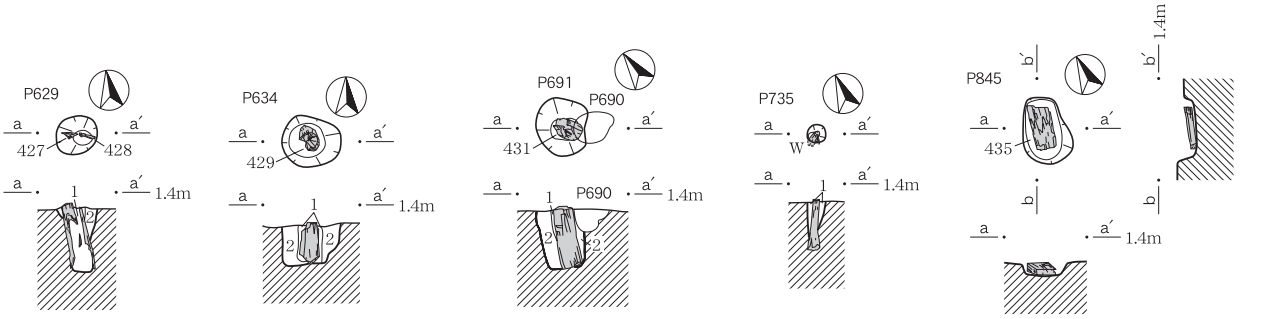
P333
1. 黒褐色、粘質土、φ0.5～3cm程のⅢb層土をブロック状に含む、しまり中、粘性中。
2. 黄灰色、砂質シルト、しまり弱、粘性中。

P512
1. 灰褐色、粘土質シルト、φ1cm程のⅢb層土をブロック状に多量含む、しまりやや弱、粘性やや弱。
2. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土を斑状に少量含む、しまりやや強、粘性強。
3. 灰黄褐色、粘土質シルト、しまりやや弱、粘性やや弱。
4. 褐灰色、粘土質シルト、φ0.2～2cm程の黒色土を粒状に微量含む、しまり中、粘性やや弱。

P531
1. 黒褐色、粘質土、Ⅲb層土と炭化物を微量含む、しまりやや強、粘性やや弱。

P618
1. 褐灰色、粘質土、しまり強、粘性中。
2. 灰白色、シルト質土、褐灰色土を微量含む、しまり強、粘性弱。

P619
1. 褐灰色、粘質土、しまりやや強、粘性中。
2. 褐灰色、粘質土、Ⅲb層土を少量含む、しまり強、粘性やや弱。
3. 灰オリーブ色、シルト質土、黒褐色土を含む、しまり強、粘性やや弱。



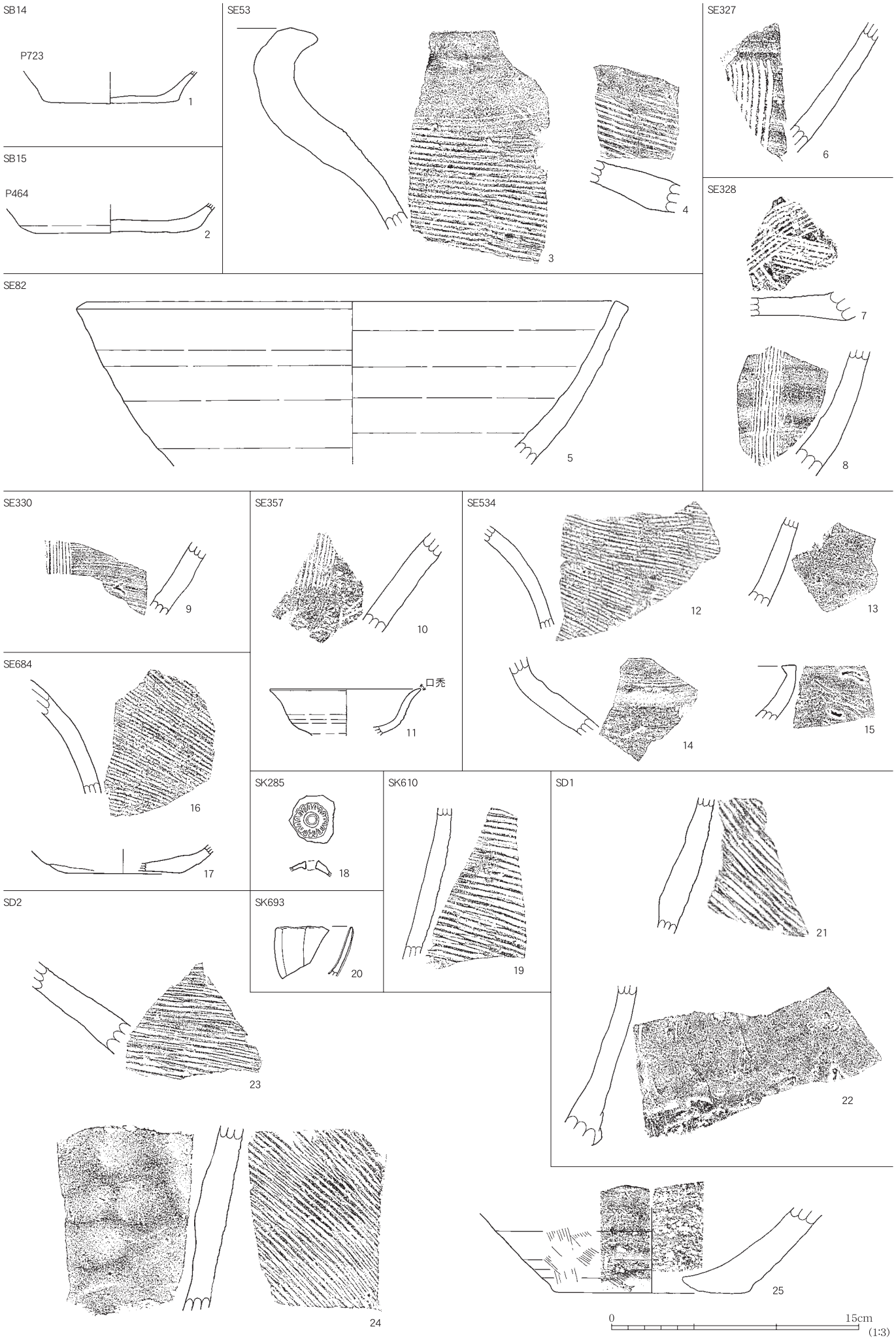
P629
1. 黒褐色、粘質土、しまりやや弱、粘性中。
2. 灰オリーブ色、シルト質土、黒褐色土を少量含む、しまり強、粘性弱。

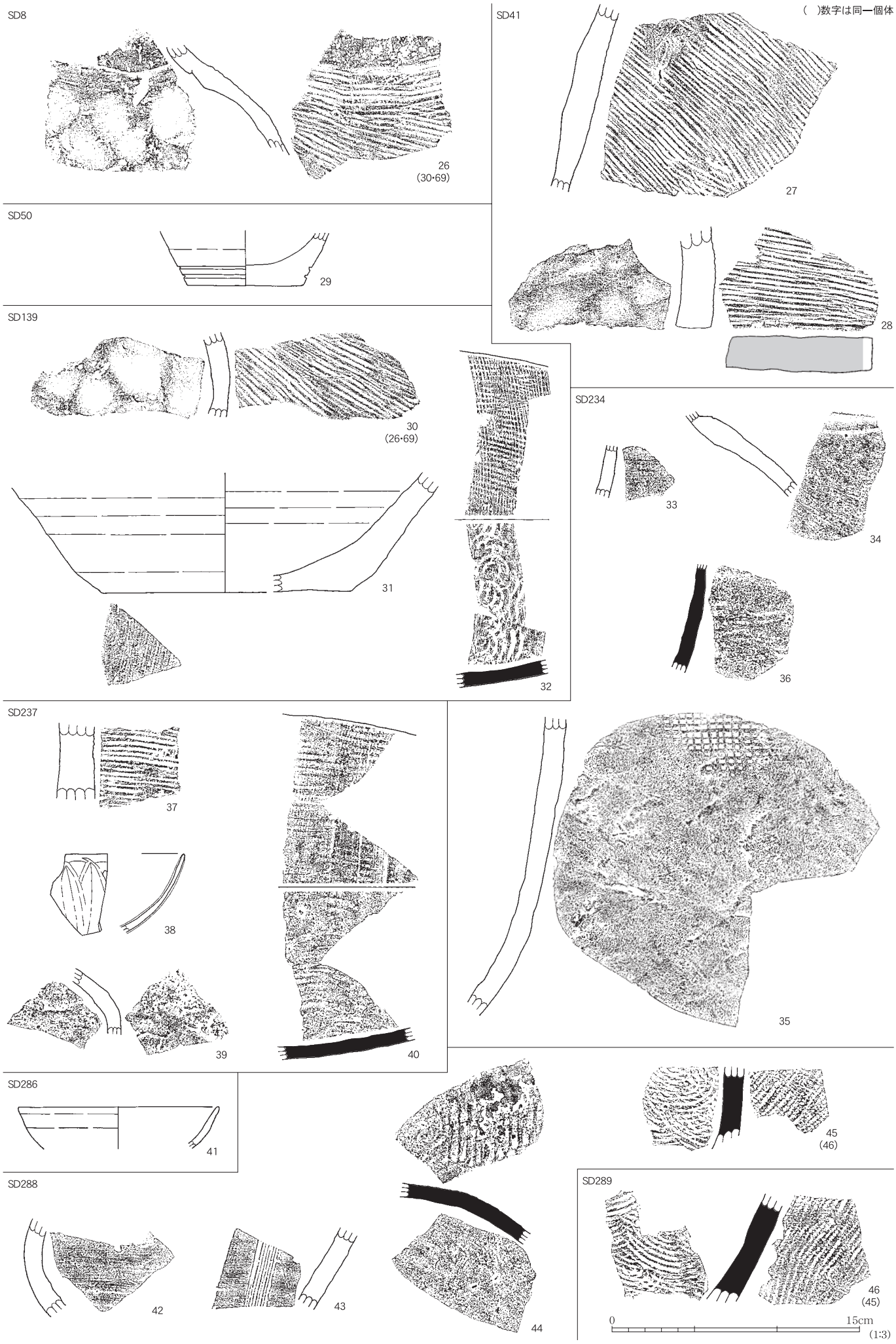
P634
1. 黒褐色、粘質土、しまりやや弱、粘性やや強。
2. 灰オリーブ色、シルト質土、黒色土を微量含む、しまり強、粘性弱。

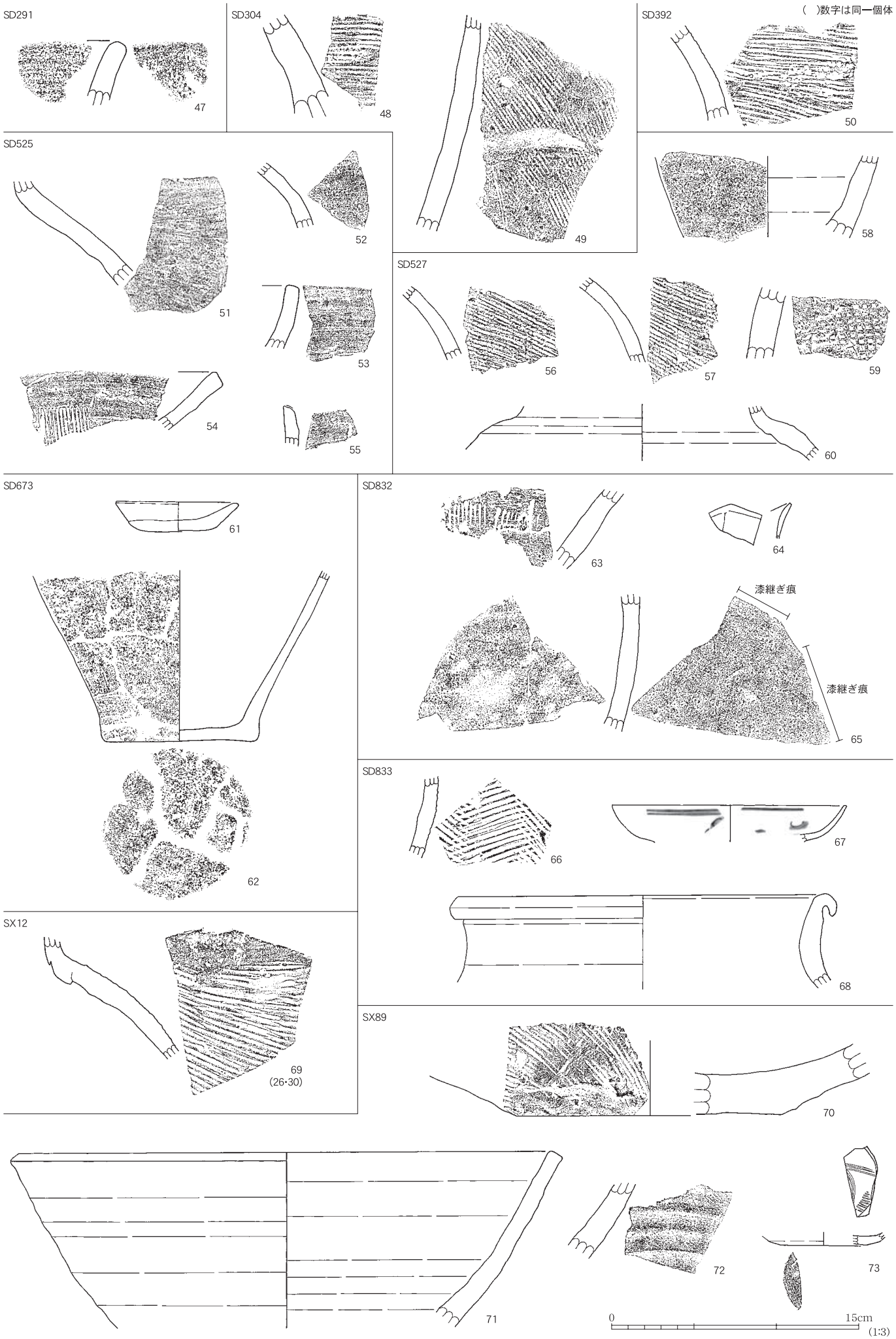
P691
1. 黒褐色、粘質土、しまりやや弱、粘性中。
2. 灰オリーブ色、シルト質土、黒褐色土を微量含む、しまり強、粘性弱。

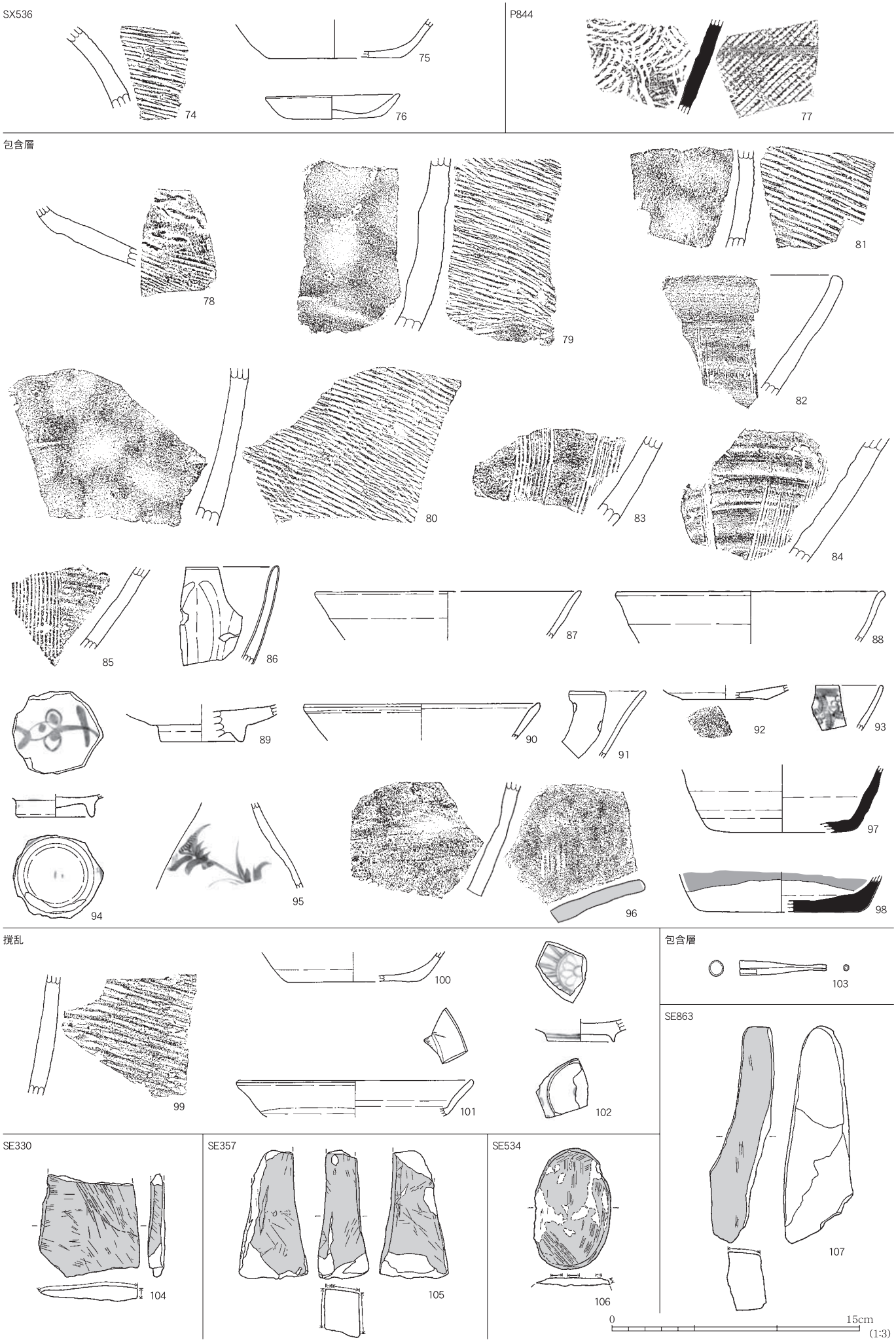
P735
1. 黒褐色、粘質土、しまり中、粘性中。

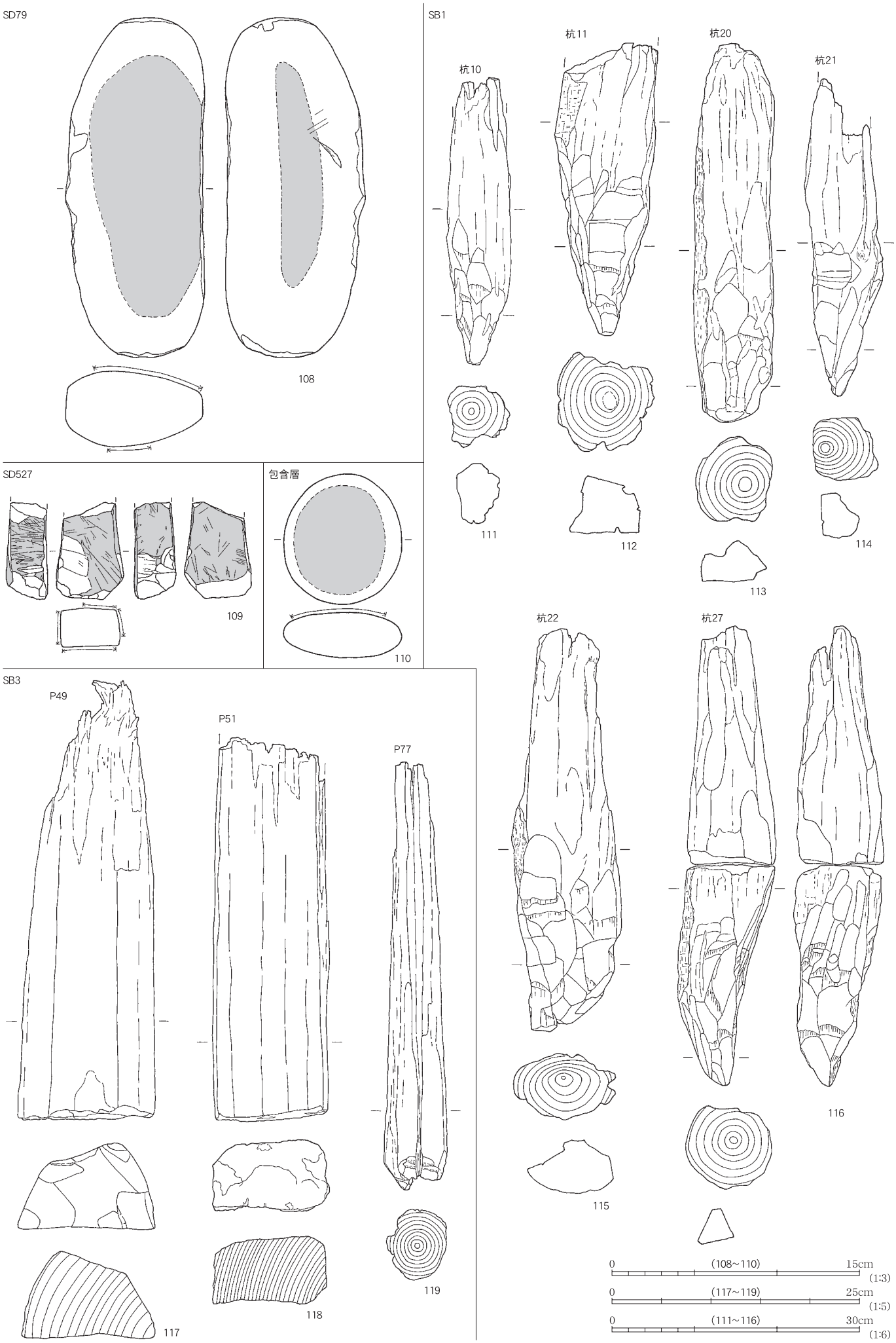
0　(1:40)　2m

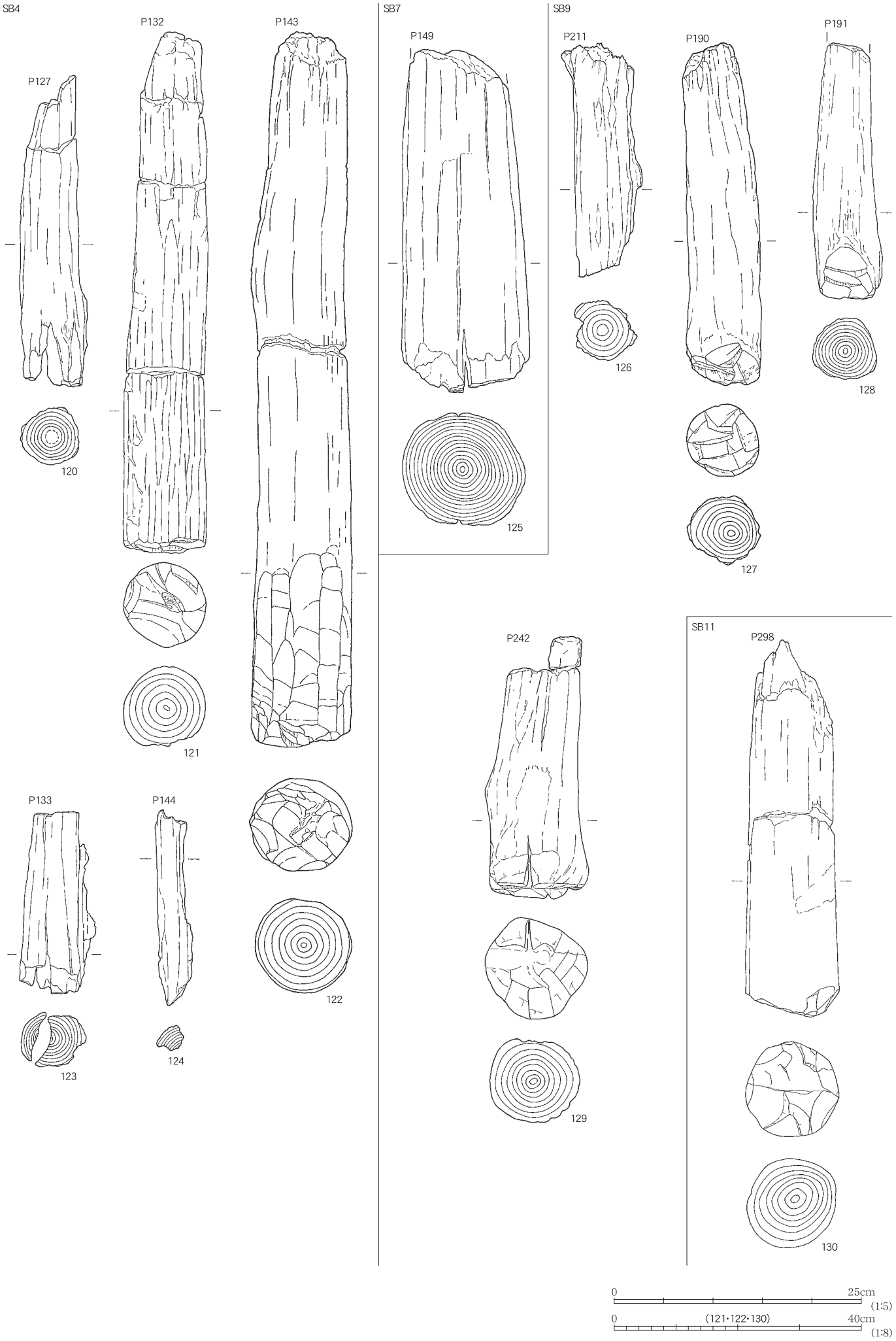

SB14
P723
1
SB15
P464
2
SE53
3
4
SE327
6
SE328
7
8
SE82
5
SE330
9
SE357
10
口禿
11
SE534
12
13
14
15
SE684
16
17
SK285
18
SK610
19
SK693
20
SD1
21
22
SD2
23
24
25
0
15cm
(1:3)


SD8
26
(30･69)
SD41
(　)数字は同一個体
27
28
SD50
29
SD139
30
(26･69)
31
32
SD234
33
34
36
SD237
37
38
39
40
35
SD286
41
45
(46)
SD288
42
43
44
SD289
46
(45)
0
15cm
(1:3)

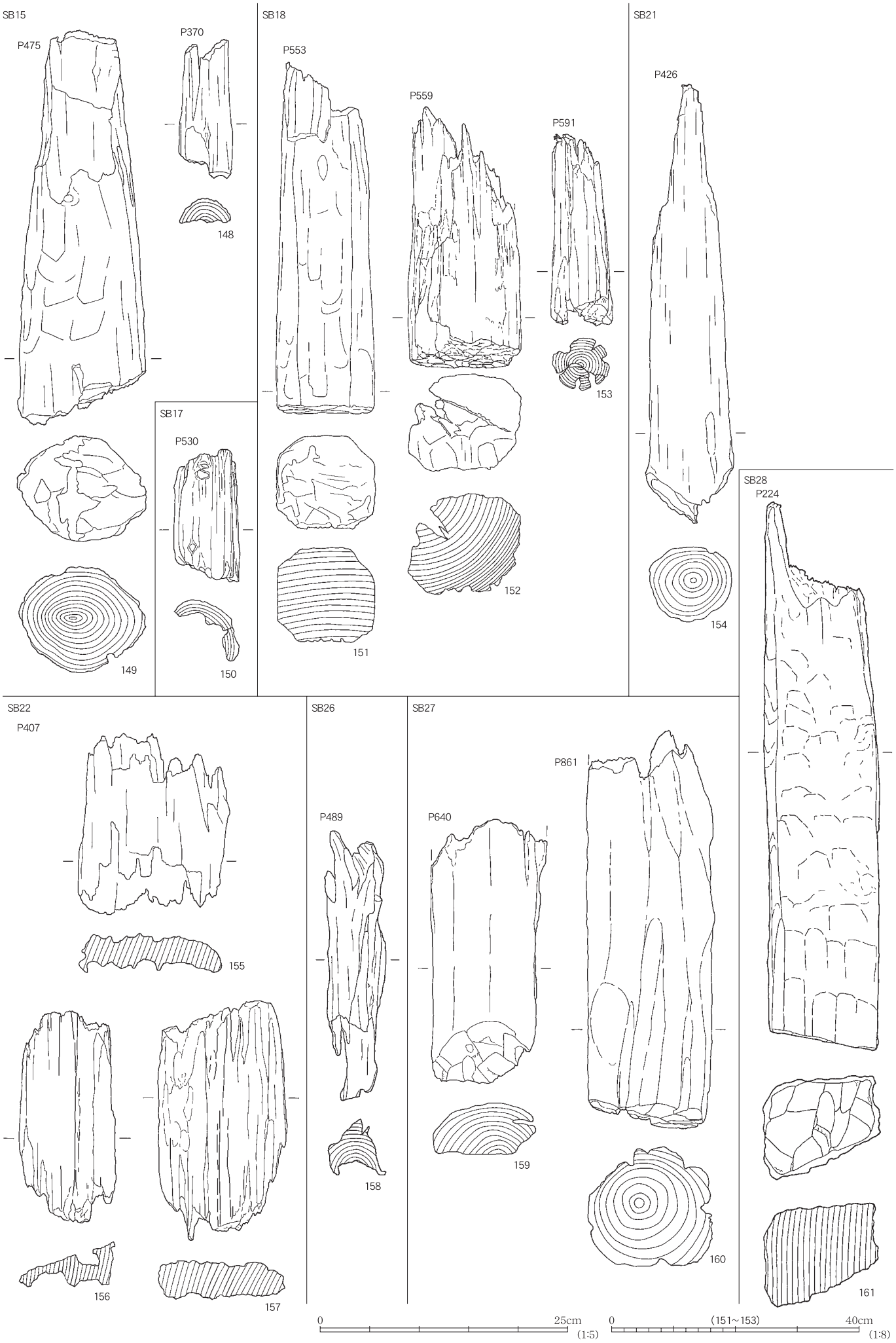

SD291
47
SD304
48
49
SD392
（　）数字は同一個体
50
SD525
51
52
53
54
55
58
SD527
56
57
59
60
SD673
61
62
SD832
63
64
漆継ぎ痕
漆継ぎ痕
65
SD833
66
67
68
SX12
69
(26･30)
SX89
70
71
72
73
0
15cm
(1:3)

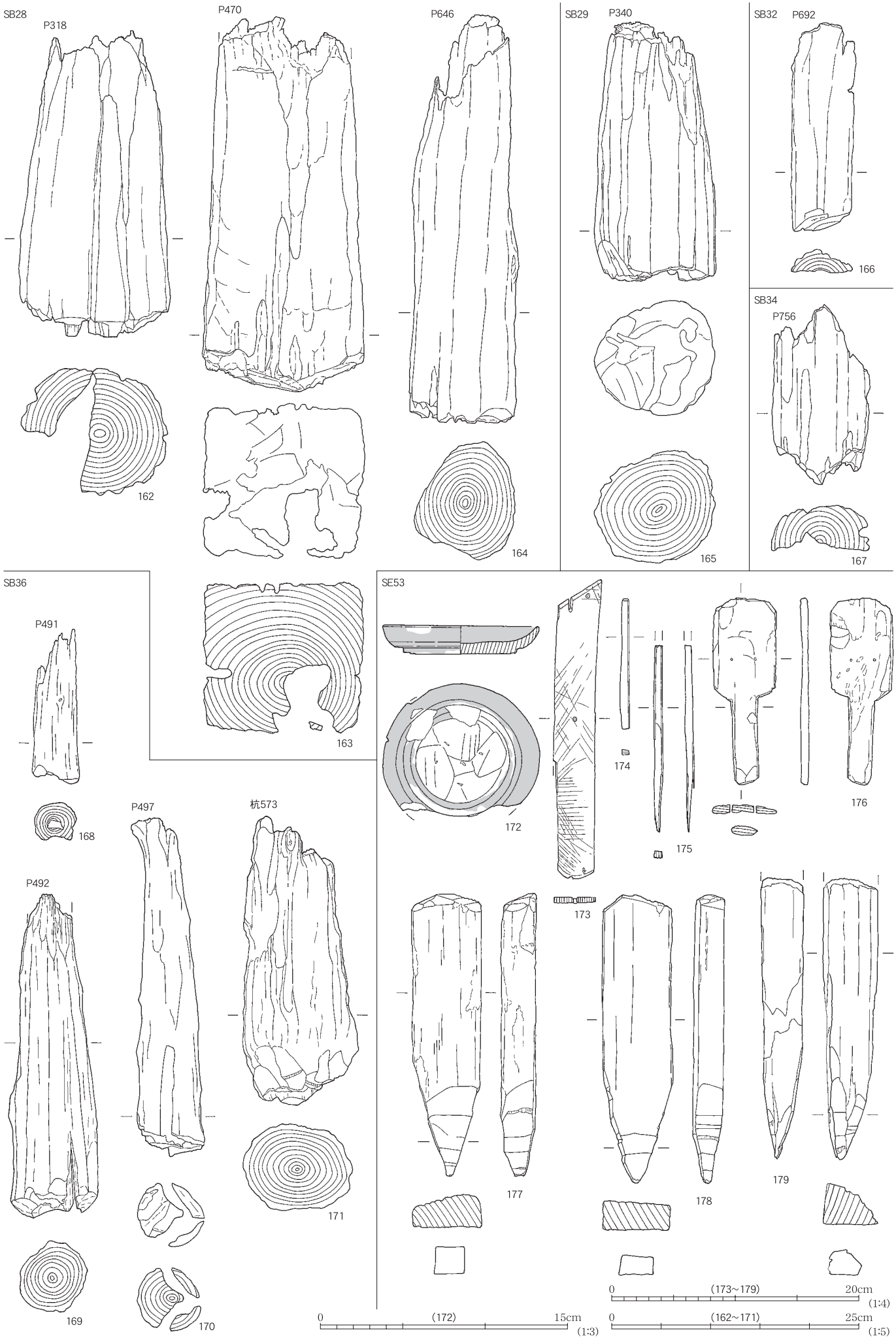

SX536
74
75
76
P844
77
包含層
78
79
81
82
80
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
撹乱
99
100
101
102
包含層
103
SE863
107
SE330
104
SE357
105
SE534
106
0
15cm
(1:3)


SD79
108
SD527
109
包含層
110
SB1
杭10
杭11
杭20
杭21
111
112
113
114
杭22
杭27
115
116
SB3
P49
P51
P77
117
118
119
0 (108~110) 15cm (1:3)
0 (117~119) 25cm (1:5)
0 (111~116) 30cm (1:6)

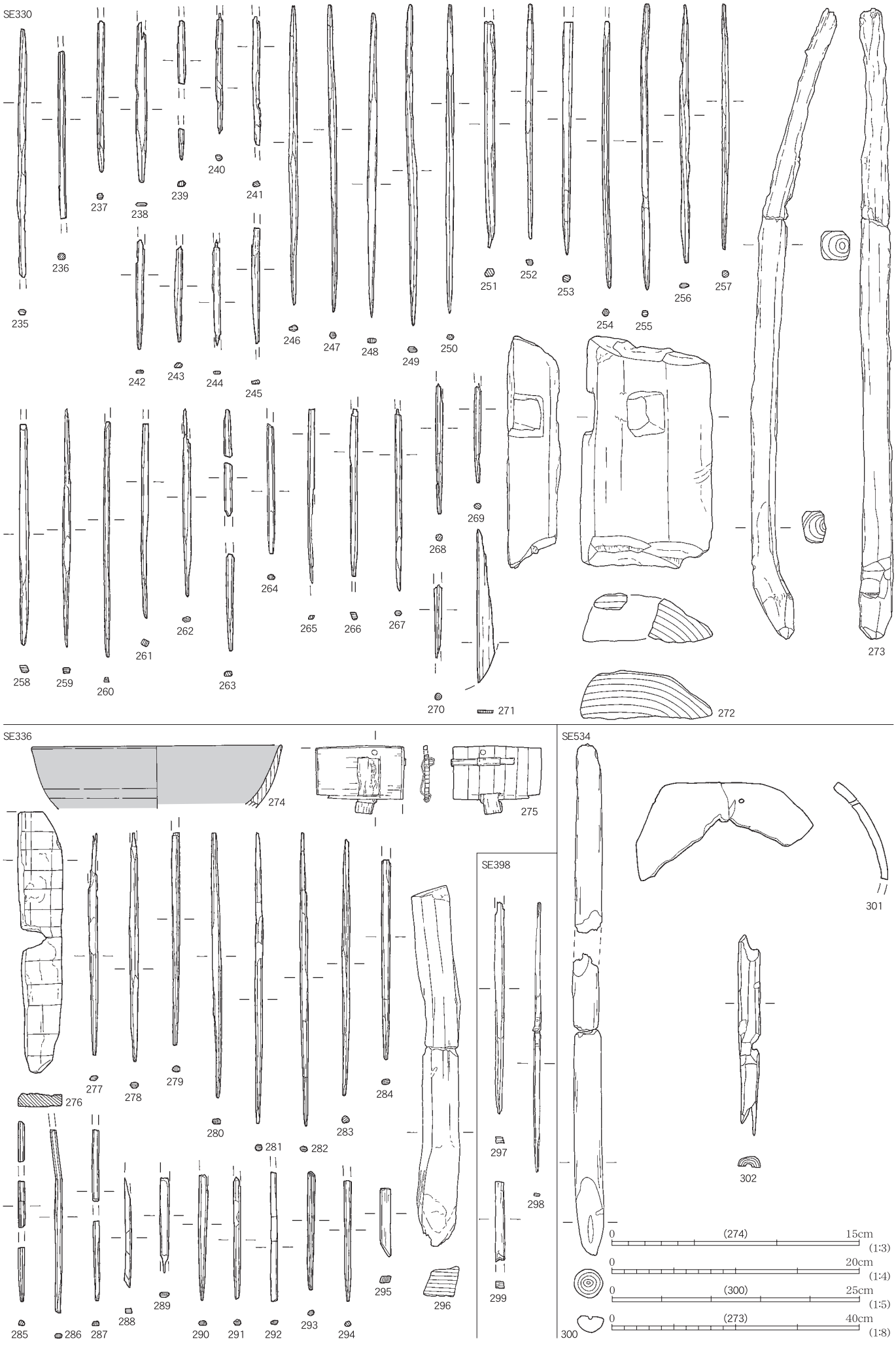

SB4
P127
120
P132
121
P143
122
P133
123
P144
124
SB7
P149
125
SB9
P211
126
P190
127
P191
128
P242
129
SB11
P298
130
0
25cm
(1:5)
0
(121・122・130)
40cm
(1:8)

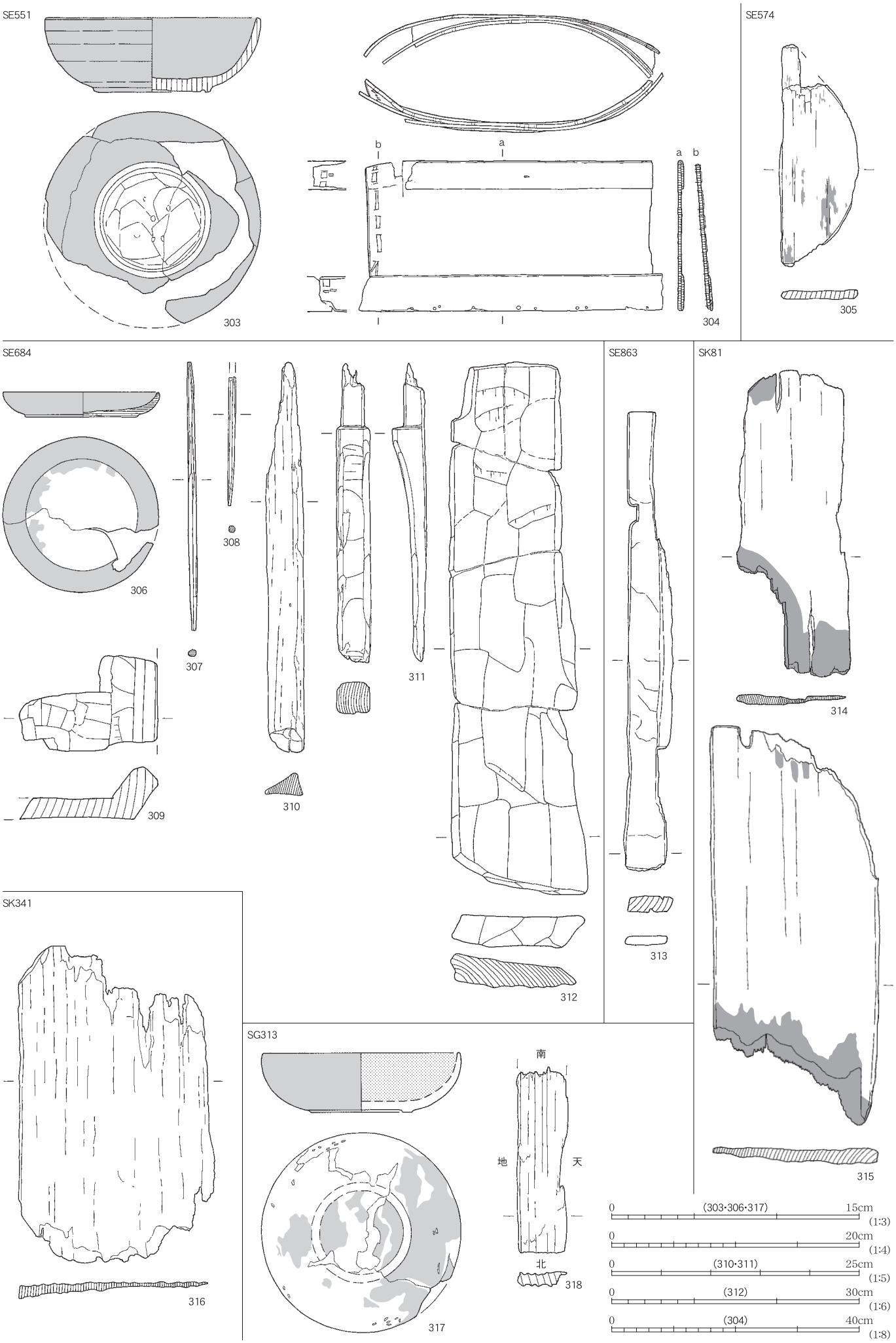
SB12
P319
131
P321
133
P323
134
P324
135
P325
136
P320
132
P719
137
P719
138
P722
139
P872
140
SB13
P373
141
SB14
P338
142
143
P677
144
P699
145
P702
146
P723
147
0 (141~147) 25cm
(1:5)
0 (131~140) 40cm
(1:8)

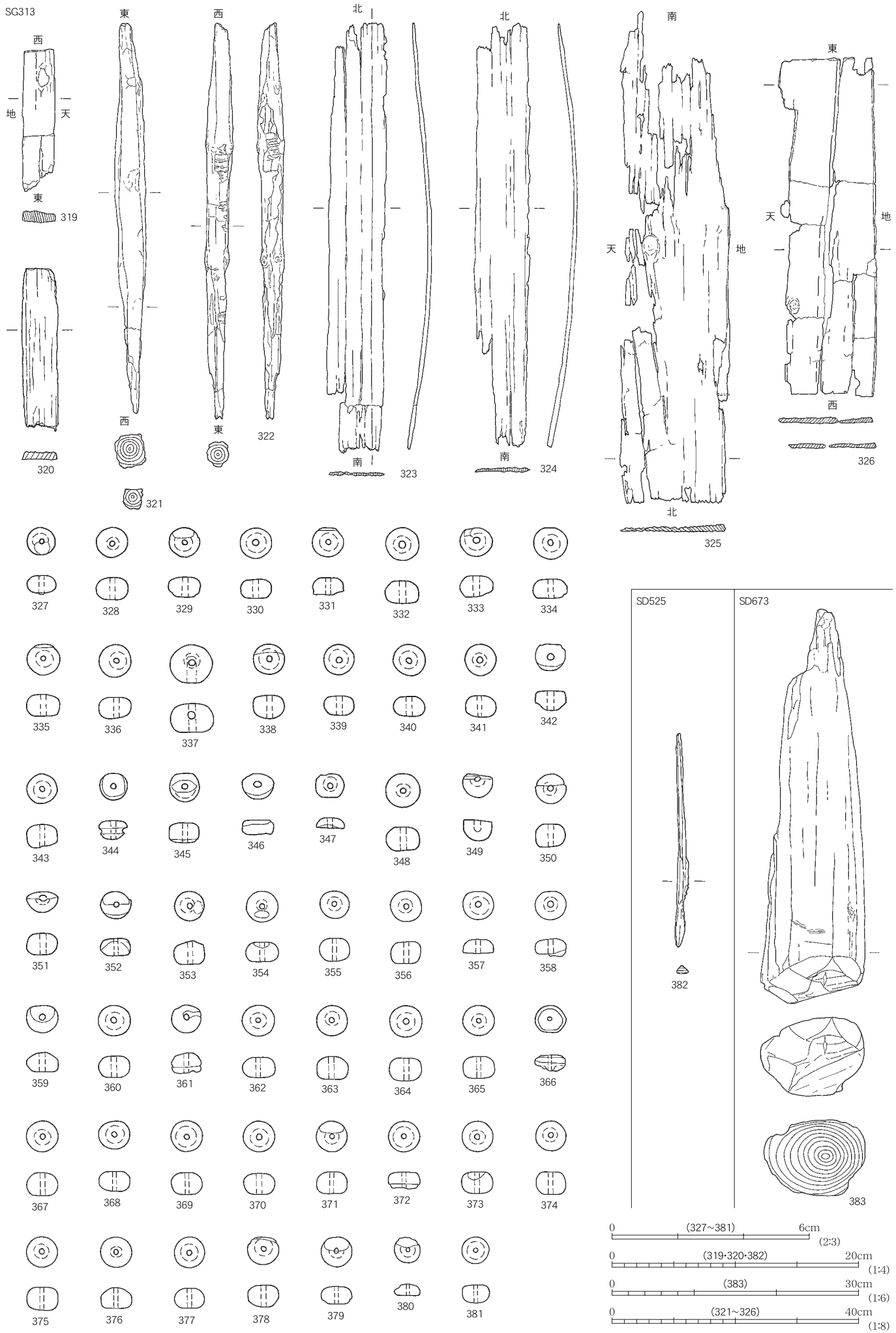

SB15
P475
P370
148
149
SB17
P530
150
SB18
P553
P559
P591
151
152
153
SB21
P426
154
SB28
P224
161
SB22
P407
155
156
157
SB26
P489
158
SB27
P640
P861
159
160
0
25cm
(1:5)
0
(151~153)
40cm
(1:8)

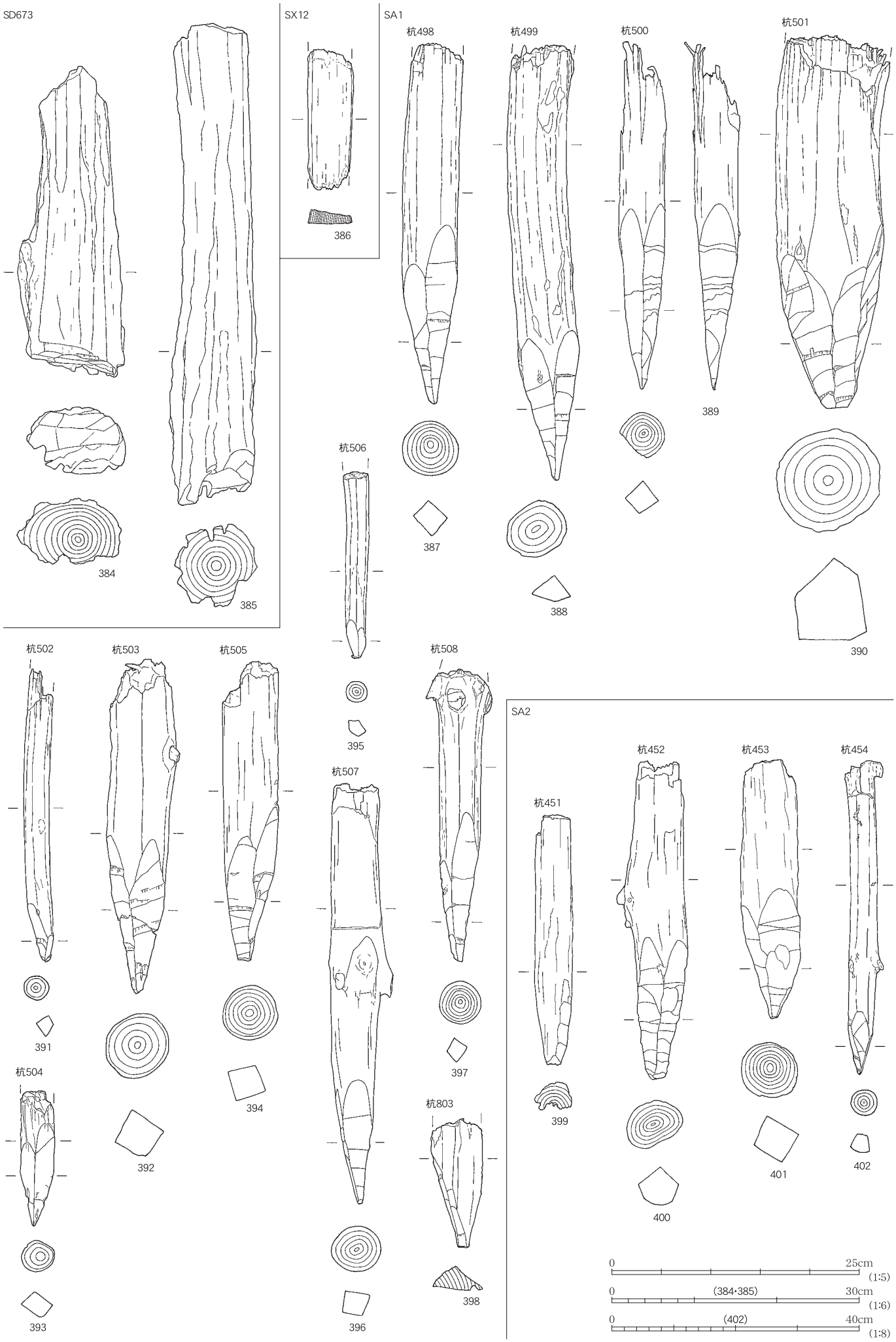

SB28
P318
162
P470
163
P646
164
SB29
P340
165
SB32
P692
166
SB34
P756
167
SB36
P491
168
P492
169
P497
170
杭573
171
SE53
172
173
174
175
176
177
178
179
0 (172) 15cm (1:3)
0 (173~179) 20cm (1:4)
0 (162~171) 25cm (1:5)

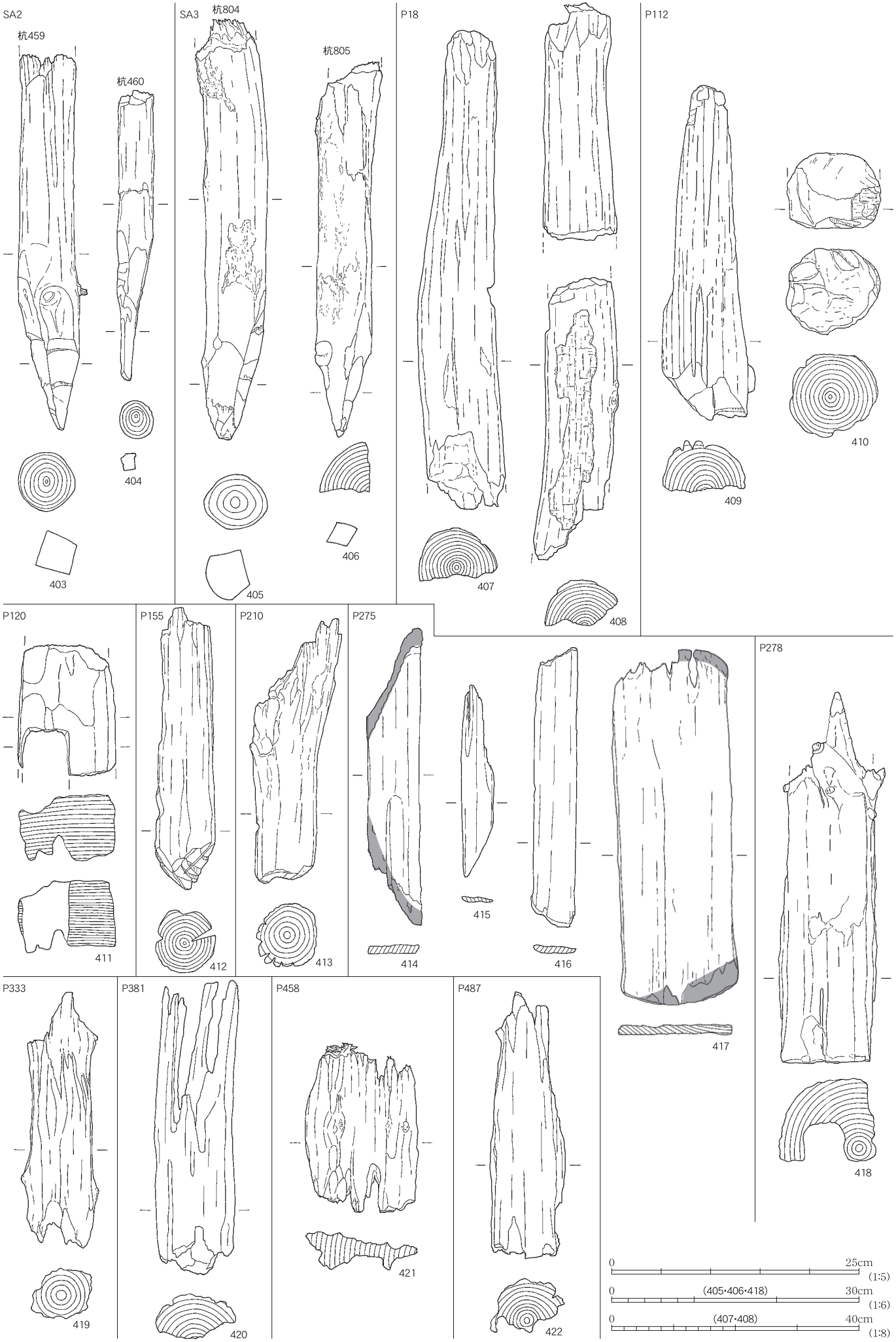
SE53
SE54
SE55
SE56
SE75
SE82
SE88
SE327
SE328
SE134
SE330
180
181
182
183
184
185
186
187
188
189
190
191
192
193
194
195
196
197
198
199
200
201
202
203
204
205
206
207
208
209
210
211
212
213
214
215
216
217
218
219
220
221
222
223
224
225
226
227
228
229
230
231
232
233
234
0 (181·223·224) 15cm (1:3)
0 (221·222) 40cm (1:8)
0 20cm (1:4)
0 (197) 50cm (1:10)

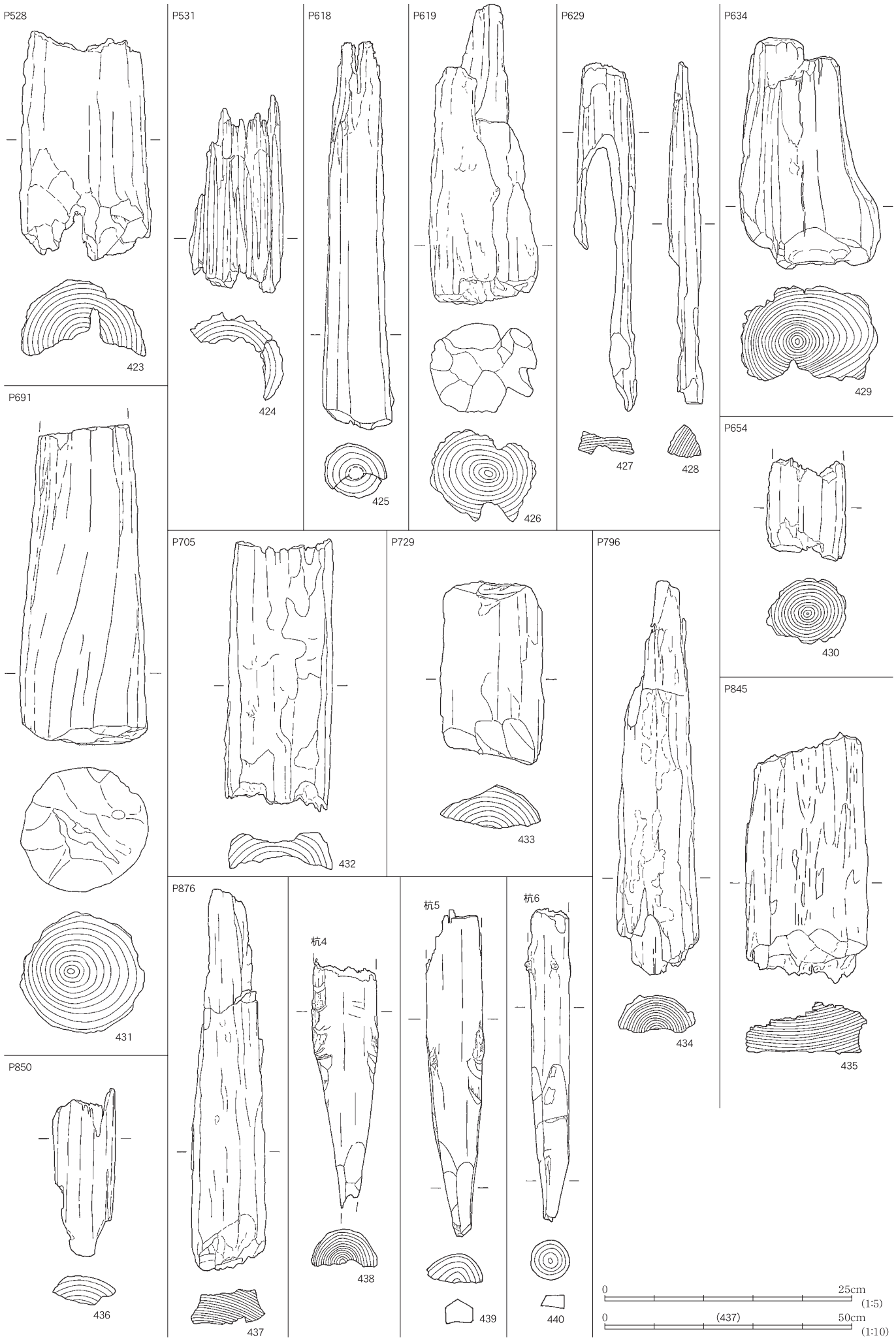

SE330
SE336
SE398
SE534
0 (274) 15cm (1:3)
0 20cm (1:4)
0 (300) 25cm (1:5)
0 (273) 40cm (1:8)

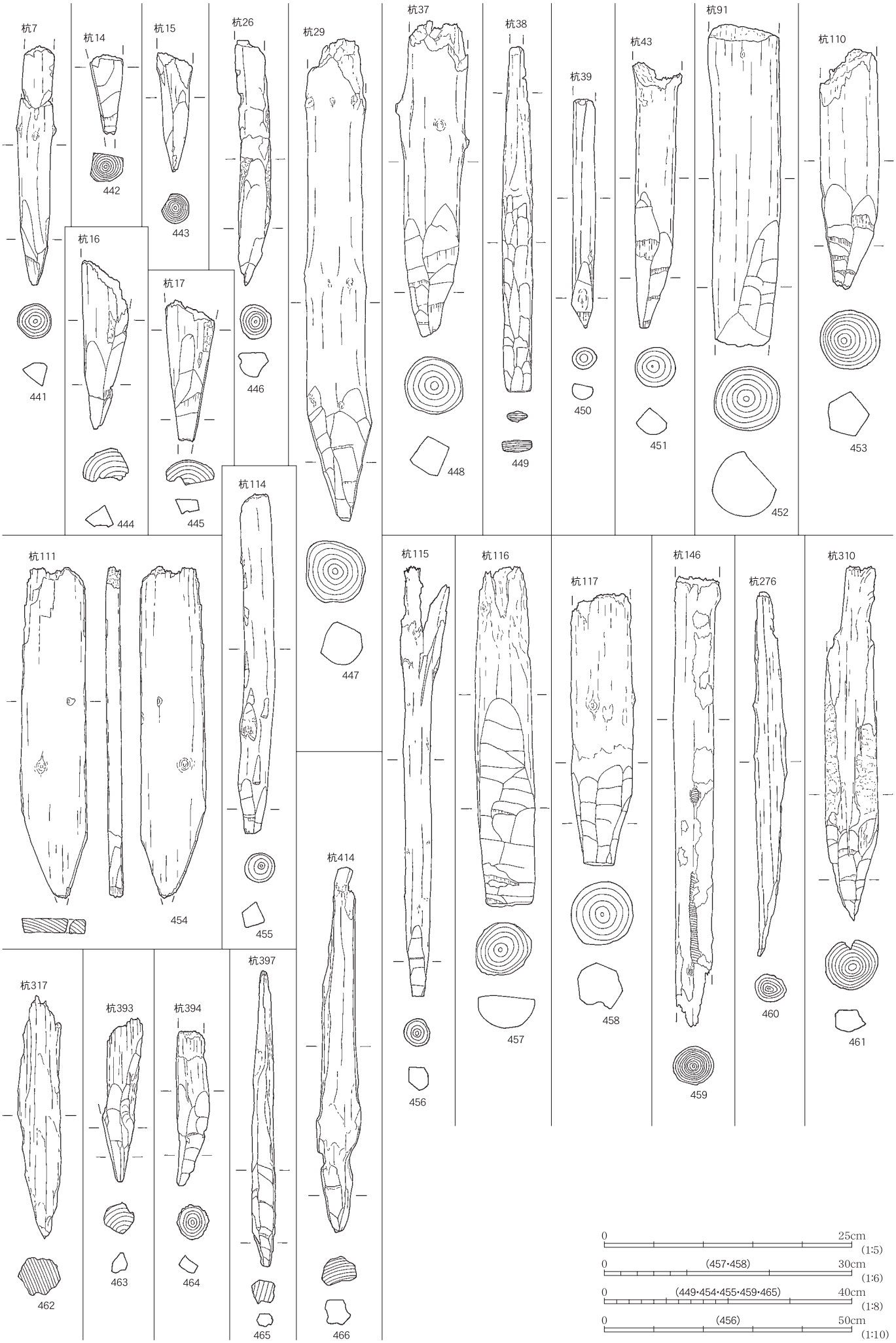

SE551
303
304
SE574
305
SE684
306
307
308
309
310
311
312
SE863
313
SK81
314
315
SK341
316
SG313
317
318
南
北
地
天
0 (303·306·317) 15cm (1:3)
0 20cm (1:4)
0 (310·311) 25cm (1:5)
0 (312) 30cm (1:6)
0 (304) 40cm (1:8)

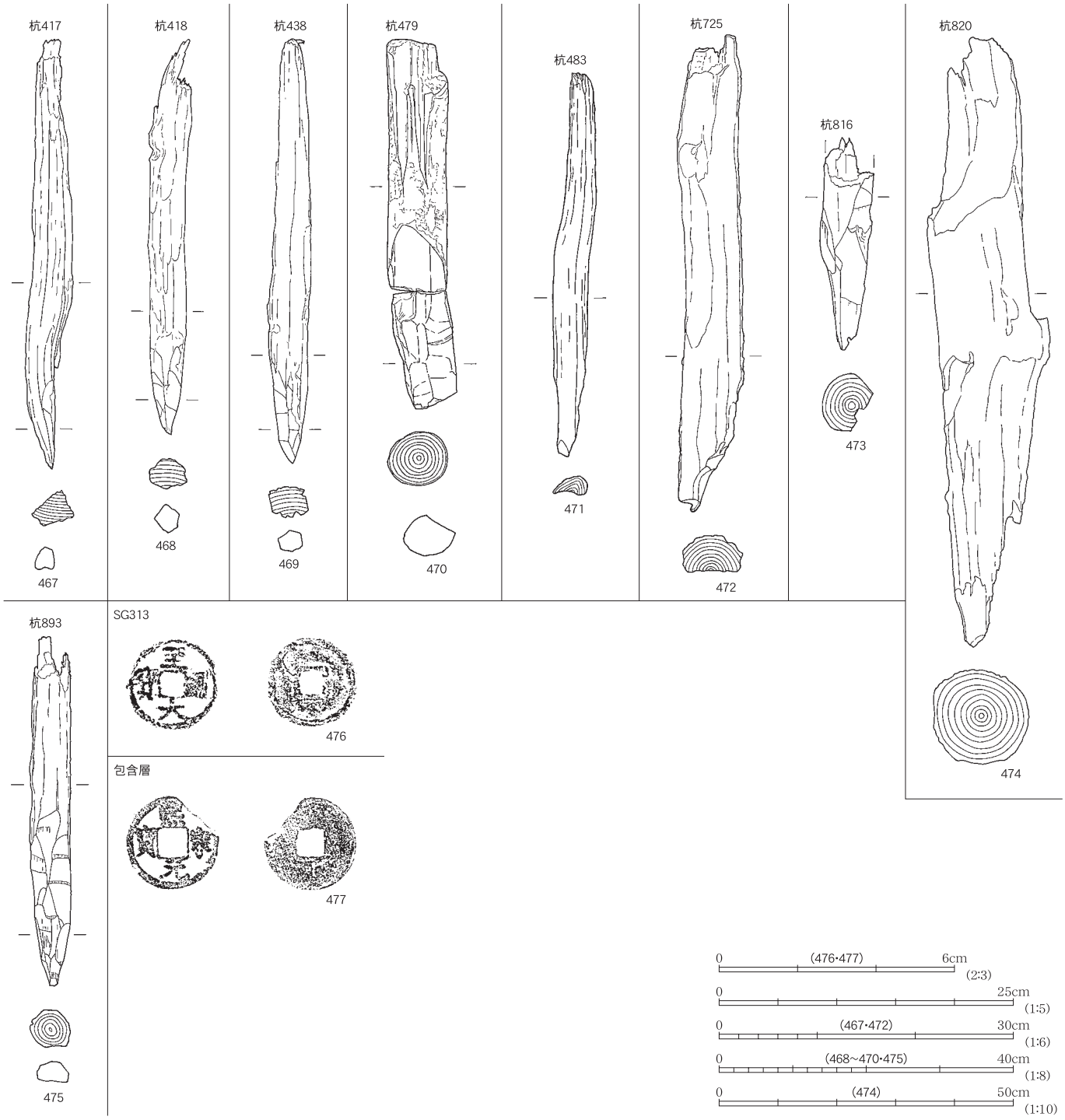

SG313
西
地
天
東
319
320
東
西
321
西
東
322
北
南
323
北
南
324
南
天
地
北
325
東
天
地
西
326
327
328
329
330
331
332
333
334
335
336
337
338
339
340
341
342
343
344
345
346
347
348
349
350
351
352
353
354
355
356
357
358
359
360
361
362
363
364
365
366
367
368
369
370
371
372
373
374
375
376
377
378
379
380
381
SD525
382
SD673
383
0 (327~381) 6cm (2:3)
0 (319·320·382) 20cm (1:4)
0 (383) 30cm (1:6)
0 (321~326) 40cm (1:8)

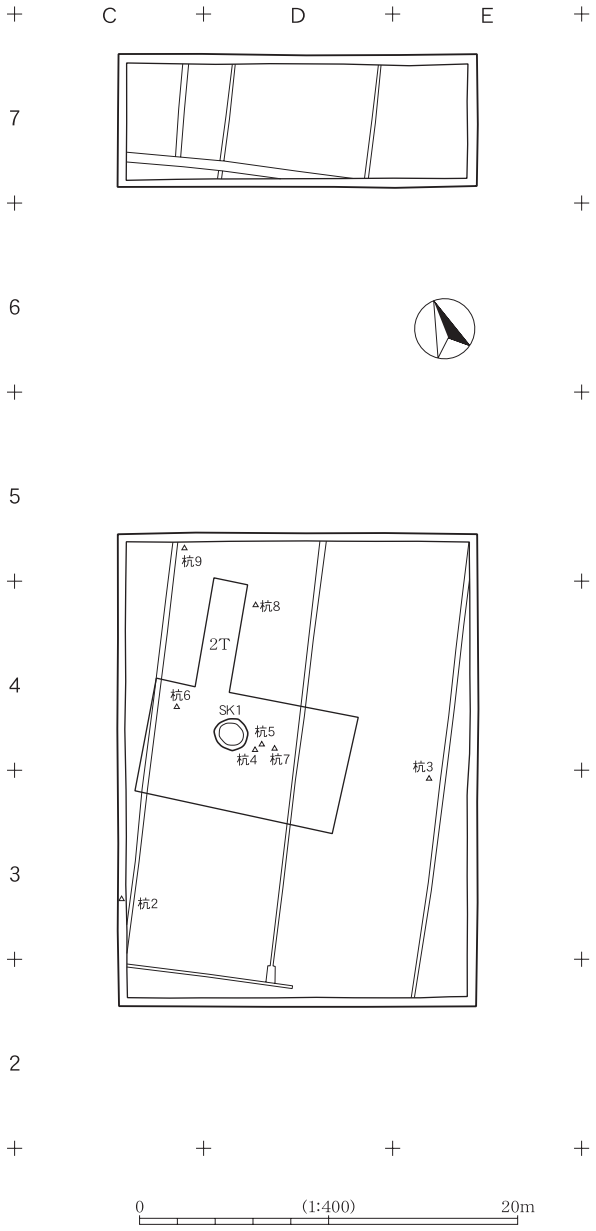

SD673
384
385
SX12
386
SA1
杭498
387
杭499
388
杭500
389
杭501
390
杭502
391
杭503
392
杭504
393
杭505
394
杭506
395
杭507
396
杭508
397
杭803
398
SA2
杭451
399
杭452
400
杭453
401
杭454
402
0 25cm (1:5)
0 (384・385) 30cm (1:6)
0 (402) 40cm (1:8)

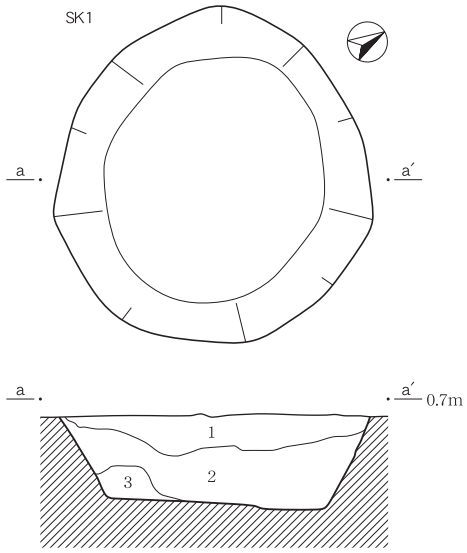

SA2
杭459
杭460
403
404
SA3
杭804
杭805
405
406
P18
407
408
P112
409
410
P120
411
P155
412
P210
413
P275
414
415
416
417
P278
418
P333
419
P381
420
P458
421
P487
422
0 25cm (1:5)
0 (405・406・418) 30cm (1:6)
0 (407・408) 40cm (1:8)


P528
423
P531
424
P618
425
P619
426
P629
427
428
P634
429
P654
430
P691
431
P705
432
P729
433
P796
434
P845
435
P850
436
P876
437
杭4
438
杭5
439
杭6
440
0
25cm
(1:5)
0
(437)
50cm
(1:10)

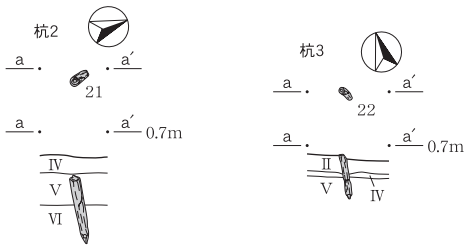

杭7
441
杭14
442
杭15
443
杭16
444
杭17
445
杭26
446
杭29
447
杭37
448
杭38
449
杭39
450
杭43
451
杭91
452
杭110
453
杭111
454
杭114
455
杭115
456
杭116
457
杭117
458
杭146
459
杭276
460
杭310
461
杭317
462
杭393
463
杭394
464
杭397
465
杭414
466
0 25cm (1:5)
0 (457・458) 30cm (1:6)
0 (449・454・455・459・465) 40cm (1:8)
0 (456) 50cm (1:10)

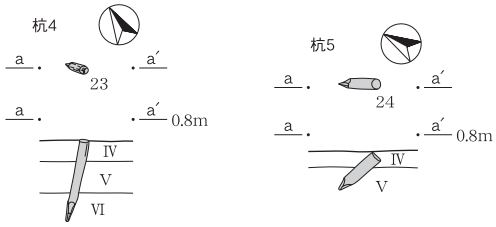

杭417
467
杭418
468
杭438
469
杭479
470
杭483
471
杭725
472
杭816
473
杭820
474
杭893
475
SG313
476
包含層
477
0 (476・477) 6cm (2:3)
0 25cm (1:5)
0 (467・472) 30cm (1:6)
0 (468～470・475) 40cm (1:8)
0 (474) 50cm (1:10)

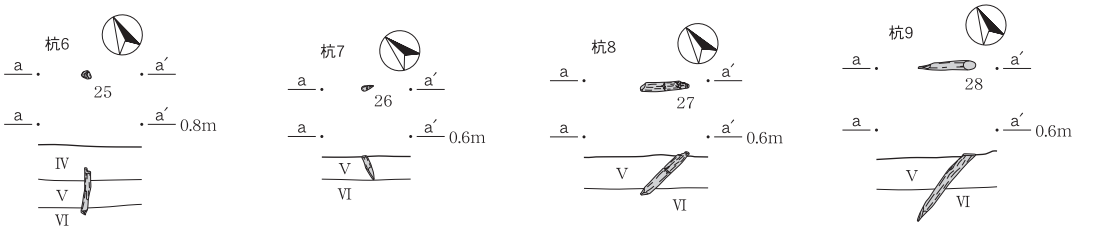




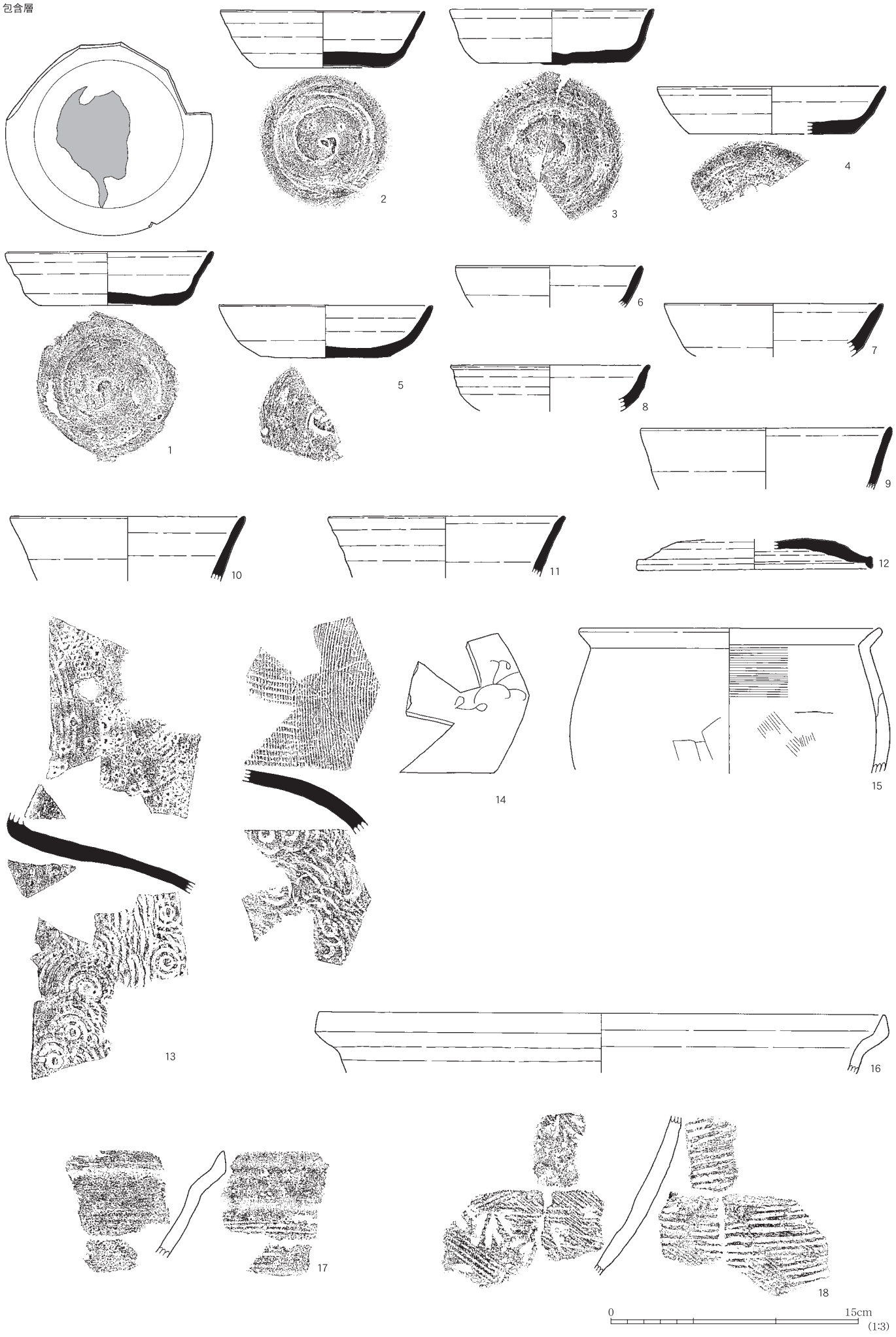
SK1
1. 黒褐色、粘質土、褐灰色砂質シルトをブロック状に含む、しまり弱、粘性中。
2. 黒褐色、粘質土、褐灰色砂質シルトをブロック状に含む、しまり弱、粘性中。
3. 黒褐色、粘質土、しまり弱、粘性中。



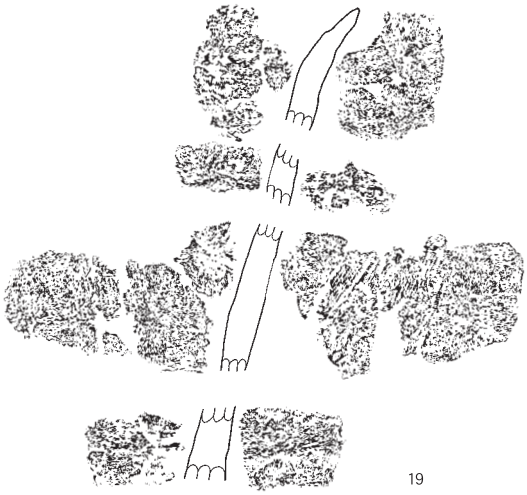


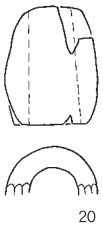


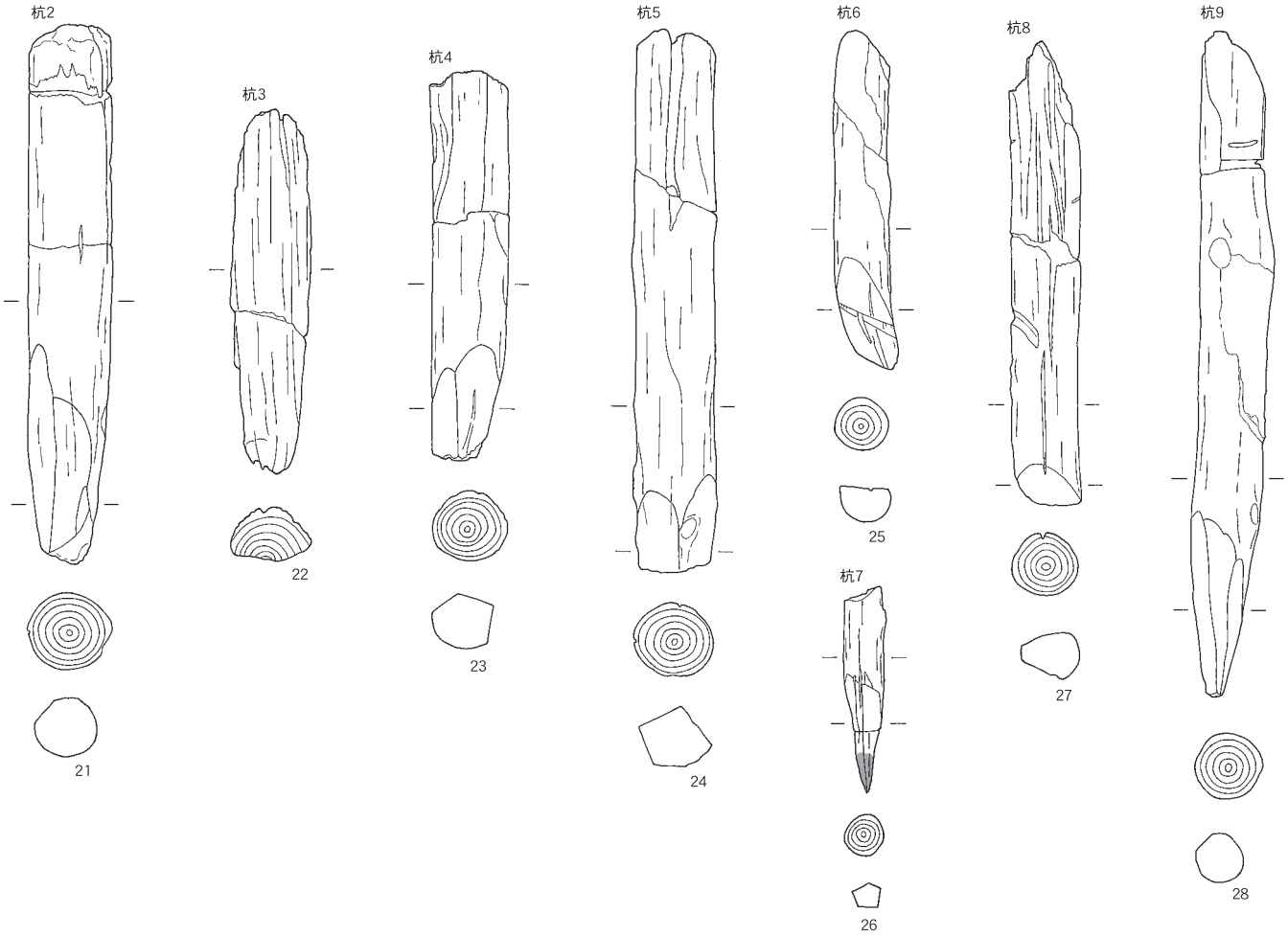
包含層



包含層



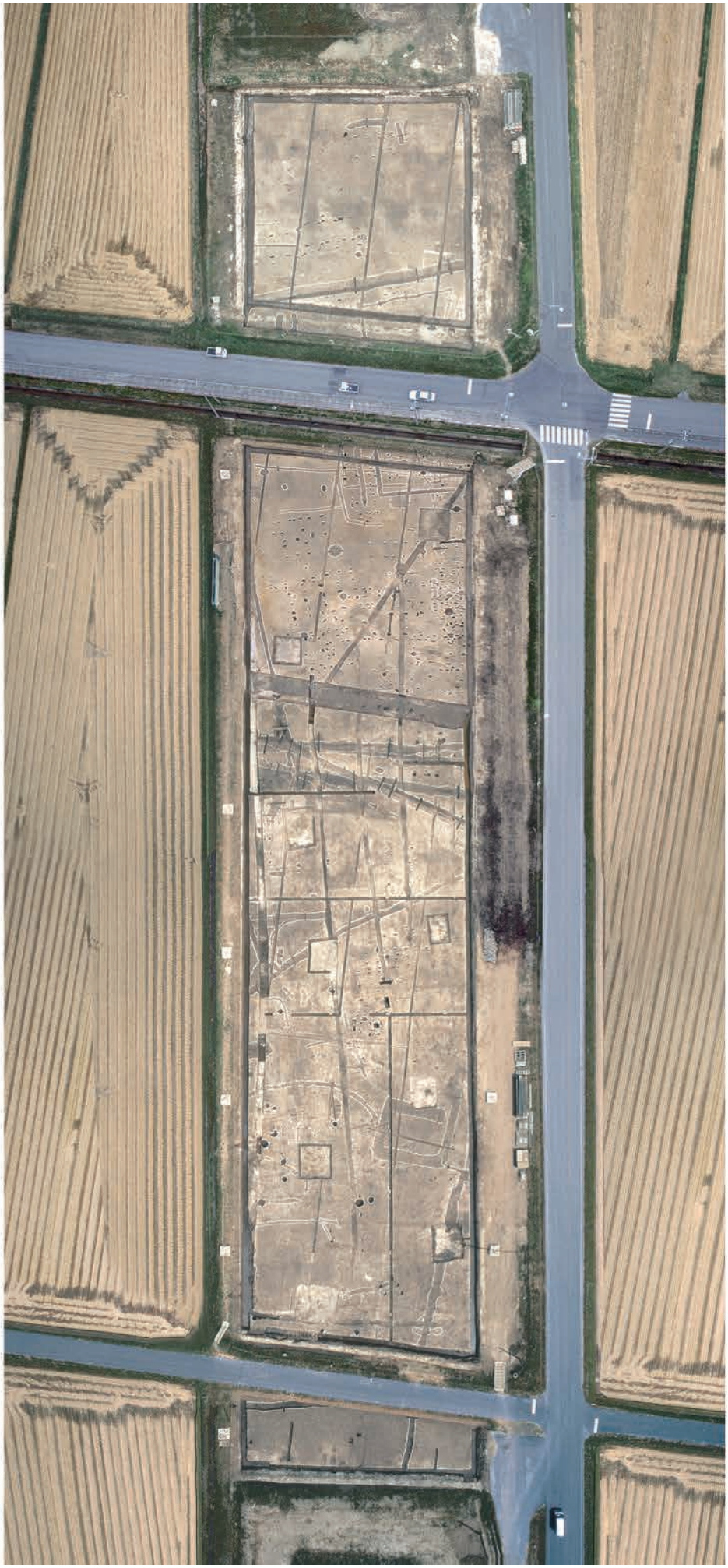




0　(19·20)　15cm
(1:3)
0　25cm
(1:5)

調査区俯瞰全景（北から）

調査区俯瞰全景（南から）

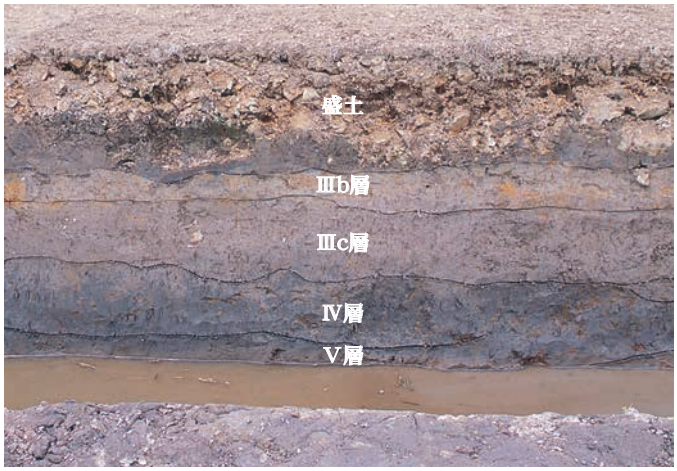


調査区垂直全景

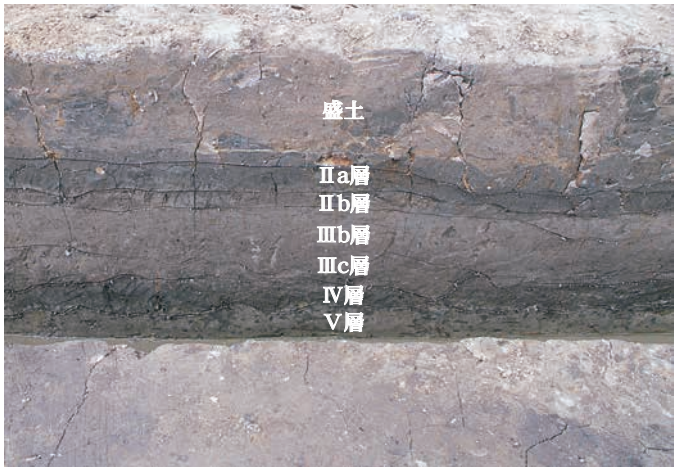
調査区俯瞰全景（西から）

調査区俯瞰全景（東から）

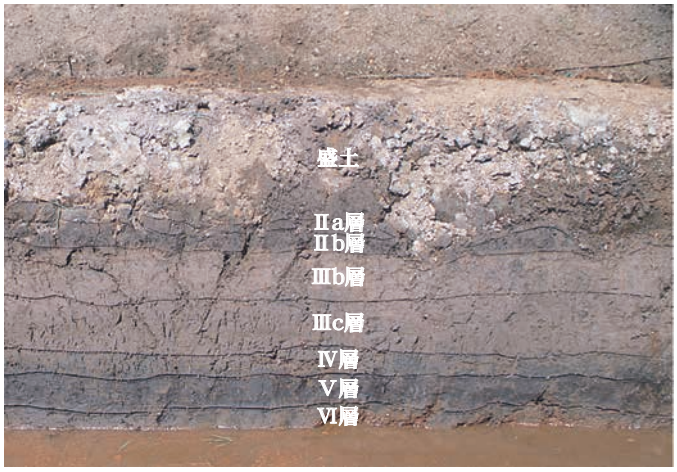
土層（B区西壁・中央ベルト・A区北壁・C区西壁）、SG313遺物出土状況



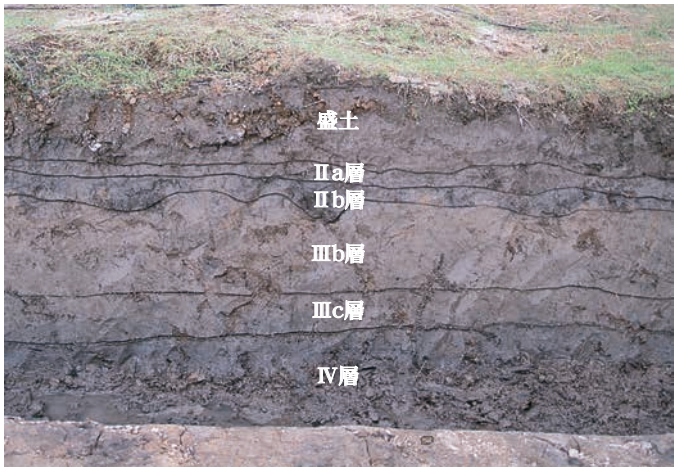
B区西壁セクション（東から）



B区中央ベルトセクション（南から）

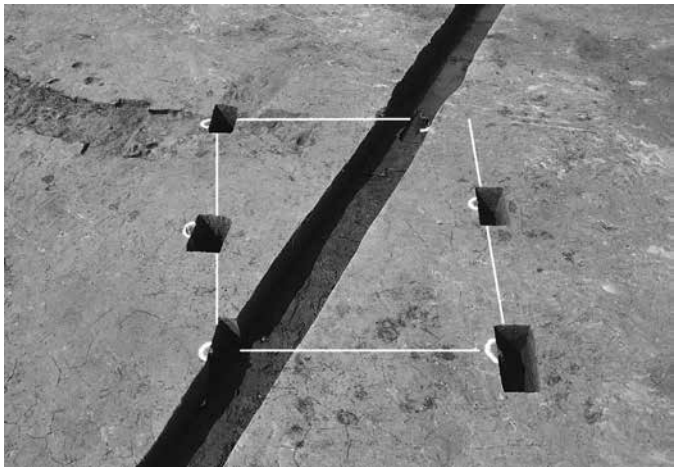


A区北壁セクション（南から）



C区西壁セクション（東から）

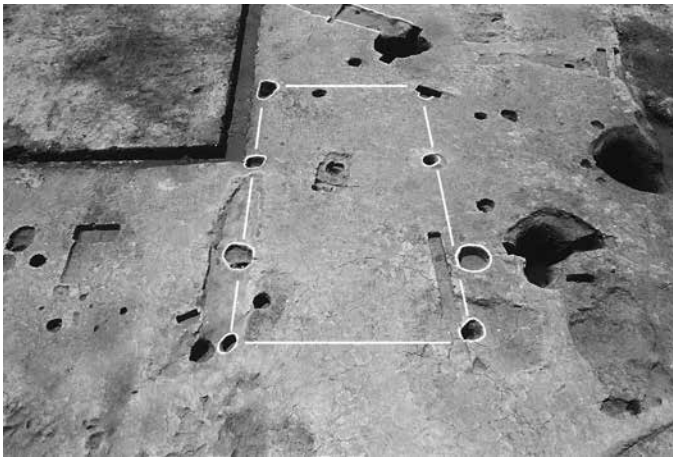
SG313遺物出土状況（西から）



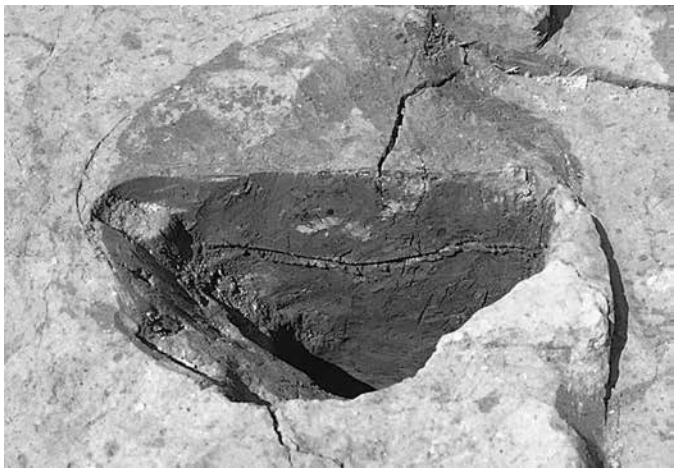
SB1完掘（南から）

SB1（杭10）セクション（東から）

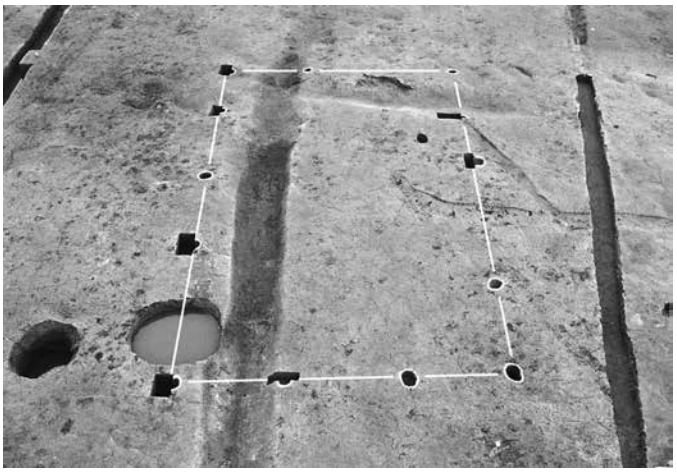
SB1（杭20）セクション（東から）



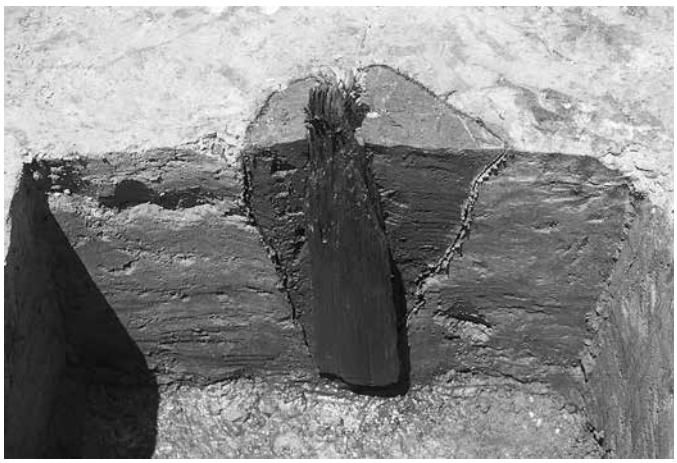
SB2完掘（北から）



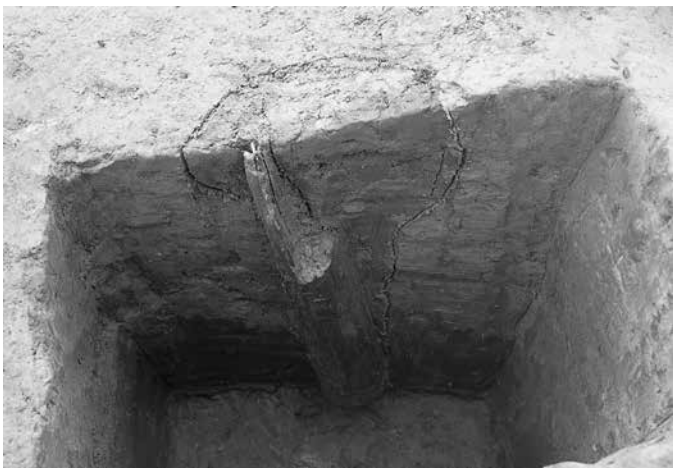
SB2（P99）セクション（南から）



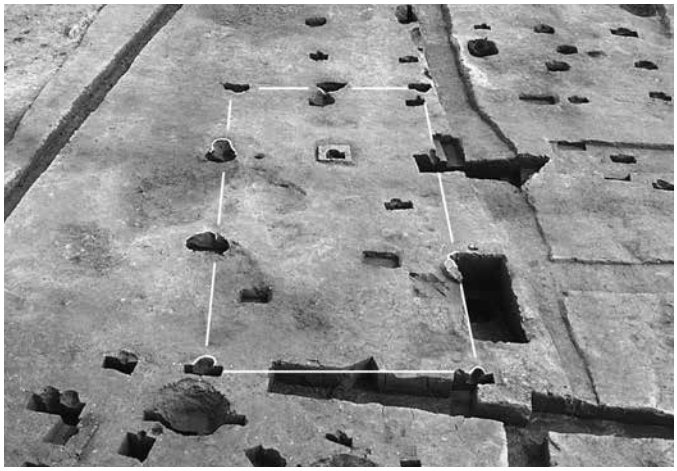
SB3完掘（北から）



SB3（P49）セクション（東から）



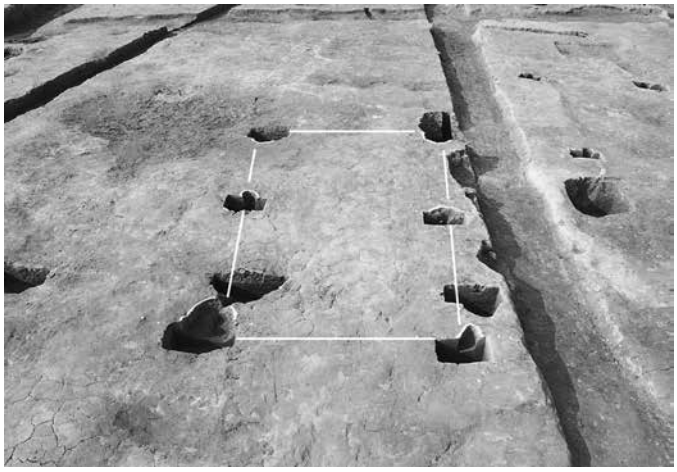
SB3（P77）セクション（東から）



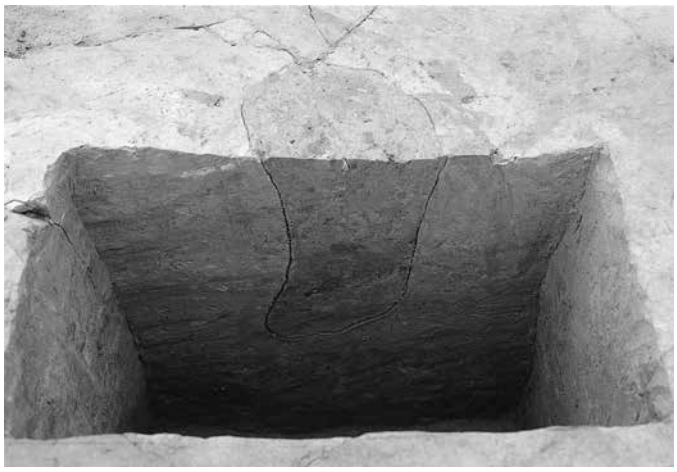
SB4完掘（南から）

SB4（P132）セクション（南から）

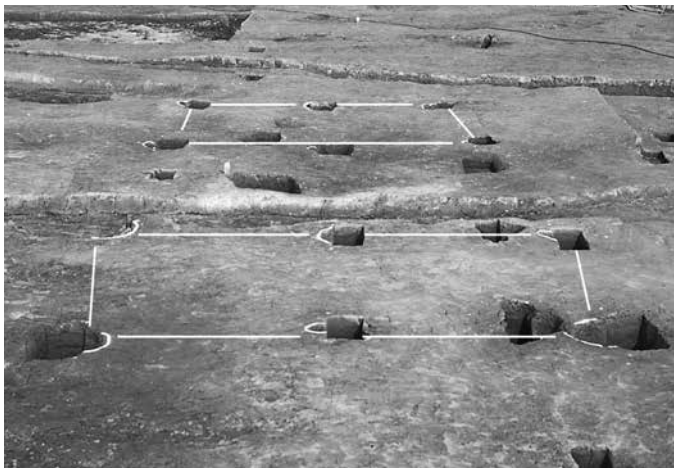
SB4（P143）セクション（東から）



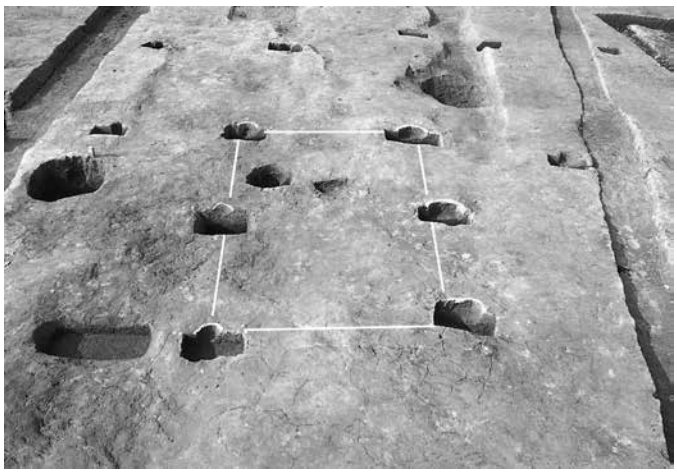
SB5完掘（南から）



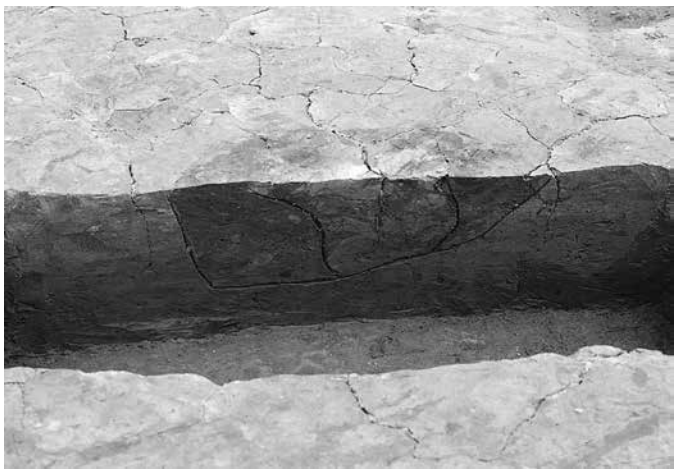
SB5（P184）セクション（南から）



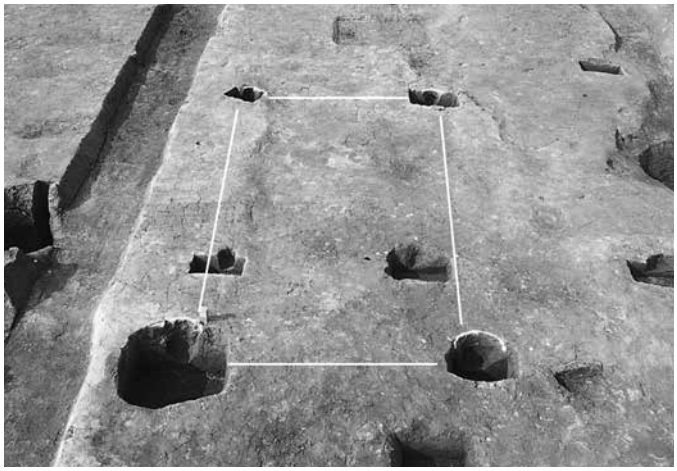
SB5・6完掘（西から）



SB6完掘（南から）



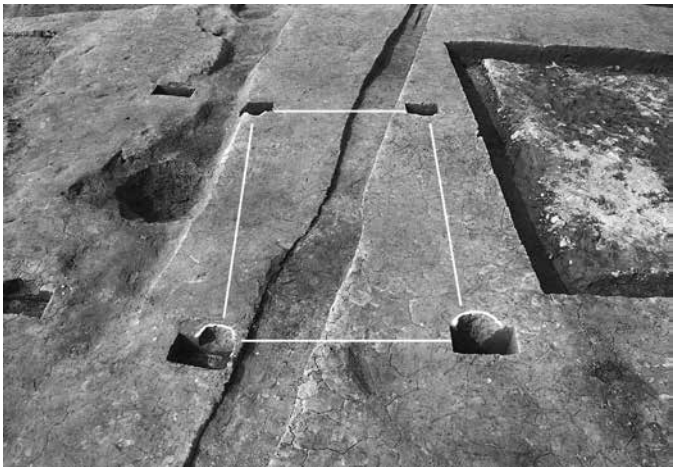
SB6（P163）セクション（南から）



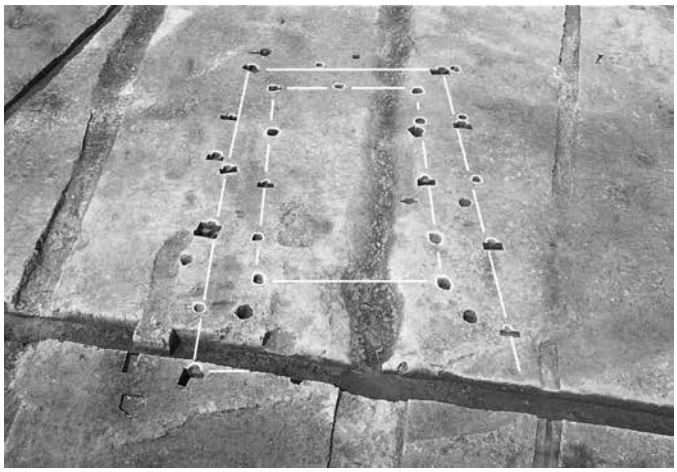
SB7完掘（南から）

SB7（P149）セクション（南から）

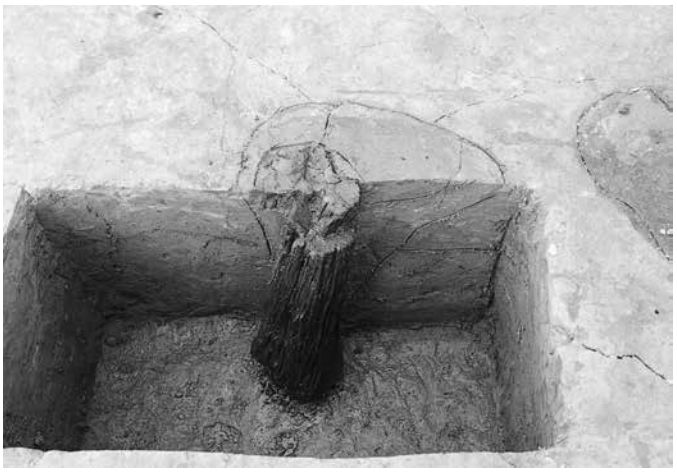
SB7・8完掘（西から）



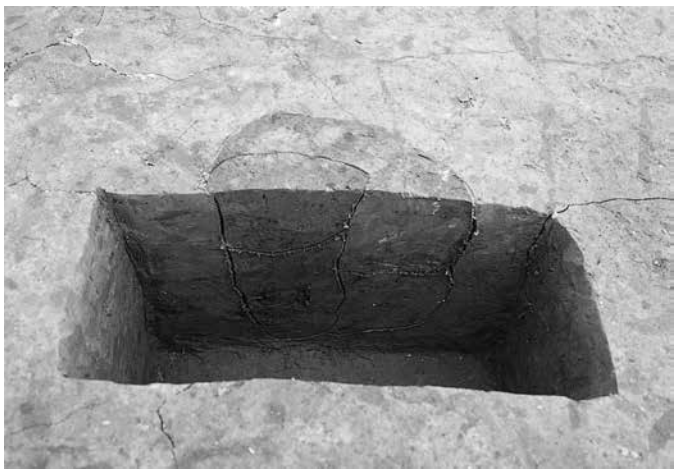
SB8完掘（南から）



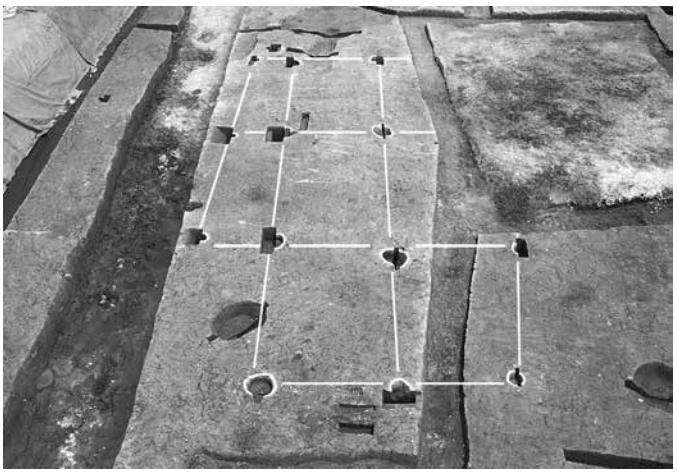
SB9完掘（南から）



SB9（P242）セクション（南から）

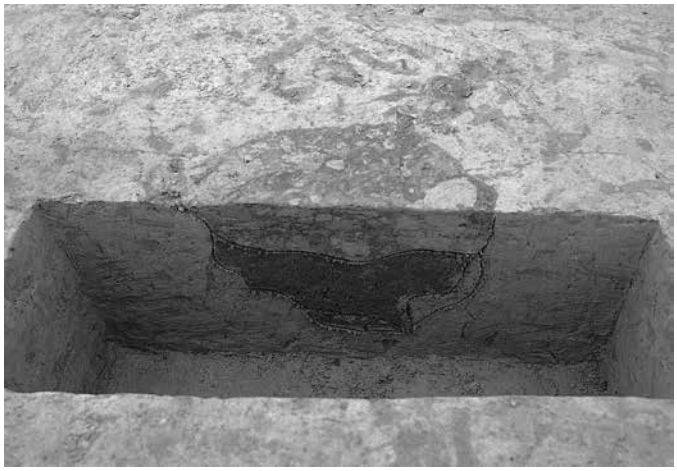


SB9（P248）セクション（南から）

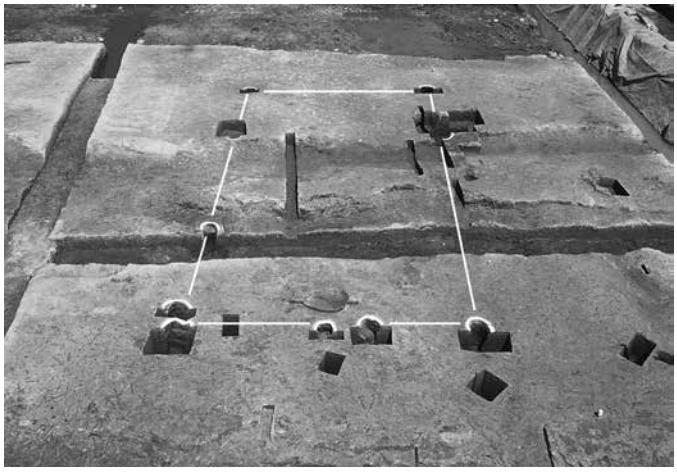


SB10完掘（南から）

SB10（P261）セクション（西から）



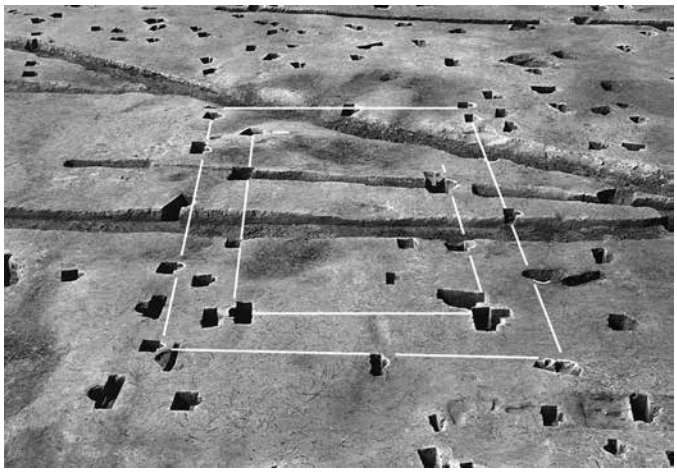
SB10（P265）セクション（西から）



SB11完掘（南から）

SB11（P298）セクション（北から）

SB11（P294）セクション（南から）



SB12完掘（東から）

SB12（P325）セクション（南から）

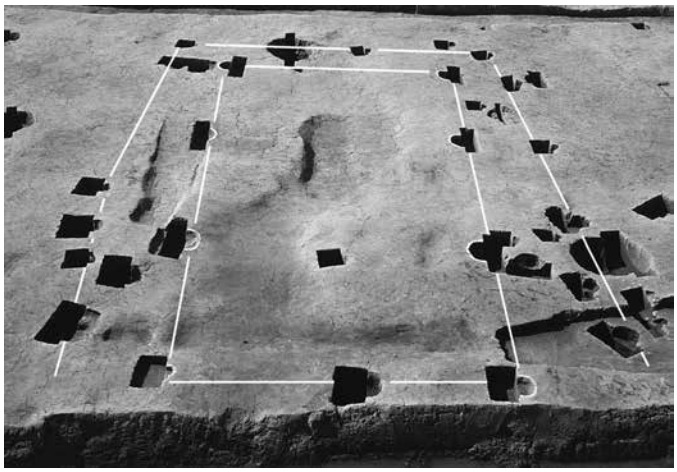
SB12（P637）セクション（南から）

SB12（P722）セクション（南から）

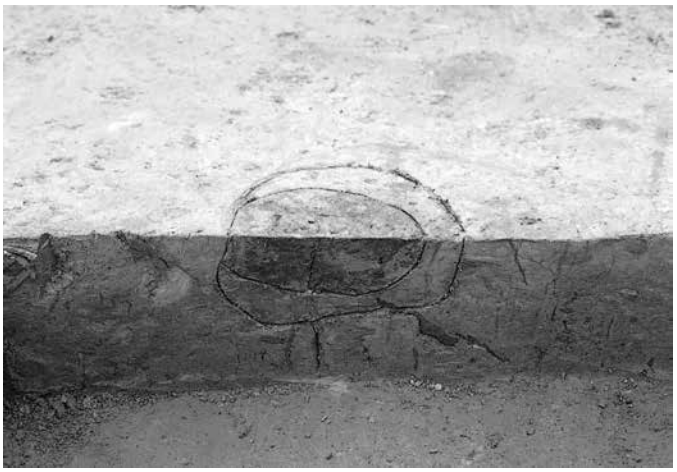
SB12（P872）セクション（南から）

SB13完掘（東から）

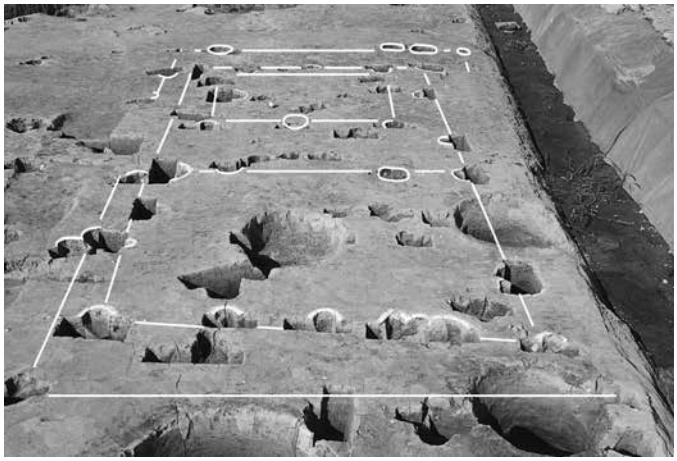
SB13（P345）セクション（南から）



SB14完掘（東から）

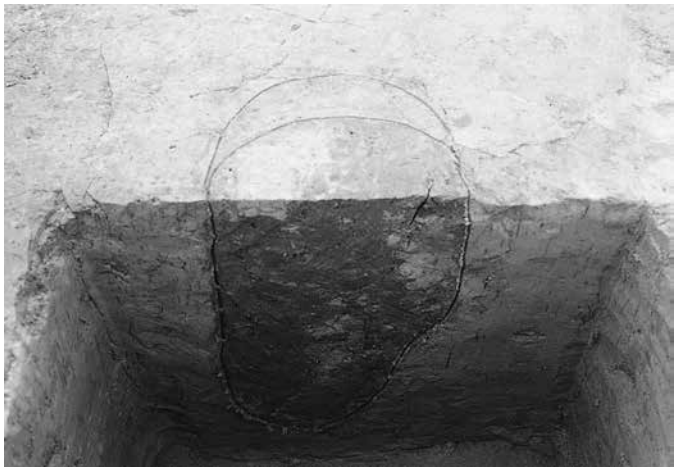


SB14（P703）セクション（南から）

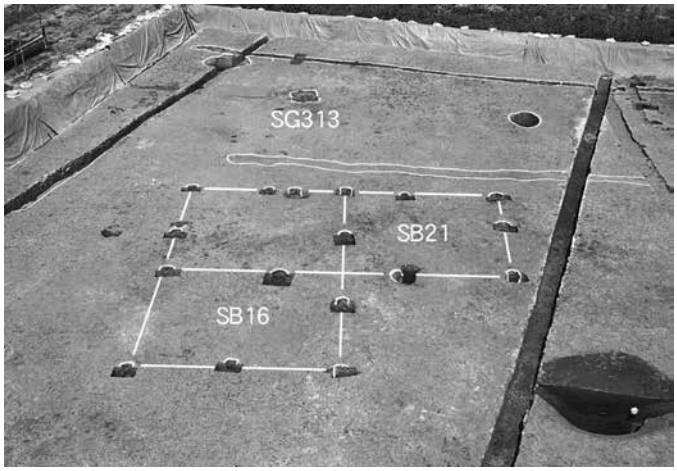


SB15完掘（南から）

SB15（P475）セクション（南から）

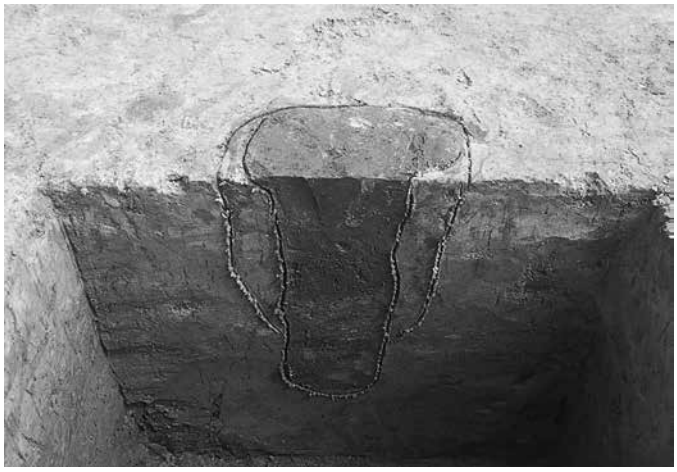


SB15（P380）セクション（東から）

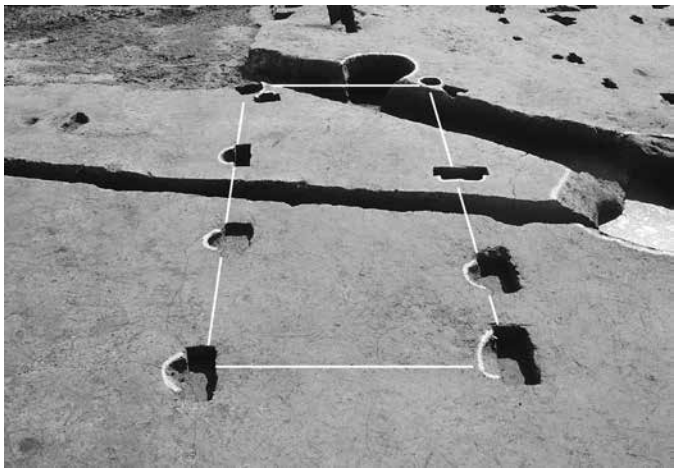


SB16・21、SG313完掘（南から）

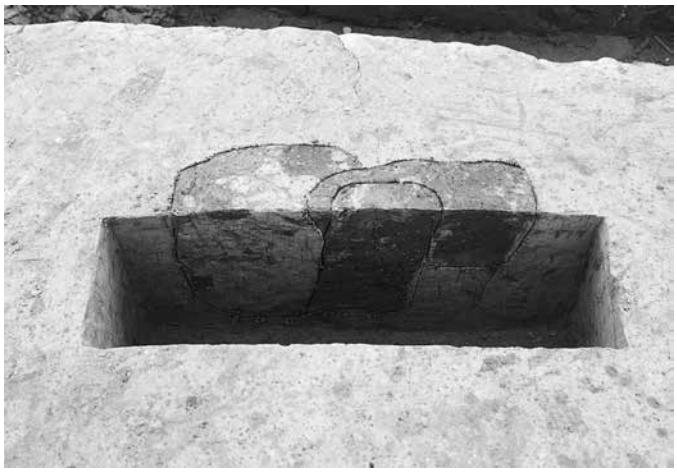
SB16（P428）セクション（南から）



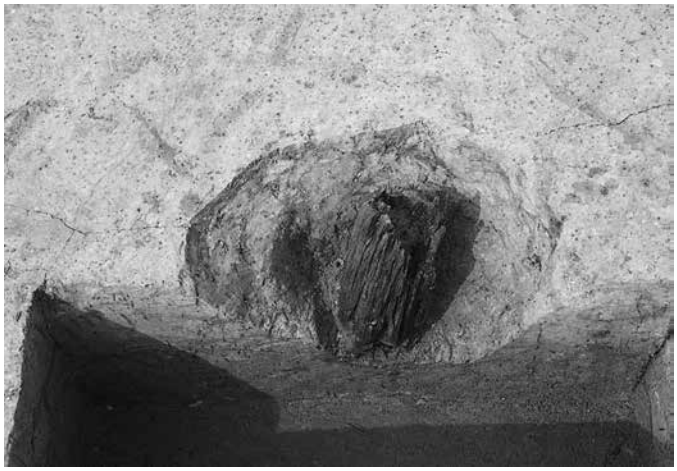
SB16（P435）セクション（南から）



SB17完掘（西から）

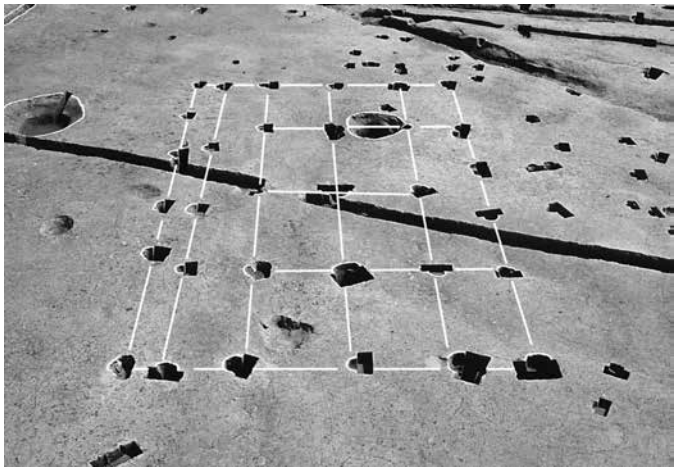


SB17（P520右，521左）セクション（東から）



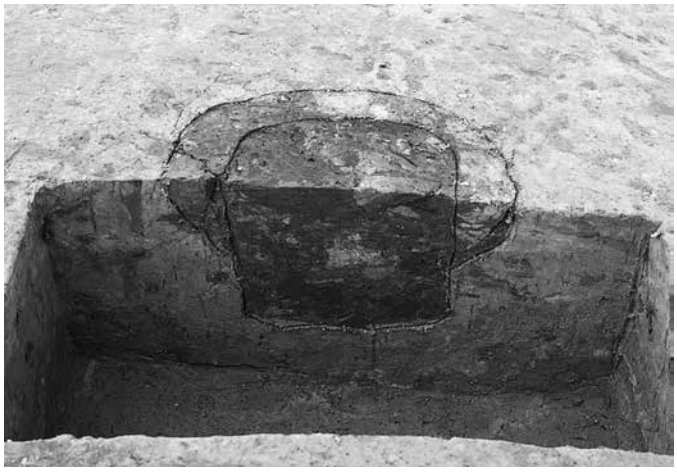
SB17（P530）柱根出土状況（南から）

SB17（P532）セクション（北から）



SB18完掘（西から）

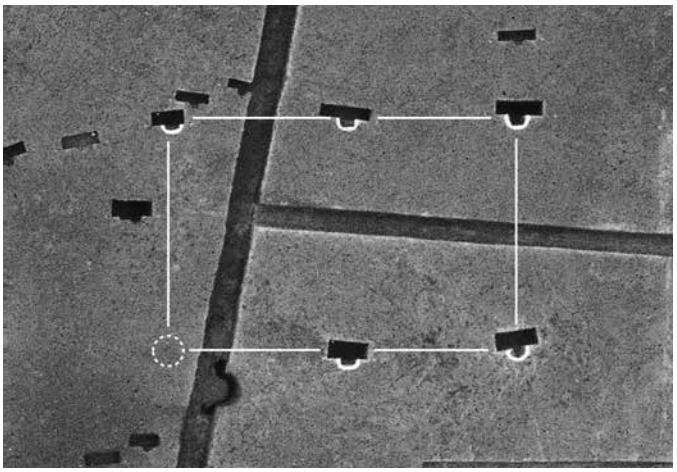
SB18（P553）セクション（北から）



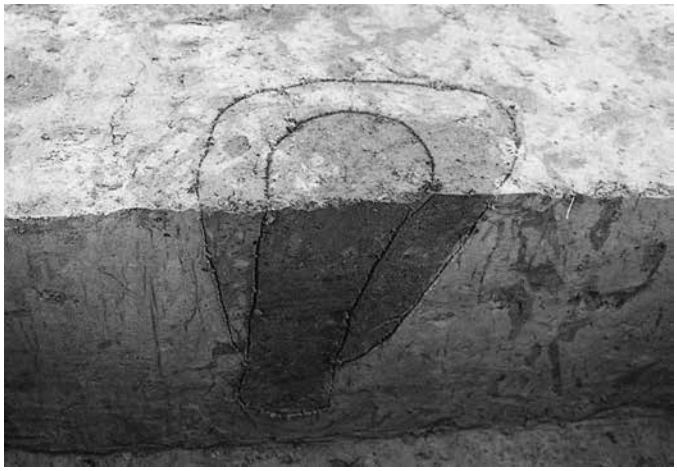
SB18（P554）セクション（南から）

SB18（P559右，560左）セクション（東から）

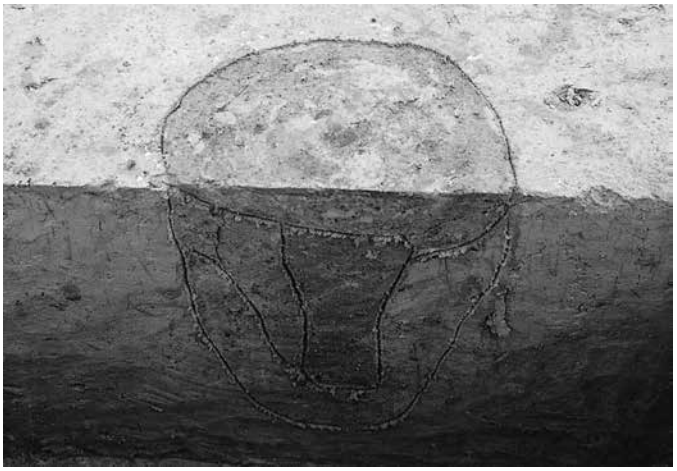
SB18（P591）セクション（南から）



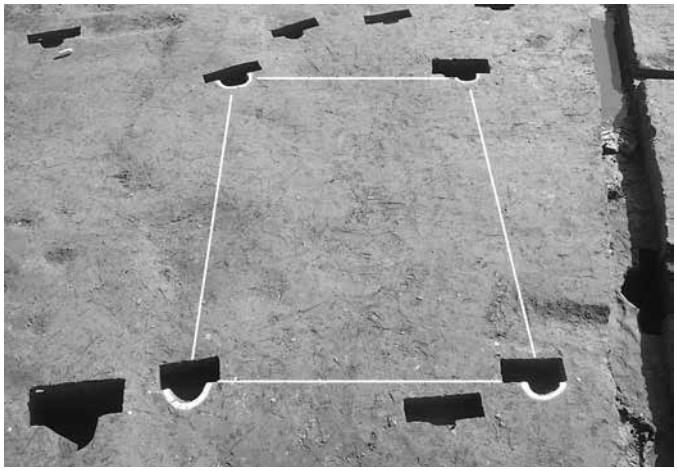
SB19完掘（北から）



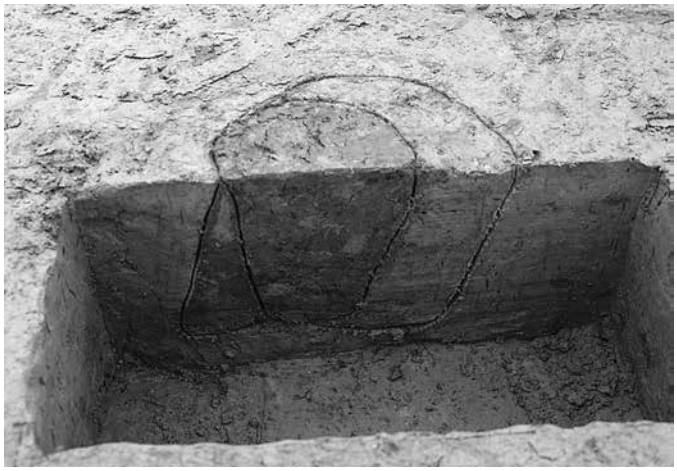
SB19（P775）セクション（南から）



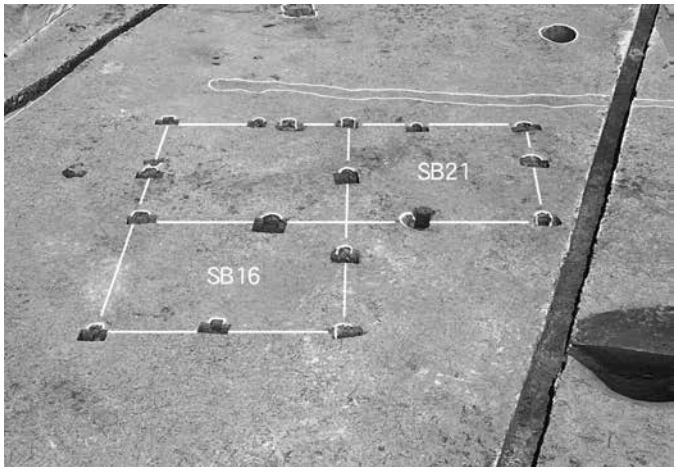
SB19（P776）セクション（南から）



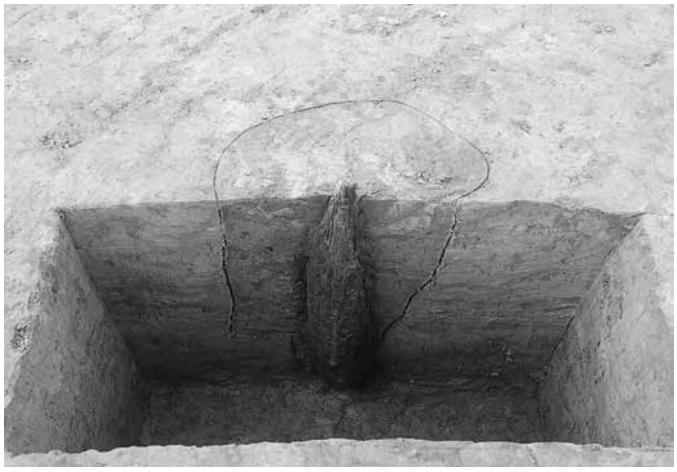
SB20完掘（北から）



SB20（P769）セクション（南から）

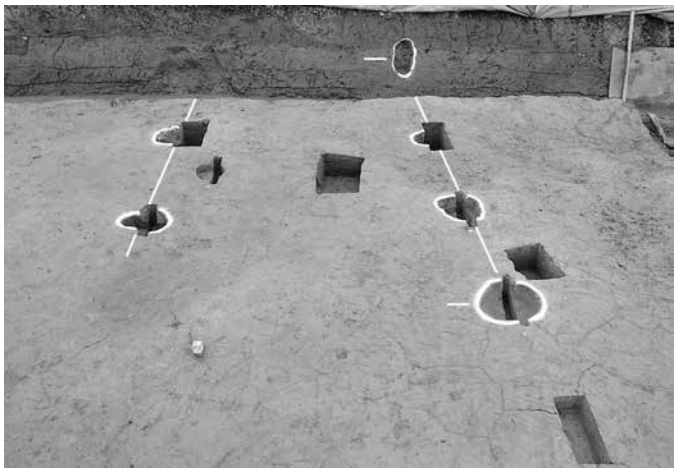


SB16・21完掘（南から）



SB21（P426）セクション（南から）

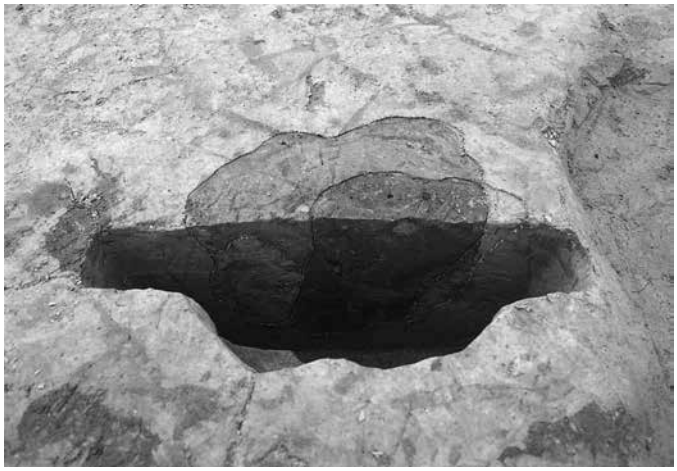
SB21（P431）セクション（南から）



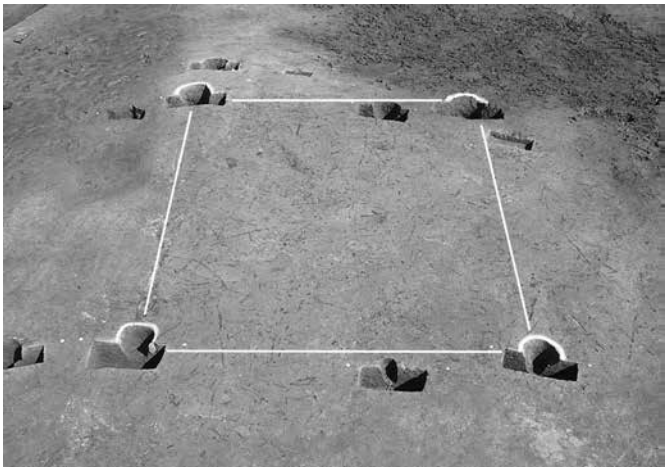
SB22完掘（西から）

SB22（P407）セクション（南から）

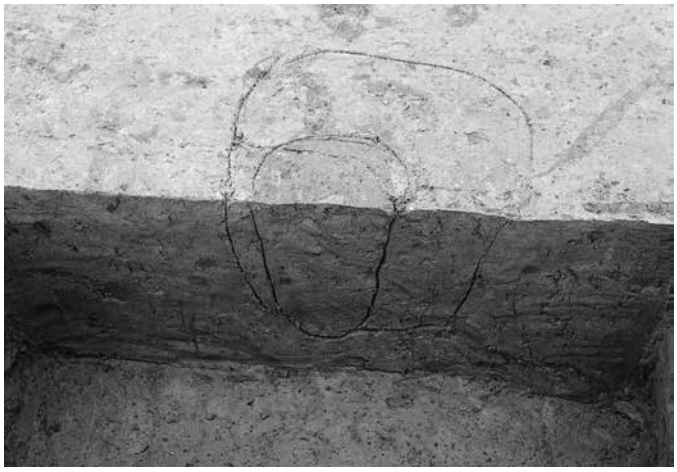
SB22（P407）礎板出土状況（南から）



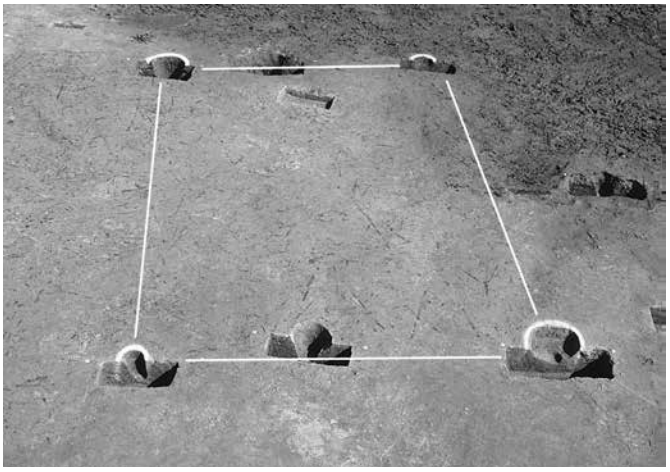
SB22（P408）セクション（南から）



SB23完掘（南から）

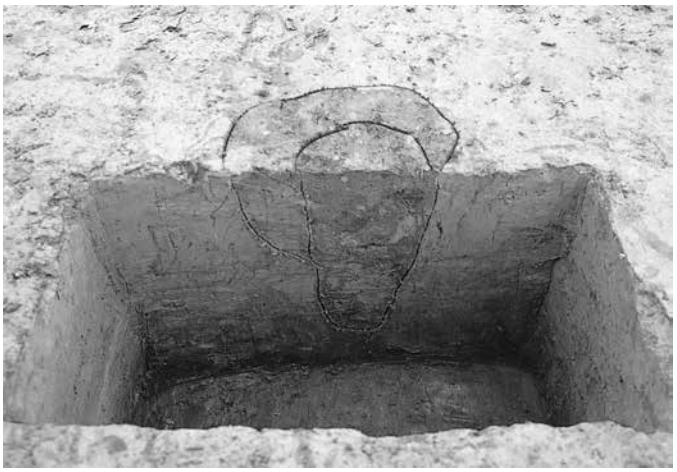


SB23（P801）セクション（南から）

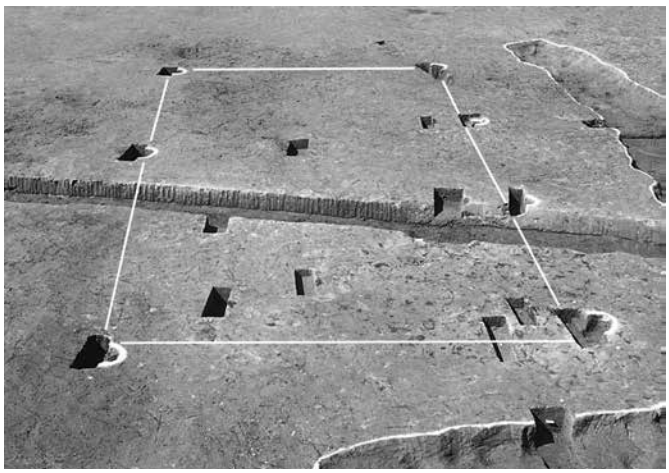


SB24完掘（南から）

SB24（P598）セクション（南から）



SB24（P753）セクション（南から）



SB25完掘（東から）

SB25（P231）セクション（南から）

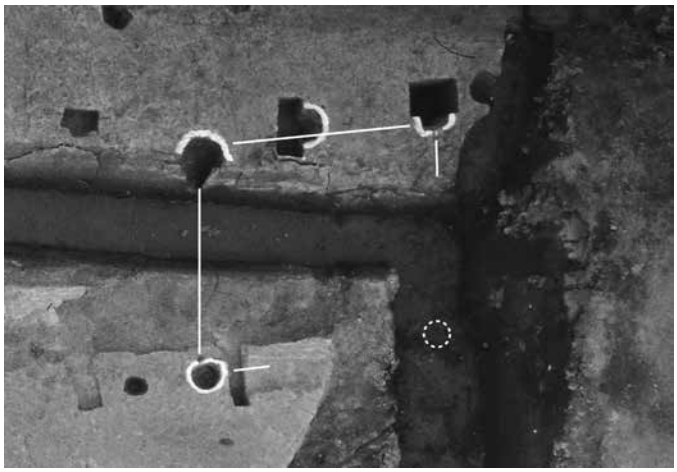
SB25（P792）セクション（南から）

SB26完掘（南から）

SB26（P488）セクション（南から）

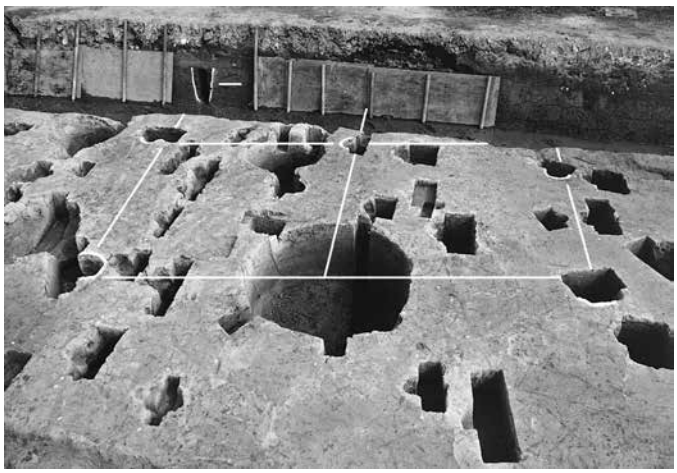
SB26（P489）セクション（南から）

SB26（P606）セクション（西から）

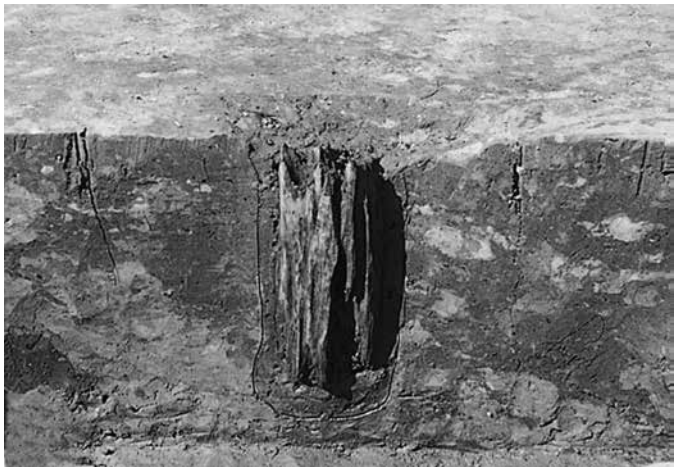


SB27完掘（南から）

SB27（P861）セクション（北から）



SB28完掘（西から）



SB28（P318）セクション（南から）

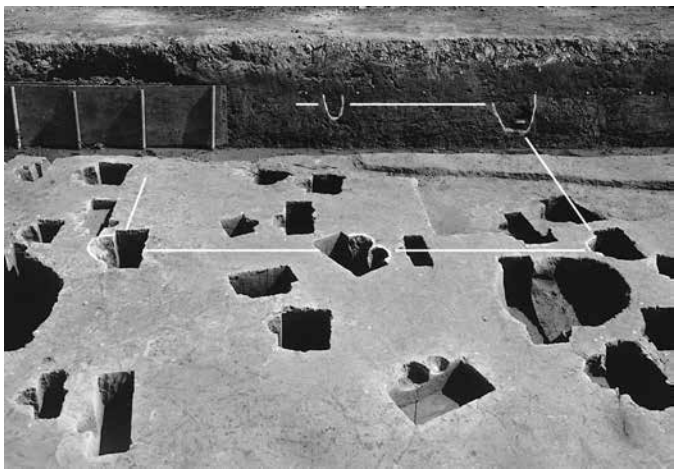
SB28（P224）セクション（西から）

SB28（P469左、470右）セクション（北から）

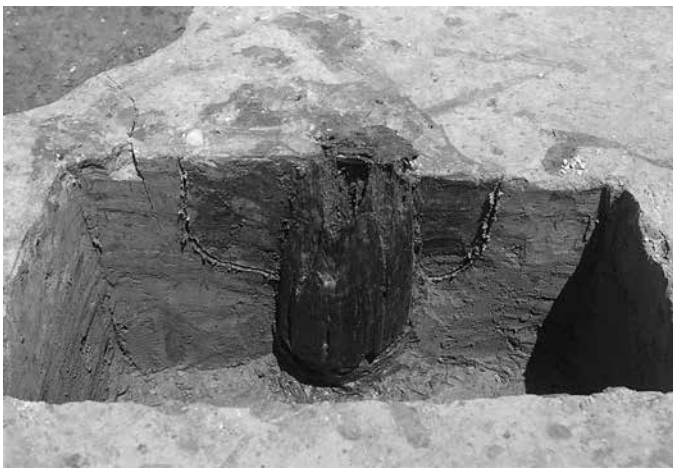
SB28（P470）柱根（北から）

SB28（P646）セクション（南から）

SB28（P711）セクション（東から）

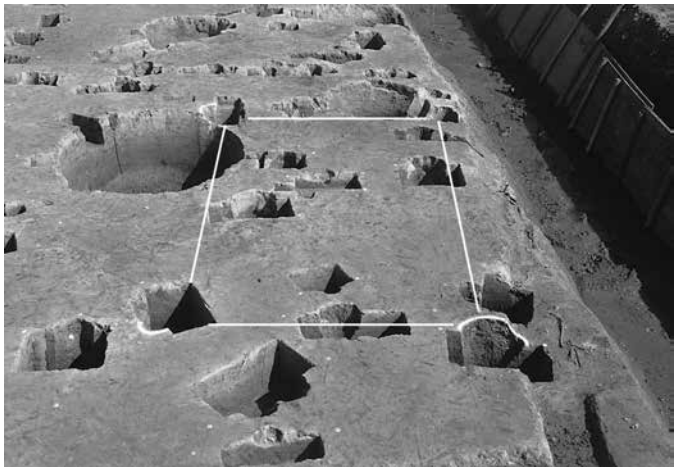


SB29完掘（西から）



SB29（P340）セクション（南から）

SB29（P709）セクション（南から）

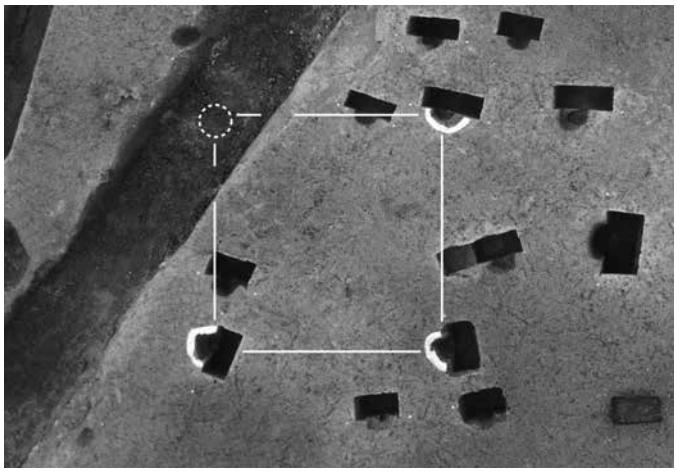


SB30完掘（南から）

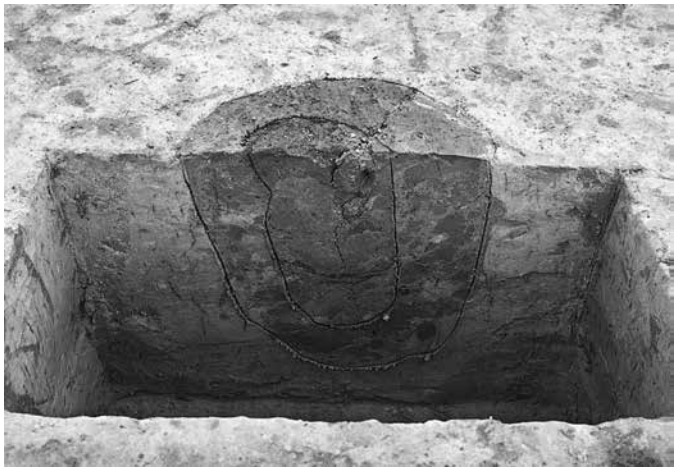
SB30（P337）セクション（南から）

SB30（P710）セクション（南から）

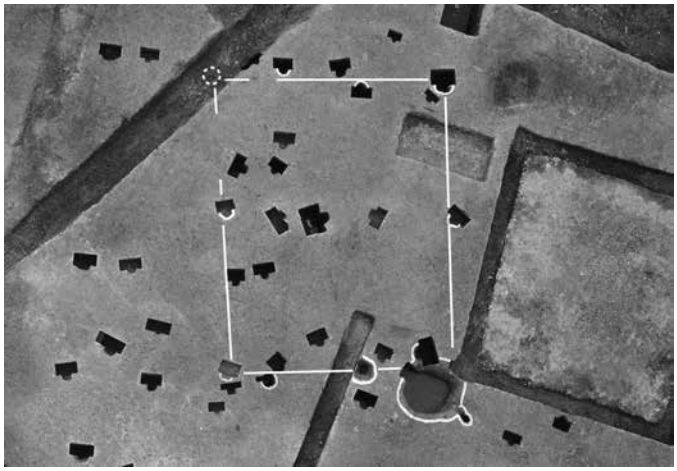
SB30（P787左）、P713右セクション（南から）



SB31完掘（北から）



SB31（P632）セクション（西から）



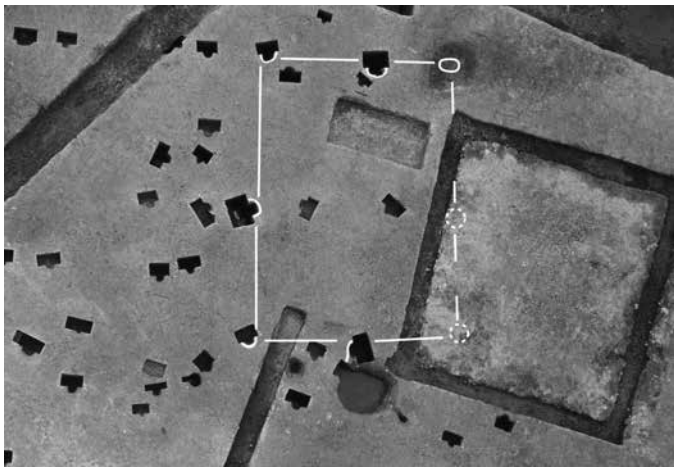
SB32完掘（北から）

SB32（P692）セクション（南から）

SB32（P692）礎板出土状況（南から）

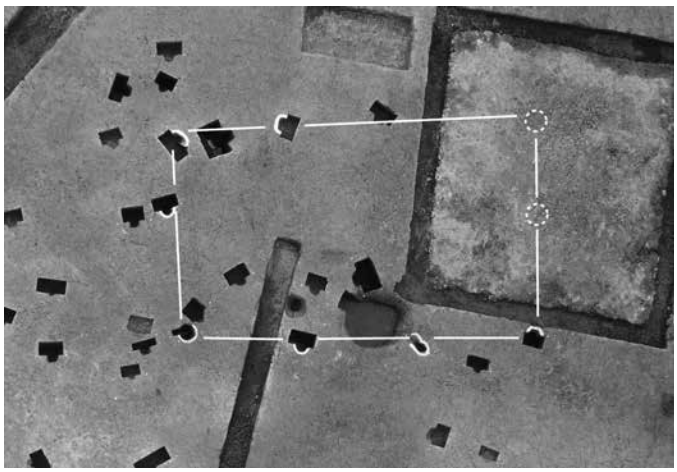
SB32（P734）完掘（南から）

SB32（P755）セクション（東から）

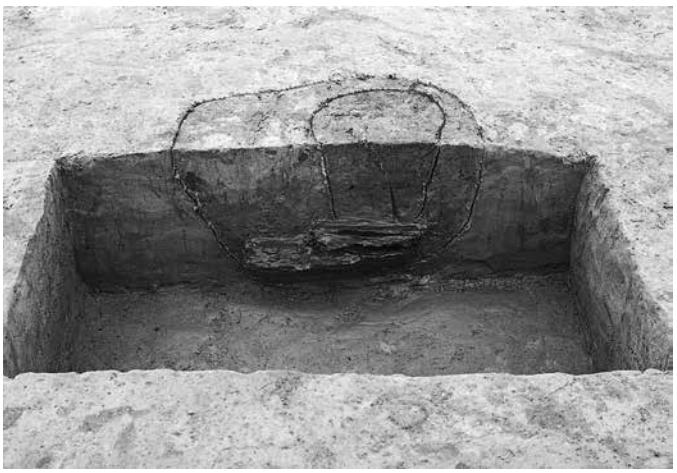


SB33完掘（北から）

SB33（P731）セクション（南から）

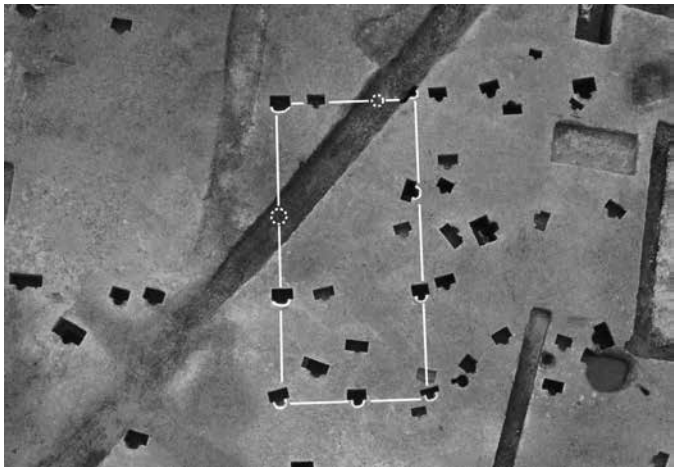


SB34完掘（北から）

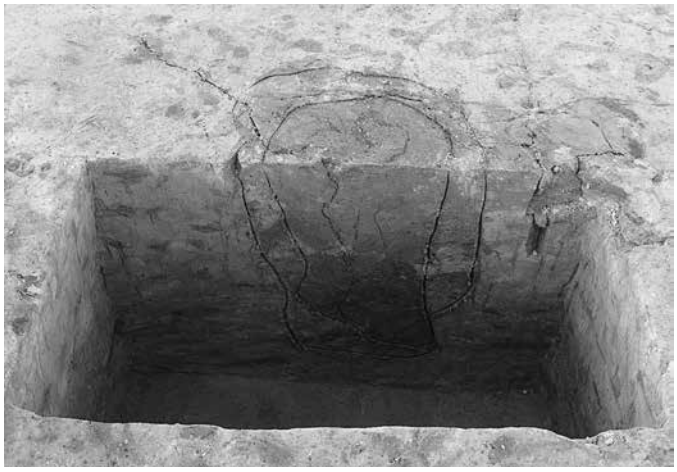


SB34（P756）セクション（西から）

SB34（P756）礎板出土状況（西から）

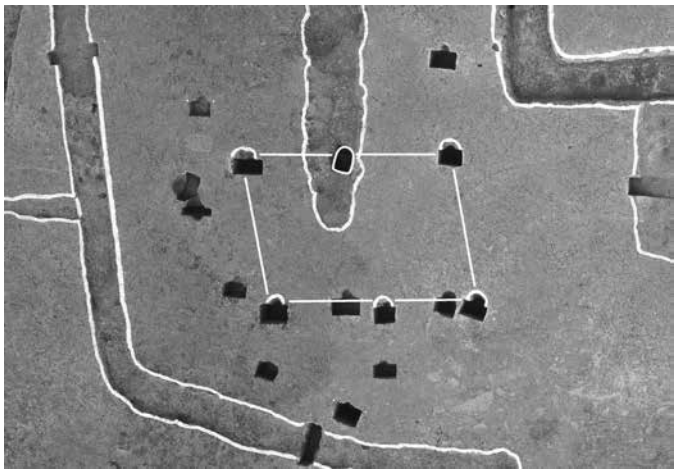


SB35完掘（北から）

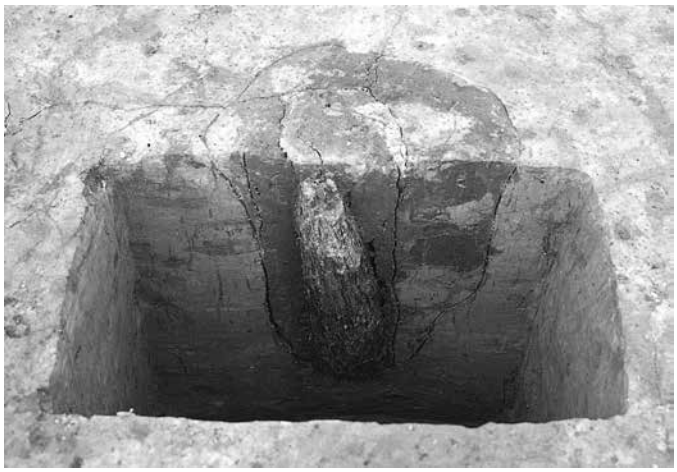


SB35（P683）セクション（南から）

SB35（P686）セクション（南から）



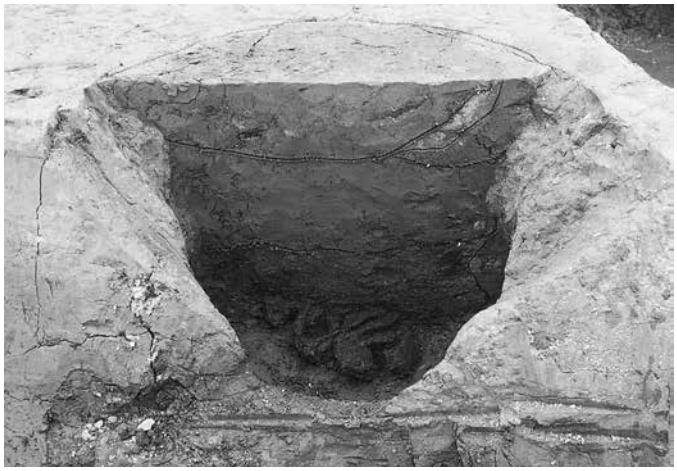
SB36完掘（南から）



SB36（P492）セクション（南から）

SB36（P497）セクション（南から）

SB36（P621）セクション（南から）


SE33セクション（北から）

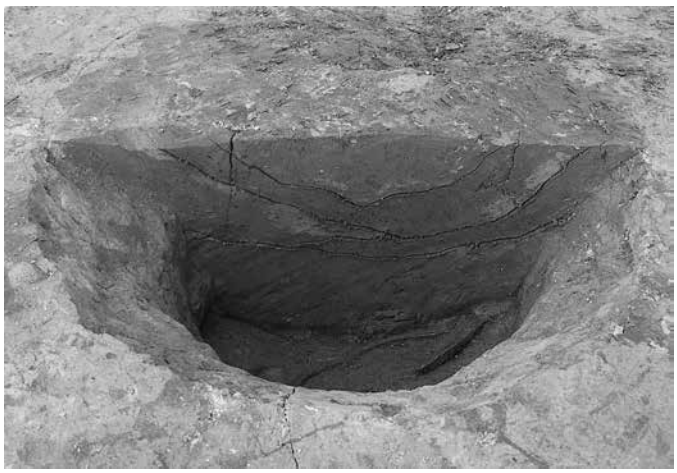
SE33植物遺体出土状況（北から）

SE33完掘（東から）

SE53炭化物出土状況（南から）

SE53セクション（南から）

SE53完掘（南から）


SE54セクション（南から）

SE54漆塗皿出土状況（南から）

SE54遺物出土状況（南から）

SE54完掘（南から）

SE55遺物出土状況（南から）

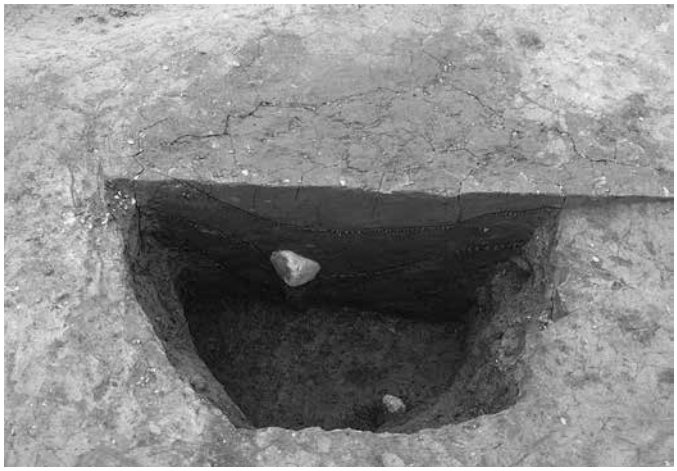
SE55木製品出土状況（西から）

SE55完掘（南から）

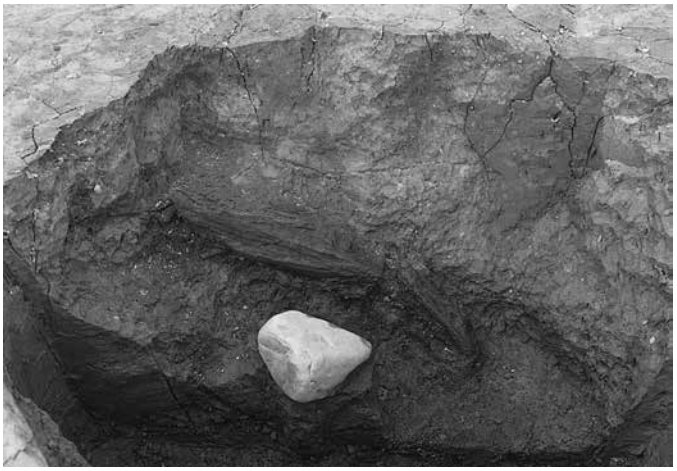
SE56セクション（南から）

SE56箸状木製品出土状況（南から）

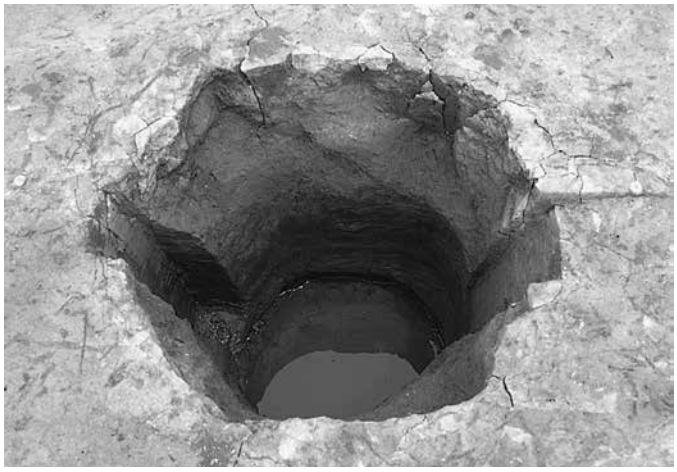
SE56完掘（西から）



SE75セクション（南から）



SE75遺物出土状況（南から）



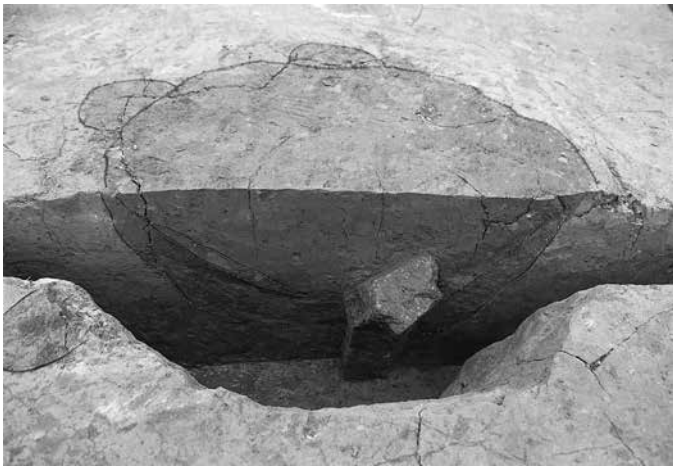
SE75完掘（南から）

SE82セクション（北から）

SE88セクション（北から）

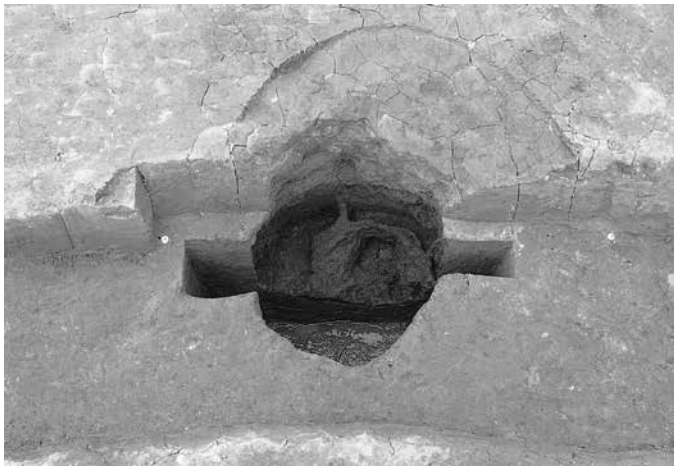
SE97セクション（南から）

SE97遺物出土状況（南から）

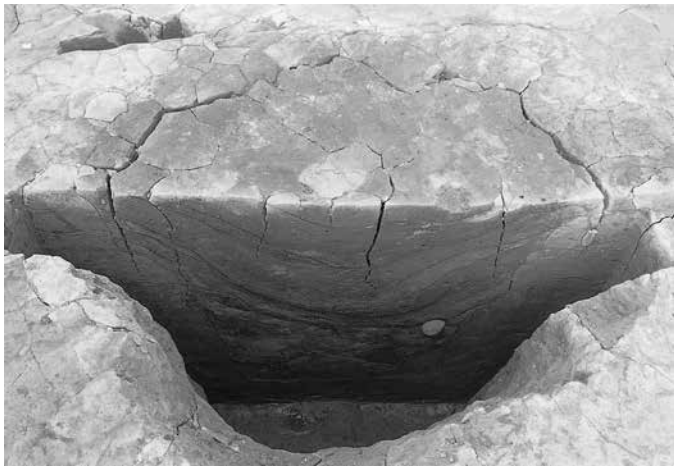


SE105セクション（南から）

SE105遺物出土状況（南から）



SE118植物遺体出土状況（東から）



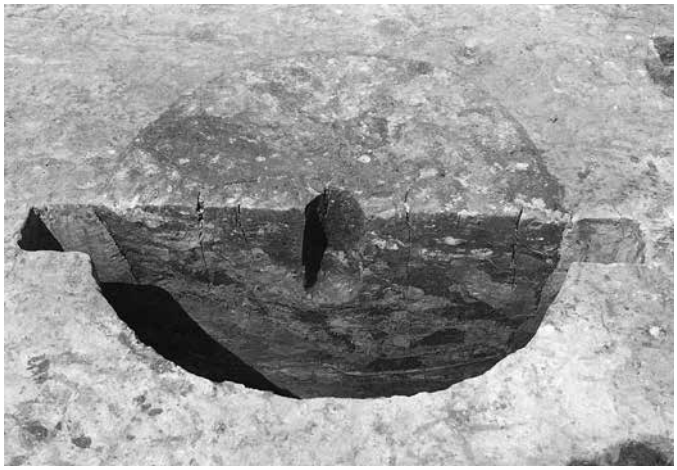
SE134セクション（南から）

SE134遺物出土状況（西から）

SE134遺物出土状況（南から）

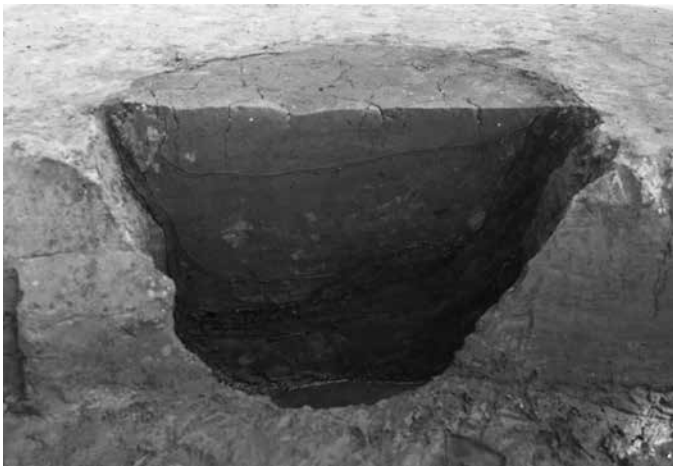
SE181セクション（東から）

SE181完掘（東から）



SE326セクション（南から）

SE326完掘（南から）



SE327セクション（西から）

SE327完掘（西から）

SE328完掘（東から）

SE330遺物出土状況（南から）

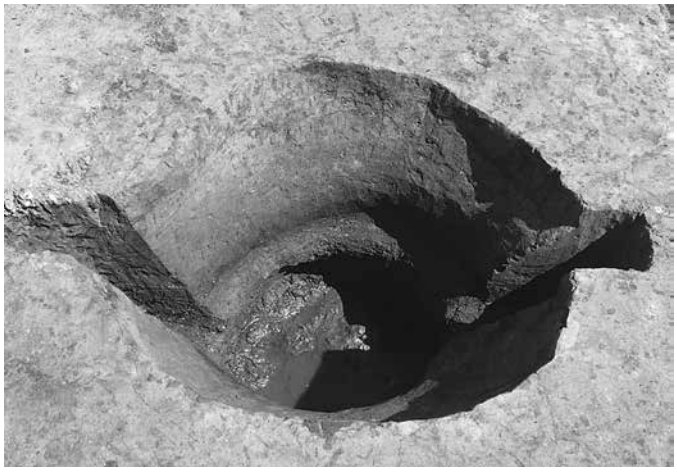
SE330遺物出土状況（北から）

SE330遺物出土状況（西から）

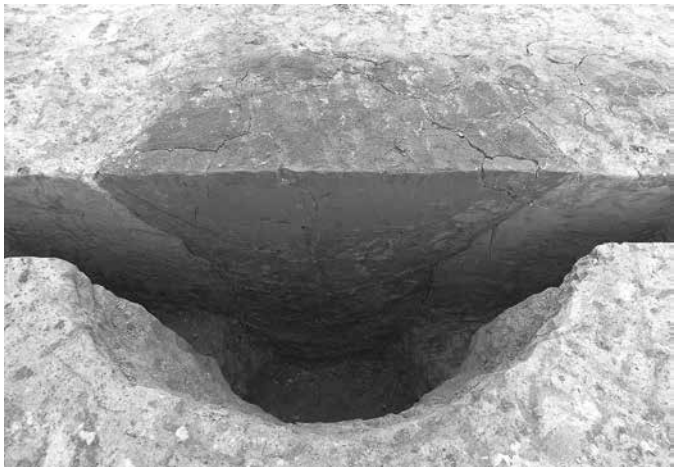
SE336セクション（南から）

SE336完掘（南から）

SE357セクション（南から）



SE357完掘（南から）



SE398セクション（南から）

SE534セクション（南から）

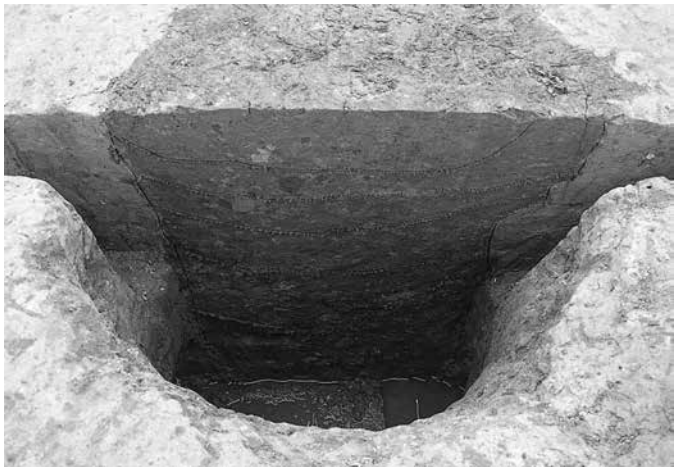
SE534完堀（南から）

SE551セクション（南から）

SE551曲物出土状況（西から）

SE574遺物出土状況（北から）

SE574完掘（北から）



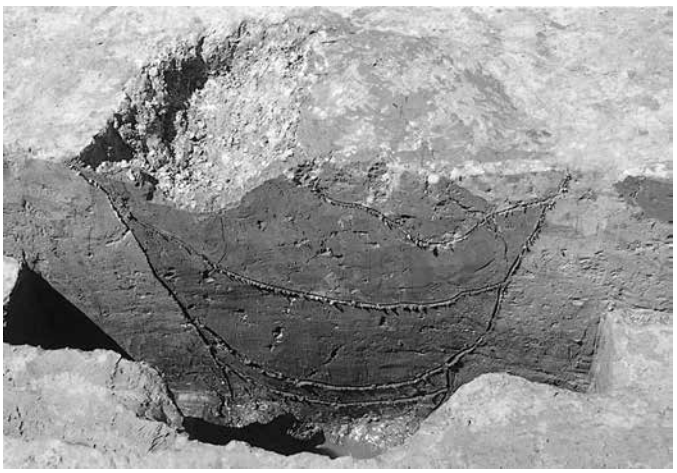
SE613セクション（南から）

SE613完掘（南から）

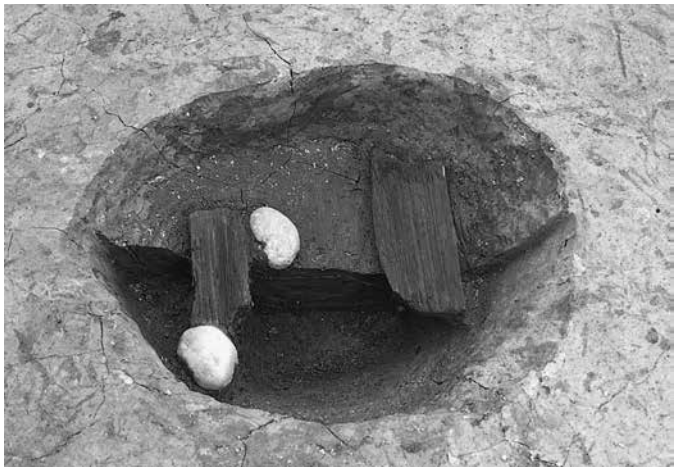
SE684セクション（南から）

SE684漆塗皿出土状況（西から）

SE684完掘（南から）



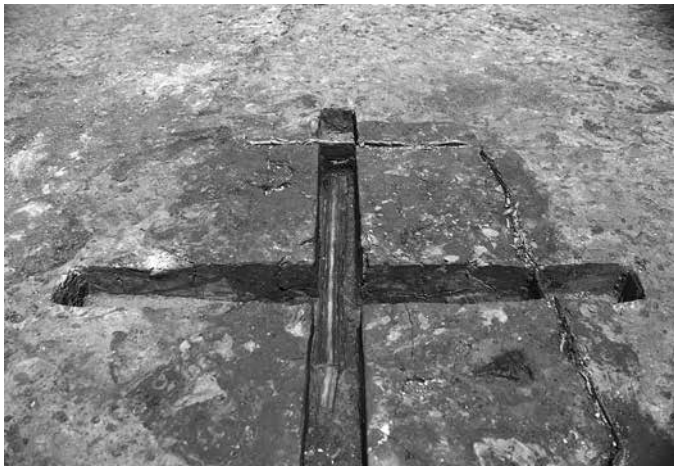
SE778セクション（東から）



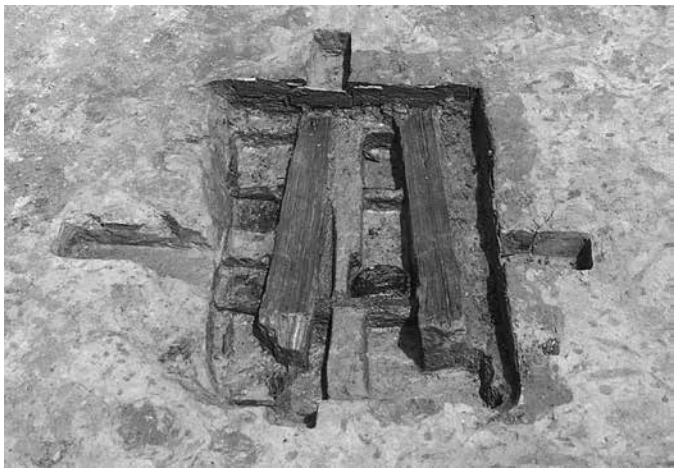
SK81遺物出土状況（南から）

SK83遺物出土状況（南から）

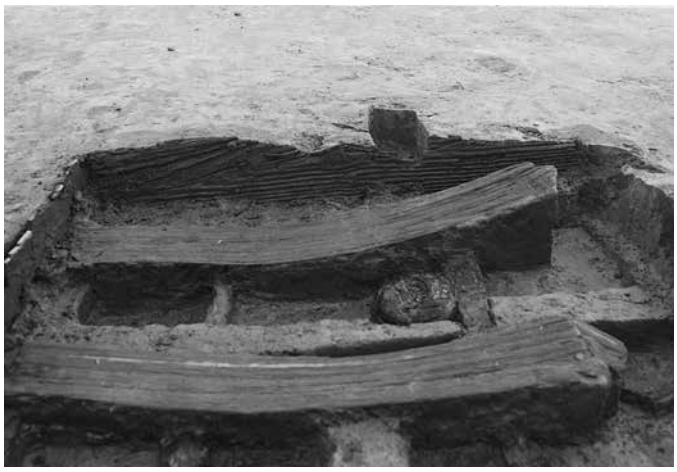
SK341遺物出土状況（南から）



SG313Bセクション（南から）

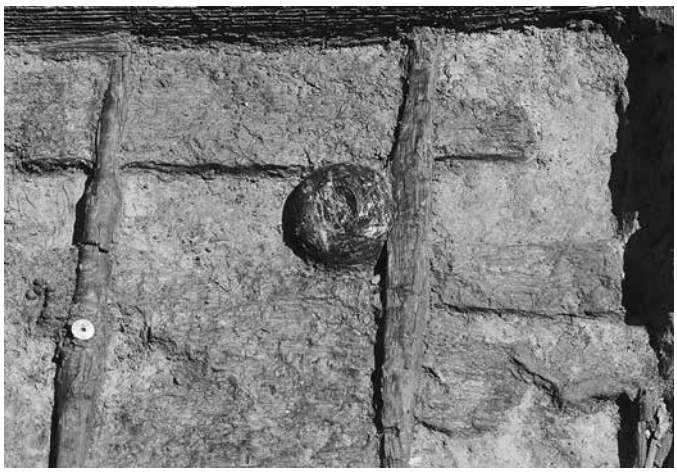


SG313遺物出土状況（南から）



SG313遺物出土状況（西から）

SG313数珠玉、銭貨出土状況（西から）



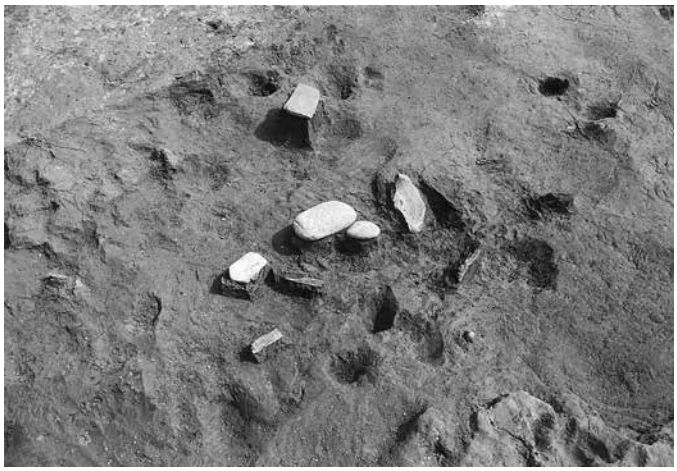
SG313漆塗椀、銭貨出土状況（西から）

SY25検出状況（西から）

SD1Bセクション（東から）

SD1完掘（西から）

SD2Aセクション（南から）



SD2遺物出土状況（北から）

SD2完掘（北から）

SD35・36完掘（南から）

SD41完掘（東から）

SD139完掘（東から）

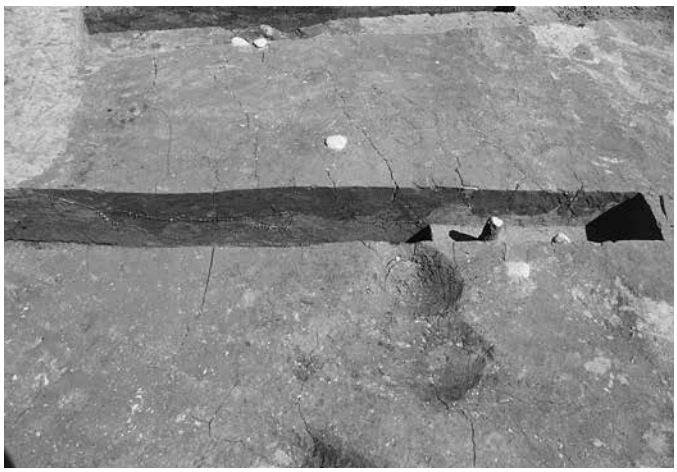
SD140完掘（東から）

SD140・186セクション（南から）

SD186完掘（南から）

SD236完掘（東から）

SD237・252・303完掘（西から）

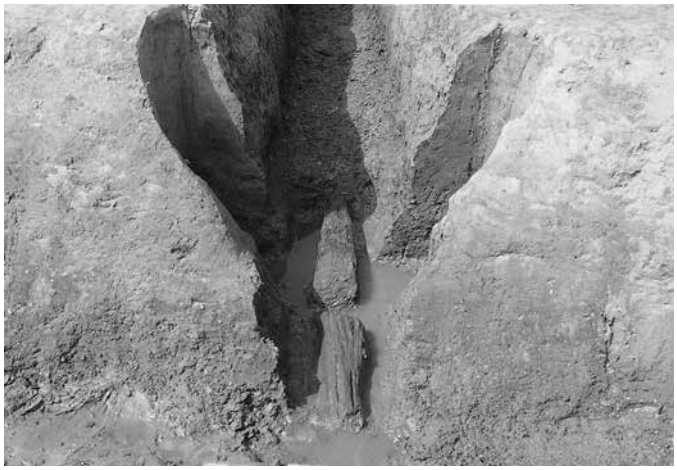


SD288Cセクション（西から）

SD286・288完掘（西から）

SD673Aセクション（東から）

SD673柱状木製品出土状況（南から）

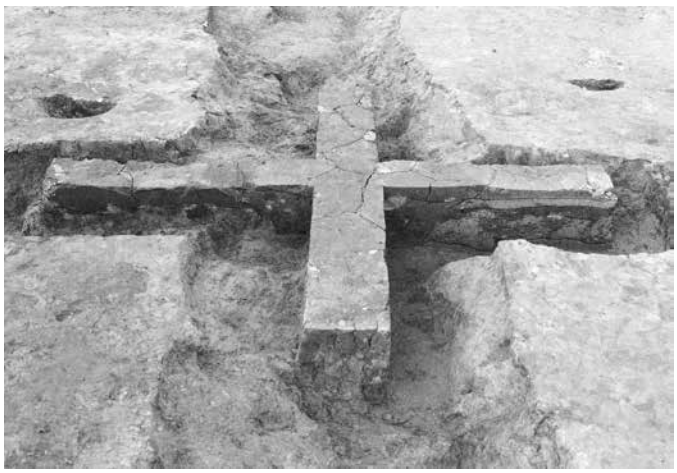


SD673柱状木製品出土状況（東から）

SD673土器出土状況（南から）

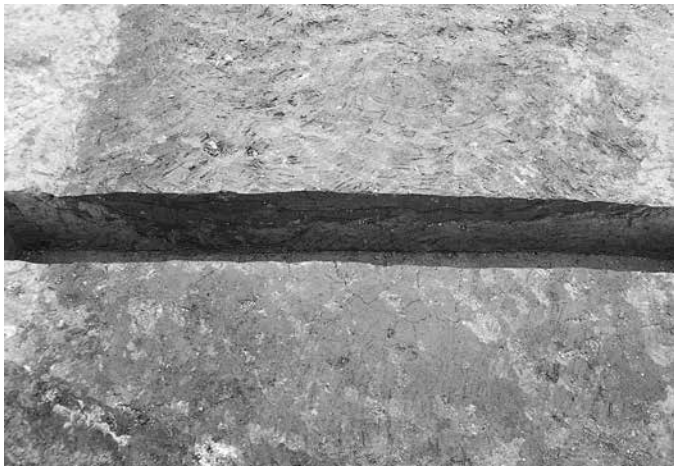
B区区画溝群（南から）

SD392完掘（東から）



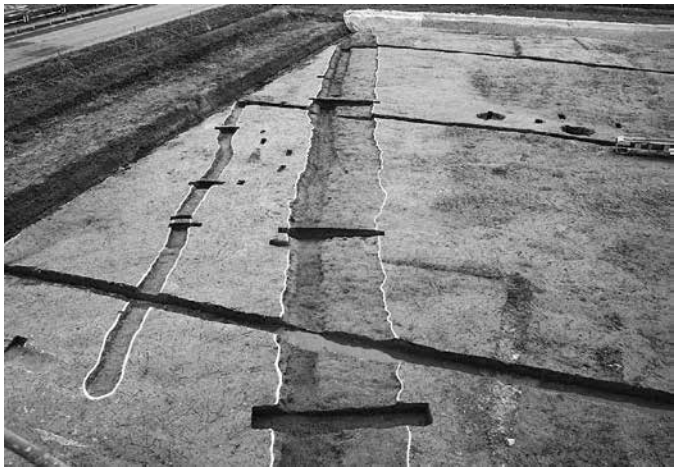
SD524Aセクション（南から）

SD526・581完掘（東から）



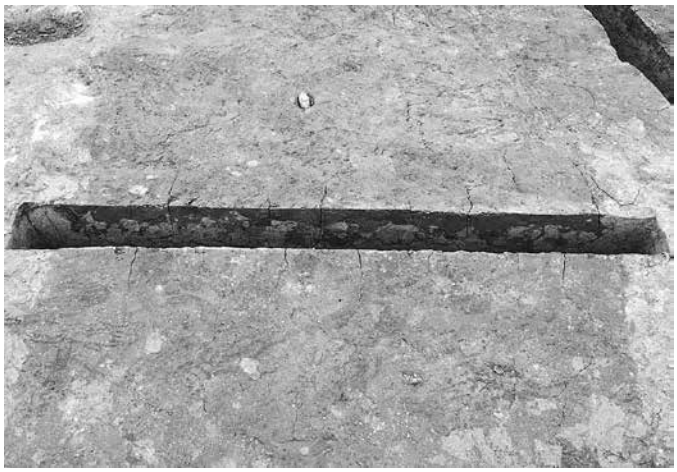
SD535Bセクション（東から）

SD832・833完掘（東から）



SD535・594完掘（東から）

SD596完掘（北から）



SX12Dセクション（南から）

SX12完掘（北から）

SX76遺物出土状況（西から）

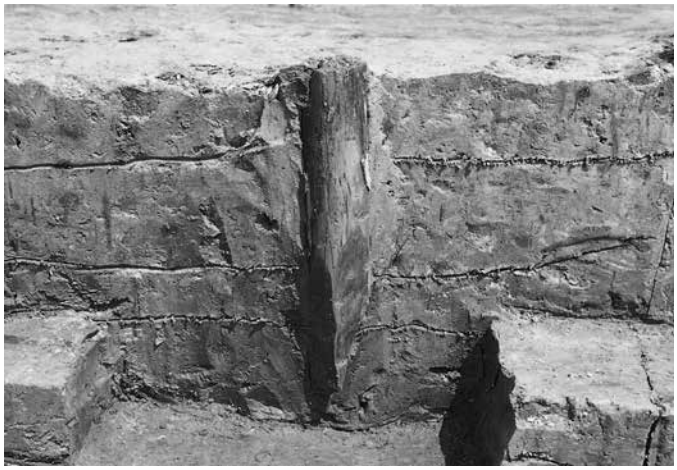
SX76完掘（西から）

SX89遺物出土状況（西から）

SX89完掘（西から）

SA1～3全景（西から）

杭453・454出土状況（南から）



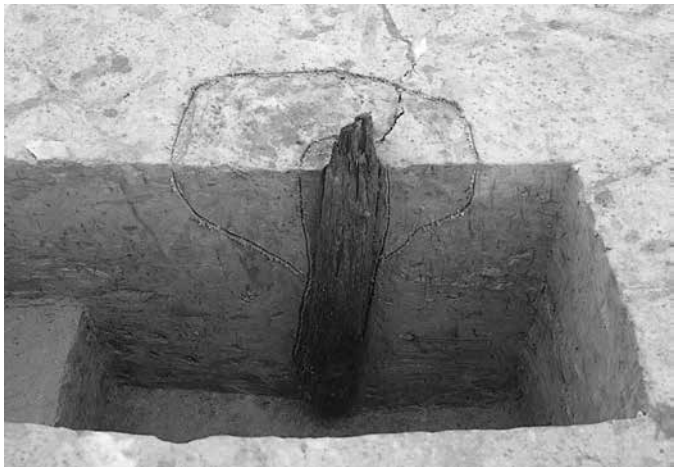
杭505出土状況（南から）

杭506出土状況（南から）

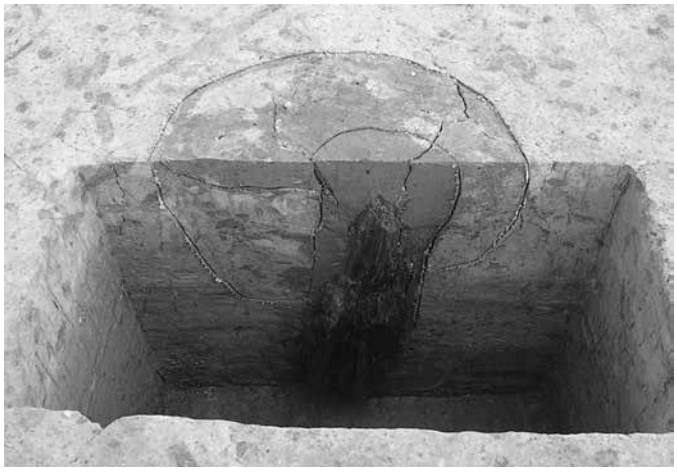
P112セクション（東から）

P275遺物出土状況（東から）

P531セクション（西から）

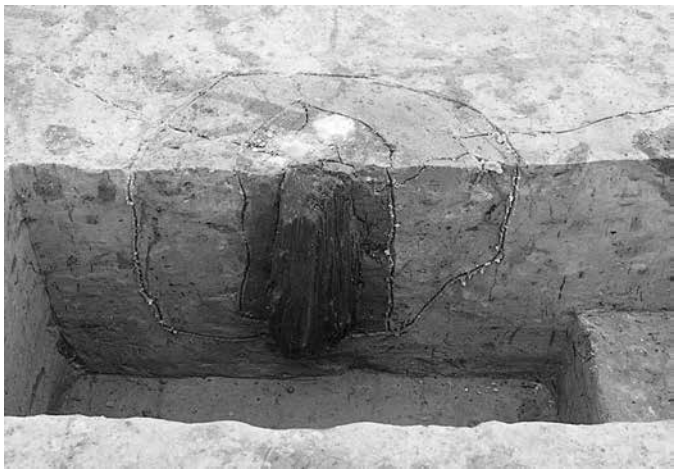


P618セクション（西から）

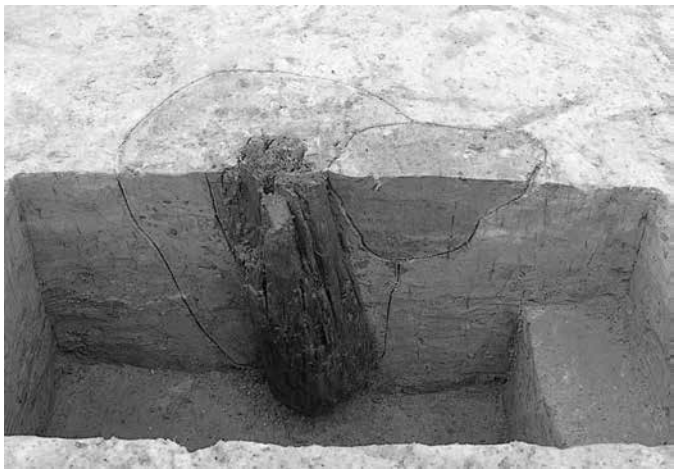


P619セクション（南から）

P629セクション（南から）

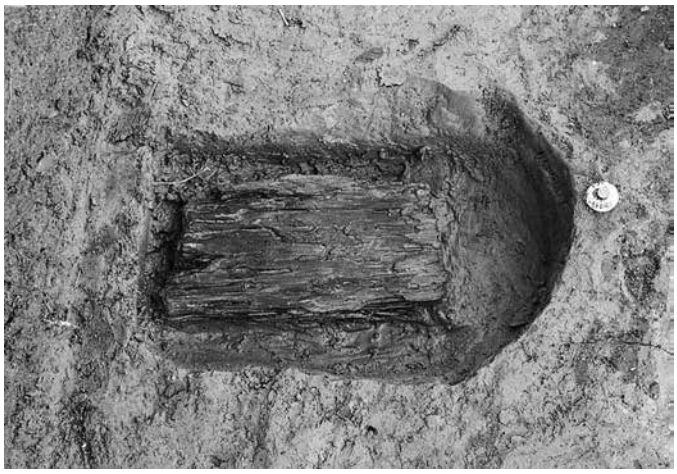


P634セクション（南から）



P690（右）・691（左）セクション（南から）

P735セクション（南から）



P845礎板出土状況（西から）

宮の越遺跡全景（南から）

B区西壁セクション（東から）

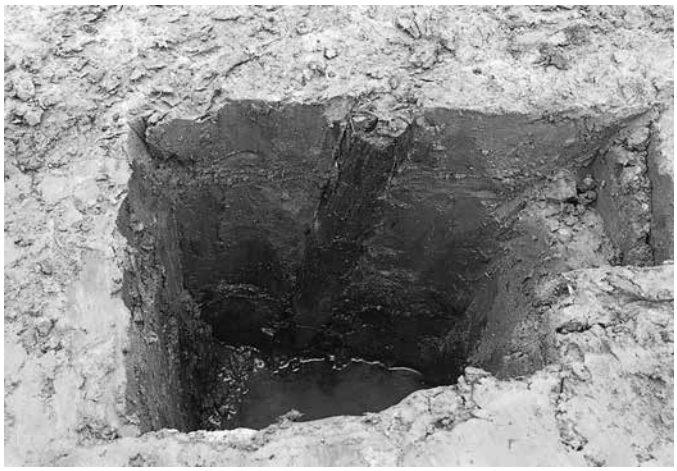
A区北壁セクション（南から）

SK1セクション（東から）

SK1完掘（東から）

杭2出土状況（東から）

杭3出土状況（南から）



杭4出土状況（南から）

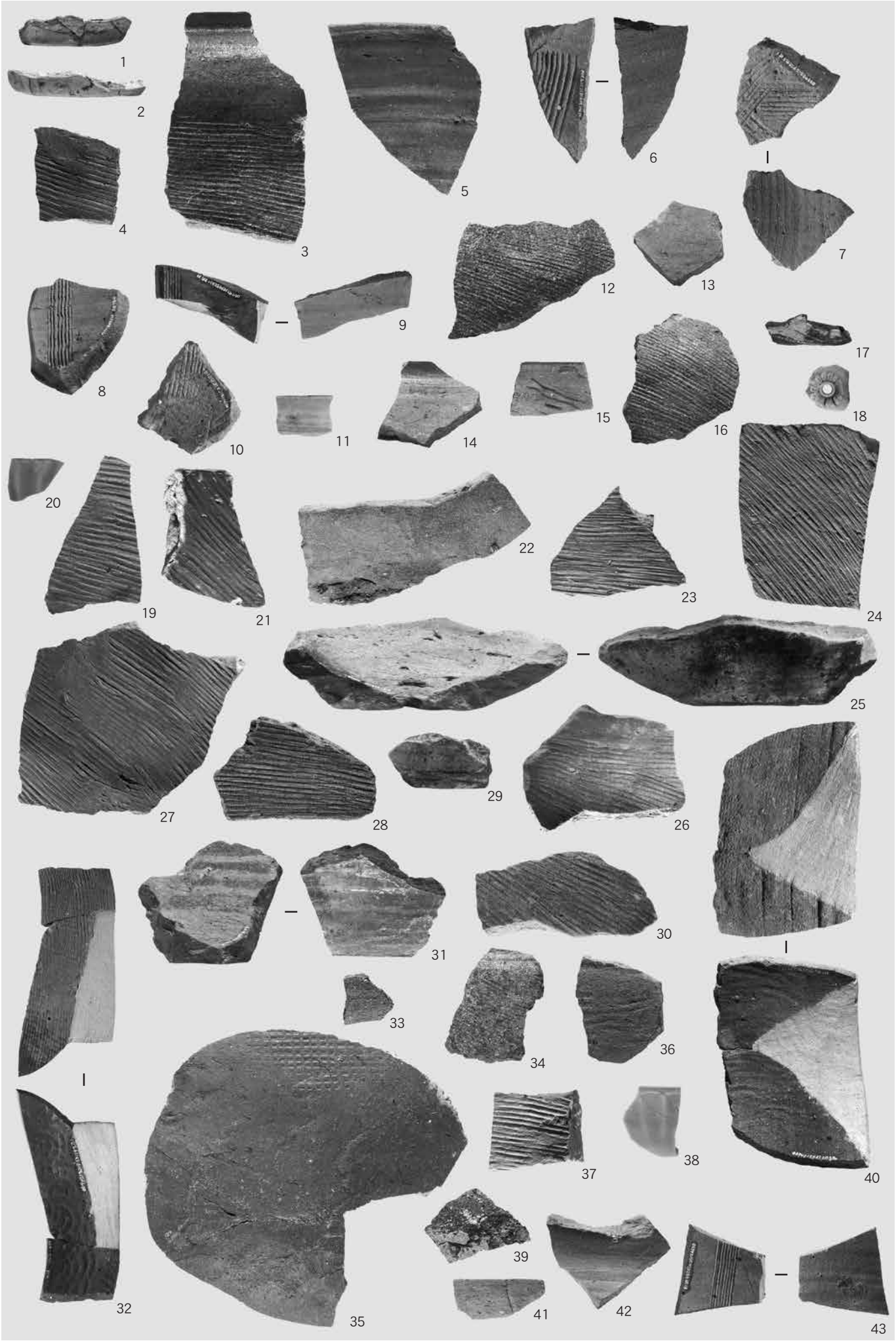
杭5出土状況（西から）

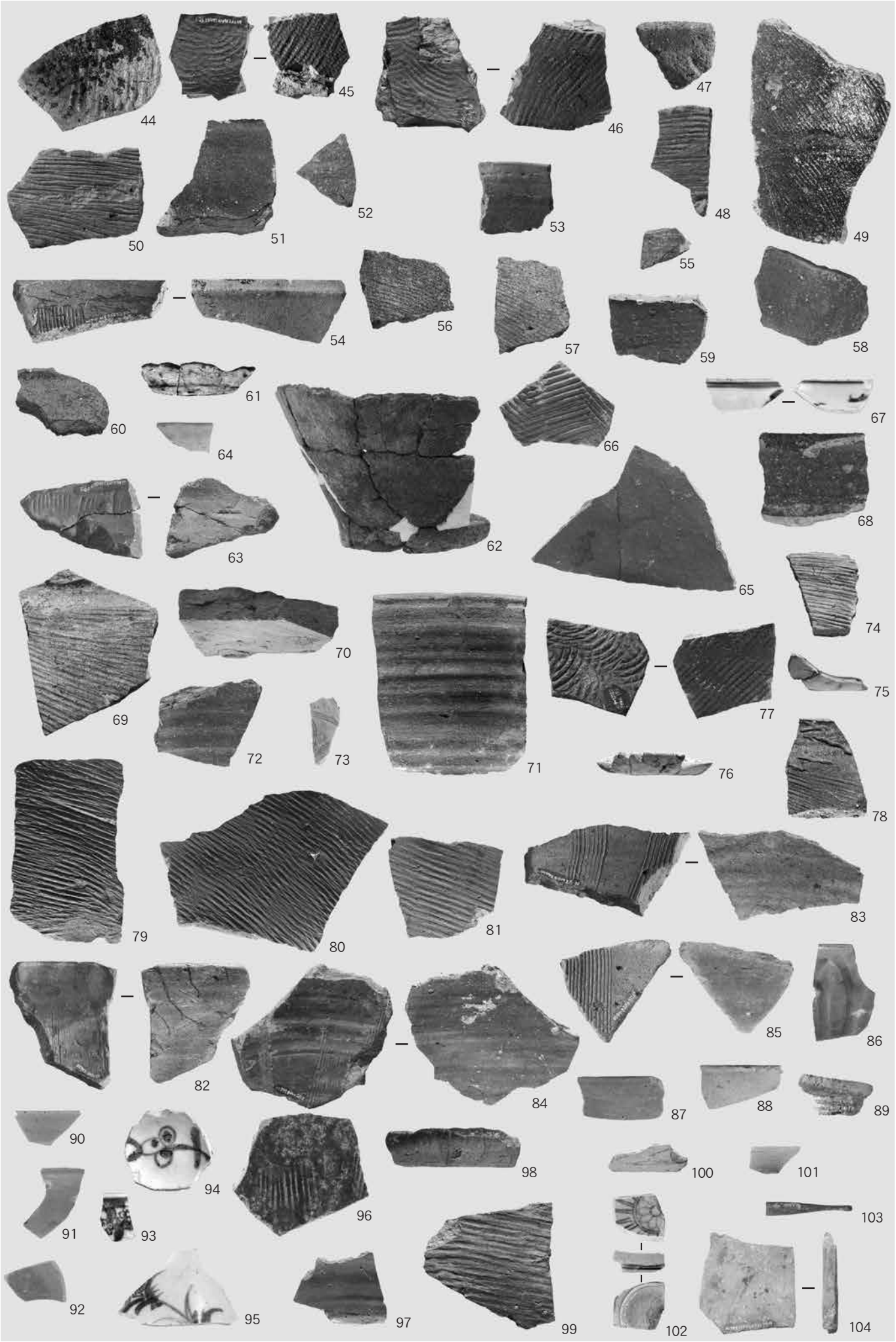
杭8出土状況（南から）

杭9出土状況（南から）

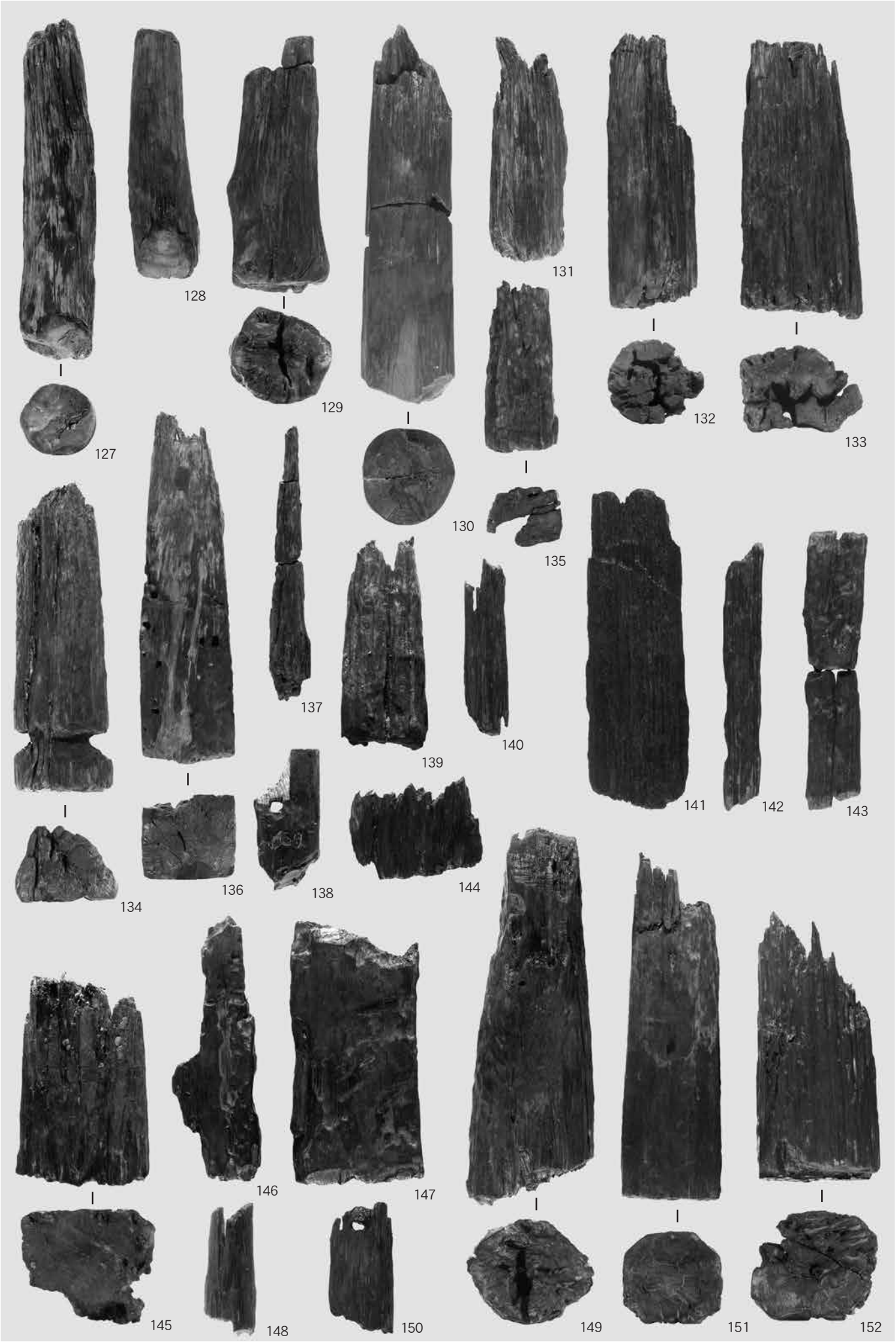
須恵器出土状況（東から）

須恵器出土状況（北から）

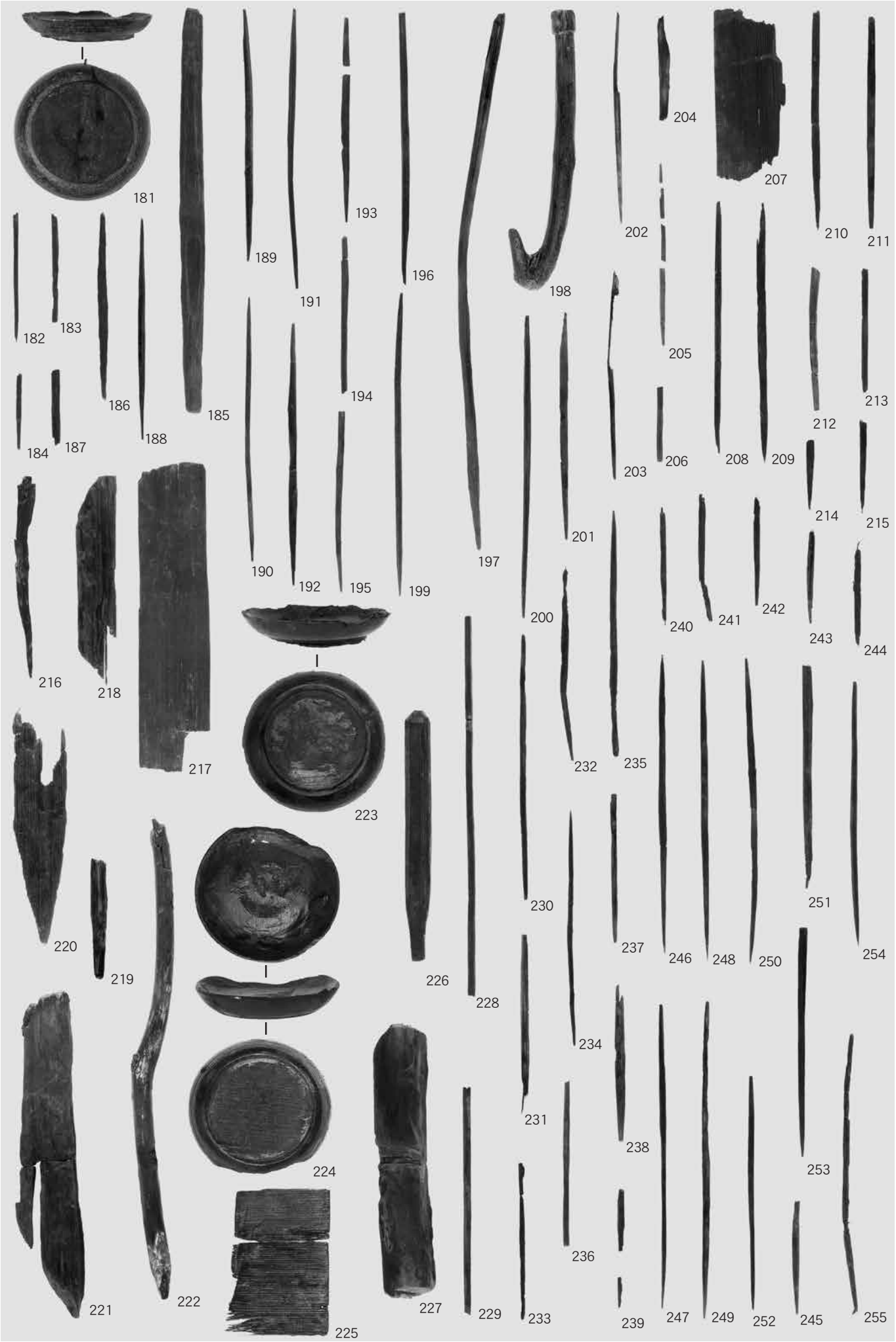

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43


44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100
101
102
103
104

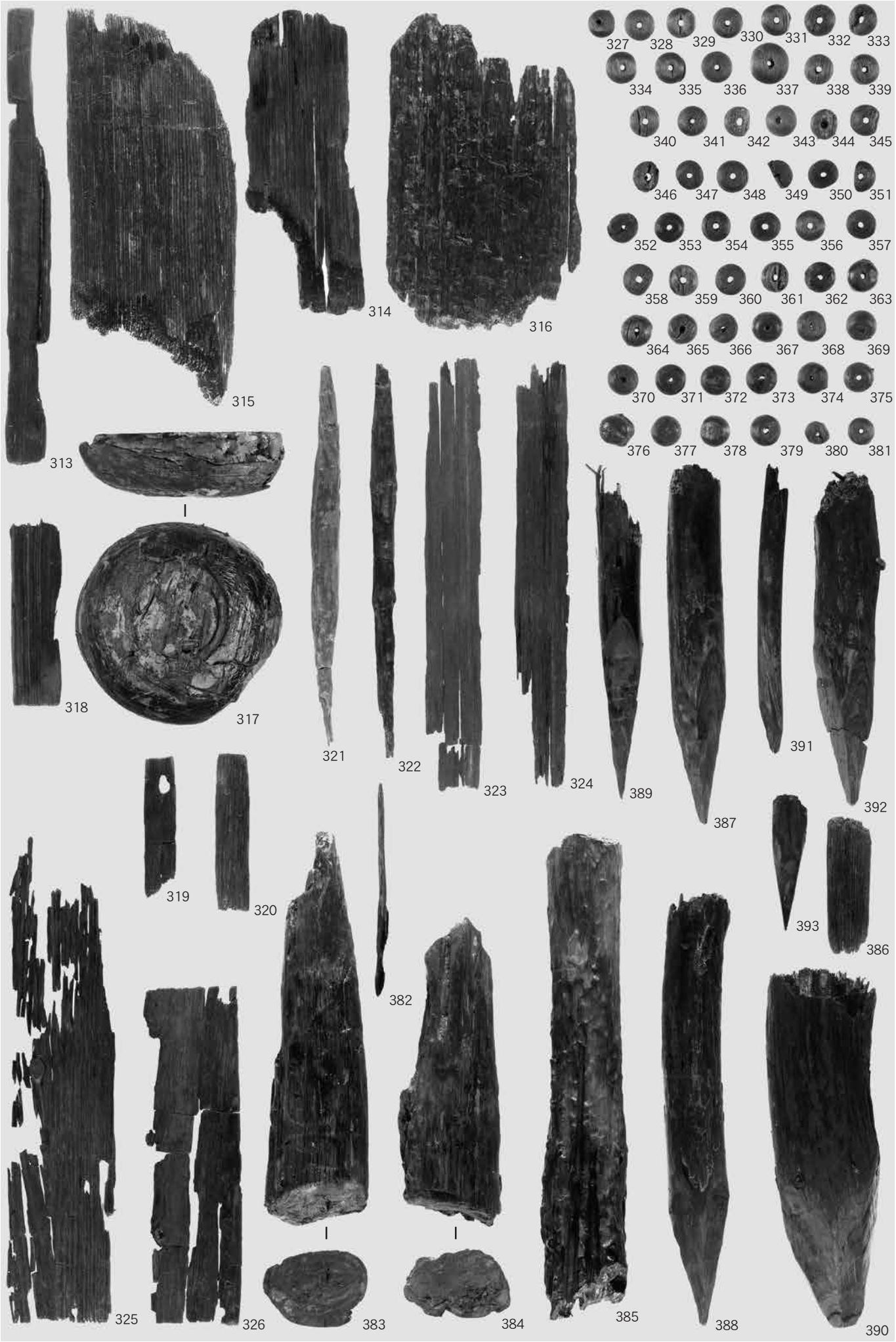
105
106
107
108
109
110
111
112
113
114
115
116
117
118
119
120
121
122
123
124
125
126


127
128
129
130
131
132
133
134
135
136
137
138
139
140
141
142
143
144
145
146
147
148
149
150
151
152

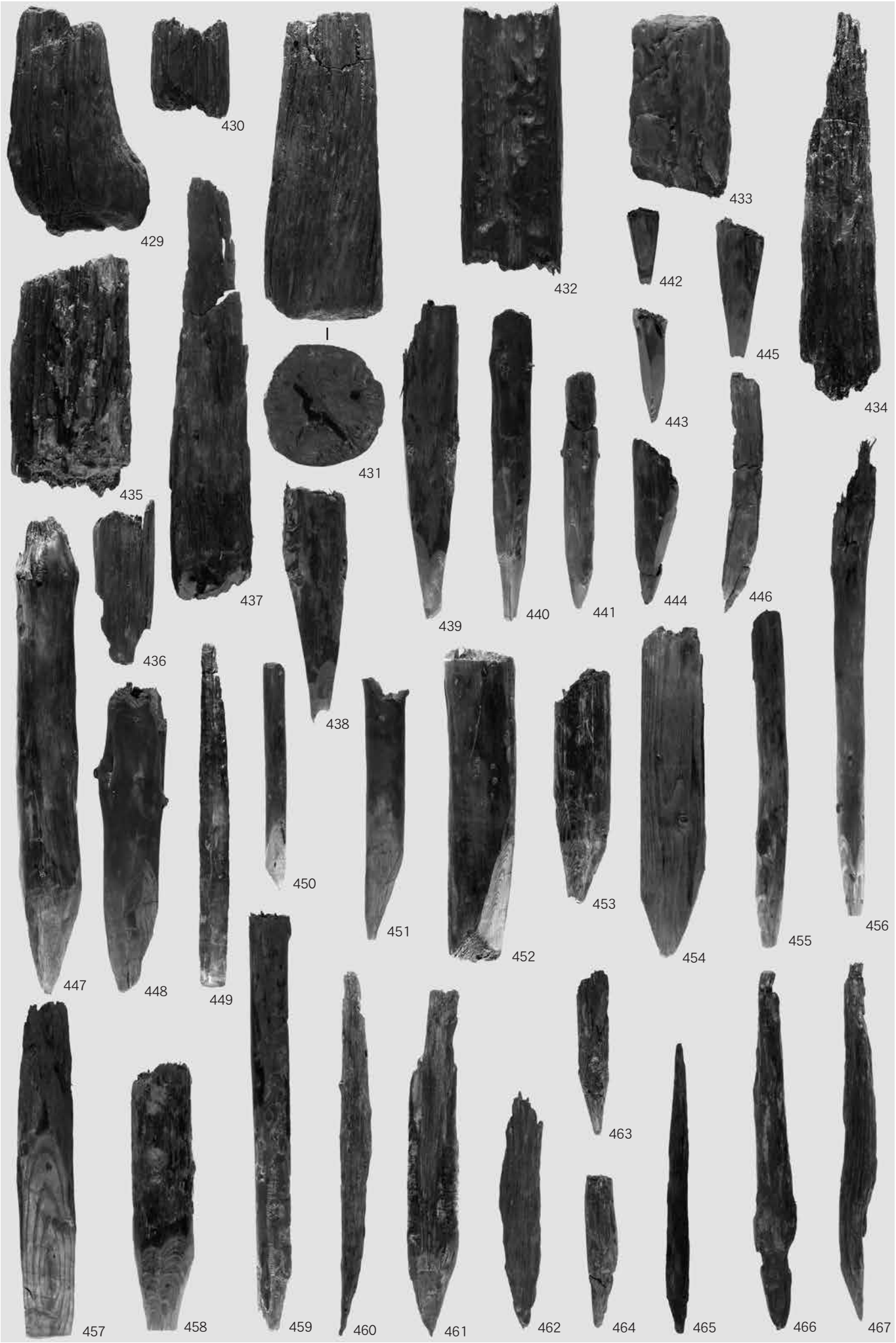
153
156
157
154
160
164
155
158
159
162
161
166
167
165
168
169
176
177
163
172
170
171
173
174
175
178
179
180


181
182
183
184
185
186
187
188
189
190
191
192
193
194
195
196
197
198
199
200
201
202
203
204
205
206
207
208
209
210
211
212
213
214
215
216
217
218
219
220
221
222
223
224
225
226
227
228
229
230
231
232
233
234
235
236
237
238
239
240
241
242
243
244
245
246
247
248
249
250
251
252
253
254
255

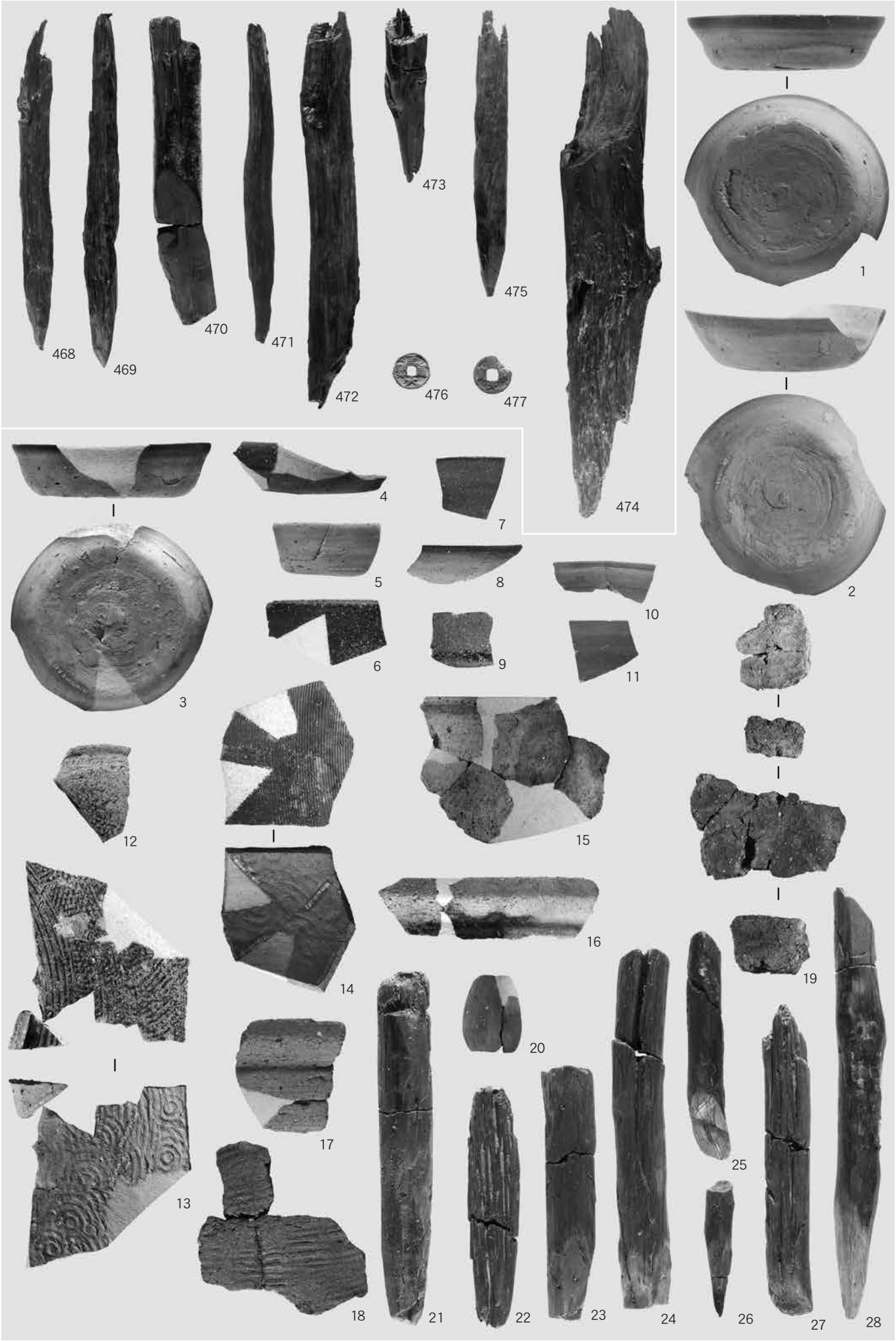
256
257
258
259
260
261
262
263
264
265
266
267
268
269
270
271
272
273
274
275
276
277
278
279
280
281
282
283
284
285
286
287
288
289
290
291
292
293
294
295
296
297
298
299
300
301
302
303
304
305
306
307
308
309
310
311
312


327
328
329
330
331
332
333
334
335
336
337
338
339
340
341
342
343
344
345
346
347
348
349
350
351
352
353
354
355
356
357
358
359
360
361
362
363
364
365
366
367
368
369
370
371
372
373
374
375
376
377
378
379
380
381
313
314
315
316
317
318
319
320
321
322
323
324
325
326
382
383
384
385
386
387
388
389
390
391
392
393

394
395
396
397
398
399
400
401
402
403
404
405
406
407
408
409
410
411
412
413
414
415
416
417
418
419
420
421
422
423
424
425
426
427
428


429
430
431
432
433
434
435
436
437
438
439
440
441
442
443
444
445
446
447
448
449
450
451
452
453
454
455
456
457
458
459
460
461
462
463
464
465
466
467

（田屋道遺跡）　出土遺物写真　木製品・銭貨　468 ～ 477
（宮の越遺跡）　出土遺物写真　土器・土製品・木製品　1 ～ 28



報告書抄録

ふりがな	たやみちいせきいち　みやのこしいせきいち
書名	田屋道遺跡Ⅰ　宮の越遺跡Ⅰ
副書名	日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書
巻次	XXⅦ
シリーズ名	新潟県埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第181集
編著者名	石川智紀　杉田和宏（財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団） 大島秀俊　北村淳　小林一弘　菊池康一郎（株式会社シン技術コンサル文化財調査部） 千葉博俊（パリノ・サーヴェイ株式会社）
編集機関	財団法人　新潟県埋蔵文化財調査事業団・株式会社シン技術コンサル
所在地	〒9560845 新潟県新潟市秋葉区金津93番地1　TEL0250（25）3981 〒9560816 新潟県新潟市秋葉区新津東町2-422-4　TEL0250（21）4088
発行年月日	西暦2008（平成20）年3月31日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
たやみちいせきいち 田屋道遺跡Ⅰ	にいがたけんいわふねぐんかみはやしむら 新潟県岩船郡神林村 おおあざここのかいちあざどうだ 大字九日市字堂田 1459ほか	15583	122	38度 10分 17秒	139度 27分 15秒	20060401 -20061017	8,614㎡	日本海沿岸 東北自動車 道建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
田屋道遺跡Ⅰ	集落跡	古代・中世	掘立柱建物（36棟） 井戸（27基） 土坑（30基） 墓（1基） 集石（1基） 溝（72条） 性格不明遺構（18基） 杭列（3条） ピット（656基）	須恵器、白磁、青磁、珠洲焼、瀬戸美濃焼、土師質土器、瓷器系陶器、漆器	

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
みや　こしいせきいち 宮の越遺跡Ⅰ	にいがたけんいわふねぐんかみはやしむら 新潟県岩船郡神林村 おおあざしんいいだあざみやのこし 大字新飯田字宮ノ越 14ほか	15583	18	38度 10分 48秒	139度 27分 31秒	20061010 -20061030	611㎡	日本海沿岸 東北自動車 道建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
宮の越遺跡Ⅰ	散布地	古代	土坑（1基） 立杭（8本）	須恵器、土師器、製塩土器	

新潟県埋蔵文化財調査報告書　第181集

日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書XXⅦ

田屋道遺跡Ⅰ　宮の越遺跡Ⅰ

平成20年3月25日印刷
平成20年3月31日発行

発行　新潟県教育委員会
〒950-8570　新潟市中央区新光町4番地1
電話　025(285)5511
財団法人　新潟県埋蔵文化財調査事業団
〒956-0845　新潟市秋葉区金津93番地1
電話　0250(25)3981
FAX　0250(25)3986

印刷・製本　細谷印刷有限会社
〒372-0031
群馬県伊勢崎市今泉町2丁目939番地5
電話　0270(25)0193

新潟県埋蔵文化財調査報告書　第181集『田屋道遺跡Ⅰ　宮の越遺跡Ⅰ』　正誤表

頁	位置	誤	正
抄録	田屋道遺跡　北緯	３８度１０分１７秒	３８度１０分２７秒
抄録	田屋道遺跡　東経	１３９度２７分１５秒	１３９度２７分０３秒
抄録	宮の越遺跡　北緯	３８度１０分４８秒	３８度１０分５８秒
抄録	宮の越遺跡　東経	１３９度２７分３１秒	１３９度２７分２０秒